



Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド

Release 5.0(4)

Text Part Number: OL-10049-01-J



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリック ドメイン パーミッションとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いません。

CCSP, CCVP, the Cisco Square Bridge logo, Follow Me Browsing, and StackWise are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, and iQuick Study are service marks of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, the Networkers logo, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, Post-Routing, Pre-Routing, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0601R)

Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド

Copyright © 2006 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



このマニュアルについて	xxiii
目的	xxiii
対象読者	xxiv
マニュアルの構成	xxiv
関連マニュアル	xxv
表記法	xxvi
技術情報の入手方法	xxviii
Cisco.com	xxviii
Product Documentation DVD (英語版)	xxviii
マニュアルの発注方法 (英語版)	xxviii
シスコシステムズマニュアルセンター	xxix
シスコ製品のセキュリティの概要	xxx
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xxx
テクニカル サポート	xxxii
Cisco Technical Support & Documentation Web サイト	xxxii
Japan TAC Web サイト	xxxii
サービス リクエストの発行	xxxiii
サービス リクエストのシビラティの定義	xxxiii
その他の資料および情報の入手方法	xxxiv

PART 1

Cisco Unified CallManager の概要

CHAPTER 1

概要	1-1
主な機能と利点	1-2
Cisco Unified CallManager の管理ページの参照	1-3
Web ブラウザ	1-3
Cisco Unified CallManager の管理ページへのログイン	1-3
Cisco Unified CallManager の管理ページからのログオフ	1-4
Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS)	1-4
Cisco Unified CallManager の管理ページでの Internet Explorer および HTTPS の使用方法	1-5

Cisco Unified CallManager の管理ページでの Netscape および HTTPS の
使用方法 1-6

Cisco Unified CallManager の管理アプリケーションでの操作 1-7

アクセシビリティ 1-8

参考情報 1-8

関連項目 1-9

PART 2

システムの設定

CHAPTER 2

サーバの設定 2-1

サーバの検索 2-2

サーバの設定 2-4

サーバの削除 2-5

サーバの設定値 2-6

関連項目 2-6

CHAPTER 3

Cisco Unified CallManager の設定 3-1

Cisco Unified CallManager の検索 3-2

Cisco Unified CallManager の更新 3-3

Cisco Unified CallManager の設定値 3-4

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化 3-7

 Cisco CallManager サービスのアクティブ化 3-7

 Cisco CallManager サービスの非アクティブ化 3-7

関連項目 3-8

CHAPTER 4

Cisco Unified CallManager グループの設定 4-1

Cisco Unified CallManager グループの検索 4-2

Cisco Unified CallManager グループの設定 4-4

Cisco Unified CallManager グループの設定値 4-5

Cisco Unified CallManager グループの削除 4-6

関連項目 4-7

CHAPTER 5

電話機 NTP リファレンスの設定 5-1

電話機 NTP リファレンスの検索 5-2

電話機 NTP リファレンスの設定 5-3

電話機 NTP リファレンスの設定値 5-4

電話機 NTP リファレンスの削除 5-5

関連項目 5-6

CHAPTER 6

日付 / 時間グループの設定	6-1
日付 / 時間グループの検索	6-2
日付 / 時間グループの設定	6-4
日付 / 時間グループの設定値	6-5
日付 / 時間グループの削除	6-7
関連項目	6-8

CHAPTER 7

プレゼンス グループの設定	7-1
----------------------	-----

CHAPTER 8

リージョンの設定	8-1
リージョンの検索	8-2
リージョンの設定	8-3
リージョンの設定値	8-7
リージョンの削除	8-9
関連項目	8-10

CHAPTER 9

デバイス プールの設定	9-1
デバイス プールの検索	9-2
デバイス プールの設定	9-4
デバイス プールの設定値	9-5
デバイス プールの削除	9-9
関連項目	9-9

CHAPTER 10

DHCP サーバの設定	10-1
DHCP モニタ サービスのアクティブ化	10-2
DHCP モニタ サービスの開始	10-3
DHCP サーバの検索	10-4
DHCP サーバの設定	10-5
DHCP サーバの設定値	10-6
DHCP サーバの削除	10-7
関連項目	10-8

CHAPTER 11

DHCP サブネットの設定	11-1
DHCP サブネットの検索	11-1
DHCP サブネットの設定	11-3
DHCP サブネットの設定値	11-4
DHCP サブネットの削除	11-5
関連項目	11-6

CHAPTER 12	<p>LDAP システムの設定 12-1</p> <p>LDAP システムの情報の更新 12-2</p> <p>LDAP システムの設定値 12-3</p> <p>関連項目 12-4</p>
CHAPTER 13	<p>LDAP ディレクトリの設定 13-1</p> <p>LDAP ディレクトリの検索 13-2</p> <p>LDAP ディレクトリの設定 13-3</p> <p>LDAP ディレクトリの設定値 13-4</p> <p>LDAP ディレクトリの削除 13-7</p> <p>関連項目 13-8</p>
CHAPTER 14	<p>LDAP 認証の設定 14-1</p> <p>LDAP 認証の情報の更新 14-2</p> <p>LDAP 認証の設定値 14-3</p> <p>関連項目 14-4</p>
CHAPTER 15	<p>ロケーションの設定 15-1</p> <p>ロケーションの検索 15-2</p> <p>ロケーションの設定 15-4</p> <p>ロケーションの設定値 15-5</p> <p>ロケーションの削除 15-7</p> <p>ロケーションの帯域幅の再同期化 15-8</p> <p>関連項目 15-8</p>
CHAPTER 16	<p>Survivable Remote Site Telephony の設定 16-1</p> <p>SRST リファレンスの検索 16-2</p> <p>SRST リファレンスの設定 16-3</p> <p>SRST リファレンスの削除 16-4</p> <p>SRST リファレンスの設定値 16-5</p> <p>関連項目 16-6</p>
CHAPTER 17	<p>MLPP ドメインの設定 17-1</p> <p>MLPP ドメインの検索 17-2</p> <p>MLPP ドメインの設定 17-3</p> <p>MLPP ドメインの設定値 17-4</p> <p>MLPP ドメインの削除 17-5</p> <p>関連項目 17-5</p>

CHAPTER 18	エンタープライズパラメータの設定	18-1
CHAPTER 19	サービスパラメータの設定	19-1
	サーバ上のサービスに対するサービスパラメータの設定	19-2
	サービス用のパラメータの表示	19-4
	関連項目	19-5
CHAPTER 20	電話機のセキュリティプロファイルの設定	20-1
CHAPTER 21	SIP トランクのセキュリティプロファイルの設定	21-1
CHAPTER 22	アプリケーションサーバの設定	22-1
	アプリケーションサーバの設定	22-2
	アプリケーションサーバの削除	22-3
	アプリケーションサーバの設定値	22-4
	アプリケーションサーバの検索	22-5
	関連項目	22-6
CHAPTER 23	ライセンスユニットレポート	23-1
	ライセンスユニットレポートの生成	23-2
	関連項目	23-2
CHAPTER 24	ライセンスユニット計算	24-1
	ライセンスユニットの計算方法	24-1
	関連項目	24-2
CHAPTER 25	ライセンスファイルのアップロード	25-1
	ライセンスファイルの取得	25-2
	ライセンスファイルの内容	25-3
	ライセンスファイルのアップロード	25-5
	関連項目	25-6
CHAPTER 26	自動登録の設定	26-1
	自動登録の使用可能化	26-2
	自動登録の使用不可	26-4
	自動登録の設定値	26-5
	自動登録番号の再使用	26-7
	関連項目	26-8
PART 3	コールルーティングの設定	

CHAPTER 27	<p>自動代替ルーティングのグループ設定 27-1</p> <ul style="list-style-type: none"> AAR グループの検索 27-2 AAR グループの設定 27-3 AAR グループの設定値 27-4 AAR グループの削除 27-5 関連項目 27-6
CHAPTER 28	<p>アプリケーションのダイヤル規則設定 28-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイヤル規則の検索 28-2 ダイヤル規則の設定 28-3 アプリケーションのダイヤル規則の設定値 28-4 ダイヤル規則の削除 28-5 <ul style="list-style-type: none"> ダイヤル規則の優先順位の変更 28-5 関連項目 28-6
CHAPTER 29	<p>ディレクトリ検索のダイヤル規則設定 29-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索 29-2 ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定 29-3 ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定値 29-4 ディレクトリ検索のダイヤル規則の削除 29-5 関連項目 29-6
CHAPTER 30	<p>SIP のダイヤル規則設定 30-1</p> <ul style="list-style-type: none"> SIP のダイヤル規則の検索 30-2 SIP のダイヤル規則の設定 30-3 SIP のダイヤル規則の設定値 30-4 <ul style="list-style-type: none"> パターンの形式 30-6 SIP のダイヤル規則の例 30-7 SIP のダイヤル規則の削除 30-8 SIP のダイヤル規則のリセット 30-9 関連項目 30-9
CHAPTER 31	<p>ルート フィルタの設定 31-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ルート フィルタの検索 31-2 ルート フィルタの設定 31-3 ルート フィルタの設定値 31-4 ルート フィルタ クローズの追加 31-5 ルート フィルタ クローズの削除 31-6 ルート フィルタの削除 31-7

ルート フィルタ タグの説明 31-8

関連項目 31-10

CHAPTER 32

ルート グループの設定 32-1

ルート グループの検索 32-2

ルート グループの設定 32-4

ルート グループの設定値 32-5

ルート グループへのデバイスの追加 32-7

ルート グループからのデバイスの削除 32-8

ルート グループの削除 32-9

関連項目 32-10

CHAPTER 33

ルート リストの設定 33-1

ルート リストの検索 33-2

ルート リストの追加 33-4

ルート リストへのルート グループの追加 33-6

ルート リストからのルート グループの削除 33-8

ルート リスト内のルート グループの順位の変更 33-9

ルート リストの削除 33-10

関連項目 33-11

CHAPTER 34

ルート パターンの設定 34-1

ルート パターンの検索 34-2

ルート パターンの設定 34-4

ルート パターンの設定値 34-5

ルート パターンの削除 34-13

関連項目 34-13

CHAPTER 35

回線グループの設定 35-1

回線グループの検索 35-2

回線グループの設定 35-3

回線グループの設定値 35-4

回線グループへのメンバーの追加 35-9

回線グループからのメンバーの削除 35-10

回線グループの削除 35-11

関連項目 35-12

CHAPTER 36

ハント リストの設定 36-1

ハント リストの検索 36-2

ハント リストの追加	36-4
ハント リストへの回線グループの追加	36-6
ハント リストからの回線グループの削除	36-7
ハント リスト内の回線グループの順位の変更	36-8
ハント リストの削除	36-9
関連項目	36-10

CHAPTER 37

ハントパイロットの設定	37-1
ハントパイロットの検索	37-2
ハントパイロットの設定	37-4
ハントパイロットの削除	37-5
ハントパイロットの設定値	37-6
関連項目	37-13

CHAPTER 38

SIP ルートパターンの設定	38-1
SIP ルートパターンの検索	38-2
SIP ルートパターンの設定	38-4
SIP ルートパターンの設定値	38-5
SIP ルートパターンの削除	38-8
関連項目	38-8

CHAPTER 39

時間帯の設定	39-1
時間帯の検索	39-2
時間帯の設定	39-3
時間帯の削除	39-4
時間帯の設定値	39-5
関連項目	39-6

CHAPTER 40

タイムスケジュールの設定	40-1
タイムスケジュールの検索	40-2
タイムスケジュールの設定	40-3
タイムスケジュールの削除	40-4
タイムスケジュールの設定値	40-5
関連項目	40-6

CHAPTER 41

パーティションの設定	41-1
パーティションの検索	41-2
パーティションの設定	41-3
パーティションの削除	41-4

パーティションの設定値 41-5

関連項目 41-7

CHAPTER 42

コーリングサーチスペースの設定 42-1

コーリングサーチスペースの検索 42-1

コーリングサーチスペースの設定 42-3

コーリングサーチスペースの設定値 42-4

コーリングサーチスペースの削除 42-6

関連項目 42-7

CHAPTER 43

Client Matter Code 43-1

CHAPTER 44

Forced Authorization Code 44-1

CHAPTER 45

変換パターンの設定 45-1

変換パターンの検索 45-2

変換パターンの設定 45-4

変換パターンの設定値 45-5

変換パターンの削除 45-10

関連項目 45-11

CHAPTER 46

コールパーク 46-1

CHAPTER 47

コールピックアップグループ 47-1

CHAPTER 48

電話番号の設定 48-1

電話番号の設定の概要 48-1

電話番号の検索 48-2

電話番号の設定 48-3

電話機からの電話番号の削除 48-5

Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成 48-6

電話番号の設定値 48-8

関連項目 48-31

CHAPTER 49

ミートミー番号/パターンの設定 49-1

ミートミー番号/パターンの検索 49-1

ミートミー番号/パターンの設定 49-3

ミートミー番号/パターンの設定値 49-4

ミートミー番号/パターンの削除 49-5

関連項目 49-5

CHAPTER 50

ルート プラン レポート	50-1
ルート プラン レコードの表示	50-2
割り当てられていない電話番号の削除	50-4
割り当てられていない電話番号の更新	50-5
ファイル内のルート プラン レポートの表示	50-6
関連項目	50-6

CHAPTER 51

ダイヤル プラン インストーラ	51-1
ダイヤル プランの検索	51-2
ダイヤル プランの編集	51-3
Cisco Unified CallManager でのダイヤル プランのインストール	51-3
NANP 以外のダイヤル プランに関するルート パターンの詳細の設定	51-4
ダイヤル プランのアップグレード	51-5
ダイヤル プランのアンインストール	51-7
Cisco CallManager サービスの再起動	51-8
関連項目	51-8

PART 4

メディア リソースの設定

CHAPTER 52

Annunciator の設定	52-1
始める前に	52-1
Annunciator の検索	52-2
Annunciator の更新	52-3
Annunciator の設定値	52-4
Annunciator のリセット	52-4
関連項目	52-5

CHAPTER 53

会議ブリッジの設定	53-1
会議ブリッジの検索	53-2
ソフトウェア会議ブリッジの設定について	53-3
ソフトウェア会議ブリッジの設定値	53-4
ハードウェア コンファレンス デバイスの追加	53-5
ハードウェア会議ブリッジの設定値	53-6
Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加	53-7
Cisco IOS Conference Bridge の設定値	53-8
Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加	53-9
Cisco Video Conference Bridge の設定値	53-10

Cisco Unified CallManager Conference Bridge (WS-SVC-CMM) デバイスの追加	
53-11	
Cisco Unified CallManager Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値	
53-12	
コンファレンス デバイスの更新	53-13
コンファレンス デバイスの削除	53-14
参考情報	53-15

CHAPTER 54

メディア ターミネーション ポイントの設定	54-1
メディア ターミネーション ポイントの検索	54-2
メディア ターミネーション ポイントの設定	54-4
Cisco IOS Media Termination Point の設定値	54-5
メディア ターミネーション ポイントの削除	54-6
関連項目	54-7

CHAPTER 55

Music On Hold オーディオ ソースの設定	55-1
-----------------------------------	-------------

CHAPTER 56

Music On Hold 固定オーディオ ソースの設定	56-1
-------------------------------------	-------------

CHAPTER 57

Music On Hold サーバの設定	57-1
-----------------------------	-------------

CHAPTER 58

トランスコードの設定	58-1
トランスコードの検索	58-2
トランスコードの設定	58-4
トランスコードのリセット	58-5
トランスコードの削除	58-6
トランスコードの設定値	58-7
関連項目	58-8

CHAPTER 59

メディア リソース グループの設定	59-1
メディア リソース グループの検索	59-2
メディア リソース グループの設定	59-4
メディア リソース グループの設定値	59-5
メディア リソース グループの削除	59-7
関連項目	59-8

CHAPTER 60

メディア リソース グループ リストの設定	60-1
メディア リソース グループ リストの検索	60-2
メディア リソース グループ リストの設定	60-4
メディア リソース グループ リストの設定値	60-5

メディア リソース グループ リストの削除	60-6
関連項目	60-6

CHAPTER 61

MOH オーディオ ファイル管理の設定	61-1
----------------------------	-------------

PART 5

ボイスメールの設定

CHAPTER 62

Cisco ボイスメール ポートの設定	62-1
Cisco ボイスメール ポートの検索	62-2
Cisco ボイスメール ポートの設定	62-4
Cisco ボイスメール ポートの設定値	62-5
Cisco ボイスメール ポートの削除	62-8
関連項目	62-8

CHAPTER 63

Cisco ボイスメール ポート ウィザード	63-1
新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加	63-2
既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加	63-6
既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除	63-7
関連項目	63-8

CHAPTER 64

メッセージ受信の設定	64-1
メッセージ受信番号の検索	64-2
メッセージ受信の設定	64-4
メッセージ受信の設定値	64-5
関連項目	64-6

CHAPTER 65

Cisco ボイスメール パイロットの設定	65-1
Cisco ボイスメール パイロットの検索	65-2
ボイスメール パイロット番号の設定	65-3
ボイスメール パイロットの設定値	65-4
ボイスメール パイロット番号の削除	65-5
関連項目	65-6

CHAPTER 66

ボイスメール プロファイルの設定	66-1
ボイスメール プロファイルの検索	66-2
ボイスメール プロファイルの設定	66-3
ボイスメール プロファイルの設定値	66-4
ボイスメール プロファイルの削除	66-5
関連項目	66-5

PART 6

デバイスの設定

CHAPTER 67

CTI ルート ポイントの設定 67-1

- CTI ルート ポイントの検索 67-2
- CTI ルート ポイントの設定 67-3
- CTI ルート ポイントの設定値 67-4
- CTI ルート ポイントの削除 67-6
- CTI ルート ポイントのリセット 67-7
- 関連項目 67-7

CHAPTER 68

ゲートキーパーの設定 68-1

- ゲートキーパーの検索 68-2
- ゲートキーパーの設定 68-3
- ゲートキーパーの設定値 68-4
- ゲートキーパーの削除 68-5
- ゲートキーパーのリセット 68-6
- 関連項目 68-7

CHAPTER 69

ゲートウェイの設定 69-1

- Cisco Unified CallManager へのゲートウェイの追加 69-2
- Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 69-3
- MGCP ゲートウェイへのポートの追加 69-5
 - MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 69-5
 - MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 69-7
 - MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加 69-8
 - MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加 69-9
 - MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 69-9
- Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加 69-10
- IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 69-11
- Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加 69-13
- Analog Access ゲートウェイとポートの追加 69-13
- Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加 69-15
- ゲートウェイの設定値 69-17
 - MGCP ゲートウェイの設定値 69-17
 - FXS/FXO ポートの設定値 69-19
 - Digital Access PRI ポートの設定値 69-24
 - BRI ゲートウェイの設定値 69-37
 - デジタル アクセス T1 の設定値 69-45
 - H.323 ゲートウェイの設定値 69-49

Analog Access ゲートウェイの設定値	69-58
Cisco VG248 Gateway の設定値	69-61
Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値	69-62
ポートの設定値	69-65
POTS ポートの設定値	69-65
ループ スタート ポートの設定値	69-67
グラウンド スタート ポートの設定値	69-68
E & M ポートの設定値	69-69
特定のゲートウェイの検索	69-72
デバイス名による検索	69-72
説明による検索	69-73
電話番号およびルート パターンによる検索	69-74
コーリング サーチ スペースによる検索	69-75
デバイス プールによる検索	69-77
ルート グループによる検索	69-78
デバイス タイプによる検索	69-79
ゲートウェイとポートの変更	69-81
依存関係レコードの使用方法	69-81
ゲートウェイの削除	69-81
ゲートウェイのリセットと再起動	69-82
ゲートウェイとポートの更新	69-83
関連項目	69-84

CHAPTER 70

Cisco Unified IP Phone の設定	70-1
Cisco Unified IP Phone の設定	70-3
電話機の MAC アドレスの表示	70-5
電話機のリセット	70-5
電話機の削除	70-6
電話機の設定値	70-7
短縮ダイヤル ボタンの設定	70-26
短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値	70-26
BLF/ 短縮ダイヤルの設定値	70-27
Cisco Unified IP Phone サービスの設定	70-27
サービスへの加入	70-28
サービスの更新	70-29
サービスの加入解除	70-29
サービス URL ボタンの設定	70-30
サービス URL ボタンの追加	70-30
電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更	70-31

電話機の検索 70-33

関連項目 70-35

CHAPTER 71

トランクの設定 71-1

トランクの検索 71-2

トランクの設定 71-3

トランクの設定値 71-5

トランクの削除 71-30

トランクのリセット 71-31

関連項目 71-32

CHAPTER 72

デバイス デフォルトの設定 72-1

デバイス デフォルトの更新 72-2

デバイス デフォルトの設定値 72-3

関連項目 72-3

CHAPTER 73

デバイス ファームウェア ロード情報 73-1

デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索 73-1

CHAPTER 74

デフォルト デバイス プロファイルの設定 74-1

新しいデフォルト デバイス プロファイルの設定 74-2

デフォルト デバイス プロファイルの設定値 74-3

デフォルト デバイス プロファイルの削除 74-6

サービスのデフォルト デバイス プロファイルへの登録 74-7

関連項目 74-7

CHAPTER 75

デバイス プロファイルの設定 75-1

デバイス プロファイルの検索 75-2

新規ユーザ デバイス プロファイルの設定 75-3

ユーザ デバイス プロファイルの削除 75-7

自動生成されたデバイス プロファイルの更新 75-8

自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定 75-9

関連項目 75-10

CHAPTER 76

電話ボタン テンプレートの設定 76-1

電話ボタン テンプレートの検索 76-2

電話ボタン テンプレートの設定 76-3

Cisco IP Phone 7914 拡張モジュールの電話ボタン テンプレートの設定 76-5

電話ボタン テンプレートの設定値 76-6

電話ボタン テンプレートの削除	76-7
関連項目	76-8

CHAPTER 77

ソフトキー テンプレートの設定	77-1
ソフトキー テンプレートの検索	77-2
非標準ソフトキー テンプレートの追加	77-4
非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加	77-5
非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定	77-6
ソフトキー テンプレートの変更	77-8
ソフトキー テンプレートの名前変更	77-8
ソフトキー テンプレートの削除	77-9
ソフトキー テンプレートの更新	77-10
IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て	77-11
関連項目	77-11
ソフトキーの英日対応表	77-12

CHAPTER 78

Cisco Unified IP Phone サービスの設定	78-1
Cisco Unified IP Phone サービスの検索	78-2
Cisco Unified IP Phone サービスの設定	78-4
Cisco Unified IP Phone サービスの設定値	78-5
Cisco Unified IP Phone サービスの削除	78-6
Cisco Unified IP Phone サービス パラメータの設定	78-7
Cisco Unified IP Phone サービス パラメータの設定値	78-8
Cisco Unified IP Phone サービス パラメータの削除	78-9
Cisco Unified IP Phone サービスの電話ボタンへの追加	78-10
関連項目	78-10

CHAPTER 79

SIP プロファイルの設定	79-1
SIP プロファイルの検索	79-2
SIP プロファイルの設定	79-3
SIP プロファイルの設定値	79-4
SIP プロファイルの削除	79-10
SIP プロファイルのリセット	79-11
関連項目	79-11

CHAPTER 80

共通電話プロファイルの設定	80-1
共通電話プロファイルの検索	80-2
共通電話プロファイルの設定	80-3
共通電話プロファイルの設定値	80-4

共通電話プロファイルの削除	80-5
関連項目	80-5

PART 7

アプリケーションの設定

CHAPTER 81

Cisco Unified CallManager Assistant 設定ウィザード	81-1
---	------

CHAPTER 82

Cisco Unified CallManager Attendant Console パイロット ポイントの設定	82-1
---	------

CHAPTER 83

Cisco Unified CallManager Attendant Console ユーザの設定	83-1
--	------

CHAPTER 84

Cisco Unified CallManager Attendant Console ユーザのファイル アップロード	84-1
---	------

CHAPTER 85

プラグインの設定	85-1
プラグインのインストール	85-1
プラグイン URL の更新	85-3
プラグイン URL 更新の設定値	85-4

PART 8

ユーザ管理の設定

CHAPTER 86

アプリケーション ユーザの設定	86-1
アプリケーション ユーザの検索	86-2
アプリケーション ユーザの追加	86-4
アプリケーション ユーザの設定値	86-5
アプリケーション ユーザのパスワードの変更	86-9
アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定	86-9
アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け	86-10
関連項目	86-11

CHAPTER 87

エンド ユーザの設定	87-1
エンド ユーザの検索	87-2
エンド ユーザの追加	87-3
Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイスメールボックスの作成	87-4
エンド ユーザの設定値	87-6
エンド ユーザのパスワードの変更	87-11
エンド ユーザの PIN の変更	87-12
エンド ユーザのユーザ関連情報の設定	87-13
エンド ユーザとデバイスとの関連付け	87-15

Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け	87-17
エンド ユーザの削除	87-18
関連項目	87-19

CHAPTER 88

ロールの設定	88-1
ロールの検索	88-2
ロールの設定	88-4
ロールの削除	88-5
ロールの設定値	88-6
関連項目	88-7

CHAPTER 89

ユーザ グループの設定	89-1
ユーザ グループの検索	89-2
ユーザ グループの設定	89-4
ユーザ グループの削除	89-5
ユーザ グループへのユーザの追加	89-6
ユーザ グループからのユーザの削除	89-8
ユーザ グループへのロールの割り当て	89-9
ユーザのロール、ユーザ グループ、および権限の表示	89-11
関連項目	89-12

CHAPTER 90

ユーザ / 電話機の追加の設定	90-1
エンド ユーザと電話機の追加	90-2
ユーザとデバイスの設定値	90-3
関連項目	90-5

CHAPTER 91

アプリケーションユーザ CAPF プロファイルの設定	91-1
-----------------------------------	------

CHAPTER 92

エンド ユーザ CAPF プロファイルの設定	92-1
-------------------------------	------

CHAPTER 93

SIP レルムの設定	93-1
-------------------	------

PART 9

Cisco Unified CallManager Bulk Administration

CHAPTER 94

Bulk Administration Tool	94-1
---------------------------------	------

PART 10

付録

APPENDIX A

依存関係レコード	A-1
依存関係レコードの使用可能化	A-2

依存関係レコードの使用不可	A-3
依存関係レコードへのアクセス	A-4
依存関係レコードのボタン	A-5

APPENDIX B

Cisco Unity ボイスメール ポートの調整	B-1
Cisco Unity ボイスメール ポートの変更	B-2
Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更	B-2
Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業	B-3
Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ	B-3

APPENDIX C

シスコ以外の SIP 電話機の設定	C-1
SIP 電話機設定の相違点	C-2
サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト	C-4
参考情報	C-5

INDEX**索引**



このマニュアルについて

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。



(注)

このマニュアルには、シスコ製品の最新情報が記載されていない可能性があります。次の URL からシスコの製品マニュアルのページにアクセスすることにより、最新資料を入手することができます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

ここでは、次の内容について説明します。

- 目的 (P.xxiii)
- 対象読者 (P.xxiv)
- マニュアルの構成 (P.xxiv)
- 関連マニュアル (P.xxv)
- 表記法 (P.xxvi)
- 技術情報の入手方法 (P.xxviii)
- シスコ製品のセキュリティの概要 (P.xxx)
- テクニカル サポート (P.xxxii)
- その他の資料および情報の入手方法 (P.xxxiv)

目的

『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』では、Cisco Unified CallManager システムの管理に必要な手順を説明します。このマニュアルには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して行う作業手順の説明があります。さらに、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』は Cisco Unified CallManager を使用する際に役立つコマンドの解説も記述しています。このマニュアルは、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』と併せてお読みください。システム ガイドでは、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して機能をセットアップする場合のヒントを提供しています。その他にも、Cisco Unified CallManager とそのコンポーネントの概要について記述しています。

対象読者

『Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド』は、Cisco Unified CallManager システムの管理を担当するネットワーク管理者を対象にしています。テレフォニーおよび IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。

マニュアルの構成

次の表に、このマニュアルの構成を示します。

各部構成	説明
第 1 部	「Cisco Unified CallManager の概要」 Cisco Unified CallManager の設定と動作に関する概要を全般的に説明しています。
第 2 部	「システムの設定」 Cisco Unified CallManager の管理ページの [システム] メニューの項目を設定する方法を説明しています。
第 3 部	「コール ルーティングの設定」 Cisco Unified CallManager でコール ルーティング機能を設定する方法を説明しています。
第 4 部	「メディア リソースの設定」 Cisco Unified CallManager と連携して使用されるメディア リソースを設定する方法を説明しています。
第 5 部	「ボイスメールの設定」 Cisco Unified CallManager の管理ページでボイスメールとボイス メッセージの機能を設定する方法を説明しています。
第 6 部	「デバイスの設定」 Cisco Unified CallManager でデバイスを設定する方法を説明しています。
第 7 部	「アプリケーションの設定」 プラグイン アプリケーションとアプリケーション インターフェイスを設定する方法を説明しています。
第 8 部	「ユーザ管理の設定」 Cisco Unified CallManager でアプリケーション ユーザ、エンド ユーザ、ロール、ユーザ グループ、ユーザ関連 CAPF プロファイル、および SIP レルムを設定する方法を説明しています。
第 9 部	「Cisco Unified CallManager Bulk Administration」 Cisco Unified CallManager Bulk Administration について説明しています。
第 10 部	「付録」 依存関係レコード、アップグレード時の Cisco Unity ボイスメール ポートの調整、およびシスコ以外の SIP 電話機の設定について説明しています。

関連マニュアル

Cisco IP テレフォニー関連のアプリケーションと製品の詳細については、次の資料を参照してください。

- *Cisco Unified CallManager Release 5.0(4) インストレーション ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Release 5.0(4) アップグレード手順*
- *Release Notes for Cisco Unified CallManager Release 5.0(4)*
- *Cisco Unified CallManager システム ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*
- *Cisco Unified CallManager トラブルシューティング ガイド*
- *Cisco Unified IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco Unified CallManager*
- *Cisco Unified CallManager Bulk Administration ガイド*
- *Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド*

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
→	このポイントは、例文中の重要な行を強調表示します。
^	^ 記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで表します。

(注) は、次のように表しています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイント アドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

便利なヒントです。

注意は、次のように表しています。



「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の作業を行うときは、電気回路の危険性および一般的な事故防止対策に十分注意してください。

技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。また、テクニカルサポートおよびその他のリソースを、さまざまな方法で入手することができます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

Cisco.com

マニュアルの最新版は、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

各国のシスコ Web サイトには、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

Product Documentation DVD (英語版)

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納した、包括的なライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製の各ハードウェアやソフトウェアのインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関する複数のバージョンのマニュアルにアクセスすることができます。また、この DVD を使用すると、シスコの Web サイトで参照できるのと同じ HTML マニュアルに、インターネットに接続せずにアクセスできます。一部の製品については、PDF 版のマニュアルもご利用いただけます。

Product Documentation DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザ (Cisco Direct Customers) の場合、Cisco Marketplace から Product Documentation DVD (Product Number DOC-DOCDVD= または DOC-DOCDVD=SUB) を発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

マニュアルの発注方法 (英語版)

Cisco.com 登録ユーザの場合、Cisco Marketplace の Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できるようになっています。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

Cisco.com に登録されていない場合、製品を購入された代理店へお問い合わせください。

シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、export@cisco.com まで電子メールを送信してください。

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル (英文のみ) を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

セキュリティ勧告、セキュリティ上の注意事項、およびセキュリティ対策がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードに登録してください。PSIRT RSS フィードへの登録方法については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合 : security-alert@cisco.com (英語のみ)
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと思なされます。
- 緊急でない場合 : psirt@cisco.com (英語のみ)

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 (英語のみ)
- 1 408 525-6532 (英語のみ)

**ヒント**

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または GnuPG などの互換製品を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 9.x を使用して暗号化された情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

PGP を持っていない、または使用していない場合は、機密情報を送信する前に前述のメールアドレスまたは電話番号で PSIRT に問い合わせ、他のデータ暗号化方法を確認してください。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

Web または電話でサービス リクエストを発行する前に、Cisco Product Identification (CPI) ツールを使用して製品のシリアル番号を確認してください。CPI ツールには、Cisco Technical Support & Documentation Web サイトから、Documentation & Tools の下の **Tools & Resources** リンクをクリックするとアクセスできます。アルファベット順の索引ドロップダウン リストから **Cisco Product Identification Tool** を選択するか、Alerts & RMAs の下の **Cisco Product Identification Tool** リンクをクリックします。CPI ツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、show コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): 既存のネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- 『Cisco Product Quick Reference Guide』は手軽でコンパクトな参照ツールです。チャネルパートナー経由で販売される多くのシスコ製品に関する簡単な製品概要、主要な機能、サンプル部品番号、および簡単な技術仕様を記載しています。年 2 回の更新の際には、シスコの最新情報が収録されます。『Cisco Product Quick Reference Guide』の注文方法および詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/guide>

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- Cisco Press では、ネットワーク全般、トレーニング、および認定資格に関する出版物を幅広く発行しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版情報などについては、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『Packet』はシスコシステムズが発行する技術者向けの雑誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用するために役立ちます。本誌は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンラインサービスへのリンクの内容が含まれます。『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/packet>

日本語版『Packet』は、米国版『Packet』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>

- 『iQ Magazine』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業が収益を上げ、業務を効率化し、サービスを拡大するためには技術をどのように利用したらよいかを学べるように構成されています。本誌では、事例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。『iQ Magazine』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>

デジタル版には、次の URL からアクセスできます。

<http://ciscoiq.texterity.com/ciscoiq/sample/>

- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>

- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>

- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。

<http://www.cisco.com/discuss/networking>

- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>



PART 1

Cisco Unified CallManager の概要





概要

Cisco Unified CallManager は、コールを処理するためのソフトウェア ベースのコンポーネントであり、Cisco Unified Communications ファミリの製品です。さまざまなタイプの Cisco Media Convergence Server が、Cisco Unified CallManager のコール処理、サービス、およびアプリケーションに対して可用性の高いサーバ プラットフォームを提供します。

Cisco Unified CallManager システムは、企業のテレフォニー機能をパケット テレフォニー デバイスまで拡張して、たとえば、IP Phone、メディア処理デバイス、Voice-over-IP (VoIP) ゲートウェイ、マルチメディア アプリケーションなどを提供します。その他にも、統合メッセージング、マルチメディア会議、コラボレーション連絡センター、対話型マルチメディア応答システムなどで使用されるデータ、音声、ビデオの各サービスでは、オープン型の Cisco Unified CallManager テレフォニー API を利用してサービス間の情報を交換することが可能になります。

Cisco Unified CallManager は、Cisco 統合テレフォニー アプリケーションおよびサードパーティ アプリケーションに対して、シグナリングとコール制御のサービスを提供します。Cisco Unified CallManager の主な機能は、次のとおりです。

- コール処理
- シグナリングとデバイス制御
- ダイヤル プランの管理
- 電話機能の管理
- ディレクトリ サービス
- Operations, administration, management, and provisioning (OAM&P; 操作、アドミニストレーション、管理、およびプロビジョニング)
- Cisco IP Communicator、Cisco Unified IP Interactive Voice Response (IP IVR)、Cisco Unified CallManager Attendant Console などの外部音声処理アプリケーションに対するプログラミング インターフェイス

追加情報

P.1-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

主な機能と利点

Cisco Unified CallManager システムには、音声会議と WebAttendant 機能を利用するのに必要な一連の統合音声アプリケーションが組み込まれています。音声アプリケーションが組み込まれているため、音声処理用に特別のハードウェアは必要ありません。保留、任意転送、自動転送、会議、複数回線通話、自動ルート選択、スピードダイヤル、前回かけた番号のリダイヤルなどの補助的な拡張サービスが、IP Phone とゲートウェイに付加されます。Cisco Unified CallManager はソフトウェアアプリケーションなので、実稼働環境で機能を拡張するには、サーバプラットフォーム上でソフトウェアをアップグレードするだけで済み、高価なハードウェアのアップグレード費用が不要になります。

Cisco Unified CallManager は、すべての Cisco Unified IP Phone、ゲートウェイ、アプリケーションと IP ネットワーク全体に配備が可能のため、分散型のバーチャル テレフォニー ネットワークを構築することができます。このアーキテクチャにより、システムのアベイラビリティとスケーラビリティが向上します。コール アドミッション制御により、帯域幅に制約のある WAN リンク内での音声 QoS が保証され、WAN 帯域幅が十分でないときには別の公衆電話交換網 (PSTN) にコールが自動転送されます。

Cisco CallManager 設定データベースへのインターフェイスは通常の Web ブラウザを使用しているため、リモート デバイスとリモート システムの設定機能も提供しています。ユーザおよび管理者は、このインターフェイスを使用して HTML ベースのオンライン ヘルプにアクセスすることができます。

アプライアンスと同様に動作するように設計された Cisco Unified CallManager Release 5.0 は、次の機能を備えています。

- Cisco Unified CallManager サーバは、お客様やパートナーがサーバを配置しやすいように、ソフトウェアと共に事前にインストールされた状態で入手できます。このサーバはアップデートを自動的に検索し、システムに対する重要なセキュリティ修正やソフトウェア アップグレードが使用可能になると、管理者に自動的に通知することができます。このプロセスは、Electronic Software Upgrade Notification と呼ばれます。
- Cisco Unified CallManager サーバは、コールの処理を続けたままアップグレードすることができるため、アップグレードは最小限のダウンタイムで完了します。
- Cisco Unified CallManager は高解像度の電話ディスプレイ上で Unicode をサポートしているため、アジアおよび中東地域での使用をサポートしています。
- Cisco Unified CallManager は、Fault, Configuration, Accounting, Performance, and Security (FCAPS) を提供します。

追加情報

P.1-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager の管理ページの参照

Cisco Unified CallManager の管理プログラムには、Cisco Unified CallManager がインストールされていない、Web サーバ以外の PC からアクセスします。Cisco Unified CallManager の管理ページのサーバ上には、ブラウザ ソフトウェアはありません。サーバの参照の詳細については、P.1-3 の「Web ブラウザ」を参照してください。

追加情報

P.1-9 の「関連項目」を参照してください。

Web ブラウザ

Cisco Unified CallManager の管理ページは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステム ブラウザをサポートしています。

- Microsoft Internet Explorer (IE) 6.0 以降
- Netscape 7.1 以降

ネットワーク内の任意のユーザ PC から、Cisco Unified CallManager の管理ページを実行しているサーバを参照し、管理特権でログインします。



(注)

多数のユーザが同時に Cisco Unified CallManager の管理ページにログインすると、パフォーマンスが低下する場合があります。同時にログインするユーザおよび管理者の数は制限してください。

Cisco Unified CallManager の管理ページへのログイン

Cisco Unified CallManager の管理ページにログインする手順は、次のとおりです。

手順

サーバを参照して Cisco Unified CallManager の管理ページにログインする手順は、次のとおりです。

ステップ 1 適切なオペレーティングシステム ブラウザを起動します。

ステップ 2 Web ブラウザのアドレスバーに次の URL を入力します。大文字と小文字は区別してください。

`https://<Unified CM-server-name>:{8443}/ccmadmin/showHome.do`

ただし、<Unified CM-server-name> はサーバの名前または IP アドレスです。



(注) ポート番号を指定することもできます。

ステップ 3 [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。適切なボタンをクリックします。

ステップ 4 [ログイン] ウィンドウで、Cisco Unified CallManager のインストール中に指定したアプリケーション ユーザ パスワードを入力し、[送信] をクリックします。

[Cisco Unified CallManager の管理] ウィンドウが表示されます (図 1-1 を参照)。

**(注)**

セキュリティを維持するために、30 分が経過すると、ユーザは Cisco Unified CallManager の管理ページからログアウトされます。この場合は、もう一度ログインする必要があります。

追加情報

P.1-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager の管理ページからのログオフ

手順

Cisco Unified CallManager の管理ページからログオフする手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [Cisco Unified CallManager の管理] のメイン ウィンドウで、右上にある [ログオフ] ボタンをクリックします ([図 1-1](#) を参照) 。

ステップ 2 [ログイン] ウィンドウが表示されます。

追加情報

P.1-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS)

ブラウザクライアントと Web サーバ間 (Microsoft Windows ユーザの場合) の通信を保護する Secure Sockets Layer (SSL) 上のハイパーテキスト転送プロトコルは、証明書およびインターネット上で転送されるデータを暗号化する公開鍵を使用します。また、HTTPS は、ユーザのログイン パスワードが Web 経由で安全に転送されるようにします。Cisco Unified CallManager の管理ページ、Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ ページ、Cisco Unified CallManager ユーザオプション ページ、トレース収集ツール、リアルタイム監視ツール (RTMT) および XML (AXL) アプリケーション プログラミング インターフェイスの各 Cisco Unified CallManager アプリケーションは、HTTPS をサポートしており、HTTPS によってサーバの ID を保証します。

自己署名証明書は、インストール時に Web サーバ上で生成されます (この証明書は、アップグレード時にも移行されます) 。

**(注)**

ホスト名を使用して Web アプリケーションにアクセスし、信頼できるフォルダ内の証明書をインストールしてから、ローカルホストまたは IP アドレスを使用してアプリケーションにアクセスしようとする、セキュリティ証明書の名前がサイトの名前と一致しないことを知らせる [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。

ローカルホスト、IP アドレス、または URL 内のホスト名を使用して HTTPS をサポートしているアプリケーションにアクセスする場合は、URL タイプごとに (ローカル ホスト、IP アドレスなどと共に) 信頼できるフォルダ内に証明書を保存する必要があります。URL のタイプごとに証明書を保存しない場合、各タイプに対して [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。

Cisco Unified CallManager の管理ページでの Internet Explorer および HTTPS の使用方法

Web アプリケーションにアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されないように、信頼できるフォルダ内に CA ルート証明書を保存する手順は、次のとおりです。ブラウザクライアントから Cisco Unified CallManager 5.0 をインストールまたはアップグレードした後に、システム管理者（またはユーザ）が最初に Cisco Unified CallManager の管理ページまたは他の Cisco Unified CallManager SSL が使用可能になっている仮想ディレクトリにアクセスするとき、サーバを信頼するかどうかをたずねる [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスが表示されたら、次の作業のいずれかを実行します。

- [はい] をクリックして、現在の Web セッションに対してのみ証明書を信頼する。現在のセッションに対してのみ証明書を信頼すると、[セキュリティの警告] ダイアログボックスは、信頼できるフォルダに証明書をインストールするまで、アプリケーションにアクセスするたびに表示されます。
- [証明書の表示] > [証明書のインストール] の順にクリックして証明書のインストールを実行し、その証明書を常に信頼することを指定する。信頼できるフォルダ内に証明書をインストールした場合、Web アプリケーションにアクセスするたびに [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されることはありません。
- [いいえ] をクリックして、操作をキャンセルする。認証は行われず、Web アプリケーションにアクセスできません。Web アプリケーションにアクセスするには、[はい] をクリックするか、[証明書の表示] > [証明書のインストール] オプションで証明書をインストールする必要があります。

[セキュリティの警告] ダイアログボックスで実行できるその他の作業については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

手順

ステップ 1 Web サーバ上のアプリケーションを参照します。

ステップ 2 [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されたら、[証明書の表示] をクリックします。

ステップ 3 [証明書] ペインで、[証明書のインストール] をクリックします。

ステップ 4 [次へ] をクリックします。

ステップ 5 [証明書をすべて次のストアに配置する] オプション ボタンをクリックし、[参照] をクリックします。

ステップ 6 [信頼されたルート証明機関] を参照します。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

ステップ 8 [完了] をクリックします。

ステップ 9 証明書をインストールするために、[はい] をクリックします。

インポートが正常に行われたことを知らせるメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

ステップ 10 ダイアログボックスの右下にある [OK] をクリックします。

ステップ 11 証明書を信頼し、このダイアログボックスを再び表示しない場合は、[はい] をクリックします。



(注) ローカルホスト、IP アドレス、または URL 内のホスト名を使用して HTTPS をサポートしているアプリケーションにアクセスする場合は、URL タイプごとに (ローカルホスト、IP アドレスなどと共に) 信頼できるフォルダ内に証明書を保存する必要があります。URL のタイプごとに証明書を保存しない場合、各タイプに対して [セキュリティの警告] ダイアログボックスが表示されます。

追加情報

P.1-9 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Unified CallManager の管理ページでの Netscape および HTTPS の使用方法

Netscape で HTTPS を使用する場合、証明書の資格情報を表示し、1 回のセッションに対して証明書を信頼する、期限が切れるまでその証明書を信頼する、または証明書を信頼しない、のいずれかを選択できます。



ヒント

1 回のセッションに対してのみ証明書を信頼する場合は、HTTPS がサポートされているアプリケーションにアクセスするたびに次の手順を繰り返す必要があります。証明書を信頼しない場合は、アプリケーションにアクセスできません。

次の手順を実行して、信頼できるフォルダに証明書を保存します。

手順

ステップ 1 Netscape を使用して、アプリケーション (たとえば、Cisco Unified CallManager の管理ページ) を参照します。

証明書に関するダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。

- [この証明書をこのセッションのために一時的に受け入れる]
- [この証明書を受け入れない / この Web サイトに接続しない]
- [この証明書を永続的に受け入れる]



(注) [この証明書を受け入れない / この Web サイトに接続しない] を選択した場合、アプリケーションは表示されません。



(注) 作業を続行する前に証明書の資格情報を表示する場合は、[証明書を調査] をクリックします。資格情報を確認し、[閉じる] をクリックします。

ステップ3 [OK] をクリックします。

[セキュリティに関する警告] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ4 [OK] をクリックします。

追加情報

P.1-9 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Unified CallManager の管理アプリケーションでの操作

ログインすると、Cisco Unified CallManager の管理ページのメイン ウィンドウが表示されます。このウィンドウの右上には、[ナビゲーション] と呼ばれるドロップダウン リストボックスがあります (図 1-1 を参照)。このドロップダウン リストボックスにあるアプリケーションにアクセスするには、必要なプログラムを選択し、[Go] をクリックします。ドロップダウン リストボックスに表示されるオプションは、次の Cisco Unified CallManager アプリケーションです。

- [Cisco Unified CallManager の管理]: Cisco Unified CallManager にアクセスすると、デフォルトを表示します。システム パラメータ、ルート プラン、デバイスなどを設定するには、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用します。
- [Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ]: Cisco Unified CallManager のサービスアビリティのメイン ウィンドウを表示します。このアプリケーションは、トレース ファイルとアラームを設定し、サービスをアクティブまたは非アクティブにするために使用します。
- [障害復旧システム]: Cisco 障害復旧システムを表示します。このアプリケーションは、Cisco Unified CallManager クラスタのすべてのサーバに対して、データの完全バックアップおよび復元機能を提供します。
- [プラットフォームの管理]: ログイン ウィンドウを表示して、Cisco Unified CallManager プラットフォームを設定および管理できるようにします。

図 1-1 Cisco Unified CallManager の管理ページの [ナビゲーション]



これらのアプリケーションは、セキュリティが強化されています。このため、これらのプログラムにアクセスするには、まずユーザ ID とパスワードを入力する必要があります。

追加情報

P.1-9 の「関連項目」を参照してください。

アクセシビリティ

Cisco Unified CallManager の管理ページおよび Cisco Unified CallManager ユーザ オプション ページは、マウスを使用しなくてもウィンドウ上のボタンにアクセスできる機能を備えています。ウィンドウ上のどの位置でも次の手順を実行できるため、さまざまなフィールドを移動するときに、スクロールしたり Tab キーを押したりする必要はありません。

ウィンドウにあるアイコンへのアクセス

Cisco Unified CallManager と Cisco PCA の多くのウィンドウには、ウィンドウの一番上にアイコンがあります。たとえば、保存を実行するためのディスクのアイコン、追加を実行するためのプラス記号 (+) のアイコンなどです。これらのアイコンにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. Alt キーを押し、1 キーを押して、Tab キーを押します。左側の最初のアイコンが強調表示されます。次のアイコンに移動するには、もう一度 Tab キーを押します。
2. Enter キーを押します。アイコンが表している機能（追加など）が実行されます。

ウィンドウにあるボタンへのアクセス

Cisco Unified CallManager と Cisco PCA の多くのウィンドウには、ウィンドウの一番下にボタンがあります。たとえば、保存のボタンや追加のボタンなどです。これらのボタンにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. Alt キーを押し、2 キーを押して、Tab キーを押します。左側の最初のボタンが強調表示されます。次のボタンに移動するには、もう一度 Tab キーを押します。
2. Enter キーを押します。ボタンが表している機能（保存など）が実行されます。

参考情報

- *Cisco Unified CallManager システム ガイド*
- *Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco Unified CallManager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco Unified Communications ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン*
- *Cisco Unified CallManager Release 5.0(4) インストレーション ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Release 5.0(4) アップグレード手順*
- *Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド*
- *Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド*
- *Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド*

関連項目

- [概要 \(P.1-1\)](#)
- [主な機能と利点 \(P.1-2\)](#)
- [Cisco Unified CallManager の管理ページの参照 \(P.1-3\)](#)
- [Cisco Unified CallManager の管理ページでの Internet Explorer および HTTPS の使用方法 \(P.1-5\)](#)
- [Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル \(HTTPS\) \(P.1-4\)](#)
- [Cisco Unified CallManager の管理アプリケーションでの操作 \(P.1-7\)](#)
- [アクセシビリティ \(P.1-8\)](#)
- [参考情報 \(P.1-8\)](#)



PART 2

システムの設定





サーバの設定

サーバの設定では、Cisco Unified CallManager がインストールされるサーバのアドレスを指定します。ご使用のネットワークでドメイン ネーム システム (DNS) サービスを使用している場合、サーバのホスト名を指定することができます。ネットワークで DNS サービスを使用していない場合は、サーバのインターネット プロトコル (IP) アドレスを使用する必要があります。



(注)

適切な Cisco Unified CallManager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、その情報を使用して、Cisco Unified CallManager サーバを設定する必要があります。

Cisco Unified CallManager データベースでサーバ アドレスを追加、更新、または削除する方法については、[P.2-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

サーバの検索

ネットワーク内にはいくつかのサーバが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のサーバを見つけることができます。サーバを見つける手順は、次のとおりです。



(注) ブラウザセッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [サーバ] の順に選択します。

[サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、サーバを検索します。

ステップ 2 [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [ホスト名 /IP アドレス]
- [説明]

[サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウの2番目のドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているサーバをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたサーバのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ホスト名 /IP アドレス (Host Name/IP Address)]
- [説明 (Description)]

[サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウでは、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、[**サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)**] ウィンドウから複数のサーバを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのサーバを削除できます。

ステップ4 レコードのリストから、検索条件と一致するサーバ名をクリックします。

選択したサーバがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.2-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

サーバの設定

Cisco Unified CallManager データベースにサーバアドレスを追加する手順、およびデータベース内のサーバアドレスを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

サーバを追加する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- 各サーバは、[サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウで一度だけ追加するようにしてください。ホスト名を使用してサーバを追加し、その後同じサーバを IP アドレスを使用して追加すると、Cisco Unified CallManager は、アップグレード後にサーバのコンポーネントバージョンを正しく判別できません。[Cisco Unified CallManager の管理] に同じサーバのエントリが 2 つある場合は、アップグレードする前にエントリのどちらかを削除します (P.2-5 の「[サーバの削除](#)」を参照)。

手順

ステップ 1 次の作業のいずれかを実行します。

- サーバを追加するには、[システム] > [サーバ] を選択し、[新規追加] をクリックします。
- サーバを更新するには、P.2-2 の「[サーバの検索](#)」の手順を使用してサーバを検索します。

[サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 2-1 を参照)。

ステップ 3 ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存] ボタンをクリックして)、データを保存し、サーバをデータベースに追加します。

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco Unified CallManager を再起動します。Cisco Unified CallManager サービスの再起動については、『*Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。



(注)

Cisco Unified CallManager の新規インストールを実行する場合は、2 番目以降の各サーバ (ノード) 上に Cisco Unified CallManager ソフトウェアをインストールする前に、[Cisco Unified CallManager の管理] の [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウで、それらの各サーバを定義する必要があります。2 番目以降のノードを定義するには、[新規追加] をクリックし (ステップ 1 を参照)、サーバを設定します。2 番目以降のサーバを追加したら、そのサーバに Cisco Unified CallManager ソフトウェアをインストールすることができます。

追加情報

P.2-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

サーバの削除

Cisco Unified CallManager データベースからサーバを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示され、依存関係レコードを使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、依存関係レコード機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** P.2-2 の「[サーバの検索](#)」の手順を使用して、サーバを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するサーバを選択します。
 - ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックして)、サーバを削除します。

Cisco Unified CallManager は、サーバが使用中でない場合、そのサーバを削除します。サーバが使用中である場合は、エラーメッセージを表示します。

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco Unified CallManager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『[Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド](#)』を参照してください。



追加情報

P.2-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

サーバの設定値

表 2-1 では、サーバの設定値について説明します。関連する手順については、P.2-6 の「関連項目」を参照してください。

表 2-1 サーバ設定値

[サーバ情報 (Server Information)] フィールド	説明
[ホスト名/IPアドレス]	<p>ネットワークで DNS サービスを使用している場合、Cisco Unified CallManager サーバのホスト名を入力します。DNS サービスを使用していない場合は、サーバの完全な IP アドレスを入力する必要があります。</p> <p> (注) 適切な Cisco Unified CallManager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、この設定をする必要があります。</p>
[MAC アドレス]	<p>このエントリはオプションです。</p> <p>Cisco Unified CallManager サーバにあるネットワーク インターフェイスカード (NIC) のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。MAC アドレスは、NIC のパーマネント ハードウェア アドレスを示します。</p> <p> ヒント サーバをネットワーク上の別の場所に移動させることが多い場合は、MAC アドレスを入力して、そのサーバをネットワーク上の他のデバイスが常に識別できるようにする必要があります。サーバを移動する予定がない場合は、MAC アドレスは入力してもしなくてもかまいません。</p>
[説明]	<p>このエントリはオプションです。</p> <p>サーバの説明を入力します。</p>

関連項目

- [サーバの検索 \(P.2-2\)](#)
- [サーバの設定 \(P.2-4\)](#)
- [サーバの削除 \(P.2-5\)](#)
- [サーバの設定値 \(P.2-6\)](#)
- [Cisco Unified CallManager の設定 \(P.3-1\)](#)



Cisco Unified CallManager の設定

Cisco Unified CallManager の設定では、同一クラスタ内にインストールされている Cisco Unified CallManager それぞれに対して、ポートおよびその他のプロパティを指定します。クラスタは、冗長化機能を有効にした一群の Cisco Unified CallManager から構成されます。

Cisco Unified CallManager クラスタの最初のノードについては、インストールの過程でサーバが自動的に追加されます。この他の Cisco Unified CallManager をクラスタに追加するには、管理者が[サーバの設定 (Server Configuration)] を使用して)サーバを設定し、その Cisco Unified CallManager を([Cisco Unified CallManager の設定 (Cisco Unified CallManager Configuration)] を使用して)追加する必要があります。この手順を、クラスタに配置する Cisco Unified CallManager ごとに繰り返します。

Cisco Unified CallManager の設定を検索および更新したり、システム コンポーネントのバージョン情報を表示したりするには、次のトピックを参照してください。

- [Cisco Unified CallManager の検索 \(P.3-2\)](#)
- [Cisco Unified CallManager の更新 \(P.3-3\)](#)
- [Cisco Unified CallManager の設定値 \(P.3-4\)](#)
- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化 \(P.3-7\)](#)
- [関連項目 \(P.3-8\)](#)

Cisco Unified CallManager の検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco Unified CallManager が存在することがあるので、Cisco Unified CallManager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定の Cisco Unified CallManager を見つけることができます。Cisco Unified CallManager を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [Cisco Unified CallManager] の順に選択します。

[Cisco Unified CallManager の検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CallManagers)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco Unified CallManager を検索します。

ステップ 2 [Cisco Unified CallManagers の検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CallManagers)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [説明]

[Cisco Unified CallManagers の検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CallManagers)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント

データベースに登録されている Cisco Unified CallManager をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された Cisco Unified CallManager のリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]

[Cisco Unified CallManager の検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CallManagers)] ウィンドウでは、ページごとに表示する行数も指定できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Cisco Unified CallManager 名をクリックします。

選択した Cisco Unified CallManager がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.3-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager の更新

Cisco Unified CallManager を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [Cisco Unified CallManager] の順に選択します。

[Cisco Unified CallManager の検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CallManagers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Cisco Unified CallManager を更新するには、対象となる Cisco Unified CallManager を見つけます (P.3-2 の「[Cisco Unified CallManager の検索](#)」を参照)。更新する Cisco Unified CallManager をクリックし、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 3-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.3-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager の設定値

表 3-1 では、Cisco Unified CallManager の設定値について説明します。関連する手順については、P.3-8 の「関連項目」を参照してください。

表 3-1 Cisco Unified CallManager の設定値

フィールド	説明
[サーバ情報 (Server Information)]	
[Cisco Unified CallManager サーバ (Cisco Unified CallManager Server)]	この読み取り専用フィールドには、Cisco Unified CallManager がインストールされているサーバが表示されます。
[Cisco Unified CallManager 名 (Cisco Unified CallManager Name)]	この Cisco Unified CallManager に割り当てる名前を入力します。
[説明 (Description)]	Cisco Unified CallManager の説明を入力します。
[自動登録情報 (Auto-registration Information)]	
[開始電話番号 (Starting Directory Number)]	デバイスの自動登録に使用する開始電話番号を入力します。
[終了電話番号 (Ending Directory Number)]	デバイスの自動登録に使用する終了電話番号を入力します。
	 <p>(注) [開始電話番号 (Starting Directory Number)] フィールドと [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドで電話番号の有効な範囲を指定すると、自動登録が自動的に使用可能になります。</p> <p>[開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。</p>
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを使用しない場合は、<None> を選択します。</p> <p>パーティションを使用している場合は、自動登録された電話番号が属するパーティションをドロップダウン リスト ボックスから選択します。</p>  <p>ヒント パーティション、外線電話番号マスク、またはボイスメール ボックス マスクを選択する前に、自動登録用の範囲を選択しておく必要があります。</p>

表 3-1 Cisco Unified CallManager の設定値 (続き)

フィールド	説明
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>自動登録されたデバイスから発信される外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。 発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。自動登録されたデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。 <p>次の例を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> マスク 972813XXXX を指定する場合、外部コールを行うのに使用されるルートパターンで [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)] オプションがオンになっていれば、内線番号 1234 からの外部コールは、発信者 ID が 9728131234 と表示されます。 代表番号を表すために、9728135000 のようなすべて数字列のマスクを指定する場合は、その番号 (9728135000) が、自動登録された任意のデバイスからの外部コールの発信者 ID として表示されます。
[この Cisco Unified CallManager では自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified CallManager)]	<p>Cisco Unified CallManager は、無許可でネットワークへ接続するのを防止する目的で、デフォルトでは自動登録を使用不可にしています。自動登録を使用可能にするか使用不可にするかを選択するには、次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この Cisco Unified CallManager で自動登録を使用可能にするには、[この Cisco Unified CallManager では自動登録は無効 (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified CallManager)] チェックボックスをオフにします。 この Cisco Unified CallManager で自動登録を使用不可にするには、[この Cisco Unified CallManager では自動登録は無効 (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified CallManager)] チェックボックスをオンにします。 <ul style="list-style-type: none"> 自動登録が使用不可の場合は、ネットワークに新しいデバイスを追加するたびに、電話番号を手動で設定する必要があります。 [開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定しても、自動登録が使用不可になります。 このオプションをオンにして自動登録を使用不可にするときに、開始電話番号と終了電話番号が指定されている場合、Cisco Unified CallManager は、開始電話番号と終了電話番号を同じ値に設定します。 <p>Cisco Unified CallManager は、自動登録が使用不可になると、パーティションと外部電話マスク情報をリセットします。</p>

表 3-1 Cisco Unified CallManager の設定値 (続き)

フィールド	説明
[このサーバでの Cisco Unified CallManager の TCP ポートの設定 (Cisco Unified CallManager TCP Port Settings for this Server)]	
[イーサネット電話ポート (Ethernet Phone Port)]	<p>Cisco Unified CallManager は、ネットワーク上の Cisco Unified IP Phone (SCCP のみ) との通信に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのポート値 2000 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルト ポートを受け入れてください。2000 を選択すると、このポートはノンセキュアとして識別されます。 すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。 有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。 セキュリティの設定については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[MGCP リッスンポート (MGCP Listen Port)]	<p>Cisco Unified CallManager は、関連した MGCP ゲートウェイからメッセージを検出する場合に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのポート番号 2427 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルト ポートを受け入れてください。 すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。 有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。
[MGCP キープアライブポート (MGCP Keep-alive Port)]	<p>Cisco Unified CallManager は、関連する MGCP ゲートウェイと、キープアライブ メッセージを交換する場合に、この TCP ポートを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのポート番号 2428 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルト ポートを受け入れてください。 すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。 有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。
[SIP 電話ポート (SIP Phone Port)]	<p>このフィールドには、TCP および UDP による SIP 回線登録をリッスンするために Cisco Unified CallManager が使用するポート番号を指定します。</p>
[SIP 電話セキュアポート (SIP Phone Secure Port)]	<p>このフィールドには、TLS による SIP 回線登録をリッスンするために Cisco Unified CallManager が使用するポート番号を指定します。</p> <p>セキュリティの設定については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化には、次の要件が適用されます。

- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化 \(P.3-7\)](#)
- [Cisco CallManager サービスの非アクティブ化 \(P.3-7\)](#)

追加情報

[P.3-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco CallManager サービスのアクティブ化

Cisco Unified CallManager の新規インストールを実行する場合は、次の手順に従う必要があります。

1. サーバを追加します。サーバが設定されると、Cisco Unified CallManager が自動的に追加されます。
2. 『*Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』の説明に従って、Cisco CallManager サービスを有効にします。

この手順に従わない場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

[P.3-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco CallManager サービスの非アクティブ化

Cisco CallManager サービスは、Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ ページで非アクティブにすることができます。Cisco CallManager サービスを非アクティブにすると、サービスを非アクティブにした Cisco Unified CallManager は非アクティブになり、使用されなくなります。



(注)

[Cisco Unified CallManager Serviceability] の [Tools] > [Service Activation] にアクセスすると、Cisco Unified CallManager のステータスを表示できます。

Cisco CallManager サービスを非アクティブにした場合、その Cisco Unified CallManager 上ではコールを発信できなくなります。

Cisco CallManager の管理 Web サービスがアクティブになっていて、データベースが起動し、動作している場合は、非アクティブになった Cisco Unified CallManager に対して設定操作を実行できます。

Cisco Unified CallManager 上でもう一度 Cisco CallManager サービスをアクティブにすると、Cisco Unified CallManager が元の設定 (サーバ名または IP アドレス) のままで自動的にデータベースに再作成されます。この Cisco Unified CallManager がアクティブになります。Cisco CallManager サービスが動作していることを確認するには、[Cisco Unified CallManager Serviceability] の [Tools] > [Control Center - Feature Services] にアクセスします。

サービスのアクティブ化の詳細については、『*Cisco Unified CallManager Serviceability システムガイド*』および『*Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

追加情報

[P.3-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unified CallManager の検索 \(P.3-2 \)](#)
- [Cisco Unified CallManager の更新 \(P.3-3 \)](#)
- [Cisco Unified CallManager の設定値 \(P.3-4 \)](#)
- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化 \(P.3-7 \)](#)
- [サーバの設定 \(P.2-1 \)](#)
- 『*Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド*』



Cisco Unified CallManager グループ の設定

1 つの Cisco Unified CallManager グループでは、最高 3 つの Cisco Unified CallManager の優先順位をリストで指定しています。リストの最初にある Cisco Unified CallManager はそのグループのプライマリ Cisco Unified CallManager となり、残りは、セカンダリおよびターティアリ（第三次 - バックアップ）Cisco Unified CallManager となります。

各デバイス プールには、Cisco Unified CallManager グループが 1 つずつ割り当てられています。デバイスが登録されると、そのデバイスは、デバイス プールに割り当てられているグループの中のプライマリ Cisco Unified CallManager に接続しようとしています。プライマリ Cisco Unified CallManager が使用できない場合、デバイスはそのグループにリストされている次の Cisco Unified CallManager へと順次接続しようとしています。

Cisco Unified CallManager グループは、システムに次の重要な機能を提供します。

- 冗長性：この機能により、グループごとにプライマリ Cisco Unified CallManager とバックアップ Cisco Unified CallManager を指定できる。
- コール処理のロード バランシング：この機能を使用すると、複数の Cisco Unified CallManager にデバイスの制御を振り分けることができる。

ほとんどのシステムでは、負荷分散と冗長性を向上させるために、複数のグループを用意して 1 つの Cisco Unified CallManager を複数のグループに割り当てる必要があります。

Cisco Unified CallManager グループを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [Cisco Unified CallManager グループの検索 \(P.4-2\)](#)
- [Cisco Unified CallManager グループの設定 \(P.4-4\)](#)
- [Cisco Unified CallManager グループの設定値 \(P.4-5\)](#)
- [Cisco Unified CallManager グループの削除 \(P.4-6\)](#)
- [関連項目 \(P.4-7\)](#)

Cisco Unified CallManager グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco Unified CallManager グループが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定の Cisco Unified CallManager グループを見つけることができます。Cisco Unified CallManager グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [Cisco Unified CallManager グループ] の順に選択します。

[Cisco Unified CallManager グループの検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CallManager Groups)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco Unified CallManager グループを検索します。

ステップ 2 [Cisco Unified CallManager グループの検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CallManager Groups)] ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されている Cisco Unified CallManager グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された Cisco Unified CallManager グループのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前]
- [自動登録 Cisco Unified CallManager グループ (Auto-registration Cisco Unified CallManager Group)]

[Cisco Unified CallManager グループの検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CallManager Groups)] ウィンドウでは、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**(注)**

該当する Cisco Unified CallManager グループの横にあるチェックボックスをオンにして[**選択項目の削除**]をクリックすると、[Cisco Unified CallManager グループの検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CallManager Groups)] ウィンドウから複数の Cisco Unified CallManager グループを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして[**選択項目の削除**]をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Cisco Unified CallManager グループを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Cisco Unified CallManager グループ名をクリックします。

選択した Cisco Unified CallManager グループがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.4-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager グループの設定

Cisco Unified CallManager グループを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified CallManager グループを設定する場合は、事前に、そのグループのメンバとして割り当てる Cisco Unified CallManager を設定しておく必要があります。詳細については、[P.3-3 の「Cisco Unified CallManager の更新」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [システム] > [Cisco Unified CallManager グループ] の順に選択します。

[Cisco Unified CallManager グループの検索と一覧表示 (Find and List Cisco Unified CallManager Groups)] が表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の Cisco Unified CallManager グループをコピーするには、対象となる Cisco Unified CallManager グループを見つけて ([P.4-2 の「Cisco Unified CallManager グループの検索」](#)を参照)、コピーする Cisco Unified CallManager グループを選択し、[コピー]をクリックして**ステップ 3**に進みます。
- 新しい Cisco Unified CallManager グループを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3**に進みます。
- 既存の Cisco Unified CallManager グループを更新するには、対象となる Cisco Unified CallManager を見つけて ([P.4-2 の「Cisco Unified CallManager グループの検索」](#)を参照)、**ステップ 3**に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します ([表 4-1](#) を参照)。

ステップ 4 ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存] ボタンをクリックして)、Cisco Unified CallManager グループの設定をデータベースに保存します。

Cisco Unified CallManager グループを設定した後、そのグループを使用してデバイス プールを設定できます。デバイスは、割り当てられているデバイス プールから、Cisco Unified CallManager グループリストの設定値を取得します。


追加情報

[P.4-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco Unified CallManager グループの設定値

表 4-1 では、Cisco Unified CallManager グループの設定値について説明します。関連する手順については、P.4-7 の「関連項目」を参照してください。

表 4-1 Cisco Unified CallManager グループの設定値

フィールド	説明
[Cisco Unified CallManager グループの設定 (Cisco Unified CallManager Group Settings)]	
[名前]	新しいグループの名前を入力します。
[自動登録 Cisco Unified CallManager グループ (Auto-registration Cisco Unified CallManager Group)]	<p>自動登録が使用可能であるときに、この Cisco Unified CallManager グループをデフォルト Cisco Unified CallManager グループにする場合は、[自動登録 Cisco Unified CallManager グループ (Auto-registration Cisco Unified CallManager Group)]チェックボックスをオンにします。</p> <p>デバイスをこの Cisco Unified CallManager グループに自動登録しない場合は、このチェックボックスをオフのままにしてください。</p> <p> (注) 各 Cisco Unified CallManager クラスタには、1 つのデフォルト自動登録グループだけを指定できます。別の Cisco Unified CallManager グループをデフォルト自動登録グループとして選択した場合は、以前に選択されていた自動登録グループが、そのクラスタのデフォルトではなくなります。</p>
[Cisco Unified CallManager グループのメンバ (Cisco Unified CallManager Group Members)]	
[利用可能な Cisco Unified CallManager (Available Cisco Unified CallManagers)]	<p>このフィールドは、Cisco Unified CallManager グループに属していない、使用可能な Cisco Unified CallManager をリストで表示します。</p> <p>Cisco Unified CallManager の名前を選択し、上矢印と下矢印を使用して、Cisco Unified CallManager を [選択された Cisco Unified CallManager (Selected Cisco Unified CallManagers)] リストと [利用可能な Cisco Unified CallManager (Available Cisco Unified CallManagers)] リストの間で移動させます。</p>
[選択された Cisco Unified CallManager (Selected Cisco Unified CallManagers)]	<p>このフィールドは、Cisco Unified CallManager グループに属している Cisco Unified CallManager を表示します。[選択された Cisco Unified CallManager (Selected Cisco Unified CallManagers)] リストでは、最大 3 つの Cisco Unified CallManager を入れることができ、Cisco Unified CallManager が優先順位の高い順にリストされます。[保存] をクリックすると、[選択された Cisco Unified CallManager (Selected Cisco Unified CallManagers)] リスト内にある Cisco Unified CallManager が、そのグループのメンバーになります。</p> <p>Cisco Unified CallManager の名前を選択し、上矢印と下矢印を使用して、Cisco Unified CallManager を [選択された Cisco Unified CallManager (Selected Cisco Unified CallManagers)] リストと [利用可能な Cisco Unified CallManager (Available Cisco Unified CallManagers)] リストの間で移動させます。</p> <p>[選択された Cisco Unified CallManager (Selected Cisco Unified CallManagers)] リストでは、上下の矢印を使用して、[選択された Cisco Unified CallManager (Selected Cisco Unified CallManagers)] リスト内のグループを、希望する順序に配列します。</p>

Cisco Unified CallManager グループの削除

Cisco Unified CallManager グループをデータベースから削除する手順は、次のとおりです。

始める前に



(注)

Cisco Unified CallManager グループがデバイス プールあるいは MGCP ゲートウェイに割り当てられている場合、または Cisco Unified CallManager グループがクラスタの現在の [自動登録 Cisco Unified CallManager グループ (Auto-registration Cisco Unified CallManager Group)] の場合は、そのグループを削除できません。

Cisco Unified CallManager グループを使用しているデバイスを検索するには、[Cisco Unified CallManager グループの設定 (Cisco Unified CallManager Group Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リストボックスにある [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。

依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示され、依存関係レコードを使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、依存関係レコード機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。

使用中の Cisco Unified CallManager グループを削除しようとする、エラー メッセージが表示されます。現在使用中の Cisco Unified CallManager グループを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- この Cisco Unified CallManager グループを現在使用しているデバイス プールまたは MGCP ゲートウェイに、別の Cisco Unified CallManager グループを割り当てる。[P.9-4 の「デバイス プールの設定」](#)を参照してください。
- [自動登録 Cisco Unified CallManager グループ (Auto-registration Cisco Unified CallManager Group)] にする別の Cisco Unified CallManager グループを作成し、選択する。

手順

- ステップ 1** [P.4-2 の「Cisco Unified CallManager グループの検索」](#)の手順を使用して、Cisco Unified CallManager グループを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するグループを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [選択項目の削除] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [選択項目の削除] ボタンをクリックして)、Cisco Unified CallManager グループを削除します。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックします。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル] をクリックしてください。

追加情報

[P.4-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unified CallManager グループの設定 \(P.4-1 \)](#)
- [Cisco Unified CallManager グループの検索 \(P.4-2 \)](#)
- [Cisco Unified CallManager グループの設定 \(P.4-4 \)](#)
- [Cisco Unified CallManager グループの削除 \(P.4-6 \)](#)



電話機 NTP リファレンスの設定

必要な場合には、電話機の Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) リファレンスを Cisco Unified CallManager の管理ページで設定すると、Cisco SIP IP Phone が日付と時刻を NTP サーバから取得するようになります。どの NTP サーバも応答しない場合、SIP 電話機は、日付と時刻の REGISTER メッセージに対する 200 OK 応答の日付ヘッダーを使用します。

電話機 NTP リファレンスを Cisco Unified CallManager の管理ページに追加したら、そのリファレンスを日付 / 時間グループに追加する必要があります。日付 / 時間グループでは、電話機でアクセスする最初のサーバから順に、電話機 NTP リファレン스에優先順位を設定することができます。

日付 / 時間グループの設定はデバイス プール内で指定し、デバイス プールは電話機ページで指定します。

電話機 NTP リファレンスを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [電話機 NTP リファレンスの検索 \(P.5-2\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの設定 \(P.5-3\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの設定値 \(P.5-4\)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの削除 \(P.5-5\)](#)

電話機 NTP リファレンスの検索

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、複数の電話機 NTP リファレンスを設定することができます。このため、Cisco Unified CallManager の管理ページでは個々の電話機 NTP リファレンスを検索できるようになっています。Cisco Unified CallManager の管理ページに存在する電話機 NTP リファレンスを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索 / リストの設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [電話用 NTP] の順に選択します。

[電話用 NTP の検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ウィンドウが表示されます。



ヒント

データベースにある電話機 NTP リファレンスをすべて検索するには、検索条件を入力せずに [検索] をクリックしてください。

ステップ 2 検索条件を [検索] ドロップダウン リスト ボックスから選択することもできます。目的の検索テキストがある場合はそのテキストを入力し、[検索] をクリックします。

[電話用 NTP の検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ウィンドウでは、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

ステップ 3 レコードのリストから、検索条件と一致する電話機 NTP リファレンス名をクリックします。

追加情報

P.5-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機 NTP リファレンスの設定

電話機 NTP リファレンスを Cisco Unified CallManager データベースに追加する手順、およびデータベース内の電話機 NTP リファレンスを更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [電話用 NTP] の順に選択します。

[電話用 NTP の検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 電話機 NTP リファレンスを Cisco Unified CallManager データベースに追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の電話機 NTP リファレンスを更新するには、既存の電話機 NTP リファレンスを見つけて ([P.5-2 の「電話機 NTP リファレンスの検索」](#)を参照) [ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します ([表 5-1](#) を参照)。

ステップ 4 設定をデータベースに保存するには、ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存] アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存] ボタンをクリックします。

次の手順

新しい電話機 NTP リファレンスを Cisco Unified CallManager データベースに追加したら、そのリファレンスを日付/時間グループに割り当てます。詳細については、[P.6-4 の「日付/時間グループの設定」](#)を参照してください。



追加情報

[P.5-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

電話機 NTP リファレンスの設定値

表 5-1 では、電話機 NTP リファレンスの設定値について説明します。関連する手順については、P.5-6 の「関連項目」を参照してください。

表 5-1 電話機 NTP リファレンスの設定値

フィールド	説明
[IP アドレス]	<p>SIP 電話機が日時の取得に使用する NTP サーバの IP アドレスを入力します。</p> <p> (注) Cisco Unified CallManager を電話機 NTP リファレンスとして設定することはできません。</p>
[説明]	<p>電話機 NTP リファレンスの説明を入力します。[IP アドレス] フィールドにある情報が、Cisco Unified CallManager の管理ページによって [説明] フィールドに自動的に入力されます。必要に応じて、この情報を変更することができます。</p>
[モード (Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機 NTP リファレンスのモードを選択します。選択できる値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Directed Broadcast]: このデフォルト NTP モードを選択すると、電話機は任意の NTP サーバから日時情報を取得しますが、リストされている NTP サーバ (1st = プライマリ、2nd = セカンダリ) を優先的に使用します。たとえば、電話機の設定で A がプライマリ NTP サーバ、B がセカンダリ (バックアップ) NTP サーバになっている場合、電話機は NTP サーバ A からのブロードキャスト パケットを使用 (日時を取得) します。NTP サーバ A がブロードキャストを実行していない場合は、NTP サーバ B からの日時情報にアクセスします。どちらの NTP サーバもブロードキャストを実行していない場合は、他の任意の NTP サーバからの日時情報にアクセスします。他の NTP サーバもブロードキャストを実行していない場合、電話機は REGISTER メッセージに対する Cisco Unified CallManager 200 OK 応答から日時を取得します。 [Unicast]: このモードを選択した場合、電話機は特定の NTP サーバに NTP クエリー パケットを送信します。応答を受信できない場合、電話機は他の任意の NTP サーバからの日時情報にアクセスします。他の NTP サーバも応答しない場合、電話機は REGISTER メッセージに対する Cisco Unified CallManager 200 OK 応答から日時を取得します。 <p> (注) Cisco Unified CallManager は、現時点では Multicast モードおよび Anycast モードをサポートしていません。これらのモードを選択した場合は、デフォルトの Directed Broadcast モードに設定されます。</p>

電話機 NTP リファレンスの削除

Cisco Unified CallManager データベースから電話機 NTP リファレンスを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話機 NTP リファレンスを Cisco Unified CallManager の管理ページから削除するには、そのリファレンスを事前に日付 / 時間グループから削除する必要があります。電話機 NTP リファレンスを使用している日付 / 時間グループを検索するには、[電話用 NTP の設定 (Phone NTP Reference Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。電話機 NTP リファレンスを使用している日付 / 時間グループがわかっている場合は、該当する電話機 NTP リファレンスをそのグループから削除します。

依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示され、依存関係レコードを使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、依存関係レコード機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** [P.5-2 の「電話機 NTP リファレンスの検索」](#)の手順を使用して、電話機 NTP リファレンスを検索します。
- ステップ 2** 複数の電話機 NTP リファレンスを削除するには、[電話用 NTP の検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ウィンドウで、対象となる電話機 NTP リファレンスの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] アイコンまたは [選択項目の削除] ボタンをクリックします。
- ステップ 3** 電話機 NTP リファレンスを 1 つだけ削除するには、次の作業のいずれかを実行します。
 - [電話用 NTP の検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ウィンドウで、対象となる電話機 NTP リファレンスの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] アイコンまたは [選択項目の削除] ボタンをクリックします。
 - [電話用 NTP の検索と一覧表示 (Find and List Phone NTP References)] ウィンドウで、電話機 NTP リファレンスの [IP アドレス (IP Address)] リンクをクリックします。その電話機 NTP リファレンスの [電話用 NTP の設定 (Phone NTP Reference Configuration)] ウィンドウが表示されたら、[削除] アイコンまたは [削除] ボタンをクリックします。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックして削除します。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル] をクリックしてください。

追加情報

[P.5-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [電話機 NTP リファレンスの設定 \(P.5-1 \)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの検索 \(P.5-2 \)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの設定 \(P.5-3 \)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの設定値 \(P.5-4 \)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの削除 \(P.5-5 \)](#)
- [日付 / 時間グループの検索 \(P.6-2 \)](#)
- [日付 / 時間グループの設定 \(P.6-4 \)](#)
- [日付 / 時間グループの設定値 \(P.6-5 \)](#)
- [日付 / 時間グループの削除 \(P.6-7 \)](#)



日付 / 時間グループの設定

日付 / 時間グループの設定では、Cisco Unified CallManager に接続されている各種デバイスに対してタイムゾーンを設定します。各デバイスは、メンバとして1つのデバイスプールだけに属しています。そして、各デバイスプールには、1つの日付 / 時間グループだけが割り当てられています。

Cisco Unified CallManager をインストールすると、CMLocal と呼ばれるデフォルトの日付 / 時間グループが自動的に設定されます。CMLocal は、Cisco Unified CallManager がインストールされているサーバ上のオペレーティングシステムで使用中的の日付および時刻と同期します。Cisco Unified CallManager のインストール後に、必要に応じて CMLocal の設定値を変更できます。通常、サーバの日付と時刻は、現地タイムゾーンの日付と時刻に合わせて調整します。



(注)

Cisco Unified CallManager を再起動するか、Cisco Unified CallManager ソフトウェアを新しいリリースにアップグレードするたびに、CMLocal はオペレーティングシステムの日付と時刻に置き換えられます。CMLocal の名前は変更しないでください。



ヒント

Cisco Unified IP Phone を国際的に配備する場合は、24 のタイムゾーンのそれぞれのグループに名前を付けた日付 / 時間グループを作成してください。

日付 / 時間グループを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [日付 / 時間グループの検索 \(P.6-2\)](#)
- [日付 / 時間グループの設定 \(P.6-4\)](#)
- [日付 / 時間グループの設定値 \(P.6-5\)](#)
- [日付 / 時間グループの削除 \(P.6-7\)](#)

日付/時間グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの日付/時間グループが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定の日付/時間グループを見つけることができます。日付/時間グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注) ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアントマシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム]>[日時グループ]の順に選択します。

[日時グループの検索と一覧表示 (Find and List Date/Time Groups)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウンリストボックスを使用して、日付/時間グループを検索します。

ステップ 2 [日時グループの検索と一覧表示 (Find and List Date/Time Groups)] ウィンドウの最初のドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [グループ名]
- [タイムゾーン]

[日時グループの検索と一覧表示 (Find and List Date/Time Groups)] ウィンドウの2番目のドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索]をクリックします。



ヒント データベースに登録されている日付/時間グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された日付/時間グループのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [タイムゾーン (Time Zone)]

[日時グループの検索と一覧表示 (Find and List Date/Time Groups)] ウィンドウでは、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) 該当する日付/時間グループの横にあるチェックボックスをオンにして、[**選択項目の削除**] をクリックすると、[**日時グループの検索と一覧表示 (Find and List Date/Time Groups)**] ウィンドウから複数の日付/時間グループを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウ内の日付/時間グループをすべて削除できます。

ステップ4 レコードのリストから、検索条件と一致する日付/時間グループの名前をクリックします。

選択した日付/時間グループがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.6-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

日付/時間グループの設定

日付/時間グループを Cisco Unified CallManager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [日時グループ] の順に選択します。

[日時グループの検索と一覧表示 (Find and List Date/Time Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の日付/時間グループをコピーするには、対象となる日付/時間グループを見つけて (P.6-2 の「日付/時間グループの検索」を参照)、コピーする日付/時間グループの横にある [コピー] ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しい日付/時間グループを追加するには、対象となる日付/時間グループを見つけて (P.6-2 の「日付/時間グループの検索」を参照)、[新規追加] ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存の日付/時間グループを更新するには、対象となる日付/時間グループを見つけて (P.6-2 の「日付/時間グループの検索」を参照)、ステップ 3 に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 6-1 を参照)。

ステップ 4 SIP 電話機は、Cisco Unified CallManager の管理ページにある NTP サーバを使用して日付と時刻を取得することができます (P.5-1 の「電話機 NTP リファレンスの設定」を参照)。電話機 NTP リファレンスを SIP 電話機の日付/時間グループに追加するには、次の作業を実行します。

- [電話用 NTP を追加] ボタンをクリックします。
- 追加する電話機 NTP リファレンスを検索します (P.5-2 の「電話機 NTP リファレンスの検索」を参照)。

表示されるのは、Cisco Unified CallManager データベースに存在している電話機 NTP リファレンスのみです。電話機 NTP リファレンスを Cisco Unified CallManager の管理ページに追加する方法については、P.5-3 の「電話機 NTP リファレンスの設定」を参照してください。
- 検索結果が表示されたら、日付/時間グループに追加する電話機 NTP リファレンスのチェックボックスをオンにするか、[すべてを選択] をクリックします。
- [選択項目の追加] をクリックします。



ヒント 電話機 NTP リファレンスを日付/時間グループに追加したら、SIP 電話機でアクセスする最初のサーバから順に、それらに優先順位を設定することができます。たとえば、サーバをリストの先頭のほうに移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、上矢印をクリックします。サーバをリストの末尾のほうに移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、下矢印をクリックします。

ステップ 5 電話機 NTP リファレンスを日付/時間グループから削除するには、ペインに表示されているリファレンスを選択し、[電話用 NTP を削除] をクリックします。

電話機 NTP リファレンスを日付/時間グループから削除しても、その電話機 NTP リファレンスは Cisco Unified CallManager データベースからは削除されません。

ステップ6 新しい日付/時間グループをデータベースに保存するには、ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存] アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存] ボタンをクリックします。

ステップ7 日付/時間グループを使用しているデバイスをリセットするには、[リセット] をクリックします。

次の手順

新しい日付/時間グループをデータベースに追加した後、そのグループをデバイス プールに割り当てて、そのデバイス プールの日付と時刻の情報を設定できます。詳細については、[P.9-4](#) の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

追加情報

[P.6-8](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。


日付/時間グループの設定値

[表 6-1](#) では、日付/時間グループの設定値について説明します。関連する手順については、[P.6-8](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 6-1 日付/時間グループの設定値

フィールド	説明
[グループ名]	新しい日付/時間グループに割り当てる名前を入力します。
[タイムゾーン]	ドロップダウン リスト ボックスから、追加するグループのタイムゾーンを選択します。 Cisco Unified CallManager の新規インストレーションのデフォルト設定は、(GMT) Monrovia, Casablanca です。 互換性のある Cisco Unified CallManager リリースからアップグレードし、設定で「CallManager のローカル タイムゾーン」を使用している場合は、データベース サーバに使用する適切なタイムゾーンを Cisco Unified CallManager が判断し、そのタイムゾーンを Cisco CallManager タイムゾーンの置換用として表示します。
[セパレータ (Separator)]	日付フィールド間で使用する区切り文字を選択します。
[日付の書式 (Date Format)]	Cisco Unified IP Phone に表示される日付の形式を選択します。

表 6-1 日付/時間グループの設定値(続き)

フィールド	説明
[時間フォーマット (Time Format)]	12 時間制または 24 時間制を選択します。
[電話用 NTP の選択 (Selected Phone NTP References)]	<p>SIP 電話機が日付と時刻の設定を NTP サーバから取得できるようにするには、電話機 NTP リファレンスを日付 / 時間グループに追加します。電話機 NTP リファレンスを日付 / 時間グループに追加するには、次の作業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [電話用 NTP を追加] ボタンをクリックします。 2. 追加する電話機 NTP リファレンスを検索します (P.5-2 の「電話機 NTP リファレンスの検索」を参照)。 <p>表示されるのは、Cisco Unified CallManager データベースに存在している電話機 NTP リファレンスのみです。電話機 NTP リファレンスを Cisco Unified CallManager の管理ページに追加する方法については、P.5-3 の「電話機 NTP リファレンスの設定」を参照してください。</p> 3. 検索結果が表示されたら、電話機 NTP リファレンスのチェックボックスをオンにするか、[すべてを選択] をクリックします。 4. [選択項目の追加] をクリックします。 <p>電話機 NTP リファレンスを日付 / 時間グループに追加したら、電話機でアクセスする最初のリファレンスから順に、それらに優先順位を設定することができます。たとえば、リファレンスをリストの先頭のほうに移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、上矢印をクリックします。リファレンスをリストの末尾のほうに移動するには、ペインに表示されているエントリを選択し、下矢印をクリックします。</p> <p> ヒント 電話機 NTP リファレンスを日付 / 時間グループから削除するには、ペインに表示されているサーバを選択し、[電話用 NTP を削除] をクリックします。電話機 NTP リファレンスを日付 / 時間グループから削除しても、その電話機 NTP リファレンスは Cisco Unified CallManager データベースからは削除されません。</p>

日付/時間グループの削除

Cisco Unified CallManager データベースから日付/時間グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に



(注) デバイス プールが使用している日付/時間グループは、削除することができません。

日付/時間グループを使用しているデバイス プールを検索するには、[日時グループの設定 (Date/Time Group Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リストボックスにある [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。

依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示され、依存関係レコードを使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、依存関係レコード機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。

使用されている日付/時間グループを削除しようとすると、Cisco Unified CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用されている日付/時間グループを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する日付/時間グループを使用しているデバイス プールすべてに、別の日付/時間グループを割り当てる。[P.9-4 の「デバイスプールの設定」](#)を参照してください。
- 削除する日付/時間グループを使用しているデバイス プールを削除する。[P.9-9 の「デバイスプールの削除」](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** [P.6-2 の「日付/時間グループの検索」](#)の手順を使用して、日付/時間グループを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する日付/時間グループを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [選択項目の削除] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [選択項目の削除] ボタンをクリックして)、日付/時間グループを削除します。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックして削除します。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル] をクリックしてください。

追加情報

[P.6-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [日付 / 時間グループの設定 \(P.6-1 \)](#)
- [日付 / 時間グループの検索 \(P.6-2 \)](#)
- [日付 / 時間グループの設定 \(P.6-4 \)](#)
- [日付 / 時間グループの設定値 \(P.6-5 \)](#)
- [日付 / 時間グループの削除 \(P.6-7 \)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの検索 \(P.5-2 \)](#)
- [電話機 NTP リファレンスの設定 \(P.5-3 \)](#)



プレゼンス グループの設定

Cisco Unified CallManager の管理ページでプレゼンスを設定すると、関係するユーザ（ウォッチャーと呼ばれます）が、電話番号または SIP URI（プレゼンス エンティティ）のリアルタイム ステータスをウォッチャーのデバイスから監視できるようになります。

プレゼンス グループを使用してウォッチャーがどの対象を監視できるかは、Cisco Unified CallManager が制御します。プレゼンス グループは、ウォッチャー、およびグループ内のウォッチャーが監視できる対象を保持しています。あるグループに含まれているウォッチャーが他のグループ内の電話番号を監視できるようにするには、権限の設定値を指定して、プレゼンス要求を許可またはブロック（拒否）します。プレゼンス許可が作用するのは、対象のステータスを監視する権限をウォッチャーが持つことを必須としているプレゼンス グループです。

プレゼンス グループを設定したら、Cisco Unified CallManager の管理ページで次の項目にプレゼンス グループを適用します。

- 電話番号：ステータスの監視対象となるプレゼンス エンティティ
- SIP トランク：ウォッチャー
- SIP 電話機：ウォッチャー
- SCCP 電話機：ウォッチャー
- アプリケーション ユーザ：ウォッチャー
- エンドユーザ：ウォッチャー
- 自動生成デバイス プロファイル（エクステンション モビリティをサポートする電話機のみ）：ウォッチャー

プレゼンス グループの設定の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。



リージョンの設定

リージョンの設定では、リージョン内または既存のリージョン間で、オーディオ コールとビデオ コールに使用される帯域幅を指定します。

- オーディオ コーデックによって、圧縮のタイプ、およびオーディオ コールあたりの使用帯域幅の最大値が決まります。
- ビデオ コールの帯域幅は、オーディオ帯域幅およびビデオ帯域幅の合計で構成されますが、オーバーヘッドは含まれません。



(注) Cisco Unified CallManager で処理されるすべてのコールには、デフォルトのオーディオ コーデック G.711 が指定されています。デフォルトのオーディオ コーデックだけを使用する場合は、リージョンを使用する必要はありません。詳細については、[P.8-10](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。



(注) Cisco Unified CallManager では、最大 500 のリージョンを追加できます。

リージョンを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [リージョンの検索 \(P.8-2\)](#)
- [リージョンの設定 \(P.8-3\)](#)
- [関連項目 \(P.8-10\)](#)
- [リージョンの削除 \(P.8-9\)](#)

リージョンの設定とオーディオ コーデックの選択の詳細については、『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「[リージョン](#)」を参照してください。

リージョンの検索

ネットワーク内にはいくつかのリージョンが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定のリージョンを見つけることができます。リージョンを見つける手順は、次のとおりです。



(注) ブラウザセッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [リージョン] の順に選択します。

[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して、リージョンを名前で検索します。

ステップ 2 [リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウのドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されているリージョンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたリージョンのリストが、名前別に表示されます。

[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウでは、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) 該当するリージョンの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウから複数のリージョンを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのリージョンを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するリージョン名をクリックします。

選択したリージョンがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.8-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

リージョンの設定

リージョンを追加または更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

どのリージョンについても、他のリージョン内にそのリージョンとの関連付けが存在しています。このため、リージョンの追加はマトリクス（行列）のような形態で発生します。たとえば、リージョン A、B、および C を追加すると、次に示すように、リージョン A、リージョン B、およびリージョン C を列および行とするマトリクスが作成されます。

	リージョン A	リージョン B	リージョン C
リージョン A			
リージョン B			
リージョン C			

20 のリージョンを割り当てると、データベースは 400 のエン트리（20 x 20）を追加します。多数のリージョンを割り当てると、パフォーマンスがいくらか制限されます。



(注)

Cisco Unified CallManager では、最大 500 のリージョンを追加できます。

デフォルト値の設定

リージョン エン 트리には、オーディオ コーデックとビデオ コール帯域幅の 2 つの値が保持されます。

- [オーディオ コーデック (Audio Codec)]: 同じリージョン内で使用されるオーディオ コーデックの値を定義します。また、リージョン間で使用されるオーディオ コーデックの値も定義します。
- [ビデオ コール帯域幅 (Video Call Bandwidth)]: 同じリージョン内で使用されるビデオ コール帯域幅の値を定義します。また、リージョン間で使用されるビデオ コール帯域幅の値も定義します。



ヒント

オーディオ コーデックとビデオ コール帯域幅の値を両方ともデフォルト値を使用するように設定すると、リソースがさらに効率的に使用されるようになり、パフォーマンスが最適化されます。



(注)

リージョンは、リージョン内で使用されるデフォルト値（推奨デフォルト値は G.711）、およびリージョン間で使用されるデフォルト値（推奨デフォルト値は G.729）を保持しています。

リージョン内で使用されるデフォルト値は、[Cisco Unified CallManager の管理] の [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウ ([システム] > [サービスパラメータ]) で設定します。

1. [システム] > [サービスパラメータ] の順に選択します。
2. [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、設定する Cisco Unified CallManager サーバを選択します。
3. [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、サービスとして [Cisco CallManager (Active)] を選択します。
4. [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。
5. [Clusterwide Parameters (System - Location and Region)] まで下方方向にスクロールして、このセクションのパラメータを設定します。
6. ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存] アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存] ボタンをクリックします。

リージョンを追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [リージョン] の順に選択します。

[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しいリージョンを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存のリージョンを更新するには、対象となるリージョンを見つけて ([P.8-2](#) の「[リージョンの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。



(注)

Cisco Unified CallManager は、リージョン名の変更後にデバイスをリセットするように通知します。

ステップ 3 [名前 (Name)] フィールドに、リージョンに割り当てる名前を入力します。

ステップ 4 新しいリージョンをデータベースに保存するには、ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存] アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存] ボタンをクリックします。

ステップ5 このリージョン内で使用するデフォルトコーデックを設定するには、[リージョン (Regions)] ウィンドウ ペインにあるリージョン名をクリックして選択します。

- a. [オーディオコーデック (Audio Codec)] ドロップダウン リスト ボックスから、このリージョン内で使用するデフォルトのオーディオコーデック値を選択します。

オーディオコーデックによって、圧縮のタイプ、およびこれらのコールに割り当てられる帯域幅の最大値が決まります。使用可能なコーデックタイプおよび帯域幅のサマリーについては、表 8-2 を参照してください。

- b. [ビデオコール帯域幅 (Video Call Bandwidth)] 列で、適切なオプション ボタンをクリックしてデフォルト値を設定し、このリージョン内のビデオコールに使用するビデオ帯域幅を指定します。

[なし (None)] を指定した場合、ビデオコールは許可されません。



(注) スケーラビリティを向上させるには、[Cisco Unified CallManager の管理] の [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで、オーディオコーデックとビデオコール帯域幅の両方の値についてデフォルト値を適切に設定し、次に、[Cisco Unified CallManager の管理] の [リージョンの設定 (Region Configuration)] ウィンドウでデフォルト設定を選択することをお勧めします。

ステップ6 このリージョンと他のリージョンの間で使用するデフォルトコーデックを設定するには、[リージョン (Regions)] ウィンドウ ペインにある他のリージョン名 (このリージョン以外) をクリックして選択します。

- a. [オーディオコーデック (Audio Codec)] ドロップダウン リスト ボックスから、このリージョンと選択したリージョンの間で使用するデフォルトのオーディオコーデック値を選択します。

オーディオコーデックによって、圧縮のタイプ、およびこれらのコールに割り当てられる帯域幅の最大値が決まります。使用可能なコーデックタイプおよび帯域幅のサマリーについては、表 8-2 を参照してください。

- b. [ビデオコール帯域幅 (Video Call Bandwidth)] 列で、適切なオプション ボタンをクリックしてデフォルト値を設定し、このリージョンと選択したリージョンの間でビデオコールに使用するビデオ帯域幅を指定します。

[なし (None)] を指定した場合、このリージョンと指定されたリージョンの間ではビデオコールが許可されません。



(注) スケーラビリティを向上させるには、[Cisco Unified CallManager の管理] の [サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで、オーディオコーデックとビデオコール帯域幅の両方の値についてデフォルト値を適切に設定し、次に、[Cisco Unified CallManager の管理] の [リージョンの設定 (Region Configuration)] ウィンドウでデフォルト設定を選択することをお勧めします。

ステップ7 新しいリージョンをデータベースに保存するには、ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存] アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存] ボタンをクリックします。

**ヒント**

[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウに、[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このドロップダウン リスト ボックスを使用して、表示するリージョンの数 (25、50、100、150、200、または 250 の設定済みリージョン) を指定できます。100 以上のリージョンを表示するように選択した場合、Cisco Unified CallManager の性能が低下する可能性があります。

次の手順

データベースに新しいリージョンを追加した後、そのリージョンを使用して、デバイス プールを設定できます。デバイスは、割り当てられたデバイス プールからリージョンの設定値を取得します。デバイス プールの設定については、[P.9-4 の「デバイス プールの設定」](#)を参照してください。


追加情報

[P.8-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

リージョンの設定値

表 8-1 では、リージョンに対して指定することができるオーディオコーデック、およびビデオコール帯域幅の設定値をまとめています。関連する手順については、P.8-10 の「関連項目」を参照してください。

表 8-1 リージョンの設定値

フィールド	説明
[リージョン情報 (Region Information)]	
[名前 (Name)]	このリージョンの一意的な名前を入力します。この名前には、最長 30 文字まで指定できます。文字、数字、ダッシュ、ドット（ピリオド）、ブランク、および下線を指定できます。
	 <p>(注) Cisco Unified CallManager は、リージョン名の変更後にデバイスをリセットするように通知します。</p>
[リージョンの関係 (Region Relationships)]	
[他のリージョンへの関係を変更 (Modify Relationship to other Regions)]	
[リージョン (Regions)]	この列のエントリは、Default リージョン、設定しているリージョン、およびその他すべてのリージョンを含む、すべての既存リージョンを指定します。
[オーディオコーデック (Audio Codec)]	<p>[リージョン (Regions)] ウィンドウ ペインで指定したリージョンごとに、対応する値をこの列のドロップダウン リスト ボックスから選択して、このリージョン内、およびこのリージョンと指定したリージョンとの間でコールに使用するオーディオコーデックを設定します。デフォルト設定を選択するには、[Use System Default] を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Cisco Unified CallManager の管理] の [サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで設定したデフォルト設定値を選択することをお勧めします。P.8-3 の「デフォルト値の設定」を参照してください。 リモート サイトの配置の大部分で帯域幅が制限されるため、新規リージョンと既存リージョン間で推奨されるデフォルトのコーデックの設定値、G.729 を使用してください。
[ビデオコール帯域幅 (Video Call Bandwidth)]	<p>[リージョン (Regions)] ウィンドウ ペインで指定したリージョンごとに、この列の次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [システムデフォルトの使用 (Use System Default)]: デフォルト値を使用するには、このボタンをクリックします。デフォルト値には、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウでデフォルト値を別の値に設定しない限り、通常は 384 Kbps が指定されています。 [なし (None)]: このリージョンと指定したリージョン間に割り当てられたビデオ コール帯域幅がない場合は、このオプション ボタンをクリックします。 [kbps]: このリージョンと指定したリージョン間にビデオ コール帯域幅を割り当てるには、このボタンをクリックします。これらの 2 つのリージョン間で各ビデオ コールに使用できる帯域幅を入力します。有効値の範囲は 1 ~ 8128 です。

コール ストリームあたりの全使用帯域幅は、オーディオコーデックのタイプ、およびデータパケットのサイズとオーバーヘッド（パケットヘッダーサイズ）などの要素によって決まります。表 8-2 に表示されている帯域幅の数字は、30-ms データパケットに適用され、IP ヘッダーを含みます。各コールは、2つのコールストリームから構成されています。



(注) 表 8-2 に示したコーデックは、コールごとに使用される帯域幅の概算値を示しています。各コーデックの帯域幅使用については、Cisco Unified CallManager の現在のリリースの『Cisco Unified Communications ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン (SRND)』を参照してください。

表 8-2 オーディオコーデックが使用する帯域幅

オーディオコーデック	30 ms データパケットで各コールが消費する帯域幅 (IP ヘッダーを含む)	説明
G.711	80 kbps	このコーデックは、すべての Cisco Unified CallManager コールのデフォルトコーデックです。
G.722	80 kbps	通常、ビデオエンドポイントがこのコーデックを使用します。
G.723	24 kbps	この低ビットレートコーデックは、旧 Cisco IP Phone モデル 12 SP シリーズおよび Cisco IP Phone モデル 30 VIP で使用するためにサポートされています。
G.728	16 kbps	この低ビットレートコーデックは、ビデオエンドポイントによってサポートされています。
G.729	24 kbps	この低ビットレートコーデックは、Cisco Unified IP Phone 7900 モデルで使用するためにサポートされています。
Wideband	272 kbps	この高品質で広帯域幅のオーディオコーデックは、Cisco Unified IP Phone 7900 モデルによってサポートされている、IP Phone 間コールで使用するためにサポートされています。
GSM	29 kbps	Global System for Mobile Communications (GSM) コーデック。このコーデックを使用して、GSM ワイヤレス受話器用の MNET システムが Cisco Unified CallManager と相互動作できるようになります。

リージョンの削除

Cisco Unified CallManager データベースからリージョンを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に



(注) デバイス プールが使用しているリージョンは削除できません。

リージョンを使用しているデバイス プールを検索するには、[リージョンの設定 (Region Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。

依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示され、依存関係レコードを使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、依存関係レコード機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。

使用中のリージョンを削除しようとする、Cisco Unified CallManager にエラー メッセージが表示されます。現在使用中のリージョンを削除する場合は、事前に、次のどちらかまたは両方の作業を実行しておく必要があります。

- 別のリージョンを使用するように、デバイス プールを更新する。[P.9-4 の「デバイスプールの設定」](#)を参照してください。
- 削除するリージョンを使用しているデバイス プールを削除する。[P.9-9 の「デバイスプールの削除」](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** [P.8-2 の「リージョンの検索」](#)の手順を使用して、リージョンを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するリージョンを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [選択項目の削除] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [選択項目の削除] ボタンをクリックして)、リージョンを削除します。



ヒント

[リージョンの検索と一覧表示 (Find and List Regions)] ウィンドウに、[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このドロップダウン リスト ボックスを使用して、表示するリージョンの数 (25、50、100、150、200、または 250 の設定済みリージョン) を指定できます。100 以上のリージョンを表示するように選択した場合、Cisco Unified CallManager の性能が低下する可能性があります。

追加情報

[P.8-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [リージョンの設定 \(P.8-1\)](#)
- [リージョンの検索 \(P.8-2\)](#)
- [リージョンの設定 \(P.8-3\)](#)
- [リージョンの設定値 \(P.8-7\)](#)
- [リージョンの削除 \(P.8-9\)](#)



デバイス プールの設定

デバイス プールの設定では、複数のデバイスに共通の特性をまとめて指定します。デバイス プールには、次のデバイス特性を指定することができます。

- Cisco Unified CallManager グループ
- 日付 / 時間グループ
- リージョン
- ソフトキー テンプレート
- SRST リファレンス
- 自動登録用のコーリング サーチ スペース
- メディア リソース グループ リスト
- Music On Hold (MOH) オーディオ ソース
- ユーザ ロケールおよびネットワーク ロケール
- SRST と Cisco Unified CallManager 間の通信用のコネクション モニタ持続タイマー
- MLPP の設定値

デバイス プールを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス プールの検索 \(P.9-2\)](#)
- [デバイス プールの設定 \(P.9-4\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.9-5\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.9-9\)](#)
- [関連項目 \(P.9-9\)](#)

デバイス プール、およびデバイス プールを通じて割り当てられるデバイス設定値の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「システム レベルのコンフィギュレーション 設定」を参照してください。

デバイス プールの検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイス プールが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定のデバイス プールを見つけることができます。デバイス プールを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、デバイス プールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、デバイス プールの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [デバイスプール] の順に選択します。

[デバイス プールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、デバイス プールを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: デバイスプール、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [デバイスプール名]
- [Cisco Unified CallManager グループ]
- [リージョン]



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるデバイス プール リストのソート方法が決まります。たとえば、[リージョン] を選択すると、[リージョン (Region)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象: デバイスプール、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているデバイス プールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたデバイスプールのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [Unified CallManager グループ (Unified CallManager Group)]
- [リージョン (Region)]
- [日時グループ (Date/Time Group)]



(注) 該当するデバイスプールの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[デバイスプールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ウィンドウから複数のデバイスプールを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのデバイスプールを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する [名前 (Name)] [Unified CallManager グループ (Unified CallManager Group)] [リージョン (Region)] または [日時グループ (Date/Time Group)] をクリックします。

選択したデバイスプールがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.9-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デバイスプールの設定

デバイスプールを Cisco Unified CallManager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。新しいデバイスプールをデータベースに追加した後、そのデバイスプールを使用して、Cisco Unified IP Phone、ゲートウェイ、会議ブリッジ、トランスコーダ、メディアターミネーションポイント、ボイスメールポート、CTIルートポイントなどのデバイスを設定できます。

始める前に

デバイスプールに対して次の項目を選択する場合は、デバイスプールを設定するとき、事前に、その項目を設定しておく必要があります。

- Cisco Unified CallManager グループ (必須)。P.4-4 の「Cisco Unified CallManager グループの設定」を参照してください。
- 日付/時間グループ (必須)。P.6-4 の「日付/時間グループの設定」を参照してください。
- リージョン (必須)。P.8-3 の「リージョンの設定」を参照してください。
- SRST リファレンス (オプション)。P.16-3 の「SRST リファレンスの設定」を参照してください。
- メディアリソースグループリスト (オプション)。P.60-4 の「メディアリソースグループリストの設定」を参照してください。
- MOH オーディオソース (オプション)。『Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド』の「Music On Hold オーディオソースの検索」を参照してください。
- 自動登録用のコーリング検索スペース (オプション)。P.42-3 の「コーリング検索スペースの設定」を参照してください。
- ソフトキー テンプレート (Cisco Unified CallManager に付属している標準ソフトキー テンプレートを使用しない場合) (オプション)。P.77-4 の「非標準ソフトキー テンプレートの追加」を参照してください。

手順

ステップ 1 [システム] > [デバイスプール] の順に選択します。

[デバイスプールの検索と一覧表示 (Find and List Device Pools)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のデバイスプールをコピーするには、対象となるデバイスプールを見つけて (P.9-2 の「デバイスプールの検索」を参照)、コピーするデバイスプールの横にある [コピー] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいデバイスプールを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のデバイスプールを更新するには、対象となるデバイスプールを見つけて (P.9-2 の「デバイスプールの検索」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 適切なフィールドに値を入力します (表 9-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックして、デバイスプール情報をデータベースに保存します。

追加情報

P.9-9 の「関連項目」を参照してください。

デバイスプールの設定値

表 9-1 では、デバイスプールの設定値を一覧表示し、説明します。関連する手順については、P.9-9 の「関連項目」を参照してください。

表 9-1 デバイスプールの設定値

フィールド名	説明
[デバイスプールの設定 (Device Pool Settings)]	
[デバイスプール名]	作成する新規デバイスプールの名前を入力します。
[Cisco Unified CallManager グループ]	このデバイスプール内のデバイスに割り当てる Cisco Unified CallManager グループを選択します。1 つの Cisco Unified CallManager グループでは、最高 3 つの Cisco Unified CallManager の優先順位をリストで指定しています。リスト内の最初の Cisco Unified CallManager が、そのグループのプライマリ Cisco Unified CallManager となり、残りは、冗長性を確保するためのバックアップ Cisco Unified CallManager となります。
[日時グループ (Date/Time Group)]	このデバイスプール内のデバイスに割り当てる日付 / 時間グループを選択します。日付 / 時間グループは、タイムゾーン、および日付と時刻の表示形式を指定します。
[リージョン]	このデバイスプール内のデバイスに割り当てる Cisco Unified CallManager リージョンを選択します。Cisco Unified CallManager リージョンの設定値は、リージョン内および他のリージョン間でコールに使用できる音声コーデックを指定します。
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスプール内のデバイスに関連付けられているソフトキーテンプレートを選択します。
[SRST 参照先 (SRST Reference)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスプール内のデバイスに割り当てる Survivable Remote Site Telephony (SRST) リファレンスを選択します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Disable]: このオプションを選択すると、このデバイスプール内のデバイスは SRST リファレンス ゲートウェイを使用できなくなります。 • [Use Default Gateway]: このオプションを選択すると、このデバイスプール内のデバイスはデフォルトの SRST ゲートウェイを使用します。 • 既存の SRST リファレンス: ドロップダウン リストから SRST リファレンスを選択すると、このデバイスプール内のデバイスはこの SRST リファレンス ゲートウェイを使用します。
[自動登録用コーリングサーチスペース (Calling Search Space for Auto-registration)]	Cisco Unified CallManager に自動登録されるこのデバイスプール内のデバイスに割り当てる、コーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、コールを完了しようとするときにデバイスが検索できるパーティションを指定します。
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	ドロップダウン リスト ボックスから、メディアリソースグループ リストを選択します。メディアリソースグループ リストは、優先順位順に並べられたメディアリソースグループのリストを指定します。アプリケーションは、メディアリソースグループ リストに定義されている優先順位にしたがって、使用可能なメディアリソースグループから、必要なメディアリソース (たとえば、music on hold サーバ、トランスコーダ、会議ブリッジ) を選択します。

表 9-1 デバイスプールの設定値 (続き)




フィールド名	説明
[ネットワーク保留 -MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	ネットワークが保留操作を開始するときに、music on hold (MOH) に使用するオーディオソースを選択します。
[ユーザ保留 -MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	ユーザが保留操作を開始するときに、music on hold (MOH) に使用するオーディオソースを選択します。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機とゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定地域にあるデバイス プールの電話機とゲートウェイが使用するトーンおよび断続周期の定義を含んでいます。このデバイス プールを使用する電話機とゲートウェイのすべてがサポートしているネットワーク ロケールを選択してください。</p> <p> (注) ユーザがネットワーク ロケールを選択しない場合は、Cisco Unified CallManager clusterwide パラメータでデフォルトネットワーク ロケールとして指定されたロケールが適用されます。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。デバイスは、ファームウェアにおいてサポートしていないネットワーク ロケールと関連付けられると、起動に失敗します。</p>
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、デバイス プールの中の電話機とゲートウェイに関連するロケールを選択します。そのユーザロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p> (注) ユーザがユーザ ロケールを選択しない場合は、Cisco Unified CallManager clusterwide パラメータでデフォルトユーザ ロケールとして指定されたロケールが適用されます。</p>

表 9-1 デバイスプールの設定値 (続き)





フィールド名	説明
[接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)]	<p>この設定値は、IP Phone が SRST から登録解除され Cisco Unified CallManager に再登録される前に、Cisco Unified CallManager への接続を監視する時間を定義します。</p> <p>デフォルト値は 120 秒で、Connection Monitor Duration エンタープライズパラメータに属します。</p> <p>コネクション モニタを使用不可にする (値を 0 に変更する) 必要がある場合、またはコネクション モニタの時間を延長する場合は、この設定値を変更します。</p> <p> (注) [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)]の値を変更した場合、その値は更新されたデバイス プールだけに適用されます。それ以外のすべてのデバイスは、固有の [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] フィールドの値またはエンタープライズパラメータで設定された値を使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「SRST リファレンス」を参照してください。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定値は、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、優先トーンを再生できるデバイス プール内のデバイスで MLPP の機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスの次のオプションから、このデバイス プール内のデバイスへ割り当てる設定値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイス プールは、MLPP Indication Status エンタープライズパラメータから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定値を取得します。 • [Off]: このデバイス プール内のデバイスは、MLPP 優先コールの通知を処理しません。 • [On]: このデバイス プール内のデバイスは、MLPP 優先コールの通知を処理します。 <p> (注) 次の設定値の組み合わせでデバイス プールを設定しないでください。[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [Forceful] に設定されている状態で、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] に設定 (デフォルトが [Off] の場合)。</p> <p> (注) エンタープライズパラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の呼び出し音設定が動作しません。</p>

表 9-1 デバイスプールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定値は、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、進行中のコールに割り込みできるデバイス プール内のデバイスで MLPP の機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスの次のオプションから、このデバイス プール内のデバイスへ割り当てる設定値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイス プールは、MLPP Preemption Setting エンタープライズ パラメータから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定値を取得します。 • [Disabled]: 優先度の高いコールの終了が必要な場合、このデバイス プール内のデバイスは、優先度の低いコールを割り込みできません。 • [Forceful]: このデバイス プール内のデバイスは、優先度の高いコールの終了が必要な場合でも、優先度の低いコールを割り込みできます。 <p> (注) 次の設定値の組み合わせでデバイス プールを設定しないでください。[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] が [Forceful] に設定されている状態で、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] に設定 (デフォルトが [Off] の場合)。</p>
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>このデバイス プールに関連する MLPP ドメインの値を 16 進数 (0 ~ FFFFFFF) で入力します。このフィールドがブランクの場合、このデバイス プールは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータの値セットから、MLPP ドメインを取得します。</p>

デバイスプールの削除

Cisco Unified CallManager データベースからデバイスプールを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが割り当てられているデバイスプール、[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] に使用されるデバイスプール、またはデータベース内の唯一のデバイスプールなどは、削除できません。使用中のデバイスプールを削除しようとする、エラーメッセージが表示されます。現在使用中のデバイスプールを削除する場合は、事前に、次のどちらかまたは両方の作業を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して別のデバイスプールに割り当てる。P.70-6 の「電話機の削除」を参照してください。
- 削除するデバイスプールに割り当てられているデバイスを削除する。P.70-6 の「電話機の削除」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** P.9-2 の「デバイスプールの検索」の手順を使用して、デバイスプールを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するデバイスプールを選択します。
 - ステップ 3** [選択項目の削除] をクリックします。
 - ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックして削除します。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。
-

追加情報

P.9-9 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- デバイスプールの設定 (P.9-1)
- デバイスプールの検索 (P.9-2)
- デバイスプールの設定 (P.9-4)
- デバイスプールの削除 (P.9-9)



DHCP サーバの設定

Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバを使用すると、お客様のデータ イーサネット ネットワークまたは音声イーサネット ネットワークに接続されている Cisco Unified IP Phone が、自身の IP アドレスと設定情報を動的に取得できるようになります。DHCP では、クラスタの内部および外部にあるホスト名を Domain Name System (DNS; ドメイン ネーム システム) を使用して解決します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [DHCP モニタ サービスのアクティブ化 \(P.10-2\)](#)
- [DHCP モニタ サービスの開始 \(P.10-3\)](#)
- [DHCP サーバの検索 \(P.10-4\)](#)
- [DHCP サーバの設定 \(P.10-5\)](#)
- [DHCP サーバの設定値 \(P.10-6\)](#)
- [DHCP サーバの削除 \(P.10-7\)](#)

DHCP モニタ サービスのアクティブ化

DHCP モニタ プロセスをアクティブまたは非アクティブにするには、[Cisco Unified CallManager Serviceability] ウィンドウを使用します。サービスをアクティブにする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CallManager Serviceability] で、[**Tools**] > [**Service Activation**] の順に選択します。

[Service Activation] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [CM Services] リストから [Cisco DHCP Monitor Service] を選択し、[**Save**] をクリックします。



(注) サービスがすでにアクティブになっている場合は、[Activation Status] が「Activated」と表示されます。

ステップ 3 サービスがアクティブになり、[Activation Status] 列にステータスが「Activated」と表示されます。



(注) DHCP モニタ サービスは、アクティブになると自動的に開始されます。サービスを停止、開始、または再起動するには、[P.10-3 の「DHCP モニタ サービスの開始」](#)を参照してください。

追加情報

[P.10-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

DHCP モニタ サービスの開始

DHCP モニタ サービスは、Cisco Unified CallManager のサービスアピリティ ページを使用してアクティブにすると自動的に開始されます。この項では、DHCP サービスを停止または再起動する手順について説明します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CallManager Serviceability] で、[Tools] > [Control Center - Feature Services] の順に選択します。

[Control Center - Feature Services] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified CallManager サーバを選択します。

[Cisco DHCP Monitor Service] が、[CM Services] のリストの [Service Name] 列の下に表示されます。



(注) Cisco DHCP モニタ サービスを P.10-2 の「DHCP モニタ サービスのアクティブ化」に従ってアクティブにした場合は、[Status] が「Activated」と表示されています。

ステップ 3 Cisco DHCP モニタ サービスのチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 Cisco DHCP モニタ サービスを再起動する場合は、[Restart] をクリックします。

サービスが再起動し、「Service Restarted Successfully」というメッセージが表示されます。

ステップ 5 Cisco DHCP モニタ サービスを停止する場合は、[Stop] をクリックします。

サービスが停止し、「Service Stopped Successfully」というメッセージが表示されます。

ステップ 6 停止した Cisco DHCP モニタ サービスを開始する場合は、[Start] をクリックします。

サービスが開始され、「Service Started Successfully」というメッセージが表示されます。

追加情報

P.10-8 の「関連項目」を参照してください。

DHCP サーバの検索

ネットワーク内にはいくつかのサーバが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定の DHCP サーバを見つけることができます。サーバを見つける手順は、次のとおりです。



(注) ブラウザ セッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [DHCP] > [DHCP サーバ] の順に選択します。

[DHCP サーバの検索と一覧表示 (Find and List DHCP Servers)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、サーバを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象 : DHCP サーバ、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [ホストサーバ]
- [プライマリ DNS]
- [セカンダリ DNS]
- [ドメイン名]

2 番目の [検索対象 : DHCP サーバ、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されている DHCP サーバをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたサーバのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ホストサーバ]
- [プライマリ DNS]
- [セカンダリ DNS]

- [ドメイン名]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する DHCP サーバ名をクリックします。

選択したサーバがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.10-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

DHCP サーバの設定

Cisco Unified CallManager データベースに DHCP サーバ アドレスを追加、コピー、および更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [DHCP] > [DHCP サーバ] の順に選択します。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- DHCP サーバを追加するには、[新規追加] をクリックします。
- サーバを更新するには、P.10-4 の「[DHCP サーバの検索](#)」の手順を使用してサーバを検索します。
- サーバをコピーするには、P.10-4 の「[DHCP サーバの検索](#)」の手順を使用してサーバを検索し、DHCP サーバ名の横にあるチェックボックスをオンにしてサーバを選択し、[コピー] アイコンをクリックします。

[DHCP サーバの設定 (DHCP Server Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 10-1 を参照)。

ステップ 4 ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存] ボタンをクリックして)、データを保存し、サーバをデータベースに追加します。

追加情報

P.10-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

DHCP サーバの設定値

表 10-1 では、サーバの設定値について説明します。関連する手順については、P.10-8 の「関連項目」を参照してください。

表 10-1 DHCP サーバの設定値


[DHCP サーバ情報 (DHCP Server Information)] のフィールド	説明
[ホストサーバ (Host Server)]	DNS サービスを使用している Cisco Unified CallManager サーバのホスト名を選択します。  (注) 適切な Cisco Unified CallManager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、この設定をする必要があります。
[プライマリ DNS IP アドレス (Primary DNS IP Address)]	このフィールドには、プライマリ DNS の IP アドレスを指定します。
[セカンダリ DNS IP アドレス (Secondary DNS IP Address)]	このフィールドには、セカンダリ DNS の IP アドレスを指定します。
[プライマリ TFTP サーバ IP アドレス (Primary TFTP Server IP Address、オプション 150)]	DHCP のカスタム オプション 150 を使用すると、IP Phone が TFTP サーバにアクセスできるようになります。シスコでは、この方法をお勧めします。 このフィールドには、プライマリ Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバの IP アドレスを指定します。
[セカンダリ TFTP サーバ IP アドレス (Secondary TFTP Server IP Address、オプション 150)]	このフィールドには、セカンダリ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
[ブートストラップサーバ IP アドレス (Bootstrap Server IP Address)]	このフィールドには、ブートストラッププロセスの次のステップで使用されるサーバのアドレスを指定します。このフィールドは、TFTP サーバの IP アドレスとして使用することができます。また、次のブートストラップ サービスを DHCP サーバが提供する場合は、DHCP サーバアドレスのデフォルト値として使用することもできます。
[ドメイン名 (Domain Name)]	[ドメイン名 (Domain Name)] には、ドメイン ネーム システムを通じてホスト名を解決するときに使用するドメイン名を指定します。
[TFTP サーバ名 (TFTP Server Name、オプション 66)]	DHCP オプション 66 を使用すると、IP Phone が TFTP サーバにアクセスできるようになります。 このフィールドは、TFTP サーバを指定するために使用します。このパラメータに設定できるのは、DNS 名またはドット付き 10 進 IP アドレス 1 つのみです。
[ARP キャッシュタイムアウト (ARP Cache Timeout、秒)]	このフィールドには、ARP キャッシュ エントリのタイムアウトを秒単位で指定します。期間を 32 ビットの符号なし整数で指定します。
[IP アドレスリースタイム (IP Address Lease Time、秒)]	DHCP サーバは、このフィールドにある情報を使用してオフターのリース期間を指定します。期間を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。

表 10-1 DHCP サーバの設定値 (続き)

[DHCP サーバ情報 (DHCP Server Information)] のフィールド	説明
[リニューアル (T1) タイム (Renewal(T1) Time、秒)]	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが RENEWING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。
[再バインディング (T2) タイム (Rebinding(T2) Time、秒)]	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが REBUILDING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。値を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。

DHCP サーバの削除

DHCP サーバを Cisco Unified CallManager データベースから削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.10-4 の「[DHCP サーバの検索](#)」の手順を使用して、DHCP サーバを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する DHCP サーバを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [**選択項目の削除**] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [**選択項目の削除**] ボタンをクリックして)、サーバを削除します。

Cisco Unified CallManager は、サーバが使用中でない場合、そのサーバを削除します。サーバが使用中である場合は、エラー メッセージを表示します。



- (注) 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、[DHCP サーバの検索と一覧表示 (Find and List DHCP Servers)] ウィンドウから複数のホストサーバを削除できます。[**すべてを選択**] をクリックして [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのサーバを削除できます。

追加情報

P.10-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [DHCP モニタ サービスのアクティブ化 \(P.10-2\)](#)
- [DHCP モニタ サービスの開始 \(P.10-3\)](#)
- [DHCP サーバの検索 \(P.10-4\)](#)
- [DHCP サーバの設定 \(P.10-5\)](#)
- [DHCP サーバの削除 \(P.10-7\)](#)
- [DHCP サーバの設定値 \(P.10-6\)](#)
- [DHCP サブネットの設定](#)

追加情報

- 『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「[ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル \(DHCP\)](#)」



DHCP サブネットの設定

この章では、サブネットを DHCP サーバに追加する手順について説明します。

サブネットを検索して DHCP サーバに追加する手順は、次のとおりです。

- [DHCP サブネットの検索 \(P.11-1\)](#)
- [DHCP サブネットの設定 \(P.11-3\)](#)
- [DHCP サブネットの削除 \(P.11-5\)](#)
- [DHCP サブネットの設定値 \(P.11-4\)](#)

DHCP サブネットの検索

DHCP サブネットを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [DHCP] > [DHCP サブネット] の順に選択します。

[DHCP サブネットの検索と一覧表示 (Find and List DHCP Subnets)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、サーバを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: DHCP サブネット、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [DHCP サーバ]
- [サブネット IP アドレス]
- [プライマリ開始 IP アドレス]
- [プライマリ終了 IP アドレス]

- [セカンダリ開始 IP アドレス]
- [セカンダリ終了 IP アドレス]

2 番目の [検索対象 : DHCP サブネット、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されている DHCP サブネットをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたサブネットのリストが、次の項目別に表示されます。

- [DHCP サーバ]
- [サブネット IP アドレス]
- [プライマリ開始 IP アドレス]
- [プライマリ終了 IP アドレス]
- [セカンダリ開始 IP アドレス]
- [セカンダリ終了 IP アドレス]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する DHCP サブネット名をクリックします。

選択したサブネットがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.11-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

DHCP サブネットの設定

Cisco Unified CallManager データベースに DHCP サブネット アドレスを追加、更新、およびコピーする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [DHCP] > [DHCP サブネット] の順に選択します。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- DHCP サブネットを追加するには、[新規追加] をクリックします。
- サブネットを更新するには、P.11-1 の「DHCP サブネットの検索」の手順を使用してサブネットを検索します。
- サブネットをコピーするには、P.11-1 の「DHCP サブネットの検索」の手順を使用してサブネットを検索し、DHCP サーバ名の横にあるチェックボックスをオンにしてサーバを選択し、[コピー] をクリックします。

[DHCP サブネットの設定 (DHCP Subnet Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 11-1 を参照)。

ステップ 4 ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存] ボタンをクリックして)、データを保存し、サブネットをデータベースに追加します。

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco Unified CallManager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

追加情報

P.11-6 の「関連項目」を参照してください。

DHCP サブネットの設定値

表 11-1 では、サブネットの設定値について説明します。関連する手順については、P.11-6 の「関連項目」を参照してください。

表 11-1 DHCP サブネットの設定値

[DHCP サブネット情報 (DHCP Subnet Information)] のフィールド	説明
[DHCP サーバ (DHCP Server)]	DHCP サーバ名をドロップダウン リスト ボックスから選択します。
[サブネット IP アドレス (Subnet IP Address)]	サブネットの IP アドレスを入力します。
[プライマリ開始 IP アドレス (Primary Start IP Address)]	割り当てる最初の IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを入力します。
[プライマリ終了 IP アドレス (Primary End IP Address)]	割り当てる最初の IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを入力します。
[セカンダリ開始 IP アドレス (Secondary Start IP Address)]	割り当てる 2 番目の IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを入力します。
[セカンダリ終了 IP アドレス (Secondary End IP Address)]	割り当てる 2 番目の IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを入力します。
[プライマリルータ IP アドレス (Primary Router IP Address)]	サブネットのプライマリ ルータの IP アドレスを入力します。
[セカンダリルータ IP アドレス (Secondary Router IP Address)]	サブネットのセカンダリ ルータの IP アドレスを入力します。
[サブネットマスク (Subnet Mask)]	サブネット マスクを入力します。
[ドメイン名 (Domain Name)]	このフィールドには、ドメイン ネーム システムを通じてホスト名を解決するとき使用する名前を指定します。
[プライマリ DNS IP アドレス (Primary DNS IP Address)]	このフィールドには、プライマリ DNS IP サーバ名を指定します。
[セカンダリ DNS IP アドレス (Secondary DNS IP Address)]	このフィールドには、セカンダリ DNS IP サーバ名を指定します。
[TFTP サーバ名 (TFTP Server Name、オプション 66)]	このフィールドは、TFTP サーバを指定するために使用します。このパラメータに設定できるのは、DNS 名またはドット付き 10 進 IP アドレス 1 つのみです。
[プライマリ TFTP サーバ IP アドレス (Primary TFTP Server IP Address、オプション 150)]	このフィールドには、プライマリ Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバの IP アドレスを指定します。
[セカンダリ TFTP サーバ IP アドレス (Secondary TFTP Server IP Address、オプション 150)]	このフィールドには、セカンダリ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
[ブートストラップサーバ IP アドレス (Bootstrap Server IP Address)]	このフィールドには、ブートストラップ プロセスの次のステップで使用されるサーバのアドレスを指定します。このフィールドは、TFTP サーバの IP アドレスとして使用することができます。また、次のブートストラップ サービスを DHCP サーバが提供する場合は、DHCP サーバアドレスのデフォルト値として使用することもできます。

表 11-1 DHCP サブネットの設定値 (続き)

[DHCP サブネット情報 (DHCP Subnet Information)] のフィールド	説明
[ARP キャッシュタイムアウト (ARP Cache Timeout、秒)]	このフィールドには、ARP キャッシュ エントリのタイムアウトを秒単位で指定します。期間を 32 ビットの符号なし整数で指定します。
[IP アドレスリースタイム (IP Address Lease Time、秒)]	DHCP サーバは、このフィールドにある情報を使用してオファアのリース期間を指定します。期間を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。
[リニューアル (T1) タイム (Renewal(T1) Time、秒)]	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが RENEWING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。
[再バインディング (T2) タイム (Rebinding(T2) Time、秒)]	このフィールドには、アドレス割り当ての時点から、クライアントが REBUILDING 状態に遷移するまでの時間間隔を指定します。値を秒単位の 32 ビット符号なし整数で指定します。

DHCP サブネットの削除

DHCP サブネットを Cisco Unified CallManager データベースから削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.11-1 の「[DHCP サブネットの検索](#)」の手順を使用して、DHCP サブネットを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する DHCP サブネットを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [**選択項目の削除**] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [**選択項目の削除**] ボタンをクリックして)、サブネットを削除します。

Cisco Unified CallManager は、サブネットが使用中でない場合、そのサブネットを削除します。サブネットが使用中である場合は、メッセージが表示されます。



- (注)** 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、[DHCP サブネットの検索と一覧表示 (Find and List DHCP Subnets)] ウィンドウから複数の DHCP サーバを削除できます。[**すべてを選択**] をクリックして [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのサーバを削除できます。

追加情報

P.11-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [DHCP サブネットの検索 \(P.11-1\)](#)
- [DHCP サブネットの設定 \(P.11-3\)](#)
- [DHCP サブネットの削除 \(P.11-5\)](#)
- [DHCP サブネットの設定値 \(P.11-4\)](#)
- [DHCP サーバの設定 \(P.10-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル (DHCP)」



LDAP システムの設定

Cisco Unified CallManager Release 5.0 以降では、ディレクトリを設定を次の 3 つの関連ウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が [Cisco Unified CallManager の管理] の [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

管理者は、このウィンドウを使用して LDAP 同期化を使用可能にし、LDAP サーバのタイプ、およびユーザ ID の LDAP 属性名をセットアップします。



(注)

DirSync サービスの LDAP ディレクトリ設定が作成されるか、LDAP ユーザの認証が有効になると、[LDAP システム情報 (LDAP System Information)] ウィンドウにある設定値は読み取り専用になります。

LDAP システムの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP システムの情報の更新 \(P.12-2\)](#)
- [LDAP システムの設定値 \(P.12-3\)](#)

追加情報

[P.12-4 の「関連項目」](#)を参照してください。

LDAP システムの情報の更新

LDAP システムの情報を更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

このウィンドウにある [LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスの設定によって、管理者がエンド ユーザに変更を加えられるかどうかが決まります。LDAP の同期化はエンド ユーザにのみ適用され、アプリケーション ユーザには影響しません。LDAP の同期化の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の P.20-1 の「ディレクトリの概要」を参照してください。

エンド ユーザ データに関して、企業ディレクトリから同期される属性を管理者が [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで更新することはできません。これらの属性は、企業ディレクトリ自体の内部でのみ更新できます。更新された後に、再同期化を実行する必要があります。



(注)

企業ディレクトリとの同期化が発生する前に Cisco Unified CallManager データベースにエンド ユーザが存在している場合、それらのエンド ユーザは削除されます。Cisco Unified CallManager がすでに他のタイプのサーバと同期されていた場合、既存のユーザは [削除の処理待ち] ステータスになります。これらのユーザは、夜間に動作するガーベッジ コレクタ プログラムによってデータベースから削除されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [LDAP] > [LDAP システム] の順に選択します。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 12-1 を参照)。

ステップ 3 [保存] をクリックして、変更内容を保存します。

追加情報

P.12-4 の「関連項目」を参照してください。

LDAP システムの設定値

表 12-1 では、LDAP システムの設定値について説明します。関連する手順については、P.12-4 の「関連項目」を参照してください。

表 12-1 LDAP システムの設定値

フィールド	説明
[LDAP システム情報 (LDAP System Information)]	
[LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)]	<p>お客様の LDAP サーバからのデータ同期化を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にすると、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理者は、企業ディレクトリと同期されないフィールド (属性) を除いて、エンド ユーザ データの内容を変更できません。エンド ユーザ データの例としては、ユーザの PIN があります。ただし、アプリケーション ユーザ データの内容はいつでも変更することができます。 • 管理者は、LDAP ディレクトリの情報を変更することができます。 • 管理者は、LDAP 認証の情報を変更することができます。 <p>LDAP サーバとの同期化を使用可能にしない場合 (同期化が無効になっている場合) は、次のような状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理者は、LDAP ディレクトリの情報を変更できません。 • 管理者は、LDAP 認証の情報を変更できません。
[LDAP サーバタイプ (LDAP Server Type)]	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、このドロップダウン リスト ボックスで次のいずれかを選択できます。お客様の LDAP サーバのタイプに該当する値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Microsoft Active Directory] • [Netscape or Sun ONE LDAP Server]
[ユーザ ID 用 LDAP 属性 (LDAP Attribute for User ID)]	<p>LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合は、ユーザ ID の LDAP 属性値を選択できます。ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの値を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Microsoft Active Directory] の場合 : <ul style="list-style-type: none"> - [sAMAccountName] - [mail] - [employeeNumber] • [Netscape or Sun ONE LDAP Server] の場合 : <ul style="list-style-type: none"> - [uid] - [mail] - [employeeNumber]

関連項目

- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [LDAP システムの情報の更新 \(P.12-2\)](#)
- [LDAP システムの設定値 \(P.12-3\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-1\)](#)
- [LDAP 認証の設定 \(P.14-1\)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.86-1\)](#)
- [エンド ユーザの設定 \(P.87-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」



LDAP ディレクトリの設定

ディレクトリの設定は、次の3つの関連ウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が [Cisco Unified CallManager の管理] の [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

LDAP ディレクトリの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP ディレクトリの検索 \(P.13-2\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-3\)](#)
- [関連項目 \(P.13-8\)](#)
- [LDAP ディレクトリの削除 \(P.13-7\)](#)

詳細については、[P.13-8](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP ディレクトリの検索

LDAP ディレクトリの設定を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、LDAP ディレクトリの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、LDAP ディレクトリの検索設定は保持されます。

手順

ステップ1 [システム] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ] の順に選択します。

[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、LDAP ディレクトリを検索します。

ステップ2 最初の [検索対象: LDAP ディレクトリ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [LDAP 設定名]
- [LDAP マネージャ識別名]
- [LDAP ユーザ検索ベース]

2番目の [検索対象: LDAP ディレクトリ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている LDAP ディレクトリをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された LDAP ディレクトリのリストが、次の項目別に表示されます。

- [LDAP 設定名]
- [LDAP マネージャ識別名]
- [LDAP ユーザ検索ベース]

ステップ4 レコードのリストから、検索条件と一致する LDAP ディレクトリ名をクリックします。

選択した LDAP ディレクトリがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.13-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP ディレクトリの設定

Cisco Unified CallManager の管理ページ データベースとのユーザ データ同期化に使用する LDAP ディレクトリの情報を追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ1 [システム]>[LDAP]>[LDAP ディレクトリ]の順に選択します。

[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)]ウィンドウが表示されます。

ステップ2 次のいずれかの作業を行います。

- LDAP ディレクトリに関する新しい情報を追加するには、対象となるディレクトリを見つけて (P.13-2 の「[LDAP ディレクトリの検索](#)」を参照) [新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ3](#)に進みます。
- LDAP ディレクトリに関する既存の情報を更新するには、対象となるディレクトリを見つけて (P.13-2 の「[LDAP ディレクトリの検索](#)」を参照) [ステップ3](#)に進みます。

ステップ3 適切な設定値を入力します (表 13-1 を参照)。

ステップ4 [保存] をクリックします。

新しい LDAP ディレクトリが Cisco Unified CallManager データベースに追加されます。または、既存のディレクトリが更新されます。

追加情報

P.13-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP ディレクトリの設定値

表 13-1 では、LDAP ディレクトリの設定値について説明します。関連する手順については、P.13-8 の「関連項目」を参照してください。

表 13-1 LDAP ディレクトリの設定値




フィールド	説明
[LDAP ディレクトリ情報 (LDAP Directory Information)]	
[LDAP 設定名]	LDAP ディレクトリの固有の名前を入力します (40 文字まで)。
[LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)]	LDAP Manager のユーザ ID を入力します (128 文字まで)。このユーザは、該当する LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。
[LDAP パスワード (LDAP Password)]	LDAP Manager のパスワードを入力します (128 文字まで)。
[パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数のみ)]	[LDAP パスワード (LDAP Password)] フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。
[LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)]	すべての LDAP ユーザが存在するロケーションを入力します (256 文字まで)。このロケーションは、コンテナまたはディレクトリです。この情報は、お客様側の構成によって異なります。
[LDAP ディレクトリ同期スケジュール (LDAP Directory Synchronization Schedule)]	
[同期を一回だけ実行 (Perform Sync Just Once)]	この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco Unified CallManager データベースのデータと 1 回のみ同期する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[再同期の実行間隔 (Perform a Re-sync Every)]	<p>この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco Unified CallManager データベースのデータと定期的に同期する場合は、これらのフィールドを使用します。</p> <p>左側のフィールドには、数値を入力します。ドロップダウン リスト ボックスでは、次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [時] • [日] • [週] • [月] <p> (注) このフィールドがアクティブになるのは、[同期を一回だけ実行 (Perform Sync Just Once)] チェックボックスをオフにした場合のみです。</p>
[次の再同期時刻 (Next Re-sync Time) (YYYY-MM-DD hh:mm)]	Cisco Unified CallManager ディレクトリのデータをこの LDAP ディレクトリと次回に同期する時刻を指定します。時刻は 24 時間制で指定してください。たとえば、午後 1 時は 13:00 です。

表 13-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド	説明
[同期対象のユーザフィールド (User Fields To Be Synchronized)]	
[Unified CallManager ユーザフィールド (Unified CallManager User Fields)]	[LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)]
[ユーザ ID (User ID)]	[sAMAccount Name] これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[ミドルネーム (Middle name)]	(ド롭ダウン リスト ボックス) これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。 [LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)] については、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [middleName] • [initials]
[マネージャ ID (Manager ID)]	[manager] これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[電話番号 (Phone Number)]	(ド롭ダウン リスト ボックス) これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。 [LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)] については、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [telephoneNumber] • [ipPhone]
[名 (First Name)]	[givenName] これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[姓 (Last Name)]	[sn] これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[部署名 (Department)]	[department] これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[メール ID (Mail ID)]	(ド롭ダウン リスト ボックス) これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified CallManager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。 [LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)] については、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [mail] • [sAMAccountName]

表 13-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド	説明
[LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)]	
[サーバのホスト名あるいは IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)]	この LDAP ディレクトリのデータが配置されているサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
[LDAP ポート (LDAP Port)]	<p>企業ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは、389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは、636 です。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
[SSL を使用 (Use SSL)]	<p>セキュリティのために Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
[他の冗長 LDAP サーバを追加]	行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。

LDAP ディレクトリの削除

Cisco Unified CallManager の管理ページで LDAP ディレクトリを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

LDAP ディレクトリを削除すると、Cisco Unified CallManager はそのディレクトリに関する情報をデータベースから削除します。



(注)

該当する LDAP ディレクトリの横にあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウから複数の LDAP ディレクトリを削除できます。[**すべてを選択**] をクリックして [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての LDAP ディレクトリを削除できます。

手順

ステップ 1 P.13-2 の「LDAP ディレクトリの検索」の手順を使用して、削除する LDAP ディレクトリを検索します。

ステップ 2 削除する LDAP ディレクトリの名前をクリックします。

選択した LDAP ディレクトリが表示されます。

ステップ 3 [**削除**] をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 4 [**OK**] をクリックします。

ウィンドウの表示が更新され、LDAP ディレクトリがデータベースから削除されます。

追加情報

P.13-8 の「**関連項目**」を参照してください。

関連項目

- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-1\)](#)
- [LDAP ディレクトリの検索 \(P.13-2\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-3\)](#)
- [LDAP ディレクトリの削除 \(P.13-7\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [LDAP 認証の設定 \(P.14-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.86-1\)](#)
- [エンド ユーザの設定 \(P.87-1\)](#)



LDAP 認証の設定

Cisco Unified CallManager Release 5.0 以降では、ディレクトリの設定を次の 3 つの関連ウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリとの同期化が [Cisco Unified CallManager の管理] の [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

LDAP 認証の情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [LDAP 認証の情報の更新 \(P.14-2\)](#)
- [LDAP 認証の設定値 \(P.14-3\)](#)

LDAP 認証の情報の更新

LDAP 認証の情報を更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウにある [LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスの設定によって、管理者が認証の設定値を変更できるかどうかが決まります。LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合、管理者は、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を変更することができません。LDAP の同期化の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の P.20-1 の「ディレクトリの概要」を参照してください。

逆に、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を管理者が変更できるようにするには、LDAP サーバとの同期化を使用不可にする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [システム] > [LDAP] > [LDAP 認証] の順に選択します。
 - ステップ 2** 適切な設定値を入力します ([表 14-1](#) を参照)。
 - ステップ 3** [保存] をクリックして、変更内容を保存します。
-

追加情報

[P.14-4](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

LDAP 認証の設定値

表 14-1 では、LDAP 認証の設定値について説明します。関連する手順については、P.14-4 の「関連項目」を参照してください。

表 14-1 LDAP 認証の設定値










フィールド	説明
[エンドユーザのための LDAP 認証 (LDAP Authentication for End Users)]	
[エンドユーザに LDAP 認証を使用 (Use LDAP Authentication for End Users)]	LDAP ディレクトリとの認証をエンド ユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、認証はデータベースに対して実行されます。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、[LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで LDAP 同期化を使用可能にした場合のみです。
[LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)]	LDAP Manager のユーザ ID を入力します。このユーザは、該当する LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
[LDAP パスワード (LDAP Password)]	LDAP Manager のパスワードを入力します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
[パスワードの確認 (Confirm Password)]	[LDAP パスワード (LDAP Password)] フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
[LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)]	ユーザ検索ベースを入力します。Cisco Unified CallManager は、ユーザをこのベースで検索します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
[LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)]	
[サーバのホスト名あるいは IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)]	企業ディレクトリをインストールした場所のホスト名または IP アドレスを入力します。  (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。

表 14-1 LDAP 認証の設定値 (続き)

フィールド	説明
[LDAP ポート (LDAP Port)]	<p>企業ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは、389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは、636 です。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
[SSL を使用 (Use SSL)]	<p>セキュリティのために SSL 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>
[他の冗長 LDAP サーバを追加]	<p>行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。</p> <p> (注) このボタンにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。</p>

関連項目

- [LDAP 認証の設定 \(P.14-1\)](#)
- [LDAP 認証の情報の更新 \(P.14-2\)](#)
- [LDAP 認証の設定値 \(P.14-3\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [LDAP ディレクトリの設定 \(P.13-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.86-1\)](#)
- [エンド ユーザの設定 \(P.87-1\)](#)



ロケーションの設定

ロケーションは、コール アドミッション制御を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。コール アドミッション制御では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「コール アドミッション制御」を参照してください。



(注)

コール アドミッション制御を使用して IP WAN リンク上のオーディオ帯域幅またはビデオ帯域幅を制限しない場合、コール数の制限がなくなり、そのリンク上でコールが同時にアクティブになる可能性があります。この状態が発生すると、そのリンクがオーバーサブスクライブになるため、各オーディオ コールのオーディオ品質と、各ビデオ コールのビデオ品質が低下する場合があります。

中央集中型コール処理システムでは、1 つの Cisco Unified CallManager クラスタが、IP テレフォニーネットワーク上のすべてのロケーションにコール処理を提供します。その Cisco Unified CallManager クラスタは、通常、電話機やゲートウェイなどの他のデバイスと共に、メイン（つまり中央）ロケーションに置かれています。リモート ロケーションには、追加のデバイスが置かれていますが、Cisco Unified CallManager はありません。IP WAN リンクが、リモート ロケーションとメイン ロケーションとを接続します。

次のトピックでは、ロケーションについて詳しく説明しています。

- [ロケーションの検索 \(P.15-2\)](#)
- [ロケーションの設定 \(P.15-4\)](#)
- [ロケーションの設定値 \(P.15-5\)](#)
- [ロケーションの削除 \(P.15-7\)](#)
- [ロケーションの帯域幅の再同期化 \(P.15-8\)](#)
- [関連項目 \(P.15-8\)](#)

ロケーションの検索

ネットワーク内にはいくつかのロケーションが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定のロケーションを見つけることができます。ロケーションを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ロケーションの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ロケーションの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [ロケーション] の順に選択します。

[ロケーションの検索と一覧表示 (Find and List Locations)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウンリスト ボックスを使用して、ロケーションを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: ロケーションの検索と一覧表示、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [ロケーション]
- [オーディオ帯域幅]



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるロケーション リストのソート方法が決まります。たとえば、[オーディオ帯域幅] を選択すると、[オーディオ帯域幅 (Audio Bandwidth)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象: ロケーションの検索と一覧表示、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているロケーションをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたロケーションのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ロケーション (Location)]

- 帯域幅



(注) 該当するロケーションの横にあるチェックボックスをオンにして、[**選択項目の削除**] をクリックすると、[**ロケーションの検索と一覧表示 (Find and List Locations)**] ウィンドウから複数のロケーションを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのロケーションを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するロケーション名をクリックします。

選択したロケーションに関する情報がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.15-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ロケーションの設定

ロケーションを Cisco Unified CallManager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

ロケーションを設定する場合は、事前にクラスタを構成する Cisco Unified CallManager を設定しておく必要があります。詳細については、P.3-3 の「Cisco Unified CallManager の更新」を参照してください。

手順

ステップ 1 [システム] > [ロケーション] の順に選択します。

[ロケーションの検索と一覧表示 (Find and List Locations)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のロケーションをコピーするには、対象となるロケーションを見つけて (P.15-2 の「ロケーションの検索」を参照)、コピーするロケーションの横にある [コピー] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいロケーションを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のロケーションを更新するには、対象となるロケーションを見つけて (P.15-2 の「ロケーションの検索」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 15-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックして、ロケーション情報をデータベースに保存します。

次の手順

データベースに新規ロケーションを追加した後、そのロケーションにデバイスを割り当てることができます。たとえば、次の項を参照してください。

- [ゲートウェイの設定 \(P.69-1\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-1\)](#)
- [CTI ルートポイントの設定 \(P.67-1\)](#)

追加情報

P.15-8 の「関連項目」を参照してください。

ロケーションの設定値

表 15-1 では、ロケーションの設定値について説明します。関連する手順については、P.15-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 15-1 ロケーションの設定値


フィールド	説明
[ロケーション情報 (Location Information)]	
[名前 (Name)]	作成する新規ロケーションの名前を入力します。
[オーディオコール情報 (Audio Calls Information)]	
[オーディオ帯域幅 (Audio Bandwidth)]	<p>このロケーションと他のロケーション間のリンク上ですべてのオーディオ コールに使用可能なオーディオ帯域幅の最大値 (kbps 単位) を入力します。オーディオ コールの場合、オーディオ帯域幅はオーバーヘッドを含みます。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 無制限の帯域幅 : [無制限 (Unlimited)] オプション ボタンをクリックします。 指定の帯域幅 : [kbps] ボックスの横にあるオプション ボタンをクリックし、既定の帯域幅を入力して、帯域幅を指定します。有効値は 1 ~ 2147483647 です。 <p>ロケーションの帯域幅の計算だけのために、各コール ストリームは次の帯域幅を使用するものと想定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> G.711 コールは 80 kbps を使用 G.722 コールは 80 kbps を使用 G.723 コールは 24 kbps を使用 G.728 コールは 16 kbps を使用 G.729 コールは 24 kbps を使用 GSM コールは 29 kbps を使用 Wideband コールは 272 kbps を使用 <p> (注) 各コールは、2 つのコール ストリームから構成されています。オーディオ品質を向上させるには、帯域幅設定値を下げ、このロケーションとのリンク上で許可されるアクティブコール数を減らします。</p>
[ビデオコール情報 (Video Calls Information)]	
[ビデオ帯域幅 (Video Bandwidth)]	<p>このロケーションと他のロケーション間のリンク上ですべてのビデオ コールに使用可能なビデオ帯域幅の最大値 (kbps 単位) を入力します。ビデオ コールの場合、ビデオ帯域幅はオーバーヘッドを含みません。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし : ビデオ コールをこのロケーションと他のロケーション間で使用できません。ただし、このロケーション内でビデオ コールを行うことができます。 無制限の帯域幅 : [無制限 (Unlimited)] オプション ボタンをクリックします。 指定の帯域幅 : [kbps] ボックスの横にあるオプション ボタンをクリックし、既定のビデオ帯域幅を入力して、ビデオ帯域幅を指定します。デフォルト値は、384 kbps です。

表 15-1 ロケーションの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロケーション RSVP 設定 (Location RSVP Settings)]	
[ロケーション (Location)]	この読み取り専用フィールドには、ロケーション間の RSVP 設定値がシステムのデフォルト RSVP ポリシーのものから変更されているロケーションが表示されます。
[RSVP 設定 (RSVP Setting)]	この読み取り専用フィールドには、選択したロケーションと、左側の [ロケーション (Location)] 列にリストされているロケーションの間の RSVP ポリシー設定値が表示されます。
[他のロケーションの設定を変更 (Modify Setting(s) to Other Locations)]	
[ロケーション (Location)]	現在のロケーションと、このペインに表示されるロケーションの間の RSVP ポリシー設定値を変更するには、このペインでロケーションを選択します。
[RSVP 設定 (RSVP Setting)]	<p>現在のロケーションと左側の [ロケーション (Location)] 列で選択したロケーションの間の RSVP ポリシー設定値を選択するには、RSVP 設定値をドロップダウン リスト ボックスから選択します。次の設定値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default]: このロケーション ペアの RSVP ポリシーを、クラスタ全体の RSVP ポリシーと同じものにします。詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「クラスタ全体のデフォルト RSVP ポリシー」の項を参照してください。 • [No Reservation]: どの 2 つのロケーション間においても、RSVP 予約は発生しません。 • [Optional (Video Desired)]: オーディオストリームとビデオストリームの予約をどちらも取得できなかった場合に、コールをオーディオのみのベストエフォート型コールとして配送できません。RSVP エージェントは、引き続き RSVP 予約を試行し、予約が成功した場合は Cisco Unified CallManager に通知します。 • [Mandatory]: Cisco Unified CallManager は、オーディオストリームのための RSVP 予約が成功するまでは、着側デバイスの呼び出し音を鳴らしません。コールがビデオ コールである場合は、ビデオストリームについても同様です。 • [Mandatory (Video Desired)]: ビデオストリームのための予約を取得できなかった場合に、ビデオ コールをオーディオのみのコールとして配送できます。

ロケーションの削除

Cisco Unified CallManager データベースからロケーションを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが割り当てられたロケーションは削除できません。ロケーションを使用しているデバイスを検索するには、[ロケーションの設定 (Location Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] にある [依存関係レコード] をクリックし、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用されているロケーションを削除しようとすると、Cisco Unified CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用されているロケーションを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して、別のロケーションに割り当てる。
- 削除するロケーションに割り当てられているデバイスを削除する。



(注)

ロケーションを削除すると、そのロケーションに接続されているリンクに帯域幅が無制限に割り当てられ、それらのリンク上のコール数も制限がなくなります。このためロケーションを削除すると、リンク上のオーディオ品質が低下する原因になります。

手順

- ステップ 1** P.15-2 の「[ロケーションの検索](#)」の手順を使用して、ロケーションを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するロケーションを選択します。
- ステップ 3** [選択項目の削除] をクリックします。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックして削除を確認します。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル] をクリックしてください。

追加情報

P.15-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ロケーションの帯域幅の再同期化

この項では、ロケーションの帯域幅を再同期化する手順について説明します。ロケーションへのリンクを使用したコールがブロックされる場合は、帯域幅が不足している、つまりロケーションに割り当てられた帯域幅が減少している可能性があります。Cisco Unified CallManager サーバをリセットせずに、ロケーションの帯域幅を、このロケーションに割り当てられている最大値に再同期化することができます。詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「コールアドミッション制御」の章にある「帯域幅の計算」を参照してください。

手順

ステップ 1 P.15-2 の「[ロケーションの検索](#)」の手順を使用して、ロケーションを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、再同期化するロケーションを選択します。

[ロケーションの設定 (Location Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [[帯域幅を再同期](#)] をクリックして、選択したロケーションの帯域幅を再同期化します。

次の警告メッセージが表示されます。

「If calls are using the bandwidth for this location when the bandwidth is resynchronized, the bandwidth might be oversubscribed until all calls that are using the bandwidth for this location disconnect.」

ステップ 4 [OK] をクリックして続行するか、[[キャンセル](#)] をクリックします。

追加情報

P.15-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ロケーションの設定 \(P.15-1\)](#)
- [ロケーションの検索 \(P.15-2\)](#)
- [ロケーションの設定 \(P.15-4\)](#)
- [ロケーションの設定値 \(P.15-5\)](#)
- [ロケーションの削除 \(P.15-7\)](#)
- [ロケーションの帯域幅の再同期化 \(P.15-8\)](#)



Survivable Remote Site Telephony の設定

Survivable Remote Site Telephony (SRST) リファレンスは、デバイス用の他のすべての Cisco Unified CallManager サーバが到達不能になった場合に、限定された Cisco Unified CallManager 機能を提供するゲートウェイを構成します。SRST リファレンスは通常、デバイス プールに割り当てられており、Cisco Unified CallManager が到達不能になった場合に、コールを行うデバイスがコールを実行しようとして検索するゲートウェイを決定します。SRST リファレンスの詳細については、『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「SRST リファレンス」を参照してください。

SRST リファレンスを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [SRST リファレンスの検索 \(P.16-2\)](#)
- [SRST リファレンスの設定 \(P.16-3\)](#)
- [SRST リファレンスの削除 \(P.16-4\)](#)
- [SRST リファレンスの設定値 \(P.16-5\)](#)

SRST リファレンスの検索

ネットワーク内にはいくつかの SRST リファレンスが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定の SRST リファレンスを見つけることができます。特定のユーザによって定義された SRST リファレンスを見つけるには、次の手順を実行します。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、SRST リファレンスの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、SRST リファレンスの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [SRST] の順に選択します。

[SRST 参照先の検索と一覧表示 (Find and List SRST References)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているユーザ定義の SRST リファレンスをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックしてください。

検出された SRST リファレンスのリストが、次の項目別に表示されます。

- SRST リファレンス名
- IP アドレス
- ポート



(注)

該当する SRST リファレンスの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[SRST 参照先の検索と一覧表示 (Find and List SRST References)] ウィンドウから複数の SRST リファレンスを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内の SRST リファレンスをすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する SRST リファレンスをクリックします。

ウィンドウに、選択した SRST リファレンスが表示されます。

追加情報

P.16-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

SRST リファレンスの設定

SRST リファレンスを追加、更新、およびコピーする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [SRST] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しい SRST リファレンスを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の SRST リファレンスを更新するには、対象となる SRST リファレンスを見つけて ([P.16-2](#) の「[SRST リファレンスの検索](#)」を参照) [ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の SRST リファレンスをコピーするには、対象となる SRST リファレンスを見つけて ([P.16-2](#) の「[SRST リファレンスの検索](#)」を参照)、コピーする SRST リファレンスの横にある [コピー] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力または更新します ([表 16-1](#) を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。



(注) デバイスがこの SRST リファレンスに関連付けられている場合は、更新を有効にするためにデバイスをリセットする必要があるというメッセージが表示されます。ゲートウェイがリセットされると、Cisco Unified CallManager によって、影響を受けるゲートウェイ上で進行中のコールが終了される可能性があります。

影響を受けるデバイスをリセットするには、更新が完了してから [リセット] ボタンをクリックします。この時点でデバイスをリセットしない場合は、いつでもこの項目に戻って [リセット] ボタンをクリックし、必要なデバイス リセットを実行することができます。

追加情報

P.16-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

SRST リファレンスの削除

SRST リファレンスを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールなどの項目が使用している SRST リファレンスは削除できません。SRST リファレンスを使用しているデバイス プールを検索するには、[SRST 参照先の設定 (SRST Reference Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。使用されている SRST リファレンスを削除しようとすると、Cisco Unified CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている SRST リファレンスを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する SRST リファレンスを使用しているデバイス プールすべてに、別の SRST リファレンスを割り当てる。[P.9-4 の「デバイスプールの設定」](#)を参照してください。
- 削除する SRST リファレンスを使用しているデバイス プールを削除する。[P.9-9 の「デバイスプールの削除」](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで [システム] > [SRST] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する SRST リファレンスを見つけます。[P.16-2 の「SRST リファレンスの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** 削除する SRST リファレンスのチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** SRST リファレンスを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



注意

SRST リファレンスを削除するときは、削除する SRST リファレンスが正しいか慎重に確認してください。削除した SRST リファレンスを元に戻すことはできません。誤って削除した場合は、その SRST リファレンスを作成し直す必要があります。



ヒント

SRST リファレンスの削除は、削除する SRST リファレンスを見つけて表示し、[削除] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

[P.16-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

SRST リファレンスの設定値

表 16-1 では、SRST リファレンスの設定値について説明します。関連する手順については、P.16-6 の「関連項目」を参照してください。

表 16-1 SRST リファレンスの設定値






フィールド	説明
[名前 (Name)]	<p>名前を [名前 (Name)] フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.) ハイフン (-) および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。SRST リファレンス名はそれぞれ固有の名前にしてください。</p> <p> (注) SRST リファレンスには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。</p>
[IP アドレス (IP Address)]	<p>デバイス プール内のデバイス用に、SRST リファレンスとして使用するゲートウェイの IP アドレスを入力します。</p>
[ポート (Port)]	<p>この SRST リファレンスのポート番号を入力します。デフォルト値は 2000 です。</p> <p> (注) この値を変更するのは、この値がゲートウェイのポート設定と一致しない場合のみにしてください。この値とゲートウェイのポート設定は一致している必要があります。</p>
[SIP ネットワーク /IP アドレス (SIP Network/IP Address)]	<p>SRST モードになっている SIP 電話機が使用するサーバの IP アドレスを入力します。</p>
[SIP ポート (SIP Port)]	<p>SRST ゲートウェイの SIP ポートを入力します。デフォルト値は 5060 です。</p>
[セキュア SRST(Is SRST Secure?)]	<p>SRST が使用可能になっているゲートウェイに、自己署名証明書が含まれていることを確認した後、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>SRST を設定し、ゲートウェイと制御されている電話機をリセットした後、Cisco CTL Provider サービスは、SRST が使用可能になっているゲートウェイ上の Certificate Provider サービスから認証されます。Cisco CTL クライアントは、SRST が使用可能になっているゲートウェイから証明書を取得し、Cisco Unified CallManager データベースに保存します。</p> <p> ヒント SRST の証明書をデータベースと電話機から削除するには、このチェックボックスをオフにして[保存]をクリックし、制御されている電話機をリセットします。</p>

表 16-1 SRST リファレンスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SRST 証明書プロバイダ ポート (SRST Certificate Provider Port)]	<p>このポートでは、SRST が使用可能になっているゲートウェイ上の Certificate Provider サービスに対する要求を監視します。Cisco Unified CallManager は、このポートを使用して SRST が使用可能になっているゲートウェイから証明書を取得します。Cisco SRST Certificate Provider のデフォルトのポート番号は 2445 です。</p> <p>SRST が使用可能になっているゲートウェイでこのポートを設定した後、このフィールドにポート番号を入力します。</p> <p></p> <p>ヒント このポートが現在使用されている場合、またはファイアウォールを使用してそのファイアウォール内でこのポートを使用できない場合は、別のポート番号の設定が必要になる場合があります。</p>
[証明書の更新]	<p></p> <p>ヒント このボタンが表示されるのは、[セキュア SRST(Is SRST Secure?)] チェックボックスをオンにして [保存] をクリックした後のみです。</p> <p>このボタンをクリックした後、Cisco CTL クライアントによって Cisco Unified CallManager データベースに保存されている既存の SRST が使用可能になっているゲートウェイの証明書が置き換えられます (証明書がデータベース内にある場合)。制御されている電話機をリセットした後、TFTP サーバによって cnf.xml ファイルが (SRST が使用可能になっているゲートウェイの新しい証明書と共に) 電話機に送信されます。</p>

関連項目

- [SRST リファレンスの検索 \(P.16-2\)](#)
- [SRST リファレンスの設定 \(P.16-3\)](#)
- [SRST リファレンスの削除 \(P.16-4\)](#)
- [SRST リファレンスの設定値 \(P.16-5\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「SRST リファレンス」



MLPP ドメインの設定

MLPP ドメインは、MLPP サブスクライバに関連付けられているデバイスとリソースの集合を指定したものです。あるドメインに属している MLPP サブスクライバが、同じドメインに属している他の MLPP サブスクライバに優先コールを発信した場合、MLPP サービスは、着側 MLPP サブスクライバの既存コールよりも優先順位の高いコールを優先処理することができます。MLPP サービスの機能は、ドメイン間では作用しません。

MLPP ドメインを追加、更新、および削除するには、次のトピックを参照してください。

- [MLPP ドメインの検索 \(P.17-2\)](#)
- [MLPP ドメインの設定 \(P.17-3\)](#)
- [MLPP ドメインの設定値 \(P.17-4\)](#)
- [MLPP ドメインの削除 \(P.17-5\)](#)

MLPP ドメインの検索

ネットワーク内にはいくつかの MLPP ドメインが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定の MLPP ドメインを見つけることができます。MLPP ドメインを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、MLPP ドメインの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、MLPP ドメインの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム] > [MLPP ドメイン] の順に選択します。

[MLPP ドメインの検索と一覧表示 (Find and List MLPP Domains)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [MLPP ドメインの検索と一覧表示 (Find and List MLPP Domains)] ウィンドウのドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている MLPP ドメインをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された MLPP ドメインのリストが、名前別に表示されます。



(注)

該当する MLPP ドメインの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[MLPP ドメインの検索と一覧表示 (Find and List MLPP Domains)] ウィンドウから複数の MLPP ドメインを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、デフォルト MLPP ドメインを除いて、ウィンドウ内のすべての MLPP ドメインを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する MLPP ドメイン名をクリックします。

[MLPP ドメインの設定 (MLPP Domain Configuration)] ウィンドウに、選択した MLPP ドメインが表示されます。

追加情報

P.17-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

MLPP ドメインの設定

Cisco Unified CallManager データベース内の MLPP ドメインを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [MLPP ドメイン] の順に選択します。

[MLPP ドメインの検索と一覧表示 (Find and List MLPP Domains)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の MLPP ドメインをコピーするには、対象となる MLPP ドメインを見つけて (P.17-2 の「[MLPP ドメインの検索](#)」を参照)、コピーする MLPP ドメインの横にある [コピー] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しい MLPP ドメインを追加するには、[[新規追加](#)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の MLPP ドメインを更新するには、対象となる MLPP ドメインを見つけて (P.17-2 の「[MLPP ドメインの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 表示される [MLPP ドメインの設定 (MLPP Domain Configuration)] ウィンドウで、該当する設定を入力または編集します (表 17-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックして、新しい MLPP ドメインまたは更新した MLPP ドメインをデータベースに保存します。



追加情報

P.17-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

MLPP ドメインの設定値

表 17-1 では、MLPP ドメインの設定値について説明します。

表 17-1 MLPP ドメインの設定値

フィールド	説明
[MLPP ドメイン情報 (MLPP Domain Information)]	
[ドメイン名 (Domain Name)]	<p>新しい MLPP ドメインに割り当てる名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。MLPP ドメイン名はそれぞれ固有の名前にしてください。</p> <p> (注) デフォルト MLPP ドメインの名前は、<i>Default</i> です。<i>Default</i> ドメインは変更および削除できません。</p>
[ドメイン ID (Domain ID)] (たとえば「0000FF」)	<p>6 文字の固有 16 進 MLPP ドメイン ID を入力します。有効となる値は、数字 (0 ~ 9) とアルファベット (A ~ F) です。MLPP ドメイン ID は、それぞれ固有の値にしてください。</p> <p>ドメイン ID の範囲は、000001 ~ FFFFFFFF にする必要があります (000000 は、デフォルトの MLPP ドメイン ID 用に予約されています)。</p> <p> (注) 値が 100000 未満の場合は、余白となる上位の桁に 0 を使用してください。</p>

追加情報

P.17-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

MLPP ドメインの削除

Cisco Unified CallManager データベース内の MLPP ドメインを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが使用している MLPP ドメインは削除できません。MLPP ドメインを使用しているデバイスを検索するには、[MLPP ドメインの設定 (MLPP Domain Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用中の MLPP ドメインを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている MLPP ドメインを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する MLPP ドメインを使用しているデバイスすべてに、別の MLPP ドメインを割り当てる。
- 削除する MLPP ドメインを使用しているデバイスを削除する。

手順

-
- ステップ 1** P.17-2 の「[MLPP ドメインの検索](#)」の手順を使用して、MLPP ドメインを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する MLPP ドメインを選択します。
 - ステップ 3** [削除] をクリックします。
 - ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、[OK] をクリックして削除します。削除操作を取り消す場合は、[キャンセル] をクリックしてください。
-

追加情報

P.17-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [MLPP ドメインの検索 \(P.17-2\)](#)
- [MLPP ドメインの設定 \(P.17-3\)](#)
- [MLPP ドメインの設定値 \(P.17-4\)](#)
- [MLPP ドメインの削除 \(P.17-5\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」



エンタープライズパラメータの設定

エンタープライズパラメータでは、同一クラスタ内のすべてのデバイスとサービスに適用されるデフォルトの設定値を指定します（クラスタは、同一データベースを共有する一群の Cisco Unified CallManager から構成されます）。Cisco Unified CallManager を新規にインストールすると、Cisco Unified CallManager は、エンタープライズパラメータを使用して、このデバイスデフォルトを初期値として設定します。デバイスのデフォルト設定の詳細については、[P.72-1 の「デバイスデフォルトの設定」](#)を参照してください。また、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「システムレベルのコンフィギュレーション設定」も参照してください。

エンタープライズパラメータを追加したり、削除したりすることはできませんが、次の手順により既存のエンタープライズパラメータを更新することはできます。



(注)

エンタープライズパラメータに対しては、変更を加える必要がほとんどありません。システム管理者は、変更する機能を熟知している場合、あるいは Cisco TAC から特別の指示がある場合を除いて、エンタープライズパラメータを変更しないでください。

手順

ステップ 1 [システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択します。

ステップ 2 該当するパラメータ設定値を変更します。

特定のエンタープライズパラメータの説明を表示するには、そのパラメータ名をクリックします。すべてのエンタープライズパラメータの説明を表示するには、? ボタンをクリックします。

ステップ 3 [保存] をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。



サービス パラメータの設定

Cisco Unified CallManager のサービス パラメータは、選択したサーバ上で複数の異なるサービスの設定ができます。パラメータのリストと説明を表示するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウにある疑問符のボタンをクリックします。画面の上部にある特定のパラメータをクリックするとそのリストを表示することができます。

Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ ページを使用してサービスを非アクティブにした場合、Cisco Unified CallManager は更新されたサービス パラメータ値をすべて保持します。サービスを再開すると、Cisco Unified CallManager はサービス パラメータを変更後の値に設定します。



(注) アップグレード中のサービス パラメータ値の詳細については、『Cisco Unified CallManager アップグレード手順』を参照してください。

Cisco Unified CallManager サービスの詳細については、『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』および『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。詳細については、P.2-1 の「サーバの設定」を参照してください。
- サービスがサーバ上で使用可能になっていること。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウには、(アクティブおよび非アクティブの) 使用可能なすべてのサービスが表示されます。詳細については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。



注意

サービス パラメータに変更を加えると、システムに障害を起こす原因となることがあります。変更する機能を熟知している場合、または Cisco TAC から特別の指示がある場合を除いて、サービス パラメータを変更しないようにシスコはお勧めします。

サービス パラメータを設定または表示するには、次のトピックを参照してください。

- [サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定 \(P.19-2\)](#)
- [サービス用のパラメータの表示 \(P.19-4\)](#)

サーバ上のサービスに対するサービスパラメータの設定

特定のサーバ上の特定のサービスに対してサービスパラメータを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [サービスパラメータ] の順に選択します。

ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、サーバを選択します。

ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、更新するパラメータが含まれているサービスを選択します。



(注) [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウには、(アクティブおよび非アクティブの) すべてのサービスが表示されます。

[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 適切なパラメータ値を更新します。サービスのこのインスタンスのサービスパラメータをすべてデフォルト値に設定するには、[デフォルトに設定] ボタンをクリックします。

パラメータのリストと説明を表示するには、疑問符のボタンをクリックします (図 19-1 を参照)。画面の上部にある特定のパラメータを表示するには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウ内でそのパラメータをクリックします。

図 19-1 [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウ

The screenshot shows the Cisco Unified CallManager Administration interface. The main content area is titled "サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)". It displays the status as "ステータス: 使用可能". Below this, there are dropdown menus for "サーバ (Server)" set to "sv0095a-140 (Active)" and "サービス (Service)" set to "Cisco IP Manager Assistant (Inactive)". A note indicates that cluster-wide groups show parameters for all servers except those marked as inactive. The main table lists parameters for "Cisco IP Manager Assistant (Inactive) サーバ上のパラメータ (Parameters on server) sv0095a-140 (Active)".

パラメータ名 (Parameter Name)	パラメータ値 (Parameter Value)	推奨値 (Suggested Value)
CTIManager (Primary) IP Address *		
CTIManager (Backup) IP Address		
Route Point Device Name for Proxy Mode	< None >	
CAPF Profile Instance ID for Secure Connection to CTIManager	< None >	
Clusterwide Parameters (Parameters that apply to all servers)		
Cisco IPMA Server (Primary) IP Address *		
Cisco IPMA Server (Backup) IP Address		



(注) 一部のサービスに含まれているサービス パラメータは、通常、変更する必要がありません。[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウにアクセスするときに、これらのパラメータは自動的に表示されません。すべてのパラメータを表示するには、[詳細設定] アイコンをクリックします。すべてのパラメータが表示された後に、基本的なパラメータをもう一度表示するには、[簡易設定] アイコンをクリックします。[詳細設定] アイコンが使用不可になっている場合は、そのサービスのすべてのパラメータがデフォルトで表示されています。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、指定された変更内容でサービス パラメータが更新されます。

追加情報

P.19-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

サービス用のパラメータの表示

場合によっては、クラスタ内の全サーバ上で特定のサービスに属するサービス パラメータをすべて比較する必要があります。また、同期していないパラメータ（サーバによって値が異なるサービス パラメータ）または推奨値から変更したパラメータのみを表示しなければならない場合もあります。

クラスタ内の全サーバ上の特定のサービスのサービス パラメータを表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [サービスパラメータ] の順に選択します。

ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスから、サーバを選択します。

ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、クラスタ内の全サーバ上のサービス パラメータを表示するサービスを選択します。



(注) [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウには、(アクティブおよび非アクティブの) すべてのサービスが表示されます。

ステップ 4 表示される [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスにある [すべてのサーバに対するパラメータ] を選択し、[移動] をクリックします。

[すべてのサーバに対するパラメータ] ウィンドウが表示されます。現在のサービスの全パラメータがアルファベット順に一覧表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。パラメータ名の下には、そのパラメータが組み込まれているサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。

あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービス パラメータ ウィンドウにリンクして、値を変更することができます。[すべてのサーバに対するパラメータ] ウィンドウ間を移動するには、[前へ] および [次へ] をクリックします。

ステップ 5 同期していないサービス パラメータを表示するには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスにある [すべてのサーバに対する同期外れパラメータ] を選択し、[移動] をクリックします。

[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ] ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、サーバによって異なる値を持つサービス パラメータがアルファベット順に表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。パラメータ名の下には、そのパラメータが組み込まれているサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。

あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービス パラメータ ウィンドウにリンクして、値を変更することができます。[すべてのサーバに対する同期外れパラメータ] ウィンドウ間を移動するには、[前へ] および [次へ] をクリックします。

ステップ 6 推奨値から変更したサービス パラメータを表示するには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスにある [すべてのサーバに対する変更済パラメータ] を選択し、[移動] をクリックします。

[すべてのサーバに対する変更済パラメータ] ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、推奨値とは異なる値を持つサービス パラメータがアルファベット順に表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。各パラメータ名の下には、推奨値とは異なる値を持つサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。

あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービス パラメータ ウィンドウにリンクして、値を変更することができます。[すべてのサーバに対する変更済パラメータ] ウィンドウ間を移動するには、[前へ] および [次へ] をクリックします。

追加情報

P.19-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [サービス用のパラメータの表示 \(P.19-4\)](#)
- [サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定 \(P.19-2\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』



電話機のセキュリティ プロファイルの設定

電話機のセキュリティ プロファイルの設定と適用については、『*Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド*』を参照してください。

電話セキュリティプロファイルの設定ウィンドウに含まれているセキュリティ関連の設定値には、デバイスセキュリティ モード、CAPF の設定値、ダイジェスト認証の設定値 (SIP 電話機のみ)、暗号化された設定ファイルの設定値などがあります。セキュリティ プロファイルは、Cisco Unified CallManager の管理ページで設定したすべての電話機に適用する必要があります。



SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定

SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定と適用については、『*Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド*』を参照してください。

[SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] ウィンドウに含まれているセキュリティ関連の設定値には、デバイス セキュリティ モード、ダイジェスト認証の設定値、着信 SIP メッセージの認証の設定値などがあります。セキュリティ プロファイルは、Cisco Unified CallManager の管理ページで設定したすべての SIP トランクに適用する必要があります。



アプリケーション サーバの設定

[Cisco Unified CallManager の管理] の [アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウを使用すると、Cisco Unified CallManager とクラスタ外の外部アプリケーション、たとえば Cisco Unity や Cisco Unity Connection などとの関連付けを管理し、Cisco Unified CallManager システムとその他のアプリケーションを同期することができます。

次のトピックでは、Cisco Unified CallManager の管理ページにおけるアプリケーション サーバに関する作業と設定について説明しています。

- [アプリケーション サーバの設定 \(P.22-2\)](#)
- [アプリケーション サーバの削除 \(P.22-3\)](#)
- [アプリケーション サーバの検索 \(P.22-5\)](#)
- [アプリケーション サーバの設定値 \(P.22-4\)](#)

追加情報

P.22-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション サーバの設定

Cisco Unified CallManager の管理ページでアプリケーション サーバを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified CallManager の管理ページでアプリケーション サーバを設定できるのは、Cisco Unified CallManager サーバおよびその他のアプリケーション サーバを両方ともセットアップして完全に動作可能な状態にし、有効な設定を使用して実行した後です。



(注)

Cisco Unity および Cisco Unity Connection については、Cisco Unity サーバおよび Cisco Unity Connection サーバと通信するように設定された Cisco Unified CallManager サーバ上で、AXL が動作していることを確認してください。

手順

ステップ 1 [システム] > [アプリケーションサーバ] の順に選択します。

[アプリケーションサーバの検索と一覧表示 (Find and List Application Servers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のアプリケーション サーバをコピーするには、コピーするサーバを見つけて (P.22-5 の「アプリケーション サーバの検索」を参照)、サーバ名をクリックします。[アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウが表示されます。[コピー] ボタンをクリックし、ステップ 4 に進みます。
- 新しいアプリケーション サーバを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存のアプリケーション サーバを更新するには、対象となるサーバを見つけて (P.22-5 の「アプリケーション サーバの検索」を参照)、ステップ 4 に進みます。

ステップ 3 [アプリケーションサーバタイプ (Application Server Type)] ドロップダウン リストボックスから、該当するサーバタイプを選択し、[次へ] をクリックします。アプリケーション サーバタイプの選択後にそのタイプを変更することはできません。

ステップ 4 適切な設定値を入力します (表 22-1 を参照)。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

追加情報

P.22-6 の「関連項目」を参照してください。

アプリケーション サーバの削除

Cisco Unified CallManager の管理ページを使用してアプリケーション サーバを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [アプリケーションサーバ] の順に選択します。

[アプリケーションサーバの検索と一覧表示 (Find and List Application Servers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のアプリケーション サーバを見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致するアプリケーション サーバのリストが表示されます。

ステップ 3 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除するアプリケーション サーバの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックする。
- [すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックし、ウィンドウ内のすべてのアプリケーション サーバを削除する。
- 削除するアプリケーション サーバの名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、[削除] をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。



追加情報

P.22-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション サーバの設定値

表 22-1 では、[アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順については、P.22-6 の「関連項目」を参照してください。

表 22-1 アプリケーション サーバの設定値

フィールド	説明
[アプリケーションサーバ情報 (Application Server Information)]	
[名前]	設定するアプリケーション サーバを識別するための名前を入力します。
[IP アドレス]	<p>設定するサーバの IP アドレスを入力します。</p> <p> (注) IP アドレスは、1 ~ 255 の数値パターンを使用した数値 (10.255.172.57 など) にしてください。</p> <p> ヒント Cisco Unity および Cisco Unity Connection については、Cisco Unity および Cisco Unity Connection Administration で定義したものと同一管理者ユーザ名とパスワードを使用する必要があります。このユーザ ID によって、Cisco Unity (または Cisco Unity Connection) と Cisco Unified CallManager の管理ページの間で認証が実行されます。</p>
[アプリケーションユーザ (Application User)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このサーバのアプリケーション ユーザのタイプ (たとえば、CCMAdministrator や CCMSysUser など) を入力します。

追加情報

P.22-6 の「関連項目」を参照してください。

アプリケーション サーバの検索

アプリケーション サーバを検索して表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム]>[アプリケーションサーバ]の順に選択します。

[アプリケーションサーバの検索と一覧表示 (Find and List Application Servers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 アプリケーション サーバの特定に使用するフィールドを選択します。



(注) すべてのアプリケーション サーバを検索するには、[検索]をクリックします。

ステップ 3 テキスト検索に該当する検索パターンを選択します。

ステップ 4 検索フィールドに検索テキスト(ある場合)を入力します。

ステップ 5 [検索]をクリックします。

検索条件と一致するアプリケーション サーバのリストが表示されます。**ステップ 2** で選択したフィールドによって、リスト内のサーバのソート方法が決まります。

このウィンドウには、このウィンドウ内のサーバの合計数も表示されます。

ステップ 6 検出されたアプリケーション サーバの次のセットを表示するには、右矢印をクリックします。



(注) 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックするか、[すべてを選択] をクリックしてサーバを選択し、[選択項目の削除] をクリックすると、[アプリケーションサーバの検索と一覧表示 (Find and List Application Servers)] ウィンドウから複数のアプリケーション サーバを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内の電話機をすべて選択できます。

追加情報

P.22-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity メッセージングの統合」
- [アプリケーション ユーザの設定 \(P.86-1\)](#)



ライセンス ユニット レポート

ライセンス ユニット レポートは、使用可能なライセンスの合計数、および使用中のライセンスの数を表示するために使用します。このツールを実行すると、使用可能なライセンスの合計数を示したレポートが生成されます。



(注) ライセンスの要求の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』を参照してください。

ライセンス ユニット レポートの生成

ユニット ライセンスとは、各電話機タイプに対応した一定数のライセンス ユニットの事です。たとえば、Cisco 7920 電話機の場合は 4 ライセンス ユニット、Cisco 7970 電話機の場合は 5 ユニットが必要です。4 台の Cisco 7920 電話機と 4 台の Cisco 7970 電話機をプロビジョニングする場合は、36 の電話機ライセンス ユニットが必要です。

ライセンス ファイルに含まれているライセンス取得済みユニットの数は、購入したすべての電話機タイプのユニット ライセンスの数に対応しています。



(注) 各デバイスで必要となるライセンス ユニットの数を調べるには、[システム]>[ライセンス]>[ライセンスユニット計算]の順に選択します。このウィンドウには、各デバイスタイプで必要となるライセンス ユニットの数が表示されます。

使用可能なライセンスの数についてレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム]>[ライセンス]>[ライセンスユニットレポート]の順に選択します。

ステップ 2 [ライセンスユニットレポート (License Unit Report)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、使用可能な電話機ライセンスとノード ライセンスの数が、次の項目別に表示されます。

- [認証済ユニット数 (Units Authorized)]
- [使用済ユニット数 (Units Used)]
- [残りユニット数 (Units Remaining)]

追加情報

P.23-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ライセンス ユニット レポート \(P.23-1\)](#)
- [ライセンス ユニット レポートの生成 \(P.23-2\)](#)
- [ライセンス ユニット 計算 \(P.24-1\)](#)
- [ライセンス ファイルのアップロード \(P.25-1\)](#)



ライセンス ユニット計算

このウィンドウは、ある電話機タイプを使用した特定の構成で必要となる、電話機ユニット ライセンスの数と各タイプの電話機の数进行計算するために使用します。ユニット ライセンスとは、各電話機タイプに対応した一定数のライセンス ユニットの事です。Cisco 7920 電話機の場合は 4 ライセンス ユニット、Cisco 7970 電話機の場合は 5 ユニットが必要です。4 台の Cisco 7920 電話機と 4 台の Cisco 7970 電話機をプロビジョニングする場合は、36 の電話機ライセンス ユニットが必要です。

ライセンス ユニットの計算方法

電話機タイプの数、および電話機タイプごとの電話機の合計数を入力して、必要となる電話機ライセンスの数を計算する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [ライセンス] > [ライセンスユニット計算] の順に選択します。

[ライセンスユニット計算 (License Unit Calculator)] ウィンドウが表示されます。デバイス 1 台ごとに消費されるライセンス ユニットの数が、ノードまたはデバイスごとに表示されます。

ステップ 2 [デバイス数 (Number of Devices)] 列で、必要となる各ノードまたは電話機のデバイス数を更新します。

ステップ 3 [計算] をクリックします。

Cisco Unified CallManager ノード ライセンス ユニットと電話機ライセンス ユニットの合計数が表示されます。

追加情報

P.24-2 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ライセンスユニット計算 \(P.24-1\)](#)
- [ライセンスユニットの計算方法 \(P.24-1\)](#)
- [ライセンスユニットレポート \(P.23-1\)](#)
- [ライセンスファイルのアップロード \(P.25-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ライセンスング」
- 『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』



ライセンス ファイルのアップロード

ライセンス ファイルは、Cisco Unified CallManager アプリケーションのライセンスを有効にするために必要な情報を保持しています。ここでは、次の内容について説明します。

- [ライセンス ファイルの取得 \(P.25-2\)](#)
- [ライセンス ファイルの内容 \(P.25-3\)](#)
- [ライセンス ファイルのアップロード \(P.25-5\)](#)
- [関連項目 \(P.25-6\)](#)

ライセンス ファイルの取得

新しくインストールする Cisco Unified CallManager 5.0 電話機ノードのライセンス ファイルを取得する手順、および新しい電話機を追加した場合にライセンスを更新する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** シスコ デバイスをご注文いただいた際に、シスコが製品認可キー (PAK) を発行します。
- ステップ 2** <http://www.cisco.com/go/license> で提供されている License Registration Web ツールを使用して、PAK を Cisco Unified CallManager に登録します。
- ステップ 3** ライセンスを要求する Cisco Unified CallManager サーバの MAC アドレス、および有効な電子メール ID を入力する必要があります。また、ライセンスが必要となるノードと電話機ユニットの数も入力する必要があります。



(注) 各電話機タイプで必要となる電話機ユニット ライセンスの数を調べるには、Cisco Unified CallManager の管理ページの [ライセンス ユニット計算] を使用します。P.24-1 の「[ライセンス ユニットの計算方法](#)」を参照してください。

- ステップ 4** 要求されたユニット ライセンスの数に基づいて、CCO がライセンス ファイルを生成し、[ステップ 2](#) で入力された電子メール ID 宛てに電子メールで送信します。
- ステップ 5** ライセンス ファイルは、[ステップ 3](#) で入力した MAC アドレスを持つサーバにアップロードする必要があります。P.25-5 の「[ライセンス ファイルのアップロード](#)」を参照してください。このサーバは、ライセンス マネージャの役割を果たします。



(注) 新しく電話機を購入し、ライセンスを更新する場合は、<http://www.cisco.com/go/license> で提供されている License Registration Web ツールにアクセスし、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 5](#) を実行します。



(注) ライセンス ファイルがデータベースにアップロードされるのは、ライセンス ファイル内に指定されているバージョンが、クラスタの内部で実行されている Cisco Unified CallManager のバージョンよりも新しいか、一致している場合のみです。このバージョンチェックに合格しなかった場合は、アラームが生成されます。適切なバージョンを使用して、新しいライセンス ファイルを取得する必要があります。このバージョンチェックは、メジャー リリース番号のみに基づいています。



(注) ライセンス ファイル内に指定されているライセンスを使用できるのは、ライセンス ファイルをアップロードしたクラスタの内部のみです。

追加情報

P.25-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ライセンス ファイルの内容

ライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- ライセンス発行済みの Cisco Unified CallManager ノードの数。これは、クラスタ内部にある Cisco Unified CallManager サーバの中で、お客様がライセンスを保有されているサーバ数を示しています。
- サポートされる Cisco Unified CallManager のバージョン。
- ライセンス発行済みの電話機ユニットの数。電話機のタイプごとに個別のライセンスを作成するのではなく、ユニットライセンスという概念が使用されます。各電話機タイプは、一定数のライセンスユニットに対応しています。



(注) 各デバイスで必要となるライセンスユニットの数を調べるには、[システム]>[ライセンス]>[ライセンスユニット計算]の順に選択します。このウィンドウには、各デバイスタイプで必要となるライセンスユニットの数が表示されます。P.24-1 の「[ライセンスユニットの計算方法](#)」を参照してください。

- ライセンス ファイルのインストール先となるサーバの MAC アドレス。

ライセンス ファイルをライセンス サーバにアップロードするには、P.25-5 の「[ライセンス ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

ライセンス ファイルの例

次の例では、パーマネント IP Phone ライセンスおよびパーマネント Cisco Unified CallManager ノードライセンスのライセンス ファイルについて説明します。

例 25-1 パーマネント IP Phone ライセンス

```
INCREMENT PHONE_UNIT cisco 5.0 permanent uncounted \  
  
VENDOR_STRING=<Count>1000</Count><OrigMacId>000BCD4EE59D</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</LicFileVersion> \  
HOSTID=000bcd4ee59d OVERDRAFT=50 \  
NOTICE="<LicFileID>20050826140539162</LicFileID><LicLineID>2</LicLineID> \  
<PAK></PAK>" SIGN="112D 17E4 A755 5EDC F616 0F2B B820 AA9C \  
0313 A36F B317 F359 1E08 5E15 E524 1915 66EA BC9F A82B CBC8 \  
4CAF 2930 017F D594 3E44 EBA3 04CD 01BF 38BA BF1B"
```

上のライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- permanent キーワードは、このライセンスに有効期限がないことを示します。
- このライセンス ファイルは、1,000 の PHONE_UNIT ライセンスを提供します。
- OVERDRAFT=50 は、1,000 のうち 5% のライセンス超過が許可されることを示します。ライセンス超過の値は、シスコが決定します。
- シスコ固有のフィールド LicFileID は、このライセンス ファイルを識別するためのものです。
- 同じ機能（電話機ユニットライセンスまたはノードライセンス）に対して、ライセンス ファイルに複数の INCREMENT 行を追加すると、ライセンス数を増やすことができます。どの INCREMENT 行も重複せず、それぞれが独自の署名を保持している必要があります。

例 25-2 パーマネント CCM_Node ライセンス

```
# Optional usage agreement, legal language, tracking information
# Some other comments
INCREMENT CCM_NODE cisco 5.0 permanent uncounted \
VENDOR_STRING=<Count>3</Count><OrigMacId>000BCD4EE59D</OrigMacId><LicFileVersion>1.0</
LicFileVersion> \
HOSTID=000bcd4ee59d \
NOTICE="<LicFileID>20050826140539162</LicFileID><LicLineID>1</LicLineID> \
<PAK></PAK>" SIGN="19B3 4C6C 25AC 6D22 4D75 DE6A 656B 08C5 \
30E4 16DB 771B 1393 9DC1 DBC4 C5AA 15CC 6E6C B7B8 895A DCBA \
B40F C551 2625 1C97 F20D 9977 6CFF 3603 081E 6FF2"
```

上のライセンス ファイルには、次の情報が含まれています。

- permanent キーワードは、このライセンスに有効期限がないことを示します。
- このライセンス ファイルは、機能 CCM_NODE のバージョン 5.0 のライセンス 3 つを提供します。
- シスコ固有のフィールド LicFileID は、このライセンス ファイルを識別するためのものです。
- 同じ機能に対して、ライセンス ファイルに複数の INCREMENT 行を追加すると、ライセンス 数を増やすことができます。どの INCREMENT 行も重複せず、それぞれが独自の署名を保持している必要があります。

追加情報

P.25-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ライセンス ファイルのアップロード

ライセンス ファイル要求時に入力した MAC アドレスを持つ Cisco Unified CallManager サーバに対して、ライセンス ファイルをアップロードする手順は、次のとおりです。ライセンス ファイルの取得については、P.25-2 の「[ライセンス ファイルの取得](#)」を参照してください。ライセンス ファイルのロード先となる Cisco Unified CallManager サーバは、ライセンス マネージャの役割を果たします。



(注) ライセンス ファイルは、Cisco Unified CallManager クラスタの最初のノードにのみアップロードしてください。

手順

ステップ 1 [システム] > [ライセンス] > [ライセンスファイルのアップロード] の順に選択します。

[ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [既存ライセンスファイル (Existing License Files)] ドロップダウン リスト ボックスに、サーバにすでにアップロードされているライセンス ファイルが表示されます。



(注) 既存ファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示] をクリックします。

ステップ 3 アップロードする新しいライセンス ファイルを選択するには、[ライセンスファイルのアップロード] をクリックします。

[ファイルのアップロード (Upload File)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 サーバにアップロードするライセンス ファイルを参照し、選択します。

ステップ 5 [アップロード] をクリックします。

アップロード プロセスが完了すると、[アップロード結果 (Upload Result)] ファイルが表示されます。

ステップ 6 [閉じる] をクリックします。

ステップ 7 [ライセンスファイルのアップロード (License File Upload)] ウィンドウに、アップロードしたファイルのステータスが表示されます。

追加情報

P.25-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ライセンス ファイルの取得 \(P.25-2\)](#)
- [ライセンス ファイルの内容 \(P.25-3\)](#)
- [ライセンス ファイルのアップロード \(P.25-5\)](#)
- [ライセンス ユニットの計算方法 \(P.24-1\)](#)
- [ライセンス ユニット レポートの生成 \(P.23-2\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ライセンスング」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』



自動登録の設定

Cisco Unified CallManager の自動登録機能を使用すると、新規の電話機を Cisco Unified Communications IP テレフォニー ネットワークに接続したときに、電話番号が自動的に割り当てられます。



(注)

ネットワークに追加する電話機が 100 に満たない場合は、自動登録機能を使用することをお勧めします。100 以上の電話機をネットワークに追加する場合は、Bulk Administration Tool (BAT) を使用してください。

電話機が自動登録された後、システム管理者はその電話機を新しいロケーションに移動し、電話機の電話番号に影響を与えずに別のデバイス プールに割り当てることができます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [自動登録の使用可能化 \(P.26-2\)](#)
- [自動登録の使用不可 \(P.26-4\)](#)
- [自動登録の設定値 \(P.26-5\)](#)
- [自動登録番号の再使用 \(P.26-7\)](#)

自動登録の使用可能化

新規デバイスの自動登録を使用可能にする手順は、次のとおりです。



注意

自動登録は Cisco Unified CallManager のデフォルトでは使用不可になっています。自動登録を使用可能にすると、不正な電話機が Cisco Unified CallManager に自動的に登録されてしまうというセキュリティ上の危険が生じます。自動登録を使用可能にする場合は、電話機を一括して追加する場合に限定してください。

Cisco CTL Client で混合モードをクラスタワイド セキュリティに設定すると、自動登録がすぐに使用不可になります。セキュリティを設定済みで、自動登録を使用する場合、クラスタワイド セキュリティ モードを Cisco CTL Client でノンセキュアに変更する必要があります。

始める前に

自動登録を使用可能にする前に、次の点を確認します。

- TFTP サーバが稼働中であることを確認します。TFTP の DHCP オプションで正しいサーバが指定されていることを確認します。
- [デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ウィンドウで SIP および SCCP プロトコルに対して正しい電話機イメージ名が指定されていることを確認します。これらのファイルが TFTP サーバ上で使用可能であることを確認します。
- 使用可能な電話番号が自動登録範囲内にあることを確認します。
- 新規の電話機を登録するために十分なライセンス ポイントがあることを確認します。

手順

ステップ 1 [システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択します。

[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Auto Registration Phone Protocol] ドロップダウン リストボックスで、SCCP または SIP 電話プロトコルを選択します。

ステップ 3 [システム] > [Cisco Unified CallManager] の順に選択します。

ステップ 4 Cisco Unified CallManager のリストから、クラスタ内で自動登録を使用可能にする Cisco Unified CallManager を選択します。



(注) 自動登録を使用可能または使用不可にするのは、この Cisco Unified CallManager に限定してください。自動登録機能をクラスタ内の別の Cisco Unified CallManager に移行する場合は、該当する Cisco Unified CallManager とデフォルトの Cisco Unified CallManager グループを再設定する必要があります。また、場合によっては、デフォルトのデバイス プールを再設定する必要もあります。

ステップ 5 適切な自動登録情報を入力します (表 26-1 を参照)。

ステップ 6 [保存] をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。

- ステップ 7** [システム] > [Cisco Unified CallManager グループ] の順に選択します。
- ステップ 8** Cisco Unified CallManager グループのリストから、自動登録を使用可能にするグループを選択します (大部分のシステムでは、このグループの名前は *Default* です。ただし、別の Cisco Unified CallManager グループを選択することもできます)。
- このグループは、自動登録されるデバイス用のデフォルトの Cisco Unified CallManager グループとして使用できます。このグループの [選択された Cisco Unified CallManager(Selected Cisco Unified CallManagers)] リストに、**ステップ 4** で自動登録用に設定した Cisco Unified CallManager が含まれていることを確認してください。Cisco Unified CallManager は、Cisco Unified CallManager グループに表示されている順序で選択されます。
- ステップ 9** グループ設定に変更を加えた場合は、[保存] をクリックして、その変更内容をデータベースに保存します。
- ステップ 10** 自動登録専用のコーリング サーチ スペースを設定します。たとえば、自動登録コーリング サーチ スペースを使用すると、自動登録された電話機を内部コールのみに限定することができます。
- ステップ 11** デフォルトのデバイス プールに自動登録用の設定を行います。デフォルトの Cisco CallManager グループと、自動登録コーリング サーチ スペースをデフォルトのデバイス プールに割り当てます。デバイス タイプごとに別々のデフォルト デバイス プールを設定する場合は、[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ウィンドウを使用して、デフォルトのデバイス プールをデバイスに割り当てます。
- ステップ 12** 新規のデバイスをインストールし、自動登録するときのみ、自動登録を短時間使用可能にします (システム全体の利用率が最小のときに実行することを推奨します)。それ以外のときは自動登録をオフにして、無許可のデバイスが Cisco Unified CallManager に登録されないようにします。
- ステップ 13** 自動登録するデバイスをインストールします。
- ステップ 14** 自動登録されたデバイスを再設定し、各デバイスをパーマネント デバイス プールに割り当てます。
- ステップ 15** [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウの [Auto Registration Phone Protocol] に、必要に応じて SIP または SCCP のいずれかを設定します。
- ステップ 16** 別のプロトコルでさらに電話機を自動登録する場合は、**ステップ 1** ~ **ステップ 15** を繰り返します。

追加情報

P.26-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

自動登録の使用不可

自動登録を使用不可にする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [システム] > [Cisco Unified CallManager] の順に選択します。
- ステップ 2** Cisco Unified CallManager のリストから、自動登録を使用不可にする Cisco Unified CallManager を選択します。
- ステップ 3** この Cisco Unified CallManager で自動登録を使用不可にするには、[この Cisco Unified CallManager では自動登録は無効 (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified CallManager)] チェックボックスをオンにします (このチェックボックスがオンの場合、自動登録は使用不可です)。



(注) [開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定しても、自動登録は使用不可になります。

- ステップ 4** [保存] をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。
- ステップ 5** 自動登録を使用不可にする Cisco Unified CallManager ごとに、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。

追加情報

P.26-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

自動登録の設定値

表 26-1 では、自動登録の設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.26-8 の「関連項目」を参照してください。

表 26-1 自動登録の設定値

フィールド名	説明
[開始電話番号 (Starting Directory Number)]	<p>デバイスの自動登録に使用する開始電話番号を入力します。</p> <p>[開始電話番号 (Starting Directory Number)] フィールドと [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドで電話番号の範囲を指定すると、自動登録が自動的に使用可能になります。</p> <p>[開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。</p>
[終了電話番号 (Ending Directory Number)]	<p>デバイスの自動登録に使用する終了電話番号を入力します。</p> <p>[開始電話番号 (Starting Directory Number)] フィールドと [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドで電話番号の範囲を指定すると、自動登録が自動的に使用可能になります。</p> <p>[開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。</p>
[パーティション (Partition)]	<p>自動登録された電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、<None> を選択します。</p> <p>パーティションと外部電話番号マスクを選択する前に、自動登録用の有効な電話番号の範囲を選択しておく必要があります。</p> <p>自動登録を使用不可にすると、[パーティション (Partition)] フィールドはリセットされます。</p>
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>自動登録されたデバイスから発信される外部（発信）コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。自動登録されたデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>たとえば、マスク 972813XXXX を指定し、外部コールに使用されるルートパターンで [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)] オプションを使用可能にする場合、内線番号 1234 からの外部コールでは、発信者 ID 9728131234 と表示されます。代表番号を表すのに、すべて数字列のマスク（たとえば、9728135000 など）を指定する場合、その番号が、任意の自動登録されたデバイスからの外部コールに表示される発信者 ID になります。</p>

表 26-1 自動登録の設定値 (続き)

フィールド名	説明
[この Cisco Unified CallManager では自動登録は無効 (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified CallManager)]	<p>Cisco Unified CallManager は、無許可でネットワークへ接続するのを防止する目的で、デフォルトでは自動登録を使用不可にしています。自動登録が使用不可の場合は、ネットワークに新しいデバイスを追加するたびに、電話番号を手動で設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> この Cisco Unified CallManager に対して自動登録を使用可能にするには、[この Cisco Unified CallManager では自動登録は無効 (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified CallManager)] オプションをオフにします。 この Cisco Unified CallManager に対して自動登録を使用不可にするには、[この Cisco Unified CallManager では自動登録は無効 (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified CallManager)] オプションをオンにします。 <p>[開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定すると、自動登録を使用不可にすることができます。</p> <p>このオプションをオンにして自動登録を使用不可にするときに、[開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] が指定されている場合、Cisco Unified CallManager は、[開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] を同じ値に設定します。</p> <p>自動登録を使用不可にすると、パーティションと外部電話マスク情報フィールドもリセットされます。</p>

自動登録番号の再使用

新しいデバイスがネットワークに接続されると、Cisco Unified CallManager は、次に使用可能な（未使用の）自動登録電話番号をそのデバイスに割り当てます。自動登録されたデバイスの電話番号を手動で変更した場合や、そのデバイスをデータベースから削除した場合は、Cisco Unified CallManager は、そのデバイスの自動登録されていた電話番号を再使用することができます。

デバイスの自動登録が開始されると、Cisco Unified CallManager は、管理者が指定した自動登録番号の範囲を検索し、そのデバイスに割り当てるため、次に使用可能な電話番号を検出しようとします。Cisco CallManager は、最後に割り当てられた電話番号の次の番号から順に、検索を開始します。その範囲内の最後の電話番号に達すると、Cisco Unified CallManager は、その範囲内の先頭の電話番号から、引き続き検索を行います。

自動登録電話番号の範囲をリセットし、Cisco Unified CallManager がその範囲内の先頭の番号から検索するように設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [システム] > [Cisco Unified CallManager] の順に選択します。
 - ステップ 2** 自動登録をリセットする Cisco Unified CallManager を選択します。
 - ステップ 3** [開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] フィールドの現在の設定値をメモします。
 - ステップ 4** [この Cisco Unified CallManager では自動登録は無効 (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified CallManager)] をクリックします。



注意

自動登録が使用不可になっている間は、新しい電話機は自動登録できません。

-
- ステップ 5** [保存] をクリックします。
 - ステップ 6** [開始電話番号 (Starting Directory Number)] と [終了電話番号 (Ending Directory Number)] をステップ 3 でメモした値（または、必要に応じて別の値）に設定します。
 - ステップ 7** [保存] をクリックします。

追加情報

P.26-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [自動登録の使用可能化 \(P.26-2 \)](#)
- [自動登録の使用不可 \(P.26-4 \)](#)
- [自動登録の設定値 \(P.26-5 \)](#)
- [自動登録番号の再使用 \(P.26-7 \)](#)



PART 3

コールルーティングの設定





自動代替ルーティングのグループ設定

Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) は、ロケーションの帯域幅不足で Cisco Unified CallManager がコールをブロックした場合に、代替番号を使用して PSTN またはその他のネットワーク経由でコールを再ルーティングするメカニズムを提供します。自動代替ルーティングを使用すると、発信者はいったん電話を切って着信側に再びダイヤルする必要がなくなります。AAR グループは、回線または電話番号 (DN)、Cisco ボイスメール ポート、およびゲートウェイが置かれているダイヤル区域を表します。

各 AAR グループに対して、AAR グループ内の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号、およびある AAR グループとその他の AAR グループの間の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。ゲートウェイ、電話機 (電話番号で)、およびトランクなどのデバイスが AAR グループに関連付けられます。コールの自動代替ルーティングが行われる場合、状況によってはデバイスを AAR コーリング サーチ スペースにも関連付ける必要があります。

AAR グループを検索、追加、更新、削除するには、次のトピックを参照してください。

- [AAR グループの検索 \(P.27-2\)](#)
- [AAR グループの設定 \(P.27-3\)](#)
- [AAR グループの設定値 \(P.27-4\)](#)
- [AAR グループの削除 \(P.27-5\)](#)
- [AAR グループの設定値 \(P.27-4\)](#)



(注)

AAR を機能させるには、クラスタ全体の Automated Alternate Routing Enable サービス パラメータが *True* に設定されていることを確認する必要があります (このサービス パラメータのデフォルト値は *False* です)。

自動代替ルーティング グループの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」を参照してください。

AAR グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの自動代替ルーティング (AAR) グループが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、AAR グループを見つけることができます。AAR グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、AAR グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、AAR グループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [AAR グループ] の順に選択します。

[自動代替ルーティング (AAR) グループの検索と一覧表示 (Find and List Automated Alternate Routing Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されている AAR グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された AAR グループのリストが、AAR グループ名別に表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する AAR グループをクリックします。

選択した AAR グループがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.27-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

AAR グループの設定

AAR グループを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [AAR グループ] の順に選択します。

[自動代替ルーティング (AAR) グループの検索と一覧表示 (Find and List Automated Alternate Routing Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の AAR グループをコピーするには、対象となる AAR グループを見つけて (P.27-2 の「AAR グループの検索」を参照) コピーする AAR グループの横にある [コピー] ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しい AAR グループを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存の AAR グループを更新するには、対象となる AAR グループを見つけて (P.27-2 の「AAR グループの検索」を参照) ステップ 3 に進みます。

ステップ 3 表示される [自動代替ルーティング (AAR) グループの設定 (Automated Alternate Routing Group Configuration)] ウィンドウで、[名前 (Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。AAR グループ名はそれぞれ固有の名前にしてください。このフィールドの現在のサイズは、20 文字です。



ワンポイント・アドバイス

AAR グループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationGroup の形式が、内容を簡潔に表し、AAR グループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasAA1」は、Dallas にある Cisco オフィス用の Cisco Access Analog AAR グループを示します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ステップ 5 適切な設定値を選択します (表 27-1 を参照)。

ステップ 6 この AAR グループを設定するには、[保存] をクリックします。



追加情報

P.27-6 の「関連項目」を参照してください。

AAR グループの設定値

表 27-1 では、AAR グループの設定値について説明します。

表 27-1 AAR グループの設定値

フィールド	説明
[名前 (Name)]	<p>新しい AAR グループに割り当てる名前を入力します。</p> <p>この名前には、最長 20 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。</p>
[次のグループ内で使用するプレフィックス番号 (Prefix Digits within)]	
[ダイアルプレフィックス (Dial Prefix)]	<p>AAR グループ内の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>有効な入力値は、[^0123456789-]+?!X*#.@ です。</p>
[プレフィックス番号間 (Prefix Digits between) <グループ名> とその他の AAR グループ (and other AARGroups)]	
[ダイアルプレフィックス (Dial Prefix) (発信元 <グループ名 >)]	<p>このグループから別の AAR グループに属するデバイスにコールをルーティングするとき、自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>有効な入力値は、[^0123456789-]+?!X*#.@ です。</p> <p> (注) この発信 AAR グループ用フィールドに入力されたプレフィックス番号は、AAR 転送先グループの [ダイアルプレフィックス (Dial Prefix) (着信先 <グループ名 >)] フィールドにも追加されます。</p>
[ダイアルプレフィックス (Dial Prefix) (着信先 <グループ名 >)]	<p>別の AAR グループに属するデバイスからこのグループにコールをルーティングするとき、自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>有効な入力値は、[^0123456789-]+?!X*#.@ です。</p> <p> (注) この転送先 AAR グループ用フィールドに入力されたプレフィックス番号は、AAR 発信グループの [ダイアルプレフィックス (Dial Prefix) (発信元 <グループ名 >)] フィールドにも追加されます。</p>

追加情報

P.27-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

AAR グループの削除

AAR グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数のデバイスが参照している AAR グループは、削除することができません。AAR グループを使用しているデバイスを検索するには、[自動代替ルーティング (AAR) グループの設定 (Automated Alternate Routing Group Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。AAR グループを削除する前に、その AAR グループが属しているデバイスすべてから、その AAR グループを削除しておく必要があります。

手順

- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング] > [AAR グループ] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する AAR グループを見つけます。P.27-2 の「[AAR グループの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 削除する AAR グループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。

AAR グループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

- ステップ 4** グループを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。[OK] をクリックした場合は、Cisco Unified CallManager は、その AAR グループを AAR グループリストから削除します。



- (注) 該当する AAR グループの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[自動代替ルーティング (AAR) グループの検索と一覧表示 (Find and List Automated Alternate Routing Groups)] ウィンドウから複数の AAR グループを削除できます。[[すべてを選択](#)] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての AAR グループを削除できます。

追加情報

P.27-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [AAR グループの検索 \(P.27-2\)](#)
- [AAR グループの設定 \(P.27-3\)](#)
- [AAR グループの設定値 \(P.27-4\)](#)
- [AAR グループの削除 \(P.27-5\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「自動代替ルーティング」



アプリケーションのダイヤル規則設定

管理者は、ダイヤル規則設定を使用して、ダイヤル規則の優先順位を追加およびソートできます。Cisco Unified CallManager Assistant などのアプリケーションのダイヤル規則は、ユーザがダイヤルする電話番号から自動的に数字を除去したり、電話番号に数字を追加します。たとえば、7桁の電話番号の先頭に、外線発信用の数字9を自動的に追加します。

Cisco Unified CallManager Assistant などのアプリケーションで、アシスタントは Assistant Console からディレクトリ検索を実行できます。ディレクトリ エントリを Assistant Console の [My Calls] パネルへドラッグアンドドロップできます。ドロップすると、エントリに含まれている番号宛にコールが発信されます。ダイヤル規則は、エントリに含まれる番号に対して、コールの発信前に適用されます。

次の各項では、ダイヤル規則設定について説明します。

- [ダイヤル規則の検索 \(P.28-2\)](#)
- [ダイヤル規則の設定 \(P.28-3\)](#)
- [ダイヤル規則の削除 \(P.28-5\)](#)
- [ダイヤル規則の優先順位の変更 \(P.28-5\)](#)

ダイヤル規則の検索

ネットワーク内にはいくつかのダイヤル規則が存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のダイヤル規則を見つけることができます。ダイヤル規則を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、ダイヤル規則の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ダイヤルの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] [ダイヤルルール] [アプリケーションダイヤルルール] の順に選択します。

[アプリケーションダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List Application Dial Rules)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象 : アプリケーションダイヤルルール、 検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [説明]
- [次で始まる番号]

ステップ 3 2 番目の [検索対象 : アプリケーションダイヤルルール、 検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているアプリケーションのダイヤル規則をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたアプリケーションのダイヤル規則のリストが表示されます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件と一致するダイヤル規則をクリックします。

選択したダイヤル規則がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.28-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ダイヤル規則の設定

新しいダイヤル規則を追加する手順、および既存のダイヤル規則を更新する手順は、次のとおりです。ダイヤル規則の設計およびエラー チェックについては、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「[アプリケーションダイヤル規則設定のエラー チェック](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング] > [ダイヤルルール] > [アプリケーションダイヤルルール] の順に選択します。

[アプリケーションダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List Application Dial Rules)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しいダイヤル規則を追加するには、[[新規追加](#)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存のダイヤル規則を更新するには、対象となるダイヤル規則を見つけて ([P.28-2 の「ダイヤル規則の検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 該当するダイヤル規則情報の設定値を入力します ([表 28-1](#) を参照)。

ステップ 4 [[保存](#)] ボタンをクリックします。



(注) ダイヤル規則が複数ある場合は、ダイヤル規則の優先順位を変更できます。[P.28-5 の「ダイヤル規則の優先順位の変更](#)」を参照してください。


追加情報

P.28-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーションのダイヤル規則の設定値

表 28-1 では、[アプリケーションダイヤルルールの設定 (Application Dial Rule Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.28-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 28-1 ダイヤル規則の設定値

フィールド	説明
[名前 (Name)]	[名前 (Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 20 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド(.)、ハイフン(-)、および下線文字(_)を任意に組み合わせて使用することが可能です。アプリケーションのダイヤル規則名はそれぞれ固有の名前にしてください。
[説明 (Description)]	アプリケーションのダイヤル規則の説明を [説明 (Description)] フィールドに入力します。または、ブランクのままにします。
[次で始まる番号]	このアプリケーションのダイヤル規則を適用する電話番号の先頭部分の数字を入力します。 有効な値は、数字 (0 ~ 9)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*)、およびポンド記号 (#) です。
[桁数 (Number of Digits)]	このアプリケーションのダイヤル規則を適用する電話番号の長さを入力します。1 ~ 100 の桁数、または +、*、# の記号を入力します。
[削除する合計桁数 (Total Digits to be Removed)]	Cisco CallManager で、このダイヤル規則を適用する電話番号から削除する桁数を入力します。0 ~ 100 の桁数を入力します。
[プレフィックスパターン (Prefix With Pattern)]	このアプリケーションのダイヤル規則を適用する電話番号にプリペンドするパターンを入力します。有効な値は、数字 (0 ~ 100)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*)、およびポンド記号 (#) です。
[アプリケーションダイヤルルール優先順位 (Application Dial Rule Priority)]	ダイヤル規則の優先順位を高、低、標準のいずれかから選択します。  (注) このフィールドが表示されるのは、[プレフィックスパターン (Prefix With Pattern)] に情報を入力した場合です。

追加情報

P.28-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ダイヤル規則の削除

ダイヤル規則を削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CallManager の管理] で、[コール ルーティング] > [ダイヤル ルール] > [アプリケーション ダイヤル ルール] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するアプリケーションのダイヤル規則を見つけます。P.28-2 の「ダイヤル規則の検索」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するアプリケーションのダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。

アプリケーションのダイヤル規則を削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** ダイヤル規則を削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。[OK] をクリックした場合は、Cisco Unified CallManager は、そのアプリケーションのダイヤル規則をアプリケーションのダイヤル規則リストから削除します。



- (注) 該当するダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[アプリケーションダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List Application Dial Rules)] ウィンドウから複数のダイヤル規則を削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのダイヤル規則を削除できます。

追加情報

P.28-6 の「関連項目」を参照してください。

ダイヤル規則の優先順位の変更

ダイヤル規則の優先順位を変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CallManager の管理] で、[コール ルーティング] > [ダイヤル ルール] > [アプリケーション ダイヤル ルール] の順に選択します。



- (注) 優先順位は、[アプリケーションダイヤルルールの設定 (Application Dial Rule Configuration)] ウィンドウから変更することもできます。

■ 関連項目

- ステップ 2** [アプリケーションダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List Application Dial Rules)] ウィンドウで、ダイヤル規則を選択し、ダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにします (または、ダイヤル規則名をクリックします) [アプリケーションダイヤルルールの設定 (Application Dial Rule Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 上矢印と下矢印を使用して、リスト内でダイヤル規則を上または下に移動します。
- ステップ 4** 優先順位を変更し終わったら、[保存] をクリックします。
-

追加情報

P.28-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ダイヤル規則の検索 \(P.28-2\)](#)
- [ダイヤル規則の設定 \(P.28-3\)](#)
- [ダイヤル規則の削除 \(P.28-5\)](#)
- [ダイヤル規則の優先順位の変更 \(P.28-5\)](#)



ディレクトリ検索のダイヤル規則設定

ディレクトリ検索規則は、発信者 ID 番号をディレクトリ内で検索可能な番号に変換するものです。個々の規則では、先頭部分のいくつかの数字、および番号の長さに基づいて、変換対象となる番号を指定します。たとえば、10 桁の電話番号から、エリアコードと 2 つのプレフィックス数字を自動的に削除するディレクトリ検索規則を作成して、4085551212 を 51212 にすることができます。Cisco Unified CallManager Attendant Console で、アテンダントの短縮ダイヤルエントリまたはディレクトリに、この番号と一致するユーザが見つかったら、そのユーザの名前が [Call Detail] ウィンドウに表示されます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索 \(P.29-2 \)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定 \(P.29-3 \)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定値 \(P.29-4 \)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の削除 \(P.29-5 \)](#)
- [関連項目 \(P.29-6 \)](#)

ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索

ディレクトリ検索のダイヤル規則を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ダイヤルの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コール ルーティング] > [ダイヤル ルール] > [ディレクトリ検索ダイヤル ルール] の順に選択します。

[ディレクトリ検索ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Directory Lookup Dial Rule Find and List)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象 : ディレクトリ検索ダイヤルルール、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索に使用するフィールドを選択します。たとえば、[名前] [説明] [次で始まる番号] などです。



(注) データベースに含まれているディレクトリ検索のダイヤル規則をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。検索条件と一致するディレクトリ検索のダイヤル規則のリストが表示されます。

ステップ 3 2 番目の [検索対象 : ディレクトリ検索ダイヤルルール、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、テキスト検索の検索パターンを選択します。たとえば、[が次の文字列で始まる]、[が次の文字列を含む] [が次の文字列で終わる] などです。

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致するレコードが表示されます。各ウィンドウに表示される項目の数は、[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択すると変更できます。



ヒント

検索結果内でディレクトリ検索規則を検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力して、[検索] をクリックします。



(注)

該当するダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数のダイヤル規則を削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのディレクトリ検索のダイヤル規則を削除できます。

ステップ 5 レコードのリストで、表示するディレクトリ検索のダイヤル規則の名前をクリックします。

選択したダイヤル規則を含んだ [ディレクトリ検索ダイヤルルールの設定 (Directory Lookup Dial Rule Configuration)] ウィンドウが表示されます。

追加情報

P.29-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定

ディレクトリ検索のダイヤル規則を追加および更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コール ルーティング] > [ダイヤル ルール] > [ディレクトリ検索ダイヤル ルール] の順に選択します。

[ディレクトリ検索ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Directory Lookup Dial Rule Find and List)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しいディレクトリ検索のダイヤル規則を追加するには、[**新規追加**] をクリックします。
- 既存のディレクトリ検索のダイヤル規則を編集するには、対象となるダイヤル規則を表示します (P.29-2 の「[ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索](#)」を参照)。

[ディレクトリ検索ダイヤルルールの設定 (Directory Lookup Dial Rule Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します ([表 29-1](#) を参照)。

ステップ 4 [**保存**] をクリックします。

追加情報

P.29-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定値

表 29-1 では、[ディレクトリ検索ダイヤルルールの設定 (Directory Lookup Dial Rule Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.29-6 の「関連項目」を参照してください。

表 29-1 ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定値

フィールド	説明
[名前 (Name)]	ディレクトリ検索のダイヤル規則の名前を入力します。この名前には、最長 20 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。
[説明 (Description)]	ディレクトリ検索のダイヤル規則の説明を [説明 (Description)] フィールドに入力します。または、ブランクのままにします。
[次で始まる番号 (Number Begins With)]	このディレクトリ検索のダイヤル規則を適用する電話番号の先頭部分の数字を入力します。たとえば、972 と入力した場合、このダイヤル規則は 9725551212 などの電話番号に適用されます。 有効な値は、数字 (0 ~ 9)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*) およびポンド記号 (#) です。
[桁数 (Number of Digits)]	このディレクトリ検索のダイヤル規則を適用する電話番号の長さを入力します。たとえば、7 と入力した場合、このダイヤル規則は 8675309 などの電話番号に適用されます。
[削除する合計桁数 (Total Digits to be Removed)]	Cisco CallManager で、このダイヤル規則を適用する電話番号から削除する桁数を入力します。たとえば、3 と入力した場合、Cisco Unified CallManager は 4085556666 などの電話番号から 408 を削除します。 このフィールドで有効となる値の範囲は、0 ~ 100 です。削除する桁数の合計は、このディレクトリ検索のダイヤル規則を適用する電話番号の桁数を超えることはできません。
[プレフィックスパターン (Prefix With Pattern)]	このディレクトリ検索のダイヤル規則を適用する電話番号にプリペンドするパターンを入力します。有効な値は、数字 (0 ~ 9)、プラス記号 (+)、アスタリスク (*) およびポンド記号 (#) です。

ディレクトリ検索のダイヤル規則の削除

ディレクトリ検索のダイヤル規則を削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コール ルーティング]>[ダイヤル ルール]>[ディレクトリ検索ダイヤル ルール]の順に選択します。

[ディレクトリ検索ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Directory Lookup Dial Rule Find and List)]ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のディレクトリ検索のダイヤル規則を見つけるには、検索条件を入力し、[検索]をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除するディレクトリ検索のダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除]をクリックする。
- 検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除]をクリックして、ウィンドウ内のディレクトリ検索のダイヤル規則をすべて削除する。
- 削除するディレクトリ検索のダイヤル規則の名前をクリックして表示し、[削除]をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

ステップ 4 ディレクトリ検索のダイヤル規則を削除するには、[OK]をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル]をクリックします。

追加情報

P.29-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の検索 \(P.29-2 \)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定 \(P.29-3 \)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の設定値 \(P.29-4 \)](#)
- [ディレクトリ検索のダイヤル規則の削除 \(P.29-5 \)](#)

アプリケーションのダイヤル規則

- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ダイヤル規則の概要」
- [アプリケーションのダイヤル規則設定 \(P.28-1 \)](#)
- [ダイヤル規則の設定 \(P.28-3 \)](#)

Cisco Unified CallManager Attendant Console

- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified CallManager Attendant Console の設定チェックリスト」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified CallManager Attendant Console」



SIP のダイヤル規則設定

管理者は、SIP のダイヤル規則設定を使用して SIP 電話機のダイヤル プランを設定し、次の SIP 電話機に関連付けます。

- Cisco SIP IP Phone モデル 7911、7941、7961、7970、および 7971：これらの電話機は、7940_7960_OTHER ダイヤル規則パターンを使用します。Key Press Markup Language (KPML) により、ダイヤル文字列は 1 つずつ Cisco Unified CallManager に送信されますが、Cisco Unified CallManager に送信する前にダイヤル文字列のパターンを電話機上でローカルに収集するよう [SIP ダイヤルルール] で設定できます。SIP のダイヤル規則が設定されていない場合は、KPML が使用されます。Cisco Unified CallManager のパフォーマンスを向上させる (処理されるコールの数を増やす) には、管理者が SIP ダイヤル規則を設定することをお勧めします。
- Cisco SIP IP Phone モデル 7940 および 7960：これらの電話機は、7940_7960_OTHER ダイヤル規則パターンを使用し、KPML はサポートしていません。管理者がこれらの電話機に SIP のダイヤル規則を設定しない場合は、ユーザが [ダイヤル] ソフトキーを押すか、所定の期間待機するまでは、ダイヤル文字列が Cisco Unified CallManager に送信されず、処理されません。ユーザがこの操作を余分に実行するので、実際のコールの処理が遅くなります。
- Cisco SIP IP Phone モデル 7905 および 7912：これらの電話機は、7905_7912 ダイヤル規則パターンを使用し、KPML はサポートしていません。管理者がこれらの電話機に SIP のダイヤル規則を設定しない場合は、ユーザが [ダイヤル] ソフトキーを押すか、所定の期間待機するまでは、ダイヤル文字列が Cisco Unified CallManager に送信されず、処理されません。ユーザがこの操作を余分に実行するので、実際のコールの処理が遅くなります。

管理者が SIP 電話機のダイヤル プランを設定せず、電話機が KPML をサポートしていない場合、ユーザは [ダイヤル] ソフトキーを押す必要があります。管理者は、SIP のダイヤル プランを設定する場合、それらのダイヤル プランを SIP 電話機に関連付けて、ダイヤル プランがデバイスに送信されるようにする必要があります。

次の各項では、SIP のダイヤル規則設定について説明します。

- [SIP のダイヤル規則の検索 \(P.30-2 \)](#)
- [SIP のダイヤル規則の設定 \(P.30-3 \)](#)
- [SIP のダイヤル規則の設定値 \(P.30-4 \)](#)
- [SIP のダイヤル規則の削除 \(P.30-8 \)](#)
- [SIP のダイヤル規則のリセット \(P.30-9 \)](#)
- [関連項目 \(P.30-9 \)](#)

SIP のダイヤル規則の検索

ネットワーク内にはいくつかの SIP のダイヤル規則が存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定の SIP のダイヤル規則を見つけることができます。SIP のダイヤル規則を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、SIP のダイヤル規則の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、SIP のダイヤル規則の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ダイヤルルール] > [SIP ダイヤルルール] の順に選択します。

[SIP ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List SIP Dial Rules)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象 : SIP ダイヤルルール、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [ダイヤルパターン]

ステップ 3 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ウィンドウごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されている SIP のダイヤル規則をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された SIP のダイヤル規則のリストが表示されます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件と一致する SIP のダイヤル規則をクリックします。

選択した SIP のダイヤル規則の [SIP ダイヤルルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] ウィンドウが表示されます。

追加情報

P.30-9 の「[関連項目](#)」を参照してください。

SIP のダイヤル規則の設定

SIP のダイヤル規則を追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで、[コールルーティング] > [ダイヤルルール] > [SIP ダイヤルルール] の順に選択します。

[SIP ダイヤルルールの検索と一覧表示 (Find and List SIP Dial Rules)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しい SIP のダイヤル規則を追加するには、[**新規追加**] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の SIP のダイヤル規則を更新するには、対象となる SIP のダイヤル規則を見つけて ([P.30-2](#) の「[SIP のダイヤル規則の検索](#)」を参照)、[ステップ 9](#) に進みます。

ステップ 3 [ダイヤルパターン] ドロップダウン リスト ボックスから、[7905_7912] または [7940_7960_OTHER] を SIP のダイヤル規則のタイプとして選択します。

ステップ 4 [**次へ**] ボタンをクリックします。

更新した情報を使用して、[SIP ダイヤル ルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] がもう一度表示されます。

ステップ 5 [表 30-1](#) で説明している情報を使用して、作成するダイヤル規則の名前と説明を入力します。[**保存**] をクリックします。

更新した情報を使用して、[SIP ダイヤル ルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] がもう一度表示されます。

ステップ 6 [表 30-1](#) で説明している情報を使用して、パターンの説明の名前を入力します。

ステップ 7 作成するダイヤルパターンのタイプに応じて、[**パターンの追加**] または [**PLAR の追加**] をクリックします (PLAR : Private Line Automatic Ringdown)。



(注) [**PLAR の追加**] ボタンが表示されるのは、[7940_7960_OTHER] ダイヤル規則の場合のみです。

更新した情報を使用して、[SIP ダイヤルルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] がもう一度表示され、ダイヤルパターンのパラメータを設定するための領域が表示されます。

■ SIP のダイヤル規則の設定値

- ステップ 8** 表 30-1 で説明している情報を使用して、[ダイヤルパラメータ (Dial Parameter)] ドロップダウン リスト ボックスからパラメータのタイプを選択します。
- ステップ 9** ダイヤル規則について、適切な値、パラメータ、および説明を入力します (表 30-1 を参照)。
- ステップ 10** 設定が完了したら、[保存] ボタンをクリックします。

追加情報

P.30-9 の「関連項目」を参照してください。

SIP のダイヤル規則の設定値

表 30-1 では、[SIP ダイヤルルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.30-9 の「関連項目」を参照してください。

表 30-1 SIP のダイヤル規則の設定値


フィールド	説明
[ダイヤルパターン]	<p>所有している SIP 電話機のタイプに適合したダイヤル パターンを選択します。たとえば、ダイヤル パターン [7905_7912] は Cisco SIP IP Phone モデル 7905 と 7912 に適用され、ダイヤル パターン [7940_7960_OTHER] は Cisco SIP IP Phone モデル 7911、7940、7941、7960、7961、7970、および 7971 に適用されます。</p> <p> (注) Cisco Unified IP Phone モデル 7905、7912、7940、および 7960 は、KPML をサポートしていません。</p>
[SIP ダイヤルルール情報 (SIP Dial Rule Information)]	
[名前]	SIP のダイヤル規則の名前を入力します。たとえば、「Long Distance」などです。スペースと特殊文字を含めて、50 文字までの英数字を入力します。
[説明 (Description)]	ダイヤル規則の簡単な説明を入力します。
[パターン情報 (Pattern Information)]	
[説明 (Description)]	パターンの説明の名前を入力します。たとえば、「Emergency」などです。
[パターンの削除 (Delete Pattern)]	ダイヤル パターンを削除するには、このチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] ボタンをクリックします。

表 30-1 SIP のダイヤル規則の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ダイヤルパラメータ (Dial Parameter)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスから、このパターンのパラメータのタイプ (次のいずれか) を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Pattern]: [7905_7912] および [7940_7960_OTHER] ダイヤル規則には、このパラメータを使用します。個々のパターンの形式については、P.30-6 の「パターンの形式」を参照してください。 [Button]: このパラメータには、ダイヤルパターンの適用先となる回線ボタンを指定します。ユーザが回線ボタン 1 に対してコールを発信すると、[Button 1] に対して指定されているダイヤルパターンのみが適用されます。このオプションパラメータを設定しない場合、ダイヤルパターンはすべての回線に適用されます。適用対象となるのは、Cisco SIP IP Phone モデル 7940、7941、7960、7961、7970、および 7971 のみです。管理者は、ボタン番号を数値で入力する必要があります。ボタン番号は、電話機の画面脇にあるボタンの順序と対になっています。上から順に、1 が一番上です。回線ボタンは、Cisco SIP IP Phone モデル 7940 および 7941 には 2 つ、モデル 7960 および 7961 には 6 つ、モデル 7970 および 7971 には 8 つあります。 [Timeout]: このパラメータには、システムがタイムアウトして、ユーザのダイヤルした番号をダイヤルするまでの時間を秒単位で指定します。番号がすぐにダイヤルされるようにするには、0 を指定します。このパラメータは、[7940_7960_OTHER] ダイヤル規則にのみ使用してください。 [User]: このパラメータは、ダイヤルされた番号に自動的に付加するタグを表しています。このタグで有効となる値は、IP および Phone です。大文字と小文字は区別されません。このパラメータは、[7940_7960_OTHER] ダイヤル規則にのみ使用してください。
[値 (Value)]	この表で説明しているダイヤルパラメータの値は、このフィールドに入力します。たとえば、PLAR の [Button 1] には 1 を入力し、[7940_7960_OTHER] パターンには 8,..... を入力します。
[パラメータの削除 (Delete Parameter)]	ダイヤルパターンを削除するには、このチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] ボタンをクリックします。
[パラメータの編集]	既存のパラメータを更新するには、このボタンをクリックします。
[新規パラメータの追加]	パターンに新しいパラメータを追加するには、このボタンをクリックします。
[選択項目の削除]	パラメータまたはパターンを削除するには、このボタンをクリックします。
[パターンの追加 (Pattern Addition)]	
[パターン説明 (Pattern Description)]	新しいパターンの名前を入力し (Longdistance など) [パターンの追加] ボタンまたは [PLAR の追加] ボタンをクリックします。
[パターンの追加]	[パターン情報 (Pattern Information)] ペインに新しいパターンを追加するには、このボタンをクリックします。
[PLAR の追加]	[パターン情報 (Pattern Information)] ペインに新しい PLAR パターンを追加するには、このボタンをクリックします。

パターンの形式

[7905_7912] パターンおよび [7940_7960_OTHER] パターンについては、次の形式を参照してください。

[7905_7912] パターンの値

- ピリオド (.) は、すべての数字に一致します。
- ハイフン (-) は、以降に数字が入力される可能性があることを意味します。この文字が必要な場合は、個々の規則の末尾に使用する必要があります。たとえば、1408t5- は有効ですが、1408t5-3... は無効です。
- ポンド記号 (#) は、終了キーとして機能します。終了が適用されるのは、マッチングで ># にヒットした後のみです。このため、>* は終了文字をアスタリスク (*) にすることを意味します。つまり、終了キーは大なり記号 (>) の後に指定する必要があります。
- 「tn」という文字列を使用すると、タイムアウトが *n* 秒に設定されます。



(注) *n* は、0 ~ 9、および a ~ z です。a ~ z は、それぞれ 0 ~ 26 を意味します。

- 「*tn*」という文字列を使用すると、直前のパターンを *n* 回繰り返します。



(注) 「>#」および「*tn*」は、パターンではなく修飾子です。*n* は、0 ~ 9、および a ~ z です。a ~ z は、それぞれ 0 ~ 26 を意味します。少ない文字列で多くの規則を表現するには、繰り返しの修飾子を使用します。

- 修飾子「S」を使用すると、規則のマッチングが終了します。つまり、規則に一致した時点以降に修飾子「S」が現れた場合、そのマッチング規則より後にあるその他の規則は、マッチングには使用されません。

[7940_7960_OTHER] パターンの値

- ピリオド (.) は、すべての文字に一致します。
- ポンド記号 (#) は、終了キーとして機能します。終了が適用されるのは、マッチングで ># にヒットした後のみです。このため、>* は終了文字をアスタリスク (*) にすることを意味します。つまり、終了キーは大なり記号 (>) の後に指定する必要があります。



(注) ポンド記号を [7940_7960_OTHER] で有効にするには、パターン フィールドにポンド記号を設定する必要があります。

- アスタリスク (*) は、1 つまたはそれ以上の文字に一致します。* は、ワイルドカード文字として処理されます。* の前にバックスラッシュ (\) エスケープシーケンスを置いて * というシーケンスにすると、* を通常の文字として処理できます。\\ は電話機が自動的に除去するため、発信ダイヤル文字列には現れません。* は、ダイヤル番号として受信された場合、ワイルドカード文字 * とピリオド (.) に一致します。
- カンマ (,) を使用すると、電話機が第 2 発信音を生成します。
例 : 7... は、7 で始まるすべての 4 桁 DN に一致します。8,..... は、8 に一致し、第 2 発信音 (デフォルト値) を再生した後、すべての 5 桁 DN に一致します。

SIP のダイヤル規則の例

表 30-2 では、[7905_7912] ダイヤル規則に関するいくつかの SIP ダイヤル規則の例を示します。

表 30-2 SIP のダイヤル規則の例 ([7905_7912] ダイヤル規則の場合)

パターン文字列	意味
.t7>#.....t4-	ダイヤル文字を少なくとも 1 つ入力する必要があります。送信は、入力の 7 秒後に発生します。終了の # 文字が適用されるのも、最初のダイヤル文字を入力した後です。7 桁入力すると、タイムアウトが 4 秒に変更されます。- 文字は、タイムアウトになるか # によって文字列を終了しない限り、以降も数字を入力できることを意味します。
911 および 9911	すぐに送信されます。コールの送信で遅延が発生しないようにするには、これらの文字列それぞれに SIP のダイヤル規則を設定し、タイムアウトダイヤルパラメータを 0 に指定します。電話機が Key Press Markup Language(KPML) をサポートしていない場合でも、ユーザは [ダイヤル] ソフトキーを押さずにコールを開始できます。
1t7>#.....t1-	ダイヤル文字を少なくとも 1 つ入力する必要があります。送信は、入力の 7 秒後に発生します。終了文字の # が適用されるのも、最初のダイヤル文字を入力した後です。10 桁入力すると、タイムアウトが 1 秒に変更されます。- 文字は、タイムアウトになるか # によって文字列を終了しない限り、以降も数字を入力できることを意味します。
0t4>#.t7-"	0 の後にダイヤル文字を入力しない場合、送信が 4 秒後に発生します。0 以降にダイヤル文字を入力した場合、送信は 7 秒後に発生します。この場合も、# は終了文字として機能します。

表 30-3 では、[7940_7960_OTHER] ダイヤル規則に関するいくつかの SIP ダイヤル規則の例を示します。

表 30-3 SIP のダイヤル規則の例 ([7940_7960_OTHER] ダイヤル規則の場合)

パターン文字列	意味
123#45#6	123#45#6 文字列は、ユーザが 123#45#6 をダイヤルした場合に照合されます。ポンド記号 (#) を押しても、電話機はすぐにはダイヤルを実行しません。これは、# が明示的に指定されているためです。7940 および 7960 SIP 電話機の場合、1# または 123#4# がダイヤルされると、電話機はすぐにダイヤルを実行します。
911 および 9911	すぐに送信されます。コールの送信で遅延が発生しないようにするには、これらの文字列それぞれに SIP のダイヤル規則を設定し、タイムアウトダイヤルパラメータを 0 に指定します。電話機が Key Press Markup Language(KPML) をサポートしていない場合でも、ユーザは [ダイヤル] ソフトキーを押さずにコールを開始できます。
12*345	この例は、バックスラッシュ (\) とアスタリスク (*) を使用して、アスタリスク (*) がダイヤル文字列であることを示しています。バックスラッシュ (\) を省略すると、アスタリスク (*) はワイルドカードパターン照合として扱われます。バックスラッシュ (\) をアスタリスク (*) 以外の文字と組み合わせて使用すると、\ は無視され、\ \ 文字が照合されます。ダイヤルプランで \ 文字を明示的に指定する必要がある場合は、\ \ を使用します。\\ は、電話機がダイヤル文字列を送信する前に削除されるので、ダイヤル文字列の一部として送信されません。

SIP のダイヤル規則の削除

SIP のダイヤル規則を削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CallManager の管理] で、[コール ルーティング] > [ダイヤル ルール] > [SIP ダイヤル ルール] の順に選択します。

ステップ 2 削除する SIP のダイヤル規則を見つけます。P.30-2 の「SIP のダイヤル規則の検索」を参照してください。

ステップ 3 削除する SIP のダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。

SIP のダイヤル規則を削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 SIP のダイヤル規則を削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。[OK] をクリックした場合は、Cisco Unified CallManager は、その SIP のダイヤル規則を SIP のダイヤル規則リストから削除します。



(注) 該当するダイヤル規則の横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[SIP ダイヤル ルールの検索と一覧表示 (Find and List SIP Dial Rules)] ウィンドウから複数のダイヤル規則を削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての SIP のダイヤル規則を削除できます。

追加情報

P.30-9 の「関連項目」を参照してください。

SIP のダイヤル規則のリセット

SIP のダイヤル規則を更新したときに、SIP 電話機をリセットまたは再起動して、電話機を新しい SIP のダイヤル規則で更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CallManager の管理] で、[コール ルーティング] > [ダイヤル ルール] > [SIP ダイヤル ルール] の順に選択します。

ステップ 2 リセットする SIP のダイヤル規則を見つけます。P.30-2 の「SIP のダイヤル規則の検索」を参照してください。

ステップ 3 リセットする SIP のダイヤル規則をクリックします。

[SIP ダイヤルルールの設定 (SIP Dial Rule Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [リセット] をクリックします。

[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログが表示されます。

ステップ 5 次のいずれかの項目をクリックします。

- [リスタート]: 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動する (Cisco Unified CallManager に電話機を再登録する)。
- [リセット]: デバイスをシャットダウンして、もう一度起動する。
- [閉じる]: 何も実行しないで、[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログを閉じる。

追加情報

P.30-9 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- SIP のダイヤル規則の検索 (P.30-2)
- SIP のダイヤル規則の設定 (P.30-3)
- SIP のダイヤル規則の設定値 (P.30-4)
- SIP のダイヤル規則の例 (P.30-7)
- SIP のダイヤル規則の削除 (P.30-8)
- SIP のダイヤル規則のリセット (P.30-9)
- 『 Cisco Unified CallManager システム ガイド 』 の 「ダイヤル規則の概要」



ルートフィルタの設定

ルートフィルタの設定では、ルートパターンまたはハントパイロットと連動して、ダイヤルされた数字列を使用し、コールの処理方法を決定します。ルートフィルタは、at記号(@)ワイルドカードを含むパターンを設定する場合にのみ適用されます。ルートパターンまたはハントパイロットが@ワイルドカードを含む場合、Cisco Unified CallManagerは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリストボックスで指定された番号計画に従って、コールを転送します。Cisco Unified CallManagerで表示されるルートフィルタウィンドウは、選択する番号計画によって異なります。

ルートフィルタを使用すると、システム管理者は、ユーザがダイヤルできるルートパターンまたはハントパイロット、たとえば、ユーザが長距離通信事業者を手動で選択する(101に通信事業者アクセスコードを加えてダイヤルして)ことができるかどうかを決定できます。

詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「ルートプランの概要」を参照してください。



ヒント

まずルートフィルタを追加し、その定義をしておいてから、その定義済みのルートフィルタをルートパターンまたはハントパイロットに追加してください。

ルートフィルタを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [ルートフィルタの検索 \(P.31-2\)](#)
- [ルートフィルタの設定 \(P.31-3\)](#)
- [ルートフィルタの設定値 \(P.31-4\)](#)
- [ルートフィルタクローズの追加 \(P.31-5\)](#)
- [ルートフィルタクローズの削除 \(P.31-6\)](#)
- [ルートフィルタの削除 \(P.31-7\)](#)
- [ルートフィルタタグの説明 \(P.31-8\)](#)

ルートフィルタの検索

ネットワーク内にはいくつかのルートフィルタが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のルートフィルタを見つけることができます。ルートフィルタを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ルートフィルタの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルートフィルタの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルートフィルタ] の順に選択します。

[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているルートフィルタをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたルートフィルタのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [番号計画 (Numbering Plan)]
- [条件 (Clause)]



(注) 該当するルートフィルタの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウから複数のルートフィルタを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのルートフィルタを削除できます。

- ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するルート フィルタをクリックします。
選択したルート フィルタがウィンドウに表示されます。


追加情報

P.31-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルート フィルタの設定

ルート フィルタを設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CallManager の管理] で、[コール ルーティング] > [ルート フィルタ] の順に選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。
- 既存のルート フィルタをコピーするには、対象となるルート フィルタを見つけて (P.31-2 の「[ルート フィルタの検索](#)」を参照) コピーするルート フィルタの横にある [コピー] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
 - 新しいルート フィルタを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
 - 既存のルート フィルタを更新するには、対象となるルート フィルタを見つけて (P.31-2 の「[ルート フィルタの検索](#)」を参照) [ステップ 3](#) に進みます。
- ステップ 3** 表示される [ルートフィルタの設定 (Route Filter Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します ([表 31-1](#) を参照) 。
- ステップ 4** [次へ] をクリックします。
- ステップ 5** このルート フィルタのクローズ (条件) を作成するには、必要に応じて、ルート フィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。
-  **(注)** ルート フィルタのタグと演算子にデータを入力する場合は、[P.31-8 の「ルート フィルタ タグの説明」](#)を参照してください。
- ステップ 6** [保存] をクリックして、ルート フィルタを追加します。
- ステップ 7** ルート フィルタを更新している場合は、[リセット] をクリックします。ルート フィルタに関連付けられたデバイスをリセットすると、該当ゲートウェイのコールが欠落します。


追加情報

P.31-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルートフィルタの設定値

表 31-1 では、ルートフィルタの設定値について説明します。

表 31-1 ルートフィルタの設定値

フィールド	説明
[番号計画 (Numbering Plan)]	ドロップダウン リストから、番号計画(たとえば、[North American Numbering Plan]) を選択します。
[ルートフィルタ名]	<p>[ルートフィルタ名] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルート フィルタ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) ルート フィルタには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ルート フィルタをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetro」は、Dallas の Cisco オフィスからの LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のルート フィルタを特定します。</p>

追加情報

P.31-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルート フィルタ クローズの追加

ルート フィルタのクローズ (条件) を追加すると、論理 OR を使用して既存のタグに追加演算子と項目を組み込むことによって、既存のルート フィルタをさらに詳細に指定できます。ルート フィルタのクローズを追加できるのは、最初に新規のルート フィルタを追加するとき、または既存のルート フィルタを更新するときのどちらかです。既存のルート フィルタにルート フィルタ クローズを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CallManager の管理] で、[コール ルーティング] > [ルート フィルタ] の順に選択します。
- ステップ 2** ルート フィルタ クローズを追加する先のルート フィルタを特定します。P.31-2 の「[ルート フィルタの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** [条件の追加] をクリックして、新しいルート フィルタ クローズのデータ入力ウィンドウを表示します。この新しいクローズのすべての演算子フィールドには、「NOT-SELECTED」と表示されます。
- ステップ 4** このルート フィルタの追加クローズを作成するために、必要に応じて、ルート フィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。



(注) [North American Numbering Plan] のルート フィルタのタグと演算子にデータを入力する場合は、P.31-8 の「[ルート フィルタ タグの説明](#)」を参照してください。

- ステップ 5** [保存して閉じる] をクリックして、クローズを追加します。

新しいクローズは、ウィンドウ上の既存のクローズの下に表示されます (必要に応じて下方にスクロールして、新しい情報を表示してください)。

- ステップ 6** [保存] をクリックして、新しいルート フィルタ クローズをルート フィルタに追加します。
-

追加情報

P.31-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルート フィルタ クローズの削除

ルート フィルタのクローズ(条件)を削除できるのは、新規ルート フィルタのセットアップ時、または既存ルート フィルタの更新時のどちらかです。既存のルート フィルタからルート フィルタ クローズを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CallManager の管理] で、[コール ルーティング] > [ルート フィルタ] の順に選択します。

ステップ 2 削除するルート フィルタ クローズが含まれているルート フィルタを特定します。

ステップ 3 削除するクローズの先頭までスクロール ダウンし、[条件の削除] をクリックします。

このルート フィルタ クローズを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。



注意

各 [条件の削除] ボタンは、そのボタンのすぐ下にあるクローズに適用されます。クローズを削除するときは、削除するクローズが正しいか慎重に確認してください。削除したクローズを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したクローズを作成し直す必要があります。

ステップ 4 クローズを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。[OK] をクリックすると、Cisco Unified CallManager により、クローズがルート フィルタから削除されます。

追加情報

P.31-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルートフィルタの削除

ルートフィルタを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

ルートパターンまたはハントパイロット、変換パターンなどの項目が使用しているルートフィルタは、削除することができません。ルートフィルタを使用しているルートパターンやハントパイロット、変換パターンなどの項目を検索するには、[ルートフィルタの設定 (Route Filter Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。使用されているルートフィルタを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているルートフィルタを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するルートフィルタを使用しているルートパターンまたはハントパイロット、変換パターンなどの項目すべてに、別のルートフィルタを割り当てる。[P.34-4 の「ルートパターンの設定」](#)および [P.45-4 の「変換パターンの設定」](#)を参照してください。
- 削除するルートフィルタを使用しているルートパターンまたはハントパイロット、変換パターンなどの項目を削除する。[P.34-13 の「ルートパターンの削除」](#)および [P.45-10 の「変換パターンの削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CallManager の管理] で、[コールルーティング]>[ルートフィルタ]の順に選択します。

ステップ 2 削除するルートフィルタを見つけます。[P.31-2 の「ルートフィルタの検索」](#)を参照してください。

ステップ 3 削除するルートフィルタのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。



注意

ルートフィルタを削除するときは、削除するルートフィルタが正しいか慎重に確認してください。削除したルートフィルタを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したルートフィルタを作成し直す必要があります。

ステップ 4 ルートフィルタを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



ヒント

ルートフィルタの削除は、削除するルートフィルタを特定して表示し、[削除] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

[P.31-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

ルートフィルタ タグの説明

タグは、ルートフィルタのコアコンポーネントです。タグでは、ダイヤルされる数字列の一部に名前を適用しています。たとえば、NANP 番号 972-555-1234 は、LOCAL-AREA-CODE (972)、OFFICE-CODE (555)、および SUBSCRIBER (1234) ルートフィルタタグで構成されています。

ルートフィルタタグには、演算子が必要であり、フィルタに掛けるコールを決定するには、その他の値も必要な場合があります。

ルートフィルタタグのフィールドでの値には、ワイルドカード文字 X、*、#、[、]、-、^、および 0 ~ 9 の数字が使用できます (ワイルドカード文字の定義については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「特殊文字と設定値」の表 17-3 を参照してください)。表 31-2 の説明では、実際の数字を表すために [2-9] と XXXX という表記を使用しています。この表記では、[2-9] は、2 ~ 9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表し、X は、0 ~ 9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表します。したがって、「[2-9] XX の形式の 3 桁のエリアコード」という記述は、実際の数字 200 ~ 999、またはすべてのワイルドカード、または結果としてその範囲のパターンになる実際の数字とワイルドカードの任意の組み合わせを入力できるという意味です。

ルートフィルタタグは、[ルートフィルタの設定 (Route Filter Configuration)] ウィンドウの [番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リストボックスで選択する番号計画によって異なります。表 31-2 では、[North American Numbering Plan] のルートフィルタタグについて説明します。

表 31-2 ルートフィルタタグ

タグ	説明
AREA-CODE	[2-9] XX の形式のこの 3 桁のエリアコードは、長距離コールのエリアコードを指定します。
COUNTRY CODE	この 1 桁、2 桁、または 3 桁のコードは、国際コールの宛先国を指定します。
END-OF-DIALING	この 1 文字は、ダイヤルされた数字列の末尾を指定します。NANP 内でダイヤルされる国際番号には、# 文字がダイヤル終了信号として使用されます。
INTERNATIONAL-ACCESS	この 2 桁のアクセスコードは、国際ダイヤルを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 01 を使用します。
INTERNATIONAL-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる国際コールを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 1 を使用します。
INTERNATIONAL-OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由の国際コールを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 0 を指定します。
LOCAL-AREA-CODE	[2-9] XX の形式のこの 3 桁のローカルエリアコードは、10 桁のローカルコールのローカルエリアコードを指定します。
LOCAL-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされるローカルコールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。
LOCAL-OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由のローカルコールを指定します。NANP コールでは、このコードに 0 を使用します。
LONG-DISTANCE-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる長距離コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。

表 31-2 ルートフィルタ タグ (続き)

タグ	説明
LONG-DISTANCE-OPERATOR	この 1 桁または 2 桁のコードは、NANP 内のオペレータ経由の長距離コールを指定します。オペレータ経由のコールでは、このコードに 0 を使用し、オペレータにアクセスするには 00 を使用します。
NATIONAL-NUMBER	このタグは、国際コール用の数字列の中の、各国固有の部分を指定します。
OFFICE-CODE	このタグは、7 桁の電話番号の最初の 3 桁 ([2-9] XX の形式) を指定します。
SATELLITE-SERVICE	この 1 桁のコードは、国際コール用の衛星接続にアクセスできるようにします。
SERVICE	この 3 桁のコードは、緊急用の 911、修理サービス用の 611、問い合わせ用の 411 を指定します。
SUBSCRIBER	このタグは、7 桁の電話番号の最後の 4 桁 (XXXX の形式) を指定します。
TRANSIT-NETWORK	この 4 桁の値は、長距離通信事業者を識別します。 TRANSIT-NETWORK 値には、先行する 101 通信事業者アクセスコード接頭部を指定しないでください。詳細については、TRANSIT-NETWORK-ESCAPE を参照してください。
TRANSIT-NETWORK-ESCAPE	この 3 桁の値は、長距離通信事業者 ID に先行します。このフィールドの値には 101 が指定されています。 TRANSIT-NETWORK-ESCAPE 値に、4 桁の通信事業者識別コードを指定しないでください。詳細については、TRANSIT-NETWORK を参照してください。

ルートフィルタ タグの演算子は、そのタグに関連したダイヤル数字列の有無、さらに、場合によってはそのダイヤル数字列の内容に基づいて、コールがフィルタに掛けられるかどうかを決定します。演算子 EXISTS および DOES-NOT-EXIST は、ダイヤル数字列のその部分が存在するかどうかだけをチェックします。演算子 == は、実際にダイヤルされる数字を、指定された値またはパターンと突き合せます。表 31-3 では、ルートフィルタ タグで使用される演算子について説明します。

表 31-3 ルートフィルタの演算子





演算子	説明
NOT-SELECTED	このタグに関連したダイヤル数字列に基づいて、コールをフィルタに掛けないことを指定します。  (注) この演算子が関連付けられるタグの有無により、Cisco Unified CallManager によるコールの転送が妨げられることはありません。
EXISTS	このタグに関連したダイヤル数字列が検出されたときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。  (注) Cisco Unified CallManager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列がある場合だけです。

表 31-3 ルートフィルタの演算子 (続き)

演算子	説明
DOES-NOT-EXIST	このタグに関連したダイヤル数字列が検出されないときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。  (注) Cisco Unified CallManager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列がない場合だけです。
==	このタグに関連したダイヤル数字列が、指定された値と一致するときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。  (注) Cisco Unified CallManager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列があり、その数字列が、付加されているフィールドで指定された番号の範囲内である場合だけです。

**注意**

演算子 EXISTS、DOES-NOT-EXIST、または NOT-SELECTED を使用しているタグには、ルートフィルタ タグ値を入力しないでください。

例

例 1 : AREA-CODE と演算子 DOES-NOT-EXIST を使用するルートフィルタは、エリアコードを含まないすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 2 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 515 を使用するルートフィルタは、エリアコード 515 を含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 3 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 5 [2-9] X を使用するルートフィルタは、520 ~ 599 の範囲のエリアコードを含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 4 : TRANSIT-NETWORK、演算子 ==、および項目 0288 を使用するルートフィルタは、通信事業者アクセスコード 1010288 を持つすべてのダイヤル数字列を選択します。

追加情報

P.31-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ルートフィルタの検索 \(P.31-2\)](#)
- [ルートフィルタの設定 \(P.31-3\)](#)
- [ルートフィルタの設定値 \(P.31-4\)](#)
- [ルートフィルタ クローズの追加 \(P.31-5\)](#)
- [ルートフィルタ クローズの削除 \(P.31-6\)](#)
- [ルートフィルタの削除 \(P.31-7\)](#)
- [ルートフィルタ タグの説明 \(P.31-8\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「[ルートプランの概要](#)」



ルート グループの設定

ルート グループの設定では、ゲートウェイおよびトランクが選択される順序を指定します。ルート グループにより、発信トランク選択用のゲートウェイとポートのリストに優先順位を付けることができます。

たとえば、2つの長距離通信事業者を使用している場合、通話料の安い通信事業者の長距離コールを優先させるように、ルート グループを追加できます。最初のトランクが使用不能の場合に限り、コールは、通話料の高い通信事業者の方にルート指定されます。

ルート グループの追加または削除、ルート グループへのデバイスの追加、ルート グループからのデバイスの削除については、次のトピックを参照してください。

- [ルート グループの検索 \(P.32-2\)](#)
- [ルート グループの設定 \(P.32-4\)](#)
- [ルート グループの設定値 \(P.32-5\)](#)
- [ルート グループへのデバイスの追加 \(P.32-7\)](#)
- [ルート グループからのデバイスの削除 \(P.32-8\)](#)
- [ルート グループの削除 \(P.32-9\)](#)

ルートグループの検索

ネットワーク内にはいくつかのルートグループが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のルートグループを見つけることができます。ルートグループを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ルートグループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルートグループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ルートグループ] の順に選択します。

[ルートグループの検索と一覧表示 (Find and List Route Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているルートグループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたルートグループのリストが、ルートグループ別に表示されます。



ヒント 検索結果内でルートグループを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するルートグループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ルートグループの検索と一覧表示 (Find and List Route Groups)] ウィンドウから複数のルートグループを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのルートグループを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するルートグループをクリックします。

選択したルートグループがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.32-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルートグループの設定

ルートグループを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート/ハント] > [ルートグループ] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のルートグループをコピーするには、対象となるルートグループを見つけて (P.32-2 の「ルートグループの検索」を参照)、コピーするルートグループの横にある [コピー] ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しいルートグループを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存のルートグループを更新するには、対象となるルートグループを見つけて (P.32-2 の「ルートグループの検索」を参照)、ステップ 3 に進みます。

ステップ 3 表示される [ルートグループの設定 (Route Group Configuration)] ウィンドウで、[ルートグループ名] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートグループ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。



ワンポイント・アドバイス

ルートグループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationGroup の形式が、内容を簡潔に表し、ルートグループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasAA1」は、Dallas の Cisco オフィス用の Cisco Access Analog ルートグループを特定します。

ステップ 4 適切な設定値を選択します (表 32-1 を参照)。



(注) 新しいルートグループを追加する前に、新しいルートグループに対して少なくとも 1 つのデバイスを選択しておく必要があります。

ステップ 5 [保存] をクリックして、このルートグループを追加または更新します。

追加情報

P.32-10 の「関連項目」を参照してください。

ルートグループの設定値

表 32-1 では、ルートグループの設定値について説明します。

表 32-1 ルートグループの設定値



フィールド	説明
[ルートグループ情報 (Route Group Information)]	
[ルートグループ名]	このルートグループの名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートグループ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。
[分配アルゴリズム (Distribution Algorithm)]	ドロップダウン リスト ボックスで、次の分散アルゴリズムのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Top Down]: この分散アルゴリズムを選択すると、ルートグループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified CallManager がメンバーに対してコールを分散します。 [Circular]: この分散アルゴリズムを選択すると、Cisco Unified CallManager は、アイドルまたは対応可能状態のメンバーに対するコールの分散を、ルートグループの (n+1) 番目のメンバーから開始します。n 番目のメンバーは、Cisco Unified CallManager が最後にコールを延長したメンバーです。n 番目のメンバーが、ルートグループの最後のメンバーの場合、Cisco Unified CallManager はルートグループの先頭からコールの分散を開始します。 デフォルト値は、[Circular] です。
[ルートグループメンバー情報 (Route Group Member Information)]	
[ルートグループに追加するデバイスの検索 (Find Devices to Add to Route Group)]	
[デバイス名に含まれる (Device Name contains)]	検索するデバイス名に含まれる文字を入力し、[検索] ボタンをクリックします。入力した文字と一致するデバイス名が [使用可能なデバイス (Available Devices)] ボックスに表示されます。 <div style="margin-top: 10px;">  <p>(注) 使用可能なデバイスをすべて検索するには、テキストボックスを空白のままにして、[検索] ボタンをクリックします。</p> </div>
[使用可能なデバイス (Available Devices)(デバイスを選択して、下でポートを選択)]	[使用可能なデバイス (Available Devices)] リスト ボックスでデバイスを選択し、[ルートグループに追加] をクリックして、そのデバイスを [選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックスに追加します。 <p>QSIG プロトコルを使用するゲートウェイがルートグループに含まれている場合は、QSIG プロトコルを使用するゲートウェイのみがリストに表示されます。非 QSIG プロトコルを使用するゲートウェイがルートグループに含まれている場合は、QSIG プロトコルを使用し、制御クラスタ間トランクを使用するゲートウェイはリストに表示されません。</p> <p>QSIG ゲートウェイを含むルートリストにルートグループを追加した場合、H.323 ゲートウェイはリストには表示されません。</p>

表 32-1 ルートグループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ポート (Port)]	このデバイスが個々に設定可能なポートをサポートしている場合、そのポートを選択します (個々のポートの選択が可能なデバイスとして、Cisco Access Analog ゲートウェイ、Cisco MGCP Analog ゲートウェイ、T1 CAS があります)。サポートしていない場合は、デフォルト値 (選択したデバイスによって、[All] または [None Available]) を選択します。使用可能なポートがないデバイスの場合 ([None Available])、そのデバイスはすでにルート グループに追加されているか、またはルート グループに追加できない可能性があります。
[現在のルートグループメンバー (Current Route Group Members)]	
[選択されたデバイス (Selected Devices) (優先順位の高い順)]	<p>デバイスの優先順位を変更するには、[選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックス内のデバイス名を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのデバイスを上下に移動させてください。</p> <p>[選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックス内のデバイスの優先順位を逆転するには、[選択されたデバイスの順番を逆にする] をクリックします。</p> <p>ルート グループ内のデバイスの順序の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概説」を参照してください。</p>
[削除されたデバイス (Removed Devices) ([更新] をクリックしたときにルートグループから削除)]	<p>[選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックスでデバイスを選択し、そのデバイスを [削除されたデバイス (Removed Devices)] リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックします。</p> <p> (注) ルートグループには、少なくとも 1 つのデバイスを入れる必要があります。</p>

追加情報

P.32-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルートグループへのデバイスの追加

新規のルートグループまたは既存のルートグループに、デバイスを追加することができます。複数のルートグループにゲートウェイを追加できます。ルートグループにゲートウェイを追加すると、そのゲートウェイは[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウに表示されません。既存のルートグループにデバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも1つのゲートウェイおよびトランクのデバイスを指定しておく必要があります。デバイスが常駐できるのは1つのルートグループ内のみです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ルートグループ] の順に選択します。
 - ステップ 2** デバイスを追加する先のルートグループを特定します。P.32-2 の「[ルートグループの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** [使用可能なデバイス (Available Devices)] リストボックスで追加するデバイスを選択し、[**ルートグループに追加**] をクリックして、デバイスを [選択されたデバイス (Selected Devices)] リストボックスへ移動します。このルートグループへ追加する各デバイスに対して、この手順を繰り返します。
 - ステップ 4** [選択されたデバイス (Selected Devices)] リストボックスで、新しいデバイスがこのルートグループ内でアクセスされる順序を選択します。順序を変更するには、デバイスをクリックしてから、リストボックスの右側にある上矢印または下矢印を使用して、デバイスを移動します。
 - ステップ 5** [保存] をクリックして、新しいデバイスを追加し、このルートグループのデバイス順序を更新します。
-

追加情報

P.32-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルートグループからのデバイスの削除

新規のルートグループまたは既存のルートグループから、デバイスを削除することができます。既存のルートグループからデバイスを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ルートグループ] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するデバイスが入っているルートグループを特定します。P.32-2 の「[ルートグループの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** [選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックスで削除するデバイスを選択し、[選択されたデバイス (Selected Devices)] リスト ボックスの下にある下矢印をクリックして、デバイスを [削除されたデバイス (Removed Devices)] リスト ボックスへ移動します。このルートグループから削除する各デバイスに対して、このステップを繰り返します。



(注) ルートグループには、少なくとも 1 つのデバイスを入れる必要があります。

- ステップ 4** デバイスを削除するには、[保存] をクリックします。
-

追加情報

P.32-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルートグループの削除

ルートグループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

ルート / ハント リストが参照するルートグループは削除できません。ルートグループを使用しているルートリストを検索するには、[ルートグループの設定 (Route Group Configuration)] ウィンドウの[関連リンク]ドロップダウンリストボックスにある[依存関係レコード]を選択し、[移動]をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」を参照してください。使用されているルートグループを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用中のルートグループを削除する場合は、事前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- ルートグループを削除する前に、そのルートグループが属しているすべてのルートリストから、そのルートグループを削除する。P.33-8 の「ルートリストからのルートグループの削除」を参照してください。



ヒント

ルートグループとルートパターンを削除するには、まずルートパターンを削除し、次にルートリストを削除して、最後にルートグループを削除します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ルートグループ] の順に選択します。

ステップ 2 削除するルートグループを特定します。P.32-2 の「ルートグループの検索」を参照してください。

ステップ 3 削除するルートグループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。

ルートグループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 ルートグループを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。[OK] をクリックした場合は、Cisco Unified CallManager は、そのルートグループをルートグループリストから削除します。



(注) 該当するルートグループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ルートグループの検索と一覧表示 (Find and List Route Groups)] ウィンドウから複数のルートグループを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのルートグループを削除できます。

追加情報

P.32-10 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

ルートグループ

- [ルートグループの検索 \(P.32-2\)](#)
- [ルートグループの設定 \(P.32-4\)](#)
- [ルートグループの設定値 \(P.32-5\)](#)
- [ルートグループへのデバイスの追加 \(P.32-7\)](#)
- [ルートグループからのデバイスの削除 \(P.32-8\)](#)
- [ルートグループの削除 \(P.32-9\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ルートリスト

- [ルートリストの追加 \(P.33-4\)](#)
- [ルートリストへのルートグループの追加 \(P.33-6\)](#)



ルート リストの設定

ルート リストは、優先順位が指定されている 1 組のルート グループに関連付けられます。また、ルート リストは、1 つ以上のルート パターンに関連付けられ、そのルート グループがアクセスされる順位を決定します。この順位は、発信コールに使用可能なデバイスを検索するときの進行を制御します。

ルート リストには、ルート グループだけを入れることができます。

各ルート リストには、少なくとも 1 つのルート グループを入れる必要があります。各ルート グループには、少なくとも 1 つのデバイス、たとえば、使用可能なゲートウェイが含まれます。Cisco Unified CallManager は、デバイス タイプに基づいて、各ルート グループ内で、一部またはすべてのポートをリソースとして選択できます。一部のデバイス（たとえば、デジタル アクセス）では、すべてのポートの選択しかできません。

ルート グループは、任意の数のルート リストに追加できます。

ルート リストの追加または削除、リスト内のルート グループの追加、削除、または順序の変更をするには、次のトピックを参照してください。

- [ルート リストの検索 \(P.33-2\)](#)
- [ルート リストの追加 \(P.33-4\)](#)
- [ルート リストへのルート グループの追加 \(P.33-6\)](#)
- [ルート リストからのルート グループの削除 \(P.33-8\)](#)
- [ルート リスト内のルート グループの順位の変更 \(P.33-9\)](#)
- [ルート リストの削除 \(P.33-10\)](#)

ルートリストの検索

ネットワーク内にはいくつかのルートリストが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のルートリストを見つけることができます。ルートリストを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ルートリストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルートリストの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ルートリスト] の順に選択します。

[ルートリストの検索と一覧表示 (Find and List Route Lists)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ルートリストを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象 : ルートリスト、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [説明]



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるルートリストの一覧のソート方法が決まります。たとえば、[説明] を選択すると、[説明 (Description)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象 : ルートリスト、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているルートリストをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたルートリストの一覧が、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]

- [説明 (Description)]
- [ステータス (Status)]
- [有効 (Enabled)]

**ヒント**

検索結果内でルート リストを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。

**(注)**

該当するルートリストの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ルートリストの検索と一覧表示 (Find and List Route Lists)] ウィンドウから複数のルートリストを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のルート リストをすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するルート リストをクリックします。

選択したルート リストがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.33-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルートリストの追加

ルートリストを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート/ハント] > [ルートリスト] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

ステップ 3 [名前] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-) および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートリスト名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。



ワンポイント・アドバイス

ルートリストには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ルートリストをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetro」は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access Transport Area) 間の無料コール用のルートリストを特定します。

Cisco Unified CallManager は、自動的に [説明] フィールドに説明を挿入します。ただし、このフィールドの編集は可能です。

ステップ 4 ドロップダウンリストボックスから、Cisco Unified CallManager グループを選択します。



(注) ルートリストは、グループで最初の Cisco Unified CallManager に登録されます。これは、そのグループのプライマリ Cisco Unified CallManager です。



(注) Cisco Unified CallManager が 1 つしか設定されていない Cisco Unified CallManager グループを選択すると、次の警告が表示されます。

警告: 選択された Cisco Unified CallManager グループに Cisco Unified CallManager が 1 つしか設定されていません。制御プロセスに冗長性保護を持たせるため、2 つ以上の Cisco Unified CallManager を含む Cisco Unified CallManager グループを選択してください。

ステップ 5 [保存] をクリックして、このルートリストを追加します。



(注) コールを受信させるため、このルートリストにルートグループを少なくとも 1 つ追加する必要があることを示すポップアップメッセージが表示されます。

[ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウに、新しく追加されたルートリストが表示されます。

ステップ 6 新しいルートリストの [このルートリストを有効にする (Enable this Route List)] チェックボックスは、デフォルトでオンになっています。

このルートリストを使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフにします。進行中のコールは影響を受けないが、このルートリストが追加のコールを受け付けなくなることを示す、ポップアップウィンドウが表示されます。

ステップ 7 新しいルートリストに少なくとも 1 つのルートグループを追加します。

このリストにルートグループを追加するには、[**ルートグループを追加**] をクリックし、P.33-6 の「**ルートリストへのルートグループの追加**」の**ステップ 4 ~ ステップ 8**を実行します。



(注) 着信側と発信側の変換情報を参照するには、このルートリストに属しているルートグループの名前をクリックします。ルートグループの名前は、[ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウの一番下にある [ルートリスト詳細 (Route List Details)] リストボックスに表示されています。この操作によって、選択したルートグループの [ルートリスト詳細の設定 (Route List Detail Configuration)] ウィンドウが表示されます。

追加情報

P.33-11 の「**関連項目**」を参照してください。

ルートリストへのルートグループの追加

新規のルートリストまたは既存のルートリストに、ルートグループを追加することができます。ルートグループは、1 つ以上のルートリストに組み込むことができます。既存のルートリストにルートグループを追加する手順は、次のとおりです。



(注) QSIG プロトコルを使用する MGCP ゲートウェイを含むルートグループ (QSIG ルートグループ) と、H.323 プロトコルを使用するゲートウェイを含むルートグループ (H.323 ルートグループ) を、同じルートリストに追加することはできません。詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「ルートグループとルートリスト」を参照してください。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つのルートグループを作成し、ルートリストを追加しておく必要があります。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ルートリスト] の順に選択します。

ステップ 2 ルートグループを追加する先のルートリストを特定します。P.33-2 の「ルートリストの検索」を参照してください。

ステップ 3 [ルートグループの追加] をクリックして、ルートグループを追加します。

[ルートリスト詳細の設定 (Route List Detail Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [ルートグループ (Route Group)] ドロップダウン リスト ボックスから、ルートリストに追加するルートグループを選択します。



(注) ルートリストに QSIG ルートグループが含まれている場合、H.323 ルートグループはドロップダウン リストボックスに表示されません。ルートグループに H.323 ルートグループが含まれている場合、QSIG ルートグループはドロップダウン リストボックスに表示されません。

ステップ 5 このルートグループを介してルーティングされるコールについて、発信側の番号を操作する必要がある場合は、該当するフィールドで、発信側変換をセットアップします。



(注) 発信側変換の詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「発信側および着信側の変換」を参照してください。

ステップ 6 このルートグループを介してルーティングされるコールについて、ダイヤルされる数字を操作する必要がある場合は、該当するフィールドで、着信側変換をセットアップします。



(注) 着信側変換の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「着信側番号の変換設定値」を参照してください。

ステップ 7 [保存] をクリックして、ルートグループを追加します。

ウィンドウの下部にある [ルートリスト詳細 (Route List Details)] リストに、ルートグループの詳細情報が表示されます。

ステップ 8 このリストにルートグループをさらに追加するには、[ルートグループの追加] をクリックし、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 7](#) を実行します。

ステップ 9 ルートリストへのルートグループの追加が終了したら、[保存] をクリックします。

ステップ 10 [リセット] をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップウィンドウが表示されたら、[リセット] をクリックします。

追加情報

[P.33-11](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルートリストからのルートグループの削除

新規のルートリストまたは既存のルートリストから、ルートグループを削除することができます。既存のルートリストからルートグループを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーから[コールルーティング]>[ルート/ハント]>[ルートリスト]の順に選択します。

ステップ 2 削除するルートグループが入っているルートリストを特定します。P.33-2の「[ルートリストの検索](#)」を参照してください。

ステップ 3 [選択されたグループ (Selected Groups)] リストから、ルートグループ名を選択します。



(注) このリストから複数のルートグループを選択するには、Shift キーを押し、目的のルートグループをクリックしてください。

ステップ 4 [選択されたグループ (Selected Groups)] リストボックスの下にある下矢印をクリックして、選択したルートグループを [削除されたグループ (Removed Groups)] リストに移動します。

ステップ 5 ルートグループを削除するには、[保存] をクリックします。ページがリフレッシュされたときに、そのルートグループがルートリストから削除されています。

ステップ 6 [リセット] をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウの [リセット] をクリックします。

追加情報

P.33-11の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルートリスト内のルートグループの順位の変更

Cisco Unified CallManager は、ルートリストに表示されている順に、ルートグループにアクセスします。ルートグループのアクセス順位を変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ルートリスト] の順に選択します。
- ステップ 2** ルートグループの順位を変更するルートリストを特定します。P.33-2 の「ルートリストの検索」を参照してください。
- ステップ 3** [選択されたグループ (Selected Groups)] リストから、ルートグループを選択します。
- ステップ 4** リスト内でルートグループを上下に移動させるには、ルートグループを選択して、リストボックスの右側にある上矢印または下矢印をクリックします。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。



- (注)** 着信側と発信側の変換情報については、左側にある [ルートリスト詳細 (Route List Details)] リストのルートグループアイコンまたはルートグループ名をクリックしてください。この操作により、対応するルートグループの [ルートリスト詳細の設定 (Route List Detail Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 6** [リセット] をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウの [リセット] をクリックします。

追加情報

P.33-11 の「関連項目」を参照してください。

ルートリストの削除

Cisco Unified CallManager は、ルート リストをルート パターンに関連付けます。ルート リストがルート パターンに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。ルート リストを使用しているルート パターンを検索するには、[ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムに対して使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。



ヒント

ルート グループとルート パターンを削除するには、まずルート パターンを削除し、次にルート リストを削除して、最後にルート グループを削除します。

ルート リストを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ルートリスト] の順に選択します。

ステップ 2 削除するルート リストを特定します。P.33-2 の「[ルートリストの検索](#)」を参照してください。

ステップ 3 [選択項目の削除] をクリックします。

ルート リストを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 ルート リストを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



注意

ルート リストが 1 つ以上のルート パターンに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。

追加情報

P.33-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ルートリストの検索 \(P.33-2\)](#)
- [ルートリストの追加 \(P.33-4\)](#)
- [ルートリストへのルートグループの追加 \(P.33-6\)](#)
- [ルートリストからのルートグループの削除 \(P.33-8\)](#)
- [ルートリスト内のルートグループの順位の変更 \(P.33-9\)](#)
- [ルートリストの削除 \(P.33-10\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンスとルートリストの連動について」



ルート パターンの設定

ルートパターンは、アドレスを表す数字のストリングと、ルートリストまたはゲートウェイにコールをルート指定するように関連付けられた数字操作のセットから構成されています。このルートパターンは、ネットワークの設計に柔軟性をもたらします。ルートパターンは、ルートフィルタおよびルートリストと連動して、コールを特定のデバイスに誘導し、特定の数字パターンの組み込み、除外、または変更を行います。

ルートパターンの詳細については、『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「ルートプランの概要」を参照してください。

ルートパターンを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [ルートパターンの検索 \(P.34-2\)](#)
- [ルートパターンの設定 \(P.34-4\)](#)
- [ルートパターンの設定値 \(P.34-5\)](#)
- [ルートパターンの削除 \(P.34-13\)](#)

ルート パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかのルート パターンが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のルート パターンを見つけることができます。ルート パターンを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、ルート パターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルート パターンの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ルートパターン] の順に選択します。

[ルートパターンの検索と一覧表示 (Find and List Route Patterns)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン選択ボックスを使用して、ルート パターンを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象 : ルートパターン、検索条件 :] ドロップダウン選択ボックスから、[パターン] [説明]、または [パーティション] を選択します。



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるルート パターン リストのソート方法が決まります。たとえば、[説明] を選択すると、[説明 (Description)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

ステップ 3 2 番目の [検索対象 : ルートパターン、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているルート パターンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたルート パターンのリストが、次の項目別に表示されます。

- [パターン (Pattern)]

- [パーティション (Partition)]
- [説明 (Description)]
- [ルートフィルタ (Route Filter)]
- [ゲートウェイ / ルートリスト (Gateway/Route List)]



ヒント 検索結果内でルート パターンを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するルート パターンの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ルートパターンの検索と一覧表示 (Find and List Route Patterns)] ウィンドウから複数のルート パターンを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのルート パターンを削除できます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件と一致するルート パターンをクリックします。

選択したルート パターンがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.34-13 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルート パターンの設定

ルート パターンを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified CallManager で次の項目が設定されていることを確認してください。

- ゲートウェイ
- ルート リスト
- パーティション ([<None>] を使用しない場合)
- ルート フィルタ ([<None>] を使用しない場合)



ワンポイント・アドバイス

ゲートウェイに 8XXX を割り当てると、電話番号 8000 ~ 8999 がすべて、そのゲートウェイの外にルート指定されます。同様に、82XX は、電話番号 8200 ~ 8299 をルーティングします。ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「特殊文字と設定値」を参照してください。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ルートパターン] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のルート パターンをコピーするには、対象となるルート パターンを見つけて (P.34-2 の「ルート パターンの検索」を参照)、コピーするルート パターンの横にある [コピー] ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しいルート パターンを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存のルート パターンを更新するには、対象となるルート パターンを見つけて (P.34-2 の「ルート パターンの検索」を参照)、ステップ 3 に進みます。



(注) [ゲートウェイ / ルートリスト (Gateway/Route List)] フィールドの値を変更する場合は、[編集] リンクを選択する前に、[保存] をクリックしておく必要があります。[保存] をクリックしておかないと、直前の [ゲートウェイ / ルートリスト (Gateway/Route List)] フィールドにリンクします。

ステップ 3 表示される [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します (表 34-1 を参照)。



(注) [ゲートウェイ / ルートリスト (Gateway/Route List)] フィールドの横にある [(編集)] リンクを使用すると、ゲートウェイが含まれているか、ルート リストが含まれているかに応じて、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウまたは [ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウが確認のために表示されます。[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウには、指定したゲートウェイに関連付けられているデバイスが表示されます。[ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウには、指定したルート リストに関連付けられているルート グループが表示されます。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.34-13 の「関連項目」を参照してください。

ルート パターンの設定値

表 34-1 では、[ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。

表 34-1 ルート パターンの設定値


フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[ルートパターン (Route Pattern)]	<p>数字とワイルドカード(スペースを使用しない)を含むルートパターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカル アクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベート ネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、および D を指定できます。</p> <p> (注) 選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用するディレクトリ ルート パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ルート パターン、変換パターン、電話番号、コール パーク番号、コール ピックアップ番号、メッセージ受信のオン / オフ、またはミートミー番号をチェックしてください。また、必要に応じてルート プラン レポートもチェックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。

表 34-1 ルート パターンの設定値 (続き)




フィールド	説明
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>パーティションを使用してルート パターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。ルート パターンへのアクセスを制限しない場合は、パーティションの代わりに [<None>] を選択します。パーティションの使用方法の詳細については、P.41-1 の「パーティションの設定」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p> <p> (注) ルート パターン、ルート フィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[説明 (Description)]	ルート パターンの説明を入力します。
[番号計画 (Numbering Plan)]	番号計画を選択します。
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>ルート パターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルート フィルタを選択できます。オプションでルート フィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルート フィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>

表 34-1 ルート パターンの設定値 (続き)



フィールド	説明
[MLPP 優先度 (MLPP Precedence)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このルート パターンに対する MLPP 優先度の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Executive Override]: MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 • [Flash Override]: MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 • [Flash]: MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 • [Immediate]: MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 • [Priority]: MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 • [Routine]: MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 • [Default]: 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 <p> (注) 詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の「優先順位」を参照してください。</p>
[ゲートウェイ/ルートリスト (Gateway/Route List)]	<p>ルート パターンを追加するゲートウェイまたはルート リストを選択します。</p> <p> (注) ゲートウェイがルート グループに含まれている場合、そのゲートウェイはドロップダウン リスト ボックスに表示されません。このドロップダウン リスト ボックスでゲートウェイが選択されると、Cisco Unified CallManager はそのゲートウェイ内のポート全部を使用してこのルート パターンをルーティングまたはブロックします。この操作は、MGCP ゲートウェイには適用されません。</p>
[ルートオプション (Route Option)]	<p>この [ルートオプション (Route Option)] の指定内容が、このルート パターンをコールのルーティング (9.@ や 8 [2-9] XX など) またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。[このパターンをルーティング (Route this pattern)] または [このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択してください。</p> <p>[このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択した場合、このルート パターンをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。ドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Error] • [Unallocated Number] • [Call Rejected] • [Number Changed] • [Invalid Number Format] • [Precedence Level Exceeded]

表 34-1 ルートパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールの分類 (Call Classification)]	[コールの分類 (Call Classification)] は、このルートパターンを介してルート指定されるコールが、ローカルネットワーク上にない ([OffNet]) と見なされるか、ある ([OnNet]) と見なされるかを示します。デフォルト値は [OffNet] です。ルートパターンを追加する場合は、[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)] チェックボックスをオフにすると、[コールの分類 (Call Classification)] が [OnNet] に設定されます。
[デバイスの上書きを許可 (Allow Device Override)]	このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。このチェックボックスをオンにすると、関連ゲートウェイまたはトランク上で、発信コールが [OffNet] または [OnNet] であると見なすように設定された [コールの分類 (Call Classification)] 設定値が使用されます。
[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)]	外部ダイヤルトーンを提供するには、このチェックボックスをオンにします。ネットワーク内のコールをルーティングする場合は、このチェックボックスをオフのままにしておきます。
[オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending)]	オーバーラップ送信が有効になっている場合、Cisco Unified CallManager は、コールを PSTN に渡すときに PSTN のオーバーラップ送信に依存して、収集する数字の数とコールのルーティング先を決定します。オーバーラップ送信をサポートしている PSTN にコールをルーティングするゲートウェイまたはルートリストに割り当てられていると思われる各ルートパターンに対して、このチェックボックスをオンにします。 Cisco Unified CallManager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、CMC および FAC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。[FAC が必須 (Require Forced Authorization Code)] または [CMC が必須 (Require Client Matter Code)] チェックボックスをオンにすると、[オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending)] チェックボックスは使用不可になります。
[緊急優先 (Urgent Priority)]	ダイヤルプランにルートパターンが重複して含まれている場合、数字列をダイヤルして現在の一致を選択できる場合にも、Cisco Unified CallManager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません。Cisco Unified CallManager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。
[FAC が必須 (Require Forced Authorization Code)]	このルートパターンで Forced Authorization Code を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 Cisco Unified CallManager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、FAC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。[オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending)] チェックボックスをオンにすると、[FAC が必須 (Require Forced Authorization Code)] チェックボックスは使用不可になります。

表 34-1 ルート パターンの設定値 (続き)




フィールド	説明
[認証レベル (Authorization Level)]	<p>ルート パターンの許可レベルを入力します。このフィールドに指定する数値によって、このルート パターンを介して正常にコールをルート指定するために必要な最小限の許可レベルが決まります。</p> <p> ヒント 許可コードをアクティブにするには、[FACが必須 (Require Forced Authorization Code)] チェックボックスをオンにする必要があります。このチェックボックスをオンにしない場合、ルート パターンの挿入時に、許可コードをアクティブにできないことを知らせるメッセージが表示されます。コードをアクティブにするには、[キャンセル] をクリックし、[FAC が必須 (Require Forced Authorization Code)] チェックボックスをオンにして、[挿入] をクリックします。後でコードをアクティブにするには、[OK] をクリックします。</p>
[CMC が必須 (Require Client Matter Code)]	<p>このルート パターンで Client Matter Code を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified CallManager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、CMC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。[オーバーラップ送信を許可 (Allow Overlap Sending)] チェックボックスをオンにすると、[CMC が必須 (Require Client Matter Code)] チェックボックスは使用不可になります。</p>
[発呼側変換 (Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	<p>発信コールで完全な外線電話番号を CLID (発呼側回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で外線電話番号マスクを設定することもできます。</p> <p> (注) ルート リスト内のルート グループに割り当てられる発信側変換設定値は、そのリストに関連したルート パターンに割り当てられている発信側変換設定値をすべて上書きします。</p>
[発呼側変換マスク (Calling Party Transform Mask)]	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」を参照してください。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

表 34-1 ルートパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR(発呼側の回線 ID 表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このルートパターンに対して、Cisco Unified CallManager が発呼側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager で発呼側の電話番号が表示されるようになる場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発呼側の電話番号を表示しないようになる場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「発呼側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>
[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR(発呼側の名前表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco Unified CallManager が発呼側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発呼側の名前表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager で発呼側の名前情報を表示させる場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発呼側の名前情報を表示しないようになる場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「発呼側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>
[接続側変換 (Connected Party Transformations)]	
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR (接続側の回線 ID 表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco Unified CallManager が接続側の電話番号を発呼側の表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が接続側の電話番号を表示しないようになる場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>

表 34-1 ルート パターンの設定値 (続き)



フィールド	説明
[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR (接続側の名前表示) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このルート パターンに対して、Cisco Unified CallManager が接続側の名前を発信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。接続側の名前を表示する場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>
[着信側変換 (Called Party Transformations)]	
[番号の削除 (Discard Digits)]	<p>[番号の削除 (Discard Digits)] ドロップダウン リスト ボックスから、このルート パターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。表示される数字破棄命令は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。北米番号計画の数字破棄命令の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p> (注) ルート リスト内のルート グループに割り当てられる着信側変換設定値は、そのリストに関連したルート パターンに割り当てられている着信側変換設定値をすべて上書きします。</p>
[着信側変換マスク (Called Party Transform Mask)]	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、および空白です。このフィールドが空白である場合、変換は行われません。Cisco Unified CallManager は、ダイヤルされた通りの数字を正確に送信します。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、および空白です。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
[ISDN ネットワーク固有ファシリティの情報要素 (ISDN Network-Specific Facilities Information Element)]	
[ネットワークサービスプロトコル (Network Service Protocol)]	<p>[ネットワークサービスプロトコル (Network Service Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、着側ゲートウェイのプロトコルと一致する PRI プロトコルを選択します。</p>

表 34-1 ルートパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[通信事業者識別コード (Carrier Identification Code)]	<p>該当する通信事業者識別コード (0、3、または 4 桁) を [通信事業者識別コード (Carrier Identification Code)] フィールドに入力します。通信事業者識別コードを使用すると、お客様は長距離電話会社のサービスにアクセスできます。</p> <p>次のリストは、よく使用される通信事業者識別コードの例です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ATT : 0288 • Sprint : 0333 • WorldCom/MCI : 0222 <p>NANP 通信事業者識別コードの完全なリストは、http://www.nanpa.com/ を参照してください。</p>
[ネットワークサービス (Network Service)]	適切なネットワーク サービスを選択します。この値は、[ネットワークサービスプロトコル (Network Service Protocol)] フィールドで選択したネットワーク サービス プロトコルによって異なります。
[サービスパラメータ名 (Service Parameter Name)]	このフィールドには、選択したネットワーク サービスに関連するサービス パラメータ名が表示されます。ネットワーク サービスのサービス パラメータが存在しない場合、このフィールドには [< 存在しない >] が表示されます。
[サービスパラメータ値 (Service Parameter Value)]	適切なサービス パラメータ値を入力します。有効な入力値は、0 ~ 9 の数字です。ネットワーク サービスのサービス パラメータが存在しない場合、このフィールドは Cisco Unified CallManager の管理ページによって無効にされます。

追加情報

P.34-13 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ルートパターンの削除

ルートパターンを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング]>[ルート/ハント]>[ルートパターン]の順に選択します。

ステップ 2 削除するルートパターンを見つけます。P.34-2 の「[ルートパターンの検索](#)」を参照してください。

ステップ 3 削除するルートパターンのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除]をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 ルートパターンを削除するには、[OK]をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル]をクリックします。



ヒント ルートパターンの削除は、削除するルートパターンを特定して表示し、[削除]をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

P.34-13 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ルートパターンの検索 \(P.34-2\)](#)
- [ルートパターンの設定 \(P.34-4\)](#)
- [ルートパターンの設定値 \(P.34-5\)](#)
- [ルートパターンの削除 \(P.34-13\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルートフィルタの設定 \(P.31-3\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」



回線グループの設定

回線グループの設定では、電話番号が選択される順序を指定します。Cisco Unified CallManager は、コール分散アルゴリズムおよび [RNA 復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)] 設定に基づいて、回線グループのアイドルまたは対応可能状態のメンバーに対して、コールを分散します。

回線グループの追加または削除、回線グループへの電話番号の追加、回線グループからの電話番号の削除については、次のトピックを参照してください。

- [回線グループの検索 \(P.35-2 \)](#)
- [回線グループの設定 \(P.35-3 \)](#)
- [回線グループの設定値 \(P.35-4 \)](#)
- [回線グループへのメンバーの追加 \(P.35-9 \)](#)
- [回線グループからのメンバーの削除 \(P.35-10 \)](#)
- [回線グループの削除 \(P.35-11 \)](#)

回線グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの回線グループが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定の回線グループを見つけることができます。回線グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、回線グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、回線グループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [回線グループ] の順に選択します。

[回線グループの検索と一覧表示 (Find and List Line Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているすべての回線グループを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックしてください。

検出された回線グループのリストが、回線グループ別に表示されます。



ヒント

検索結果内で回線グループを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当する回線グループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[回線グループの検索と一覧表示 (Find and List Line Groups)] ウィンドウから複数の回線グループを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての回線グループを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する回線グループをクリックします。

選択した回線グループがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.35-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

回線グループの設定

回線グループを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つの電話番号を指定しておく必要があります。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [回線グループ] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の回線グループをコピーするには、対象となる回線グループを見つけて (P.35-2 の「[回線グループの検索](#)」を参照)、コピーする回線グループの横にある [コピー] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しい回線グループを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の回線グループを更新するには、対象となる回線グループを見つけて (P.35-2 の「[回線グループの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 表示される [回線グループの設定 (Line Group Configuration)] ウィンドウで、[回線グループ名 (Line Group Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各回線グループ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。



ワンポイント・アドバイス

回線グループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationGroup の形式が、内容を簡潔に表し、回線グループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasAA1」は、Dallas にある Cisco オフィス用の Cisco Access Analog 回線グループを示します。

ステップ 4 適切な設定値を選択します ([表 35-1](#) を参照)。

ステップ 5 [保存] をクリックして、この回線グループを追加または更新します。

追加情報

P.35-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

回線グループの設定値

表 35-1 では、回線グループの設定値について説明します。

表 35-1 回線グループの設定値

フィールド	説明
[回線グループ情報 (Line Group Information)]	
[回線グループ名 (Line Group Name)]	この回線グループの名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-) および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各回線グループ名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。
[RNA 復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)]	コールの応答がない場合や、最初のハント オプション ([Try next member; then, try next group in Hunt List]) が選択されている場合に、この回線グループで次に対応可能またはアイドル状態のメンバー、または次の回線グループに対して、Cisco Unified CallManager がコールの分散を開始するまでの時間を、秒単位で入力します。[RNA 復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)] は、回線グループ レベルで、すべてのメンバーに適用されます。
[分配アルゴリズム (Distribution Algorithm)]	ドロップダウン リスト ボックスで、回線グループ レベルで適用される次の分散アルゴリズムのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Top Down]: この分散アルゴリズムを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified CallManager がメンバーに対してコールを分散します。 [Circular]: この分散アルゴリズムを選択すると、Cisco Unified CallManager は、アイドルまたは対応可能状態のメンバーに対するコールの分散を、回線グループの ($n+1$) 番目のメンバーから開始します。 n 番目のメンバーは、Cisco Unified CallManager が最後にコールを延長したメンバーです。 n 番目のメンバーが、回線グループの最後のメンバーの場合、Cisco Unified CallManager は回線グループの先頭からコールの分散を開始します。 [Longest Idle Time]: この分散アルゴリズムを選択すると、回線グループでアイドル時間が最長のメンバーから最短のメンバーまで、Cisco Unified CallManager がアイドル状態のメンバーだけにコールを分散します。 [Broadcast]: この分散アルゴリズムを選択すると、Cisco Unified CallManager は、回線グループでアイドルまたは対応可能状態のすべてのメンバーに対して、同時にコールを分散します。ブロードキャスト分散アルゴリズムを使用する場合のその他の制限事項については、[選択された DN/ ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] フィールドの説明にある注を参照してください。 <p>デフォルト値は、[Longest Idle Time] です。</p>

表 35-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ハントオプション (Hunt Options)]	
[応答なし (No Answer)]	<p>任意の分散アルゴリズムに対して、応答のない回線グループのメンバーにコールが分散されている場合に使用する Cisco Unified CallManager のハント オプションを選択します。このオプションは、メンバー レベルで適用されます。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Try next member; then, try next group in Hunt List]: このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified CallManager がメンバーに対してコールを分散します。分散に失敗した場合、Cisco Unified CallManager はハント リスト内の次の回線グループに対して分散を試行します。 • [Try next member, but do not go to next group]: このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified CallManager がメンバーに対してコールを分散します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco Unified CallManager は分散を停止します。 • [Skip remaining members, and go directly to next group]: このハント オプションを選択すると、この回線グループの最初のメンバーに対する分散の試行時間が [RNA 復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)] の設定値を経過した場合、Cisco Unified CallManager が残りのメンバーをスキップします。Cisco Unified CallManager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。 • [Stop hunting]: このハント オプションを選択すると、Cisco Unified CallManager は、この回線グループの最初のメンバー、およびコールに応答しないメンバーに対してコールの分散を試行した後、ハントを停止します。


表 35-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[話し中 (Busy)]	<p>任意の分散アルゴリズムに対して、ビジー状態の回線グループのメンバーにコールが分散されている場合に使用する Cisco Unified CallManager のハント オプションを選択します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Try next member; then, try next group in Hunt List]: このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified CallManager がメンバーに対してコールを分散します。分散に失敗した場合、Cisco Unified CallManager はハント リスト内の次の回線グループに対して分散を試行します。 • [Try next member, but do not go to next group]: このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified CallManager がメンバーに対してコールを分散します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco Unified CallManager は分散を停止します。 • [Skip remaining members, and go directly to next group]: このハント オプションを選択すると、ビジー状態のメンバーがいた場合、Cisco Unified CallManager はこの回線グループの残りのメンバーをスキップします。Cisco Unified CallManager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。 • [Stop hunting]: このハント オプションを選択すると、Cisco Unified CallManager は、この回線グループでビジー状態の最初のメンバーに対してコールの分散を試行した後、ハントを停止します。

表 35-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[使用不可 (Not Available)]	<p>任意の分散アルゴリズムに対して、対応可能状態ではない回線グループのメンバーにコールが分散されている場合に使用する Cisco Unified CallManager のハント オプションを選択します。[使用不可 (Not Available)] 状態が発生するのは、該当する DN に関連付けられている電話機が、すべて未登録である場合です。また、エクステンション モビリティを使用しているときに、DN またはユーザがログインしていない場合も [使用不可 (Not Available)] になります。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Try next member; then, try next group in Hunt List]: このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified CallManager がメンバーに対してコールを分散します。分散に失敗した場合、Cisco Unified CallManager はハント リスト内の次の回線グループに対して分散を試行します。 [Try next member, but do not go to next group]: このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco Unified CallManager がメンバーに対してコールを分散します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco Unified CallManager は分散を停止します。 [Skip remaining members, and go directly to next group]: このハント オプションを選択すると、対応可能状態にないメンバーがいた場合、Cisco Unified CallManager はこの回線グループの残りのメンバーをスキップします。Cisco Unified CallManager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。 [Stop hunting]: このハント オプションを選択すると、Cisco Unified CallManager は、この回線グループで対応可能状態にない最初のメンバーに対してコールの分散を試行した後、ハントを停止します。
[回線グループメンバー情報 (Line Group Member Information)]	
[回線グループに追加する電話番号の検索 (Find Directory Numbers to Add to Line Group)]	
[Partition]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この回線グループのルートパーティションを選択します。デフォルト値は、[<None>] です。</p> <p>[検索] をクリックすると、[使用可能 DN/ ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リスト ボックスに、選択されたパーティションに属する電話番号 (DN) がすべて表示されます。</p>
[次を含む電話番号 (Directory Number Contains)]	<p>検索する電話番号に含まれる文字を入力し、[検索] ボタンをクリックします。入力した文字と一致する電話番号が [使用可能 DN/ ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] ボックスに表示されます。</p>
[使用可能 DN/ ルートパーティション (Available DN/Route Partition)]	<p>[使用可能 DN/ ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リスト ボックスで電話番号を選択し、[回線グループに追加] をクリックして、その電話番号を [選択された DN/ ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックスに追加します。</p>

表 35-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[現在の回線グループメンバー (Current Line Group Members)]	
[選択された DN/ ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)]	<p>電話番号の優先順位を変更するには、[選択された DN/ ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックス内の電話番号を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でその電話番号を上下に移動させてください。</p> <p>[選択された DN/ ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックス内の電話番号の優先順位を逆転するには、[選択された DN/ ルートパーティションの順番を逆にする] をクリックします。</p> <p>回線グループ内の電話番号の順序の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概説」を参照してください。</p> <p></p> <p>(注) 共有回線の DN は、ブロードキャスト分散アルゴリズムを使用している回線グループには入れないでください。DN が、[ブロードキャスト] 分散アルゴリズムを使用している回線グループのメンバーである場合、Cisco Unified CallManager は、その DN が共有回線として設定されているデバイス上にある共有回線の DN を、すべて表示することができません。</p>
[削除された DN/ ルートパーティション (Removed DN/Route Partition) ([保存] をクリックしたときに、回線グループから削除)]	[選択された DN/ ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックスで電話番号を選択し、その電話番号を [削除された DN/ ルートパーティション (Removed DN/Route Partition)] リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある下矢印をクリックします。
[電話番号 (Directory Numbers)]	
(この回線グループに属している DN のリスト)	所定の電話番号の [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウに移動するには、このリスト内の電話番号をクリックします。

追加情報

P.35-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

回線グループへのメンバーの追加

新規または既存の回線グループに、メンバーを追加することができます。既存の回線グループにメンバーを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つの電話番号を指定しておく必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [回線グループ] の順に選択します。
 - ステップ 2** メンバーを追加する先の回線グループを特定します。P.35-2 の「[回線グループの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** 電話番号を特定する必要がある場合は、[Partition] ドロップダウン リスト ボックスからルートパーティションを選択し、[次を含む電話番号 (Directory Number Contains)] フィールドに検索文字列を入力して、[検索] をクリックします。パーティションに属する電話番号をすべて検索するには、[次を含む電話番号 (Directory Number Contains)] フィールドを空白のままにして、[検索] をクリックします。

[使用可能 DN / ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リスト ボックスに、一致する電話番号のリストが表示されます。
 - ステップ 4** [使用可能 DN / ルートパーティション (Available DN/Route Partition)] リスト ボックスで追加する電話番号を選択し、[回線グループに追加] をクリックして、その電話番号を [選択された DN / ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックスへ移動します。この回線グループに追加する各メンバーに対して、この手順を繰り返します。
 - ステップ 5** [選択された DN / ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックスで、新しい電話番号がこの回線グループ内でアクセスされる順序を選択します。順序を変更するには、電話番号をクリックしてから、リスト ボックスの右側にある上矢印または下矢印を使用して、電話番号を移動します。
 - ステップ 6** [保存] をクリックして、新しい電話番号を追加し、この回線グループの電話番号の順序を更新します。
-

追加情報

P.35-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

回線グループからのメンバーの削除

新規または既存の回線グループから、メンバーを削除することができます。既存の回線グループから電話番号を削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [回線グループ] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する電話番号が入っている回線グループを特定します。P.35-2 の「[回線グループの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** [選択された DN / ルートパーティション (Selected DN/Route Partition)] リスト ボックスで削除する電話番号を選択し、リスト ボックスの下にある下矢印をクリックして、[削除された DN / ルートパーティション (Removed DN/Route Partition)] リスト ボックスへ電話番号を移動します。この回線グループから削除する各メンバーに対して、この手順を繰り返してください。
- ステップ 4** メンバーを削除するには、[保存] をクリックします。
-

追加情報

P.35-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

回線グループの削除

回線グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数のルート/ハント リストが参照している回線グループは、削除することができません。回線グループを使用しているハント リストを検索するには、[回線グループの設定 (Line Group Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」を参照してください。使用されている回線グループを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用中の回線グループを削除する場合は、事前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- 回線グループを削除する前に、その回線グループが属しているすべてのハント リストから、その回線グループを削除する。P.33-8 の「ルート リストからのルートグループの削除」を参照してください。



ヒント

回線グループとハント パイロットを削除するには、まずハント パイロットを削除し、次にハント リストを削除して、最後に回線グループを削除します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート/ハント] > [回線グループ] の順に選択します。

ステップ 2 削除する回線グループを特定します。P.35-2 の「回線グループの検索」を参照してください。

ステップ 3 削除する回線グループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。

回線グループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 回線グループを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。[OK] をクリックすると、Cisco Unified CallManager により、回線グループが削除されます。



(注) 該当する回線グループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[回線グループの検索と一覧表示 (Find and List Line Groups)] ウィンドウから複数の回線グループを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての回線グループを削除できます。

追加情報

P.35-12 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

回線グループ

- [回線グループの検索 \(P.35-2 \)](#)
- [回線グループの設定 \(P.35-3 \)](#)
- [回線グループの設定値 \(P.35-4 \)](#)
- [回線グループへのメンバーの追加 \(P.35-9 \)](#)
- [回線グループからのメンバーの削除 \(P.35-10 \)](#)
- [回線グループの削除 \(P.35-11 \)](#)

ルート リストおよびルート グループ

- [ルート リストの追加 \(P.33-4 \)](#)
- [ルート リストへのルート グループの追加 \(P.33-6 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」



ハント リストの設定

ハント リストは、1 組の回線グループを特定の順序で一覧表示します。また、ハント リストは、1 つ以上のハント パイロットに関連付けられ、その回線グループがアクセスされる順位を決定します。この順位は、着信コールに使用可能な電話番号を検索するときの進行を制御します。

ハント リストは、回線グループによって定義された電話番号の集合から構成されます。Cisco Unified CallManager が指定ハント リストを使用してルーティングすべきコールを判別すると、そのリストに指定されている回線グループの順位に基づいて、Cisco Unified CallManager は最初に使用可能なデバイスを検出します。



(注) グループ コール ピックアップ機能は、ハント リストでは使用できません。

ハント リストには、回線グループだけを入れることができます。各ハント リストには、少なくとも 1 つの回線グループを入れる必要があります。各回線グループには、少なくとも 1 つの電話番号が含まれます。1 つの回線グループが複数のハント リストに表示される場合があります。

ハント リストの追加または削除、リスト内の回線グループの追加、削除、または順序の変更をするには、次のトピックを参照してください。

- [ハント リストの検索 \(P.36-2\)](#)
- [ハント リストの追加 \(P.36-4\)](#)
- [ハント リストへの回線グループの追加 \(P.36-6\)](#)
- [ハント リストからの回線グループの削除 \(P.36-7\)](#)
- [ハント リスト内の回線グループの順位の変更 \(P.36-8\)](#)
- [ハント リストの削除 \(P.36-9\)](#)

ハントリストの検索

ネットワーク内にはいくつかのハントリストが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のハントリストを見つけることができます。ハントリストを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ハントリストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ハントリストの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ハントリスト] の順に選択します。

[ハントリストの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Lists)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ハントリストを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象 : ハントリスト、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [説明]
- [パターン / パイロット番号]



(注) このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるハントリストの一覧のソート方法が決まります。たとえば、[説明] を選択すると、[説明 (Description)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象 : ハントリスト、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているハント リストをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたハントリストの一覧が、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [ステータス (Status)]
- [有効 (Enabled)]

**ヒント**

検索結果内でハントリストを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。

**(注)**

該当するハントリストの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ハントリストの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Lists)] ウィンドウから複数のハントリストを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のハントリストをすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するハントリストをクリックします。

選択したハントリストがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.36-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ハントリストの追加

ハントリストを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート/ハント] > [ハントリスト] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

ステップ 3 [名前 (Name)] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ハントリスト名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。



ワンポイント・アドバイス

ハントリストには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ハントリストをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetro」は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access Transport Area) 間の無料コール用のハントリストを特定します。

Cisco Unified CallManager は、自動的に [説明 (Description)] フィールドに説明を挿入します。ただし、このフィールドの編集は可能です。

ステップ 4 ドロップダウンリストボックスから、Cisco Unified CallManager グループを選択します。



(注) ハントリストは、プライマリ Cisco Unified CallManager として、Cisco Unified CallManager グループ内で最初の Cisco Unified CallManager に登録されます。



(注) Cisco Unified CallManager が 1 つしか設定されていない Cisco Unified CallManager グループを選択すると、次の警告が表示されます。

警告: 選択された Cisco Unified CallManager グループに Cisco Unified CallManager が 1 つしか設定されていません。冗長性確保のための制御プロセスのため、2 つ以上の Cisco Unified CallManager を含む Cisco Unified CallManager グループを選択してください。

ステップ 5 [保存] をクリックして、このハントリストを追加します。



(注) コールを受信させるため、このハントリストに回線グループを少なくとも 1 つ追加する必要がありますことを示すポップアップメッセージが表示されます。

[ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウに、新しく追加されたハントリストが表示されます。

ステップ 6 新しいハント リストの [このハントリストを有効にする (Enable this Hunt List)] チェックボックスは、デフォルトでオンになっています。

このハント リストを使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフにします。進行中のコールは影響を受けないが、このハント リストが追加のコールを受け付けなくなることを示す、ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 新しいハント リストに少なくとも 1 つの回線グループを追加します。

このリストに回線グループを追加するには、[回線グループの追加] をクリックし、P.36-6 の「ハント リストへの回線グループの追加」のステップ 3 ~ ステップ 6 を実行します。

追加情報

P.36-10 の「関連項目」を参照してください。

ハント リストへの回線グループの追加

新規のハント リストまたは既存のハント リストに、回線グループを追加することができます。回線グループは、1 つ以上のハント リストに組み込むことができます。既存のハント リストに回線グループを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に 1 つ以上の回線グループを作成し、ハント リストを追加しておく必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ハントリスト] の順に選択します。
 - ステップ 2** 回線グループを追加する先のハント リストを特定します。P.36-2 の「ハント リストの検索」を参照してください。
 - ステップ 3** [回線グループの追加] をクリックして、回線グループを追加します。

[ハントリスト詳細の設定 (Hunt List Detail Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 4** [回線グループ (Line Group)] ドロップダウン リスト ボックスから、ハント リストに追加する回線グループを選択します。
 - ステップ 5** [保存] をクリックして、回線グループを追加します。

ウィンドウの下部にある [ハントリスト詳細] リストに、回線グループ名が表示されます。
 - ステップ 6** このリストに回線グループをさらに追加するには、[回線グループの追加] をクリックし、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 5](#) を実行します。
 - ステップ 7** ハント リストへの回線グループの追加が終了したら、[保存] をクリックします。
 - ステップ 8** [リセット] をクリックして、ハント リストをリセットします。ポップアップ ウィンドウが表示されたら、[リセット] をクリックします。
-

追加情報

P.36-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ハントリストからの回線グループの削除

新規のハントリストまたは既存のハントリストから、回線グループを削除することができます。既存のハントリストから回線グループを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** メニューバーから [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ハントリスト] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する回線グループが入っているハントリストを特定します。P.36-2 の「ハントリストの検索」を参照してください。
- ステップ 3** [選択されたグループ (Selected Groups)] リストから、回線グループ名を選択します。



(注) このリストから複数の回線グループを選択するには、Shift キーを押し、目的の回線グループをクリックしてください。

- ステップ 4** [選択されたグループ (Selected Groups)] リスト ボックスの下にある下矢印をクリックして、選択した回線グループを [削除されたグループ (Removed Groups)] リストに移動します。
- ステップ 5** 回線グループを削除するには、[保存] をクリックします。[OK] をクリックすると、ページがリフレッシュされたときに、その回線グループがハントリストから削除されています。
- ステップ 6** [リセット] をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウの [リセット] をクリックします。

追加情報

P.36-10 の「関連項目」を参照してください。

ハント リスト内の回線グループの順位の変更

Cisco Unified CallManager は、ハント リストに表示されている順に、回線グループにアクセスします。回線グループのアクセス順位を変更する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [コールルーティング] > [ルート/ハント] > [ハントリスト] の順に選択します。
 - ステップ 2** 回線グループの順位を変更するハント リストを特定します。P.36-2 の「ハント リストの検索」を参照してください。
 - ステップ 3** [選択されたグループ (Selected Groups)] リストから、回線グループを選択します。
 - ステップ 4** リスト内で回線グループを上下に移動させるには、回線グループを選択して、リスト ボックスの右側にある上矢印または下矢印をクリックします。
 - ステップ 5** [保存] をクリックします。
 - ステップ 6** [リセット] をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウの [リセット] をクリックします。
-

追加情報

P.36-10 の「関連項目」を参照してください。

ハントリストの削除

Cisco Unified CallManager は、回線グループおよびハントパイロットにハントリストを関連付けます。ただし、ハントリストが削除されても、回線グループおよびハントパイロットは削除されません。ハントリストを使用しているハントパイロットを検索するには、[ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムに対して使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。



ヒント

回線グループとハントパイロットを削除するには、まずハントパイロットを削除し、次にハントリストを削除して、最後に回線グループを削除します。

ハントリストを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート/ハント] > [ハントリスト] の順に選択します。

ステップ 2 削除するハントリストを見つけます。P.36-2 の「[ハントリストの検索](#)」を参照してください。

ステップ 3 [削除] をクリックします。

ハントリストを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 ハントリストを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



注意

ハントリストが 1 つ以上のハントパイロットに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。

追加情報

P.36-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ハントリストの検索 \(P.36-2\)](#)
- [ハントリストの追加 \(P.36-4\)](#)
- [ハントリストへの回線グループの追加 \(P.36-6\)](#)
- [ハントリストからの回線グループの削除 \(P.36-7\)](#)
- [ハントリスト内の回線グループの順位の変更 \(P.36-8\)](#)
- [ハントリストの削除 \(P.36-9\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」



ハントパイロットの設定

ハントパイロットは、アドレスを表す数字のストリングと、ハントリストにコールをルート指定するように関連付けられた数字操作のセットから構成されています。このハントパイロットは、ネットワークの設計に柔軟性をもたらします。ハントパイロットは、ルートフィルタおよびハントリストと連動して、コールを特定のデバイスに誘導し、特定の数字パターンの組み込み、除外、または変更を行います。

ハントパイロットの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「ルートプランの概要」を参照してください。

ハントパイロットを追加、設定、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [ハントパイロットの検索 \(P.37-2\)](#)
- [ハントパイロットの設定 \(P.37-4\)](#)
- [ハントパイロットの削除 \(P.37-5\)](#)
- [ハントパイロットの設定値 \(P.37-6\)](#)

ハントパイロットの検索

ネットワーク内にはいくつかのハントパイロットが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のハントパイロットを見つけることができます。ハントパイロットを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ハントパイロットの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ハントパイロットの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート/ハント] > [ハントパイロット] の順に選択します。

[ハントパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Pilots)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン選択ボックスを使用して、ハントパイロットを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: ハントパイロット、検索条件:] ドロップダウン選択ボックスから、[パターン]、[説明]、または [パーティション] を選択します。



(注)

このドロップダウンリストボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるハントパイロットのソート方法が決まります。たとえば、[説明] を選択すると、[説明 (Description)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

ステップ 3 2 番目の [検索対象: ハントパイロット、検索条件:] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているハントパイロットをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたハントパイロットのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ハントパイロットのパターン (Pattern)]
- [パーティション (Partition)]
- [説明 (Description)]
- [ルートフィルタ (Route Filter)]
- [ハントリスト (Hunt List)]



ヒント 検索結果内でハントパイロットを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するハントパイロットの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ハントパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Pilots)] ウィンドウから複数のハントパイロットを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのハントパイロットを削除できます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件と一致するハントパイロットをクリックします。

選択したハントパイロットがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.37-13 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ハントパイロットの設定

ハントパイロットを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified CallManager で次の項目が設定されていることを確認してください。

- ハントリスト
- パーティション ([<None>] を使用しない場合)
- ルートフィルタ ([<None>] を使用しない場合)



ワンポイント・アドバイス

ハントパイロットに 8XXX を割り当てると、電話番号 8000 ~ 8999 がすべてハントされます。同様に、82XX では、電話番号 8200 ~ 8299 がハントされます。ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「特殊文字と設定値」を参照してください。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルート / ハント] > [ハントパイロット] の順に選択します。

[ハントパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Pilots)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のハントパイロットをコピーするには、対象となるハントパイロットを見つけます (P.37-2 の「ハントパイロットの検索」を参照)。コピーするハントパイロットの横にある [コピー] ボタンをクリックします。ウィンドウに、そのハントパイロットのコピーが表示されます。[ハントパイロット] フィールドの値を変更し、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいハントパイロットを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のハントパイロットを更新するには、対象となるハントパイロットを見つけて (P.37-2 の「ハントパイロットの検索」を参照)、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 37-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。



(注) [ハントリスト (Hunt List)] ドロップダウン リスト ボックスからハントリストを選択したら、[ハントリスト (Hunt List)] フィールドの横に表示される (編集) リンクを使用すると、選択したハントリストの [ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウを表示することができます。[ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウを使用して、該当するハントリストに含まれている回線グループを表示します。

追加情報

P.37-13 の「関連項目」を参照してください。

ハントパイロットの削除

ハントパイロットを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [コールルーティング] > [ルート/ハント] > [ハントパイロット] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するハントパイロットを見つけます。P.37-2 の「[ハントパイロットの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するハントパイロットのチェックボックスをオンにして、[**選択項目の削除**] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** ハントパイロットを削除するには、[**OK**] をクリックします。削除操作を取り消すには、[**キャンセル**] をクリックします。



ヒント ハントパイロットの削除は、削除するハントパイロットを特定して表示し、[**削除**] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

P.37-13 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ハントパイロットの設定値

表 37-1 では、[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)] ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。

表 37-1 ハントパイロットの設定値




フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[ハントパイロット]	<p>数字とワイルドカード (スペースを使用しない) を含むハントパイロットを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベートネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、および D を指定できます。</p> <p> (注) 選択したパーティション、ルートフィルタ、および番号計画の組み合わせを使用する、ディレクトリハントパイロットが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ハントパイロット、変換パターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、メッセージ受信のオン / オフ、またはミートミー番号をチェックしてください。また、必要に応じてルートプランレポートもチェックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワイルドカードの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを使用してハントパイロットへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストボックスから適切なパーティションを選択します。ハントパイロットへのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [<None>] を選択します。パーティションの使用の詳細については、P.41-1 の「パーティションの設定」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CMAAdmin Parameters] を選択します。</p> <p> (注) ハントパイロット、ルートフィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[説明 (Description)]	ハントパイロットの説明を入力します。
[番号計画 (Numbering Plan)]	番号計画を選択します。

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)



フィールド	説明
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>ハントパイロットにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。オプションでルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルートフィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[MLPP 優先度 (MLPP Precedence)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、このハントパイロットに対する MLPP 優先度の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Executive Override]: MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 • [Flash Override]: MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 • [Flash]: MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 • [Immediate]: MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 • [Priority]: MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 • [Routine]: MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 • [Default]: 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 <p> (注) 詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の「優先順位」を参照してください。</p>
[ハントリスト (Hunt List)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、ハントパイロットを追加するハントリストを選択します。</p>
[ルートオプション (Route Option)]	<p>[ルートオプション (Route Option)] の指定内容が、このハントパイロットをコールのルーティング (9.@ や 8 [2-9] XX など) またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。[このパターンをルーティング (Route this pattern)] または [このパターンをブロック (Block this pattern)] オプションボタンを選択してください。</p> <p>[このパターンをブロック (Block this pattern)] オプションボタンを選択した場合、このハントパイロットをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。ドロップダウンリストボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Error] • [Unallocated Number] • [Call Rejected] • [Number Changed] • [Invalid Number Format] • [Precedence Level Exceeded]

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)


フィールド	説明
[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)]	外部ダイヤルトーンは、Cisco Unified CallManager がローカル ネットワーク外にコールをルーティングすることを示します。ローカル ネットワーク外にコールをルーティングする各ハントパイロットに対してこのチェックボックスをオンにし、発信側デバイスに外部ダイヤルトーンを提供します。ネットワーク内のコールをルーティングする場合は、このチェックボックスをオフのままにしておきます。
[緊急優先 (Urgent Priority)]	ダイヤルプランにハントリストが重複して含まれている場合、数字列をダイヤルして現在の一致を選択できる場合にも、Cisco Unified CallManager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません。Cisco Unified CallManager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。
[ハント転送の設定 (Hunt Forward Settings)]	
[無応答時ハント転送 (Forward Hunt No Answer)]	<p>ハントリストを介して分散されるコールに対して一定の時間応答がない場合、このフィールドでコールの転送先を指定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)]: このチェックボックスをオンにして、コールをこのハントパイロットに転送した最初の着信番号に対して Call Forward No Coverage (CFNC) の設定値を使用可能にします。 <p>CFNC 設定値は、システム管理者が [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで管理するコール転送の理由を指定します。電話番号へのコールが最初にカバレッジに転送され、カバレッジが残りわずかになったか時間切れになり、カバレッジの関連するハントパイロットが最後の転送先として [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] を指定している場合、コールは電話番号のカバレッジまたは着信先のフィールドの値に基づいて転送されます。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [着信先 (Destination)]: この設定値は、コールの転送先となる電話番号を示します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]: この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)



フィールド	説明
[話中ハント転送 (Forward Hunt Busy)]	<p>ハント リストを介して分散されるコールが一定の時間ビジー状態の場合、このフィールドでコールの転送先を指定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)]: このチェックボックスをオンにして、コールをこのハント パイロットに転送した最初の着信番号に対して Call Forward No Coverage (CFNC) の設定値を使用可能にします。 <p>CFNC 設定値は、システム管理者が [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで管理するコール転送の理由を指定します。電話番号へのコールが最初にカバレッジに転送され、カバレッジが残りわずかになったか時間切れになり、カバレッジの関連するハント パイロットが最後の転送先として [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] を指定している場合、コールは電話番号のカバレッジまたは着信先のフィールドの値に基づいて転送されます。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [着信先 (Destination)]: この設定値は、コールの転送先となる電話番号を示します。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]: この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されません。
[最大ハントタイマー (Maximum Hunt Timer)]	<p>ハントの時間の最大値 (秒) を入力します。有効な値は 1 ~ 3600 です。デフォルト値は 1800 秒 (30 分) です。</p> <p>このタイマーは、ハント メンバーがコールに回答した場合、およびタイマーが時間切れになる前にハント リストのメンバーがすべて試された場合は、キャンセルされます。このタイマーに値を指定しない場合は、ハント メンバーが回答するか、ハント リストのメンバーがすべて試されるまでハンティングが続行されます。どちらのイベントも発生しない場合、ハンティングは 30 分間続行されます。30 分が過ぎると、コールに対して最終処理が実行されます。</p> <p> (注) ハンティングのホップ数が Forward Maximum Hop Count サービス パラメータで指定した値を超えると、この最大 30 分間のハント タイマー値に達していない場合でも、ハンティングが時間切れになり、発信者にリオーダー トーンが再生されません。</p>

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)






フィールド	説明
[発呼側変換 (Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	<p>発信コールで完全な外線電話番号を CLID (発呼側回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で外線電話番号マスクを設定することもできます。</p> <p> (注) ハント リスト内の回線グループに割り当てられる発信側変換設定値は、そのリストに関連したハントパイロットに割り当てられている発信側変換設定値をすべて上書きします。</p>
[発呼側変換マスク (Calling Party Transform Mask)]	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」を参照してください。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR (発信側の回線 ID 表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified CallManager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager で発信側の電話番号が表示されるようになる場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信側の電話番号を表示しないようになる場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発信名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR(発信側の名前表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified CallManager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の名前表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager で発信側の名前情報を表示させる場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信側の名前情報を表示しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>
[接続側変換 (Connected Party Transformations)]	
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR (接続側の回線 ID 表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified CallManager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>
[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR (接続側の名前表示) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco Unified CallManager が接続側の名前を発信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。接続側の名前を表示する場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>

表 37-1 ハントパイロットの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側変換 (Called Party Transformations)]	
[番号の削除 (Discard Digits)]	<p>[番号の削除 (Discard Digits)] ドロップダウン リスト ボックスから、このハントパイロットに関連付ける数字破棄命令を選択します。表示される数字破棄命令は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。北米番号計画の数字破棄命令の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p> (注) ハント リスト内の回線グループに割り当てられる着信側変換設定値は、そのリストに関連したハントパイロットに割り当てられている着信側変換設定値をすべて上書きします。</p>
[着信側変換マスク (Called Party Transform Mask)]	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、および空白です。このフィールドが空白である場合、変換は行われません。Cisco Unified CallManager は、ダイヤルされた通りの数字を正確に送信します。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)] フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、および空白です。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
[AAR グループの設定 (AAR Group Settings)]	
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。</p> <p> (注) このハントパイロットに対して AAR を使用可能にできるのは、回線グループのメンバーがすべて同じロケーションにある場合だけです。</p>
[外線番号マスク (External Number Mask)]	<p>ハントパイロットの外線番号マスク値を入力します。</p> <p>Cisco Unified CallManager はこのマスクを使用して、外部 (発信) コールの CLID をフォーマットします。AAR が再ルーティングを開始すると、システムはこの外線番号マスクをハントパイロット番号に適用し、着信側の完全修飾ドメイン名を形成します。そのため、AAR は、帯域幅が足りない状況でも正しく再ルーティングできるようになります。</p>

追加情報

P.37-13 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ハントパイロットの検索 \(P.37-2\)](#)
- [ハントパイロットの設定 \(P.37-4\)](#)
- [ハントパイロットの削除 \(P.37-5\)](#)
- [ハントパイロットの設定値 \(P.37-6\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルートフィルタの設定 \(P.31-3\)](#)



SIP ルート パターンの設定

Cisco Unified CallManager は、SIP ルート パターンを使用して内部コールと外部コールの両方をルーティングまたはブロックします。

ルーティングの判断基準となるのは、ドメイン名または IP アドレスです。管理者は、ドメイン、IP アドレス、および IP ネットワーク (サブネット) アドレスを追加して、それらを SIP トランク (のみ) に関連付けることができます。この方法によって、これらのドメインを宛先とする要求が、特定の SIP トランク インターフェイスを通じてルーティングされるようになります。



(注)

Cisco Unified CallManager にはデフォルトの SIP ルート パターンが存在しないため、管理者がセットアップする必要があります。

ドメイン名の例 : cisco.com、my-pc.cisco.com、*.com、rtp-ccm [1-5] .cisco.com

ドメイン名で有効となる文字 : [、-、.、0 ~ 9、A ~ Z、a ~ z、*、]

IP アドレスの例 : 172.18.201.119 または 172.18.201.119/32 (明示的 IP ホスト アドレス)、172.18.0.0/16 (IP サブネット)、172.18.201.18.21 (IP サブネット)

IP アドレスで有効となる文字 : 0 ~ 9、.、および /

SIP ルート パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかの SIP ルート パターンが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定の SIP ルート パターンを見つけることができます。SIP ルート パターンを見つける手順は、次のとおりです。



(注) ブラウザ セッションでの作業中は、検索 / リストの検索設定がクライアント マシンの cookie に保存されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザ ウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [SIP ルートパターン] の順に選択します。

[SIP ルートパターンの検索と一覧表示 (Find and List SIP Route Patterns)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、SIP ルート パターンを検索します。

ステップ 2 [SIP ルートパターンの検索と一覧表示 (Find and List SIP Route Patterns)] ウィンドウの最初のドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [パターン]
- [説明]
- [ルートパーティション]

[SIP ルートパターンの検索と一覧表示 (Find and List SIP Route Patterns)] ウィンドウの 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント データベースに登録されている SIP ルート パターンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された SIP ルート パターンのリストが、次の項目別に表示されます。

- [パターン (Pattern)]
- [説明 (Description)]
- [ルートパーティション (Route Partition)]



(注) 該当する SIP ルート パターンの横にあるチェックボックスをオンにして[**選択項目の削除**]をクリックすると、[SIP ルートパターンの検索と一覧表示 (Find and List SIP Route Patterns)] ウィンドウから複数の SIP ルート パターンを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての SIP ルート パターンを削除できます。



(注) 検索によって返された件数が非常に多い場合、目的の SIP ルート パターンを簡単に見つけるには、[**絞り込み**] チェックボックスをオンにし、[**検索**] をクリックします。このチェックボックスをオンにして [**検索**] ボタンをクリックすると、前回のクエリーの結果を対象にして検索が実行されます。検索結果を対象にして検索する必要がなくなった場合は、チェックボックスをオフにすると、次回のクエリーは新規検索として実行されます。

ステップ 4 レコードのリストで、検索条件と一致する SIP ルート パターンをクリックします。

選択した SIP ルート パターンがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.38-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

SIP ルート パターンの設定

SIP ルート パターンを追加、更新、またはコピーする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 次のいずれかの作業を行います。

- SIP ルート パターンを追加するには、[コールルーティング] > [SIP ルートパターン] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。
- SIP ルート パターンを更新するには、P.38-2 の「SIP ルート パターンの検索」の手順を使用してパターンを検索します。
- SIP ルート パターンをコピーするには、P.38-2 の「SIP ルート パターンの検索」の手順を使用して、コピーするパターンを検索します。コピーするパターンに対応する [コピー] アイコンをクリックします。

[SIP ルートパターンの設定 (SIP Route Pattern Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 38-1 を参照)。

ステップ 3 ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [保存] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [保存] ボタンをクリックして)、データを保存し、サーバをデータベースに追加します。

追加情報

P.38-8 の「関連項目」を参照してください。

SIP ルート パターンの設定値

始める前に

SIP ルート パターンを設定するには、少なくとも 1 つの SIP プロファイルと SIP トランクを設定する必要があります。

表 38-1 では、SIP ルート パターンの設定値について説明します。関連する手順については、P.38-8 の「関連項目」を参照してください。

表 38-1 SIP ルート パターンの設定値




フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[パターンの使い方 (Pattern Usage)]	(必須) ドロップダウン リストから、[Domain Routing] または [IP Address Routing] のいずれかを選択します。
[パターン]	(必須) ドメイン、サブドメイン、IP アドレス、または IP サブネットワーク アドレスを入力します。  (注) IP サブネットワーク アドレスの場合は、Classless Inter-Domain Routing (CIDR; クラスレス ドメイン間ルーティング) 表記の X.X.X.X/Y にします。Y は、ネットワーク アドレスとなるアドレスのビット数を示します。
[説明]	このオプション エントリには、SIP ルート パターンの説明を入力します。
[ルートパーティション]	パーティションを使用して SIP ルート パターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。SIP ルート パターンへのアクセスを制限しない場合は、パーティションの代わりに [<None>] を選択します。パーティションの使用の詳細については、P.41-1 の「パーティションの設定」を参照してください。 Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。  (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。  (注) SIP ルート パターン、ルート フィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。
[SIP トランク (SIP Trunk)]	(必須) ドロップダウン リストを使用して、SIP ルート パターンの関連付け先となる SIP トランクを選択します。
[パターンのブロック (Block Pattern)]	このパターンをコールのルーティングに使用しない場合は、[パターンのブロック (Block Pattern)] オプション ボタンを選択します。

表 38-1 SIP ルート パターンの設定値 (続き)


フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[発呼側変換 (Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Mask)]	発信コールで完全な外線電話番号を CLID(発呼側回線 ID)に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で外線電話番号マスクを設定することもできます。
[発呼側変換マスク (Calling Party Transformation Mask)]	変換マスク値を入力します。有効となるエントリは、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字 (X)、アスタリスク (*)、およびシャープ (#)です。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Mask)]) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」を参照してください。
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]フィールドに、プレフィックス番号を入力します。有効となるエントリは、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、およびシャープ (#)です。  (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR(発信側の回線 ID 表示)を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。 この SIP ルートパターンに対して、Cisco Unified CallManager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。 発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default]を選択します。Cisco Unified CallManager で発信側の電話番号が表示されるようになる場合は、[Allowed]を選択します。Cisco Unified CallManager が発信側の電話番号を表示しないようになる場合は、[Restricted]を選択します。 このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。

表 38-1 SIP ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[発呼側回線名の表示 (Calling Line Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR(発信側の名前表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>この SIP ルート パターンに対して、Cisco Unified CallManager が発信側の名前を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の名前表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager で発信側の名前情報が表示されるようになる場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信者名情報を表示しないようになる場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>
[接続側変換 (Connected Party Transformations)]	
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR (接続側の回線 ID 表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この SIP ルート パターンに対して、Cisco Unified CallManager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が接続側の電話番号を表示しないようになる場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>
[接続側回線名の表示 (Connected Line Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR (接続側の名前表示) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>この SIP ルート パターンに対して、Cisco Unified CallManager が接続側の名前を発信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。接続側の名前を表示する場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が接続側の名前を表示しないようになる場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>

SIP ルート パターンの削除

Cisco Unified CallManager データベースから SIP ルート パターンを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.38-2 の「[SIP ルート パターンの検索](#)」の手順を使用して、SIP ルート パターンを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する SIP ルート パターンを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ左上のツールバーに表示されている [[選択項目の削除](#)] アイコンをクリックして (または、ウィンドウの一番下に表示されている [[選択項目の削除](#)] ボタンをクリックして) SIP ルート パターンを削除します。

SIP ルート パターンが使用中でない場合、Cisco Unified CallManager がパターンを削除します。SIP ルート パターンが使用中である場合は、メッセージが表示されます。

追加情報

P.38-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [SIP ルート パターンの検索 \(P.38-2 \)](#)
- [SIP ルート パターンの設定 \(P.38-4 \)](#)
- [SIP ルート パターンの削除 \(P.38-8 \)](#)
- [SIP ルート パターンの設定値 \(P.38-5 \)](#)



時間帯の設定

時間帯は、開始時刻と終了時刻によって定義される時間範囲で構成されます。また、週の曜日や毎年の特定日のいずれの繰り返し間隔も指定できます。管理者は時間帯を定義した後、時間帯をタイムスケジュールに関連付けます。次に、time-of-day コールルーティングをセットアップするパーティションにタイムスケジュールを関連付けます。時間帯とタイムスケジュールの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「Time-of-Day ルーティング」を参照してください。

時間帯を追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [時間帯の検索 \(P.39-2\)](#)
- [時間帯の設定 \(P.39-3\)](#)
- [時間帯の削除 \(P.39-4\)](#)
- [時間帯の設定値 \(P.39-5\)](#)

時間帯の検索

ネットワーク内にはいくつかの時間帯が存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定の時間帯を見つけることができます。時間帯を特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、時間帯の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、時間帯の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [時間帯] の順に選択します。

[時間帯の検索と一覧表示 (Find and List Time Periods)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されている時間帯をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された時間帯のリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]



ヒント

検索結果内で時間帯を検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当する時間帯の横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[時間帯の検索と一覧表示 (Find and List Time Periods)] ウィンドウから複数の時間帯を削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内の時間帯をすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する時間帯をクリックします。

選択した時間帯がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.39-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

時間帯の設定

時間帯を設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [時間帯] の順に選択します。

[時間帯の検索と一覧表示 (Find and List Time Periods)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の時間帯をコピーするには、対象となる時間帯を見つけます (P.39-2 の「[時間帯の検索](#)」を参照)。コピーする時間帯の横にある [コピー] ボタンをクリックします。ウィンドウに、その時間帯のコピーが表示されます。[名前] フィールドの値を変更し、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しい時間帯を追加するには、[[新規追加](#)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の時間帯を更新するには、対象となる時間帯を見つけて (P.39-2 の「[時間帯の検索](#)」を参照) [ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します ([表 39-1](#) を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.39-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

時間帯の削除

時間帯を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

タイム スケジュールが使用している時間帯は削除できません。時間帯を使用しているタイム スケジュールなどの項目を検索するには、[時間帯の設定 (Time Period Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用中の時間帯を削除しようとすると、Cisco Unified CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている時間帯を削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する時間帯を使用しているタイム スケジュールすべてに、別の時間帯を割り当てる。P.40-3 の「[タイム スケジュールの設定](#)」を参照してください。
- 削除する時間帯を使用しているタイム スケジュールを削除する。P.40-4 の「[タイム スケジュールの削除](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [時間帯] の順に選択します。

ステップ 2 削除する時間帯を見つけます。P.39-2 の「[時間帯の検索](#)」を参照してください。

ステップ 3 削除する時間帯のチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 時間帯を削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



注意

時間帯を削除するときは、削除する時間帯が正しいか慎重に確認してください。削除した時間帯を元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除した時間帯を作成し直す必要があります。



ヒント

時間帯の削除は、削除する時間帯を特定して表示し、[削除] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

P.39-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

時間帯の設定値

表 39-1 では、時間帯の設定値について説明します。

表 39-1 時間帯の設定値





フィールド	説明
[時間帯情報 (Time Period Information)]	
[名前]	<p>[名前] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド(.)、ハイフン(-) および下線文字(_)を任意に組み合わせて使用することが可能です。各時間帯名が、そのプランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) 時間帯には、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、hours_or_days の形式が、内容を簡潔に表し、時間帯をすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「office_M_to_F」は、オフィスでの月曜日から金曜日の業務時間の時間帯を示します。</p>
[開始時刻 (Time Of Day Start)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この時間帯が開始する時刻を選択します。リストされている使用可能な開始時刻は、24 時間の 15 分間隔で構成されています。</p> <p>デフォルト値は [No Office Hours] です。</p> <p> (注) 深夜に時間帯を開始するには、00:00:00 値を選択します。</p>
[終了時刻 (Time of Day End)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この時間帯が終了する時刻を選択します。リストされている使用可能な終了時刻は、24 時間の 15 分間隔で構成されています。</p> <p>デフォルト値は [No Office Hours] です。</p> <p> (注) [終了時刻 (Time of Day End)] には、[開始時刻 (Time Of Day Start)] で選択する時刻よりも遅い時刻を選択する必要があります。</p> <p> (注) 深夜に時間帯を終了するには、24:00 値を選択します。</p>

表 39-1 時間帯の設定値（続き）

フィールド	説明
[繰り返し設定 (Repeat Every)]	<p>次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [週 (Week from)]:[週 (Week from)] オプション ボタンをクリックする場合は、[from] および [through] の横にあるドロップダウン リスト ボックスを使用して、この時間帯を適用する曜日を選択します。 <p>例：月曜日から金曜日に適用する時間帯を定義するには、[from] の値に [Mon] [through] の値に [Fri] を選択します。</p> <p>土曜日に適用する時間帯を定義するには、[from] の値に [Sat] [through] の値に [Sat] を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [年 (Year on)]:[年 (Year on)] オプション ボタンをクリックする場合は、ドロップダウン リスト ボックスを使用して、1 年の内でこの時間帯を適用する月と日を選択します。 <p>例：毎年元日に適用する時間帯を定義するには、月に [Jan] 日に [1] を選択します。</p>

追加情報

P.39-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [時間帯の検索 \(P.39-2 \)](#)
- [時間帯の設定 \(P.39-3 \)](#)
- [時間帯の削除 \(P.39-4 \)](#)
- [時間帯の設定値 \(P.39-5 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」



タイム スケジュールの設定

タイム スケジュールは、時間帯のグループで構成されます。タイム スケジュールはパーティションに割り当てられます。タイム スケジュールは、発信側デバイスが特定の時間帯にコールを完了しようとするときに検索するパーティションを決定します。タイム スケジュールの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」を参照してください。

タイム スケジュールを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [タイム スケジュールの検索 \(P.40-2\)](#)
- [タイム スケジュールの設定 \(P.40-3\)](#)
- [タイム スケジュールの削除 \(P.40-4\)](#)
- [タイム スケジュールの設定値 \(P.40-5\)](#)

タイム スケジュールの検索

ネットワーク内にはいくつかのタイム スケジュールが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のタイム スケジュールを見つけることができます。タイム スケジュールを特定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、タイム スケジュールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、タイム スケジュールの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [コントロールクラス] > [スケジュール] の順に選択します。

[スケジュールの検索と一覧表示 (Find and List Time Schedules)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているタイム スケジュールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたタイム スケジュールのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]



ヒント 検索結果内でタイム スケジュールを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するタイム スケジュールの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[スケジュールの検索と一覧表示 (Find and List Time Schedules)] ウィンドウから複数のタイム スケジュールを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のタイム スケジュールをすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するタイム スケジュールをクリックします。

選択したタイム スケジュールがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.40-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

タイム スケジュールの設定

タイム スケジュールを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [スケジュール] の順に選択します。

[スケジュールの検索と一覧表示 (Find and List Time Schedules)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のタイム スケジュールをコピーするには、対象となるタイム スケジュールを見つけます (P.40-2 の「[タイム スケジュールの検索](#)」を参照)。コピーするタイム スケジュールの横にある [コピー] ボタンをクリックします。ウィンドウに、そのタイム スケジュールのコピーが表示されます。[名前] フィールドの値を変更し、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しいタイム スケジュールを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存のタイム スケジュールを更新するには、対象となるタイム スケジュールを見つけて (P.40-2 の「[タイム スケジュールの検索](#)」を参照) [ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します ([表 40-1](#) を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.40-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

タイム スケジュールの削除

タイム スケジュールを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

パーティションが使用しているタイム スケジュールは削除できません。タイム スケジュールを使用している項目を検索するには、[スケジュールの設定 (Time Schedule Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用中のタイム スケジュールを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているタイム スケジュールを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するタイム スケジュールを使用しているパーティションすべてに、別のタイム スケジュールを割り当てる。P.41-3 の「[パーティションの設定](#)」を参照してください。
- 削除するタイム スケジュールを使用しているパーティションを削除する。「[パーティションの設定](#)」の章を参照してください。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [スケジュール] の順に選択します。

ステップ 2 削除するタイム スケジュールを見つけます。P.40-2 の「[タイム スケジュールの検索](#)」を参照してください。

ステップ 3 削除するタイム スケジュールのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 タイム スケジュールを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



注意

タイム スケジュールを削除するときは、削除するタイム スケジュールが正しいか慎重に確認してください。削除したタイム スケジュールを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したタイム スケジュールを作成し直す必要があります。



ヒント

タイム スケジュールの削除は、削除するタイム スケジュールを特定して表示し、[削除] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

P.40-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

タイム スケジュールの設定値

表 40-1 では、タイム スケジュールの設定値について説明します。

表 40-1 タイム スケジュールの設定値




フィールド	説明
[スケジュール情報 (Time Schedule Information)]	
[名前]	<p>[名前] フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各タイム スケジュール名が、そのプランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) タイム スケジュールには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。</p>
[時間帯情報 (Time Period Information)]	
[使用可能時間帯 (Available Time Periods)]	<p>[使用可能時間帯 (Available Time Periods)] リスト ボックスで時間帯を選択し、その時間帯を [選択された時間帯 (Selected Time Periods)] リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲の時間帯を一度に追加するには、その範囲内の最初の時間帯をクリックし、Shift キーを押した状態でその範囲内の最後の時間帯をクリックします。2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックして、その範囲の時間帯を追加します。</p> <p>連続していない複数の時間帯を追加するには、Control (Ctrl) キーを押した状態で複数の時間帯をクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックして、選択した時間帯を追加します。</p>

表 40-1 タイム スケジュールの設定値 (続き)

フィールド	説明
[選択された時間帯 (Selected Time Periods)]	<p data-bbox="695 309 1477 443">このリスト ボックスには、このタイム スケジュール用に選択された時間帯が一覧表示されます。選択された時間帯のリストから時間帯を削除するには、削除する時間帯を選択して、2 つのリスト ボックス間にある上矢印をクリックします。</p> <p data-bbox="695 472 1477 506"></p> <p data-bbox="695 517 1477 607">(注) 1 つのタイム スケジュールに複数の時間帯が関連付けられ、時間帯が重複している場合、日付の設定値を持つ時間帯が、曜日の設定値を持つ時間帯よりも優先されます。</p> <p data-bbox="783 640 1477 786">例: ある時間帯で 1 月 1 日に対して [No Office Hours] が設定され、別の時間帯では毎週の同じ曜日 (たとえば、日曜日から土曜日) に対して 08:00 ~ 17:00 が設定されている場合、1 月 1 日の時間帯が使用されます。この例では、[No Office Hours] が優先されます。</p> <p data-bbox="695 846 1477 880"></p> <p data-bbox="695 891 1477 947">(注) 時間間隔の設定値は、毎年と同じ日、または毎週の同じ曜日に対する No Office Hour 設定値よりも優先されます。</p> <p data-bbox="783 981 1477 1104">例: ある時間帯で土曜日に [No Office Hours] が指定されています。別の時間帯では土曜日に 08:00 ~ 12:00 の時間が指定されています。この例では、結果として土曜日に 08:00 ~ 12:00 の時間間隔が指定されます。</p>

追加情報

P.40-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [タイム スケジュールの検索 \(P.40-2\)](#)
- [タイム スケジュールの設定 \(P.40-3\)](#)
- [タイム スケジュールの削除 \(P.40-4\)](#)
- [タイム スケジュールの設定値 \(P.40-5\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」



パーティションの設定

パーティションには、電話番号 (DN) およびルートパターンが登録されているルートパターンのリストが含まれています。パーティションは、編成、ロケーション、およびコールタイプに基づいて、ルートプランを複数の論理サブセットに分割することにより、コールルーティングを容易にするものです。パーティションの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「パーティションおよびコーリングサーチスペース」を参照してください。

ルートパーティションを検索、追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [パーティションの検索 \(P.41-2\)](#)
- [パーティションの設定 \(P.41-3\)](#)
- [パーティションの削除 \(P.41-4\)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.41-5\)](#)

パーティションの検索

ネットワーク内にはいくつかのパーティションが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、固有のパーティションを特定することができます。パーティションを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、パーティションの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、パーティションの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [パーティション] の順に選択します。

[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているパーティションをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたパーティションのリストが、次の項目別に表示されます。

- [パーティション名 (Partition Name)]
- [説明 (Description)]



ヒント

検索結果内でパーティションを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注)

該当するパーティションの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウから複数のパーティションを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのパーティションを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するパーティションをクリックします。

ウィンドウに、選択したパーティションが表示されます。

追加情報

P.41-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

パーティションの設定

パーティションを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [パーティション] の順に選択します。

[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しいパーティションを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存のパーティションを更新するには、対象となるパーティションを見つけて ([P.41-2](#) の「[パーティションの検索](#)」を参照) [ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します ([表 41-1](#) を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

パーティションを更新している場合は、[リセット] をクリックします。そのパーティションに関連したデバイスをリセットすると、影響を受けるゲートウェイ上のコールがすべて欠落します。



(注) 複数のパーティションを設定できます。複数のパーティションを入力するには、各パーティション エントリに対して 1 行を使用します。最大 75 のパーティションを入力できます。入力できる文字数は、それぞれの名前と説明を合計して 1475 文字までです。各行のパーティション名と説明はカンマ (,) で区切ってください。説明を入力しない場合、Cisco Unified CallManager は、名前を説明として使用します。

追加情報

P.41-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

パーティションの削除

パーティションを削除する手順は、次のとおりです。


始める前に

パーティションがコーリング サーチ スペースなどの項目またはルート パターンに割り当てられている場合は、そのパーティションを削除できません。パーティションを使用しているコーリング サーチ スペースなどの項目を検索するには、[パーティションの設定 (Partition Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用されているパーティションを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているパーティションを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するパーティションを使用しているコーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目すべてに、別のパーティションを割り当てる。
- 削除するパーティションを使用しているコーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目を削除する。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [パーティション] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するパーティションを見つけます。P.41-2 の「[パーティションの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するパーティションのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。


 **ヒント** [すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、リスト内のすべてのパーティションを削除できます。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

- ステップ 4** パーティションを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。

 **注意**

パーティションを削除するときは、削除するパーティションが正しいか慎重に確認してください。削除したパーティションを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したパーティションを作成し直す必要があります。

 **ヒント** パーティションの削除は、削除するパーティションを見つけて表示し、[削除] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

P.41-7 の「関連項目」を参照してください。

パーティションの設定値

表 41-1 では、パーティションの設定値について説明します。関連する手順については、P.41-7 の「関連項目」を参照してください。

表 41-1 パーティションの設定値


フィールド	説明
[<パーティション名>, <説明>]	<p>名前を[<パーティション名>, <説明>]ボックスに入力します。各パーティション名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。パーティション名には、英数字、スペース、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を使用できます。</p> <p> (注) パーティション名の長さによって、コーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。表 41-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p> <p>パーティション名の後にカンマ (,) を入力してから、そのパーティション名と同じ行に説明を入力します。説明を入力しない場合は、Cisco Unified CallManager が、自動的にこのフィールドにパーティション名を入力します。</p> <p>各パーティションおよび説明には新しい行を使用してください。</p>
[スケジュール (Time Schedule)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このパーティションに関連付けるタイム スケジュールを選択します。関連付けられたタイム スケジュールは、パーティションがいつ着信コールを受信できるかを指定します。</p> <p>デフォルト値は [<None>] です。この値は、time-of-day ルーティングが有効ではなく、パーティションが常にアクティブであることを意味します。</p> <p>パーティションのタイム スケジュールとの関連は、次のフィールドにある [タイムゾーン (Time Zone)] 値との組み合わせで、time-of-day ルーティング用のパーティションを設定します。指定されたタイム スケジュールに対して、このパーティションへの着信コールがチェックされます。</p>

表 41-1 パーティションの設定値 (続き)

フィールド	説明
[タイムゾーン (Time Zone)]	<p>次のいずれかのオプションを選択し、パーティションをタイムゾーンに関連付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [発信側デバイス (Originating Device)]: このオプションを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンに関連付けられたタイムスケジュールに対してパーティションがチェックされます。 [特定のタイムゾーン (Specific Time Zone)]: このオプションを選択する場合は、ドロップダウン リスト ボックスからタイムゾーンを選択します。このタイムゾーンの中でパーティションが指定されたときに、関連付けられたタイムスケジュールに対してパーティションがチェックされます。 <p>これらのオプションはすべて [タイムゾーン (Time Zone)] を指定します。着信コールがあると、Cisco Unified CallManager 上の現在時刻は、オプションの 1 つを選択したときの特定のタイムゾーン セットに変換されます。この特定の時間は、[スケジュール (Time Schedule)] フィールドの値に対して検証されます。</p>



ワンポイント・アドバイス

パーティションには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、パーティションをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetroPT」は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のパーティションを特定できます。



ヒント

必要に応じて、[<パーティション名>,<説明>] テキストボックスに各パーティションの名前と説明を入力することにより、複数のパーティションを同時に入力できます。必ず、各パーティション エントリに対して 1 行を使用し、パーティション名と説明はカンマで区切ってください。

表 41-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 41-2 コーリング サーチ スペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

追加情報

P.41-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [パーティションの検索 \(P.41-2\)](#)
- [パーティションの設定 \(P.41-3\)](#)
- [パーティションの削除 \(P.41-4\)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.41-5\)](#)



コーリング サーチ スペースの設定

コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。コーリング サーチ スペースとパーティションの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「パーティションおよびコーリング サーチ スペース」を参照してください。

コーリング サーチ スペースの検索

ネットワーク内にはいくつかのコーリング サーチ スペースが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のコーリング サーチ スペースを見つけることができます。コーリング サーチ スペースを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、コーリング サーチ スペースの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えない限り、コーリング サーチ スペースの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] [コントロールのクラス] [コーリングサーチスペース] の順に選択します。

[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

■ コーリングサーチスペースの検索

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[**検索**] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているコーリングサーチスペースをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [**検索**] をクリックします。

検出されたコーリングサーチスペースのリストが、次の項目別に表示されます。

- [CSS 名 (CSS Name)]
- [説明 (Description)]



ヒント 検索結果内でコーリングサーチスペースを検索するには、[**絞り込み**] チェックボックスをオンにし、この手順の説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するコーリングサーチスペースの横にあるチェックボックスをオンにして、[**選択項目の削除**] をクリックすると、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウから複数のコーリングサーチスペースを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのコーリングサーチスペースを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するコーリングサーチスペースをクリックします。

選択したコーリングサーチスペースがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.42-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

コーリング サーチ スペースの設定

コーリング サーチ スペースをコピー、追加、および更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [コーリングサーチスペース] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のコーリング サーチ スペースをコピーするには、対象となるコーリング サーチ スペースを見つけます (P.42-1 の「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」を参照)。コピーするコーリング サーチ スペースの横にある [コピー] ボタンをクリックします。ウィンドウに、コピーしたコーリング サーチ スペースが表示されます。[名前 (Name)] フィールドで名前を変更し、[ステップ 3](#) に進みます。
- コーリング サーチ スペースを追加するには、[**新規追加**] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。



(注) 他のコーリング サーチ スペースを追加するには、[**新規追加**] をクリックして、[ステップ 3](#) からの手順を繰り返します。

- 既存のコーリング サーチ スペースを更新するには、対象となるコーリング サーチ スペースを見つけて (P.42-1 の「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します ([表 42-1](#) を参照)。

ステップ 4 [**保存**] をクリックします。

追加情報

[P.42-7](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

コーリングサーチスペースの設定値

表 42-1 では、コーリングサーチスペースの設定値について説明します。

表 42-1 コーリングサーチスペースの設定値



フィールド	説明
[コーリングサーチスペース情報 (Calling Search Space Information)]	
[名前 (Name)]	<p>名前を [名前 (Name)] フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各コーリングサーチスペース名が、システムに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) コーリングサーチスペースには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を的確に表し、コーリングサーチスペースをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、「CiscoDallasMetroCS」は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のコーリングサーチスペースとして特定できます。</p>
[説明 (Description)]	<p>[説明 (Description)] フィールドに説明を入力します。この説明には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。</p>
[コーリングサーチスペースのルートパーティション (Route Partitions for this Calling Search Space)]	
[使用可能なパーティション]	<p>[使用可能なパーティション] リスト ボックスでパーティションを選択し、そのパーティションを [選択されたパーティション] リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲のパーティションを一度に追加するには、その範囲内の最初のパーティションをクリックし、Shift キーを押した状態でその範囲内の最後のパーティションをクリックします。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、その範囲のパーティションを追加します。</p> <p>連続していない複数のパーティションを追加するには、Control (Ctrl) キーを押した状態で複数のパーティションをクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、選択したパーティションを追加します。</p> <p> (注) パーティション名の長さによって、コーリングサーチスペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。表 42-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリングサーチスペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p>

表 42-1 コーリングサーチスペースの設定値 (続き)

フィールド	説明
[選択されたパーティション (優先度順)]	パーティションの優先順位を変更するには、[選択されたパーティション] リスト ボックス内のパーティション名を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのパーティションを上下に移動させてください。

表 42-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリングサーチスペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 42-2 コーリングサーチスペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

追加情報

P.42-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

コーリングサーチスペースの削除

コーリングサーチスペースを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス、回線 (DN)、変換パターンなどの項目が使用しているコーリングサーチスペースは、削除できません。コーリングサーチスペースを使用しているデバイス、回線、変換パターンなどの項目を検索するには、[コーリングサーチスペースの設定 (Calling Search Space Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスにある [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」を参照してください。使用中のコーリングサーチスペースを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。現在使用中のコーリングサーチスペースを削除する前に、次の作業の一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するコーリングサーチスペースを使用しているデバイス、回線、または変換パターンすべてに、別のコーリングサーチスペースを割り当てる。P.48-1 の「電話番号の設定の概要」および P.45-4 の「変換パターンの設定」を参照してください。
- 削除するコーリングサーチスペースを使用しているデバイス、回線、または変換パターンを削除する。P.48-5 の「電話機からの電話番号の削除」および P.45-10 の「変換パターンの削除」を参照してください。

手順

- ステップ 1** メニューバーで [コールルーティング] > [コントロールのクラス] > [コーリングサーチスペース] の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するコーリングサーチスペースを見つけます。P.42-1 の「コーリングサーチスペースの検索」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するコーリングサーチスペースのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** コーリングサーチスペースを削除するには、[OK] をクリックします。削除を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



注意

コーリングサーチスペースを削除するときは、削除するコーリングサーチスペースが正しいか慎重に確認してください。削除したコーリングサーチスペースを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したコーリングサーチスペースを作成し直す必要があります。



ヒント

コーリングサーチスペースの削除は、削除するコーリングサーチスペースを見つけて表示し、[削除] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

P.42-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

コーリング サーチ スペースを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.42-1\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定 \(P.42-3\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.42-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.42-6\)](#)



Client Matter Code

Client Matter Code (CMC) は、コール アカウンティングおよび支払請求可能なクライアントに対する課金を支援します。CMC では、コードを入力して、コールが特定のクライアント マターに関連していることを指定する必要があります。Client Matter Code は、コール アカウンティングおよび課金の目的で、カスタマー、学生、またはその他の人々に割り当てることができます。

CMC 機能では、ルート パターンを変更し、ダイヤル プランのドキュメントを更新して、各ルート パターンに対して使用可能または使用不可にした CMC を反映させる必要があります。Client Matter Code の検索ウィンドウおよび設定ウィンドウには、[Cisco Unified CallManager の管理] の [コール ルーティング] > [CMC] からアクセスできます。

Client Matter Code の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Client Matter Codes と Forced Authorization Codes」を参照してください。

参考資料

- *Cisco Unified CallManager Bulk Administration ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*



Forced Authorization Code

Forced Authorization Code (FAC) を使用すると、コールのアクセスとアカウントリングを管理できます。この機能は、特定のユーザが発信できるコールのタイプを規定するものです。ユーザがコールを確立するには、有効な許可コードを入力する必要があります。

FAC 機能では、ルートパターンを変更し、ダイヤルプランのドキュメントを更新して、各ルートパターンに対して使用可能または使用不可にした FAC を反映させる必要があります。Forced Authorization Code の検索ウィンドウおよび設定ウィンドウには、[Cisco Unified CallManager の管理] の [コールルーティング] > [FAC] からアクセスできます。

Forced Authorization Code の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Client Matter Codes と Forced Authorization Codes」を参照してください。

参考資料

- *Cisco Unified CallManager Bulk Administration ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*



変換パターンの設定

Cisco Unified CallManager は変換パターンを使用して、ダイヤルされた番号を操作した後でコールをルーティングします。場合によってシステムは、ダイヤルされた番号を使用しないことがあります。また、公衆電話交換網 (PSTN) が、ダイヤルされた番号を認識できない場合もあります。

変換パターンを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [変換パターンの検索 \(P.45-2\)](#)
- [変換パターンの設定 \(P.45-4\)](#)
- [変換パターンの削除 \(P.45-10\)](#)
- [変換パターンの設定値 \(P.45-5\)](#)

変換パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかの変換パターンが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定の変換パターンを見つけることができます。変換パターンを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、変換パターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、変換パターンの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [変換パターン] の順に選択します。

[変換パターンの検索と一覧表示 (Find and List Translation Patterns)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [パターン] (変換パターンの名前で検索する場合)
- [説明] (変換パターンの説明で検索する場合)
- [パーティション] (パーティション名で検索する場合)



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される変換パターン リストのソート方法が決まります。たとえば、[説明] を選択すると、[説明 (Description)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されている変換パターンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された変換パターンのリストが、次の項目別に表示されます。

- [変換パターン (Translation Pattern)]
- [パーティション (Partition)]
- [説明 (Description)]
- [ルートフィルタ (Route Filter)]



(注) 該当する変換パターンの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[変換パターンの検索と一覧表示 (Find and List Translation Patterns)] ウィンドウから複数の変換パターンを削除できます。[**すべてを選択**] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての変換パターンを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、検索条件と一致する変換パターンをクリックします。

[変換パターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウに、選択した変換パターンが表示されます。

追加情報

P.45-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

変換パターンの設定

変換パターンを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

変換パターンを設定する場合は、事前に、次の Cisco Unified CallManager 項目を設定してください。

- パーティション
- ルート フィルタ
- コーリング サーチ スペース

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [変換パターン] の順に選択します。

[変換パターンの検索と一覧表示 (Find and List Translation Patterns)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の変換パターンをコピーするには、対象となる変換パターンを見つけて (P.45-2 の「[変換パターンの検索](#)」を参照)、コピーする変換パターンの横にある [コピー] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しい変換パターンを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の変換パターンを更新するには、対象となる変換パターンを見つけて (P.70-33 の「[電話機の検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 表示される [変換パターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します ([表 45-1](#) を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。



(注) 選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用する変換パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ルートパターンおよびハントパイロット、変換パターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、またはミーティング番号の設定ウィンドウをチェックしてください。

[変換パターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウに、新しく設定した変換パターンが表示されます。

追加情報

P.45-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

変換パターンの設定値

表 45-1 では、[変換パターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。

表 45-1 変換パターンの設定値




フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[変換パターン (Translation Pattern)]	<p>[変換パターン (Translation Pattern)] フィールドに、番号とワイルドカード (スペースを使用しない) を含む、変換パターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカル アクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベート ネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、および D を使用できます。このフィールドを空白のままにした場合は、[パーティション (Partition)] ドロップダウン リスト ボックスからパーティションを選択する必要があります。</p> <p> (注) 選択したパーティション、ルートフィルタ、および番号計画の組み合わせを使用する変換パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すメッセージが表示された場合は、ルート パターンおよびハントパイロット、変換パターン、電話番号、コール パーク番号、コール ピックアップ番号、またはミートミー番号を確認してください。重複エントリを示すメッセージが表示された場合のもう 1 つの方法として、ルート プラン レポートも確認してください。</p>
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを選択します。パーティションを割り当てない場合は、[<None>] を選択します。[<None>] を選択した場合は、[変換パターン (Translation Pattern)] フィールドに値を入力する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p> <p> (注) 変換パターン、ルートフィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[説明 (Description)]	変換パターンの説明を入力します。
[番号計画 (Numbering Plan)]	<p>番号計画を選択します。</p> <p>変換パターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、番号計画を選択できます。オプションで番号計画を選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p>

表 45-1 変換パターンの設定値 (続き)




フィールド	説明
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>オプションのルート フィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルート パターンとハント パイロット内のワイルドカードと特殊文字」、および P.31-4 の「ルート フィルタの設定値」を参照してください。</p> <p>表示されるルート フィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[MLPP 優先度 (MLPP Precedence)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、この変換パターンに対する MLPP 優先度の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Executive Override]: MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 • [Flash Override]: MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 • [Flash]: MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 • [Immediate]: MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 • [Priority]: MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 • [Routine]: MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 • [Default]: 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 <p> (注) 詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の「優先順位」を参照してください。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>必要に応じて、ドロップダウン リスト ボックスから、追加する変換パターン用のコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>

表 45-1 変換パターンの設定値 (続き)


フィールド	説明
[ルートオプション (Route Option)]	<p>[ルートオプション (Route Option)] の指定内容が、この変換パターンをコールのルーティング (9.@ や 8 [2-9] XX など) またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。 [このパターンをルーティング (Route this pattern)] または [このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択してください。</p> <p>[このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択した場合、この変換パターンをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。ドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Error] • [Unallocated Number] • [Call Rejected] • [Number Changed] • [Invalid Number Format] • [Precedence Level Exceeded]
[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)]	<p>外部ダイヤルトーンは、Cisco Unified CallManager がローカル ネットワーク外にコールをルーティングすることを示します。ネットワーク外にあると思われる各変換パターンに対してこのチェックボックスをオンにします。</p>
[緊急優先 (Urgent Priority)]	<p>Cisco Unified CallManager は、 [緊急優先 (Urgent Priority)] を指定してすべての変換パターンを設定します。変換パターンの優先順位は変更できません。</p>
<p>[発呼側変換 (Calling Party Transformations)]</p>	
[発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	<p>発信コールで完全な外線電話番号を CLID (発呼側回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
[発呼側変換マスク (Calling Party Transform Mask)]	<p>変換マスク値を入力します。NANP で有効となるエント리는、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、P.33-4 の「ルートリストの追加」を参照してください。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>プレフィックス番号を入力します。NANP で有効となるエント리는、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、および D です。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

表 45-1 変換パターンの設定値 (続き)


フィールド	説明
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR(発信側の回線 ID 表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco Unified CallManager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager で発信側の電話番号が表示されるようになる場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p> <p> (注) コール表示制限を設定するには、このパラメータおよび [接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] パラメータを [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] デバイスレベルパラメータと組み合わせて使用します。同時に、これらの設定値では、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を表示するか、制限するかを選択できます。[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] フィールドの詳細については、P.75-3 の「新規ユーザ デバイス プロファイルの設定」および P.70-7 の「電話機の設定値」の表 70-1 を参照してください。コール表示制限の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。</p>
[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR(発信側の名前表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco Unified CallManager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の名前表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager で発信側の名前情報を表示させる場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信側の名前情報を表示しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>

表 45-1 変換パターンの設定値 (続き)



フィールド	説明
[接続側変換 (Connected Party Transformations)]	
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR (接続側の回線 ID 表示) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco Unified CallManager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>
[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR (接続側の名前表示) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco Unified CallManager が接続側の名前を発信側の画面表示に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。接続側の名前を表示する場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。</p>
[着信側変換 (Called Party Transformations)]	
[番号の削除 (Discard Digits)]	<p>この変換パターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p> (注) 表示される数字破棄命令は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。</p>

表 45-1 変換パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側変換マスク (Called Party Transform Mask)]	変換マスク値を入力します。NANP で有効となるエントリーは、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、変換は行われません。ダイヤルされた番号が、ダイヤルされたとおりに送信されます。
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	プレフィックス番号を入力します。NANP で有効となるエントリーは、数字 (0 ~ 9)、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。
	 (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。

追加情報

P.45-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

変換パターンの削除

変換パターンを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [変換パターン] の順に選択します。

ステップ 2 削除する変換パターンを見つけます。P.45-2 の「[変換パターンの検索](#)」を参照してください。

ステップ 3 削除する変換パターンのチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 変換パターンを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



注意

変換パターンを削除するときは、削除する変換パターンが正しいか慎重に確認してください。削除した変換パターンを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除した変換パターンを作成し直す必要があります。



ヒント

変換パターンの削除は、削除する変換パターンを見つけて表示し、[削除] をクリックすることによっても実行できます。

追加情報

P.45-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [変換パターンの検索 \(P.45-2\)](#)
- [変換パターンの設定 \(P.45-4\)](#)
- [変換パターンの設定値 \(P.45-5\)](#)
- [変換パターンの削除 \(P.45-10\)](#)
- 『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「[ルート プランの概要](#)」



コールパーク

コールパーク (Call Park) 機能を使用すると、コールの保留操作をした後、Cisco Unified CallManager システム内の別の電話機からその保留コールに応答することができます (たとえば、別のオフィスや会議室の電話機などです)。あるユーザに着信コールがあるときに、[パーク] ソフトキーや [コールパーク] ボタンを押して、そのコールをコールパーク番号に一時的に保留 (パーキング) させることができます。システム内の誰かが別の電話機からコールパーク番号をダイヤルすると、そのパーク中のコールに応答できます。

コールパーク機能の使用方法と設定方法の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド』の「コールパーク」の章を参照してください。



コール ピックアップ グループ

コール ピックアップ グループ機能を使用すると、自分以外の電話番号に着信するコールに応答できます。別の電話機で着信音が鳴った場合は、この機能を使用して、そのコールを自分の電話機にリダイレクトできます。

Cisco IP Phone では、次の 3 つのタイプのコール ピックアップ機能を使用できます。

- コール ピックアップを使用すると、ユーザは、自分のグループ内の着信コールを受けることができる。ユーザが電話機でこの機能をアクティブにすると、Cisco Unified CallManager は、適切なコール ピックアップ グループ番号を自動的にダイヤルします。
- グループ コール ピックアップを使用すると、ユーザは、別のグループ内の着信コールを受けることができる。ユーザが電話機でこの機能をアクティブにすると、ユーザ自身が、適切なコール ピックアップ グループ番号をダイヤルする必要があります。
- 他グループ コール ピックアップを使用すると、ユーザは、自分のグループに関連付けられたグループ内の着信コールを受けることができる。ユーザが電話機でこの機能をアクティブにした場合、ユーザのグループに関連付けられたグループ内の電話機で呼び出し音が鳴ると、Cisco Unified CallManager は自動的に、関連付けられたグループ内で着信コールを検索します。

コール ピックアップ グループ機能の使用方法与設定方法の詳細については、『*Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「コール ピックアップ グループ」の章を参照してください。



電話番号の設定

次の項では、Cisco Unified CallManager の管理ページでの電話番号 (DN) に関する作業と設定について説明しています。

- [電話番号の設定の概要 \(P.48-1\)](#)
- [電話番号の検索 \(P.48-2\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.48-3\)](#)
- [電話機からの電話番号の削除 \(P.48-5\)](#)
- [Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成 \(P.48-6\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.48-8\)](#)
- [関連項目 \(P.48-31\)](#)

電話番号の設定の概要

Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して、特定の電話機に割り当てる電話番号 (DN) の設定および変更を行います。ここでは、電話番号の追加、削除、および更新について説明します。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウを使用して、次の作業を実行します。

- 電話番号の追加または削除。
- コール転送、コール ピックアップ、コール ウェイティング、および Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) オプションの設定。
- 回線からコールが行われるときに着信側電話機に表示されるテキストの指定。
- 呼び出し音の設定。
- Cisco Unity または Cisco Unity Connection ユーザのボイスメールボックスの設定。

追加情報

[P.48-31](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話番号の検索

電話番号 (DN) を検索する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [電話番号] の順に選択します。

[電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象 : 電話番号、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、電話番号の検索に使用するフィールドを選択します (たとえば、[電話番号]、[ルートパーティション]、または [説明])。



(注) データベースに登録されている電話番号をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。検索条件と一致する電話番号のリストが表示されます。

ステップ 3 2 番目の [検索対象 : 電話番号、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、テキスト検索の検索パターンを選択します (たとえば、[が次の文字列で始まる] [が次の文字列を含む] または [が次の文字列で終わる])。

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致するレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) 複数の電話番号を削除するには、該当する電話番号の横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。ウィンドウ内の電話番号をすべて削除するには、[すべてを選択] をクリックし、[選択項目の削除] をクリックします。

ステップ 5 検索条件と一致するレコードのリストで、表示する電話番号の名前をクリックします。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウに、選択した電話番号が表示されます。

追加情報

P.48-31 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話番号の設定

電話番号 (DN) を追加または更新する手順は、次のとおりです。電話番号を追加すると同時に、コール転送、コール ピックアップ、および MLPP の各電話機能を設定できます。



ヒント

電話番号にパターン (たとえば 352XX など) を割り当てることができます。電話番号にパターンを割り当てる場合は、ユーザが混乱しないように、電話番号設定フィールド ([回線のテキストラベル (Line Text Label)] [表示 (Display、内線発信者 ID)] および [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]) にテキストや数字を追加します。これらのフィールドが特定の電話番号について表示されるのは、電話番号を追加し、さらに、その電話番号を電話機に関連付けた場合のみです。

たとえば、[回線のテキストラベル (Line Text Label)] と [表示 (Display、内線発信者 ID)] にはユーザの名前を追加し、[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] には外部の回線番号を追加します。このようにすれば、発信情報が表示されるときに、「352XX」ではなく「John Chan」と表示されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [電話番号] の順に選択します。

[電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話番号を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話番号のリストが表示されます。

ステップ 3 次のいずれかの作業を行います。

- 電話番号を追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、新しい電話番号を追加します。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウには、電話番号を追加するための代替方法が表示されます。[デバイス] > [電話] メニュー オプションを使用し、新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を検索します。新しい電話機を作成するか、または既存の電話機を表示したら、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[回線 [1] - 新規 DN を追加] リンクまたは [回線 [2] - 新規 DN を追加] リンクをクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されたら、この手順の **ステップ 4** に進みます。

- 電話番号を更新するには、更新する電話番号をクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 該当する設定値を更新します (表 48-1 を参照)。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

ステップ 6 [リセット]をクリックします。詳細については、P.70-5 の「[電話機のリセット](#)」を参照してください。



2 回線では足りない場合は、電話機タイプ(たとえば Cisco IP Phone モデル 7960 など)に対応する電話ボタン テンプレートを変更することによって、回線を増やすことができます。ただし、2 回線までしかサポートしていない電話機タイプ(Cisco IP Phone モデル 7902 など)もあります。



(注) デバイスは、速やかに再起動してください。この再起動プロセス中に、ゲートウェイ上のコールがシステムによって終了される場合があります。

追加情報

P.48-31 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機からの電話番号の削除

特定の電話機から電話番号 (DN) を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

使用されている電話番号を削除しようとする、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。電話番号を使用している回線グループを検索するには、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。

電話機から電話番号を削除しても、Cisco Unified CallManager 内にはその番号がまだ残っています。電話機に関連付けられている電話番号のリストを表示するには、[ルートプランレポート] メニューオプションを使用します。詳細については、[P.50-4 の「割り当てられていない電話番号の削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 削除する電話番号を含むデバイス名を選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、削除する回線を選択します。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインで、この電話番号を削除する電話機のデバイス名を選択します。

ステップ 6 [デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインの下にある下矢印をクリックします。

電話機の名前が [デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)] ペインに移動します。

ステップ 7 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの下部にある [保存] ボタンをクリックします。

その電話番号が削除された状態で、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。変更内容が電話機に自動的に適用されます。ただし、[リセット] をクリックすることもできます。詳細については、[P.70-5 の「電話機のリセット」](#)を参照してください。

追加情報

P.48-31 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの「Create Cisco Unity User」リンクを使用すると、管理者は [Cisco Unified CallManager の管理] から個々に Cisco Unity および Cisco Unity Connection ボイスメールボックスを作成できます。

始める前に

- Unity の管理者が適切なソフトウェアをインストールしていることを確認する (Cisco Unified CallManager サーバの Voice Mailbox asp ページのインストールを含む)。『Cisco Unified CallManager 5.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』または『Cisco Unified CallManager 5.0 SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection 2.1』を参照してください。
- ボイス メッセージ サービス用に Cisco Unified CallManager を設定する必要がある。『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」を参照してください。
- Cisco Unity または Cisco Unity Connection サーバを設定する必要がある。該当する Cisco Unity インストールガイドを参照してください。
- Cisco Unity または Cisco Unity Connection Cisco Unified CallManager Integrated Voice Mailbox Configuration が Cisco Unity または Cisco Unity Connection サーバで使用可能になっていることを確認する。『Cisco Unified CallManager 5.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』または『Cisco Unified CallManager 5.0 SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection 2.1』を参照してください。
- Cisco RIS Data Collector サービスがアクティブになっていることを確認する。『Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド』および『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。
- [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] が設定され、パイロット番号を含んでいること、または [<None>] に設定されていることを確認する。[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] が [NoVoiceMail] に設定されている場合、「Create Cisco Unity User」リンクは表示されません。

**(注)**

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウにも「Create Cisco Unity User」リンクがあります。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [電話番号] の順に選択し、[新規追加] をクリックします。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 48-1 を参照)。

ステップ 3 ウィンドウの右上隅にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから、「Create Cisco Unity User」リンクを選択し、[移動] をクリックします。

[Add Cisco Unity User] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Application Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unity ユーザを作成する Cisco Unity または Cisco Unity Connection サーバを選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 5 [Subscriber Template] ドロップダウン リスト ボックスから、使用する登録者テンプレートを選択します。

ステップ 6 [Save] をクリックします。

Cisco Unity または Cisco Unity Connection メールボックスが作成されます。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク] 内のリンクが「Edit Cisco Unity User」に変わります。

これで、Cisco Unity Administration に、作成したメールボックスを表示できます。Cisco Unity または Cisco Unity Connection のマニュアルを参照してください。



(注)

Cisco Unity は、Cisco Unified CallManager からのデータの同期を監視します。同期時間は、Cisco Unity Administration の [Tools] ([Import CallManager Users] [Sync CallManager]) で設定できます。Cisco Unity のマニュアルを参照してください。

追加情報

P.48-31 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話番号の設定値

表 48-1 では、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで使用可能なフィールドについて説明します。

表 48-1 電話番号の設定値




フィールド	説明
[電話番号情報 (Directory Number Information)]	
[電話番号 (Directory Number)]	<p>ダイヤル可能な電話番号を入力します。この値には、数字とルートパターンのワイルドカード、および特殊文字 ((.) と (@) を除く) を指定できます。</p> <p> (注) 電話番号としてパターンが使用されている場合、電話機の表示、およびダイヤルされた電話機への発信者 ID の表示には、数字以外の文字が含まれます。このような表示を避けるために、[表示 (Display、内線発信者 ID)]、[回線のテキストラベル (Line Text Label)]、および [外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)] に値を入力することをお勧めします。</p> <p>入力する電話番号が、複数のパーティションに表示される場合があります。</p> <p> (注) JTAPI または TAPI アプリケーションでデバイスを制御したりモニタしたりする場合は、そのデバイスに同一の電話番号を持つ複数のインスタンス (パーティションは異なる) を設定しないでください。</p>
[ルートパーティション (Route Partition)]	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。</p> <p>[電話番号 (Directory Number)] フィールドに入力する電話番号が、選択したパーティション内で固有のものであることを確認してください。電話番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [<None>] を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCAdmin Parameters] を選択します。</p>
[説明 (Description)]	電話番号とルートパターンの説明を入力します。

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	<p>発信者の電話機に表示させる名前 (警告名) を入力します。</p> <p>この設定は QSIG プロトコルの Identification Service をサポートし、共有および非共有の電話番号に適用されます。共用の回線表示を持つ電話番号に警告名を設定すると、着側 PINX で電話機の呼び出し音が鳴った時に、システムが次の作業を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話番号に割り当てられた発信者の名前を転送します。 • 変換パターン (制限がある場合) に設定された Connected Name Restrictions (CONR) を適用します。ルートパターン設定に応じて、発信 PINX が CONR を変更する場合があります。 <p>警告名を設定しない場合、発信者の電話機に「名前がありません」と表示される場合があります。[表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドに名前を入力しない場合、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールド内の情報が [表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドに表示されます。</p>
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	<p>このフィールドには、[呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)] フィールドの内容が表示されます。</p>
[アクティブ]	<p>[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウにこのチェックボックスを表示するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウから、割り当てられていない電話番号にアクセスします。このチェックボックスをオンにすると、この電話番号へのコールを転送できるようになります (転送が設定されている場合)。このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified CallManager はその電話番号を無視します。</p>
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、CTI から、この電話番号が関連付けられたデバイスの回線を制御および監視できます。</p> <p>電話番号が共有回線を指定している場合、関連付けられたデバイスの少なくとも 1 つが、CTI でサポートされるデバイス タイプおよびプロトコルの組み合わせを指定しているときは、チェックボックスがオンになっていることを確認します。</p>
[回線グループ (Line Group)]	<p>このドロップダウン リスト ボックスから、この DN を関連付ける回線グループを選択します。</p> <p>回線グループの回線グループ情報を編集または表示するには、ドロップダウン リスト ボックスから回線グループを選択し、[回線グループの編集] ボタンをクリックします。回線グループの設定の詳細については、P.35-1 の「回線グループの設定」を参照してください。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスの関連付け (Associated Devices)]	<p>この DN を電話機に関連付けると、この DN が関連付けられた電話機がこのペインに表示されます。</p> <p>この DN が関連付けられた電話機を編集するには、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイス名を選択し、[デバイスの編集] ボタンをクリックします。選択したデバイスの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。電話機の設定の詳細については、「Cisco Unified IP Phone の設定」の章を参照してください。</p> <p>この DN に対して定義されたライン アピアランスを編集するには、[デバイスの関連付け (Associated Devices)] ペインでデバイス名を選択し、[ラインアピアランスの編集] ボタンをクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウがリフレッシュされ、選択したデバイスについて、この DN のライン アピアランスが表示されます。</p>
[デバイスの関連付け解除 (Dissociate Devices)]	DN とデバイスの関連付けを解除する場合、この DN の関連付けを解除するデバイスがこのペインに表示されます。
[電話番号の設定 (Directory Number Settings)]	
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	<p>[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] に定義されているボイスメール プロファイルのリストから選択します。</p> <p>最初のオプションは、[<None>] で、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] で設定された現在のデフォルト ボイスメール プロファイルを表しています。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)


フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。選択された値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。電話番号のコーリングサーチスペースの設定情報については、P.48-30 の「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」を参照してください。</p> <p>このフィールドに変更を加えると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされている番号が更新されます。</p> <p>コーリングサーチスペースは、不在転送、話中転送、無応答時転送、カバレッジなし時転送、および CTI 障害時転送の電話番号に対して設定できます。選択された値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。</p> <p>不在転送を正しく動作させるには、不在転送のプライマリ コーリングサーチスペースまたは不在転送のセカンダリ コーリングサーチスペースの一方または両方を設定する必要があります。システムはこれらの連結フィールド (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS) を使用して、CFA 転送先を確認し、その CFA 転送先にコールを転送します。</p> <p> (注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、他のコール転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリングサーチスペースが [None] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、話中転送の転送先を設定した場合は、話中転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。話中転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、話中転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p>電話機の [不在] ソフトキーを使用してコールを転送する場合、回線 CSS とデバイス CSS の自動的な連結は使用されません。設定されたプライマリ CFA CSS とセカンダリ CFA CSS だけが使用されます。これらのフィールドがどちらも [None] の場合、連結によって 2 つのヌルパーティションが生じます。その結果、転送動作が失敗することがあります。</p> <p>ユーザが電話機上でコールを転送するのを制限する場合は、不在転送のコーリングサーチスペースのフィールドから、限定的なコーリングサーチスペースを選択する必要があります。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「パーティションおよびコーリングサーチスペース」を参照してください。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)



フィールド	説明
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、この電話番号のプレゼンス グループを選択します。選択されたグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーション ユーザが指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された [Standard Presence group] です。Cisco Unified CallManager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [None] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	<p>ユーザが保留操作を開始したときに再生されるオーディオ ソースを選択します。</p>
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	<p>ネットワークが保留操作を開始したときに再生されるオーディオ ソースを選択します。</p>
[自動応答 (Auto Answer)]	<p>次のいずれかを選択し、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Auto Answer Off] (デフォルト) • [Auto Answer with Headset] • [Auto Answer with Speakerphone] <p> (注) [Auto Answer with Headset] または [Auto Answer with Speakerphone] を選択する場合は、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用可能であることを確認します。</p> <p> (注) 共有回線を持つデバイスには自動応答を設定しないでください。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)


フィールド	説明
[コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)]	
[不在転送 (Forward All)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がコールをすべて転送するように設定されている場合、この電話番号へのコールの転送処理を指定します。ユーザが電話機から [不在転送 (Forward All)] をアクティブにすると、入力された [不在転送 (Forward All)] の転送先を検証するために、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。このフィールドは、コールを [不在転送 (Forward All)] の転送先にリダイレクトするときにも使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)]: [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [着信先 (Destination)]: この設定値は、すべてのコールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]: この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。
[不在転送の二次コーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	<p>コール転送は回線ベースの機能であるため、デバイスのコーリングサーチスペースが不明の場合、システムはコールを転送するときに、回線のコーリングサーチスペースのみを使用します。回線のコーリングサーチスペースが限定的であり、ルーティング可能でない場合、転送は失敗します。</p> <p>不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースを追加すると、転送が可能なソリューションが得られます。不在転送のプライマリコーリングサーチスペースと不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースは連結されます (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS)。Cisco Unified CallManager は、この連結を使用して、CFA 転送先を検証し、コールを転送します。</p> <p>連結されたプライマリ CFA CSS とセカンダリ CFA CSS がどのように機能するかについては、P.48-11 の「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」の説明を参照してください。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)




フィールド	説明
[話中転送 (Forward Busy Internal、内部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジー状態の場合の、この電話番号への内部コールの転送処理を指定します。回線がビジー状態と見なされる条件については、P.48-29 の「[ビジートリガー (Busy Trigger)]」を参照してください。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)]: 内部コールに対して [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p> (注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [着信先 (Destination)]: この設定値は、内部コールの話中転送の転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]: 話中転送 (内部) のコーリングサーチスペースは、コールが [話中転送 (Forward Busy Internal、内部)] の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)



フィールド	説明
	<p data-bbox="663 315 703 349"></p> <p data-bbox="655 353 1481 728">(注) システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されている場合は、転送のコーリング サーチ スペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリング サーチ スペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリング サーチ スペースが [None] の場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、話中転送の転送先を設定した場合は、話中転送のコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。話中転送のコーリング サーチ スペースが設定されていない場合、話中転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p data-bbox="663 779 703 813"></p> <p data-bbox="655 817 1481 1041">(注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)




フィールド	説明
[話中転送 (Forward Busy External、外部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジー状態の場合の、この電話番号への外部コールの転送処理を指定します。回線がビジー状態と見なされる条件については、P.48-29 の「[ビジートリガー (Busy Trigger)]」を参照してください。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)]: 外部コールに対して [ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p> (注) 内部コールに対して [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [着信先 (Destination)]: この設定値は、外部コールの話中転送の転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]: 話中転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールが [話中転送 (Forward Busy External、外部)] の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)



フィールド	説明
	<p data-bbox="655 315 715 353"></p> <p data-bbox="655 353 1481 728">(注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリングサーチスペースが [None] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、話中転送の転送先を設定した場合は、話中転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。話中転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、話中転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p data-bbox="655 779 715 817"></p> <p data-bbox="655 817 1481 1041">(注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)




フィールド	説明
[無応答時転送 (Forward No Answer Internal、内部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への内部コールの転送処理を指定します。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)]: [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメール パイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p> (注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [着信先 (Destination)]: この設定値は、コールに応答がないときに、内部コールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]: 無応答時転送 (内部) のコーリングサーチスペースは、コールが無応答時転送 (内部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)



フィールド	説明
	<p data-bbox="655 309 710 347"></p> <p data-bbox="655 353 710 392">(注)</p> <p data-bbox="746 353 1481 750">システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリングサーチスペースが [None] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、無応答時転送の転送先を設定した場合は、無応答時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。無応答時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、無応答時転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <hr/> <p data-bbox="655 806 710 844"></p> <p data-bbox="655 851 710 889">(注)</p> <p data-bbox="746 851 1481 1064">内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)




フィールド	説明
[無応答時転送 (Forward No Answer External、外部)]	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への外部コールの転送処理を指定します。コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)]: [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスがオンの場合は、ボイスメール パイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <p> (注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [着信先 (Destination)]: この設定値は、コールに応答がないときに、外部コールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]: 無応答時転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールが無応答時転送 (外部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)



フィールド	説明
	<p data-bbox="663 315 703 349"></p> <p data-bbox="655 353 1481 757">(注) システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されている場合は、転送のコーリング サーチ スペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリング サーチ スペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリング サーチ スペースが [None] の場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、無応答時転送の転送先を設定した場合は、無応答時転送のコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。無応答時転送のコーリング サーチ スペースが設定されていない場合、無応答時転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p data-bbox="663 790 703 824"></p> <p data-bbox="655 828 1481 1059">(注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)




フィールド	説明
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage Internal、内部)]	<p data-bbox="659 304 1481 371">コール カバレッジの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「コール カバレッジ」を参照してください。</p> <p data-bbox="659 394 1481 495">コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul data-bbox="659 517 1481 618" style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)]: [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p data-bbox="659 629 707 674"> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul data-bbox="659 999 1481 1122" style="list-style-type: none"> • [着信先 (Destination)]: この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p data-bbox="659 1144 707 1189"> (注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul data-bbox="659 1391 1481 1536" style="list-style-type: none"> • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]: カバレッジなし時転送 (内部) のコーリングサーチスペースは、コールがカバレッジなし時転送 (内部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p data-bbox="659 1559 707 1603"> (注) システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されている場合は、転送のコーリングサーチスペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリングサーチスペースが [None] の場合、システムでパーティションとコーリングサーチスペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、カバレッジなし時転送の転送先を設定した場合は、カバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースも設定する必要があります。カバレッジなし時転送のコーリングサーチスペースが設定されていない場合、カバレッジなし時転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)




フィールド	説明
	 <p>(注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>
[カバレッジなし時転送 (Forward No Coverage External、外部)]	<p>コール カバレッジの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「コール カバレッジ」を参照してください。</p> <p>コールを転送先にリダイレクトするときは、コール転送先と [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドが使用されます。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ボイスメール (Voice Mail)]: [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。  <p>(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [着信先 (Destination)]: この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。  <p>(注) 内部コールの転送先の値を入力すると、システムによりこの値が外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの [着信先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]: カバレッジなし時転送 (外部) のコーリングサーチスペースは、コールがカバレッジなし時転送 (外部) の転送先に転送されるときに使用されます。この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)




フィールド	説明
	<p> (注) システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されている場合は、転送のコーリング サーチ スペースも設定することをお勧めします。コールをコール転送先に転送またはリダイレクトする場合は、設定されたコール転送のコーリング サーチ スペースを使用してコールが転送されます。転送のコーリング サーチ スペースが [None] の場合、システムでパーティションとコーリング サーチ スペースが使用されているときは、転送動作が失敗することがあります。たとえば、カバレッジなし時転送の転送先を設定した場合は、カバレッジなし時転送のコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。カバレッジなし時転送のコーリング サーチ スペースが設定されていない場合、カバレッジなし時転送の転送先がパーティション内にあると、転送動作が失敗することがあります。</p> <p> (注) 内部コールに対して [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択した場合、システムにより外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>
[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)]	<p>このフィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポートのみ適用されます。この行の設定値は、CTI ルート ポイントまたは CTI ポートが失敗した場合の、この CTI ルート ポイントまたは CTI ポートへの外部コールの転送処理を指定します。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ボイスメール (Voice Mail)]: [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco Unified CallManager は、[着信先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [着信先 (Destination)]: この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します (該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]: この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)


フィールド	説明
[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)]	<p>このフィールドは無応答時転送の転送先設定と併用し、電話機で呼び出し音が鳴ってから転送が開始されるまでの時間を示すタイマーを設定します。この設定をブランクのままにすると、Cisco CallManager サービスパラメータの Forward No Answer Timer に設定された値が使用されます。</p> <p> 注意 デフォルトでは、Cisco Unified CallManager は、[無応答時の呼び出し時間(No Answer Ring Duration、秒)]の時間よりも T301 タイマーの時間を長くします。T301 タイマーの設定時間が[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)]よりも先に時間切れになった場合は、コールが終了し、コール転送が行われません。この動作を選択する場合は、[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)]の時間を T301 タイマーよりも大きくするように設定できます。T301 タイマーについては、[システム] > [サービスパラメータ] の順に選択し、表示されたウィンドウで、サーバ、Cisco CallManager サービス、およびパラメータを選択します。</p>
[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]	(指定されたパーティション内で) この電話番号へのコールにตอบสนองするために、ダイヤル可能な番号を選択します。
[MLPP 代替パーティの設定 (MLPP Alternate Party Settings)]	
[転送先 (Target、着信先)]	<p>この電話番号が優先コールを受信し、この番号とそのコール転送先が優先コールにตอบสนองしない場合に MLPP 優先コールが転送される番号を入力します。</p> <p>この値には、数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を指定できます。</p>
[コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、MLPP 代替パーティのターゲット (宛先) 番号に関連付けられたコーリングサーチスペースを選択します。電話番号のコーリングサーチスペースの設定情報については、 P.48-30 の「 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 」を参照してください。
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration、秒)]	<p>秒数(4 ~ 60)を指定します。この電話番号とそのコール転送先が MLPP 優先コールにตอบสนองしない場合、ここで指定した秒数が経過すると、MLPP 優先コールがこの電話番号の代替パーティに誘導されます。</p> <p>この設定をブランクのままにすると、Cisco Unified CallManager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout に設定された値が使用されます。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)


フィールド	説明
[デバイス < デバイス名 > の回線 <n>(Line [number] on Device [device name])]	
 <p>(注) これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合のみです。</p>	
[表示 (Display、内線発信者 ID)]	<p>着側に表示されるテキスト。このフィールドをブランクのままにすると、内線番号が表示されます。</p> <p>最長 30 文字の英数字を使用してください。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。通常、ユーザ名または電話番号を使用します。電話番号を使用した場合、コールを受信した人は発信者の固有 ID を見ることはできません。</p> <p>右側のチェックボックス([共有デバイス設定の更新])をオンにし、[選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)]	<p>このフィールドには、[表示 (Display、内線発信者 ID)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII 表示 (ASCII Display、内線発信者 ID)] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス([共有デバイス設定の更新])をオンにし、[選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
[回線のテキストラベル (Line Text Label)]	<p>このフィールドは、回線の表示に電話番号を示さないようにする場合に限り使用します。回線 / 電話機の組み合わせに対し電話番号を識別するテキストを入力します。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。</p> <p>複数の電話番号をモニタする秘書や担当者がそれらの電話番号を識別できるように、所属長の氏名、部門名、または他の適切な情報の入力をお勧めします。</p> <p>右側のチェックボックス([共有デバイス設定の更新])をオンにし、[選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)]	<p>このフィールドには、[<i>回線のテキストラベル (Line Text Label)</i>] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されず、Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[<i>ASCII 回線テキストラベル (ASCII Line Text Label)</i>] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス([共有デバイス設定の更新])をオンにし、[選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からのコールの発信時に発信者 ID 情報の送信に使用される電話番号 (またはマスク) を指定します。</p> <p>最長 24 桁の数字および「X」文字を入力できます。X は、電話番号を表し、パターンの末尾に指定する必要があります。たとえば、マスクを 972813XXXX に指定する場合、内線番号 1234 からの外部コールには、発信者 ID が「9728131234」と表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス([共有デバイス設定の更新])をオンにし、[選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
[メッセージ受信ランプポリシー (Message Waiting Lamp Policy)]	<p>このフィールドでは、受話器のランプの点灯に関するポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Policy] (電話番号は、サービスパラメータ「メッセージ受信のランプポリシー」の設定を参照します) • [Light and Prompt] • [Prompt Only] • [Light Only] • [None] <p>右側のチェックボックス([共有デバイス設定の更新])をオンにし、[選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)



フィールド	説明
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアイドルのとき)]	<p>このフィールドでは、着信コールが受信され、そのデバイスにそれ以外のアクティブなコールがない場合に、回線の表示に対する呼び出し音設定値を設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring] <p>右側のチェックボックス([共有デバイス設定の更新])をオンにし、[選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p> <p> (注) エンタープライズパラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の [呼出音設定] が動作しません。</p>
[呼出音設定 (Ring Setting、電話がアクティブのとき)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この電話機で別回線に別のアクティブなコールがある場合に使用する呼び出し音設定値を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Use System Default] • [Disable] • [Flash Only] • [Ring Once] • [Ring] • [Beep Only] <p>右側のチェックボックス([共有デバイス設定の更新])をオンにし、[選択対象を反映] ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスのみ適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p> <p> (注) エンタープライズパラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の [呼出音設定] が動作しません。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)






フィールド	説明
[デバイス < デバイス名 > の複数コール / コール待機設定 (Multiple Call/Call Waiting Settings on Device [device name])]	
 <p>(注) これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合のみです。</p>	
<p>[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]</p>	<p>デバイスの回線に最大 200 コールまで設定できます。デバイスに設定されるコールの合計数が、この制限要因になります。ある回線に対してコールの数を設定すると、別の回線で利用できるコールの数はそれだけ少なくなります。</p> <p>デフォルト値は 4 です。電話機が各回線に複数のコールを設定できない場合、デフォルト値は 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントの場合、各ポートに最大 10,000 コールまで設定できます。デフォルト値は 5000 コールです。このフィールドは、[ビジートリガー (Busy Trigger)] フィールドと併用します。</p> <p> (注) デフォルトでは、CTI ルート ポイントに設定可能なアクティブコールの最大数は 5000 コールになっていますが、シスコでは、コールの最大数をルート ポイントあたり 200 以下に設定することをお勧めします。この設定により、システムパフォーマンスの低下を防ぐことができます。CTI アプリケーションで 200 を超えるコールが必要な場合は、複数の CTI ルート ポイントを設定することをお勧めします。</p> <p> ヒント 共用の回線表示を持つデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「共有回線の表示」を参照してください。</p>
<p>[ビジートリガー (Busy Trigger)]</p>	<p>この設定は、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および話中転送と連携し、回線で使われるコールの最大数を決定します。たとえば、[コール最大数 (Maximum Number of Calls)] に 50、[ビジートリガー (Busy Trigger)] に 40 をそれぞれ設定した場合、41 番目の着信コールは、ビジーのために拒否されます (話中転送が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジーになった後に着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイントの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と併用します。デフォルト値は 4500 コールです。</p> <p> ヒント 共用の回線表示を持つデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「共有回線の表示」を参照してください。</p>

表 48-1 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイス < デバイス名 > における、転送呼の情報表示 (Forwarded Call Information Display on Device [device name])]	
 <p>(注) これらのフィールドが表示されるのは、この電話番号をデバイスに関連付けた場合のみです。</p>	
[発信者名 (Caller Name)]	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に発信者名が表示されます。
[発信者番号 (Caller Number)]	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に発信者 ID が表示されます。
[転送元番号 (Redirected Number)]	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時にリダイレクトされた番号が表示されます。
[ダイヤル番号 (Dialed Number)]	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に最初にダイヤルされた番号が表示されます。

[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]

Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。


(注)

リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。

追加情報

P.48-31 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [電話番号の設定の概要 \(P.48-1 \)](#)
- [電話番号の検索 \(P.48-2 \)](#)
- [電話番号の設定 \(P.48-3 \)](#)
- [電話機からの電話番号の削除 \(P.48-5 \)](#)
- [Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイスメールボックスの作成 \(P.48-6 \)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.48-8 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話番号の設定チェックリスト」
- [回線グループの設定 \(P.35-1 \)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.50-4 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.69-1 \)](#)
- [電話機のリセット \(P.70-5 \)](#)
- [電話機の検索 \(P.70-33 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-3 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity Cisco Unified CallManager 統合メールボックス設定」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」



ミーティング番号 / パターンの設定

Meet-Me 会議では、電話番号の割り当てが必要です。Cisco Unified CallManager の管理ページは、ユーザがこの機能を利用できるように、一連の Meet-Me 会議電話番号をユーザに通知しておく必要があります。

ミーティング番号 / パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかのミーティング番号 / パターンが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のミーティング番号 / パターンを見つけることができます。ミーティング番号 / パターンを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ミーティング番号 / パターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ミーティング番号 / パターンの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ミーティング番号 / パターン] の順に選択します。

[ミーティング番号の検索と一覧表示 (Find and List Meet-Me Numbers)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ミーティング番号 / パターンを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: 番号 / パターン、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [番号]
- [パーティション]
- [説明]



(注) このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるミートミー番号 / パターン リストのソート方法が決まります。たとえば、[パーティション] を選択すると、[パーティション (Partition)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象 : 番号 / パターン、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているミートミー番号 / パターンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたミートミー番号 / パターンのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ミートミー番号 / パターン (Meet-Me Number/Pattern)]
- [パーティション (Partition)]
- [説明 (Description)]



(注) 該当するミートミー番号 / パターンの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ミートミー番号の検索と一覧表示 (Find and List Meet-Me Numbers)] ウィンドウから複数のミートミー番号 / パターンを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のミートミー番号 / パターンをすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する番号、関連付けられたパーティション、または説明をクリックします。

選択したミートミー番号 / パターンがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.49-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ミートミー番号 / パターンの設定

ミートミー番号 / パターンを追加、コピー、および更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。P.2-1 の「サーバの設定」を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。P.9-1 の「デバイス プールの設定」を参照してください。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ミートミー番号 / パターン] の順に選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のミートミー番号 / パターンをコピーするには、該当するミートミー番号 / パターンを見つけます (P.49-1 の「ミートミー番号 / パターンの検索」を参照)。コピーするミートミー番号 / パターンをクリックします。[ミートミー番号の設定 (Meet-Me Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。[コピー] をクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- ミートミー番号 / パターンを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のミートミー番号 / パターンを更新するには、該当するミートミー番号 / パターンを見つけます (P.49-1 の「ミートミー番号 / パターンの検索」を参照)。更新するミートミー番号 / パターンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。



(注) 必要に応じて、番号またはパターンを変更することができます (たとえば、5000 を 500X に変更できます)。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 49-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。



追加情報

P.49-5 の「関連項目」を参照してください。

ミートミー番号 / パターンの設定値

表 49-1 では、ミートミー番号 / パターンの設定値について説明します。

表 49-1 ミートミー番号 / パターンの設定値

フィールド	説明
[電話番号またはパターン (Directory Number or Pattern)]	ミートミーの電話番号または番号の範囲(たとえば、8000 ~ 8009)を入力します。
[説明 (Description)]	ミートミー番号 / パターンを説明する最大 30 文字の英数字を入力します。
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを使用してミートミー番号/パターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。</p> <p>ミートミー番号 / パターンへのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [<None>] を選択します。詳細については、P.41-1 の「パーティションの設定」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] の下の [Max List Box Items] フィールドを更新します。</p> <p> (注) ミートミー番号/パターンとパーティションの組み合わせが、Cisco Unified CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>

追加情報

P.49-5 の「関連項目」を参照してください。

ミートミー番号 / パターンの削除

ミートミー番号 / パターンを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。
- デバイス プールが設定済みであること。
- ミートミー番号 / パターンが設定済みであること。

手順

-
- ステップ 1** P.49-1 の「[ミートミー番号 / パターンの検索](#)」の手順を使用して、ミートミー番号 / パターンを検索します。
- ステップ 2** 削除するミートミー番号 / パターンをクリックします。
- ステップ 3** **[削除]** をクリックします。
-

追加情報

P.49-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [パーティションの設定 \(P.41-1\)](#)
- [ミートミー番号 / パターンの検索 \(P.49-1\)](#)
- [ミートミー番号 / パターンの設定 \(P.49-3\)](#)
- [ミートミー番号 / パターンの削除 \(P.49-5\)](#)
- [ミートミー番号 / パターンの設定値 \(P.49-4\)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.53-5\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.53-7\)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.53-13\)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.53-14\)](#)
- 『[Cisco Unified CallManager システム ガイド](#)』の「[Conference Bridge](#)」



ルート プラン レポート

ルート プラン レポートとは、システム内のすべての割り当てられた（または割り当てられていない）電話番号（DN）、コール パーク（転送先保留）番号、コール ピックアップ番号、会議番号、ルート パターン、変換パターン、メッセージ ウェイティング インジケータ、ボイスメール ポート、および Cisco Unified CallManager Attendant Console パイロット番号のリストです。ルート プラン レポートを使用して、[パターン / 電話番号 (Pattern/Directory Number)] [パーティション (Partition)] または [ルート詳細 (Route Detail)] のフィールドをクリックすることにより、リストの一部または全部を表示すること、および関連する設定ウィンドウに直接進むことができます。

さらに、ルート プラン レポートを使用して、.csv ファイルにレポート データを保存し、他のアプリケーションに対してインポートを可能にすることもできます。この .csv ファイルには、電話機の電話番号（DN）、ルートパターン、パターンの使用方法、デバイス名、およびデバイスの説明を含む、Web ページよりも詳しい情報が入っています。

Cisco Unified CallManager は、ルート プランを使用して、内部コールと外部 PSTN（公衆電話交換網）コールの両方をルート指定します。ルート プランの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」を参照してください。

ルート プラン レコードを表示するには、次のトピックを参照してください。

- [ルート プラン レコードの表示 \(P.50-2\)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.50-4\)](#)
- [ファイル内のルート プラン レポートの表示 \(P.50-6\)](#)

ルートプランレコードの表示

この項では、ルートプランレコードを表示する手順について説明します。ネットワーク内にはいくつかのレコードが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定のルートプランレコードを見つけることができます。カスタマイズされたルートプランレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルートプランレポート] の順に選択します。

[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リストボックスを使用して、要件を満たすルートプランレポートを指定します。

ステップ 2 最初の [検索対象:] ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [すべてのパターン]
- [未定義の DN]
- [コールパーク]
- [会議]
- [電話番号]
- [変換パターン]
- [コールピックアップグループ]
- [ルートパターン]
- [メッセージ受信]
- [ハントパイロット]
- [ボイスメールポート]
- [アテンダントコンソール]
- [ドメインルーティング]
- [IP ルーティング]

2 番目の [検索条件:] ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [パターン / 電話番号]
- [パーティション]

3 番目の [検索条件:] ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているルートプランをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。



(注) ルートプランレポートは、パターン / 電話番号、対応するパーティション / パターンタイプ、およびルートの詳細を表示します。[ルート詳細 (Route Detail)] 列には、ルートリスト情報 (ルートグループおよび回線グループと関連ゲートウェイ、および使用ポート情報と一緒に) またはゲートウェイ情報が表示されます。

検出されたルートプランのリストが、次の項目別に表示されます。

- パターン / 電話番号のアイコン
- [パターン / 電話番号 (Pattern/Directory Number)]
- [パーティション (Partition)]
- [タイプ (Type)]
- [ルート詳細 (Route Detail)]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するパターン / 電話番号のアイコン、名前、関連するパーティション、またはルートの詳細をクリックします。

選択したパターンがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.50-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

割り当てられていない電話番号の削除

この項では、ルート プラン レポートから割り当てられていない電話番号を削除する手順について説明します。電話番号は、[Cisco Unified CallManager の管理] の [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで設定および削除されます。電話番号がデバイスまたは電話機から削除されても、その電話番号は Cisco Unified CallManager データベース内に残っています。データベースから電話番号を削除するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウを使用します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルートプランレポート] の順に選択します。

[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、すべての割り当てられていない電話番号を含むルート プラン レポートを指定します。

ステップ 2 電話番号の削除には、次の 3 つの方法があります。

- a. 削除する電話番号をクリックします。[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されたら、[削除] をクリックします。
- b. 削除する電話番号の横にあるチェックボックスをオンにします。[選択項目の削除] をクリックします。
- c. 検出された割り当てられていない電話番号をすべて削除するには、[見つかった項目をすべて削除] をクリックします。

電話番号を削除するかどうかを確認する、警告メッセージが表示されます。

ステップ 3 電話番号を削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。

追加情報

P.50-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

割り当てられていない電話番号の更新

この項では、ルートプランレポートから、割り当てられていない電話番号の設定を更新する手順について説明します。電話番号は、[Cisco Unified CallManager の管理] の [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで設定および削除されます。電話番号がデバイスから削除されても、その電話番号は Cisco Unified CallManager データベースに残っています。電話番号の設定を更新するには、[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウを使用します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルートプランレポート] の順に選択します。

[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リストボックスを使用して、すべての割り当てられていない電話番号を含むルートプランレポートを指定します。

ステップ 2 更新する電話番号をクリックします。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) 電話番号およびパーティション以外の、電話番号の設定をすべて更新することができます。

ステップ 3 コーリング検索スペースまたは転送オプションなど、必要に応じて内容を更新します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示され、電話番号フィールドがブランクになります。

追加情報

P.50-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ファイル内のルートプランレポートの表示

ファイル .csv 内のルートプランレポートを表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ルートプランレポート] の順に選択します。

[ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ルートプランレポート (Route Plan Report)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リストボックスから [ファイルで表示] を選択し、[移動] をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスから、そのファイルを保存するか、別のアプリケーションにインポートすることができます。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

別のウィンドウが表示され、そのウィンドウで、必要なロケーションにこのファイルを保存できます。



(注) このファイルに別のファイル名を付けて保存することもできますが、ファイル名には、.csv 拡張子が必要です。

ステップ 4 ファイルを保存するロケーションを選択し、[保存] をクリックします。これで、指定されたロケーションにこのファイルが保存されます。

ステップ 5 保存した .csv ファイルのアイコンをダブルクリックすると、このファイルの内容が表示されます。

関連項目

- [ルートプランレポート \(P.50-1\)](#)
- [ルートプランレコードの表示 \(P.50-2\)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.50-4\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.48-3\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」



ダイヤル プラン インストーラ

Cisco International Dial Plan をインストールし、これを使用して、北米を除く特定の国に固有の番号計画を作成することができます。Cisco Unified CallManager には、デフォルトで、North American Numbering Plan (NANP; 北米番号計画) が用意されています。他国のダイヤル プランの要件はその国に固有のものであるため、デフォルトの NANP 設定は、その国のダイヤル プランを作成するのに最適でないことがあります。Cisco International Dial Plan を使用すると、固有のダイヤル プランを作成および更新でき、世界中でシスコのお客様がこのダイヤル プランを使用できるようになります。

この章では、ダイヤル プランを Cisco Unified CallManager サーバにインストールする方法について説明します。

ダイヤル プランをサーバにインストールする前に、対応するダイヤル プラン COP (Cisco Option Package) ファイルを Cisco Unified CallManager サーバにダウンロードしておく必要があります。

使用可能なすべてのダイヤル プランに対応し、ダウンロード、インストール、および Cisco Unified CallManager システムとの統合が可能な COP ファイルは、次の URL で入手できます。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/IDP>

COP ファイルのインストールの詳細については、『*Cisco Unified CallManager ダイヤルプラン導入ガイド*』を参照してください。

このロケーションからダイヤル プランをインストールする方法の詳細については、P.51-3 の「[Cisco Unified CallManager でのダイヤル プランのインストール](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager 上でダイヤル プランを検索してインストールする手順は、次のとおりです。

- [ダイヤル プランの検索 \(P.51-2\)](#)
- [ダイヤル プランの編集 \(P.51-3\)](#)
- [Cisco Unified CallManager でのダイヤル プランのインストール \(P.51-3\)](#)
- [NANP 以外のダイヤル プランに関するルート パターンの詳細の設定 \(P.51-4\)](#)
- [ダイヤル プランのアップグレード \(P.51-5\)](#)
- [ダイヤル プランのアンインストール \(P.51-7\)](#)
- [Cisco CallManager サービスの再起動 \(P.51-8\)](#)
- [関連項目 \(P.51-8\)](#)

ダイアルプランの検索

Cisco Unified CallManager システム上でダイアルプランを検索する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CallManager の管理] ウィンドウで、[コール ルーティング] > [ダイアルプラン インストーラ] の順に選択します。

[ダイアルプランの検索と一覧表示 (Find and List Dial Plans)] ウィンドウが表示されます。

ネットワーク内にはいくつかのダイアルプランが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のダイアルプランを見つけることができます。サーバを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索 / 表示ウィンドウでの検索設定がクライアントマシン上の cookie に格納されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから新しくブラウザウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco Unified CallManager の検索設定は保持されます。

ステップ 2 最初の [検索対象 : ダイアルプラン、検索条件 :] ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [ダイアルプラン]
- [説明]

2 番目の [検索対象 : ダイアルプラン、検索条件 :] ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント

データベースに登録されているダイアルプランをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたサーバのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ダイアルプラン (Dial Plan)]
- [説明 (Description)]
- [インストールされているバージョン (Installed Version)]
- [システムのバージョン (System Version)]



(注) [インストールされているバージョン (Installed Version)] は、ノードにインストールされているダイヤル プランのバージョンを指します。[システムのバージョン (System Version)] は、クラスタの最初のノードで使用可能なダイヤル プランの最新バージョンを指します。

追加情報

P.51-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ダイヤル プランの編集

ダイヤル プランをインストール、アップグレード、またはアンインストールする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.51-2 の「[ダイヤル プランの検索](#)」で定義されている手順を使用して、インストールするダイヤル プランを検索します。

ステップ 2 レコードのリストで、検索条件と一致するダイヤル プランの名前をクリックします。

[[ダイヤルプランの設定 \(Dial Plan Configuration\)](#)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 次の作業のいずれかを実行します。

- ダイヤル プランをインストールするには、P.51-3 の「[Cisco Unified CallManager でのダイヤル プランのインストール](#)」を参照してください。
- ダイヤル プランをアップグレードするには、P.51-5 の「[ダイヤル プランのアップグレード](#)」を参照してください。
- ダイヤル プランをアンインストールするには、P.51-7 の「[ダイヤル プランのアンインストール](#)」を参照してください。

追加情報

P.51-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager でのダイヤル プランのインストール

ダイヤル プランをインストールする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.51-2 の「[ダイヤル プランの検索](#)」で定義されている手順を使用して、インストールするダイヤル プランを検索します。

ステップ 2 レコードのリストで、検索条件と一致するダイヤルプランの名前をクリックします。

[ダイヤルプランの設定 (Dial Plan Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ダイヤルプラン (Dial Plan)] フィールドと [説明] フィールドに、ダイヤルプランの名前と説明が表示されます。

ステップ 4 [インストールされているバージョン (Installed Version)] に、Cisco Unified CallManager サーバにインストールされている現在のバージョンが表示されます。ダイヤルプランのどのバージョンもインストールされていない場合、[インストールされているバージョン (Installed Version)] には「Not Installed」と表示されます。

ステップ 5 [使用可能バージョン (Available Version)] ドロップダウン リスト ボックスから、インストールするダイヤルプランのバージョンを選択します。

ステップ 6 [インストール] をクリックします。

[ステータス (Status)] に、ダイヤルプランがインストールされたことが表示されます。

[インストールされているバージョン (Installed Version)] フィールドに、Cisco Unified CallManager サーバにインストールされたダイヤルプランのバージョンが表示されます。

ステップ 7 [ステップ 1](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返して、Cisco Unified CallManager クラスタのすべてのノードでダイヤルプランをインストールします。



(注) ダイヤルプランのインストールが完了したら、ダイヤルプランをロードするために Cisco CallManager サービスを再起動します。

追加情報

[P.51-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

NANP 以外のダイヤルプランに関するルートパターンの詳細の設定

NANP 以外のダイヤルプランを Cisco Unified CallManager システムにインストールした場合は、Cisco Unified CallManager の [ルートリスト詳細の設定 (Route List Detail Configuration)] ウィンドウでルートパターンの詳細を設定するときは、必要なダイヤルプランを選択できます。

ルートパターンの詳細を設定するときは、次の点に注意してください。

1. NANP 以外のダイヤルプランの場合、ルートパターン レベルで設定を保持するときは、[ルートリスト詳細の設定 (Route List Detail Configuration)] ウィンドウで次のどちらかの選択を行います。
 - a. [番号の削除 (Discard Digits)] フィールドで [None] を選択する。[番号の削除 (Discard Digits)] フィールドで [None] を選択すると、ダイヤルプランを選択しないことになります。
 - b. [番号の削除 (Discard Digits)] フィールドで、NANP 以外の [<ダイヤルプラン>:No Digits] を選択する (たとえば、[AMNP:No Digits])。

2. [ルートグループ (Route Group)] レベルの設定値を指定して [ルートパターン (Route Pattern)] の設定値を無効にする場合は、[番号の削除 (Discard Digits)] フィールドでそのダイアルプランに適した DDI を選択します。DDI の例には、[NANP:PreDot] や [AMNP:PreDot] があります。

追加情報

P.51-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ダイアルプランのアップグレード

NANP 以外のダイアルプランをすでにインストールしている場合、Cisco Unified CallManager システムにインストールされているダイアルプランを、アップグレードバージョンのダイアルプランでアップグレードできます。



注意

既存のバージョンのダイアルプランでルートフィルタの句として 1 つ以上のタグを設定している場合、これらのタグがアップグレードバージョンに含まれていないときは、ダイアルプランのアップグレードは失敗します。新しいダイアルプランへのアップグレードを実行すると、それらのタグがすべてリスト表示されます。これらのタグをルートフィルタから分離した上で、再度 Cisco Unified CallManager システムでダイアルプランのアップグレードを実行する必要があります。



注意

既存のバージョンのダイアルプランでルートパターン、変換パターン、またはルートリストに 1 つ以上の DDI を関連付けている場合、これらの DDI がアップグレードバージョンに含まれていないときは、ダイアルプランのアップグレードは失敗します。ダイアルプランのアップグレードを実行すると、これらの DDI がすべてリスト表示されます。これらの DDI をルートパターン、変換パターン、ルートリストから分離した上で、再度 Cisco Unified CallManager システムでダイアルプランのアップグレードを実行する必要があります。



(注)

クラスタ内のサブスクリバまたは他のノードでダイアルプランを更新する前に、Cisco Unified CallManager クラスタの最初のノードサーバ上でダイアルプランを更新したことを確認してください。

既存のダイアルプランをアップグレードする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.51-2 の「[ダイアルプランの検索](#)」で定義されている手順を使用して、アップグレードするダイアルプランを検索します。
- ステップ 2** レコードのリストで、検索条件と一致するダイアルプランの名前をクリックします。
[ダイアルプランの設定 (Dial Plan Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ダイアルプラン (Dial Plan)] フィールドと [説明] フィールドに、ダイアルプランの名前と説明が表示されます。

ステップ 4 [インストールされているバージョン (Installed Version)] に、Cisco Unified CallManager サーバにインストールされている現在のバージョンが表示されます。ダイアルプランのどのバージョンもインストールされていない場合、[インストールされているバージョン (Installed Version)] には「Not Installed」と表示されます。

ステップ 5 [使用可能バージョン (Available Version)] ドロップダウン リスト ボックスから、アップグレードするダイアルプランのバージョンを選択します。

ステップ 6 [インストール] をクリックします。

[ステータス (Status)] に、ダイアルプランがアップグレードされたことが表示されます。

[インストールされているバージョン (Installed Version)] フィールドに、ダイアルプランの最新バージョンが表示されます。

ステップ 7 **ステップ 1 ~ ステップ 6** を繰り返して、Cisco CallManager サービスがインストールされている Cisco Unified CallManager クラスタのすべてのノードでダイアルプランをアップグレードします。



(注) ダイアルプランのアップグレードが完了したら、変更を有効にするために Cisco CallManager サービスを再起動します。P.51-8 の「Cisco CallManager サービスの再起動」を参照してください。



(注) ダイアルプランを 4.0x から 5.0x に移行する場合、ルートパターンなどの設定はすべて保持されます。ダイアルプランは [ダイアルプランの検索と一覧表示 (Find and List Dial Plans)] ウィンドウには表示されません。ダイアルプランを更新するには、COP ファイルをインストールし (『Cisco Unified CallManager ダイアルプラン導入ガイド』を参照)、必要なダイアルプランをインストールする必要があります。P.51-3 の「Cisco Unified CallManager でのダイアルプランのインストール」を参照してください。



(注) 4.0x から 5.0x にアップグレードする場合、ダイアルプランと、ダイアルプランに関連付けられたルートパターン / ルートフィルタなどのダイアルプラン設定を保持するには、CCO で入手可能な最新のダイアルプランをインストールしてください。

追加情報

P.51-8 の「関連項目」を参照してください。

ダイアルプランのアンインストール



注意

ダイアルプランをアンインストールする前に、Cisco Unified CallManager システム上のダイアルプランで設定されているルートパターン、変換パターン、ルートリスト、およびルートフィルタを削除したことを確認してください。

ダイアルプランをアンインストールする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.51-2 の「[ダイアルプランの検索](#)」で定義されている手順を使用して、削除するダイアルプランを検索します。
- ステップ 2** レコードのリストで、検索条件と一致するダイアルプランの名前をクリックします。
[ダイアルプランの設定 (Dial Plan Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ダイアルプラン (Dial Plan)] フィールドと [説明] フィールドに、ダイアルプランの名前と説明が表示されます。
- ステップ 4** [インストールされているバージョン (Installed Version)] に、Cisco Unified CallManager サーバにインストールされている現在のバージョンが表示されます。
- ステップ 5** [アンインストール] をクリックします。



(注)

ダイアルプランのアンインストールは、クラスタ内の最初のノードで実行してから、それ以降のノードで実行する必要があります。

[ステータス (Status)] に、ダイアルプランが削除されたことが表示されます。

[インストールされているバージョン (Installed Version)] フィールドに、「Not Installed」と表示されます。

- ステップ 6** [ステップ 1](#) ~ [ステップ 5](#) を繰り返して、Cisco Unified CallManager クラスタのすべてのノードでダイアルプランをアンインストールします。

追加情報

P.51-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco CallManager サービスの再起動

Cisco CallManager サービスを再起動する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CallManager Serviceability] ウィンドウで、[Tools] [Control Center - Feature Services] の順に選択します。

[Control Center - Feature Services] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified CallManager サーバを選択します。

[CM Services] 領域に、[Service Name] 列が表示されます。



(注) Cisco CallManager サービスに対応するオプション ボタンをクリックします。

ステップ 3 Cisco CallManager サービスを再起動する場合は、[Restart] をクリックします。

サービスが再起動し、「Service Restarted Successfully」というメッセージが表示されます。

ステップ 4 停止している Cisco CallManager サービスを開始する場合は、[Start] をクリックします。

サービスが開始され、「Service Started Successfully」というメッセージが表示されます。

追加情報

P.51-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ダイヤルプランの検索 \(P.51-2\)](#)
- [ダイヤルプランの編集 \(P.51-3\)](#)
- [Cisco Unified CallManager でのダイヤルプランのインストール \(P.51-3\)](#)
- [NANP 以外のダイヤルプランに関するルートパターンの詳細の設定 \(P.51-4\)](#)
- [ダイヤルプランのアップグレード \(P.51-5\)](#)
- [ダイヤルプランのアンインストール \(P.51-7\)](#)
- [Cisco CallManager サービスの再起動 \(P.51-8\)](#)
- 『[Cisco Unified CallManager ダイヤルプラン導入ガイド](#)』



PART 4

メディア リソースの設定





Annunciator の設定

Annunciator は、Cisco Media Streaming Application サービスを使用する SCCP デバイスです。これを使用すると、Cisco Unified IP Phone およびゲートウェイに事前に録音したアナウンス (.wav ファイル) とトーンを Cisco Unified CallManager で再生できます。Annunciator は、Cisco Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) と連携して動作し、Cisco Unified CallManager はコールが失敗した理由を発信者に知らせることができます。Annunciator も転送されたコールと会議の一部のトーンを再生できます。

Annunciator を検索および更新するには、次のトピックを参照してください。

- [始める前に \(P.52-1\)](#)
- [Annunciator の検索 \(P.52-2\)](#)
- [Annunciator の更新 \(P.52-3\)](#)
- [Annunciator の設定値 \(P.52-4\)](#)
- [Annunciator のリセット \(P.52-4\)](#)

始める前に

Annunciator を設定する予定のサーバで Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを有効にしたことを確認してください。



ヒント

Cisco Unified CallManager サーバを追加すると、サーバの Annunciator がデータベースに自動的に追加されます。Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにすると、Annunciator デバイスが Cisco Unified CallManager に登録されます。P.52-2 の「[Annunciator の検索](#)」を使用して、Annunciator が存在するかどうかを確認します。

Annunciator の検索

Annunciator を検索する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [Annunciator] の順に選択します。

[Annunciator の検索と一覧表示 (Find and List Annunciators)] ウィンドウが表示されます。



ヒント データベースに登録されている Annunciator をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

特定の Annunciator をすばやく検索するには、次の作業に従って検索条件を指定します。

ステップ 2 最初の [検索対象 : Annunciator(アナンシエータ)、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、[名前] または [説明] を選択します。

ステップ 3 2 番目の [検索対象 : Annunciator(アナンシエータ)、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを入力し、[検索] をクリックします。

設定した Annunciator のリストが表示されます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件と一致する Annunciator の名前をクリックします。

選択した Annunciator がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.52-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Annunciator の更新

Annunciator を更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

Annunciator を更新する前に、次の作業が完了していることを確認します。

- 適切なサーバを設定する。
- デバイス プールを設定する。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [Annunciator] の順に選択します。

[Annunciator の検索と一覧表示 (Find and List Annunciators)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Annunciator を更新するには、該当する Annunciator を見つけます (P.52-2 の「Annunciator の検索」を参照)。



ヒント

Cisco Unified CallManager サーバを追加すると、サーバの Annunciator がデータベースに自動的に追加されます。Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにすると、Annunciator デバイスが Cisco Unified CallManager に登録されます。

ステップ 3 更新する Annunciator をクリックし、**ステップ 4** に進みます。

ステップ 4 適切な設定値を入力します (表 52-1 を参照)。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

ステップ 6 Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスがアクティブになっていることを確認します。サービスのアクティブ化については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

追加情報

P.52-5 の「関連項目」を参照してください。

Annunciator の設定値

表 52-1 では、Annunciator の設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.52-5 の「関連項目」を参照してください。

表 52-1 Annunciator の設定値

フィールド	説明
[サーバ (Server)]	設定済みのサーバ (インストール時に追加されたサーバ) が自動的に表示されます。
[名前]	デバイスが Cisco Unified CallManager に登録される場合、このフィールドには使用される名前を指定します。最大 15 文字の英数字 (ピリオド、ダッシュ、および下線も使用可能) で名前を入力します。
[説明]	最大 54 文字の英数字 (ピリオド、ダッシュ、および下線も使用可能) で説明を入力します。デフォルトでは、サーバ名 (プレフィックス ANN_ を含む) が使用されています。
[デバイスプール (Device Pool)]	[Default] を選択するか、または設定したデバイス プールのドロップダウン リストからデバイス プールを選択します。
[ロケーション (Location)]	この Annunciator に適切なロケーションを選択します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この Annunciator が消費する帯域幅を把握しません。

Annunciator のリセット

Annunciator をリセットする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1 P.52-2 の「Annunciator の検索」の手順を使用して、Annunciator を見つけます。
- ステップ 2 リセットする Annunciator をクリックします。
- ステップ 3 [リセット] ボタンをクリックします。
- ステップ 4 [デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。続行するには、[リセット] をクリックします。

追加情報

P.52-5 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [Annunciator の更新 \(P.52-3 \)](#)
- [Annunciator の設定値 \(P.52-4 \)](#)
- [Annunciator のリセット \(P.52-4 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Annunciator」



会議ブリッジの設定

Cisco Unified CallManager 用の会議ブリッジは、ソフトウェアまたはハードウェアからなるアプリケーションです。これを使用すると、Ad Hoc 音声会議と Meet-Me 音声会議の両方が実現できます。どの方式の会議ブリッジも、複数の参加者による複数の会議を同時にサポートしています。

ハードウェア会議とソフトウェア会議の両方の会議ブリッジを同時にアクティブにすることができます。ソフトウェアとハードウェアのコンファレンス デバイスでは、サポートするストリーム数とコーデックのタイプが異なります。

会議ブリッジの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」を参照してください。



(注)

会議ブリッジ用のハードウェア モデルには、固有のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスとデバイス プールの情報が組み込まれています。



(注)

選択する会議ブリッジのタイプによって、Cisco Unified CallManager の管理ページに表示される会議ブリッジのフィールドが異なることに注意してください。

会議ブリッジを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [会議ブリッジの検索 \(P.53-2\)](#)
- [ソフトウェア会議ブリッジの設定について \(P.53-3\)](#)
- [ソフトウェア会議ブリッジの設定値 \(P.53-4\)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.53-5\)](#)
- [ハードウェア会議ブリッジの設定値 \(P.53-6\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.53-7\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge の設定値 \(P.53-8\)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.53-9\)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge の設定値 \(P.53-10\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.53-11\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) の設定値 \(P.53-12\)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.53-13\)](#)

- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.53-14\)](#)
- [ミーティング番号 / パターンの設定 \(P.49-3\)](#)
- [ミーティング番号 / パターンの設定値 \(P.49-4\)](#)
- [ミーティング番号 / パターンの削除 \(P.49-5\)](#)

会議ブリッジの検索

ネットワーク内にはいくつかの会議ブリッジが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定の会議ブリッジを見つけることができます。会議ブリッジを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、会議ブリッジの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、会議ブリッジの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [会議ブリッジ] の順に選択します。

[会議ブリッジの検索と一覧表示 (Find and List Conference Bridges)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、会議ブリッジを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: 会議ブリッジ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [説明]
- [デバイスプール]

2 番目の [検索対象: 会議ブリッジ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている会議ブリッジをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された会議ブリッジのリストが、次の項目別に表示されます。

- 会議ブリッジのアイコン
- [会議ブリッジ名 (Conference Bridge Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]



(注) 該当する会議ブリッジの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[会議ブリッジの検索と一覧表示 (Find and List Conference Bridges)] ウィンドウから複数の会議ブリッジを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての会議ブリッジを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する会議ブリッジのアイコンか名前、または関連するデバイスプールをクリックします。

選択した会議ブリッジがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.53-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ソフトウェア会議ブリッジの設定について

管理者は、Conference Bridge Configuration を使用して、ソフトウェア会議ブリッジを Cisco Unified CallManager に追加することはできません。ソフトウェア会議ブリッジは、Cisco Unified CallManager サーバが追加されるときに、自動的に追加されます (詳細については、P.2-4 の「[サーバの設定](#)」を参照してください)。Cisco Unified CallManager サーバの追加後、管理者が検索を実行すると、[会議ブリッジの検索と一覧表示 (Find and List Conference Bridges)] ウィンドウにソフトウェア会議ブリッジが表示されます (デフォルトでは、最初のソフトウェア会議ブリッジは Cisco Unified CallManager のインストール時に設定されます)。ソフトウェア会議ブリッジは更新可能ですが、削除はできません。

追加情報

P.53-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ソフトウェア会議ブリッジの設定値

表 53-1 では、ソフトウェア会議ブリッジの設定値について説明します。

表 53-1 ソフトウェア会議ブリッジの設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	このフィールドには、Cisco Unified CallManager Conference Bridge ソフトウェアが自動的に表示されます。
[ホストサーバ (Host Server)]	このフィールドには、このソフトウェア会議ブリッジが設定されている Cisco Unified CallManager サーバが自動的に表示されます。
[会議ブリッジ名 (Conference Bridge Name)]	このフィールドには、ソフトウェア会議ブリッジの名前が自動的に表示されます。名前の形式では、CFB_ の後ろに、ソフトウェア会議ブリッジの値を表す番号が続きます。たとえば、CFB_3 は Cisco Unified CallManager システムの 3 番目の会議ブリッジを表します。
[説明 (Description)]	このフィールドには説明が自動的に表示されます。管理者はこのフィールドを更新できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	使用している Cisco Unified CallManager グループの中で一番高い優先度をもつデバイス プールを選択するか、または [Default] を選択します。
[ロケーション (Location)]	この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。

追加情報

P.53-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ハードウェア コンファレンス デバイスの追加

ハードウェア コンファレンス デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールを設定します。P.9-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [メディアリソース]>[会議ブリッジ]の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加]をクリックします。

[会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 53-2 を参照)。

ステップ 4 [保存]をクリックします。

ステップ 5 [リセット]をクリックして、会議ブリッジ デバイスをリセットし、変更内容を適用します。

[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [リセット]をクリックして、ウィンドウを閉じます。

追加情報

P.53-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ハードウェア会議ブリッジの設定値

表 53-2 では、ハードウェア会議ブリッジの設定値について説明します。

表 53-2 ハードウェア会議ブリッジの設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	[Cisco Conference Bridge Hardware] を選択します。 詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified CallManager の管理機能における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。
[MAC アドレス]	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。 例 1231123245AB
[説明 (Description)]	このフィールドは、指定された MAC アドレスから自動的に生成されます。
[デバイスプール (Device Pool)]	使用している Cisco Unified CallManager グループの中で一番高い優先度をもつデバイス プールを選択するか、または [Default] を選択します。
[ロケーション (Location)]	この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。
[特別なロード情報 (Special Load Information)]	特別なロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。

追加情報

P.53-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加

Cisco IOS コンファレンス デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールを設定します。P.9-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [メディアリソース]>[会議ブリッジ]の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加]をクリックします。

[会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 53-3 を参照)。

ステップ 4 [保存]をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。

ステップ 5 [リセット]をクリックして、会議ブリッジ デバイスをリセットし、変更内容を適用します。

[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [リセット]をクリックします。

追加情報

P.53-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco IOS Conference Bridge の設定値

表 53-3 では、Cisco IOS Conference Bridge の設定値について説明します。

表 53-3 Cisco IOS Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	[Cisco IOS Conference Bridge] または [Cisco IOS Enhanced Conference Bridge] を選択します。 詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified CallManager の管理機能における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。
[会議ブリッジ名 (Conference Bridge Name)]	ゲートウェイのコマンドライン インターフェイス (CLI) で既存の同じ名前を入力します。
[説明 (Description)]	このフィールドは、指定した会議ブリッジ名から自動的に生成されます。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールを選択するか、[Default] を選択します。
[ロケーション (Location)]	この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。

追加情報

P.53-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加

Cisco Video Conference Bridge デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールを設定します。P.9-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [メディアリソース]>[会議ブリッジ]の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加]をクリックします。

[会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 53-4 を参照)。

ステップ 4 [保存]をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。

ステップ 5 [リセット]をクリックして、会議ブリッジ デバイスをリセットし、変更内容を適用します。

[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [リセット]をクリックします。

追加情報

P.53-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Video Conference Bridge の設定値

表 53-4 では、Cisco Video Conference Bridge の設定値について説明します。

表 53-4 Cisco Video Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	[Cisco Video Conference Bridge (IPVC-35xx)] を選択します。 詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified CallManager の管理機能における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。
[MAC アドレス]	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。 例 1231123245AB
[説明 (Description)]	このフィールドは、指定した会議ブリッジ名から自動的に生成されます。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールを選択するか、[Default] を選択します。
[ロケーション (Location)]	この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。 フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 見出しの下にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。 詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

追加情報

P.53-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager Conference Bridge(WS-SVC-CMM)デバイスの追加

Cisco Unified CallManager Conference Bridge (WS-SVC-CMM) デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールを設定します。P.9-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [メディアリソース]>[会議ブリッジ]の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加]をクリックします。

[会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 53-5 を参照)。

ステップ 4 [保存]をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。

ステップ 5 [リセット]をクリックして、会議ブリッジ デバイスをリセットし、変更内容を適用します。

この操作を実行すると会議ブリッジ デバイスがリセットされることを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 6 [リセット]をクリックします。

追加情報

P.53-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値

表 53-5 では、Cisco Unified CallManager Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値について説明します。

表 53-5 Cisco Unified CallManager Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値

フィールド	説明
[会議ブリッジタイプ (Conference Bridge Type)]	[Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM)] を選択します。 詳細については、『 <i>Cisco Unified CallManager システム ガイド</i> 』の「Cisco Unified CallManager の管理機能における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。
[説明 (Description)]	説明 (最大 50 文字) を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスから自動的に生成されます。
[MAC アドレス]	固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。 例 1231123245AB
[サブユニット]	ドロップダウン リスト ボックスから、Communication Media Module カード上の任意のロット用のドータ カードの値を選択します。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールを選択するか、[Default] を選択します。
[ロケーション (Location)]	この会議ブリッジに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、この会議ブリッジが消費する帯域幅を把握しません。
[最大容量]	ドータ カード上の任意のサービスのストリームの最大数を選択します。ストリーム数の値には、32、64、96、および 128 を使用できます。各ドータ カードに、選択した値と同じ数のポートがあることを確認してください。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 見出しの下にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。 詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

追加情報

P.53-15 の「[関連項目](#)」を参照してください。

コンファレンス デバイスの更新

コンファレンス デバイスを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。P.2-1 の「サーバの設定」を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。P.9-1 の「デバイス プールの設定」を参照してください。
- コンファレンス デバイスが設定済みであること。コンファレンス デバイスの追加については、該当する項を参照してください。



(注) ソフトウェア会議ブリッジは、Cisco Unified CallManager サーバが作成されるときに、自動的に作成されます。P.53-3 の「ソフトウェア会議ブリッジの設定について」を参照してください。

- ソフトウェア会議ブリッジに対して、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにする。『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 P.53-2 の「会議ブリッジの検索」の手順を使用して、会議ブリッジを見つけます。
 - ステップ 2 更新する会議ブリッジをクリックします。
 - ステップ 3 該当する設定値を更新します (表 53-1、表 53-2、表 53-3、表 53-4、または表 53-5 を参照)。
 - ステップ 4 変更の終了後、[保存] をクリックします。
-

追加情報

P.53-15 の「関連項目」を参照してください。

コンファレンス デバイスの削除

コンファレンス デバイスを削除する手順は、次のとおりです。Cisco Unified CallManager Conference Bridge ソフトウェアは削除できません。P.53-3 の「ソフトウェア会議ブリッジの設定について」を参照してください。

始める前に

Cisco Unified CallManager では、メディア リソース グループなどの要素に関連付けられている可能性のあるデバイスを削除できます。コンファレンス デバイスに存在する可能性のある依存関係を検索するには、[会議ブリッジの設定 (Conference Bridge Configuration)] ウィンドウで、ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] リンクを選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」を参照してください。

手順

ステップ 1 P.53-2 の「会議ブリッジの検索」の手順を使用して、会議ブリッジを見つけます。

ステップ 2 削除する会議ブリッジをクリックします。

ステップ 3 [選択項目の削除] をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。

「1 つ以上の会議ブリッジを完全に削除しようとしています。この操作を取り消すことはできません。続行しますか？」

ステップ 4 [OK] をクリックして、コンファレンス デバイスを削除します。

追加情報

P.53-15 の「関連項目」を参照してください。

参考情報

- *Cisco Unified Videoconferencing 3511 MCU and Cisco Unified Videoconferencing 3540 MCU Module Administrator Guide*
- *Cisco Unified CallManager システム ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*

関連項目

- [会議ブリッジの検索 \(P.53-2\)](#)
- [ソフトウェア会議ブリッジの設定について \(P.53-3\)](#)
- [ソフトウェア会議ブリッジの設定値 \(P.53-4\)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.53-5\)](#)
- [ハードウェア会議ブリッジの設定値 \(P.53-6\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.53-7\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge の設定値 \(P.53-8\)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.53-9\)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge の設定値 \(P.53-10\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.53-11\)](#)
- [Cisco Unified CallManager Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) の設定値 \(P.53-12\)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.53-13\)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.53-14\)](#)
- [ミーティング番号 / パターンの設定 \(P.49-3\)](#)
- [ミーティング番号 / パターンの設定値 \(P.49-4\)](#)
- [ミーティング番号 / パターンの削除 \(P.49-5\)](#)
- [参考情報 \(P.53-15\)](#)
- 『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「Conference Bridge」
- 『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「Cisco Unified CallManager の管理機能における Conference Bridge のタイプ」



メディア ターミネーション ポイント の設定

メディア ターミネーション ポイントソフトウェア デバイスを使用すると、Cisco Unified CallManager は、SIP または H.323 エンドポイントあるいは SIP または H.323 ゲートウェイ経由でルーティングされるコールをリレーできます。メディア ターミネーション ポイント デバイスは、DTMF または RSVP 要件に応じて割り当てることができます。RSVP 用にメディア ターミネーション ポイントを割り当てるときは、SIP または H.323 デバイスなど、あらゆるタイプのエンドポイント デバイス間にメディア ターミネーション ポイントを挿入できます。

メディア ターミネーション ポイントは、ソフトウェアのインストール中にサーバにインストールされる Cisco ソフトウェア アプリケーションです。メディア ターミネーション ポイント デバイスを設定するサーバ上で Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにして開始する必要があります。サービスのアクティブ化と開始については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

データベースに定義されている各メディア ターミネーション ポイント デバイスは、Media Resource Manager (MRM; メディア リソース マネージャ) に登録されます。MRM は、システム内で使用可能なメディア ターミネーション ポイントの総数、および使用可能なリソースがあるデバイスを把握しています。

リソースの予約時に、MRM はリソース数を決定し、メディア リソース タイプ(この場合はメディア ターミネーション ポイント)および登録済みメディア ターミネーション ポイント デバイスのロケーションを特定します。MRM は、登録情報を使用して共有リソース テーブルを更新し、クラスター内の他の Cisco Unified CallManager に登録情報を伝搬します。

メディア ターミネーション ポイントとトランスコーダは、同一の Cisco Unified CallManager に登録できます。詳細については、P.58-1 の「トランスコーダの設定」を参照してください。

各メディア ターミネーション ポイントは、登録先の Cisco Unified CallManager を、優先順に並べたリストを受け取ります。各メディア ターミネーション ポイントが一度に登録できる Cisco Unified CallManager は 1 つのみです。



(注)

SIP エンドポイントの機能によっては、Cisco Unified CallManager で SIP コールを発信するときに、RFC 2833 DTMF 準拠のメディア ターミネーション ポイント デバイスが必要になることがあります。RSVP コールの場合は、エンドポイント デバイスに関連付けられた Media Resource Group List (MRGL; メディア リソース グループ リスト) に、RSVP をサポートするメディア ターミネーション ポイント デバイスを含める必要があります。

メディア ターミネーション ポイントを追加、更新、および削除するには、次のトピックを参照してください。

- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.54-2\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.54-4\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの削除 \(P.54-6\)](#)
- [関連項目 \(P.54-7\)](#)

メディア ターミネーション ポイントの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア ターミネーション ポイントが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のメディア ターミネーション ポイントを見つけることができます。メディア ターミネーション ポイントを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、メディア ターミネーション ポイントの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア ターミネーション ポイントの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [メディアターミネーションポイント] の順に選択します。

[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、メディア ターミネーション ポイントを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: メディアターミネーションポイント、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [説明]
- [デバイスプール]

2 番目の [検索対象: メディアターミネーションポイント、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているメディア ターミネーション ポイントをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **[検索]** をクリックします。

検出されたメディア ターミネーション ポイントのリストが、次の項目別に表示されます。

- メディア ターミネーション ポイントのアイコン
- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]



(注) 該当するメディア ターミネーション ポイントの横にあるチェックボックスをオンにして、**[選択項目の削除]** をクリックすると、**[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)]** ウィンドウから複数のメディア ターミネーション ポイントを削除できます。ウィンドウ内のメディア ターミネーション ポイントをすべて削除するには、**[すべてを選択]** をクリックし、**[選択項目の削除]** をクリックします。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するメディアターミネーションポイントのアイコン、メディア ターミネーション ポイント名、説明、または関連するデバイスプールをクリックします。

選択したメディア ターミネーション ポイントがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.54-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

メディア ターミネーション ポイントの設定

メディア ターミネーション ポイントを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。



(注)

この手順を実行するには、Cisco Unified CallManager のサービスアビリティ ページを使用して Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにする必要があります。サービスのアクティブ化については、『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。
- デバイス プールが設定済みであること。



(注)

Cisco Unified CallManager サーバごとに割り当てることができるメディア ターミネーション ポイント デバイスは 1 つのみです。Cisco Unified CallManager サーバを追加すると、メディア ターミネーション ポイント デバイスがサーバ用に自動的に作成されますが、そのデバイスは Cisco IP Voice Media Streaming App サービスがアクティブになるまで使用できません。

手順

ステップ 1 次のいずれかの作業を行います。

- メディア ターミネーション ポイントを追加するには、[メディアリソース]>[メディアターミネーションポイント]の順に選択します。[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウが表示されます。[新規追加]をクリックします。
- メディア ターミネーション ポイントをコピーするには、[メディアリソース]>[メディアターミネーションポイント]の順に選択します。[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウが表示されます。コピーするメディア ターミネーション ポイントの横にある [コピー] アイコンをクリックします。
- メディア ターミネーション ポイントを更新するには、P.54-2 の「メディア ターミネーション ポイントの検索」の手順を使用して、メディア ターミネーション ポイントを見つけます。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 54-1 を参照)。

ステップ 3 [保存] をクリックします。


追加情報

P.54-7 の「関連項目」を参照してください。

Cisco IOS Media Termination Point の設定値

表 54-1 では、Cisco IOS Media Termination Point の設定値について説明します。

表 54-1 Cisco IOS Media Termination Point の設定値

フィールド	説明
[メディアターミネーション ポイントタイプ (Media Termination Point Type)]	[Cisco IOS Enhanced Software Media Termination Point] を選択し ます。 このメディア ターミネーション ポイントのタイプに関する詳細に ついては、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「メディ ア ターミネーション ポイント」を参照してください。
[メディアターミネーション ポイント名 (Media Termination Point Name)]	メディアターミネーション ポイントの名前を最大 15 文字の英数字 で入力します。  ヒント ゲートウェイのコマンドライン インターフェイス (CLI) で既存の同じメディア ターミネーション ポイントの名 前を入力してください。
[説明 (Description)]	メディア ターミネーション ポイントの説明を入力します。
[デバイスプール]	使用している Cisco Unified CallManager グループの中で一番高い優 先度をもつデバイス プールを選択するか、または [Default] を選 択します。

追加情報

P.54-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

メディア ターミネーション ポイントの削除

メディア ターミネーション ポイントを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

現在使用されている、メディア リソース グループ内の最後のデバイスであるメディア ターミネーション ポイントを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するメディア ターミネーション ポイントを使用しているメディア リソース グループに、別のメディア ターミネーション ポイントを割り当てる。P.59-7 の「[メディア リソース グループの削除](#)」を参照してください。
- 削除するメディア ターミネーション ポイントを使用しているメディア リソース グループを削除する。P.59-7 の「[メディア リソース グループの削除](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 P.54-2 の「[メディア ターミネーション ポイントの検索](#)」の手順を使用して、メディア ターミネーション ポイントを見つけます。

ステップ 2 削除するメディア ターミネーション ポイントをクリックします。

ステップ 3 [**選択項目の削除**] をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。

「1 つ以上のメディアターミネーションポイントを完全に削除しようとしています。この操作を取り消すことはできません。

続行しますか？」

ステップ 4 [**OK**] をクリックして、メディア ターミネーション ポイントを削除します。

このメディア ターミネーション ポイントがメディア リソース グループ内の最後のデバイスである場合、メディア リソース グループは空のグループとして残ります。

ステップ 5 [**OK**] をクリックします。

追加情報

P.54-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.54-2\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.54-4\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの削除 \(P.54-6\)](#)
- [関連項目 \(P.54-7\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「トランスコーダ」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「メディア ターミネーション ポイント」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Resource Reservation Protocol」



Music On Hold オーディオソースの設定

統合 Music On Hold 機能を使用すると、オンネットとオフネットのユーザを保留にするときに、ストリーミングソースから音楽を流すことができます。この機能には、次の動作があります。

- エンドユーザ保留
- ネットワーク保留（転送保留、会議保留、およびパーク保留を含む）

Music On Hold 設定は、Music On Hold オーディオソースと Music On Hold サーバの設定で構成されます。

[Music On Hold オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウの使用の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Music On Hold」の章を参照してください。



Music On Hold 固定オーディオソース の設定

統合 Music On Hold 機能を使用すると、オンネットとオフネットのユーザを保留にするときに、ストリーミングソースから音楽を流すことができます。この機能には、次の動作があります。

- エンドユーザ保留
- ネットワーク保留（転送保留、会議保留、およびパーク保留を含む）

Music On Hold 設定は、Music On Hold オーディオソースと Music On Hold サーバの設定で構成されます。また、Music On Hold 固定オーディオソースを使用可能にできます。このオーディオソースではマルチキャストを許可できます。

[固定 MOH オーディオソースの設定 (Fixed MOH Audio Source Configuration)] ウィンドウの使用方の詳細については、『*Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド*』の「Music On Hold」の章を参照してください。



Music On Hold サーバの設定

Cisco Unified CallManager Music On Hold 機能では MOH サーバが使用されます。MOH サーバは、Music On Hold オーディオ ソースを提供し、Music On Hold オーディオ ソースを数多くのストリームに接続するソフトウェア アプリケーションです。

[Music On Hold(MOH) サーバの設定 (Music On Hold (MOH) Server Configuration)] ウィンドウの使用
方法の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Music On Hold」
の章を参照してください。



トランスコードの設定

Media Resource Manager (MRM; メディア リソース マネージャ) は、Cisco Unified CallManager クラスタ内のトランスコードのリソース登録とリソース予約を行います。Cisco Unified CallManager は、Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) とトランスコードの両方の登録、および 1 つのコール内で MTP とトランスコードの並行機能を同時にサポートしています。

2 つのデバイスが異なるコーデックを使用しており、普通には情報の交換ができない場合、Cisco Unified CallManager は、エンドポイント デバイスのためにトランスコードを起動します。トランスコードは、コールに挿入されると、2 つの異なるコーデック間で情報交換が可能になるように、そのコーデック間でデータ ストリームを変換します。

トランスコード制御プロセスは、データベース内で定義されているトランスコード デバイスごとに作成されます。各トランスコードは、初期化される時に MRM に登録されます。MRM はトランスコード リソースのトラッキングを行い、リソースが使用可能かどうかをクラスタ全体に通知します。

トランスコードを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [トランスコードの検索 \(P.58-2\)](#)
- [トランスコードの設定 \(P.58-4\)](#)
- [トランスコードのリセット \(P.58-5\)](#)
- [トランスコードの削除 \(P.58-6\)](#)
- [トランスコードの設定値 \(P.58-7\)](#)

トランスコーダの検索

ネットワーク内にはいくつかのトランスコーダが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のトランスコーダを見つけることができます。トランスコーダを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、トランスコーダの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランスコーダの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [トランスコーダ] の順に選択します。

[トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、トランスコーダを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: トランスコーダ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [説明]
- [デバイスプール]



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるトランスコーダ リストのソート方法が決まります。たとえば、[デバイスプール] を選択すると、[デバイスプール (Device Pool)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象: トランスコーダ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているトランスコーダをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたトランスコーダのリストが、次の項目別に表示されます。

- トランスコーダのアイコン
- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]



(注) 該当するトランスコーダの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)] ウィンドウから複数のトランスコーダを削除できます。ウィンドウ内のトランスコーダをすべて削除するには、[すべてを選択] をクリックし、[選択項目の削除] をクリックします。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する トランスコーダのアイコン、トランスコーダ名、説明、または関連するデバイスプールをクリックします。

選択したトランスコーダがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.58-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

トランスコーダの設定

トランスコーダを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [メディアリソース]>[トランスコーダ]の順に選択します。

[トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoders)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のトランスコーダをコピーするには、該当するトランスコーダを見つけます (P.58-2 の「トランスコーダの検索」を参照)。次に、コピーするトランスコーダの横にある [コピー] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいトランスコーダを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のトランスコーダを更新するには、該当するトランスコーダを見つけます (P.58-2 の「トランスコーダの検索」を参照)。次に、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 58-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、設定したトランスコーダに対して固有の情報が状況を含めて表示されます。

追加情報

P.58-8 の「関連項目」を参照してください。

トランスコードのリセット

トランスコードをリセットする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [メディアリソース]>[トランスコード]の順に選択します。

ステップ 2 トランスコードのリストから、リセットするトランスコードを選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコードが表示されます。

ステップ 3 [リセット]をクリックします。

[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [リセット]を再度クリックします。

追加情報

P.58-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

トランスコーダの削除

トランスコーダを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

メディア リソース グループに割り当てられているトランスコーダは、削除できません。トランスコーダを使用しているメディア リソース グループを検索するには、[トランスコーダの設定 (Transcoder Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用されているトランスコーダを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているトランスコーダを削除する前に、割り当てられているメディア リソース グループからトランスコーダを削除する必要があります。

手順

ステップ 1 P.58-2 の「[トランスコーダの検索](#)」の手順を使用して、トランスコーダを見つけます。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するトランスコーダを選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコーダが表示されます。

ステップ 3 [削除] をクリックします。

このトランスコーダを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 続行するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、削除したトランスコーダが、トランスコーダ リストに表示されなくなります。

追加情報

P.58-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

トランスコーダの設定値

表 58-1 では、トランスコーダの設定値について説明します。関連する手順については、P.58-8 の「関連項目」を参照してください。

表 58-1 トランスコーダの設定値

フィールド	説明
[トランスコーダタイプ (Transcoder Type)]	適切なトランスコーダタイプを選択します。[Cisco Media Termination Point Hardware] [Cisco IOS Media Termination Point] [Cisco IOS Enhanced Media Termination Point] または [Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のいずれかを選択してください。 これらのトランスコーダのタイプの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「トランスコーダ」を参照してください。
[デバイス名(Device Name)]	このフィールドは、[Cisco IOS Media Termination Point] または [Cisco IOS Enhanced Media Termination Point] をトランスコーダのタイプとして選択した場合に表示されます。ゲートウェイのコマンドラインインターフェイス (CLI) で入力したトランスコーディングの同じ名前を入力します。
[トランスコーダ名]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合、この値は指定された MAC アドレスに基づいて入力されます。
[説明]	説明 (最大 50 文字) を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスまたはデバイス名から自動的に生成されます。
[MAC アドレス (MAC Address)]	[Cisco Media Termination Point Hardware] または [Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] の場合は、MAC アドレス (12 文字) を入力します。
[サブユニット]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスからサブユニットを選択します。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイス プールを選択します。選択したデバイス プールの詳細を表示するには、[詳細の表示] をクリックします。
[特別なロード情報 (Special Load Information)]	[特別なロード情報 (Special Load Information)] フィールドに特別なロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。文字、数字、ダッシュ、ドット (ピリオド) および下線を指定できます。
[最大容量]	[Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)] のトランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスから最大容量を選択します。

表 58-1 トランスコードの設定値 (続き)

フィールド	説明
プロダクト固有の設定値	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 見出しの下にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

関連項目

- [トランスコードの検索 \(P.58-2\)](#)
- [トランスコードの設定 \(P.58-4\)](#)
- [トランスコードのリセット \(P.58-5\)](#)
- [トランスコードの削除 \(P.58-6\)](#)
- [トランスコードの設定値 \(P.58-7\)](#)
- [会議ブリッジの設定 \(P.53-1\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.54-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「トランスコード」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified CallManager の管理ページにおけるトランスコードのタイプ」



メディア リソース グループの設定

メディア リソース管理は、メディア リソース グループとメディア リソース グループ リストによる処理を包含しています。メディア リソース管理にはメディア リソースの管理機構が備わっているため、クラスタ内のすべての Cisco Unified CallManager がメディア リソースを共有できます。メディア リソースは、会議、トランスコーディング、メディア 終 端、Annunciator、および Music On Hold の各サービスを提供します。

メディア リソース グループは、メディア サーバが論理グループを構成するように定義します。必要に応じて、メディア リソース グループを地理上のロケーションやサイトと関連付けることができます。また、サーバの使用方法やサービスのタイプ（ユニキャストまたはマルチキャスト）を制御するためのメディア リソース グループも必要に応じて作成できます。

次のタイプのデバイスを、1 つのメディア リソース グループにグループ化することができます。

- 会議ブリッジ (CFB)
- メディア ターミネーション ポイント (MTP)
- Music On Hold サーバ (MOH)
- トランスコーダ (XCODE)
- Annunciator (ANN)

メディア リソース グループを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [メディア リソース グループの検索 \(P.59-2\)](#)
- [メディア リソース グループの設定 \(P.59-4\)](#)
- [メディア リソース グループの設定値 \(P.59-5\)](#)
- [メディア リソース グループの削除 \(P.59-7\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア リソース グループが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のメディア リソース グループを見つけることができます。メディア リソース グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、メディア リソース グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア リソース グループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [メディアリソースグループ] の順に選択します。

[メディアリソースグループの検索と一覧表示 (Find and List Media Resource Groups)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、メディア リソース グループを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: メディアリソースグループ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [説明]



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるメディア リソース グループ リストのソート方法が決まります。たとえば、[説明] を選択すると、[説明 (Description)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象: メディアリソースグループ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているメディア リソース グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたメディア リソース グループのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [マルチキャスト (Multicast)]



(注) 該当するメディア リソース グループの横にあるチェックボックスをオンにして、[**選択項目の削除**] をクリックすると、[**メディアリソースグループの検索と一覧表示 (Find and List Media Resource Groups)**] ウィンドウから複数のメディア リソース グループを削除できます。ウィンドウ内のメディア リソース グループをすべて削除するには、[**すべてを選択**] をクリックし、[**選択項目の削除**] をクリックします。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するメディアリソースグループ名、説明、または マルチキャスト 設定をクリックします。

選択したメディア リソース グループがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.59-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

メディア リソース グループの設定

メディア リソース グループを追加、更新、またはコピーする手順は、次のとおりです。



(注)

メディア リソース グループから最初にリソースを除去しておく場合、またはメディア リソースが入っているメディア リソース グループを削除する場合を除いて、メディア リソース グループに含まれているメディア リソース (たとえば、会議ブリッジ) は、削除できません。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [メディアリソースグループ] の順に選択します。

[メディアリソースグループの検索と一覧表示 (Find and List Media Resource Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- メディア リソース グループをコピーするには、該当するメディア リソース グループを見つけます (P.59-2 の「メディア リソース グループの検索」を参照)。[検索結果 (Search Results)] リストから、コピーするメディア リソース グループに対応する [コピー] アイコンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しいメディア リソース グループを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックします。[メディアリソースグループの設定 (Media Resource Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。ステップ 3 に進みます。
- 既存のメディア リソース グループを更新するには、該当するメディア リソース グループを見つけます (P.59-2 の「メディア リソース グループの検索」を参照)。次に、ステップ 3 に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 59-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

メディア リソース グループをコピーする場合は、少なくともメディア リソース グループの名前を変更する必要があります。

メディア リソース グループを追加すると、[ステータス (Status)] が、[使用可] から [追加に成功しました] に変わります。これで、メディア リソース グループ リストに、新規のメディア リソース グループが追加されました。

既存のメディア リソース グループを更新すると、[ステータス (Status)] が、[使用可] から [更新に成功しました] に変わります。

メディア リソース グループ内のすべてのデバイス (使用可能なリソースと選択済みリソースの両方) をリセットするには、[リセット] ボタンをクリックします。



(注)

デバイスをリセットすると、このメディア リソース グループに関連するデバイスがすべてリセットされます。Cisco Unified CallManager が、影響を受けるゲートウェイ上のアクティブ コールを削除する可能性があります。

追加情報

P.59-8 の「関連項目」を参照してください。


メディア リソース グループの設定値

表 59-1 では、メディア リソース グループの設定に使用される設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.59-8 の「関連項目」を参照してください。

表 59-1 メディア リソース グループの設定値

フィールド	説明
[名前]	これは必須フィールドで、Cisco Unified CallManager がメディア リソース グループを識別するための固有の名前を入力します。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット（ピリオド）、および下線を指定できます。
[説明]	メディア リソース グループの説明を入力します。この説明には、最長 50 文字を指定できます。説明には、二重引用符（"）、小なり（<）、大なり（>）またはパーセント記号（%）が、含まれていないことを確認してください。
[このグループのデバイス (Devices for this Group)]	この領域は、メディア リソース グループのメディア リソースを定義するのに使用される[使用可能なメディアリソース (Available Media Resources)]と[選択されたメディアリソース (Selected Media Resources)]の 2 つの画面区画から構成されます。
[使用可能なメディアリソース (Available Media Resources)]	<p>メディア リソース グループに対して選択可能なメディア リソースが表示されます。このメディア リソースには、次のメディア リソース タイプが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 会議ブリッジ (CFB) • メディア ターミネーション ポイント (MTP) • Music On Hold サーバ (MOH) • トランスコーダ (XCODE) • Annunciator (ANN) <p>マルチキャスト用に設定されている Music On Hold サーバには、(MOH)[Multicast] というラベルが付いています。</p> <p>このメディア リソース グループのメディア リソースを追加するには、リストからメディア リソースを選択し、下矢印をクリックします。メディア リソースが追加されると、その名前が、[選択されたメディアリソース (Selected Media Resources)] に移動されます。</p>

表 59-1 メディア リソース グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
[選択されたメディアリソース (Selected Media Resources)]	<p>メディア リソース グループに対して選択されたメディア リソースが表示されます。どのメディア リソース グループでも、少なくとも 1 つのメディア リソースを選択する必要があります。</p> <p>メディア リソースを削除 (選択解除) するには、その名前を選択し、上矢印をクリックします。</p>
[MOH オーディオにマルチキャストを使用 (Use Multicast for MOH Audio、最低 1 つのマルチキャスト MOH リソースが使用可能な場合)]	<p>Music On Hold オーディオ用のマルチキャストを使用するには、このチェックボックスをオンにします。マルチキャストを使用するには、[選択されたメディアリソース (Selected Media Resources)] の少なくとも 1 つが、マルチキャスト MOH サーバであることを確認してください。</p>
	<p> (注) システム管理者は、マルチキャスト オーディオ ソースを設定または作成する責任を負います。</p>

メディア リソース グループの削除

既存のメディア リソース グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

メディア リソース グループ リストに割り当てられているメディア リソース グループは、削除できません。メディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループ リストを検索するには、[メディアリソースグループの設定 (Media Resource Group Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。使用されているメディア リソース グループを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているメディア リソース グループを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するメディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループすべてに、別のメディア リソース グループ リストを割り当てる。[P.60-4 の「メディア リソース グループ リストの設定」](#)を参照してください。
- 削除するメディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループ リストを削除する。[P.60-6 の「メディア リソース グループ リストの削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [P.59-2 の「メディア リソース グループの検索」](#)の手順を使用して、メディア リソース グループを見つけます。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するメディア リソース グループを選択します。

ステップ 3 [削除] ボタンをクリックします。

このメディア リソース グループを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 続行するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。

選択されたメディア リソース グループが、メディア リソース グループ リストから削除されました。

追加情報

[P.59-8 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [メディア リソース グループの検索 \(P.59-2 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定 \(P.59-4 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定値 \(P.59-5 \)](#)
- [メディア リソース グループの削除 \(P.59-7 \)](#)
- [依存関係レコードへのアクセス \(P.A-4 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループ リスト

- [メディア リソース グループ リストの設定 \(P.60-1 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定 \(P.60-4 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの削除 \(P.60-6 \)](#)



メディア リソース グループ リストの 設定

メディア リソース管理は、メディア リソース グループとメディア リソース グループ リストによる処理を包含しています。メディア リソース管理にはメディア リソースの管理機構が備わっているため、クラスタ内のすべての Cisco Unified CallManager がメディア リソースを共有できます。メディア リソースは、会議、トランスコーディング、メディア 終 端、Annunciator、および Music On Hold の各サービスを提供します。

メディア リソース グループ リストは、メディア リソース グループに優先順位を付けます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に基づいて、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。

メディア リソース グループ リストを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [メディア リソース グループ リストの検索 \(P.60-2\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定 \(P.60-4\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定値 \(P.60-5\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの削除 \(P.60-6\)](#)

メディア リソース グループ リストの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア リソース グループ リストが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のメディア リソース グループ リストを見つけることができます。メディア リソース グループ リストを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、メディア リソース グループ リストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア リソース グループ リストの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [メディアリソースグループリスト] の順に選択します。

[メディアリソースグループリストの検索と一覧表示 (Find and List Media Resource Group Lists)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して、メディア リソース グループ リストを検索します。

ステップ 2 [検索対象: メディアリソースグループリスト、検索条件: 名前] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているメディア リソース グループ リストをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたメディア リソース グループ リスト一覧が、次の項目別に表示されます。

- [名前]



(注)

該当するメディア リソース グループ リストの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[メディアリソースグループリストの検索と一覧表示 (Find and List Media Resource Group Lists)] ウィンドウから複数のメディア リソース グループ リストを削除できます。ウィンドウ内のメディア リソース グループ リストをすべて削除するには、[すべてを選択] をクリックし、[選択項目の削除] をクリックします。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するメディアリソースグループリスト名をクリックします。

選択したメディア リソース グループ リストがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.60-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

メディア リソース グループ リストの設定

メディア リソース グループ リストを追加、更新、またはコピーする手順は、次のとおりです。



(注)

割り当てられているメディア リソース グループ リストから、メディア リソース グループを最初に除去しておくか、メディア リソース グループ リストを削除する場合を除いて、メディア リソース グループ リストに割り当てられているメディア リソース グループは削除できません。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [メディアリソースグループリスト] の順に選択します。

[メディアリソースグループリストの検索と一覧表示 (Find and List Media Resource Group Lists)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- メディア リソース グループ リストをコピーするには、該当するメディア リソース グループ リストを見つけます (P.60-2 の「メディア リソース グループ リストの検索」を参照)。[検索結果 (Search Results)] リストから、コピーするメディア リソース グループ リストに対応する [コピー] アイコンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しいメディア リソース グループ リストを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックします。[メディアリソースグループリストの設定 (Media Resource Group List Configuration)] ウィンドウが表示されます。[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存のメディア リソース グループ リストを更新するには、該当するメディア リソース グループ リストを見つけます (P.60-2 の「メディア リソース グループ リストの検索」を参照)。次に、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 60-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

メディア リソース グループをコピーする場合は、少なくともメディア リソース グループの名前を変更する必要があります。

メディア リソース グループ リスト内のすべてのデバイス(使用可能なメディア リソース グループと選択済みメディア リソース グループの両方)をリセットするには、[リセット] ボタンをクリックします。



(注) デバイスを再起動すると、このメディア リソース グループ リストに関連するデバイスがすべてリセットされます。Cisco Unified CallManager が、影響を受けるゲートウェイ上のアクティブ コールを削除する可能性があります。

追加情報

P.60-6 の「関連項目」を参照してください。

メディア リソース グループ リストの設定値

表 60-1 では、メディア リソース グループ リストの設定に使用される設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.60-6 の「関連項目」を参照してください。

表 60-1 メディア リソース グループ リストの設定値

フィールド	説明
[名前 (Name)]	これは必須フィールドで、Cisco Unified CallManager がメディア リソース グループ リストを識別するための固有の名前を入力します。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット（ピリオド）、および下線を指定できます。
[使用可能なメディアリソースグループ (Available Media Resource Groups)]	<p>メディア リソース グループ リストに対して選択可能なメディア リソース グループが表示されます。このメディア リソース グループには、すでに定義されているメディア リソース グループだけが含まれます。</p> <p>このメディア リソース グループ リストのメディア リソース グループを追加するには、一覧からメディア リソース グループを選択し、2つのペインの間にある下矢印をクリックします。</p> <p>メディア リソース グループが追加されると、その名前は、[選択されたメディアリソースグループ (Selected Media Resource Groups)] に移動されます。</p>
[選択されたメディアリソースグループ (Selected Media Resource Groups)]	<p>メディア リソース グループ リストに対して選択されたメディア リソース グループが表示されます。メディア リソース グループ リストごとに、少なくとも1つのメディア リソース グループを選択する必要があります。</p> <p>メディア リソース グループを削除（選択解除）するには、その名前を選択し、2つのペインの間にある上矢印をクリックします。</p> <p>メディア リソース グループは優先順（高優先順位から低優先順位へ）に表示されているため、メディア リソース グループの優先順位を変更するには、このペインの右側にある上矢印と下矢印を使用する必要があります。優先順位を変更するには、リスト内でメディア リソース グループを選択し、上矢印または下矢印を使用して、その優先順位を変更します。</p>

メディア リソース グループ リストの削除

既存のメディア リソース グループ リストを削除する手順は、次のとおりです。



(注) デバイス プールやデバイスに割り当てられたメディア リソース グループ リストは、削除できません。メディア リソース グループ リストに割り当てるデバイス プールやデバイスを最初に変更する必要があります。

手順

ステップ 1 P.60-2 の「[メディア リソース グループ リストの検索](#)」の手順を使用して、メディア リソース グループ リストを見つけます。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するメディア リソース グループ リストを選択します。

ステップ 3 [削除] ボタンをクリックします。

このメディア リソース グループ リストを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 続行するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。

選択されたメディア リソース グループ リストが、メディア リソース グループ リストの一覧から削除されました。

追加情報

P.60-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [メディア リソース グループ リストの検索 \(P.60-2\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定 \(P.60-4\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定値 \(P.60-5\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの削除 \(P.60-6\)](#)
- [メディア リソース グループ の設定 \(P.59-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「[メディア リソースの概要](#)」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「[メディア リソース グループ およびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト](#)」



MOH オーディオ ファイル管理の設定

Music On Hold 機能でオーディオ ソースとして使用されるオーディオ ファイルを管理できます。管理者は [メディアリソース] > [MOH オーディオファイル] メニュー オプションを使用して、次の機能を実行できます。

- システムに保存されている MOH オーディオ ファイルのリストを表示する。
- 新しい MOH オーディオ ファイルをアップロードする。
- MOH オーディオ ファイルを削除する。

MOH オーディオ ファイルの設定ウィンドウの使用方法的詳細については、『*Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Music On Hold」の章を参照してください。





PART 5

ボイスメールの設定





Cisco ボイスメール ポートの設定

オプションのソフトウェアである Cisco Unity は、Cisco Unified コミュニケーション ソリューションの一環として利用され、ユーザがコールに回答できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。この項では Cisco ボイスメール ポートの追加、設定、更新、および削除に必要な手順について説明します。この手順は Cisco Unified CallManager 管理ページで [ボイスメール] メニューから [Cisco ボイスメールポート] を選択することによって実行できます。

Cisco Unity の設定の詳細については、『*Cisco Unified CallManager 4.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0*』を参照してください。

Cisco Unity ボイスメール サーバに関連したポートは、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用せずに、Cisco Unified CallManager データベースに追加したり、削除したりすることができます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco ボイスメール ポートの検索 \(P.62-2\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの設定 \(P.62-4\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの設定値 \(P.62-5\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの削除 \(P.62-8\)](#)

Cisco ボイスメール ポートの検索

通常ネットワーク内にはいくつかの Cisco ボイスメール ポートが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定の Cisco ボイスメール ポートを見つけることができます。Cisco ボイスメール ポートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、Cisco ボイスメール ポートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco ボイスメール ポートの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [ボイスメール] > [Cisco ボイスメールポート] の順に選択します。

[ボイスメール ポートの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco ボイスメール ポートを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: ボイスメールポート、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [デバイス名]
- [説明]
- [電話番号]
- [コーリングサーチスペース]
- [デバイスプール]
- [デバイスセキュリティモード]



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される Cisco ボイスメール ポート リストのソート方法が決まります。たとえば、[デバイスプール] を選択すると、[デバイスプール (Device Pool)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象: ボイスメールポート、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[**検索**] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されている Cisco ボイスメール ポートをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [**検索**] をクリックします。

検出された Cisco ボイスメール ポートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]



(注) 該当する Cisco ボイスメール ポートの横にあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、[ボイスメールポートの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Ports)] ウィンドウから複数の Cisco ボイスメール ポートを削除できます。ウィンドウ内の Cisco ボイスメール ポートをすべて削除するには、[**すべてを選択**] ボタンをクリックし、[**選択項目の削除**] をクリックします。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するデバイス名、説明、または関連するデバイスプールをクリックします。

選択した Cisco ボイスメール ポートがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.62-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートの設定

Cisco Unity ボイス メッセージ システムを Cisco Unified CallManager に接続するには、Cisco Unified CallManager データベースに Cisco ボイスメール ポートを追加する必要があります。



ヒント

新規 Cisco ボイスメール サーバとポートを追加したり、既存のサーバに複数のポートを追加するには、この項で説明されている手順のほかに、Cisco ボイス メール ポート ウィザードを使用することもできます。詳細については、P.63-1 の「Cisco ボイスメール ポート ウィザード」を参照してください。

個々の Cisco ボイスメール ポートを Cisco Unified CallManager データベースに追加する手順と、既存のボイスメール ポートを更新またはコピーする手順は、次の通りです。

手順

ステップ 1 [ボイスメール] > [Cisco ボイスメールポート] の順に選択します。

[ボイスメール ポートの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- Cisco ボイスメール ポートとその設定をコピーするには、該当する Cisco ボイスメール ポートを見つけます (P.62-2 の「Cisco ボイスメール ポートの検索」を参照)。[検索結果 (Search Results)] リストから、コピーするボイスメール ポートに対応する [コピー] アイコンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいボイスメール ポートを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックします。[ボイスメールポートの設定 (Voice Mail Port Configuration)] ウィンドウが表示されます。**ステップ 3** に進みます。
- 既存の Cisco ボイスメール ポートを更新するには、該当するボイスメール ポートを見つけます (P.62-2 の「Cisco ボイスメール ポートの検索」を参照)。更新するボイスメール ポートをクリックし、**ステップ 3** に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 62-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

既存の Cisco ボイスメール ポートの基本設定をコピーして、別の Cisco ボイスメール ポートに適用する場合は、[ポート名 (Port Name)] フィールドと [電話番号] フィールドを変更する必要があります。

追加情報

P.62-8 の「関連項目」を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートの設定値

表 62-1 では、Cisco ボイスメール ポートの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.62-8 の「関連項目」を参照してください。

表 62-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値



フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[ポート名 (Port Name)]	<p>Cisco ボイスメール ポートを識別する名前を入力します。Cisco ボイスメッセージシステム上でポートごとにデバイスを追加する必要があります。24 個のポートがある場合は、24 個のデバイスを定義する必要があります。</p> <p>名前は 9 文字以内にしてください。</p> <p> (注) Cisco Unity では、この名前が CiscoUM-VI1 または Cisco UM-VI2 などの Unity Telephony Integration Manager (UTIM) コンフィギュレーション ファイルの名前と一致している必要があります。</p>
[説明]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
[デバイスプール]	デフォルト値または特定のデバイス プールを選択します。
[コーリングサーチスペース]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチスペースを選択します。コーリング サーチスペースは、このデバイスからコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。登録者の番号およびネットワーク デバイスへのコールを可能にするコーリング サーチスペースの名前を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチスペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチスペースを選択します。コーリング サーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[ロケーション (Location)]	<p>デフォルト値 [Hub_None] を選択します。</p> <p>ロケーションは、このデバイスとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。</p>

表 62-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)



フィールド	説明
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ボイスメール サーバ ポートに適用するセキュリティ モードを選択します。ここに表示されるオプションは、データベースであらかじめ定義されています。デフォルト値は [選択されていません] です。</p> <p>ボイスメール サーバのセキュリティを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[電話番号情報 (Directory Number Information)]	
[電話番号]	このボイスメール ポートに関連する番号を入力します。このフィールドと [パーティション (Partition)] フィールドとの組み合わせが、固有のものであることを確認してください。
[パーティション (Partition)]	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、[<None>] を選択してください。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリングサーチスペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリングサーチスペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [None] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[内線発信者ID表示 (Internal Caller ID Display)]	この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを指定します。

表 62-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display、ASCII 形式)]	この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを ASCII 形式で指定します。
[外線番号マスク (External Number Mask)]	<p>外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。デバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>自動代替ルーティング (AAR) が帯域幅不足のためにコールをルーティングする場合、余裕のある帯域幅を使用できなければ、Cisco Unified CallManager は、このフィールドの値を使用してコールを発信します。</p> <p>例</p> <p>DN 1000 (外部マスク 9728131000) は DN 1001 (外部マスク 2144131001) をコールします。帯域幅不足のためにコールがブロックされると、Cisco Unified CallManager は、AAR プレフィックス番号を 2144131001 と一緒に使用して 1001 にコールを発信します。</p>

Cisco ボイスメール ポートの削除

Cisco Unified CallManager から Cisco ボイスメール ポートを 1 つ削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話番号が使用している Cisco ボイスメール ポートを削除すると、番号は Cisco Unified CallManager データベース内に残ります。ボイスメール ポートを使用している電話番号を特定するには、[ボイスメールポートの設定 (Voice Mail Port Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。

使用されているボイスメール ポートを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているボイスメール ポートを削除する前に、削除するボイスメール ポートを使用している電話番号すべてに別のボイスメール ポートを割り当ててください。P.48-3 の「[電話番号の設定](#)」を参照してください。

ボイスメール ポートを削除した後で、そのボイスメール ポートを使用していた電話番号を削除できます。P.50-4 の「[割り当てられていない電話番号の削除](#)」を参照してください。



ヒント

既存のサーバからポートを削除するには、この項で説明されている手順の代わりに、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用することもできます。詳細については、P.63-1 の「[Cisco ボイスメール ポート ウィザード](#)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** P.62-2 の「[Cisco ボイスメール ポートの検索](#)」の手順を使用して、Cisco ボイスメール ポートを検索します。
- ステップ 2** 削除する Cisco ボイスメール ポートをクリックします。
- ステップ 3** [削除] をクリックします。

追加情報

P.62-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco ボイスメール ポートの検索 \(P.62-2\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの設定 \(P.62-4\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの設定値 \(P.62-5\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの削除 \(P.62-8\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポート ウィザード \(P.63-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」



Cisco ボイスメールポートウィザード

オプションのソフトウェアである Cisco Unity は、Cisco Unified コミュニケーション ソリューションの一環として利用され、ユーザがコールに回答できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。この章では、ボイス メッセージ システムに対して、Cisco Unified CallManager で Cisco ボイスメールポートの追加と設定を行うために必要な手順について説明します。

Cisco Unity の設定の詳細については、『*Cisco Unified CallManager 4.0 Integration Guide*』を参照してください。

ボイス メッセージと Cisco Unified CallManager との接続性についての詳細については、『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「ボイスメールの Cisco Unified CallManager への接続性」を参照してください。

Cisco ボイスメールポートウィザードツールを使用すると、Cisco Unified CallManager 管理者は、Cisco ボイスメールサーバに関連付けられているポートを Cisco Unified CallManager データベースに迅速に追加または削除できます。次の項では、この手順について説明します。

新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加

Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用して、新規の Cisco ボイスメール サーバとポートを Cisco Unified CallManager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco ボイスメール ポート ウィザードには、ボイスメール ポート用の一連の連続した電話番号が必要です。ボイスメール パイロット番号とそれに続く番号が使用可能であることを確認します。

手順

ステップ 1 [ボイスメール] > [Cisco ボイスメールポートウィザード] の順に選択します。

Cisco ボイスメール ポートが存在しない場合は、追加する Cisco ボイスメール サーバの名前を入力し、[ステップ 5](#) に進みます。ポートが存在する場合は、[ステップ 2](#) に進んでください。

ステップ 2 [新規 Cisco ボイスメールサーバの作成とポートの追加] を選択します。

ステップ 3 [次へ] をクリックします。

ステップ 4 Cisco ボイスメール サーバの名前を入力します。



(注) Cisco Unity では、この名前が Unity Telephony Integration Manager (UTIM) コンフィギュレーション ファイルの名前 (デフォルトは CiscoUM-VI1) と一致している必要があります。このウィザードでは、ポートを追加する際、自動的に <ポート番号> のサフィックスが付加されます。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポート] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 ドロップダウン リスト ボックスから、追加するポート数を選択します。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。


[Cisco ボイスメールデバイス情報] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 適切な設定値を入力します (表 63-1 を参照)。これらの設定値がすべての新規ポートに適用されます。

表 63-1 ボイスメール ポート ウィザードのデバイス情報の設定値

フィールド	説明
[説明]	デバイスの目的を入力します。
[デバイスプール]	デフォルト値 [Default] または定義されたデバイス プールを選択します。

表 63-1 ボイスメール ポート ウィザードのデバイス情報の設定値

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>デフォルト値 [Hub_None] または定義されたロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、このデバイスとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを [Hub_None] に設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。</p>
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ボイスメール サーバ ポートに適用するセキュリティ モードを選択します。ここに表示されるオプションは、データベースであらかじめ定義されています。デフォルト値は [選択されていません] です。</p> <p>ボイスメール サーバのセキュリティを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[AAR コーリングサーチスペース]	<p>Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>

ステップ 9 [次へ] をクリックします。



[Cisco ボイスメール電話番号] ウィンドウが表示されます。

ステップ 10 新規 Cisco ボイスメール サーバの電話番号設定を入力します (表 63-2 を参照)。

表 63-2 ボイスメール ポート ウィザードの電話番号の設定値

フィールド	説明
[開始電話番号]	Cisco ボイスメール サーバにアクセスするためにコールする番号を入力します。新しいポートはそれぞれ、次に使用可能な電話番号を受け取ります。

表 63-2 ボイスメール ポート ウィザードの電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
[パーティション (Partition)]	<p>この一連の電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、[<None>] を選択してください。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリングサーチスペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリングサーチスペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [<None>] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display)]	<p>この回線へのコールが行われるときに、発信側の電話機に表示されるテキストを指定します。</p>
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display、ASCII 形式)]	<p>この回線へのコールが行われるときに、発信側の電話機に表示されるテキストを ASCII 形式で指定します。</p>
[外線番号マスク (External Number Mask)]	<p>外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。デバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p>

ステップ 11 [次へ] をクリックします。

これらの電話番号を回線グループに追加するかどうかをたずねるウィンドウが表示されます。

ステップ 12 次の作業のいずれかを選択します。

- 電話番号を新規回線グループに追加する場合、[ステップ 13](#)に進みます。
- 電話番号を既存の回線グループに追加する場合、[ステップ 15](#)に進みます。
- 電話番号を回線グループにあとで追加する場合、[ステップ 17](#)に進みます。

ステップ 13 [はい。新規の回線グループに電話番号を追加します。] オプションを選択して、[次へ] をクリックします。

ステップ 14 [回線グループ] ウィンドウに新規回線グループの名前を入力し、[次へ] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポートを追加する準備ができました] という要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco ボイスメール ポートウィザードは、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

[ステップ 18](#)に進みます。

ステップ 15 [はい。既存の回線グループに電話番号を追加します。] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。

ステップ 16 [回線グループ] ウィンドウで、[回線グループ名] ドロップダウン リスト ボックスから回線グループを選択し、[次へ] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポートを追加する準備ができました] という要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco ボイスメール ポートウィザードは、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

[ステップ 18](#)に進みます。

ステップ 17 [いいえ。後から追加します。] オプションを選択し、[次へ] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポートを追加する準備ができました] という要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco ボイスメール ポートウィザードは、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

ステップ 18 この情報が正しい場合は、[終了] をクリックして、新しいポートを追加します。

表示された情報に誤りがある場合は、[戻る] ボタンをクリックして、その情報を編集します。または [キャンセル] をクリックして、ポートを追加せずに終了します。

ステップ 19 Cisco ボイスメール ポート ウィザードが指定した新規ボイスメール ポートの追加を終了した後に、[Cisco ボイスメールポートウィザードの結果] ウィンドウが表示されます。

このウィンドウによって、これらの新規ボイスメール ポートを使用する前に完了しなければならないその他のステップがわかります。

次の手順

メッセージ受信のインジケータ (MWI) デバイスをセットアップしたことを確認してください。詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」を参照してください。

追加情報

P.63-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加

Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用して、ポートを既存の Cisco ボイスメール サーバに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco ボイスメール ポート ウィザードには、ボイスメール ポート用の一連の連続した電話番号が必要です。ボイスメール パイロット番号とそれに続く番号が使用可能であることを確認します。

ボイスメール パイロット番号は、Cisco ボイスメール サーバにアクセスするためにコールする番号を示します。

手順

ステップ 1 [ボイスメール] > [Cisco ボイスメールポートウィザード] の順に選択します。

ステップ 2 [既存の Cisco ボイスメールサーバにポートを追加] を選択します。

ステップ 3 [次へ] をクリックします。

[Cisco ボイスメールサーバ] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ドロップダウン リスト ボックスから、既存の Cisco ボイスメール サーバ (パイロット番号) の名前を選択し、[次へ] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポート] ウィンドウが表示され、現在設定されているポート数が示されます。

ステップ 5 ドロップダウン リスト ボックスから、追加するポート数を選択し、[次へ] をクリックします。

[Cisco ボイスメール電話番号] ウィンドウでは、Cisco ボイスメール サーバへ追加したポートの設定情報を表示します。最後のポートに続く連続した電話番号が自動的に選択されます。また、Cisco ボイスメール パイロット電話番号と同じ [パーティション (Partition)] 設定値、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定値、表示に関する設定値、[AAR グループ (AAR Group)] 設定値、[外線番号マスク (External Number Mask)] 設定値が使用されます。[新規電話番号] フィールドに、別の範囲の電話番号を入力することができます。

ステップ 6 ポート数を変更する必要がある場合は、[戻る] ボタンをクリックします。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポートを追加する準備ができました] という要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco ボイスメール ポート ウィザードは、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

ステップ 8 この情報が正しい場合は、[終了] をクリックして、新しいポートを追加します。

表示された情報に誤りがある場合は、[戻る] ボタンをクリックして、その情報を編集します。または [キャンセル] をクリックして、ポートを追加しないで終了します。

追加情報

P.63-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除

Cisco ボイス メール ポート ウィザードを使用して既存の Cisco ボイスメール サーバからポートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [ボイスメール] > [Cisco ボイスメールポートウィザード] の順に選択します。

ステップ 2 [既存の Cisco ボイスメールサーバからポートを削除] を選択し、[次へ] をクリックします。

[Cisco ボイスメールサーバ] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 ドロップダウン リスト ボックスから、既存の Cisco ボイスメール サーバ (パイロット番号) の名前を選択し、[次へ] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポート] ウィンドウが表示され、現在設定されているポート数を示します。

ステップ 4 ドロップダウン リスト ボックスから、削除するポート数を選択し、[次へ] をクリックします。

[Cisco ボイスメールポートを削除する準備ができました] という要約ウィンドウが表示されます。

削除するポートの情報が要約ウィンドウに表示されます。Cisco ボイスメール ポート ウィザードは、ポート番号と電話番号が連続するように自動的に更新します。

ステップ 5 この情報が正しい場合は、[終了] をクリックして、選択されたポートを削除します。

表示された情報に誤りがある場合は、[戻る] ボタンをクリックして、その情報を編集します。または [キャンセル] をクリックして、ポートを削除しないで終了します。

追加情報

P.63-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco ボイスメール ポート ウィザード \(P.63-1\)](#)
- [新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加 \(P.63-2\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加 \(P.63-6\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除 \(P.63-7\)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.64-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」



メッセージ受信の設定

[メッセージ受信番号の検索と一覧表示 (Find and List Message Waiting Numbers)] ウィンドウでは、メッセージ受信オン / オフの電話番号を定義できます。この電話番号は、ディレクトリ接続ベースのボイスメッセージシステムが、特定の Cisco IP Phone のメッセージ受信のインジケータを設定するかクリアするかを決定するのに使用します。

この項では、メッセージ受信の設定について説明します。

- [メッセージ受信番号の検索 \(P.64-2\)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.64-4\)](#)
- [メッセージ受信の設定値 \(P.64-5\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco Unified CallManager への接続性」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

メッセージ受信番号の検索

ネットワーク内にはいくつかのメッセージ受信番号が存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のメッセージ受信番号を見つけることができます。メッセージ受信番号を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、メッセージ受信番号の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メッセージ受信番号の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [ボイスメール] > [メッセージ受信ランプ] の順に選択します。

[メッセージ受信番号の検索と一覧表示 (Find and List Message Waiting Numbers)] ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、メッセージ受信番号を検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: メッセージ受信番号、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [電話番号]
- [パーティション]
- [コーリングサーチスペース]
- [説明]



(注) このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるメッセージ受信番号リストのソート方法が決まります。たとえば、[パーティション] を選択すると、[パーティション (Partition)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象: メッセージ受信番号、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

[およびメッセージ受信インジケータが] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [両方]
- [オン]
- [オフ]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているメッセージ受信番号をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたメッセージ受信番号のリストが、次の項目別に表示されます。

- メッセージ受信インジケータのアイコン（オン時は緑色、オフ時は赤色）
- [電話番号 (Directory Number)]
- [パーティション (Partition)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [説明 (Description)]



(注) 該当するメッセージ受信番号の横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[メッセージ受信番号の検索と一覧表示 (Find and List Message Waiting Numbers)] ウィンドウから複数のメッセージ受信番号を削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのメッセージ受信番号を削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する MWI アイコン、電話番号、関連するパーティション、またはコーリングサーチスペースをクリックします。

選択したメッセージ受信番号がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.64-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

メッセージ受信の設定

ボイス メッセージ システムで使用するメッセージ受信の設定手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [ボイスメール]>[メッセージ受信ランプ]の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加]をクリックします。

[メッセージ受信の設定 (Message Waiting Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 64-1 を参照)。



(注) ボイス メッセージ システムでは、メッセージ待機表示をするためにメッセージ受信のインジケータ オン / オフ電話番号のみが使用されます。Cisco Unified CallManager は、コールの受信にメッセージ受信オン / オフ番号を使用しないため、表示、不在転送、話中転送、および無応答時転送のフィールドは使用されません。

ステップ 4 [保存]をクリックして、このデバイスをシステムに追加します。




追加情報

P.64-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

メッセージ受信の設定値

表 64-1 では、メッセージ受信の設定値について説明します。

表 64-1 メッセージ受信の設定値

フィールド名	説明
[メッセージ受信番号 (Message Waiting Number)]	Cisco Message Waiting の電話番号を入力します。この番号が Cisco Unified CallManager で自動登録される番号の範囲内がないことを確認してください。
[説明 (Description)]	メッセージ受信の電話番号を説明する最大 30 文字の英数字を入力します。
[メッセージ受信インジケータ (Message Waiting Indicator)]	[オン] または [オフ] をクリックします。
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションが使用されている場合は、ドロップダウン リストボックスから適切なパーティションを選択します。Message Waiting デバイスの電話番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [<None>] を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p> (注) Message Waiting デバイスの電話番号とパーティションの組み合わせが、Cisco Unified CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[コーリング検索スペース (Calling Search Space)]	<p>パーティションとコーリング検索スペースが使用される場合、ドロップダウン リストボックスから、ランプをオンにするすべての電話機の DN のパーティションを含むコーリング検索スペースを選択します(電話機の DN に対して指定されるパーティションは、MWI デバイスを使用するコーリング検索スペース内になければなりません)。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リストボックスで表示するコーリング検索スペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>

追加情報

P.64-6 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [メッセージ受信番号の検索 \(P.64-2 \)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.64-4 \)](#)
- [メッセージ受信の設定値 \(P.64-5 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco Unified CallManager への接続性」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.66-1 \)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.48-8 \)](#)



Cisco ボイスメールパイロットの設定

ボイスメールパイロット番号は、ユーザが本人のボイスメッセージにアクセスするときにダイヤルする電話番号を指定します。Cisco Unified CallManager は、ユーザが電話機上の [メッセージ] ボタンを押すと自動的にこのボイスメッセージ番号にダイヤルします。各ボイスメールパイロット番号は、異なったボイスメッセージシステムに属することができます。

次のトピックでは、ボイスメールパイロットの設定について説明します。

- [Cisco ボイスメールパイロットの検索 \(P.65-2\)](#)
- [ボイスメールパイロット番号の設定 \(P.65-3\)](#)
- [ボイスメールパイロットの設定値 \(P.65-4\)](#)
- [ボイスメールパイロット番号の削除 \(P.65-5\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「ボイスメールの Cisco Unified CallManager への接続性」
- 『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

Cisco ボイスメールパイロットの検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco ボイスメールパイロットが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定の Cisco ボイスメールパイロットを見つけることができます。Cisco ボイスメールパイロットを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、Cisco ボイスメールパイロットの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco ボイスメールパイロットの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [ボイスメール] > [ボイスメールパイロット] の順に選択します。

[ボイスメールパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Pilots)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco ボイスメールパイロットを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: ボイスメールパイロット、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [ボイスメールパイロット番号]
- [説明]
- [コーリングサーチスペース名]



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される Cisco ボイスメールパイロット リストのソート方法が決まります。たとえば、[コーリングサーチスペース名] を選択すると、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象: ボイスメールパイロット、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されている Cisco ボイスメールパイロットをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **[検索]** をクリックします。

検出された Cisco ボイスメールパイロットのリストが、次の項目別に表示されます。

- [説明 (Description)]
- [パイロット番号 (Pilot Number)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]



(注) 該当する Cisco ボイスメールパイロットの横にあるチェックボックスをオンにして **[選択項目の削除]** をクリックすると、**[ボイスメールパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Pilots)]** ウィンドウから複数の Cisco ボイスメールパイロットを削除できます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **[選択項目の削除]** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Cisco ボイスメールパイロットを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するボイスメールパイロットのアイコン、デバイス名、説明、または関連するデバイスプールをクリックします。

選択した Cisco ボイスメールパイロットがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.65-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ボイスメールパイロット番号の設定

ボイスメールパイロット番号を設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** **[ボイスメール]** > **[ボイスメールパイロット]** の順に選択します。
- ステップ 2** **[新規追加]** リンクをクリックします。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します ([表 65-1](#) を参照)。
- ステップ 4** 新規ボイスメールパイロット番号を追加する場合や、既存のボイスメールパイロット番号の設定を更新する場合は、**[保存]** をクリックします。



追加情報

P.65-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ボイスメールパイロットの設定値

表 65-1 では、ボイスメールパイロットの設定値について説明します。

表 65-1 ボイスメールパイロットの設定値

フィールド	説明
[ボイスメールパイロット番号 (Voice Mail Pilot Number)]	ボイスメールパイロット番号を識別する番号を入力します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、このパイロット番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[説明 (Description)]	パイロット番号の説明を記述します。
[システムのデフォルトボイスメールパイロットに設定 (Make this the default Voice Mail Pilot for the system)]	<p>チェックボックスをオンにして、このパイロット番号をそのシステムのボイスメールパイロットのデフォルトにします。</p> <p> (注) [システムのデフォルトボイスメールパイロットに設定 (Make this the default Voice Mail Pilot for the system)] ボックスをオンにすると、このボイスメールパイロット番号は、現在のデフォルトパイロット番号を置き換えます。</p>

追加情報

P.65-6 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ボイスメール パイロット番号の削除

ボイスメール パイロット番号を削除する手順は、次のとおりです。[Default] または [No Voice Mail] のプロファイル番号は、削除できません。

始める前に

ボイスメール プロファイルが使用するボイスメール パイロット番号は、削除できません。ボイスメール パイロットを使用しているボイスメール プロファイルを検索するには、[ボイスメールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リストボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。使用されているボイスメール パイロットを削除しようとすると、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているボイスメール パイロットを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するボイスメール パイロットを使用しているボイスメール プロファイルすべてに、別のボイスメール パイロットを割り当てる。[P.66-3 の「ボイスメール プロファイルの設定」](#)を参照してください。
- 削除するボイスメール パイロットを使用しているボイスメール プロファイルを削除する。[P.66-5 の「ボイスメール プロファイルの削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [ボイスメール] > [ボイスメールパイロット] の順に選択します。

ステップ 2 削除する Cisco ボイスメール パイロットをクリックします。

ステップ 3 [削除] をクリックします。

確認ウィンドウが表示されます。



(注) [Default] または [No Voice Mail] のパイロット番号を選択した場合、[削除] ボタンは表示されません。

ステップ 4 ボイスメール パイロットを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。

ボイスメール プロファイルがこのボイスメール パイロット番号を使用している場合は、このボイスメール パイロット番号を使用しているボイスメール プロファイルの番号を示すメッセージが表示されます。

追加情報

[P.65-6 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [Cisco ボイスメール パイロットの検索 \(P.65-2\)](#)
- [ボイスメール パイロット番号の設定 \(P.65-3\)](#)
- [ボイスメール パイロットの設定値 \(P.65-4\)](#)
- [ボイスメール パイロット番号の削除 \(P.65-5\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco Unified CallManager への接続性」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」
- [メッセージ受信の設定 \(P.64-1\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.66-1\)](#)



ボイスメール プロファイルの設定

[Cisco Unified CallManager の管理] の [ボイスメール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウによって、回線に関連したボイス メッセージ情報を定義できます。



(注)

ボイスメール プロファイルは、デバイスではなく電話番号に割り当てられます。

次のトピックでは、ボイスメール プロファイルについて説明します。

- [ボイスメール プロファイルの検索 \(P.66-2 \)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.66-3 \)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定値 \(P.66-4 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco Unified CallManager への接続性」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

ボイスメール プロファイルの検索

ネットワーク内にはいくつかのボイスメール プロファイルが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のボイスメール プロファイルを見つけることができます。ボイスメール プロファイルを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、ボイスメール プロファイルの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ボイスメール プロファイルの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [ボイスメール] > [ボイスメールプロファイル] の順に選択します。

[ボイスメールプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているボイスメール プロファイルをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたボイスメール プロファイルのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]
- [パイロット (Pilot)] または [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するボイスメール プロファイルをクリックします。

選択したボイスメール プロファイルがウィンドウに表示されます。

- ステップ 5** 利用可能なボイスメール プロファイルをすべて一覧表示するには、検索条件を空白のままにして、**[検索]** をクリックします。

追加情報

P.66-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ボイスメール プロファイルの設定

電話番号に対してボイスメール プロファイルを設定する手順、ボイスメール プロファイルをコピーする手順、または既存のボイスメール プロファイルを更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** メニューバーで、**[ボイスメール] > [ボイスメールプロファイル]** の順に選択します。

[ボイスメールプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Profiles)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** 次のいずれかの作業を行います。

- ボイスメール プロファイルをコピーするには、該当するボイスメール プロファイルを見つけます (P.66-2 の「[ボイスメール プロファイルの検索](#)」を参照)。[検索結果 (Search Results)] リストから、コピーするボイスメール プロファイルに対応する **[コピー]** アイコンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 電話番号に対してボイスメール プロファイルを設定するには、**[新規追加]** ボタンをクリックします。[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。**ステップ 3** に進みます。
- 既存のボイスメール プロファイルを更新するには、該当するボイスメール プロファイルを見つけます (P.66-2 の「[ボイスメール プロファイルの検索](#)」を参照)。次に、**ステップ 3** に進みます。

- ステップ 3** 該当する設定値を更新します (表 66-1 を参照)。

- ステップ 4** **[保存]** をクリックします。

既存のボイスメール プロファイルを更新する場合は、**[リセット]** をクリックして、ボイスメール プロファイルに関連付けられたデバイスをすべて再起動します。


追加情報

P.66-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ボイスメール プロファイルの設定値

表 66-1 では、ボイスメール プロファイルの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.66-5 の「関連項目」を参照してください。

表 66-1 ボイスメール プロファイルの設定値

フィールド	説明
[ボイスメールプロファイル名]	Cisco ボイスメール プロファイルを識別する名前を入力します。
[説明 (Description)]	プロファイルの説明を記述します。
[ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot)]	[ボイスメールパイロットの設定 (Voice Mail Pilot Configuration)] 内で指定された適切なボイスメールパイロット番号か、[< デフォルトを使用 >] を選択します。
[ボイスメールボックスマスク (Voice Mail Box Mask)]	<p>自動登録された電話機用のボイスメールボックス番号をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。自動登録された電話機のディレクトリ回線から、コールをボイスメッセージシステムに転送する場合、Cisco Unified CallManager は、そのディレクトリ回線の[ボイスメールボックス] フィールドに設定されている番号に、このマスクを適用します。</p> <p>たとえば、972813XXXX というマスクを指定した場合、電話番号 7253 のボイスメールボックス番号は 9728137253 になります。マスクを入力しない場合、ボイスメールボックス番号は電話番号と同じです(この例では 7253 です)。</p> <p>デフォルトでは、Cisco Unified CallManager は、ボイスメールボックス番号を電話番号と同じ値に設定します。電話番号を設定するとき、ボイスメールボックス番号を変更できます。詳細については、P.48-1 の「電話番号の設定の概要」を参照してください。</p>
[これをシステムのデフォルトボイスメールプロファイルに設定]	<p>このチェックボックスをオンにして、このプロファイルをデフォルトにします。</p> <p> (注) [これをシステムのデフォルトボイスメールプロファイルに設定] チェックボックスをオンにすると、このボイスメールプロファイルは、現在のデフォルト プロファイルを置き換えます。</p>

ボイスメール プロファイルの削除

ボイスメール プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。デフォルト プロファイルや [No Voice Mail] のプロファイルは、削除できません。

始める前に

電話番号が使用するボイスメール プロファイルは、削除できません。ボイスメール プロファイルを使用している電話番号を検索するには、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用されているボイスメール プロファイルを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているボイスメール プロファイルを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するボイスメール プロファイルを使用しているデバイスすべてに、別のボイスメール プロファイルを割り当てる。
- 削除するボイスメール プロファイルを使用しているデバイスを削除する。

手順

-
- ステップ 1** P.66-2 の「[ボイスメール プロファイルの検索](#)」の手順に従って、削除するボイスメール プロファイルを見つけます。
- ステップ 2** 削除するボイスメール プロファイルの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ上のボイスメール プロファイルをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [選択項目の削除] をクリックします。
-

追加情報

P.66-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ボイスメール プロファイルの検索 \(P.66-2\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.66-3\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定値 \(P.66-4\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco Unified CallManager への接続性」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」



PART 6

デバイスの設定





CTI ルート ポイントの設定

Computer Telephony Integration (CTI) ルート ポイントでは、仮想デバイスを指定します。この仮想デバイスは、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。

ファーストパーティ コールを制御するために、アクティブな音声回線ごとに CTI ポートをオプションで追加できます (CTI アプリケーションがこれを決定します)。CTI ルート ポイントおよび CTI ポートを使用するアプリケーションには、Cisco SoftPhone、Cisco IP Auto Attendant、および Cisco IP Interactive Voice Response System があります。Cisco Unified CallManager の管理ページに CTI ルート ポイントを追加した後、RIS Data Collector サービスからの情報が、[CTI ルート ポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウ内に表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco Unified CallManager の名前が利用可能であれば、表示されます。

これらのアプリケーションに関連した CTI ルート ポイントおよび CTI ポートの設定方法については、各アプリケーションに付属の資料とオンライン ヘルプを参照してください。

ここでは、次の内容について説明します。

- [CTI ルート ポイントの検索 \(P.67-2\)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定 \(P.67-3\)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定値 \(P.67-4\)](#)
- [CTI ルート ポイントの削除 \(P.67-6\)](#)
- [CTI ルート ポイントのリセット \(P.67-7\)](#)

CTI ルートポイントの検索

CTI ルートポイントを検索し、一覧表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス]>[CTI ルートポイント]の順に選択します。

[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 使用する検索条件を選択します。すべての項目を表示するには、検索テキストを入力しないか、検索条件として「デバイス名が空ではない」を使用します。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、指定された検索条件と一致する CTI ルートポイントのリストが表示されます。

ステップ 4 次の CTI ルートポイントのリストを表示するには、[次へ] をクリックします。



(注) [CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウから複数の CTI ルートポイントを削除するには、適切な CTI ルートポイントの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックします。複数の CTI ルートポイントをリセットするには、適切な CTI ルートポイントの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目のリセット] をクリックします。ウィンドウ内の CTI ルートポイントをすべて選択するには、[すべてを選択] をクリックします。

追加情報

P.67-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

CTI ルートポイントの設定

CTI ルートポイントを追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [CTI ルートポイント] の順に選択します。

[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- CTI ルートポイントをコピーするには、該当するルートポイントを見つけます (P.67-2 の「[CTI ルートポイントの検索](#)」を参照)。[検索結果 (Search Results)] リストから、コピーする CTI ルートポイントに対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新規 CTI ルートポイントを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックします。[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウが表示されます。[ステップ 3](#) に進みます。
- CTI ルートポイントを更新するには、該当する CTI ルートポイントを見つけます (P.67-2 の「[CTI ルートポイントの検索](#)」を参照)。次に、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 67-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

電話番号の追加と設定の方法については、P.48-3 の「[電話番号の設定](#)」を参照してください。

Cisco Unified CallManager の管理ページに CTI ルートポイントを追加した後、RIS Data Collector サービスからの情報が、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウ内に表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco Unified CallManager の名前が利用可能であれば、表示されます。

追加情報

P.67-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

CTI ルート ポイントの設定値

表 67-1 では、CTI ルート ポイントの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.67-7 の「関連項目」を参照してください。

表 67-1 CTI ルート ポイントの設定値


フィールド	説明
[デバイス名]	このデバイスに固有の識別子を、1 ~ 15 文字 (英数字、ドット、ダッシュ、または下線を含む) で入力します。
[説明]	CTI ルート ポイントの内容を表す名前を入力します。
[デバイスプール]	デバイス プールの名前を選択します。デバイス プールは、自動登録用の CallManager グループ、日付 / 時間グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[コーリングサーチスペース]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、コーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCAdmin Parameters] を選択します。</p>
[ロケーション (Location)]	このルート ポイントに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このルート ポイントが消費する帯域幅を把握しません。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>適切なメディアリソースグループ リストを選択します。メディアリソースグループ リストは、優先順位順に並べられたメディアリソースグループから構成されます。アプリケーションは、メディアリソースグループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースの中から、必要なメディアリソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p> <p>[< なし >] を選択すると、Cisco Unified CallManager は、デバイスプールに定義されているメディアリソースグループを使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「メディアリソースの管理」を参照してください。</p>

表 67-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ネットワーク保留 -MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	<p>ネットワークが保留動作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco Unified CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>オーディオソースの定義は、[Music On Hold オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディア リソース] > [Music On Hold オーディオソース] の順に選択してください。</p>
[ユーザ保留 -MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>アプリケーションが保留操作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco Unified CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>オーディオソースの定義は、[Music On Hold オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディア リソース] > [Music On Hold オーディオソース] の順に選択してください。</p>

CTI ルート ポイントの削除

CTI ルート ポイントを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数の電話番号に関連付けられた CTI ルート ポイントを削除できるため、CTI ルート ポイントを使用している電話番号を特定する必要があります。CTI ルート ポイントを使用している電話番号を特定するには、[CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] リンクを選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。使用されている CTI ルート ポイントを削除しようとすると、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。

割り当てられている電話番号をもつ CTI ルート ポイントを削除する場合、ルート プラン レポートを使用して電話番号を検索できます。ルート プラン レポートを使用して電話番号を削除することもできます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [CTI ルートポイント] の順に選択します。

[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 削除する CTI ルート ポイントの検索に必要な検索条件を指定します。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、指定された検索条件と一致する CTI ルート ポイントのリストが表示されます。

ステップ 4 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除する CTI ルート グループの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックする。
- ウィンドウ内の CTI ルート ポイントをすべて削除する場合は、[すべてを選択] をクリックし、[選択項目の削除] をクリックする。
- 削除する CTI ルート ポイントの名前を選択して、現在の設定値を表示し、[削除] をクリックする。

ステップ 5 [OK] をクリックすると、CTI ルート ポイントが完全に削除されます。

追加情報

[P.67-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

CTI ルート ポイントのリセット

CTI ルート ポイントをリセットする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [CTI ルートポイント] の順に選択します。

[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 使用する検索条件を選択します。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

検索条件に一致する CTI ルート ポイントがウィンドウに表示されます。

ステップ 4 リセットする CTI ルート ポイントの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の CTI ルート ポイントをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [選択項目のリセット] をクリックします。

[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログが表示されます。

ステップ 6 次のいずれかのボタンをクリックします。

- [リスタート]: デバイスをシャットダウンしないで再起動する。
- [リセット]: デバイスをシャットダウンしてから起動する。
- [閉じる]: 何も実行しないで、[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログを閉じる。

追加情報

P.67-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [CTI ルート ポイントの設定 \(P.67-3 \)](#)
- [CTI ルート ポイントの検索 \(P.67-2 \)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定値 \(P.67-4 \)](#)
- [CTI ルート ポイントの削除 \(P.67-6 \)](#)
- [CTI ルート ポイントのリセット \(P.67-7 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「コンピュータ テレフォニー統合」



ゲートキーパーの設定

ゲートキーパー デバイスは、Cisco Multimedia Conference Manager (MCM) と呼ばれ、コール アドミッション制御、帯域幅割り当て、およびダイヤル パターン解決 (コール ルーティング) に使用される H.225 RAS (Registration, Admission, and Status Protocol) メッセージ セットをサポートしています。ゲートキーパーは、Cisco Unified CallManager クラスタと H.323 ネットワークの間の通信のためにこれらのサービスを提供します。Cisco Unified CallManager クラスタごとに、複数のゲートキーパー デバイスを設定できます。冗長化のために代替ゲートキーパーを設定することもできます。代替ゲートキーパーの設定の詳細については、MCM のマニュアルを参照してください。

ゲートキーパーの設定は、次の 2 つの要素から構成されます。

- Cisco Unified CallManager の設定。各 Cisco Unified CallManager クラスタは、1 つまたは複数のゲートキーパーに登録できます。この章では、Cisco Unified CallManager でゲートキーパーを設定する方法を説明します。また、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでトランク デバイスを設定する必要があります。P.71-1 の「[トランクの設定](#)」を参照してください。
- ルータ上でのゲートキーパーの設定。この設定は、ゲートキーパーの役目をする Cisco IOS Multimedia Conference Manager (MCM) に適用されます。ゲートキーパー用に推奨されるプラットフォームは、Cisco IOS リリース 12.1(3)T 以上を搭載した Cisco 2600、3600、7200 ルータなどです。ゲートキーパーの設定については、MCM の資料を参照してください。代替ゲートキーパー設定は MCM でのみ行うので、Cisco Unified CallManager での設定は必要ありません。

Cisco Unified CallManager の管理ページでのゲートキーパーの設定については、次のトピックを参照してください。

- [ゲートキーパーの検索 \(P.68-2\)](#)
- [ゲートキーパーの設定 \(P.68-3\)](#)
- [ゲートキーパーの設定値 \(P.68-4\)](#)
- [ゲートキーパーの削除 \(P.68-5\)](#)
- [ゲートキーパーのリセット \(P.68-6\)](#)

ゲートキーパーの検索

ネットワーク内にはいくつかのゲートキーパーが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定のゲートキーパーを見つけることができます。ゲートキーパーを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、ゲートキーパーの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ゲートキーパーの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートキーパー] の順に選択します。

[ゲートキーパーの検索と一覧表示 (Find and List Gatekeepers)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ゲートキーパーを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: ゲートキーパー、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [説明]



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるゲートキーパー リストのソート方法が決まります。たとえば、[説明] を選択すると、[説明 (Description)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象: ゲートキーパー、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているゲートキーパーをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたゲートキーパーのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ゲートキーパー (Gatekeeper)]
- [説明 (Description)]



(注) 該当するゲートキーパーの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ゲートキーパーの検索と一覧表示 (Find and List Gatekeepers)] ウィンドウから複数のゲートキーパーを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する [ゲートキーパー (Gatekeeper)] または [説明 (Description)] をクリックします。

選択したゲートキーパーがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.68-7 の「関連項目」を参照してください。

ゲートキーパーの設定

ゲートキーパーを追加または更新する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified CallManager クラスごとに、複数のゲートキーパー デバイスを設定できます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートキーパー] の順に選択します。

[ゲートキーパーの検索と一覧表示 (Find and List Gatekeepers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しいゲートキーパーを追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存のゲートキーパーを更新するには、該当するゲートキーパーを見つけます([P.68-2](#) の「ゲートキーパーの検索」を参照)。次に、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します ([表 68-1](#) を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.68-7 の「関連項目」を参照してください。

ゲートキーパーの設定値

表 68-1 では、ゲートキーパーの設定値について説明します。関連する手順については、P.68-7 の「関連項目」を参照してください。

表 68-1 ゲートキーパーの設定値

フィールド	説明
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]	
[ホスト名/IPアドレス (Host Name/IP Address)]	ゲートキーパーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。これは必須フィールドです。 Cisco Unified CallManager クラスタごとに、複数のゲートキーパーを登録できます。
[説明 (Description)]	ゲートキーパーの内容を表す名前を入力します。
[登録要求の存続可能時間 (Registration Request Time to Live)]	Cisco TAC から指示される場合を除いて、この値を変更しないでください。時間を秒数で入力します。デフォルト値は 60 秒です。 [登録要求の存続可能時間 (Registration Request Time to Live)] フィールドは、ゲートキーパーが登録要求 (RRQ) を有効であるとみなす時間を指定します。キープアライブ RRQ は、RRQ Time to Live の期限が切れる前に、ゲートキーパーへ送信される必要があります。 Cisco Unified CallManager は、ゲートキーパーに RRQ を送信して、そのゲートキーパーに登録し、その後、そのゲートキーパーとの接続を保持します。ゲートキーパーは、要求の確認 (RCF) または拒否 (RRJ) を行います。
[登録再試行のタイムアウト (Registration Retry Timeout)]	Cisco TAC から指示される場合を除いて、この値を変更しないでください。時間を秒数で入力します。デフォルト値は 300 秒です。 [登録再試行のタイムアウト (Registration Retry Timeout)] フィールドは、登録しようとして失敗した後、ゲートキーパーへの登録をやり直すまで、Cisco Unified CallManager が待機する時間を指定します。
[デバイスを有効にする (Enable Device)]	このチェックボックスを使用すると、このゲートキーパーを Cisco Unified CallManager に登録できます。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。Cisco Unified CallManager からゲートキーパーの登録を解除するには、このチェックボックスをオフにします。このフィールドを更新してから約 1 分以内に、ゲートキーパーの登録は解除されます。

ゲートキーパーの削除

ゲートキーパーを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数のトランクに割り当てられているゲートキーパーは、削除できません。ゲートキーパーを使用しているトランクを検索するには、[ゲートキーパーの設定 (Gatekeeper Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード] リンクをクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用されているゲートキーパーを削除しようとすると、Cisco Unified CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用されているゲートキーパーを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するゲートキーパーを使用しているトランクすべてに、別のゲートキーパーを割り当てる。P.71-3 の「[トランクの設定](#)」を参照してください。
- 削除するゲートキーパーを使用しているトランクを削除する。P.71-30 の「[トランクの削除](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 P.68-2 の「[ゲートキーパーの検索](#)」の手順を使用して、ゲートキーパーを見つけます。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するゲートキーパーを選択します。

ステップ 3 [選択項目の削除] をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックして、ゲートキーパーを削除します。

追加情報

P.68-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ゲートキーパーのリセット

ゲートキーパーのリセットによって、物理デバイスがリセットされるわけではありません。ゲートキーパーのリセットは、Cisco Unified CallManager のゲートキーパーへの論理接続のリセットおよびゲートキーパーへの再登録が強制されます。再登録の間および再登録が正常終了するまで、このトランクを使用して行われるコールは、このゲートキーパーを使用しますが、失敗します。ゲートキーパーをリセットする手順は、次のとおりです。



(注)

ゲートキーパーをリセットしても、ゲートキーパーが制御しているすべてのコールが終了するわけではありませんが、新しいコールは失敗を試みます。

手順

ステップ 1 P.68-2 の「[ゲートキーパーの検索](#)」の手順を使用して、ゲートキーパーを見つけます。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、リセットするゲートキーパーを選択します。

ステップ 3 ゲートキーパー デバイスの設定値を変更した場合は、[**リセット**] をクリックします。

[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログが表示されます。

ステップ 4 次のいずれかの項目をクリックします。

- [**リスタート**]: 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動する (Cisco Unified CallManager に電話機とトランクを再登録する)。
- [**リセット**]: 内部ゲートキーパー デバイスをシャットダウンしてから再起動する。Cisco Unified CallManager クラスタは、ゲートキーパーへの登録を解除 (URQ) した後、再登録 (RRQ) します。
- [**閉じる**]: 何も実行しないで、[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログを閉じる。

追加情報

P.68-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ゲートキーパーの設定 \(P.68-1\)](#)
- [ゲートキーパーの検索 \(P.68-2\)](#)
- [ゲートキーパーの設定 \(P.68-3\)](#)
- [ゲートキーパーの設定値 \(P.68-4\)](#)
- [ゲートキーパーの削除 \(P.68-5\)](#)
- [ゲートキーパーのリセット \(P.68-6\)](#)
- [トランクの設定 \(P.71-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」

参考資料

- *Cisco Unified Communications ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン*
- Cisco IOS Multimedia Conference Manager (Command Reference) の資料



ゲートウェイの設定

Cisco Unified CallManager は、Cisco Unified Communications ゲートウェイにより、非 IP 通信デバイスとの情報交換が可能になります。Cisco Unified CallManager は、複数のタイプのゲートウェイをサポートしています（『Cisco Unified CallManager システム ガイド』を参照）。

Cisco Unified CallManager を使用した Cisco ゲートウェイの処理と設定については、次のトピックを参照してください。

- [Cisco Unified CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.69-2\)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.69-17\)](#)
- [ポートの設定値 \(P.69-65\)](#)
- [特定のゲートウェイの検索 \(P.69-72\)](#)
- [ゲートウェイとポートの変更 \(P.69-81\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified CallManager 音声ゲートウェイの概要」

Cisco Unified CallManager へのゲートウェイの追加

Cisco Unified CallManager でネットワーク内の IP テレフォニー ゲートウェイを管理するには、まず、各ゲートウェイを Cisco Unified CallManager 設定データベースに追加する必要があります。ゲートウェイを追加する場合の手順、ウィンドウ、および設定値は、追加するゲートウェイのモデルによって異なります。

Cisco Unified CallManager で新規ゲートウェイを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [**デバイス**] > [**ゲートウェイ**] の順に選択して、[**ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)**] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [**新規追加**] ボタンをクリックします。[**新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)**] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [**ゲートウェイタイプ (Gateway Type)**] ドロップダウン リスト ボックスから、追加するゲートウェイのタイプを選択します。[**デバイスプロトコル (Device Protocol)**] フィールドには、選択するゲートウェイのタイプにより自動的にデータが読み込まれる場合があります。
- ステップ 4** [**次へ**] をクリックします。
- ステップ 5** 次の表で、設定するゲートウェイのタイプ用の手順をクリックします。正しい手順を選択した後、目的のゲートウェイのタイプに該当する設定値を入力するステップから始めます。

表 69-1 ゲートウェイ

ゲートウェイのタイプ	タイプ別の追加手順
Cisco Voice Gateway 200 (VG200) VG224 Gateway Cisco IOS 269X、26XX、362X、364X、366X、3725、3745 ゲートウェイ Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch Communication Media Module Cisco IAD2400	Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 (P.69-3)
Cisco IOS 269X、3725、3745 ゲートウェイ	Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加 (P.69-10)
Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway Cisco DT-24+ または DE-30+ Digital Access Trunk Gateway	IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 (P.69-11)

表 69-1 ゲートウェイ (続き)

ゲートウェイのタイプ	タイプ別の追加手順
H.323 モードで設定されたその他の Cisco IOS ゲートウェイ	Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加 (P.69-13)
Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway	Analog Access ゲートウェイとポートの追加 (P.69-13)
Cisco VG248 Gateway	Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加 (P.69-15)

Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco Unified CallManager に追加し、設定する手順を、次に示します。MGCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- Cisco VG200 Voice Gateway
- VG224 Gateway
- Cisco IOS 362x、364x、366x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco IOS 26xx および 269x ゲートウェイ
- Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ
- Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
- Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
- Communication Media Module
- Cisco IAD2400 ゲートウェイ



(注)

MRP/ASI ゲートウェイは、他の IOS MGCP ゲートウェイと同様、3 台の Cisco Unified CallManager を含む Cisco Unified CallManager グループと共に動作できます。しかし、ASI/MRP ゲートウェイのテストは、1 台のバックアップ Cisco Unified CallManager だけを使用して実行されます。

始める前に

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco Unified CallManager と共に使用するよう設定するには、事前に Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウを表示します。

ステップ 2 [新規追加] ボタンをクリックします。[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの MGCP ゲートウェイを選択します。

- Cisco VG200
- VG224
- Cisco 362X、364X、366X ゲートウェイ
- Cisco 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco 26XX および 269X ゲートウェイ
- Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ
- Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
- Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
- Communication Media Module
- Cisco IAD2400 ゲートウェイ



(注) Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイも MGCP をサポートしていますが、設定が異なります。[P.69-11 の「IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加」](#)を参照してください。

Cisco IOS MGCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと音声インターフェイス カード (VIC) のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、異なるデバイス プロトコルをサポートします。後続の Web ウィンドウには、これらのインターフェイスの設定が表示されます。

ステップ 4 [次へ] をクリックします。

ステップ 5 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスが表示された場合は、[MGCP] を選択し、[次へ] をクリックします。表示されない場合は、[ステップ 6](#) に進みます。

ステップ 6 適切な [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します ([P.69-17 の「MGCP ゲートウェイの設定値」](#)を参照)。

ステップ 7 [保存] をクリックします。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが含まれています。

選択項目は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。

ステップ 8 ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットにインストールされている VIC のタイプを選択し、[保存] をクリックします。

ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。

ステップ 9 エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加します。

詳細については、次の手順を参照してください。

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \(P.69-5\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 \(P.69-7\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加 \(P.69-9\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 \(P.69-9\)](#)

ステップ 10 [リセット] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

ステップ 11 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。

ステップ 12 エンドポイントの設定とポートの追加が終了した後、MGCP ゲートウェイ デバイスをルート グループまたはルート リストに追加するか、ルート パターンをゲートウェイに割り当てて、コールがゲートウェイにルーティングされるようにする必要があります。



(注) MGCP ゲートウェイをルート パターンに追加する必要があるのは、発信コールの場合だけです。

MGCP ゲートウェイへのポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声インターフェイスカードのタイプによって異なります。ここでは、次の内容について説明します。

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \(P.69-5\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 \(P.69-7\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加 \(P.69-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加 \(P.69-9\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 \(P.69-9\)](#)

MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加

Foreign Exchange Station (FXS) ポートは、任意の POTS デバイスとの接続に使用できます。MGCP ゲートウェイで FXS ポートを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、P.69-3 の「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」を参照してください。

手順

ステップ 1 [**デバイス**] > [**ゲートウェイ**] の順に選択します。[**ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)**] ウィンドウが表示されます。または、FXS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。

ステップ 2 FXS ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力します。

ステップ 3 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。

ステップ 4 [**ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)**] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント ID をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、[**ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)**] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [**デバイス情報 (Device Information)**] と [**ポート情報 (Port Information)**] に、適切な設定値を入力します。これらのフィールドの詳細については、次の各項を参照してください。

- [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-19\)](#)
- [POTS ポートの設定値 \(P.69-65\)](#)

ステップ 6 [**保存**] をクリックします。



(注) POTS ポートを追加した後、ウィンドウがリフレッシュされ、ウィンドウの下部にその POTS ポートの情報が表示されます。新しいポートの下に [**新規 DN を追加**] リンクが表示されます。

ステップ 7 [**新規 DN を追加**] をクリックして、POTS ポートに電話番号を追加します。または、別のタイプのポートを設定した場合は、[ステップ 9](#) に進んでください。



(注) DN の追加と設定については、[P.48-3 の「電話番号の設定」](#) および [P.48-8 の「電話番号の設定値」](#) を参照してください。

ステップ 8 ポートを追加した MGCP ゲートウェイのゲートウェイ設定ウィンドウに戻るには、[**関連リンク**] ドロップダウン リスト ボックスで [**MGCP 設定に戻る**] を選択し、[**移動**] をクリックします。

ステップ 9 [**リセット**] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

ステップ 10 [ステップ 4](#) ~ [ステップ 8](#) を繰り返して、他の FXS ポートを追加します。

追加情報

[P.69-84 の「関連項目」](#) を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加

Foreign Exchange Office (FXO) ポートは、セントラル オフィスまたは PBX との接続に使用できます。MGCP ゲートウェイ上で、ループ スタートまたはグラウンド スタート用に FXO ポートを追加し、設定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager は、すべてのループ スタート トランクには、Positive Disconnect Supervision (確実な接続解除監視) がないものと想定します。Cisco Unified CallManager サーバのフェールオーバー時にアクティブ コールを保持できるように、確実な接続解除監視を備えたトランクを、グラウンド スタートとして設定してください。

始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、P.69-3 の「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」を参照してください。

手順

- ステップ 1** [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択します。[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。または、FXO ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。
- ステップ 2** FXO ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力し、[検索] をクリックします。検索結果が表示されます。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** MGCP 設定ウィンドウから、設定する FXO ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** [ポート タイプ] ドロップダウン リスト ボックスから、[Ground Start] か [Loop Start] のどちらかを選択します。



(注)

VIC-2FXO ポートの両方のエンドポイント ID に同じポート タイプを選択する必要があります。異なるポート タイプを選択すると、メッセージが表示されます。

- ステップ 6** 次の各項の説明に従って、適切な [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] および [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。
 - [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-19\)](#)
 - [ループ スタート ポートの設定値 \(P.69-67\)](#)
 - [グラウンド スタート ポートの設定値 \(P.69-68\)](#)
- ステップ 7** [保存] をクリックします。
- ステップ 8** ポートを追加した MGCP ゲートウェイのゲートウェイ設定ウィンドウに戻るには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスで [MGCP 設定に戻る] を選択し、[移動] をクリックします。

ステップ 9 [リセット] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

ステップ 10 他の FXO ポートを追加するには、[ステップ 4](#) ~ [ステップ 7](#) を繰り返します。

追加情報

[P.69-84](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加

MGCP ゲートウェイに Digital Access T1 (T1-CAS) ポートを追加する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択します。[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。または、T1-CAS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。

ステップ 2 Digital Access T1 (T1-CAS) ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。

ステップ 3 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。

ステップ 4 [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定する Digital Access T1(T1-CAS) ポートのエンドポイント ID をクリックします。

[デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで、[Digital Access T1] を選択し、[次へ] をクリックします。

選択するポート タイプの設定値については、[P.69-65](#) の「[ポートの設定値](#)」を参照してください。

ステップ 5 適切なゲートウェイの設定値を入力します。詳細については、[P.69-45](#) の「[デジタル アクセス T1 の設定値](#)」を参照してください。

ステップ 6 [保存] をクリックします。

ステップ 7 [リセット] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

追加情報

[P.69-84](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加

- ステップ 1** [デバイス]>[ゲートウェイ]の順に選択します。[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)]ウィンドウが表示されます。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。
- ステップ 2** T1 PRI または E1 PRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために、適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。
- ステップ 4** [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]ウィンドウから、設定する T1 PRI ポートまたは E1 PRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** T1 PRI または E1 PRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、[P.69-24](#)の「[Digital Access PRI ポートの設定値](#)」を参照してください。
- ステップ 6** [保存]をクリックします。
- ステップ 7** [リセット]をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

追加情報

[P.69-84](#)の「[関連項目](#)」を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声インターフェイスカード (VIC) のタイプによって異なります。MGCP ゲートウェイに BRI ポートを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス]>[ゲートウェイ]の順に選択します。[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)]ウィンドウが表示されます。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。
- ステップ 2** BRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。
- ステップ 4** MGCP 設定ウィンドウから、設定する BRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** BRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、[P.69-37](#)の「[BRI ゲートウェイの設定値](#)」を参照してください。
- ステップ 6** [保存]をクリックします。

ステップ 7 ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS SCCP ゲートウェイを Cisco Unified CallManager に追加し、設定する手順を、次に示します。SCCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- Cisco IOS 269x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco VG224 Gateway

始める前に

事前に Cisco Unified CallManager にゲートウェイを追加して、Cisco IOS SCCP ゲートウェイを設定します。続いて、Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定します。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の SCCP ゲートウェイのいずれかを選択します。

- Cisco IOS 269x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ

ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、SCCP プロトコルを選択します。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと音声インターフェイス カード (VIC) のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、SCCP をサポートします。後続の Web ウィンドウには、インターフェイスの設定が表示されます。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

この SCCP ゲートウェイ用の [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します (P.69-62 の「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」を参照)。

ステップ 7 [保存] をクリックします。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが含まれています。

選択項目は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。

ステップ 8 ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットにインストールされている VIC のタイプを選択し、[保存] をクリックします。

ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。

ステップ 9 エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加し、SCCP ゲートウェイに FXS/BRI ポートを追加します。アナログ電話機の設定の詳細については、P.70-1 の「Cisco Unified IP Phone の設定」および P.70-7 の「電話機の設定値」を参照してください。

ステップ 10 ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

ステップ 11 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。

IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加

次の IOS 以外の Cisco MGCP ゲートウェイを Cisco Unified CallManager に追加する手順は、次のとおりです。

- Cisco DT-24+ Gateway
- Cisco DE-30+ Gateway
- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウを表示します。

ステップ 2 [新規追加] ボタンをクリックします。

[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のデジタルゲートウェイのいずれかを選択し、[次へ] をクリックします。

- Cisco DT-24+ Gateway
- Cisco DE-30+ Gateway
- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway

ステップ 4 ドロップダウン リスト ボックスから、選択したゲートウェイ上で設定するインターフェイスのタイプに適したデバイス プロトコルを選択します。選択可能な項目は、ゲートウェイのモデルに応じて異なります。

- Cisco DT-24+ Gateway または Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway : Digital Access PRI または Digital Access T1 を選択します。
- Cisco DE-30+ Gateway または Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway : Digital Access PRI デバイス プロトコルが自動的に選択され、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。ステップ 6 に進みます。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 Digital Access PRI インターフェイスを設定するか、Digital Access T1 インターフェイスを設定するかに応じて、適切な設定値を入力します (次の各項を参照)。

- [Digital Access PRI ポートの設定値 \(P.69-24\)](#)
- [デジタル アクセス T1 の設定値 \(P.69-45\)](#)

ステップ 7 [保存] をクリックします。

ステップ 8 DT-24+ または Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway で Digital Access T1 インターフェイスを設定する場合は、ウィンドウの左側に表示される [ポート (Ports)] ペインで、[新規ポートを追加] リンクをクリックして、ポートを設定します。

[P.69-8 の「MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加」](#) を参照してください。

ステップ 9 [リセット] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

追加情報

[P.69-84 の「関連項目」](#) を参照してください。

Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco Unified CallManager に追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco Unified CallManager と連携させて使用するよう設定するには、事前に、Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。MGCP ゲートウェイと比較すると、H.323 ゲートウェイの方が、ゲートウェイでの設定が多くなります。これは、H.323 ゲートウェイが、ダイヤルプランとルートパターンを保持する必要があるためです。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス]>[ゲートウェイ]の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウを表示します。
 - ステップ 2** [新規追加] ボタンをクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[H.323 Gateway] を選択します。
 - ステップ 4** [次へ] をクリックします。
 - ステップ 5** 適切な設定値を入力します (P.69-49 の「H.323 ゲートウェイの設定値」を参照)。
 - ステップ 6** [保存] をクリックします。
 - ステップ 7** [リセット] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
-

追加情報

P.69-84 の「関連項目」を参照してください。

Analog Access ゲートウェイとポートの追加

次の非 Cisco Analog Access ゲートウェイを追加し、ポートを設定する手順は、次のとおりです。

- Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway

手順

-
- ステップ 1** [デバイス]>[ゲートウェイ]の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウを表示します。
 - ステップ 2** [新規追加] ボタンをクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、サポートされているアナログゲートウェイを選択します。

- Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway

ステップ 4 [次へ] をクリックします。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 適切な設定値を入力します (P.69-58 の「Analog Access ゲートウェイの設定値」を参照)。

ステップ 6 [保存] をクリックします。

ステップ 7 このゲートウェイにポートを追加するには、ウィンドウの左側に表示される [ポート (Ports)] ペインで、[新規ポートを追加] リンクをクリックします。

[ポート設定 (Port Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 ドロップダウン リスト ボックスから、ポートタイプとして [POTS] を選択し、[次へ] をクリックします。

ステップ 9 適切なポートの設定値を入力します (P.69-65 の「POTS ポートの設定値」を参照)。

ステップ 10 [保存] をクリックします。

POTS ポートを追加した場合、ウィンドウの内容が更新され、ウィンドウの左側に、その POTS ポートが表示されます。新しいポートの右側に、[DN を追加] リンクが表示されます。

ステップ 11 [DN を追加] をクリックして、POTS ポートに電話番号を追加します。

電話番号の追加と設定については、P.48-3 の「電話番号の設定」および P.48-8 の「電話番号の設定値」を参照してください。

ステップ 12 POTS ポートの追加と POTS ポートの電話番号の設定が完了したら、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに戻ります。[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスで、[デバイスの設定] を選択し、[移動] をクリックします。

ステップ 13 [リセット] をクリックして、変更内容を適用します。

追加情報

P.69-84 の「関連項目」を参照してください。

Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加

Cisco VG248 Analog Phone Gateway は、ラック取り付け型のスタンドアロン 48-FXS ポート製品です。このゲートウェイを使用すると、複数の構内アナログ電話機、FAX マシン、モデム、ボイスメッセージシステムやスピーカフォンを、1 つの Cisco Unified CallManager クラスタに登録することができます。

Cisco VG248 は、機能の拡張に備え、Skinny Client Control Protocol を使用して Cisco Unified CallManager に接続されます。

Cisco Unified CallManager は、Cisco VG248 を「Cisco VG248 Gateway」と呼ばれるゲートウェイデバイスとして認識します。さらに、48 個のポートを、それぞれ「Cisco VGC Phone」と呼ばれる Cisco Unified IP Phone に似た個別デバイスとして扱います。

Cisco VG248 Gateway を追加して、このゲートウェイにポートを追加および設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス]>[ゲートウェイ]の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [新規追加] ボタンをクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ(Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco VG248 Gateway] を選択します。
- ステップ 4** [次へ] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 適切な設定値を入力します (P.69-61 の「Cisco VG248 Gateway の設定値」を参照)。
- ステップ 6** [設定済のスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)] ドロップダウン リスト ボックスから、[48_PORTS] を選択します。
- ステップ 7** [保存] をクリックします。
[設定済のスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)] 領域に、ポート 0 ~ 48 が表示されます。
- ステップ 8** 1 つのポートをクリックします。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに、Cisco VGCPPhone として電話機のモデルがリスト表示されます。[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、MAC アドレスが自動的に見えるようになります。
- ステップ 9** 適切な設定値を入力します (P.70-7 の「電話機の設定値」を参照)。
- ステップ 10** [保存] をクリックします。

ステップ 11 ポートの電話番号を設定するには、ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域に表示される [[新規 DN を追加](#)] リンクをクリックします。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。電話番号の追加と設定については、[P.48-3](#) の「[電話番号の設定](#)」を参照してください。

ステップ 12 ゲートウェイの別のポートを設定するには、[[関連リンク](#)] ドロップダウン リスト ボックスから [[ゲートウェイに戻る](#)] リンクを選択し、[[移動](#)] をクリックします。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。別のポートについて電話機の設定値と電話番号を設定するには、[ステップ 8 ~ 11](#) を繰り返します。

ポート 1 を設定する場合は、[[ゲートウェイの設定 \(Gateway Configuration\)](#)] ウィンドウに [[ポート 1 などの新しいポートをすべて作成](#)] ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、ポート 1 と同じパラメータおよび設定値で、ポート 2 ~ 48 を設定できます (ポート 2 ~ 48 が設定済みかどうかは関係ありません)。

ステップ 13 [[リセット](#)] をクリックして、変更内容を適用します。

追加情報

[P.69-84](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ゲートウェイの設定値

すべてのゲートウェイ設定フィールドの詳細な説明は、次のトピックを参照してください。

- [MGCP ゲートウェイの設定値 \(P.69-17 \)](#)
- [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-19 \)](#)
- [Digital Access PRI ポートの設定値 \(P.69-24 \)](#)
- [BRI ゲートウェイの設定値 \(P.69-37 \)](#)
- [デジタル アクセス T1 の設定値 \(P.69-45 \)](#)
- [H.323 ゲートウェイの設定値 \(P.69-49 \)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \(P.69-58 \)](#)
- [Cisco VG248 Gateway の設定値 \(P.69-61 \)](#)
- [Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 \(P.69-62 \)](#)

ポートの設定値の詳細については、[P.69-65 の「ポートの設定値」](#)を参照してください。

MGCP ゲートウェイの設定値

[表 69-2](#) では、MGCP ゲートウェイの設定値について詳しく説明します。

表 69-2 MGCP ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[ゲートウェイの詳細 (Gateway Details)]	
[ドメイン名 (Domain Name)]	<p>Cisco MGCP ゲートウェイを識別する名前を 50 文字以内で入力します。</p> <p>Domain Name Service (DNS) ホスト名が正しく解決されるように設定されている場合は、DNS ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイ上で指定されているとおりのホスト名を使用します。</p> <p>IOS ゲートウェイ上で設定されているとおりのホスト名を使用する場合は、ここで入力する名前が、そのホスト名と正確に一致する必要があります。</p> <p>たとえば、ホスト名が vg200-1 に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が未設定の場合は、このフィールドにはホスト名を入力します (この場合、vg200-1)。</p> <p>ゲートウェイ上でホスト名が vg200-1 として設定され、IP ドメイン名が cisco.com として設定されている場合、このフィールドには vg200-1.cisco.com と入力します。</p>
[説明]	<p>デバイスの目的を明確にした説明を入力します。</p>
[Cisco Unified CallManager グループ (Cisco Unified CallManager Group)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified CallManager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager 冗長グループには、最高 3 台の Cisco Unified CallManager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco Unified CallManager が、プライマリ Cisco Unified CallManager の役目をします。プライマリ Cisco Unified CallManager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco Unified CallManager に接続しようとします。</p>

表 69-2 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)




フィールド	説明
[設定済のスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
 (注) 一部の VIC で、開始ポート番号を指定する必要があります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC には 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) 存在する必要があります。	
 (注) MGCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます (VG200 ゲートウェイには、1 つのスロットしかありません)。	
 (注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、[保存] をクリックしてください。	
[Module in Slot 0] [Module in Slot 1] [Module in Slot 2] [Module in Slot 3] (以下、同様)	選択した MGCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。たとえば、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • [NM-1V]: Subunit 0 に、FXS または FXO 用の音声インターフェイスカード (VIC) を 1 つ装備。NM-1V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、2 番目の BRI ポートがシャットダウンされるため、2 つのコールを行うことができません。 • [NM-2V]: FXS または FXO 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。NM-2V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、4 つのコールを行うことができます。別の VIC が NM-2V の 2 番目のスロットにある場合、VIC-2BRI-S/T-TE の 2 番目のポートがシャットダウンします。 • [NM-HDV]: Subunit 0 に、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を 1 つ装備。 • [NM-HAD]: VIC を、Subunit 0、Subunit 1、および Subunit 2 に 1 つずつ、合計 3 つ装備。 • [VWIC-SLOT]: 次のいずれかのモジュール用のスロットを装備。VIC (FXS、FXO、または BRI)、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用のスロットを 1 つ装備。 • [AIM-VOICE-30]: T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • [WS-X6600-24FXS]: FXS ポートを 24 個装備。 • [WS-X6600-6T1]: T1 PRI または CAS 用のポートを 6 つ装備。 • [WS-X6600-6E1]: E1 PRI 用のポートを 6 つ装備。 • [WS-SVC-CMM-MS]: ヨーロッパおよびその他の国の T1 インターフェイス用と E1 インターフェイス用に 1 つずつ、合計 2 つを装備。 • [None]: ネットワーク モジュールの装備なし。

表 69-2 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定(Product Specific Configuration)] 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

FXS/FXO ポートの設定値

表 69-3 では、FXS/FXO ポートの設定値について詳しく説明します。



(注)

VG200 ゲートウェイの場合、すべてのスイッチ エミュレーション タイプが、ネットワーク側をサポートしているわけではありません。ゲートウェイ スイッチ タイプの設定内容によって、ネットワーク側を設定できるかどうかが決まります。

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[説明 (Description)]	<p>Cisco Unified CallManager は、アナログ MGCP の説明を一意に識別する文字列を生成します。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>AALN/S0/SU1/1@domain.com</p> <p>このフィールドは、編集可能です。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager グループ、日付 / 時間グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)


フィールド	説明
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	メディアリソースグループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディアリソースグループリストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースの中から、必要なメディアリソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合から構成されます。 Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。  (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] ペインで [Max List Box Items] に値を入力します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[ロケーション (Location)]	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [None] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)



フィールド	説明
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<None>] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)




フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、その [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [Off]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [On]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、その [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [Disabled]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • [Forceful]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[ポート情報 (Port Information) (POTS)]	
[ポートディレクション (Port Direction)]	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Inbound]: 着信コールのみの場合に使用します。 • [Outbound]: 発信コールのみの場合に使用します。 • [Bothways]: 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。
[プレフィックス DN(Prefix DN)] (FXS ポート)	<p>このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、まず、[数値桁 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>

表 69-3 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[数値桁 (Num Digits)] (FXS ポート)	<p>収集する有効数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、有効数字をコールされた番号の右側(最後の桁)からカウントします。</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN(Prefix DN)] を参照してください。</p>
[期待文字 (Expected Digits)] (FXS ポート)	<p>トランクの着信側で必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。</p>
[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)]	<p>ボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポートに、このフィールドを使用します。</p> <p>[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)] は、アナログ アクセス ポートが接続される先のボイス メッセージ システム上にある、実際のポート番号と同じ番号を設定してください。</p> <p> (注) ボイス メッセージ システムが正しく動作するために、通常、ボイスメールの論理ポートは物理ポートと一致している必要があります。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定(Product Specific Configuration)] 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Digital Access PRI ポートの設定値

表 69-4 では、Digital Access PRI ポートの設定値について詳しく説明します。



(注) 使用しているゲートウェイが QSIG プロトコルをサポートしているかどうかを確認するには、ゲートウェイの製品マニュアルを参照してください。Cisco Unified CallManager での QSIG サポートについては、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[エンドポイント名 (End-Point Name)]	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco Unified CallManager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。 次の例を参考にしてください。 S1/DS1-0@VG200-2 S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、@VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。
[MAC アドレス (MAC Address)]	ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。 12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager グループ、日付 / 時間グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[コールの分類 (Call Classification)]	このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない([OffNet])と見なされるか、ある([OnNet])と見なされるかを示します。 [コールの分類 (Call Classification)]フィールドが[Use System Default] に設定されている場合、Cisco Unified CallManager clusterwide サービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [OnNet] か、または [OffNet] かが決定します。 このフィールドは、コールが [OnNet] または [OffNet] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)


フィールド	説明
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されません。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
[ロケーション (Location)]	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを [None] に設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [None] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。</p> <p>このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルト ファームウェア ロードを上書きします。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)



フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスが属するデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
[V150 (subset)]	<p>v150 (subset) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<None>] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、その [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [Off]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [On]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)


フィールド	説明
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当ててる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、その [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [Disabled]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • [Forceful]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)


フィールド	説明
[インターフェイス情報 (Interface Information)]	
[PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)]	<p>スパン用の通信プロトコルを選択します。</p> <p>T1 PRI スパンには、通信事業者またはスイッチに応じて、複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PRI 4ESS]: AT&T 長距離電話会社。 • [PRI 5E8]: NI-1 モードまたはカスタム モードで動作する AT&T ファミリ 5ESS ISDN スイッチ。 • [PRI 5E8 Custom]: Cisco Unified IP Phone。 • [PRI 5E9]: AT&T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。 • [PRI DMS]: MCI ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者、カナダ ローカル交換通信事業者。 • [PRI ETSI SC]: T1 のヨーロッパ ローカル交換通信事業者。また、日本、台湾、韓国、香港のローカル交換。 • [PRI NI2]: AT&T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。 <p> (注) [PRI NI2] の PRI プロトコル タイプを指定する場合は、次のコマンドで Cisco IOS ゲートウェイを設定してください。</p> <pre>isdn switch-type primary-ni</pre> <ul style="list-style-type: none"> • [PRI NTT]: 日本の NTT 交換スイッチ。 • [PRI ISO QSIG T1]: ISO QSIG を使用する PBX T1 専用トランク。 • [PRI ISO QSIG E1]: ISO QSIG を使用する PBX E1 専用トランク。 <p>接続先のスイッチおよび推奨プロトコルを、次のように判別してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Nortel Meridian : DMS、5E8 Custom • Lucent Definity : 4ESS または 5E8 • Madge (Teleos) box : 5E8 Teleos • Intecom PBX : 5E8 Intecom
[プロトコル側 (Protocol Side)]	<p>適切な Protocol Side を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両側で、反対の設定値を使用していることを確認してください。たとえば、PBX に接続されているときに、その PBX が Protocol Side として User を使用する場合は、このデバイスには Network を選択してください。一般に、セントラル オフィス接続では、このオプションに User を使用します。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[チャンネル選択順序 (Channel Selection Order)]	<p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、[TOP_DOWN] (最初から最後) または [BOTTOM_UP] (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[TOP_DOWN] を選択してください。</p>
[チャンネル IE タイプ (Channel IE Type)]	<p>次の値のいずれかを選択して、チャンネル選択がチャンネル マップとして提示されるか、スロット マップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Timeslot Number]: B チャンネルの使用は、常に実際のタイムスロット マップ形式 (E1 の場合は 1-15 および 17-31 など)。 • [Slotmap]: B チャンネルの使用は、常にスロット マップ形式。 • [Use Number When 1B]: チャンネルの使用は、1 つの B チャンネルの場合はチャンネル マップ形式で、複数の B チャンネルが存在する場合はスロット マップ形式。 • [Continuous Number]: E1 論理チャンネル番号として、連続しない実際のタイムスロット番号 (1-15 および 17-31) ではなく、連続するスロット番号 (1-30) を設定します。
[PCM タイプ (PCM Type)]	<p>デジタル エンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [a-law]: ヨーロッパおよびその他の国で使用 (北米、香港、台湾、日本以外)。 • [mu-law]: 北米、香港、台湾、および日本で使用。
[最初のリスタートの遅延 (Delay for first restart、1/8 秒単位)]	<p>スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の PRI スパンが使用可能であるときに、[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをイン サービスにするには、2 秒待ってください)。</p>
[リスタート間遅延 (Delay between restarts、1/8 秒単位)]	<p>再起動間の時間を入力します。[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合、PRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。</p>
[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)]	<p>RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージは、PRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージも SERVICE メッセージも送信されない場合、Cisco Unified CallManager は、ポートがイン サービスであると見なします。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、D チャンネルは、別の PRI の D チャンネルと正常に接続されると、RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージを送信します。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)



フィールド	説明
[ステータスポーリングを有効化 (Enable status poll)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified CallManager の拡張サービス パラメータ (Change B-Channel Maintenance Status) を使用可能にできます。このサービス パラメータによって、MGCP T1/E1 PRI ゲートウェイのサービスから、リアル タイムで個々の B チャンネルを使用することができます。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、サービス パラメータ「 Change B-Channel Maintenance Status 」を使用不可にできます。</p> <p> (注) デフォルトでは、このフィールドはオフです。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[コールルーティング情報 - インバウンドコール (Call Routing Information - Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32、または [すべて])。Cisco Unified CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。[すべて] を選択した場合、Cisco Unified CallManager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>EXAMPLE Digits received are 123456. Significant digits setting is 4. Digits translated are 3456.</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN(Prefix DN)] を参照してください。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified CallManager は、まず、[数値桁 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。
[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール (Call Routing Information - Outbound Calls)]	
[発呼側のプレゼンテーション (Calling Party Presentation)]	Cisco Unified CallManager で、発信側の電話番号を表示させるか制限するかを選択します。 発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信コールで「許可された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信コールで「制限された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、[Restricted] を選択します。 このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。
[発呼側の選択 (Calling Party Selection)]	ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [Originator]: 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number]: 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number]: 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number (External)]: 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number (External)]: 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。 • [National]: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [International]: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [Subscriber]: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発呼側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、発呼側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発呼側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。 • [National]: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [International]: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [Subscriber]: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン(たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン)について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN]: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [National Standard]: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [Private]: プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。
[発信番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン(たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン)について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN]: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [National Standard]: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [Private]: プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。
[削除桁数 (Number of digits to strip)]	<p>発信コール上で除去される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、除去される桁数が 3 である場合、Cisco Unified CallManager は発信番号から 888 を除去します。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発信者 ID DN(Callers ID DN)]	<p>発信側の回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変の発信側の回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定の発信側の回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。
[SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータをゼロ以外の値に設定した場合、このゲートウェイが不明なタイプのルートリストまたはルートグループに属しているときは、このスパンを越えるハントは続行されません。</p>
[PRI プロトコルタイプ固有情報 (PRI Protocol Type Specific Information)]	
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	<p>発信側と接続された側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および NOTIFY メッセージ (DMS プロトコルの場合) 内で、表示情報要素 (IE) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールが転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified CallManager からの送信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)


フィールド	説明
[IE 表示での付加先行文字を送る (Send Extra Leading Character in Display IE)]	<p>DisplayIE フィールドに特殊先行文字バイト (ASCII 以外の表示不能なバイト) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Display IE フィールドからこの文字バイトを除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスが適用されるのは、DMS-100 プロトコルと DMS-250 プロトコルに限られます。</p> <p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフ) になっています。</p>
[非 ISDN プログレスインジケータ IE を有効に設定 (Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable)]	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフ) になっています。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco Unified CallManager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco Unified CallManager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンドリングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco Unified CallManager に関連しています。</p>
[MCDN チャネル番号拡張ビットを 0 に設定 (MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero)]	<p>チャンネル番号拡張ビットを 0 に設定するには、チェックボックスをオンにします。この拡張ビットを 1 に設定するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>この設定は、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。</p>
[ファシリティ IE でのコール名を送る (Send Calling Name In Facility IE)]	<p>Facility IE フィールドにある発信側の名前を送信するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、Cisco Unified CallManager はこのチェックボックスをオフにします。</p> <p>この機能は、ISDN 発信側のネーム デリバリ用に使用可能になっている PRI インターフェイスを持つプライベート ネットワークに対して設定します。このチェックボックスがオンの場合、発信側の名前は SETUP または FACILITY メッセージの Facility IE に送られるため、名前を着信側のデバイス上に表示できます。</p> <p>この機能を設定できるのは、プライベート ネットワーク内の PRI トランクだけです。PSTN に接続された PRI トランクには、この機能を設定しないでください。</p> <p> (注) このフィールドが適用されるのは、NI2 プロトコルに限られます。</p>

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[インターフェイス識別子あり (Interface Identifier Present)]	Interface Identifier が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、Cisco Unified CallManager はこのチェックボックスをオフにします。 この設定値は、SETUP、CALL PROCEEDING、ALERTING、および CONNECT メッセージの Channel Identification 情報要素内で、デジタル アクセス ゲートウェイ用の DMS-100 プロトコルだけに適用されます。
[インターフェイス識別子の値 (Interface Identifier Value)]	PBX プロバイダーから入手した値を入力します。 このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルに限られません。有効値の範囲は 0 ~ 255 です。
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation、QSIG インバウンドコール)]	Cisco Unified CallManager で、接続された側の電話番号を着信側の電話機に表示させるか、ブロックさせるかを選択します。 このフィールドは、QSIG プロトコルを使用しているゲートウェイのみに適用されます。ゲートウェイは、この設定を着信コールのみに適用します。 接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager が「許可された接続側の回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示できるようにする場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が「制限された接続側の回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示されるのをブロックする場合は、[Restricted] を選択します。 このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 17-9 を参照してください。
[UUIE の設定 (UUIE Configuration)]	
[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)]	MLPP 情報が PRI 4ESS UUIE フィールドを通過できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチとの相互作用に使用されます。 PRI 4ESS の [PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)] 値がこのゲートウェイに指定されている場合に限り、システムによってこのチェックボックスが使用可能になります。 デフォルト値は、オフです。
[セキュリティアクセスレベル (Security Access Level)]	セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効値は 00 ~ 99 です。[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンの場合に限り、このフィールドを使用できます。デフォルト値は 2 です。

表 69-4 Digital Access PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定(Product Specific Configuration)] 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

BRI ゲートウェイの設定値

表 69-5 では、BRI の設定値について詳しく説明します。

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
[エンドポイント名 (End-Point Name)] (MGCP ゲートウェイ)	<p>MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco Unified CallManager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>BRI/S1/SU0/P0@SC3640.cisco.com</p> <p>S1 はスロット 1、SU0 はサブユニット 0、P0 はポート 0 を示し、@SC3640.cisco.com は MGCP ドメイン名を示します。</p>
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>このデバイスに対して、デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager グループ、日付 / 時間グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含むプロパティの集合を指定します。</p>

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールの分類 (Call Classification)]	このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない([OffNet])と見なされるか、ある([OnNet])と見なされるかを示します。 [コールの分類 (Call Classification)]フィールドが[Use System Default]に設定されている場合、Cisco Unified CallManager clusterwide サービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [OnNet] か、または [OffNet] かが決定します。 このフィールドは、コールが [OnNet] または [OffNet] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
[ロケーション (Location)]	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [None] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[インターフェイス情報 (Interface Information)]	
[BRI プロトコルタイプ (BRI Protocol Type)]	スパン用の通信プロトコルを選択します。 BRI-NET3

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)



フィールド	説明
[プロトコル側 (Protocol Side)]	適切な Protocol Side を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。  (注) BRI は User Side だけをサポートします。
[チャンネル選択順序 (Channel Selection Order)]	チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。 有効な入力値には、[TOP_DOWN] (最初から最後) または [BOTTOM_UP] (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[TOP_DOWN] を選択してください。
[PCM タイプ (PCM Type)]	デジタル エンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">• [a-law]: ヨーロッパおよびその他の国で使用 (北米、香港、台湾、日本以外)• [mu-law]: 北米、香港、台湾、および日本で使用。
[最初のリスタートの遅延 (Delay for first restart、1/8 秒単位)]	スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の BRI スパンが使用可能であるときに、[BRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at BRI initialization)] チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをイン サービスにするには、2 秒待ってください)。
[リスタート間遅延 (Delay between restarts、1/8 秒単位)]	再起動間の時間を入力します。[BRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at BRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合、BRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。
[BRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at BRI initialization)]	RESTART メッセージは、BRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージが送信されない場合、Cisco Unified CallManager は、ポートがイン サービスであると見なします。 このチェックボックスがオフになっている場合、データ リンクは、別の BRI データ リンクと正常に接続されると、RESTART メッセージを送信します。
[ステータスポーリングを有効化 (Enable status poll)]	Debug ウィンドウに B チャンネルの状況を表示するには、このチェックボックスをオンにします。
[Establish Datalink on First Call]	ゲートウェイが Cisco Unified CallManager に登録されると、Cisco Unified CallManager はゲートウェイへのデータ リンクを確立します。 最初のコールで Terminal Endpoint Identifier (TEI; 終端識別子) が決まるようにゲートウェイおよびスイッチを設定する場合、チェックボックスをオンにすると、最初のコールでデータ リンクを確立できます。  (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールルーティング情報 - インバウンドコール (Call Routing Information - Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32、または [すべて])。Cisco Unified CallManager は、有効数字をコールされた番号の右側(最後の桁) からカウントします。[すべて] を選択した場合、Cisco Unified CallManager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>EXAMPLE Digits received are 123456. Significant digits setting is 4. Digits translated are 3456.</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、BRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN(Prefix DN)] を参照してください。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースでは、収集された(発信)番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された(発信)番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、まず、[数値桁 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール (Call Routing Information - Outbound Calls)]	
[発呼側のプレゼンテーション (Calling Party Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <p>発呼側の表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信者 ID を送信するようにする場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信者 ID を送信しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p>
[発呼側の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Originator]: 発信側デバイスの電話番号を送信します。 [First Redirect Number]: 転送デバイスの電話番号を送信します。 [Last Redirect Number]: 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 [First Redirecting Party (External)]: 外部電話マスクが適用されている、最初の転送デバイスの電話番号を送信します。 [Last Redirecting Party (External)]: 外部電話マスクが適用されている、最後の転送デバイスの電話番号を送信します。

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [CallManager]: Cisco Unified CallManager が、電話番号のタイプを設定します。 • [International]: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [National]: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤル プランが不明です。 • [Subscriber]: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [CallManager]: Cisco Unified CallManager が、電話番号のタイプを設定します。 • [International]: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [National]: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤル プランが不明です。 • [Subscriber]: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤル プラン(たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン)について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [CallManager]: Cisco Unified CallManager が、電話番号内の番号計画を設定します。 • [ISDN]: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [National Standard]: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [Private]: プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤル プランが不明です。 • [Subscriber]: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[発信番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤル プラン(たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン)について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [CallManager]: Cisco Unified CallManager が、電話番号内の番号計画を設定します。 • [ISDN]: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [National Standard]: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [Private]: プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤル プランが不明です。 • [Subscriber]: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)



フィールド	説明
[削除桁数 (Number of digits to strip)]	<p>発信コール上で除去される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、除去される桁数が 3 である場合、Cisco Unified CallManager は発信番号から 888 を除去します。</p>
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>発信者 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定の発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。
[BRI プロトコルタイプ固有情報 (BRI Protocol Type Specific Information)]	
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールが転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified CallManager からの送信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受領するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>

表 69-5 BRI ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[非 ISDN プログレスインジケータ IE を有効に設定 (Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable)]	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフ) になっています。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco Unified CallManager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco Unified CallManager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンドリングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco Unified CallManager に関連しています。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デジタル アクセス T1 の設定値

表 69-6 では、デジタル アクセス T1 の設定値について詳しく説明します。

表 69-6 デジタル アクセス T1 の設定値


フィールド	説明
[MAC アドレス (MAC Address)] (IOS 以外のゲートウェイ)	ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。 12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。
[ドメイン名 (Domain Name)]	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco Unified CallManager が生成した、MGCP デジタル インターフェイスを一意に識別する文字列が含まれています。 次の例を参考にしてください。 S1/DS1-0@VG200-2 S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、@VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。
 (注) MAC アドレスかドメイン名の、どちらか適用される方を入力してください。	
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager グループ、日付 / 時間グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[コールの分類 (Call Classification)]	このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([OffNet]) と見なされるか、ある ([OnNet]) と見なされるかを示します。 [コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [Use System Default] に設定されている場合、Cisco Unified CallManager clusterwide サービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [OnNet] か、または [OffNet] かが決定します。 このフィールドは、コールが [OnNet] または [OffNet] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。
[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)]	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

表 69-6 デジタル アクセス T1 の設定値 (続き)


フィールド	説明
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。 Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。  (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[ロケーション (Location)]	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [None] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<None>] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。

表 69-6 デジタル アクセス T1 の設定値 (続き)



フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生するデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、その [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [Off]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [On]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、その [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [Disabled]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • [Forceful]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[DTMF 優先シグナルを処理 (Handle DTMF Precedence Signals)]	<p>このゲートウェイが特殊な DTMF 信号を MLPP 優先レベルとして解釈できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。</p> <p>このフィールドに入力された値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p>

表 69-6 デジタル アクセス T1 の設定値 (続き)


フィールド	説明
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	<p>チャンネルまたはポートが発信コールに割り当てられる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、[Top Down] (最初から最後) または [Bottom Up] (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[Top Down] を選択してください。</p>
[送信番号 (Digit Sending)]	<p>アウトダイヤル用に、次の送信番号タイプのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [DTMF]: Dual-Tone Multifrequency (2重トーン多重周波数)。通常のプッシュホン式ダイヤリング。 • [MF]: Multifrequency (多重周波数)。 • [PULSE]: パルス (ロータリー) ダイヤリング。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
[SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータをゼロ以外の値に設定した場合、このゲートウェイが不明なタイプのルート リストまたはルート グループに属しているときは、このスパンを越えるハントは続行されません。</p>
[V150 (subset)]	<p>v150 (subset) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>

表 69-6 デジタル アクセス T1 の設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定(Product Specific Configuration)] 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

H.323 ゲートウェイの設定値

表 69-7 では、H.323 ゲートウェイの設定値について説明します。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[デバイス名(Device Name)]	デバイスを識別するために Cisco Unified CallManager が使用する固有の名前を入力します。IP アドレスまたはホスト名をデバイス名として使用します。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager グループ、日付 / 時間グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([OffNet]) と見なされるか、ある ([OnNet]) と見なされるかを示します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [Use System Default] に設定されている場合、Cisco Unified CallManager clusterwide サービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [OnNet] か、または [OffNet] かが決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが [OnNet] または [OffNet] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)


フィールド	説明
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	メディアリソースグループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディアリソースグループリストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースから、必要なメディアリソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	このフィールドを設定するのは、H.323 ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	このフィールドを設定するのは、H.323 ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。
[ロケーション (Location)]	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [None] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)]	H.323 ゲートウェイを使用して、H.323 シグナリングメッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco Unified CallManager から他の Annex M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、[QSIG] オプションを選択します。QSIG トンネルは、次の機能をサポートしません：Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、Message Waiting Indication、および Path Replacement。  (注) Annex M.1 機能とサードパーティベンダーとの互換性については、『Cisco Unified CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。
[シグナリングポート]	このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリングポートの値を指定します。 デフォルト値は 1720 です。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)



フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) をインプリメントするのに、メディアターミネーションポイントを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set メッセージをサポートしない H.323 デバイスだけに、このチェックボックスを使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオになります。</p>
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗します。コール制御はルート / ハント リスト内でコールを再ルーティングします。自動代替ルーティング (AAR) が設定済みで使用可能であれば、コール制御はルート リストとハント リスト間でもコールを再ルーティングします。</p>
[ファアエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco Unified CallManager が遠端 H.245 Terminal Capability Set を受信した後に、H.245 Terminal Capability Set に送信するように指定します。Cisco Unified CallManager がケイパビリティ交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p> (注) H.323 エンドポイントと H.320 エンドポイント間の ISDN コールに、H.320 ゲートウェイ経由のコールを可能にするには、このチェックボックスをオフにします。</p>
[パス置換サポート (Path Replacement Support)]	<p>このチェックボックスが表示されるのは、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] オプションを選択した場合です。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス変換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] で [QSIG] オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)



フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判別します。</p> <p>送信側デバイスの場合、このチェックボックスがオンの状態で、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致したときは、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
[SRTP を許可]	<p>ゲートウェイを介したセキュア コールとノンセキュア コールを Cisco Unified CallManager で許可する場合は、[SRTP を許可] チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、Cisco Unified CallManager はゲートウェイとの SRTP ネゴシエーションを防止し、RTP を使用します。</p> <p> 注意 このチェックボックスをオンにする場合は、IP セキュリティを設定して、コール ネゴシエーション中に鍵や他のセキュリティ関連の情報を公開しないようにすることを強くお勧めします。IPSec を正しく設定しないと、Cisco Unified CallManager とゲートウェイ間のシグナリングがノンセキュアになります。</p> <p>ゲートウェイの暗号化の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<None>] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)


フィールド	説明
[コールルーティング情報 - インバウンドコール (Call Routing Information - Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco Unified CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースでは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[プレフィックス DN (Prefix DN)]	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、まず、[数値桁 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受取するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)


フィールド	説明
[インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)]	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco Unified CallManager サーバで [インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)] チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p> <p> (注) 他のクラスタの Cisco CallManager 3.3(2) サーバをサポートパッチ B で更新した場合、3.3(2)spB が内部 FastStart 機能をクラスタ間トランクでサポートしないため、内部 FastStart を使用可能にしないでください。</p>
[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール (Call Routing Information - Outbound Calls)]	
[発呼側の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Originator]: 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number]: 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number]: 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number (External)]: 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number (External)]: 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。
[発呼側のプレゼンテーション (Calling Party Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager で、発信側の電話番号を表示させるか制限するかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信コールで「許可された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、[Allowed] を選択します。Cisco Unified CallManager が発信コールで「制限された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項にある表 17-6 を参照してください。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤリング プランが不明の場合に指定します。 • [National]: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [International]: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [Subscriber]: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤリング プランが不明の場合に指定します。 • [National]: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [International]: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [Subscriber]: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン(たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン)について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN]: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [National Standard]: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [Private]: プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。
[発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン(たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン)について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN]: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [National Standard]: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [Private]: プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)



フィールド	説明
[発信者 ID DN(Caller ID DN)]	<p>発信側の回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変の発信側の回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定の発信側の回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	<p>発信側と着信側のネーム デリバリー サービスに対する SETUP、CONNECT、および NOTIFY メッセージ内で、表示 IE のデリバリーを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールが転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified CallManager からの送信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
[アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)]	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p> (注) [インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)] チェックボックスがオンの場合、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]、および [アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)] を設定する必要があります。</p>

表 69-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスを使用して、発信 FastStart コール用に H.323 デバイスと共に使用するための、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [G711 u-law 64K](デフォルト) • [G711 a-law 64K] • [G723] • [G729] • [G729AnnexA] • [G729AnnexB] • [G729AnnexA-AnnexB] <p> (注) [アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)]チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。[アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)] を選択する前に、[保存] をクリックすることが必要になる場合があります。</p>

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Analog Access ゲートウェイの設定値

表 69-8 では、Analog Access ゲートウェイ (Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS Gateway) の設定値について説明します。

表 69-8 Analog Access ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[MAC アドレス (MAC Address)]	<p>ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。</p> <p>12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。</p>
[説明 (Description)]	<p>デバイスの目的を明確にした説明を入力します。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager グループ、日付 / 時間グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>メディアリソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p>

表 69-8 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)




フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、パーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[ロケーション (Location)]	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに [None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [None] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	<p>ポートが選択される順序を選択します。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[Top Down] を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Top Down]: ポート 1 からポート 8 まで降順にポートを選択します。 • [Bottom Up]: ポート 8 からポート 1 まで昇順にポートを選択します。

表 69-8 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。</p> <p>このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルト ファームウェア ロードを上書きします。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判別します。</p> <p>送信側デバイスの場合、このチェックボックスがオンの状態で、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致したときは、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ原語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<None>] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>


追加情報

P.69-84 の「関連項目」を参照してください。

Cisco VG248 Gateway の設定値

表 69-9 では、Cisco VG248 Gateway の設定値について説明します。

表 69-9 Cisco VG248 Gateway の設定値

フィールド	説明
[MAC アドレス(最後の 10 文字)]	<p>Cisco VG248 のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway 用の MAC アドレスは 1 つしかありませんが、Cisco Unified CallManager はすべてのデバイスについて固有の MAC アドレスを要求します。MAC アドレスの 10 桁だけを入力すると、Cisco Unified CallManager はゲートウェイ用の MAC アドレスを使用し、それに追加情報を加えて VGC 電話機用の MAC アドレスを作成することができます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号が追加され、MAC アドレスの先頭に VGC が追加されます。</p> <p>EXAMPLE MAC Address for the Cisco VG248 is 0039A44218 the MAC address for registered port 12 in Cisco Unified CallManager is VGC0039A4421812</p>
[説明]	Cisco Unified CallManager は、MAC アドレスの直前に VGCGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。
[ロード情報 (Load Information)]	設定中の Cisco VG248 のファームウェア バージョンを入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。
[設定済のスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
 <p>(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、[保存] をクリックしてください。</p>	
[48_PORTS]	エンドポイント ID のリストから、VGC_Phone ポートを設定するためのポートを 1 つ選択します。

追加情報

P.69-84 の「関連項目」を参照してください。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

表 69-10 では、Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値について説明します。

表 69-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[MAC アドレス (最後の 10 文字)]	<p>ゲートウェイのメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。 <i>scp local</i> IOS コマンドがゲートウェイで指定するインターフェイスの MAC アドレスを使用します。数字 (0 ~ 9) および A ~ F の大文字を指定できます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) にスロット、サブユニット、およびポートの 3 桁のマッピングが追加されます。</p> <p>EXAMPLE MAC Address for the gateway is 0006D7E5C7 The MAC address in Cisco Unified CallManager is 0006D7E5C7281 where 281 is the three-digit mapping of the slot/subunit/port. The values 2,8 and 1 can be hex digits and each do not necessarily correspond to slot, subunit and port values.</p> <p>電話機のデバイス タイプを示すため、MAC アドレスの前に次の 2 文字が挿入されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BR : BRI 電話機 • AN : アナログ電話機 <p>また、ゲートウェイ名に対して SKIGW も挿入されます。</p>
[説明]	<p>Cisco Unified CallManager は、MAC アドレスの直前に SKIGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。説明は上書きできます。</p>
[Cisco Unified CallManager グループ (Cisco Unified CallManager Group)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified CallManager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager 冗長グループには、最高 3 台の Cisco Unified CallManager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco Unified CallManager が、プライマリ Cisco Unified CallManager の役目をします。プライマリ Cisco Unified CallManager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco Unified CallManager に接続しようとします。</p>

表 69-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)




フィールド	説明
[設定済のスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
 <p>(注) 一部の VIC で、開始ポート番号を指定する必要があります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC には 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) 存在する必要があります。</p>	
 <p>(注) SCCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます。</p>	
 <p>(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、[保存] をクリックしてください。</p>	
<p>[Module in Slot 0] [Module in Slot 1] [Module in Slot 2] [Module in Slot 3] (以下、同様)</p>	<p>選択した SCCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。次のモジュールがサポートされています。</p> <p>ネットワーク モジュール (VIC スロットあり):</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NM-2V]: FXS-SCCP 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • [NM-HD-2V]: FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • [NM-HD-2VE]: FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 <p>ネットワーク モジュール (VIC スロットなし):</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NM-HDA-4FXS]: VIC なしで直接 4 つの FXS を装備。最大 2 つまでの拡張モジュール EM-HDA-8FXS で拡張することにより、FXS ポートを 16 個サポートできます。 • [EM-HDA-8FXS]: NM-HDA-4FXS の拡張モジュール。 <p>音声インターフェイスカード:</p> <ul style="list-style-type: none"> • [VIC-2FXS] • [VIC-4FXS] • [VIC2-2FXS] • [VIC2-2BRI-NT/TE]

表 69-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
	<p>スロット レベルでは、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NM-2V]: 2 つのサブユニットのオプション (VIC-2FXS-SCCP) • [NM-HD-2V]: 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP) • [NM-HD-2VE]: 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP) • [NM-HDA]: 3 つのサブユニットのオプション (NM-HDA-4FXS-SCCP、EM-8FXS-EM0-SCCP、EM-8FXS-EM1-SCCP) <p>[NM-HDA] の場合、これらのオプションは正式な VIC ではありません。VIC2-2BRI-NT/TE は、BRI SCCP 電話機専用の VIC です。VG224 GW は他のすべてと異なります。</p> <p>次のオプションは、1 つのスロットだけをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ANALOG]: 1 つのサブユニットのオプション (24FXS-SCCP)、24 個の FXS ポートをサポート。 <p>オプション [None] は、ネットワーク モジュールが装備されていないことを意味します。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定(Product Specific Configuration)] 見出しの右にある「?」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ポートの設定値

すべてのポート タイプ設定フィールドの詳細については、次の各トピックの表を参照してください。

- [POTS ポートの設定値 \(P.69-65\)](#)
- [ループ スタート ポートの設定値 \(P.69-67\)](#)
- [グラウンド スタート ポートの設定値 \(P.69-68\)](#)
- [E & M ポートの設定値 \(P.69-69\)](#)

ゲートウェイの設定値の詳細については、[P.69-17](#) の「[ゲートウェイの設定値](#)」を参照してください。

POTS ポートの設定値

表 69-11 では、POTS ポートの設定値について説明します。

表 69-11 POTS ポートの設定値



フィールド	説明
ポートの選択	
[ポートタイプ]	POTS ポートの場合、このフィールドには「POTS」が表示されます。
[開始ポート番号] [終了ポート番号]	<p>[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号] と [終了ポート番号] に適切な値を選択します。 • 1つのポートを作成するには、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドの両方に [All Ports] を選択します。
ポートの詳細	
[ポートディレクション]	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Inbound]: 着信コールのみに使用します。 • [Outbound]: 発信コールのみに使用します。 • [Bothways]: 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)
[Audio Signal Adjustment into IP Network]	<p>ポート アプリケーション タイプに関連した受信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを指定します。</p> <p> (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。</p>
[Audio Signal Adjustment from IP Network]	<p>ポート アプリケーション タイプに関連した送信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを指定します。</p> <p> (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。</p>

表 69-11 POTS ポートの設定値 (続き)


フィールド	説明
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified CallManager は、[数値桁] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。
[数値桁]	収集する有効数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。 Cisco Unified CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。 このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN(Prefix DN)] を参照してください。
[期待文字]	トランクの着信側で必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。
[Call Restart Timer (1000-5000 ms)]	Call Restart Timer (1000 ~ 5000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
[Offhook Validation Timer (100-1000ms)]	Offhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
[Onhook Validation Timer (100-1000ms)]	Onhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
[Hookflash Timer (100 - 1500 ms)]	Hookflash Timer (100 ~ 1500ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
[SMDIポート番号(0-4096)]	ボイスメッセージシステムに接続するアナログアクセスポートに、このフィールドを使用します。 [SMDI ポート番号 (0-4096)] は、アナログアクセスポートが接続される先のボイスメッセージシステム上にある、実際のポート番号と同じ番号を設定してください。  (注) ボイスメッセージシステムが正しく動作するために、通常、ボイスメールの論理ポートは物理ポートと一致している必要があります。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。

表 69-11 POTS ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定(Product Specific Configuration)] 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ループ スタート ポートの設定値

表 69-12 では、ループ スタート ポートの設定値について説明します。

表 69-12 ループ スタート ポートの設定値

フィールド	説明
[ポートタイプ]	[ポートタイプ] ドロップダウン リスト ボックスから、[Loop Start] を選択します。
[開始ポート番号] [終了ポート番号]	<p>[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なポート全部であるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号] と [終了ポート番号] に適切な値を選択します。 1 つのポートを作成するには、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドに同じ番号を選択します。 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドの両方に [All Ports] を選択します。
[ポートディレクション]	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Inbound]: 着信コールのみに使用します。 [Outbound]: 発信コールのみに使用します。 [Both Ways]: 着信コールと発信コールに使用します。
[アテンダント DN]	着信コールを転送する先の電話番号を入力します (たとえば、ゼロ、または代表電話番号)。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。

表 69-12 ループ スタート ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定(Product Specific Configuration)] 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

グラウンド スタート ポートの設定値

表 69-13 では、グラウンドスタート ポートの設定値について説明します。

表 69-13 グラウンド スタート ポートの設定値

フィールド	説明
[ポートタイプ]	[ポートタイプ] ドロップダウン リスト ボックスから、[Ground Start] を選択します。
[開始ポート番号] [終了ポート番号]	<p>[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号] と [終了ポート番号] に適切な値を選択します。 • 1つのポートを作成するには、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドの両方に [All Ports] を選択します。
[ポートディレクション]	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Inbound]: 着信コールのみに使用します。 • [Outbound]: 発信コールのみに使用します。 • [Both Ways]: 着信コールと発信コールに使用します。
[アテンダント DN]	着信コールをルーティングする先の番号を入力します (たとえば、ゼロ、または代表電話番号)。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。

表 69-13 グラウンド スタート ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定(Product Specific Configuration)] 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

E & M ポートの設定値

E & M (Ear and Mouth) ポートは、PBX トランク回線 (専用回線) の接続を可能にします。E & M は、2 線式、4 線式、および 6 線式の電話機とトランクのインターフェイス用のシグナリング技術です。

表 69-14 では、E & M ポートの設定値について説明します。

表 69-14 E & M ポートの設定値

フィールド	説明
[ポートタイプ]	[ポートタイプ] ドロップダウン リスト ボックスから、[EANDM] を選択します。
[開始ポート番号] [終了ポート番号]	<p>[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号] と [終了ポート番号] に適切な値を選択します。 1 つのポートを作成するには、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドに同じ番号を選択します。 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号] フィールドと [終了ポート番号] フィールドの両方に [All Ports] を選択します。
ポートの詳細	
[ポートディレクション]	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Inbound]: 着信コールのみに使用します。 [Outbound]: 発信コールのみに使用します。 [Both Ways]: 着信コールと発信コールに使用します。

表 69-14 E & M ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側の選択(Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Originator]: 発信側デバイスの電話番号を送信します。 [First Redirect Number]: 転送デバイスの電話番号を送信します。 [Last Redirect Number]: 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 [First Redirect Number (External)]: 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 [Last Redirect Number (External)]: 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。
[発信者 ID タイプ]	<p>発信者 ID のタイプとして次のどちらかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ANI]: このタイプは、発信者 ID のタイプとして Asynchronous Network Interface (ANI) を使用する場合に選択します。 [DNIS]: このタイプは、発信者 ID のタイプとして Dialed Number Identification Service (DNIS) を使用する場合に選択します。
[発信者 ID DN(Caller ID DN)]	<p>発信側の回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変の発信側の回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定の発信側の回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、まず、[数値桁] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
[数値桁]	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco Unified CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p> <p>このフィールドは、[有意な数字 (Significant Digits)] チェックボックスがオンである場合に使用します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN(Prefix DN)] および [有意な数字 (Significant Digits)] を参照してください。</p>
[期待文字]	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。</p>

表 69-14 E & M ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定(Product Specific Configuration)] 見出しの右にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

特定のゲートウェイの検索

ネットワーク内には無数のゲートウェイが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のゲートウェイを見つけることができます。固有のゲートウェイを特定するには、次のトピックを参照してください。

- デバイス名による検索 (P.69-72)
- 説明による検索 (P.69-73)
- 電話番号およびルートパターンによる検索 (P.69-74)
- コーリングサーチスペースによる検索 (P.69-75)
- デバイスプールによる検索 (P.69-77)
- ルートグループによる検索 (P.69-78)
- デバイスタイプによる検索 (P.69-79)



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ゲートウェイの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ゲートウェイの検索設定は保持されます。

デバイス名による検索

特定のゲートウェイのデバイス名がわかっている場合、または Cisco Unified CallManager に登録されているゲートウェイすべてのリストを表示する場合の手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス]>[ゲートウェイ]の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから[名前]を選択し、その後、次のいずれかの条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

ステップ 4 [検索]をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- デバイス アイコン
- [デバイス名 (Device Name)]

- [説明 (Description)] (該当する場合)
- [デバイスポール (Device Pool)] (該当する場合)
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、[選択項目のリセット] をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

説明による検索

Cisco Unified CallManager に登録されている特定のゲートウェイの [説明 (Description)] フィールドで使用されているキーワードがわかっている場合の手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから [説明] を選択し、その後、次のいずれかの条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- デバイス アイコン
- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)] (該当する場合)
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、[選択項目のリセット] をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話番号およびルート パターンによる検索

Cisco Unified CallManager に登録され、特定の内線番号または内線番号の範囲に割り当てられるゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから [DN/ ルートパターン] を選択し、次のいずれかの条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- デバイス アイコン
- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)] (該当する場合)
- [内線番号 (Ext.)]
- [パーティション (Partition)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

**ヒント**

検索結果の中で電話番号を検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。

**(注)**

ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、[選択項目のリセット] をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

コーリング サーチ スペースによる検索

コーリング サーチ スペースに割り当てられ、Cisco Unified CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから [コーリングサーチスペース] を選択し、その後、次のいずれかの条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]

- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント [検索] ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のコーリング サーチ スペースを選択して、検索できます。この操作によって、選択したコーリング サーチ スペースの名前が自動的に [検索] フィールドに追加されます。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- デバイス アイコン
- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)] (該当する場合)
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、[選択項目のリセット] をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デバイス プールによる検索

特定のデバイス プールに割り当てられ、Cisco Unified CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス]>[ゲートウェイ]の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから [デバイスプール] を選択し、その後、次のいずれかの条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント [検索] ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のデバイス プールを選択して、検索できます。この操作によって、選択したデバイス プールの名前が自動的に [検索] フィールドに追加されます。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- デバイス アイコン
- [デバイス名 (Device Name)]
- [説明 (Description)] (該当する場合)
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、[選択項目のリセット] をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-84 の「関連項目」を参照してください。

ルート グループによる検索

特定のルート グループに割り当てられ、Cisco Unified CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから [ルートグループ名] を選択し、その後、次のいずれかの条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント [検索] ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから、既存のルート グループを選択して、検索できます。この操作によって、選択したルート グループの名前が自動的に [検索] フィールドに追加されます。

ステップ 4 [検索] をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- デバイス アイコン
- [デバイス名 (Device Name)]

- [説明 (Description)] (該当する場合)
- [ルートグループ (Route Group)] (優先順位)
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにすると、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウから複数のゲートウェイを削除またはリセットできます。ゲートウェイを削除する場合は [選択項目の削除] を、ゲートウェイをリセットする場合は [選択項目のリセット] をクリックします。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できません。

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デバイス タイプによる検索

特定のゲートウェイのデバイス タイプがわかっている場合、または特別なデバイス タイプのゲートウェイをすべて表示する場合の手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから [デバイスタイプ] を選択し、次のいずれかの条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空ではない]
- [が空である]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント **[検索]** ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のデバイス タイプを選択して、検索できます。この操作によって、選択したデバイス タイプの名前が自動的に **[検索]** フィールドに追加されます。

ステップ 4 **[検索]** をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- デバイス アイコン
- **[デバイス名 (Device Name)]**
- **[説明 (Description)]** (該当する場合)
- **[デバイスタイプ (Device Type)]**
- **[ステータス (Status)]**
- **[IP アドレス (IP Address)]**



ヒント 検索結果の中で電話番号を検索するには、**[絞り込み]** チェックボックスをオンにし、前のステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**[選択項目の削除]** をクリックすると、**[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)]** ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**[選択項目のリセット]** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ゲートウェイとポートの変更

Cisco Unified CallManager を使用して、ゲートウェイ タイプに関係なく、同様に次のタスクを実行します。

- [依存関係レコードの使用法 \(P.69-81\)](#)
- [ゲートウェイの削除 \(P.69-81\)](#)
- [ゲートウェイのリセットと再起動 \(P.69-82\)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.69-83\)](#)

依存関係レコードの使用法

ゲートウェイとポートは、パーティション、デバイス プール、電話番号など、さまざまな設定情報を使用します。ゲートウェイやポートを更新または削除する場合は、[依存関係レコード] リンクを使用すると、事前にゲートウェイやポートに関する設定情報を検索できます。リンクにアクセスするには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。このリンクの詳細については、付録「[依存関係レコード](#)」を参照してください。

ゲートウェイの削除

Cisco Unified CallManager からゲートウェイを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

ルート グループで使用されているゲートウェイを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。ゲートウェイを使用しているルート グループを検索するには、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。現在使用されているゲートウェイを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループすべてに、別のゲートウェイを割り当てる。[P.32-7 の「ルート グループへのデバイスの追加」](#)を参照してください。
- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループを削除する。[P.32-9 の「ルート グループの削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

検索条件と一致し、検出されたゲートウェイのリストが表示されます。

ステップ 4 削除するゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [選択項目の削除] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 6 ゲートウェイを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



ヒント ウィンドウ内のゲートウェイをすべて削除するには、[すべてを選択] をクリックし、[選択項目の削除] をクリックします。

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ゲートウェイのリセットと再起動

Cisco Unified CallManager を使用してゲートウェイをリセットまたは再起動する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

検索条件と一致し、検出されたゲートウェイのリストが表示されます。

ステップ 4 リセットするゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [選択項目のリセット] をクリックします。

[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 次のいずれかの項目をクリックします。

- [リスタート]: デバイスをシャットダウンしないで再起動する。
- [リセット]: デバイスをシャットダウンしてから起動する。
- [閉じる]: 何の処理も実行せずに前のウィンドウに戻る。



(注) H.323 ゲートウェイの再起動やリセットは、ゲートウェイをハードウェア的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco Unified CallManager によってロードされた設定を初期化するだけです。H323 以外のタイプのゲートウェイをリセットすると、Cisco Unified CallManager が、そのゲートウェイを使用しているコールを自動的に終了します。H323 以外のタイプのゲートウェイを再起動すると、Cisco Unified CallManager が、そのゲートウェイを使用しているコールを保持しようとします。

追加情報

P.69-84 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ゲートウェイとポートの更新

Cisco Unified CallManager からゲートウェイの更新、またはゲートウェイ ポートの再設定を行う手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [ゲートウェイ] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

検出されたデバイスが表示されます。

ステップ 4 更新するゲートウェイの [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 適切なゲートウェイまたはポートの設定値を更新します (次のトピックを参照)。

ゲートウェイ ポートにアクセスするには、そのゲートウェイ ポートのアイコンをクリックするか、選択されたゲートウェイの設定ウィンドウの左側にある MGCP エンドポイントのリンクをクリックします。

- [MGCP ゲートウェイの設定値 \(P.69-17 \)](#)
- [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-19 \)](#)
- [Digital Access PRI ポートの設定値 \(P.69-24 \)](#)
- [デジタル アクセス T1 の設定値 \(P.69-45 \)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \(P.69-58 \)](#)
- [ポートの設定値 \(P.69-65 \)](#)

ステップ 6 [保存] をクリックします。

ステップ7 [リセット] をクリックし、ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

追加情報

P.69-84 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

すべてのゲートウェイ タイプ

- [Cisco Unified CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.69-2 \)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.69-17 \)](#)
- [特定のゲートウェイの検索 \(P.69-72 \)](#)
- [デバイス名による検索 \(P.69-72 \)](#)
- [説明による検索 \(P.69-73 \)](#)
- [電話番号およびルートパターンによる検索 \(P.69-74 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースによる検索 \(P.69-75 \)](#)
- [デバイス プールによる検索 \(P.69-77 \)](#)
- [ルート グループによる検索 \(P.69-78 \)](#)
- [デバイス タイプによる検索 \(P.69-79 \)](#)
- [依存関係レコードの使用方法 \(P.69-81 \)](#)
- [ゲートウェイとポートの変更 \(P.69-81 \)](#)
- [ゲートウェイの削除 \(P.69-81 \)](#)
- [ゲートウェイのリセットと再起動 \(P.69-82 \)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.69-83 \)](#)

IOS MGCP ゲートウェイ

- [Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 \(P.69-3 \)](#)
- [MGCP ゲートウェイの設定値 \(P.69-17 \)](#)
- [ポートの設定値 \(P.69-65 \)](#)
- 『*Cisco Unified CallManager システム ガイド*』の「ゲートウェイの設定チェックリスト」

SCCP ゲートウェイ

- [Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加 \(P.69-10 \)](#)
- [Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 \(P.69-62 \)](#)

IOS 以外の MGCP ゲートウェイ

- [IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 \(P.69-11 \)](#)

H.323 ゲートウェイ

- [Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加 \(P.69-13 \)](#)
- [H.323 ゲートウェイの設定値 \(P.69-49 \)](#)

Analog Access ゲートウェイ

- [Analog Access ゲートウェイとポートの追加 \(P.69-13 \)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \(P.69-58 \)](#)
- [Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加 \(P.69-15 \)](#)
- [Cisco VG248 Gateway の設定値 \(P.69-61 \)](#)
- 『Cisco VG248 Analog Phone Gateway ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド』

BRI ゲートウェイ

- [BRI ゲートウェイの設定値 \(P.69-37 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「MGCP BRI コール接続」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「MGCP BRI ゲートウェイの設定チェックリスト」

ポート

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \(P.69-5 \)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 \(P.69-7 \)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access T1 ポートの追加 \(P.69-8 \)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの Digital Access PRI デバイスの追加 \(P.69-9 \)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 \(P.69-9 \)](#)
- [FXS/FXO ポートの設定値 \(P.69-19 \)](#)
- [Digital Access PRI ポートの設定値 \(P.69-24 \)](#)
- [デジタル アクセス T1 の設定値 \(P.69-45 \)](#)
- [POTS ポートの設定値 \(P.69-65 \)](#)
- [ループ スタート ポートの設定値 \(P.69-67 \)](#)
- [グラウンド スタート ポートの設定値 \(P.69-68 \)](#)
- [E & M ポートの設定値 \(P.69-69 \)](#)

電話機と電話番号

- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-1 \)](#)
- [電話機の設定値 \(P.70-7 \)](#)
- [電話番号の設定 \(P.48-1 \)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.48-8 \)](#)



Cisco Unified IP Phone の設定

Cisco Unified IP Phone は、多くの機能を備えた電話機であり、IP ネットワークに直接接続できます。[Cisco Unified CallManager の管理] の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、次の Cisco Unified IP Phone およびデバイスを設定することができます。

- SCCP および SIP プロトコルの両方に対応する Cisco Unified IP Phone 7900 ファミリ
- Cisco IP Video Phone 7985
- Cisco IP Phone モデル 30 VIP
- Cisco IP Phone モデル 12 S
- Cisco IP Phone モデル 12 SP
- Cisco IP Phone モデル 12 SP+
- Cisco IP Phone モデル 30 SP+
- H.323 クライアント
- Computer Telephony Integration (CTI) ポート
- Cisco IP Communicator
- Cisco Unified Personal Communicator
- Cisco ATA 186 電話アダプタ
- サードパーティ製 SIP デバイス (基本および拡張)
- IP-STE
- Cisco VG248 ポート (アナログ電話機)



(注) 管理者は、Cisco VG248 ゲートウェイの設定を [Cisco Unified CallManager の管理] の [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから実行します。このウィンドウから、ゲートウェイ アナログ電話ポートを設定します (この設定では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます)。VG248 ポートを更新する場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用します。次の手順は、この電話機タイプの更新または削除に適用されます。Cisco VG248 Gateway の設定情報については、[P.69-1 の「ゲートウェイの設定」](#)を参照してください。

[Cisco Unified CallManager の管理] に Cisco Unified IP Phone を追加すると、RIS Data Collector サービスからの情報が [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco Unified CallManager の名前が利用可能であれば、表示されます。

次のトピックでは、Cisco Unified CallManager の管理ページにおける Cisco Unified IP Phone に関する作業と設定について説明しています。

- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-3 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.69-1 \)](#)
- [電話機の検索 \(P.70-33 \)](#)
- [電話番号の設定の概要 \(P.48-1 \)](#)
- [電話ボタン テンプレートの設定 \(P.76-1 \)](#)
- [電話機の設定値 \(P.70-7 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

追加情報

P.70-35 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified IP Phone の設定

Cisco Unified CallManager データベースに電話機を追加するには、自動登録を使用して自動的に行うか、または [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して手作業で行います。

自動登録を使用可能にすると、IP テレフォニー ネットワークに Cisco Unified IP Phone を接続するときに、その IP Phone を Cisco Unified CallManager データベースに自動的に追加できます。自動登録時に、Cisco Unified CallManager は、次に使用可能な電話番号を順に電話機に割り当てます。しかし、自動登録を使用しない場合もあります。たとえば、特定の電話番号を電話機に割り当てる場合です。



(注) 自動登録は、小規模の設定や試験運用に限定して使用することをお勧めします。

クラスタ全体のセキュリティ モードを混合モードに設定すると、Cisco Unified CallManager が自動登録を使用不可にします。

自動登録を使用しない場合は、手作業で Cisco Unified CallManager データベースに電話機を追加する必要があります。

Cisco Unified IP Phone を [Cisco Unified CallManager の管理] に追加すると、RIS Data Collector サービスによって、デバイス名、登録状況、およびその電話機が登録された Cisco Unified CallManager の IP アドレスが [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示されます。

Cisco Unified IP Phone を使用する前に、次の手順に従って、その電話機を Cisco Unified CallManager に追加する必要があります。また、この手順に従って、サードパーティ製 SIP 電話機、H.323 クライアント、CTI ポート、Cisco ATA 186 電話アダプタ、または Cisco IP Communicator を設定することもできます。H.323 クライアントの代わりに、Microsoft NetMeeting クライアントも使用できます。CTI ポートは、Cisco Unified CallManager アプリケーション、たとえば、Cisco SoftPhone や Cisco Unified CallManager AutoAttendant が使用する仮想デバイスを示します。



(注) Cisco VG248 電話ポートは、[Cisco Unified CallManager の管理] の [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから追加されます。設定については、P.69-1 の「ゲートウェイの設定」を参照してください。



ワンポイント・アドバイス

電話ボタンおよびソフトキーの非標準テンプレートを使用する場合は、そのテンプレートを設定した後に電話機を追加する必要があります。設定については、P.76-3 の「電話ボタン テンプレートの設定」および P.77-4 の「非標準ソフトキー テンプレートの追加」を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。



(注) MAC アドレスの入手については、P.70-5 の「電話機の MAC アドレスの表示」を参照してください。

- 既存の電話機をコピーするには、該当する電話機を見つけます (P.70-33 の「電話機の検索」を参照)。次に、コピーする電話機の横にある [コピー] ボタンをクリックし、**ステップ 5** に進みます。
- 既存の電話機をコピーし、電話機に関連付けられた電話番号、短縮ダイヤル、ビジー ランプ フィールド / 短縮ダイヤル、およびサービス URL をコピーするには、該当する電話機を見つけます (P.70-33 の「電話機の検索」を参照)。次に、コピーする電話機の横にある [回線を含めたコピー] ボタンをクリックし、**ステップ 5** に進みます。



(注) コピーされた回線は、元の電話機と新しい電話機間の共有回線になります。

- 新しい電話機を追加するには、[新規追加] ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存の電話機を更新するには、該当する電話機を見つけます (P.70-33 の「電話機の検索」を参照)。次に、**ステップ 5** に進みます。

ステップ 3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、適切な電話機タイプまたはデバイスを選択し、[次へ] をクリックします。電話機タイプの選択後にそのタイプを変更することはできません。

ステップ 4 [デバイスプロトコルの選択 (Select the device protocol)] ドロップダウン リスト ボックスが表示された場合は、デバイスの適切なプロトコルを選択し、[次へ] をクリックします。表示されない場合は、**ステップ 5** に進んでください。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 適切な設定値を入力します (表 70-1 を参照)。

選択された電話機タイプに該当する設定値だけが、ウィンドウに表示されます。

ステップ 6 [保存] をクリックします。

電話機を追加する場合は、電話機がデータベースに追加されたことを知らせるメッセージが表示されます。この電話機に電話番号を追加するには、ウィンドウの左側に表示される [割り当て情報 (Association Information)] ペインで、[回線 [1] - 新規 DN を追加] など、回線リンクのいずれかをクリックします。P.48-8 の「電話番号の設定値」に進みます。

電話機を更新する場合は、変更内容を有効にするには [リセット] ボタンをクリックする必要がありますことを示すメッセージが表示されます。[リセット] ボタンの詳細については、P.70-5 の「電話機のリセット」を参照してください。

次の手順

この電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定するには、P.70-26 の「[短縮ダイヤル ボタンの設定](#)」を参照してください。この電話機にサービスを設定するには、P.70-27 の「[Cisco Unified IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。この電話機にサービス URL ボタンを設定するには、P.78-10 の「[Cisco Unified IP Phone サービスの電話ボタンへの追加](#)」を参照してください。この電話機のビジーランプ フィールド / 短縮ダイヤルの設定値を設定するには、P.70-27 の「[BLF/ 短縮ダイヤルの設定値](#)」を参照してください。

追加情報

H.323 クライアント、CTI ポート、および他のデバイスと共に、電話機を Cisco Unified CallManager の管理ページで設定する方法については、P.70-35 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機の MAC アドレスの表示

Media Access Control (MAC; メディア アクセス制御) アドレスは、Cisco Unified IP Phone またはその他のハードウェア デバイスを識別する固有の 12 桁の 16 進数から構成されています。電話機の底に貼ってあるラベルに、この番号が記載されています (たとえば、Cisco Unified IP Phone 7900 ファミリー モデルの場合は 000B6A409C405、Cisco IP Phone モデル SP 12+ および 30 VIP の場合は SS-00-0B-64-09-C4-05)。Cisco Unified CallManager では、MAC アドレスは、Cisco Unified IP Phone デバイス設定の必須フィールドです。Cisco Unified CallManager フィールドに MAC アドレスを入力するときは、スペースとダッシュを使用しないでください。また、ラベル上の MAC アドレスの前にある「SS」は入力しないでください。

Cisco Unified IP Phone の MAC アドレスやその他の設定値を表示する方法の詳細については、該当の電話機モデルの『*Cisco Unified IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco Unified CallManager*』を参照してください。Cisco IP Phone モデル 12 シリーズ、および Cisco IP Phone モデル 30 シリーズまたは Cisco VG248 Gateway の MAC アドレスを表示するには、次の作業を実行します。

- Cisco IP Phone モデル 12 SP + および 30 VIP : ** を押して、LCD ディスプレイの 2 行目に MAC アドレスを表示する。
- Cisco VG248 電話ポート : MAC アドレスは、[Cisco Unified CallManager の管理] の [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウからエンドポイントを指定する。設定については、P.69-1 の「[ゲートウェイの設定](#)」を参照してください。
- Cisco IP Communicator : Cisco IP Communicator アプリケーションをインストールするクライアント PC のネットワーク インターフェイスから MAC アドレスを取得する。

追加情報

P.70-35 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機のリセット

電話番号の追加、または設定値の更新を行った後、変更内容を有効にするために、Cisco Unified IP Phone をリセットする必要はありません。Cisco Unified CallManager が自動的にリセットを実行します。ただし、次の手順に従えば、いつでも Cisco Unified IP Phone をリセットできます。



(注) コールが進行中の場合は、そのコールが終了した後に電話機がリセットされます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 リセットする電話機の横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の電話機をすべて選択するには、[すべてを選択] をクリックします。

ステップ 4 [選択項目のリセット] をクリックします。

[デバイスリセット (Device Reset)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 次のいずれかのボタンをクリックします。

- [リスタート]: 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動する (Cisco Unified CallManager に電話機を再登録する)
- [リセット]: 選択されたデバイスをシャットダウンした後、再度立ち上げる (電話機の完全なシャットダウンと再初期化を実行する)
- [閉じる]: 選択されたデバイスの再起動やリセットを実行せずに、前のウィンドウに戻る。

追加情報

P.70-35 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話機の削除

Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して Cisco Unified IP Phone を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話機を削除する前に、その電話機に関連付けられた電話番号を削除する必要があるかどうかを決定します。電話機を削除する前に電話番号を削除するには、P.48-5 の「[電話機からの電話番号の削除](#)」を参照してください。電話機を削除する前に電話番号を削除しない場合は、電話機が削除された後も、電話番号は Cisco Unified CallManager データベースに保持されます。データベースから電話番号を削除するには、P.50-4 の「[割り当てられていない電話番号の削除](#)」を参照してください。

電話機に割り当てられている電話番号は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] 領域で確認できます。または、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択して確認することもできます。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除する電話機の横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックする。
- ウィンドウ内の電話機をすべて削除するには、[すべてを選択] をクリックし、[選択項目の削除] をクリックする。
- 削除する電話機の名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、[削除] をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

追加情報

P.70-35 の「関連項目」を参照してください。

電話機の設定値

表 70-1 では、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順については、P.70-35 の「関連項目」を参照してください。



(注)

[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションには、電話機のメーカーによって指定されたモデル固有のフィールドが含まれています。Cisco Unified CallManager は、これらのフィールドにデフォルト値を動的に取り込みます。

フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域にある「？」疑問符アイコンをクリックします。ポップアップ ウィンドウにヘルプが表示されます。

詳細な情報が必要な場合は、設定する個々の電話機の資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

表 70-1 電話機の設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[MAC アドレス (MAC Address)]	<p>Cisco Unified IP Phone (ハードウェア電話機のみ) を識別するメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。この値が 12 桁の 16 進文字から構成されていることを確認してください。</p> <p>ご使用の電話機の MAC アドレスにアクセスする方法については、該当の電話機モデルの『Cisco Unified IP Phone アドミニストレーションガイド for Cisco Unified CallManager』を参照してください。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway</p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイの MAC アドレスは、[Cisco Unified CallManager の管理]の[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウからエンドポイントを指定します。設定については、P.69-1 の「ゲートウェイの設定」を参照してください。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway には、MAC アドレスが 1 つしかありません。48 個のすべてのポートが、同じ MAC アドレスを共有します。Cisco Unified CallManager には、すべてのデバイスに固有の MAC アドレスが必要です。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、各デバイスの MAC アドレスを次のように変換します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MAC アドレスの先頭 2 桁を除去します。 • MAC アドレスを左に 2 桁シフトします。 • MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号を追加します。 <p>EXAMPLE MAC Address for the Cisco VG248 is 000039A44218 the MAC address for registered port 12 in the Cisco Unified CallManager is 0039A4421812</p>
[デバイス名 (Device Name)]	ソフトウェアベースの電話機、H.323 クライアント、および CTI ポートを識別する名前を入力します。この値には、1 ~ 15 文字 (英数字、ドット、ダッシュ、または下線を含む) を指定できます。
[説明 (Description)]	<p>デバイスの目的を指定します。このフィールドには、ユーザ名 (たとえば「John Smith」) または電話機のロケーション (たとえば「Lobby」) を入力できます。</p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイでは、VGC<mac address> でこの記述が開始されます。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	この電話機を割り当てるデバイス プールを選択します。デバイス プールでは、地域、日付 / 時間グループ、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報など、デバイスに共通する一連の特性を定義します。

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	<p>適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、電話機上のボタンの設定を決定し、各ボタンに使用される機能 (回線、短縮ダイヤルなど) を指定します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、H.323 クライアントと CTI ポートに対しては、このフィールドを使用不可にします。</p>
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	<p>適切なソフトキー テンプレートを選択します。ソフトキー テンプレートは、Cisco Unified IP Phone におけるソフトキーの設定を決定します。割り当て済みのソフトキー テンプレートがデバイス プールに含まれている場合、このフィールドは空白のままにします。</p>
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、使用可能な共通の電話機プロファイルのリストから、共通の電話機プロファイルを選択します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、ダイヤルされた番号のルート指定方法を決定するために検索されるパーティションの集合から構成されます。デバイスのコーリングサーチスペースと電話番号のコーリングサーチスペースは併用されます。電話番号の CSS はデバイスの CSS に優先します。詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「パーティションおよびコーリングサーチスペース」を参照してください。</p> <p>電話機のコーリングサーチスペースの設定情報については、P.48-30 の「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」を参照してください。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>電話機のコーリングサーチスペースの設定情報については、P.48-30 の「[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]」を参照してください。</p>
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>適切なメディアリソースグループリストを選択します。メディアリソースグループリストは、優先順位順に並べられたメディアリソースグループから構成されます。アプリケーションは、メディアリソースグループリストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースの中から、必要なメディアリソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p> <p>[<None>] を選択すると、Cisco Unified CallManager は、デバイスプールに定義されているメディアリソースグループリストを使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「メディアリソースの管理」を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)



フィールド	説明
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	<p>ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco Unified CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p> (注) オーディオソースの定義は、[Music On Hold オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。アクセスするには、[メディアリソース] > [Music On Hold オーディオソース] の順に選択します。</p>
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	<p>ネットワークが保留動作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco Unified CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p> (注) オーディオソースの定義は、[Music On Hold オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。アクセスするには、[メディアリソース] > [Music On Hold オーディオソース] の順に選択します。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>この Cisco Unified IP Phone に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを [Hub_None] に設定すると、そのロケーションの機能では、この Cisco Unified IP Phone が消費する帯域幅を把握しません。</p>

表 70-1 電話機の設定値（続き）





フィールド	説明
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機ユーザ インターフェイスに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してのみ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p> (注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco Unified CallManager はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。</p> <p> (注) 英語以外の言語で情報を（電話機に）表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。Cisco Unified CallManager Locale Installer の資料を参照してください。</p>
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話に関連したロケールを選択します。ネットワーク ロケールには、特定の地域で電話機が使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してのみ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p> (注) ネットワーク ロケールが指定されない場合、Cisco Unified CallManager はデバイス プールに関連付けられているネットワーク ロケールを使用します。</p> <p> (注) ユーザが国別のトーンを（電話機で）再生する必要がある場合は、ネットワーク ロケールを設定する前に、ロケールがインストールされていることを確認します。Cisco Unified CallManager Locale Installer の資料を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)



フィールド	説明
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	<p>[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウン リスト ボックスを使用することにより、割り込み機能の組み込み Conference Bridge を使用可能または使用不可にします ([On], [Off], または [Default] を選択する)。</p> <p> (注) Cisco Unified IP Phone モデル 7940 および 7960 では、2 つのメディア ストリーム暗号化または SRTP ストリームを同時にサポートすることはできません。この条件によって動作が不安定にならないよう、システムでは、デバイス セキュリティ モードが [Encrypted] に設定されたときは、モデル 7940 および 7960 の組み込みブリッジを自動的に使用不可にします。</p> <p>設定の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。また、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』も参照してください。</p>
[プライバシー (Privacy)]	<p>プライバシーを必要とする各電話機について、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスで [On] を選択します。設定の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
[シグナリングポート (Signaling Port)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートの値を指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。</p>
[Video Capabilities Enabled/disabled]	<p>ビデオ機能のオンとオフを切り替えます。</p>
[オーナーのユーザ ID (Owner User ID)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この電話機が割り当てられているユーザのユーザ ID を選択します。ユーザ ID は、このデバイスから発信されるコールの Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) に記録されます。</p> <p> (注) エクステンション モビリティを使用する場合、このフィールドは設定しないでください。エクステンション モビリティは、デバイス オーナーをサポートしません。</p>
[ファーエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスでは、Cisco Unified CallManager が遠端 H.245 Terminal Capability Set を受信した後に、その H.245 Terminal Capability Set を送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco Unified CallManager がケイパビリティ交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	<p>Cisco Unified IP Phone 用のカスタム ソフトウェアを入力します。</p> <p>このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。詳細については、P.72-1 の「デバイス デフォルトの設定」を参照してください。</p> <p>Cisco Unified IP Phone ソフトウェアおよび設定の詳細については、該当の電話機モデルの『<i>Cisco Unified IP Phone アドミニストレーションガイド for Cisco Unified CallManager 5.0</i>』を参照してください。</p>
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントのみに適用されます。この電話機が、ビデオとして接続しないコールを受信すると、そのコールはオーディオ コールとして接続しようとしています。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) およびルート / ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	<p>コールごとにコール表示制限を設定するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified CallManager は内部コールが受信するすべての表示制限を無視します。</p> <p>この設定は、変換パターンレベルで発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示の設定を組み合わせて使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。</p> <p>発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示のパラメータの詳細については、P.45-5 の「変換パターンの設定値」の表 45-1 を参照してください。</p> <p>コール表示制限の詳細については、『<i>Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド</i>』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。</p>
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>CTI からこのデバイスを制御および監視できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>関連付けられた電話番号が共有回線を指定している場合、関連付けられたデバイスの少なくとも 1 つが、CTI でサポートされるデバイス タイプおよびプロトコルの組み合わせを指定しているときは、チェックボックスがオンにする必要があります。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [None]: このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングが完了したら、この値に設定してください。 • [Batch Processing Mode]: Cisco Unified CallManager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco Unified CallManager は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco Unified CallManager はファイルを PktCap 仮想ディレクトリに保存します。単一のファイルには、タイム スタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。TAC デバッグ ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。 <p>パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco Unified CallManager トラブルシューティングガイド』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p>パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco Unified CallManager トラブルシューティングガイド』を参照してください。</p>
[SRTP を許可]	<p>このチェックボックスの説明に従い、このフラグをオンにする場合は、ネットワークに IPsec を設定して、エンドツーエンドのセキュリティを確保する必要があります。この設定を行わないと、鍵やその他の情報が暴露されます。</p> <p>SRTP 暗号化の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値（続き）


フィールド	説明
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、エンド ユーザ用のプレゼンスグループを選択します。選択されたグループでは、この電話番号を監視できるデバイス、エンドユーザ、およびアプリケーション ユーザが指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された [Standard Presence group] です。Cisco Unified CallManager の管理ページで設定されたプレゼンス グループモードドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定、およびプレゼンスをエクステンション モビリティと連携させる方法については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	<p>デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。</p> <p>セキュリティ プロファイルは、Cisco Unified CallManager の管理ページで設定したすべての電話機に適用する必要があります。Cisco Unified CallManager をインストールすると、あらかじめ定義されたノンセキュアなセキュリティ プロファイルのセットが自動登録用に提供されます。電話機のセキュリティ機能を使用可能にするには、デバイス タイプとプロトコルに対応した新しいセキュリティ プロファイルを設定して電話機に適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、ノンセキュア プロファイルを選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている設定値を確認するには、[システム] > [セキュリティプロファイル] > [電話セキュリティプロファイル] の順に選択します。</p>
	<p> (注) プロファイルに含まれている CAPF 設定値は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示される [CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] 設定値に関連しています。製造元でインストールされる証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) が関与する証明書操作の CAPF 設定値を設定する必要があります。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで更新した CAPF 設定値がセキュリティ プロファイルの CAPF 設定値に与える影響の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)]	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイアル規則を選択します。SIP ダイアル規則により、Cisco SIP IP Phone モデル 7905、7912、7940、および 7960 ではローカルのダイアルプランを使用できます。そのため、ユーザは、コール処理の前にキーを押す必要も、タイマーを待つ必要もありません。</p> <p>SIP IP Phone にダイアル規則を適用しない場合は、[SIP ダイアルルール (SIP Dial Rules)] フィールドの設定を [<None>] のままにします。この設定は、コール処理の前にユーザが [ダイアル] ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるまで待つ必要があることを意味します。</p>
[MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP コールにメディアターミネーションポイントが必要となる場合に使用するコーデックを選択します。</p>
[コーリングサーチスペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、再ルーティングに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>参照先へのルートを検索するときは、Referrer の再ルーティングコーリングサーチスペースが使用されます。再ルーティングコーリングサーチスペースが原因で Refer が失敗した場合、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」メッセージを使用して要求を拒否します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能でも、リダイレクト先または転送先を検索するときに、再ルーティングコーリングサーチスペースが使用されます。</p>
[アウトオブダイアログ REFER コーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、out-of-dialog Refer コーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、out-of-dialog (OOD) Refer Authorization コーリングサーチスペース (CSS) を使用して、SIP out-of-dialog Refer を許可します。管理者は、Referrer の OOD CSS を設定することで、out-of-dialog Refer の使用を制限できます。Refer Primitive は、「403 Forbidden」メッセージを使用して OOD Refer 要求を拒否します。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリング サーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、電話機からのプレゼンス要求を Cisco Unified CallManager がルーティングする方法を決定します。この設定を使用すると、電話機のプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に、コール処理 サーチ スペースとは別のコーリング サーチ スペースを適用できません。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機のプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。[Cisco Unified CallManager の管理] で設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウン リストからエンドユーザ用の別のコーリング サーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、デフォルトで [None] に設定されます。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースと同じようにコーリング サーチ スペースを設定します。コーリング サーチ スペースの設定方法については、P.42-1 の「コーリング サーチ スペースの設定」を参照してください。</p>
[SIP プロファイル (SIP Profile)]	<p>デフォルト SIP プロファイルまたは以前作成された特定のプロファイルを選択します。SIP プロファイルには、登録タイマーとキープアライブ タイマー、メディア ポート、および Do Not Disturb 制御など、電話機に関する特定の SIP 情報が含まれています。</p>
[ダイジェストユーザ (Digest User)]	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用されるため、電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択したユーザのダイジェスト資格情報を設定したことを確認します ([エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウを参照)。</p> <p>電話機の設定を保存し、電話機をリセットすると、ユーザのダイジェスト資格情報が電話機の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) をインプリメントするために、メディアターミネーションポイントを使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能をインプリメントするために MTP を使用する場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。機能をインプリメントするときに MTP を使用しない場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスにのみ使用してください。または、メディアストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオコールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオになります。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)]	SIP および SCCP 電話機の場合、この電話機に DTMF 受信が必要なときは、このチェックボックスをオンにします。
[RFC2833 が無効 (RFC2833 Disabled)]	SCCP 電話機の場合、RFC2833 サポートを使用不可にするときは、このチェックボックスをオンにします。
[CAPF 情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)]	
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [No Pending Operation]: 認証操作が行われない時間を表示します (デフォルト設定)。 [Install/Upgrade]: 電話機にローカルで存在している有効な証明書を新規にインストールまたは更新します。 [Delete]: 電話機にローカルで存在している有効な証明書を削除します。 [Troubleshoot]: ローカルで有効な証明書 (LSC) または製造元でインストールされる証明書 (MIC) を元に戻して、CAPF トレース ファイルの認証証明書を表示できるようにします。いずれの証明書タイプも電話機に存在する場合、Cisco Unified CallManager は各証明書タイプに 1 つずつ、合計 2 つのトレース ファイルを作成します。 <p>[Troubleshoot] オプションを選択すると、電話機に存在する LSC または MIC を確認できます。</p> <p>CAPF 操作の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[認証文字列 (Authentication String)]	[認証モード (Authentication Mode)] ドロップダウン リスト ボックスで [By Authentication String] オプションを選択した場合、このフィールドが適用されます。手動で文字列を入力、または [文字列を生成] ボタンをクリックすると文字列が生成されます。文字列が 4 ~ 10 桁であることを確認してください。 ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が電話機に認証文字列を入力する必要があります。
[操作の完了 (Operation Completes By)]	このフィールドは [証明書の操作 (Certificate Operation)] の [Install/Upgrade]、[Delete]、および [Troubleshoot] オプションをサポートし、操作を完了させる日付および時刻を指定します。 表示される値はパブリッシャ データベース サーバ用です。
[証明書の操作ステータス (Certificate Operation Status)]	このフィールドは、認証操作の進行状況を表示します。たとえば、「< 操作タイプ > pending」、「failed」、または「successful」です。ここで、操作タイプは [証明書の操作 (Certificate Operation)] の [Install/Upgrade]、[Delete]、または [Troubleshoot] オプションを表示します。このフィールドに表示される情報は変更できません。
[拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)]	
[モジュール 1 (Module 1)]	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
[モジュール 1 ロード名 (Module 1 Load Name)]	適切な拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。
[モジュール 2 (Module 2)]	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
[モジュール 2 ロード名 (Module 2 Load Name)]	2 番目の拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。
[外部データ位置情報 (External Data Locations Information、デフォルトを使用する場合は空白)]	
[情報 (Information)]	Information (<i>i</i>) ボタンのヘルプ テキストのロケーション (URL) を入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。
[ディレクトリ (Directory)]	電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバを入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。
[メッセージ (Messages)]	このフィールドは空白のままにします (Cisco Unified CallManager では使用されません)。
[サービス (Services)]	Cisco Unified IP Phone サービスのロケーション (URL) を入力します。

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[認証サーバ (Authentication Server)]	<p>電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone 上の拡張機能は動作しません。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された [Cisco Unified IP Phone User Options] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[プロキシサーバ (Proxy Server)]	<p>電話機の HTTP クライアントから、ローカル以外のホストアドレスにアクセスする HTTP 要求を代理処理するのに使用されるホストとポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>プロキシ サーバパラメータを使用する場合を示す規則としては、次の 2 つがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ホスト名に「.」が含まれている。 2. ホスト名が何らかの形式の IP アドレスである。 <p>この URL を設定しない場合、電話機は URL に直接接続を試みます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[アイドル (Idle)]	<p>[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)] フィールドで指定された時間の間、Cisco Unified IP Phone が使用されなかった場合に、その電話機のディスプレイに表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[アイドルタイマー (Idle Timer、秒)]	<p>アイドル状態を許容する時間 (秒数) を入力します。この時間が経過すると、[アイドル (Idle)] フィールドで指定された URL が表示されます。</p> <p>Idle URL Timer エンタープライズパラメータの値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[内線情報 (Extension Information)]	
[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]	<p>この電話機でエクステンション モビリティをサポートする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
[ログアウトプロファイル (Log Out Profile)]	<p>このフィールドは、Cisco エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインしているユーザがいない場合にデバイスが使用するデバイス プロファイルを指定します。ドロップダウン リストボックスから、オプションを選択します。オプションには、[現在のデバイス設定を使用] と [ユーザデバイスプロファイルを選択] があります。[ユーザデバイスプロファイルを選択] を選択すると、すでに設定されているユーザ デバイス プロファイルを選択するための設定ウィンドウが表示されます。</p>
[ログインユーザ ID(Login in User ID)]	<p>このフィールドは、ユーザがログインするまで空白のままです。ユーザが Cisco エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、ユーザ ID がこのフィールドに表示されます。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[ログイン時刻 (Log in Time)]	このフィールドは、ユーザがログインするまで空白のままです。ユーザが Cisco エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、ユーザのログイン時刻がこのフィールドに表示されます。
[ログアウト時刻 (Log out Time)]	このフィールドは、ユーザがログインするまで空白のままです。ユーザが Cisco エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、システムがユーザをログアウトする予定時刻がこのフィールドに表示されます。
[設定ファイル暗号化対称キー情報 (Configuration File Encryption Symmetric Key Information)]	
[対称キー (Symmetric Key)]	<p>対称キーに使用する 16 進文字の文字列を入力します。有効な文字には、数字の 0 ~ 9、および大文字 / 小文字の A ~ F (または a ~ f) があります。</p> <p>鍵サイズに適したビットを入力したことを確認します。ビットが不適切な場合、Cisco Unified CallManager は値を拒否します。Cisco Unified CallManager は、次の鍵サイズをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified IP Phone モデル 7905 および 7912 (SIP プロトコルのみ): 256 ビット • Cisco Unified IP Phone モデル 7940 および 7960 (SIP プロトコルのみ): 128 ビット <p>この文字列が使用されるのは 1 回のみです。設定値を更新するたびに、新しい鍵を生成してから電話機をリセットする必要があります。</p> <p>暗号化された設定ファイルのダウンロードに関する対称キーの操作の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[文字列を生成]	[Cisco Unified CallManager の管理] で 16 進文字を生成させる場合は、 [文字列を生成] ボタンをクリックします。
[データベース値を復元]	データベースに存在する値を復元する場合は、このボタンをクリックします。このボタンは、[対称キー (Symmetric Key)] フィールドに不適切な値を入力してから設定を保存した場合に役立ちます。
[H.323 情報 (H.323 Information)]	
[発信者 ID パターン (Outgoing Caller ID Pattern)]	H.323 クライアントへの発信コールの発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。
[発呼側の選択 (Calling Party Selection)]	<p>H.323 クライアントへの発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Originator]: 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number]: 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number]: 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number (External)]: リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number (External)]: コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。

表 70-1 電話機の設定値 (続き)



フィールド	説明
[発呼側のプレゼンテーション (Calling Party Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager が発信者 ID を送信するようにする場合は、[Allowed] を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager が発信者 ID を送信しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>[Default] では、発信者 ID を送信しないことが指定されます。</p>
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	<p>発信側と着信側のネーム デリバリー サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element (IE; 情報要素) のデリバリーを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。</p>
[番号 IE 配信アウトバウンドのリダイレクト (Redirecting Number IE Delivery Outbound)]	<p>コールが転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified CallManager からの送信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。</p>
[番号 IE 配信インバウンドのリダイレクト (Redirecting Number IE Delivery Inbound)]	<p>Cisco Unified CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Cisco Unified CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。</p>
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]	
[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]	<p>このフィールドには、H.323 クライアントを制御するゲートキーパーの名前を指定します。H.323 クライアントにより設定にゲートキーパーが指定される前に、ゲートキーパーが Cisco Unified CallManager で設定されていることを確認してください。デフォルトは空白です。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)



フィールド	説明
E.164	常に固有の E.164 番号を使用します。ヌル値は使用しないでください。
[テクノロジープリフィックス (Technology Prefix)]	このフィールドには、ゾーンでエンドポイントの機能を表す # 記号で終わる番号を指定します。「ゾーン (Zone)」経由の設定を使用できる場合、このフィールドは影響力を持ちません。デフォルト値は 1#* です。ヌル値は使用しないでください。
[ゾーン (Zone)]	このフィールドには、ゲートキーパーが管理するゾーンのゾーン名を指定します。H.323 クライアントおよびトランクに同じゾーン名を使用しないでください。また、ヌル値は使用しないでください。
[Gatekeeper Controlled H.323 Client]	H.323 クライアントのゲートキーパー制御を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。
[MLPP 情報 (MLPP Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインのドロップダウン リスト ボックスから MLPP ドメインを選択します。値を [None] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、その [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [Off]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [On]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p> <p> (注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の [呼出音設定] が動作しません。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)


フィールド	説明
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、その [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [Disabled]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • [Forceful]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザ (Secure Shell User)]	<p>セキュア シェル ユーザのユーザ ID を入力します。このフィールドは、設定している電話機が SSH アクセスをサポートしている場合に表示されます。</p> <p>Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングやデバッグを行うときにセキュア シェルを使用します。詳細については、TAC に問い合わせてください。</p>
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	<p>セキュア シェル ユーザのパスワードを入力します。詳細については、TAC に問い合わせてください。</p>
[割り当て情報 (Association Information)]	
[ボタン項目を変更]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されます。</p> <p>この電話機に対するボタンの関連付けを管理するには、このボタンをクリックします。ダイアログボックスが表示され、電話機に対する未保存の変更はすべて失われる可能性があることが警告されます。電話機に対する変更をすべて保存した場合は、[OK] をクリックして続行します。この電話機用の [電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、P.70-31 の「電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更」を参照してください。</p>

表 70-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
[回線 1] 新規 DN を追加] [回線 2] 新規 DN を追加]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されません。</p> <p>この電話機に関連付ける電話番号 (複数可) を追加するには、これらのリンクをクリックします。いずれかのリンクをクリックすると、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、P.48-3 の「電話番号の設定」を参照してください。</p>
[新規 SD を追加]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されません。</p> <p>この電話機の短縮ダイヤル設定を追加するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、P.70-26 の「短縮ダイヤル ボタンの設定」を参照してください。</p>
[新規 SURL を追加]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されません。</p> <p>この電話機のサービス URL ボタンを設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [サービス URL ボタンの設定 (Configure Service URL Buttons for)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細な手順については、P.70-30 の「サービス URL ボタンの設定」を参照してください。</p>
[新規 BLF SD を追加]	<p>電話機を追加すると、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの左側に [割り当て情報 (Association Information)] 領域が表示されません。</p> <p>この電話機のビジー ランプ フィールド / 短縮ダイヤル設定を設定するには、このリンクをクリックします。リンクをクリックすると、この電話機用の [ビジーランプフィールドの設定 (Busy Lamp Field Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>詳細については、P.70-27 の「BLF/短縮ダイヤルの設定値」を参照してください。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]	
(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

短縮ダイヤル ボタンの設定

ユーザに短縮ダイヤル ボタンを提供する場合、または短縮ダイヤル ボタンが特定のユーザに割り当てられていない電話機を設定する場合は、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して、電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定します。ユーザは、[Cisco Unified IP Phone User Options]メニューを使用して、電話機の短縮ダイヤル ボタンを変更できます。

手順

- ステップ 1** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、ウィンドウの上部にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [短縮ダイヤルの追加 / 更新] を選択し、[移動] をクリックします。

この電話機用の [短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウが表示されます。



- (注)** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを表示するには、[デバイス] > [電話] の順に選択してください。検索条件を入力し、[検索] をクリックします。短縮ダイヤル ボタンを設定する電話機を選択します。

- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 70-2 を参照)。

- ステップ 3** [保存] をクリックして、変更内容を適用します。

- ステップ 4** [閉じる] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

追加情報

P.70-35 の「関連項目」を参照してください。

短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値

表 70-2 では、短縮ダイヤル ボタンの設定値について説明します。[短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial and Abbreviated Dial Configuration)] ウィンドウには、2 つのセクションがあります。電話機の短縮ダイヤルの設定、およびボタンに関連付けられていない固定短縮ダイヤルの設定に関するセクションです。表 70-2 の説明は両方のセクションに適用されます。

合計 99 個の短縮ダイヤルおよび固定短縮ダイヤルの設定がシステムにより提供されています。

短縮ダイヤルの設定

電話機の物理的なボタンの設定を行います。

固定短縮ダイヤルの設定

固定短縮ダイヤルでアクセスするための短縮ダイヤル番号の設定を行います。



- (注)** 一部の Cisco Unified IP Phone は固定短縮ダイヤルをサポートしていません。該当の電話機のユーザガイドを参照してください。

表 70-2 短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値

フィールド	説明
(左のカラムにある 1 ~ 99 の番号)	このカラムには、電話機または Cisco Unified IP Phone モデル 7914 拡張モジュール上の短縮ダイヤル ボタン（たとえば、1、2、3、4 など）を指定するか、あるいは、固定短縮ダイヤルに使用する固定短縮ダイヤル インデックスを指定します。
[番号 (Number)]	ユーザが短縮ダイヤル ボタンを押したときにシステムによってダイヤルされる番号を入力します。
[ラベル (Label)]	短縮ダイヤル ボタンまたは固定短縮ダイヤル番号に対して表示されるテキストを入力します。 Cisco Unified CallManager は、Cisco Unified IP Phone モデル 7910 に対してはこのフィールドを使用不可にします。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。
[ASCII ラベル (ASCII Label)]	このフィールドには、[ラベル (Label)] フィールドと同じ情報を指定します。ただし、入力は ASCII 文字に制限されます。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、[ASCII ラベル (ASCII Label)] フィールドの内容が表示されます。

追加情報

P.70-35 の「[関連項目](#)」を参照してください。

BLF/ 短縮ダイヤルの設定値

Cisco Unified CallManager の管理ページでプレゼンスを設定すると、ウォッチャーと呼ばれる関係者が、ウォッチャーのデバイスの BLF/ 短縮ダイヤル ボタンを使用して、電話番号または SIP URI のリアルタイム ステータスを監視できるようになります。

プレゼンス対応の SIP 電話機では、電話番号または SIP URI を BLF/ 短縮ダイヤル ボタンとして設定できます。プレゼンス対応の SCCP 電話機では、電話番号のみを BLF/ 短縮ダイヤル ボタンとして設定できます。

BLF/ 短縮ダイヤル ボタンの設定については、『*Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「プレゼンス」の章を参照してください。

Cisco Unified IP Phone サービスの設定

ユーザは、Cisco Unified IP Phone モデル 7970、7960、および 7940 などの特定の電話機から情報サービス（たとえば、天気、株価など）、またはその他の利用可能なサービスにアクセスできます。システム管理者は、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して、電話機で使用可能なサービスをセットアップすることができます。ユーザは、[Cisco Unified IP Phone User Options] メニューを使用して、サービスを変更できます。[Cisco Unified IP Phone User Options] メニューについては、ご使用の電話機モデルの『*Cisco Unified IP Phone ユーザ ガイド*』を参照してください。Cisco Unified CallManager の管理ページにおけるサービス保持の詳細については、P.78-1 の「[Cisco Unified IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。

電話サービスへの加入、電話サービスの更新、および電話サービスの加入解除の詳細については、次の項を参照してください。

- [サービスへの加入 \(P.70-28\)](#)
- [サービスの更新 \(P.70-29\)](#)
- [サービスの加入解除 \(P.70-29\)](#)

サービスへの加入

電話機用の新規サービスに登録する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified CallManager に電話サービスを追加してください。詳細については、[P.78-4](#) の「[Cisco Unified IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [[デバイス](#)] > [[電話](#)] の順に選択します。

[[電話の検索と一覧表示 \(Find and List Phones\)](#)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[[検索](#)] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 サービスを追加する電話機を選択します。

[[電話の設定 \(Phone Configuration\)](#)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの右上にある [[関連リンク](#)] ドロップダウン リスト ボックスから [[サービスの登録 / 登録解除](#)] を選択し、[[移動](#)] をクリックします。

この電話機用の [[登録済みの Cisco IP Phone サービス \(Subscribed Cisco IP Phone Services for\):](#)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [[サービスの選択 \(Select a Service\)](#)] ドロップダウン リスト ボックスから、電話機に追加するサービスを選択します。

ステップ 6 [[次へ](#)] をクリックします。

選択したサービスが、ウィンドウに表示されます。別のサービスを選択する場合は、[[戻る](#)] をクリックし、[ステップ 5](#) を繰り返します。

ステップ 7 必須パラメータを持つサービスの場合は、表示されているフィールドにその情報を入力します。

ステップ 8 [[登録](#)] をクリックします。

サービスが [[登録済みサービス \(Subscribed Services\)](#)] リストに表示されます。

- ステップ 9** 別のサービスに加入する場合は、[登録済みサービス (Subscribed Services)] 領域の [Subscribe a New Service] リンクをクリックします。ステップ 5 ~ ステップ 8 を繰り返します。

追加情報

P.70-35 の「関連項目」を参照してください。

サービスの更新

サービスを更新する手順は、次のとおりです。必要に応じて、サービス名とサービスパラメータ値を更新できます。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

- ステップ 3** サービスを更新する電話機を選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** ウィンドウの右上にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [サービスの登録 / 登録解除] を選択し、[移動] をクリックします。

- ステップ 5** [登録済みサービス (Subscribed Services)] リストから、サービスを選択します。

- ステップ 6** 該当するパラメータを更新し、[保存] をクリックします。

追加情報

P.70-35 の「関連項目」を参照してください。

サービスの加入解除

サービスの登録を解除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 電話機を特定するための検索条件を入力し、[**検索**] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 サービスを削除する電話機を選択します。

[**電話の設定 (Phone Configuration)**] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの右上にある [**関連リンク**] ドロップダウン リスト ボックスから [**サービスの登録 / 登録解除**] を選択し、[**移動**] をクリックします。

ステップ 5 [**登録済みサービス (Subscribed Services)**] リストから、サービスを選択します。

ステップ 6 [**登録解除**] をクリックします。

サービスの加入を解除するかどうかを確認する、警告メッセージが表示されます。

ステップ 7 登録を解除するには、[**OK**] をクリックします。元の設定値に戻すには、[**キャンセル**] をクリックします。

追加情報

P.70-35 の「[関連項目](#)」を参照してください。

サービス URL ボタンの設定

ユーザは、Cisco Unified IP Phone モデル 7970、7960、および 7940 から情報サービス（たとえば、天気、株価など）またはその他の利用可能なサービスにアクセスできます。Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して、電話ボタンで利用できるようにサービスを設定した後に、その電話機の該当のボタンを設定できます。ユーザは、[Cisco Unified IP Phone User Options] メニューを使用して、サービスを変更できます。[Cisco Unified IP Phone User Options] メニューについては、ご使用の電話機モデルの『*Cisco Unified IP Phone ユーザ ガイド*』を参照してください。Cisco Unified CallManager の管理ページにおけるサービス保持の詳細については、P.78-1 の「[Cisco Unified IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。

サービス URL ボタンの追加

電話機にサービス URL ボタンを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

始める前に、次の設定を行う必要があります。

- Cisco Unified CallManager にサービスを追加してください。詳細については、P.78-4 の「[Cisco Unified IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。
- 電話ボタン テンプレートにサービス URL ボタンを設定してください。詳細については、P.76-3 の「[電話ボタン テンプレートの設定](#)」を参照してください。
- サービスに加入してください。P.70-27 の「[Cisco Unified IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。

カスタムで非標準の電話ボタン テンプレートのボタン項目を変更するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 電話ボタン項目を変更する電話機を選択します。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[ボタン項目を変更] をクリックします。

ポップアップ ウィンドウが表示され、(電話機に対する) 未保存の変更は失われる可能性があることが警告されます。電話機の設定に変更を加えた場合は、[キャンセル] をクリックし、変更を保存してから続行します。

ステップ 5 続行するには、[OK] をクリックします。

[電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウは、次のペインから構成されています。

- [関連項目 (Associated Items)]: この電話ボタン テンプレート内で電話ボタンに割り当てられている項目のリストが表示されます。システムによって、リスト内の最初の項目がボタン 1 に、2 番目の項目がボタン 2 に、というように順次割り当てられます。
- [割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)]: この電話ボタン テンプレート内で電話ボタンに割り当てられていない項目のリストが表示されます。
- [以下の項目を関連解除 (Dissociate These Items)]: 電話ボタンに現在割り当てることができない項目のリストが表示されます。

ステップ 6 関連付けられた項目の順序を変更するには、[関連項目 (Associated Items)] ペインで項目を選択し、上矢印または下矢印をクリックしてその順序を変更します。

ステップ 7 [関連項目 (Associated Items)] ペインから [割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)] ペインに、またはその逆に項目を移動するには、一方のペインで項目を選択し、左矢印または右矢印をクリックして他方のペインに項目を移動します。

ステップ 8 [関連項目 (Associated Items)] または [割り当てられていない関連項目 (Unassigned Associated Items)] ペインから [以下の項目を関連解除 (Dissociate These Items)] ペインに、またはその逆に項目を移動するには、いずれかのペインで項目を選択し、対象となる 2 つのペイン間にある上矢印または下矢印をクリックします。

ステップ 9 ペイン間で項目を移動し、すべての項目が目的の順序になったら、[保存] をクリックします。

ステップ 10 [閉じる] をクリックして、[電話のボタンの並び替え設定 (Reorder Phone Button Configuration)] ウィンドウを閉じます。

追加情報

P.70-35 の「関連項目」を参照してください。

電話機の検索

ネットワーク内には多数の Cisco Unified IP Phone があります。Cisco Unified CallManager を使用すると、指定した条件に基づいて電話機を検索できます。Cisco Unified CallManager データベース内で、特定の Cisco Unified IP Phone を検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco VG248 Gateway は、電話機の検索では表示されません。[Cisco Unified CallManager の管理] の [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウから Cisco VG248 Analog Phone ポートを検索できます。Cisco VG248 Gateway の設定情報については、P.69-1 の「ゲートウェイの設定」を参照してください。



ヒント

検索の制限方法については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話機の検索」を参照してください。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、電話機の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話機の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [電話] の順に選択します。

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 電話機の特定に使用するフィールドを選択します。



(注)

データベースに登録されている電話機をすべて検索するには、フィールドのリストから [デバイス名] を選択し、パターンのリストから「が空ではない」を選択します。次に、[検索] をクリックしてください。

ステップ 3 テキスト検索に該当する検索パターンを選択します (たとえば、「が次の文字列で始まる」)。

ステップ 4 [検索] フィールドに、検索テキスト (ある場合) を入力します。

ステップ 5 [検索] をクリックします。

条件と一致するデバイスのリストが表示されます。**ステップ 2** で選択したフィールドによって、リスト内のデバイスのソート方法が決まります。

このウィンドウには、このウィンドウ内のデバイスの合計数も表示されます。



ヒント 検索結果の中で電話機を検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、検索条件を入力します (**ステップ 4** を参照)。

ステップ 6 検出されたデバイスの次のセットを表示するには、[次へ] をクリックします。



(注) 該当する電話機の横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウから複数の電話機を削除できます。また、[選択項目のリセット] をクリックすると、複数の電話機をリセットできます。検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内の電話機をすべて選択できます。

追加情報

P.70-35 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-1 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-3 \)](#)
- [電話機の MAC アドレスの表示 \(P.70-5 \)](#)
- [電話機のリセット \(P.70-5 \)](#)
- [電話機の削除 \(P.70-6 \)](#)
- [電話機の設定値 \(P.70-7 \)](#)
- [短縮ダイヤル ボタンの設定 \(P.70-26 \)](#)
- [短縮ダイヤルと固定短縮ダイヤルの設定値 \(P.70-26 \)](#)
- [BLF/ 短縮ダイヤルの設定値 \(P.70-27 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスの設定 \(P.70-27 \)](#)
- [サービス URL ボタンの設定 \(P.70-30 \)](#)
- [電話ボタン テンプレートのボタン項目の変更 \(P.70-31 \)](#)
- [電話機の検索 \(P.70-33 \)](#)
- [電話番号の設定 \(P.48-1 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.69-1 \)](#)
- [電話ボタン テンプレートの設定 \(P.76-1 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスの設定 \(P.78-1 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」



トランクの設定

ゲートキーパー（つまり、ホールセール ネットワークやゲートキーパーによって制御される クラスタ間 トランク）への論理ルート、ゲートキーパーによって制御されない クラスタ間 トランクへの論理ルート、または SIP ネットワークへの論理ルートを設定するには、トランク デバイスを使用します。次の使用可能な トランク タイプからいずれかを選択してください。

- H.225 トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスタ間 トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスタ間 トランク（ゲートキーパー非制御）
- SIP トランク

Cisco Unified CallManager トランクの設定については、次のトピックを参照してください。

- [トランクの検索 \(P.71-2\)](#)
- [トランクの設定 \(P.71-3\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.71-5\)](#)
- [トランクの削除 \(P.71-30\)](#)
- [トランクのリセット \(P.71-31\)](#)

次のトピックには、トランクに関する追加情報が記載されています。

- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「コール アドミッション制御」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」
- 『Cisco Unified Communications ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン (SRND)』

トランクの検索

ネットワーク内には複数のトランクが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定してトランクを検索することができます。Cisco Unified CallManager データベース内で特定のトランクを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、トランクの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランクの検索設定は保持されます。

手順

ステップ1 [デバイス]>[トランク]の順に選択します。

[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 トランクの特定に使用するフィールドを選択します。



(注)

データベースに登録されているトランクをすべて検索するには、フィールドのリストから [デバイス名] を選択し、パターンのリストから「が空ではない」を選択します。次に、[検索] をクリックしてください。

ステップ3 テキスト検索に該当する検索パターンを選択します。テキスト検索を実行しない場合は、「が空である」を選択します。

ステップ4 [検索] フィールドに、検索テキスト (ある場合) を入力します。

ステップ5 **ステップ2** でコーリングサーチスペースまたはデバイスプールを選択した場合は、データベース内で使用可能なオプションが表示されます。[検索] ボタンの下にあるドロップダウンリストボックスから、これらのオプションのいずれかを選択できます。

ステップ6 [検索] をクリックします。

条件と一致するデバイスのリストが表示されます。このウィンドウには、デバイスの合計数も表示されます。

ステップ7 検出されたデバイスの次のセットを表示するには、[次へ] をクリックします。



(注)

トランクの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウから複数のトランクを削除できます。また、[選択項目のリセット] をクリックすると、複数のトランクをリセットできます。[すべてを選択] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのトランクを選択できます。

追加情報

P.71-32 の「[関連項目](#)」を参照してください。

トランクの設定

新規のトランク デバイスの追加または既存のトランク デバイスの更新を行う手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager クラスタごとに、複数のトランク デバイスを設定できます。

始める前に

SIP トランクを設定する前に、SIP トランク セキュリティ プロファイルおよび SIP プロファイルを設定します。詳細については、[P.79-3](#) の「[SIP プロファイルの設定](#)」、[「SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定](#)」、および『[Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド](#)』を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [トランク] の順に選択します。

[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新規のトランク デバイスを追加する場合は、[[新規追加](#)] ボタンをクリックします。[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウが表示されます。[ステップ 3](#) に進みます。
- トランクの設定値を更新する場合は、適切なトランクを見つけます ([P.71-2](#) の「[トランクの検索](#)」を参照)。更新するトランクの名前をクリックします。[ステップ 6](#) に進みます。

ステップ 3 [トランクタイプ] ドロップダウン リストから、トランクのタイプを選択します。

ステップ 4 必要に応じて、[デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リストから、デバイス プロトコルを選択します。

ステップ 5 [次へ] をクリックします。

ステップ 6 表示されている [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスタ間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクに対して適切な設定値を入力します ([表 71-1](#) を参照)。SIP トランクの場合は、[表 71-2](#) を参照して適切な設定値を入力します。

ステップ 7 [保存] をクリックして、新規トランクを追加します。

トランクがデータベースに追加されます。

既存のトランクを更新している場合は、[[リセット](#)] をクリックしてトランクをリセットまたは再起動し、新しい設定値を適用します。



(注) トランクをリセットすると、そのトランクを使用している進行中のコールがすべて終了されます。ゲートウェイを再起動すると、そのゲートウェイを使用している進行中のコールを保持しようとします。それ以外のデバイスでは、コールが完了するまで待機してから、再起動またはリセットされます。H.323 または SIP デバイスの再起動やリセットは、ハードウェアを物理的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco Unified CallManager によってロードされた設定を初期化するだけです。

追加情報

P.71-32 の「[関連項目](#)」を参照してください。

トランクの設定値

表 71-1 では、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスタ間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクの各設定値について説明します。

表 71-2 では、SIP トランクの設定値について説明します。

関連する手順の詳細については、P.71-32 の「関連項目」を参照してください。

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値


フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[デバイス名]	このトランクに固有の識別子を入力します。
[説明]	トランクの記述名を入力します。
[デバイスプール]	トランク用に適切なデバイス プールを選択します。 トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco Unified CallManager のリストを指定します。
	 <p>(注) トランクのデバイス プールに属さない Cisco Unified CallManager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco Unified CallManager を使用します。ノードの選択は、順不同で行われます。</p> <p>トランクのデバイス プールに属している Cisco Unified CallManager に登録された電話機からのコールは、その Cisco Unified CallManager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco Unified CallManager ノードを使用します。</p>
[コールの分類 (Call Classification)]	このパラメータは、このトランクを経由する着信コールがネットワーク上にない ([OffNet]) と見なされるか、ある ([OnNet]) と見なされるかを示します。 [コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [Use System Default] に設定されている場合、Cisco Unified CallManager clusterwide サービスパラメータ Call Classification の設定値により、トランクが [OnNet] か [OffNet] かが決定します。 このフィールドは、コールが [OnNet] または [OffNet] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。警告トーンは、Cisco Unified CallManager Annunciator によって提供されます。 発信コールを [OnNet] または [OffNet] として認識するには、このパラメータと [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウでの設定を併用します。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	メディアリソースグループを優先順に並べたグループが表示されず。アプリケーションは、メディアリソースグループリストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースから、必要なメディアリソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
[ロケーション (Location)]	トランクに適したロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションと中央ロケーション (つまり、ハブ) との間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [Hub_None] に設定すると、無制限に使用可能な帯域幅を指定することになります。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [None] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)]	このドロップダウン リスト ボックスは、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。 トランクを使用して、H.323 シグナリング メッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco Unified CallManager から他の Anexe M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、[QSIG] オプションを選択します。QSIG トンネルは、Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、および Message Waiting Indication という機能をサポートします。
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。 ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [None]: このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングが完了したら、この値に設定してください。 • [Batch Processing Mode]: Cisco Unified CallManager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco Unified CallManager は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco Unified CallManager はファイルを PktCap 仮想ディレクトリに保存します。単一のファイルには、タイム スタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。IREC ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。
	 <p>ヒント パケット キャプチャリングを使用可能または使用不可にした後で、トランクをリセットする必要はありません。</p> <p>パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco Unified CallManager トラブルシューティングガイド』を参照してください。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p>パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco Unified CallManager トラブルシューティングガイド』を参照してください。</p>
[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>このチェックボックスでは、H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) を実装するために、Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) を使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能をインプリメントするためにメディア ターミネーション ポイントを使用する場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。機能をインプリメントするためにメディア ターミネーション ポイントを使用しない場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスにのみ使用してください。または、メディア ストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、発信側と着信側のどちらか一方または両方がビデオ エンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオとして動作します。</p>
[ビデオコールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントのみに適用されます。トランクの場合、このチェックボックスは Cisco Unified CallManager から受信されたコールには適用されませんが、Wide Area Network (WAN; ワイドエリア ネットワーク) から受信されたコールには適用されません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) およびルート / ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
[ファーエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスでは、Cisco Unified CallManager が遠端 H.245 Terminal Capability Set を受信した後に、その H.245 Terminal Capability Set を送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco Unified CallManager がケイパビリティ交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p>
[パス置換サポート (Path Replacement Support)]	<p>このチェックボックスは、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから [QSIG] オプションを選択した場合に、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス変換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] で [QSIG] オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、SIP トランクのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、送信側デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端に、同じ言語グループに属さないユーザ ロケールが設定されている場合、電話機に表示される文字が文字化けすることがあります。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>コールを不在ポート (ボイスメール ポートなど) にリダイレクト、任意転送、および自動転送できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
[SRTP を許可]	<p>Cisco Unified CallManager がトランク上のセキュアなコールもノンセキュアなコールも許可するようにする場合は、[SRTP を許可]チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco Unified CallManager はトランクとの SRTP ネゴシエーションを行わず、RTP を使用します。</p> <p> 注意 このチェックボックスをオンにする場合は、IP セキュリティを設定して、コール ネゴシエーション中に鍵や他のセキュリティ関連の情報を公開しないようにすることを強くお勧めします。IPSec を正しく設定しないと、Cisco Unified CallManager とゲートウェイ間のシグナリングがノンセキュアになります。</p> <p>トランクの暗号化の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、デバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定を引き継ぎます。 • [Off]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [On]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ、[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせで、デバイスを設定することはできません。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
[コールルーティング情報 (Call Routing Information)]	
[インバウンドコール (Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。H.323 デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco Unified CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p>
[コーリングサーチスペース]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、まず、[数値桁 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は UUIE で送信されます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)]	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco Unified CallManager サーバで [インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)] チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p> <p>他のクラスタの Cisco CallManager 3.3(2) サーバをサポート パッチ B で更新した場合、3.3(2)spB が内部 FastStart 機能をクラスタ間トランクでサポートしないため、内部 FastStart を使用可能にしないでください。</p>
[アウトバウンドコール (Outbound Calls)]	
[発呼側の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上の発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Originator]: 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number]: 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number]: 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number (External)]: リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number (External)]: コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。
[発呼回線 ID プレゼンテーション (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は、着信側の番号表示画面での発信側番号の表示を制御するために、補助的なサービスとして発信側の回線 ID 表示 (CLIP) を使用します。</p> <p>CLIP の設定を変更しない場合は、[Default] を選択します。発信側番号情報を表示する場合は、[Allowed] を選択します。発信側番号情報を表示しない場合は、[Restricted] を選択します。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラス間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号のタイプを設定します。 • [Unknown]: ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。 • [National]: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [International]: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [Subscriber]: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[発信側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号のタイプを設定します。 • [Unknown]: ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。 • [National]: 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [International]: 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [Subscriber]: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 71-1 H.225 トランクとクラス間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン(たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン)について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号の番号計画を設定します。 • [ISDN]: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [National Standard]: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [Private]: プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。
[発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン(たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン)について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、発信側番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified CallManager]: Cisco Unified CallManager が電話番号の番号計画を設定します。 • [ISDN]: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [National Standard]: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [Private]: プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [Unknown]: ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
[発信者 ID DN(Caller ID DN)]	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリア コードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードと共にこの番号を追加します。
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	<p>発信側と着信側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element (IE; 情報要素) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールが転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を送信するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は UUIE で送信されます)。</p> <p>最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
[アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)]	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>[インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)] チェックボックスがオンの場合、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]、[メディアリソースグループ リスト (Media Resource Group List)] および [アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)] を設定する必要があります。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
[アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)]	<p>発信 FastStart コール用に H.323 デバイスと共に使用するため、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [G711 mu-law 64K] (デフォルト) • [G711 a-law 64K] • [G723] • [G729] • [G729AnnexA] • [G729AnnexB] • [G729AnnexA-AnnexB] <p>[アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)] チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。</p>
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]	
(ゲートキーパーによって制御された H.225 トランクまたはクラスタ間トランク)	
[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]	<p>このトランクを制御するゲートキーパーを選択します。</p> <p> (注) ゲートキーパーによって制御されるトランクが H.323 ダイナミック アドレッシングを使用してゲートキーパーに正しく登録されるようにするには、Send Product ID and Version ID サービス パラメータを [True] に設定する必要があります (デフォルト値は [False] です)。この設定を行うには、[システム] > [サービスパラメータ] の順に選択して、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide Parameters (Device - H323)] で Cisco CallManager サービスの Send Product ID and Version ID サービス パラメータを見つけます。</p>
[ターミナルタイプ (Terminal Type)]	<p>このトランクが制御するデバイスすべてのタイプを指定します。</p> <p>通常のトランク コール アドミッション制御には、このフィールドに常に [Gateway] を設定します。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[テクノロジープリフィックス (Technology Prefix)]	<p>ゲートキーパーで <code>gw-type-prefix</code> を設定するときに、各 Cisco Unified CallManager の IP アドレスを入力する必要をなくするために使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドをブランクのままにする (デフォルト値) 場合は、ゲートキーパーで <code>gw-type-prefix</code> コマンドを入力するときに、ゲートキーパーに登録できる各 Cisco Unified CallManager の IP アドレスを指定する必要があります。 このフィールドを使用する場合は、ここで入力した値が、ゲートキーパーの <code>gw-type-prefix</code> コマンドで指定した <code>type-prefix</code> 値と正確に一致することを確認します。 <p>たとえば、このフィールドをブランクのままにした場合、IP アドレス 10.1.1.2 と 11.1.1.3 を持つ 2 つの Cisco Unified CallManager があるときは、ゲートキーパーで次の <code>gw-type-prefix</code> コマンドを入力します。</p> <pre>gw-type-prefix 1#* default-technology gw ip 10.1.1.2 gw ip 11.1.1.3</pre> <p>このフィールドに 1#* を入力した場合、ゲートキーパーで次の <code>gw-type-prefix</code> コマンドを入力します。</p> <pre>gw-type-prefix 1#* default-technology</pre>
[ゾーン (Zone)]	<p>Cisco Unified CallManager が登録されるゲートキーパーに関して特定ゾーンを要求するには、このオプション フィールドを使用します。[ゾーン (Zone)] は、このゾーンと別のゾーンとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドに値を入力しない場合は、ゲートキーパー上の <code>zone subnet</code> コマンドによって、Cisco Unified CallManager が登録されるゾーンが決まります。大部分の設定では、デフォルト値をお勧めします。 ゲートキーパー上の特定のゾーンに Cisco Unified CallManager を登録する場合は、<code>zone</code> コマンドを使用してゲートキーパー上で設定されたゾーン名と正確に一致する値を入力します。このフィールドにゾーン名を指定すると、ゲートキーパーに登録される各 Cisco Unified CallManager に対して、<code>zone subnet</code> コマンドを入力する必要がなくなります。 <p>詳細については、使用しているゲートキーパーのコマンド リファレンス マニュアルを参照してください。</p>
[リモート Cisco Unified CallManager 情報 (Remote Cisco Unified CallManager Information)] (ゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランク)	
[サーバ 1 IP アドレス / ホスト名 (Server 1 IP Address/Host Name)]	このトランクがアクセスする最初のリモート Cisco Unified CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)




フィールド	説明
[サーバ 2 IP アドレス / ホスト名 (Server 2 IP Address/Host Name)]	<p>このトランクがアクセスする 2 番目のリモート Cisco Unified CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。</p> <p> (注) ゲートキーパーによって制御されないこのクラスタ間トランクが、ゲートキーパーによって制御されないリモートクラスタ間トランクのデバイス プールにアクセスし、そのデバイス プールに 2 番目の Cisco Unified CallManager ノードがある場合は、このフィールドに 2 番目のリモート Cisco Unified CallManager の IP アドレスとホスト名を入力する必要があります。</p>
[サーバ 3 IP アドレス / ホスト名 (Server 3 IP Address/Host Name)]	<p>このトランクがアクセスする 3 番目のリモート Cisco Unified CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。</p> <p> (注) ゲートキーパーによって制御されないこのクラスタ間トランクが、ゲートキーパーによって制御されないリモートクラスタ間トランクのデバイス プールにアクセスし、そのデバイス プールに 3 番目の Cisco Unified CallManager ノードがある場合は、このフィールドに 3 番目のリモート Cisco Unified CallManager の IP アドレスとホスト名を入力する必要があります。</p>
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、その [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [Off]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [On]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>

表 71-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] (H.323 ICT では使用不可)	<p>進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当ててる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、その [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • [Disabled]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • [Forceful]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p> <p> (注) 現在トランクのページでは、[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] フラグを使用可能にできません。優先順位のロジックは、ロケーション ベースの [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] フラグによって制御されます。</p>

表 71-2 では、SIP トランクの設定値について説明します。

表 71-2 SIP トランクの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[デバイス名]	このトランクに固有の識別子を入力します。
[説明]	トランクの記述名を入力します。

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
[デバイスプール]	<p>トランク用に適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco Unified CallManager のリストを指定します。</p> <p> (注) トランクのデバイス プールに属さない Cisco Unified CallManager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco Unified CallManager を使用します。Cisco Unified CallManager ノードの選択は、順不同で行われます。</p> <p>トランクのデバイス プールに属している Cisco Unified CallManager に登録された電話機からのコールは、その Cisco Unified CallManager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco Unified CallManager ノードを使用します。</p> <p>[デバイスプール] のデフォルト値は [Not Selected] です。</p>
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータは、このトランクを経由する着信コールがネットワーク上にない ([OffNet]) と見なされるか、ある ([OnNet]) と見なされるかを示します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] のデフォルト値は [Use System Default] です。[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [Use System Default] に設定されている場合、Cisco Unified CallManager clusterwide サービス パラメータ Call Classification の設定値により、トランクが [OnNet] か [OffNet] かが決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが [OnNet] または [OffNet] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p> <p>発信コールを [OnNet] または [OffNet] として認識するには、このパラメータと [ルートパターンの設定 (Route Pattern Configuration)] ウィンドウでの設定を併用します。</p>
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>メディアリソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p> <p>[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] のデフォルト値は [None] です。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>トランクに適したロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションと中央ロケーション (つまり、ハブ) との間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを [Hub_None] に設定すると、無制限に使用可能な帯域幅を指定することになります。</p> <p>ロケーションは、他のロケーションに関する RSVP ポリシーとも関連付けられます。この設定により、ロケーション ペアに基づいて RSVP を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。</p> <p>[ロケーション (Location)] のデフォルト値は [Hub_None] です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [None] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p> <p>[AAR グループ (AAR Group)] のデフォルト値は [None] です。</p>
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [None]: このオプション (デフォルト設定) は、パケット キャプチャリングが行われないことを示します。パケット キャプチャリングが完了したら、この値に設定してください。 • [Batch Processing Mode]: Cisco Unified CallManager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco Unified CallManager は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco Unified CallManager はファイルを PktCap 仮想ディレクトリに保存します。単一のファイルには、タイム スタンプ、送信元 IP アドレス、送信元 IP ポート、宛先 IP アドレス、パケット プロトコル、メッセージ長、およびメッセージが含まれます。TAC デバッグ ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化されたファイルを復号化します。 <p>TAC に連絡する前に、該当するデバイス間で sniffer トレースを使用して、SRTP パケットをキャプチャする必要があります。</p> <p>パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco Unified CallManager トラブルシューティングガイド』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト設定は 0 です。ただし、0 ~ 300 分の範囲で指定できます。</p> <p>パケット キャプチャリングを開始するには、このフィールドに 0 以外の値を入力します。パケット キャプチャリングの完了後、0 が表示されます。</p> <p>パケット キャプチャリングの詳細については、『Cisco Unified CallManager トラブルシューティングガイド』を参照してください。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>常に MTP を使用するように Cisco Unified CallManager SIP トランクを設定できます。発信 INVITE 要求でメディア チャネル情報を提供するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、すべてのメディア チャネルが MTP デバイス上で終了して再開するよう要求されます。このチェックボックスをオフにすると、コールが MTP デバイスを通過するか、エンドポイント間で直接接続されるかを、Cisco Unified CallManager が決定できます。</p> <p> (注) オフ (デフォルト) のままの場合、コール レッグの DTMF 方式に互換性がないと、Cisco Unified CallManager は MTP を動的に割り当てようとします。</p> <p>たとえば、既存の SCCP 電話機がアウトオブバンド DTMF だけをサポートしており、既存の SIP 電話機が RFC2833 をサポートしているとします。DTMF 方式が同じでないため、Cisco Unified CallManager は MTP を動的に割り当てます。ただし、RFC2833 とアウトオブバンドをサポートする新しい SCCP 電話機が既存の SIP 電話機をコールする場合は、両方の電話機が RFC2833 をサポートしているため、Cisco Unified CallManager は MTP を割り当てません。したがって、各電話機で同じタイプの DTMF 方式がサポートされるようにすることにより、MTP は不要になります。</p>
[ビデオコールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、発信 SIP トランク コールに適用されますが、着信コールには影響を及ぼしません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) およびルート / ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、送信側のデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p> (注) トランクの両端に、同じ言語グループに属さないユーザ ロケールが設定されている場合、電話機に表示される文字が文字化けすることがあります。</p> <p>[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)] チェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>コールを不在ポート (ボイスメール ポートなど) にリダイレクトおよび転送できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスのデフォルト値はオフです。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リストから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p> <p>[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] のデフォルト値は [None] です。</p>
[コールルーティング情報 (Call Routing Information)]	
[インバウンドコール (Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。SIP デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有効数字の桁数 (0 ~ 32) を選択するか、または [All] を選択します。</p> <p> (注) Cisco Unified CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p> <p>[有意な数字 (Significant Digits)] のデフォルト値は [All] です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は、接続された側の番号を発信側に提供するために、補助的なサービスとして接続側の回線 ID 表示 (COLP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] のデフォルト値は [Default] で、これは [Allowed] に変換されます。接続された回線の情報を Cisco Unified CallManager が送信するようにする場合は、[Default] を選択します。</p> <p>接続された回線の情報を Cisco Unified CallManager が送信しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p>
[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は、接続された側の名前を発信側に提供するために、補助的なサービスとして接続側の名前 ID 表示 (CONP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] のデフォルト値は [Default] で、これは [Allowed] に変換されます。接続された名前情報を Cisco Unified CallManager が送信するようにする場合は、[Default] を選択します。</p> <p>接続された名前情報を Cisco Unified CallManager が送信しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p>
[コーリングサーチスペース]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択し、[CCMAAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>[コーリングサーチスペース] のデフォルト値は [None] です。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)] のデフォルト値は [None] です。</p>
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、まず、[数値桁 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified CallManager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified CallManager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Inbound)] のデフォルト値はオフです。</p>
[アウトバウンドコール (Outbound Calls)]	
[発呼側の選択 (Calling Party Selection)]	<p>発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Originator]: 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number]: 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number]: 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [First Redirect Number (External)]: リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。 • [Last Redirect Number (External)]: コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。 <p>[発呼側の選択 (Calling Party Selection)] のデフォルト値は [Originator] です。</p>
[発呼回線 ID プレゼンテーション (Calling Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は、発信側の番号を提供するために、補助的サービスとして 発信側の回線 ID 表示 (CLIP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>[発呼回線 ID プレゼンテーション (Calling Line ID Presentation)] のデフォルト値は [Default] で、これは [Allowed] に変換されます。発信側番号情報を Cisco Unified CallManager が送信するようにする場合は、[Default] を選択します。</p> <p>発信側番号情報を Cisco Unified CallManager が送信しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p>
[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified CallManager は、発信側の名前を提供するために、補助的サービスとして 発信側の名前 ID 表示 (CNIP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、コールごとの設定に優先します。</p> <p>発信側名前情報を Cisco Unified CallManager が送信するようにする場合は、[Allowed] を選択します。[Allowed] がデフォルトです。</p> <p>発信側名前情報を Cisco Unified CallManager が送信しないようにする場合は、[Restricted] を選択します。</p> <p>[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] のデフォルト値は [Default] です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
[発信者 ID DN(Caller ID DN)]	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリア コードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードと共にこの番号を追加します。
[発信者名 (Caller Name)]	<p>発信元の SIP デバイスから受信した発信者名を上書きするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[Diversion ヘッダー配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound)]	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の着信側番号および転送理由を示すために、Cisco Unified CallManager からの Redirecting Number を送信 INVITE メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 INVITE メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>[Diversionヘッダー配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Diversion Header Delivery - Outbound)] のデフォルト値はオフです。</p>
[SIP 情報 (SIP Information)]	
[着信先アドレス (Destination Address)]	<p>[着信先アドレス (Destination Address)] は、このトランクが通信するリモート SIP デバイスを表します。このフィールドに入力できる値は、有効な V4 ドット付き IP アドレス、Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) または DNS SRV レコード ([着信先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)] フィールドがオンになっている場合のみ) です。</p> <p> (注) SIP トランクは、設定済みの着信先アドレスから着信する要求と、このトランクと関連付けられている [SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] で指定した着信ポートから着信する要求だけを受け入れます。</p> <p>リモート エンドが Cisco Unified CallManager クラスタである場合、このフィールドには DNS SRV を指定することをお勧めします。DNS SRV レコードには、クラスタ内のすべての Cisco Unified CallManager が含まれている必要があります。</p>
[着信先アドレスは SRV(Destination Address is an SRV)]	<p>このフィールドでは、設定済みの着信先アドレスが SRV レコードであることを指定します。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
[着信先ポート (Destination Port)]	<p>宛先ポートを選択します。このフィールドには、必ず 1024 ~ 65535 の範囲でポートを指定してください。</p> <p> (注) 複数のトランクに同じポート番号を指定できるようになりました。</p> <p>宛先アドレスが DNS SRV ポートの場合、値を入力する必要はありません。デフォルトの 5060 は SIP ポートを示します。</p> <p>[着信先ポート (Destination Port)] のデフォルト値は 5060 です。</p>
[MTP 優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>任意の発信コーデックを指定します。</p> <p>このフィールドは、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンの場合にだけ使用されます。</p>
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP トランク用のプレゼンスグループを選択します。選択したグループにより、SIP トランクに接続されているデバイス、アプリケーション、またはサーバが監視できる対象が指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された [Standard Presence group] です。Cisco Unified CallManager の管理ページで設定されたプレゼンス グループモードドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p> <p> ヒント プレゼンス グループは、SIP トランクに適用することも、SIP トランクに接続されているアプリケーションに適用することもできます。プレゼンス グループが SIP トランクと SIP トランク アプリケーションの両方に設定されている場合、アプリケーションに適用されているプレゼンス グループが、トランクに適用されているプレゼンス グループを上書きします。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
[SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)]	<p>SIP トランクに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。</p> <p>セキュリティ プロファイルは、Cisco Unified CallManager の管理ページで設定したすべての SIP トランクに適用する必要があります。Cisco Unified CallManager をインストールすると、あらかじめ定義されたノンセキュアな SIP トランク セキュリティ プロファイルが自動登録用に提供されます。SIP トランクのセキュリティ機能を使用可能にするには、新しいセキュリティ プロファイルを設定して SIP トランクに適用します。トランクがセキュリティをサポートしていない場合は、ノンセキュア プロファイルを選択します。</p> <p>プロファイルに含まれている設定値を確認するには、[システム] > [セキュリティプロファイル] > [SIP トランクセキュリティプロファイル] の順に選択します。</p> <p>セキュリティ プロファイルを設定する方法については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p> <p>[SIP トランクセキュリティプロファイル (SIP Trunk Security Profile)] のデフォルト値は [Not Selected] です。</p>
[コーリングサーチスペースの再ルーティング (Rerouting Calling Search Space)]	<p>コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索できるパーティションが決まります。再ルーティング コーリング サーチ スペースは、SIP ユーザ (A) が別のユーザ (B) をサードパーティ (C) に転送するときの対象場所を決める場合に使用されます。転送の完了後、B と C が接続されます。この場合、使用される再ルーティング コーリング サーチ スペースは、最初の SIP ユーザ (A) のものです。</p> <p> (注) コーリング サーチ スペースは、3xx リダイレクション機能および INVITE with Replaces 機能にも適用されます。</p>
[アウトオブダイアログ REFER コーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)]	<p>コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索できるパーティションが決まります。out-of-dialog コーリング サーチ スペースは、SIP ユーザ (A) の介入がない場合に Cisco Unified CallManager が SIP ユーザ (A) に着信するコール (B) をサードパーティ (C) に転送するとき使用されません。この場合、システムは SIP ユーザ (A) の out-of-dialog コーリング サーチ スペースを使用します。</p> <p>[アウトオブダイアログ REFER コーリングサーチスペース (Out-Of-Dialog Refer Calling Search Space)] のデフォルト値は [None] です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリング サーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって、Cisco Unified CallManager が、SIP トランクに接続するデバイス、サーバ、またはアプリケーションからのプレゼンス要求をルーティングする方法が決まります。この設定により、SIP トランクのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に対して、コール処理サーチ スペースとは別のコーリング サーチ スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、SIP トランクのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。[Cisco Unified CallManager の管理] で設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウン リストから、SIP トランク用に別のコーリング サーチ スペースを選択しない場合、[SUBSCRIBE コーリング サーチ スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] はデフォルトで [None] になります。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースと同じようにコーリング サーチ スペースを設定します。コーリング サーチ スペースを設定する方法については、P.42-1 の「コーリング サーチ スペースの設定」を参照してください。</p>
[SIP プロファイル (SIP Profile)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この SIP トランクに使用する SIP プロファイルを選択します。</p> <p>[SIP プロファイル (SIP Profile)] のデフォルト値は [Not Selected] です。</p>

表 71-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
[DTMF シグナリング方式 (DTMF Signaling Method)]	<p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>[No Preference](デフォルト): Cisco Unified CallManager が DTMF 方式を選択して DTMF をネゴシエートします。したがって、コールに MTP は不要です。Cisco Unified CallManager が MTP を割り当てる必要がある場合 ([メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンである場合)、SIP トランクは DTMF として RFC2833 をネゴシエートします。</p> <p>[RFC 2833]: トランクで使用される優先 DTMF 方式を RFC2833 にする場合は、この設定を選択します。Cisco Unified CallManager は、MTP を使用するかどうかに関わらず、できる限り RFC2833 をネゴシエートしようとしています。アウトオブバンドは、ピア エンドポイントがアウトオブバンドをサポートしている場合のフォールバック方式を提供します。</p> <p>[OOB and RFC 2833]: DTMF にアウトオブバンドと RFC2833 の両方を使用する必要がある場合は、この設定を選択します。</p> <p> (注) ピア エンドポイントがアウトオブバンドと RFC2833 の両方をサポートしている場合、Cisco Unified CallManager はアウトオブバンドと RFC2833 の両方の DTMF 方式をネゴシエートします。その結果、同じ DTMF キープレスに対して 2 つの DTMF イベントが送信されます (1 つはアウトオブバンド、もう 1 つは RFC2833)。</p>

追加情報

P.71-32 の「[関連項目](#)」を参照してください。

トランクの削除

トランクを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数のルート パターンに割り当てられているトランクは、削除できません。トランクを使用しているルート パターンを検索するには、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで [関連リンク] ドロップダウン リストボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。使用されているトランクを削除しようとすると、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているトランクを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するトランクを使用しているルート パターンすべてに、別のトランクを割り当てる。[P.34-4 の「ルート パターンの設定」](#)を参照してください。
- 削除するトランクを使用しているルート パターンを削除する。[P.34-13 の「ルート パターンの削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [トランク] の順に選択します。

[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 検索条件を入力し、[検索] をクリックして、特定のトランクを見つけます。

検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。

ステップ 3 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除するトランクの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックする。
- [すべてを選択] をクリックしてから [選択項目の削除] をクリックし、ウィンドウ内のすべてのトランクを削除する。
- 削除するトランクの名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、[削除] をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックして、トランクを削除します。

追加情報

[P.71-32 の「関連項目」](#)を参照してください。

トランクのリセット

トランクをリセットする手順は、次のとおりです。



注意

デバイスをリセットすると、そのデバイスのコールが欠落することがあります。

手順

ステップ 1 [デバイス]>[トランク]の順に選択します。

[トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 検索条件を入力し、[検索]をクリックして、特定のトランクを見つけます。

検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。

ステップ 3 リストから、リセットするトランクの名前をクリックします。

[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 トランク デバイスの設定値を変更した後に、[リセット]をクリックします。

[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログが表示されます。

ステップ 5 次のいずれかの項目をクリックします。

- [リスタート]: トランク デバイスをシャットダウンしないで再起動する。
- [リセット]: 内部トランク デバイスをシャットダウンしてから再起動する。トランクがゲートキーパーによって制御されている場合、Cisco Unified CallManager クラスタは、トランクへの登録を解除 (URQ) した後、再登録 (RRQ) します。
- [閉じる]: 何も実行しないで、[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログを閉じる。



(注)

SIP トランクの場合、[リスタート]と[リセット]は同様に動作するので、どちらをクリックしてもすべてのアクティブ コールが接続解除されます。パケット キャプチャを使用可能または使用不可にする場合は、トランクに対して [リスタート] も [リセット] も実行する必要はありません。

追加情報

P.71-32 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [トランクの検索 \(P.71-2\)](#)
- [トランクの設定 \(P.71-3\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.71-5\)](#)
- [トランクの削除 \(P.71-30\)](#)
- [トランクのリセット \(P.71-31\)](#)
- [SIP プロファイルの設定 \(P.79-3\)](#)
- [SIP トランクのセキュリティ プロファイルの設定](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「コール アドミッション制御」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」
- 『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』
- 『Cisco Unified Communications ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン (SRND)』



デバイス デフォルトの設定

デバイス デフォルトの設定では、Cisco Unified CallManager に登録するデバイスの各タイプのデフォルト特性を設定します。デバイス タイプに対するデバイス デフォルトは、Cisco Unified CallManager クラスタ内にあるそのタイプの自動登録デバイスすべてに適用されます。各デバイス タイプに適用される設定は、次のデバイス デフォルトで設定します。

- デバイス ロード
- デバイス プール
- 電話ボタン テンプレート

デバイスは、Cisco Unified CallManager に自動登録されるときに、そのデバイス タイプに該当するデバイス デフォルト設定値を取得します。デバイスが登録された後で、個々のデバイスのコンフィギュレーションを更新して、そのデバイス設定を変更することもできます。

Cisco Unified CallManager をインストールすると、デバイス デフォルトが自動的に設定されます。デバイス デフォルトの新規作成も、既存のデバイス デフォルトの削除もできませんが、デバイス デフォルト設定値を変更することは可能です。

ここでは、次の内容について説明します。

- [デバイス デフォルトの更新 \(P.72-2\)](#)
- [デバイス デフォルトの設定値 \(P.72-3\)](#)

デバイス デフォルトの更新

Cisco Unified CallManager 設定データベース内のデバイス デフォルトを変更する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス デフォルトを更新する場合は、事前に、お使いのシステムに該当する次のいずれかの作業を行ってください。

- デバイス用の新しいファームウェア ファイルを TFTP サーバに追加する。
- ディレクトリ内に存在しないファームウェア ロードの割り当てにデバイス デフォルトを使用すると、それらのデバイスは割り当てられたファームウェアのロードに失敗します。
- 新しいデバイス プールを設定する。P.9-4 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。
- デバイスが電話機の場合は、新しい電話テンプレートを設定する。P.76-3 の「[電話ボタン テンプレートの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [[デバイス](#)] > [[デバイスの設定](#)] > [[デバイスのデフォルト](#)] の順に選択します。

ステップ 2 変更するデバイスに該当する設定値を更新します ([表 72-1](#) を参照)。

ステップ 3 [[保存](#)] をクリックして、Cisco Unified CallManager 設定データベースに変更内容を保存します。

ステップ 4 デバイス名の左側にあるリセット アイコンをクリックして、そのタイプのすべてのデバイスをリセットし、クラスタ内のすべての Cisco Unified CallManager に新しいデフォルトをロードします。

そのタイプのデバイスすべてをリセットしない場合は、デバイス デフォルトの変更後に追加された新しいデバイスだけが、最新のデフォルトを受け取ります。

追加情報

P.72-3 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デバイス デフォルトの設定値

表 72-1 では、デバイス デフォルトの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.72-3 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 72-1 デバイス デフォルトの設定値

フィールド名	説明
[ロード情報 (Load Information)]	ハードウェア デバイスの特定のタイプで使用されるファームウェア ロードの ID 番号を入力します。アップグレード ロードまたはパッチ ロードをインストールする場合は、新しいロードを使用するデバイスのタイプごとに、ロード情報を更新する必要があります。
[デバイスプール (Device Pool)]	デバイスの各タイプに関連したデバイス プールを選択します。デバイス プールは、そのプール内のすべてのデバイスに対して、共通の特性を指定します。
[電話テンプレート (Phone Template)]	Cisco Unified IP Phone の各タイプが使用する電話ボタン テンプレートを選択します。このテンプレートは、電話機上のキーの機能を指定します。

関連項目

- [デバイス デフォルトの更新 \(P.72-2\)](#)
- [デバイス デフォルトの設定値 \(P.72-3\)](#)
- [デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索 \(P.73-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「[デバイス ファームウェア ロード](#)」



デバイス ファームウェア ロード情報

デバイス タイプにデフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを特定するには、デバイス ファームウェア ロード情報を使用します。

デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索

[Cisco Unified CallManager の管理]の[ファームウェアロード情報 (Firmware Load Information)]ウィンドウを使用すると、デバイス タイプにデフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを、すばやく特定することができます。



(注) 各デバイスには、デフォルトを上書きするファームウェア ロードを個別に割り当てることができます。

デフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを特定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [デバイスの設定] > [ファームウェアロード情報] の順に選択します。

ページが更新され、ファームウェア ロードを必要とするデバイス タイプのリストが表示されます。デバイス タイプごとに、[デフォルトロードを使用していないデバイス (Device Not Using Default Load)] 列が、デフォルト以外のロードを使用するデバイスの設定値にリンクします。

ステップ 2 [デフォルトロードを使用していないデバイス (Device Not Using Default Load)] 列をクリックして、デフォルト以外のデバイス ロードを使用するデバイスのリストを表示します。

■ デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索



デフォルト デバイス プロファイルの設定

ユーザ デバイス プロファイルが存在しない電話機のモデルにユーザがログインするときはいつでも、デフォルト デバイス プロファイルを使用します。Cisco エクステンション モビリティをサポートする各電話機のモデルのデフォルト デバイス プロファイルを作成するには、[デフォルトのデバイス プロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウを使用します。デフォルト デバイス プロファイルの最大数は、Cisco エクステンション モビリティをサポートする電話機のモデルの数を超えることはできません。

たとえば、ユーザ デバイス プロファイルのある Cisco Unified IP Phone モデル 7960 に、ユーザがログインします。ユーザのユーザ デバイス プロファイルは、ユーザがログインした電話機にダウンロードされます。後で、同じユーザが、そのユーザのユーザ デバイス プロファイルのない Cisco Unified IP Phone モデル 7940 にログインします。このような場合に、モデル 7940 用のデフォルト デバイス プロファイルが電話機にダウンロードされます。

デフォルト デバイス プロファイルは、特定のデバイスに関連付けられている一連の属性（サービスや機能）から構成されます。デバイス プロファイルには、デバイス タイプ、ユーザ ロケール、電話ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報、および Cisco Unified IP Phone サービスが含まれます。

新しいデフォルト デバイス プロファイルの設定

デフォルト デバイス プロファイルには、デバイス タイプ、電話テンプレート、ユーザ ロケール、拡張モジュール、ソフトキー テンプレート、MLPP 情報、および登録済み Cisco Unified IP Phone サービスなどの属性が含まれます。デフォルト デバイス プロファイルを追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス]>[デバイスの設定]>[デフォルトのデバイスプロファイル]の順に選択します。

[デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)]ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しいプロファイルを追加する場合は、[デバイスプロファイルタイプ (Device Profile Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、追加するデバイスのタイプを選択し、[次へ]をクリックして、[ステップ 3](#)に進みます。
- 既存のプロファイルを更新する場合は、[デバイスプロファイルデフォルト] ペインから、更新するデバイス プロファイルをクリックします。[デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウに、選択したプロファイルのプロファイル情報が表示されます。[ステップ 3](#)に進みます。

ステップ 3 プロファイルに適切な設定値を入力します (表 74-1 を参照)。

ステップ 4 [保存]をクリックします。

ステップ 5 このプロファイルに Cisco Unified IP Phone サービスを追加するには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [サービスの登録 / 登録解除] を選択し、[移動] をクリックします。

[登録済みの Cisco IP Phone サービス (Subscribed Cisco IP Phone Services for)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、プロファイルに追加するサービスを選択します。

ステップ 7 [次へ] をクリックします。

選択したサービスが、ウィンドウに表示されます。別のサービスを選択する場合は、[戻る] をクリックし、[ステップ 6](#) を繰り返します。

ステップ 8 [登録] をクリックします。

サービスが [登録済みサービス (Subscribed Services)] リストに表示されます。

追加情報

[P.74-7](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

デフォルト デバイス プロファイルの設定値

表 74-1 では、[デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウ内で使用可能なフィールドについて説明します。

表 74-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値




フィールド	説明
[デフォルトデバイスプロファイル情報 (Default Device Profile Information)]	
[説明 (Description)]	デフォルト デバイス プロファイル設定の説明を入力します。
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	<p>ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p> (注) オーディオ ソースの定義は、[Music On Hold オーディオ ソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディア リソース] > [Music On Hold オーディオ ソース] の順に選択してください。</p>
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機ユーザ インターフェイスに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してのみ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p> (注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco Unified CallManager はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。</p> <p> (注) 英語以外の言語で情報を (電話機に) 表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。Cisco Unified CallManager Locale Installer の資料を参照してください。</p>
[プライバシー (Privacy)]	プライバシーを必要とする各電話機について、ドロップダウン リスト ボックスから [On] を選択します。詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。

表 74-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値 (続き)





フィールド	説明
[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]	<p>コール表示制限を設定して、内部コールが受信するすべての表示制限を無視するには、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) この設定は、変換パターンレベルで発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示の設定を組み合わせで使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。コール表示制限の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Call Display Restrictions 機能」を参照してください。</p>
[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]	CTI からこのデバイスを制御および監視できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
電話ボタン テンプレート情報	
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、電話機上のボタンの設定を決定し、各ボタンに使用される機能 (回線、短縮ダイヤルなど) を指定します。
ソフトキー テンプレート情報	
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	適切なソフトキー テンプレートを選択します。ソフトキー テンプレートは、Cisco Unified IP Phone におけるソフトキーの設定を決定します。割り当て済みのソフトキー テンプレートがデバイス プールに含まれている場合、このフィールドはブランクのままにします。
[拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)]	
[モジュール 1 (Module 1)]	14 個のボタンをもつ 7914 拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
[モジュール 2 (Module 2)]	14 個のボタンをもつ 7914 拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] (たとえば、「0000FF」)	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインを選択します。

表 74-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデフォルト デバイス プロファイルを使用するデバイスに割り当てます。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定を引き継ぎます。 • [Off]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [On]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせで、デフォルト デバイス プロファイルを設定することはできません。</p> <p> (注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで [MLPP 表示 (MLPP Indication)] をオンにすると、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の [呼出音設定 (Ring Setting)] が動作しません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデフォルト デバイス プロファイルを使用するデバイスに割り当てます。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Default]: このデバイスは、デバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定を引き継ぎます。 • [Disabled]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • [Forceful]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせで、デフォルト デバイス プロファイルを設定することはできません。</p>

■ デフォルト デバイス プロファイルの削除

表 74-1 デフォルト デバイス プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ログアウト (デフォルト) プロファイル情報 (Logged Out (Default) Profile Information)]	
[ログインユーザ ID(Login User Id)]	有効なログイン ユーザ ID を入力します。 ログアウト プロファイルとしてユーザ デバイス プロファイルが使用される場合、その電話機に関連付けられるログイン ユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザ デバイス プロファイルからログアウトした後では、その電話機はこのログイン ユーザ ID に自動的にログインされます。

追加情報

P.74-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

デフォルト デバイス プロファイルの削除

デフォルト デバイス プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス] > [デバイスの設定] > [デフォルトのデバイスプロファイル] の順に選択します。
- ステップ 2** [デバイスプロファイルデフォルト] ペインから、削除するデバイス プロファイルをクリックします。
- [デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウに、選択したプロファイルのプロファイル情報が表示されます。
- ステップ 3** [削除] をクリックします。
- この操作を実行すると取り消すことができないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** デフォルト デバイス プロファイルを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。
-

追加情報

P.74-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

サービスのデフォルト デバイス プロファイルへの登録

Cisco エクステンション モビリティのようなサービスをデフォルト デバイス プロファイルに登録するには、P.78-4 の「Cisco Unified IP Phone サービスの設定」を参照してください。

追加情報

P.74-7 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

デフォルト デバイス プロファイルの設定と更新を行うには、次のトピックを参照してください。

- [新しいデフォルト デバイス プロファイルの設定 \(P.74-2\)](#)
- [デフォルト デバイス プロファイルの削除 \(P.74-6\)](#)
- [サービスのデフォルト デバイス プロファイルへの登録 \(P.74-7\)](#)
- [デフォルト デバイス プロファイルの設定値 \(P.74-3\)](#)



デバイス プロファイルの設定

デバイス プロファイルは、特定のデバイスに関連付けられている一連の属性（サービスや機能）から構成されます。デバイス プロファイルには、名前、説明、電話テンプレート、アドオン モジュール、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報、電話番号、登録済みサービス、短縮ダイヤル情報などが含まれています。デバイス プロファイルには、自動生成とユーザの 2 種類があります。ユーザにユーザ デバイス プロファイルを割り当てると、ユーザがデバイスにログインしたときに、そのユーザに割り当てたユーザ デバイス プロファイルが、デフォルト ログイン デバイス プロファイルとしてそのデバイスにロードされます。ユーザ デバイス プロファイルが電話機にロードされると、電話機はそのデバイス プロファイルの属性を使用します。

ユーザ デバイス プロファイルは、特定のデバイスのデフォルト ログアウト デバイス プロファイルとして割り当てることができます。たとえば、ユーザが電話機からログアウトすると、ログアウト デバイス プロファイルが電話機にロードされ、ログアウト デバイス プロファイルの属性がその電話機に指定されます。[Cisco Unified CallManager の管理] ウィンドウで、ユーザ デバイス プロファイルの作成、変更、削除を実行できます。ユーザ デバイス プロファイルがログアウト デバイス プロファイルとして使用されている場合は、ユーザ デバイス プロファイルを削除できません。

特殊なデバイス プロファイルである自動生成デバイス プロファイルは、Cisco エクステンション モビリティ用に電話機を設定して、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [現在のデバイス設定を使用] を選択した場合に生成されます。自動生成デバイス プロファイルは、ログアウト デバイス プロファイルとして特定の電話機に関連付けられます。

Cisco Unified CallManager は、デバイス プロファイル デフォルトもサポートしています。ユーザ デバイス プロファイルが存在しない電話機のモデルにユーザがログインするときはいつでも、デバイス プロファイル デフォルトを使用します。Cisco エクステンション モビリティをサポートする各電話機のモデルのデバイス プロファイル デフォルトを作成するには、[デフォルトのデバイス プロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウを使用します。デバイス プロファイル デフォルトの最大数は、Cisco エクステンション モビリティをサポートする電話機のモデルの数を超えることはできません。デバイス プロファイル デフォルトの詳細については、[P.74-1 の「デフォルト デバイス プロファイルの設定」](#)を参照してください。

デバイス プロファイルの検索と設定をするには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス プロファイルの検索 \(P.75-2\)](#)
- [新規ユーザ デバイス プロファイルの設定 \(P.75-3\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.75-7\)](#)
- [自動生成されたデバイス プロファイルの更新 \(P.75-8\)](#)
- [電話番号の設定の概要 \(P.48-1\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.48-8\)](#)

デバイス プロファイルの検索

[デバイス プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles)] ウィンドウを使用して、デバイス プロファイルを検索する手順は、次のとおりです。検索と一覧表示による検索機能を使用すると、ユーザ デバイス プロファイル、自動生成デバイス プロファイル、または両方のタイプのプロファイルを検索することができます。この機能は、次のカテゴリに基づいて、あらゆるタイプのデバイス プロファイルを検索します。

- [プロファイル名]
- [説明 (Description)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]

手順

ステップ 1 [デバイス] > [デバイスの設定] > [デバイス プロファイル] の順に選択します。

[デバイス プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、表示するデバイス プロファイルのタイプを特定するための検索テキストを選択し、[検索] をクリックします。



(注) データベースに登録されているデバイス プロファイルをすべて検索するには、テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、検索条件と一致するデバイス プロファイルが表示されます。

自動生成デバイス プロファイルまたはユーザ デバイス プロファイルに進む場合：

ステップ 3 [検索] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザ]、[自動生成済]、または [すべて] を選択し、[検索] をクリックします。

ステップ 4 検索条件と一致するレコードのリストから、ユーザ デバイス プロファイルまたは自動生成デバイス プロファイルを選択します。

デバイス プロファイルを削除する場合：

ステップ 5 複数のデバイス プロファイルを一度に削除するには、最初の列にあるチェックボックスを使用します。リスト内の最初のチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックします。また、個々のユーザ デバイス プロファイルを選択して、別々に削除することもできます。



(注) 自動生成デバイス プロファイルは削除できません。ユーザ デバイス プロファイルは、電話機がログアウト プロファイルとして使用している場合は、削除できません。

追加情報

P.75-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

新規ユーザ デバイス プロファイルの設定

ユーザ デバイス プロファイルには、デバイス プロファイル名、説明、電話テンプレート、ユーザ ロケール、拡張モジュール、ソフトキー テンプレート、MLPP 情報、電話番号、登録済みのサービス、および短縮ダイヤル情報などの属性が入っています。ユーザ デバイス プロファイルを追加または更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話ボタン テンプレートが設定済みであることを確認してから手順に進んでください。詳細については、P.76-3 の「電話ボタン テンプレートの設定」を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイス]>[デバイスの設定]>[デバイスプロファイル]の順に選択します。

[デバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 新しいデバイス プロファイルを追加する場合は、[新規追加] ボタンをクリックします。[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。ステップ 3 に進みます。
- 既存のユーザ デバイス プロファイルを更新する場合は、適切なデバイス プロファイルを見つけ (P.75-2 の「デバイス プロファイルの検索」を参照)、ステップ 5 に進みます。



(注) ユーザ デバイス プロファイルを更新する前に、更新するデバイス プロファイルが Cisco Unified CallManager に設定されていることを確認してください。

ステップ 3 [デバイスプロファイルタイプ (Device Profile Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、デバイス タイプを選択します。[次へ] をクリックします。

ステップ 4 [デバイスプロファイルプロトコルの選択 (Select the device profile protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、デバイス プロファイルのプロトコルを選択します。[次へ] をクリックします。

ステップ 5 [デバイスプロファイル名 (Device Profile Name)] フィールドに、固有の名前を入力します。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。

ステップ 6 [説明 (Description)] フィールドに、このユーザ デバイス プロファイルの説明を入力します。この特定のユーザ デバイス プロファイルを説明する内容を入力してください。

ステップ 7 ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)] ドロップダウン リスト ボックスからオーディオ ソースを選択します。

オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco Unified CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。



(注) オーディオソースの定義は、[Music On Hold オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、[メディアリソース] > [Music On Hold オーディオソース] の順に選択してください。

ステップ 8 [ユーザロケール (User Locale)] ドロップダウン リストから、そのデバイスで表示する言語を選択します。

ステップ 9 コール表示制限を設定して、内部コールが受信するすべての表示制限を無視するには、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。



(注) この設定は、変換パターンレベルで発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示の設定を組み合わせで使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。コール表示制限の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。

ステップ 10 CTI がこのデバイスを制御および監視できるようにするには、[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 11 [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リストから、電話ボタン テンプレートを選択します。



ヒント プレゼンス モニタリングのためにプロファイルに BLF/ 短縮ダイヤルを設定する場合は、BLF/ 短縮ダイヤル用に設定した電話ボタン テンプレートを選択します。設定の保存後、[割り当て情報 (Association Info)] ペインに [新規 BLF SD を追加] リンクが表示されます。BLF/ 短縮ダイヤルの詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド』の「プレゼンス」を参照してください。

ステップ 12 [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、表示するソフトキー テンプレートを選択します。

ステップ 13 拡張モジュール フィールドの拡張モジュール ドロップダウン リストから電話テンプレートを選択して、このデバイス プロファイル用の 1 つまたは 2 つの拡張モジュールを設定できます。

ステップ 14 プライバシーを必要とする各電話機について、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスから [On] を選択します。詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。

ステップ 15 このユーザ デバイス プロファイルを MLPP 優先コールに使用する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから MLPP ドメインを選択します。

ステップ 16 このユーザ デバイス プロファイルを MLPP 優先コールに使用する場合、[MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定をデバイス プロファイルに割り当てます。優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデバイス プロファイルに割り当てます。オプションは次のとおりです。

- [**Default**]: このデバイス プロファイルは、関連するデバイスのデバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] 設定を引き継ぎます。
- [**Off**]: このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。
- [**On**]: このデバイス プロファイルは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。



(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトは [Off] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせで、デバイス プロファイルを設定することはできません。

ステップ 17 このユーザ デバイス プロファイルを MLPP 優先コールに使用する場合、[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定をデバイス プロファイルに割り当てます。進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデバイス プロファイルに割り当てます。オプションは次のとおりです。

- [**Default**]: このデバイス プロファイルは、関連するデバイスのデバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定を引き継ぎます。
- [**Disabled**]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。
- [**Forceful**]: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。



(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [Off] または [Default] (デフォルトが [Off] の場合) に設定し、かつ、[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [Forceful] に設定するという組み合わせで、デバイス プロファイルを設定することはできません。

ステップ 18 [ログインユーザ ID(Login User Id)] ドロップダウン リスト ボックスから、有効なログイン ユーザ ID を選択します。



(注) ログアウト プロファイルとしてユーザ デバイス プロファイルが使用される場合、その電話機に関連付けられるログイン ユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザ デバイス プロファイルからログアウトした後では、その電話機はこのログイン ユーザ ID に自動的にログインされます。

ステップ 19 [保存] をクリックします。

[割り当て情報 (Association Info)] から、プロファイルの電話番号と短縮ダイヤルを設定できます。適切な設定値については、P.48-1 の「電話番号の設定の概要」と P.70-1 の「Cisco Unified IP Phone の設定」の項、および『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の項を参照してください。

ステップ 20 [保存] をクリックします。



(注) ユーザデバイスプロファイルに加えた変更を有効にするには、デバイスにログインする必要があります。

追加情報

P.75-10 の「関連項目」を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイルの削除

ユーザ デバイス プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プロファイルがデバイスに割り当てられている場合、そのデバイス プロファイルは削除できません。デバイス プロファイルを使用しているデバイスを検索するには、[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] リンクを選択します。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。使用されているデバイス プロファイルを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているデバイス プロファイルを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するデバイス プロファイルを使用しているデバイスすべてに、別のデバイス プロファイルを割り当てる。
- 削除するデバイス プロファイルを使用しているデバイスを削除する。

手順

ステップ 1 削除するユーザ デバイス プロファイルを検索します。 [P.75-2 の「デバイス プロファイルの検索」](#)を参照してください。

ステップ 2 [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで、[削除] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 3 デバイス プロファイルを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。



(注) ユーザ デバイス プロファイルが、デフォルトのログアウト デバイス プロファイルとして設定されている場合は、そのデバイス プロファイルを削除できません。ログアウト デバイス プロファイルを削除する場合は、そのデバイス プロファイルに対するログアウト デバイス プロファイルの指定を変更し、別のデバイス プロファイルをその電話機のログアウト デバイス プロファイルとして設定する必要があります。ユーザ デバイス プロファイルがログアウト デバイス プロファイルではなくなった後、削除できます。

追加情報

[P.75-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

自動生成されたデバイス プロファイルの更新

ここでは、自動生成デバイス プロファイルの更新方法を説明します。自動生成デバイス プロファイルは変更できますが、削除したりプロファイル名を変更したりすることはできません。

始める前に

次の手順に進む前に、自動生成デバイス プロファイルが設定済みであることを確認します。詳細については、P.70-3 の「Cisco Unified IP Phone の設定」と『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「自動生成されたデバイス プロファイル」を参照してください。

手順

ステップ 1 更新する自動生成デバイス プロファイルを検索します。P.75-2 の「デバイス プロファイルの検索」を参照してください。

ステップ 2 [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウから、その自動生成デバイス プロファイルに必要な変更を加えます。次に、[保存] をクリックします。

フィールドの説明については、P.75-3 の「新規ユーザ デバイス プロファイルの設定」を参照してください。ただし、次のような相違点があります。

- [SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] を設定する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから (プレゼンス機能専用の) SUBSCRIBE コーリングサーチ スペースを選択します。SUBSCRIBE コーリングサーチ スペースによって、この自動生成デバイス プロファイルを持つ電話機からのプレゼンス要求を Cisco Unified CallManager がルーティングする方法が決まります。この設定により、この自動生成デバイス プロファイルを持つ電話機のプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に対して、コール処理サーチ スペースとは別のコーリングサーチ スペースを適用できます。

ドロップダウン リスト から、エンドユーザ用に別のコーリングサーチ スペースを選択しない場合、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] はデフォルトで [None] になります。

コーリングサーチ スペースの設定方法については、P.42-1 の「コーリングサーチ スペースの設定」を参照してください。

- [プレゼンスグループ (Presence Group)] を設定する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから (プレゼンス機能専用の) 自動生成デバイス プロファイルのプレゼンス グループを選択します。このグループにより、この自動生成デバイス プロファイルを持つ電話機が監視できる対象が指定されます。

プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定、およびプレゼンスをエクステンション モビリティと連携させる方法については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。

- 電話番号または SIP URI を監視するための BLF/ 短縮ダイヤル ボタンを追加または変更する場合は、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照します。

変更内容が、この自動生成デバイス プロファイルに表示されます。



(注) 自動生成デバイス プロファイルに加えた変更を有効にするには、デバイスからログアウトする必要があります。

追加情報

P.75-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- 自動生成デバイス プロファイルが設定済みであること。詳細については、[P.70-3](#) の「[Cisco Unified IP Phone の設定](#)」を参照してください。
- 自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号を追加するには、[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウを使用する。詳細については、[P.75-2](#) の「[デバイスプロファイルの検索](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで、このウィンドウの左側にある電話番号のリストから、新しい DN を追加する回線を選択します。

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。電話番号の設定の詳細については、[P.48-1](#) の「[電話番号の設定の概要](#)」を参照してください。

ステップ 2 適切な設定値を入力します ([P.48-8](#) の「[電話番号の設定値](#)」を参照)。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、設定された設定値が表示されます。



(注) [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウからデバイスの更新、削除、および再起動を行うには、これらの機能に対応するボタンをクリックすることもできます。電話番号を削除すると、回線からその電話番号が削除されます。この削除操作を元に戻すことはできません。

ステップ 4 [デバイスの設定] リンクをクリックして、[デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウに戻ります。

ウィンドウの左側の適切な回線に新しい電話番号が表示されます。



(注) 電話機の設定値を更新するときに、自動生成デバイス プロファイルにその電話機とは異なるデフォルト値がある場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウからログアウトデバイス プロファイルとして [現在のデバイス設定を使用] を選択すると、そのデバイスプロファイルの設定値が上書きされます。



(注) Synchronization Between Auto Device Profile and Phone Configuration エンタープライズ パラメータの値を [True](デフォルト) に設定します。この設定により、電話機が更新されたときに、自動生成デバイス プロファイルも更新されることが確実にあります。

追加情報

P.75-10 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- [デバイス プロファイルの検索 \(P.75-2\)](#)
- [新規ユーザ デバイス プロファイルの設定 \(P.75-3\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.75-7\)](#)
- [自動生成されたデバイス プロファイルの更新 \(P.75-8\)](#)

電話番号

- [電話番号の設定の概要 \(P.48-1\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.48-8\)](#)

プレゼンス

- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」



電話ボタン テンプレートの設定

Cisco Unified CallManager には、デフォルトの電話ボタン テンプレートがいくつか組み込まれています。電話機を追加するときに、これらのテンプレートから 1 つを選んで電話機に割り当てることができます。あるいは、テンプレートを新規に作成することができます。

テンプレートを新規に作成したものを使用すると、共通するボタン設定を大量の電話機に容易に割り当てることができます。たとえば、ある会社で会議機能を使用しない場合は、このボタンを別の機能（たとえば、短縮ダイヤル）に割り当て直すテンプレートを作成し、電話機にその機能を容易に割り当てることができます。

どの電話機にも、最低 1 回線が割り当てられていることを確認してください。通常、この回線は「ボタン 1」です。Cisco IP Phone のモデルによっては、追加回線を電話機に割り当てることができます。また、電話機には、一般に短縮ダイヤルや自動転送などのいくつかの機能がありますが、Cisco IP Phone でもこれらの機能はそれぞれのボタンに割り当てられます。

電話ボタン テンプレートの検索

ネットワーク内にはいくつかの電話ボタン テンプレートが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定の電話ボタン テンプレートを見つけることができます。電話ボタン テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、電話ボタン テンプレートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話ボタン テンプレートの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [デバイスの設定] > [電話ボタンテンプレート] の順に選択します。

[電話ボタン テンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Button Templates)] ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。

ステップ 2 [検索対象 : 電話ボタンテンプレート、検索条件 : 電話ボタンテンプレート] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

[および電話ボタンテンプレートがある場所] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [両方]
- [標準]
- [非標準]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されている電話ボタン テンプレートをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された電話ボタン テンプレートのリストが、電話ボタン テンプレート名別に表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する電話ボタン テンプレート名をクリックします。

選択した電話ボタン テンプレートがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.76-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話ボタン テンプレートの設定

Cisco Unified CallManager には、Cisco Unified IP Phone の各モデルに対応したデフォルト テンプレートが複数組み込まれています。電話機を追加するときに、これらのテンプレートのいずれかを電話機に割り当てることができます。または、独自のテンプレートを作成することもできます。

管理者が作成したカスタム非標準テンプレートは変更できます。また、カスタム電話ボタン テンプレートのラベルも変更できます。デフォルト テンプレートのボタンの機能は、変更できません。

カスタム非標準電話ボタン テンプレートを更新することにより、機能を追加または削除したり、回線と短縮ダイヤルを追加または削除したり、機能、回線、短縮ダイヤルを電話機上の別のボタンに割り当てることができます。デフォルト電話テンプレートのボタン ラベルは変更することができますが、ボタンの機能は変更できません。電話テンプレートを更新する場合には、必ず、影響を受けるユーザにその変更を知らせてください。

カスタム非標準テンプレートの追加、名前変更、更新、あるいは機能、回線、または短縮ダイヤルの追加、削除を行う手順は、次のとおりです。

電話機 (Cisco Unified IP Phone モデル 7960) のテンプレートを作成する場合は、自動登録中にその電話機のデフォルト テンプレートを変更できます。P.72-2 の「[デバイス デフォルトの更新](#)」を参照してください。

始める前に

カスタム非標準電話ボタン テンプレートを作成する場合は、電話ボタン テンプレートの新規作成ガイドライン (『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン」) を参照してください。

手順

ステップ 1 [[デバイス](#)] > [[デバイスの設定](#)] > [[電話ボタンテンプレート](#)] の順に選択します。

[[電話ボタン テンプレートの検索と一覧表示 \(Find and List Phone Button Templates\)](#)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の電話ボタン テンプレートの名前を変更する場合は、適切な電話ボタン テンプレートを見つけます (P.76-2 の「[電話ボタン テンプレートの検索](#)」を参照)。[[電話ボタンテンプレートの設定 \(Phone Button Template Configuration\)](#)] ページが表示されます。[[ボタンテンプレート名 \(Button Template Name\)](#)] フィールドに、新しい名前を入力します。[[保存](#)] をクリックします。テンプレートが再表示され、新しい名前を表示します。



(注) テンプレート自体の名前を変更しても、そのテンプレートを使用している電話機に影響を与えることはありません。このテンプレートを使用する Cisco IP Phone はすべて、テンプレートの名前が変更された後も、このテンプレートを引き続き使用します。名前を変更できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

- 新しい電話ボタン テンプレートを追加する場合は、[**新規追加**] ボタンをクリックします。[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。 **ステップ 3** に進みます。
- 既存の電話ボタン テンプレートを更新する場合は、適切な電話ボタン テンプレートを検索します (P.76-2 の「電話ボタン テンプレートの検索」を参照)。一致するレコードのリストから、更新する電話ボタン テンプレートを選択します。[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。 **ステップ 4** に進みます。



(注) テンプレートを更新すると、その変更は、そのテンプレートを使用するすべての電話機に反映されます。更新できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。テンプレートの更新後、[**リセット**] ボタンをクリックして、そのテンプレートを使用しているデバイスを再起動する必要があります。

ステップ 3 [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、テンプレートを選択し、[**コピー**] をクリックして新しいテンプレートを作成します。

新しいテンプレートは、既存のテンプレートからまったく同じものがコピーされます。新しいテンプレートに新しい名前を割り当てる必要があります。オリジナルのテンプレートとは異なるテンプレートが必要な場合には、この新規のテンプレートを変更する必要があります。

ステップ 4 該当する設定値を更新します (**表 76-1** を参照)。

ステップ 5 [**保存**] をクリックします。

追加情報

P.76-8 の「**関連項目**」を参照してください。

Cisco IP Phone 7914 拡張モジュールの電話ボタン テンプレートの設定

Cisco IP Phone モデル 7960 の標準電話ボタン テンプレートを使用して、Cisco IP Phone 7914 拡張モジュールの電話ボタン テンプレートを作成できます。次の手順を参照してください。

手順

- ステップ 1** P.76-2 の「電話ボタン テンプレートの検索」の手順を使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、Standard 7960 (for SCCP or SIP) 電話ボタン テンプレートを見つけ、[コピー] アイコンをクリックします。
- ステップ 3** [ボタンテンプレート名 (Button Template Name)] に、電話ボタン テンプレートの固有な名前 (たとえば「7914 Expansion Module」) を入力します。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。
- ステップ 5** [機能 (Feature)] および [ラベル (Label)] で、該当する設定値を更新します (表 76-1 を参照)。作成したボタン テンプレート名がすでに表示されています。
- ステップ 6** [保存] をクリックします。


追加情報

P.76-8 の「関連項目」を参照してください。

電話ボタン テンプレートの設定値

表 76-1 では、電話ボタン テンプレートの設定値について説明します。

表 76-1 電話ボタン テンプレートの設定値

フィールド	説明
[電話ボタンテンプレート情報 (Phone Button Template Information)]	
[ボタンテンプレート名 (Button Template Name)]	テンプレートを識別するために Cisco Unified CallManager が使用する固有の名前を入力します。
[ボタン情報 (Button Information)]	
[機能 (Feature)]	テンプレートに指定する電話ボタンの機能を選択します。利用可能な機能には、[Speed Dial] [Line] [None] [Privacy] [Service URL] があります。  (注) デフォルト電話ボタン テンプレートのボタン機能は、変更できません。
[ラベル (Label)]	ボタンの説明を入力します。

追加情報

P.76-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

電話ボタン テンプレートの削除

電話ボタン テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

システム内の電話機に現在割り当てられていない電話テンプレートを削除することができます。少なくとも 1 つのデバイスまたはデバイス プロファイルが割り当てられているテンプレート、またはモデルのデフォルト テンプレート ([デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウに指定されているもの) は、削除できません。

電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスを検索するには、[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] リンクを選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「[依存関係レコードへのアクセス](#)」を参照してください。使用されている電話ボタン テンプレートを削除しようとすると、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。現在使用されている電話ボタン テンプレートを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスすべてに、別の電話ボタン テンプレートを割り当てる。P.70-6 の「[電話機の削除](#)」を参照してください。
- 削除する電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスを削除する。P.70-6 の「[電話機の削除](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 P.76-2 の「[電話ボタン テンプレートの検索](#)」の手順を使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除する電話ボタン テンプレートを選択します。



(注) 削除できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [削除] をクリックします。



(注) 該当する電話ボタン テンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[電話ボタンテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Phone Button Templates)] ウィンドウから複数の非標準電話ボタン テンプレートを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての電話ボタン テンプレートを削除できます。削除できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

そのテンプレートを削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。

そのテンプレートが削除されたことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 5 続行するには、[OK] をクリックします。

追加情報

P.76-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [デバイス デフォルトの更新 \(P.72-2\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの検索 \(P.76-2\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの設定 \(P.76-3\)](#)
- [Cisco IP Phone 7914 拡張モジュールの電話ボタン テンプレートの設定 \(P.76-5\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの設定値 \(P.76-6\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの削除 \(P.76-7\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレート」
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」



ソフトキー テンプレートの設定

管理者は、ソフトキー テンプレートの設定を使用して、Cisco IP Phone（たとえば、モデル 7960 など）がサポートしているソフトキーを管理することができます。Cisco Unified CallManager がサポートしているソフトキー テンプレートには、標準と非標準の 2 つのタイプがあります。ソフトキーをサポートしているアプリケーションには、1 つまたは複数の標準ソフトキー テンプレートが関連付けられています。たとえば、Cisco Unified CallManager には、Standard Feature および Standard User の各ソフトキー テンプレートが関連付けられています。標準ソフトキー テンプレートは変更できません。

管理者は、ソフトキー テンプレートの設定を使用して、非標準ソフトキー テンプレートをコピー、更新、または削除することができます。

次の各項では、ソフトキー テンプレートを設定する方法について詳しく説明します。

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.77-2\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.77-4\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーションソフトキーの追加 \(P.77-5\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定 \(P.77-6\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.77-8\)](#)
- [IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て \(P.77-11\)](#)

ソフトキー テンプレートの検索

ネットワーク内にはいくつかのソフトキー テンプレートが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager の管理ページでは、固有の条件を指定して、特定のソフトキー テンプレートを見つけることができます。ソフトキー テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、ソフトキー テンプレートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ソフトキー テンプレートの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [デバイスの設定] > [ソフトキーテンプレート] の順に選択します。

[ソフトキーテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Softkey Templates)] ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象 : ソフトキーテンプレート、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [説明]



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるソフトキー テンプレート リストのソート方法が決まります。たとえば、[説明] を選択すると、[説明 (Description)] 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の [検索対象 : ソフトキーテンプレート、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列で終わる]
- [が次の文字列と等しい]
- [が空である]
- [が空ではない]

3 番目の [検索対象 : ソフトキーテンプレート、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [両方]
- [標準]
- [非標準]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているソフトキー テンプレートをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **[検索]** をクリックします。

検出されたソフトキー テンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [説明 (Description)]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する [名前 (Name)] または [説明 (Description)] をクリックします。

選択したソフトキー テンプレートがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.77-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

非標準ソフトキー テンプレートの追加

Cisco Unified CallManager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [デバイスの設定] > [ソフトキーテンプレート] の順に選択します。

[ソフトキーテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Softkey Templates)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 ドロップダウン リスト ボックスから、ソフトキー テンプレートを選択し、[コピー] をクリックして新しいテンプレートを作成します。

[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが再表示され、固有のソフトキー テンプレート名、説明、およびそのソフトキーに関連付けるアプリケーションを入力するためのフィールドが表示されます。

ステップ 4 [名前 (Name)] フィールドに、ソフトキー テンプレートを識別するための固有の名前を入力します。

ステップ 5 テンプレートの使用方法についての説明を入力します。

ステップ 6 [保存] ボタンをクリックします。

標準テンプレートがコピーされ、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが再表示されます。

ステップ 7 非標準ソフトキー テンプレートにその他のアプリケーション ソフトキーを追加する場合は、[P.77-5 の「非標準ソフトキーテンプレートへのアプリケーションソフトキーの追加」](#)を参照します。

ステップ 8 Cisco Unified IP Phone の LCD スクリーン上でソフトキーの位置を設定するには、[P.77-6 の「非標準ソフトキーテンプレートにおけるソフトキーの位置の設定」](#)を参照します。

ステップ 9 [保存] ボタンをクリックして、設定を保存します。

追加情報

[P.77-11 の「関連項目」](#)を参照してください。

非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーションソフトキーの追加

Cisco Unified CallManager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。作成した非標準ソフトキー テンプレートにアプリケーションソフトキーを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.77-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、アプリケーションソフトキーを追加するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 非標準ソフトキー テンプレートにその他のアプリケーションソフトキーを追加するために、[アプリケーションを追加] ボタンをクリックします。

[アプリケーションの追加先 (Add Application to):] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 非標準ソフトキー テンプレートに追加する標準ソフトキー テンプレートを選択します。

ステップ 5 [保存] ボタンをクリックし、[閉じる] をクリックします。

選択した標準ソフトキー テンプレートに関連するソフトキーが、非標準ソフトキー テンプレートの末尾に追加されます。重複するソフトキーは自動的に削除されます。特定のコール状態のソフトキーの数が 16 を超えると、そのコール状態のオプションのソフトキーが削除されます (最後の方から順に)。オプションのソフトキーが削除された後もソフトキーの数が 16 を超える場合は、メッセージが表示されます。

ステップ 6 [保存] ボタンをクリックして、ソフトキー セットの設定を保存します。

ステップ 7 ソフトキー テンプレートの更新を電話機で有効にするために、[リセット] ボタンをクリックします。

追加情報

P.77-11 の「関連項目」を参照してください。

非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定

Cisco Unified CallManager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。作成した非標準ソフトキー テンプレートで各コール状態に対するソフトキーの位置を設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.77-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、ソフトキーの位置を設定するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Cisco Unified IP Phone の LCD スクリーンにおけるソフトキーの位置を設定するために、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [ソフトキー レイアウトの設定] を選択します。

[ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウが表示されます。[コールステートの選択 (Select a call state to configure)] ドロップダウン リスト ボックスに、IP Phone の各 Cisco Unified CallManager コール状態が表示されます。

ステップ 4 コール状態に対するソフトキー位置を設定するために、[コールステートの選択 (Select a call state to configure)] ドロップダウン リスト ボックスからコール状態を選択します。

[ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウが再表示され、選択したコール状態に該当するソフトキーが [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] フィールドと [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] フィールドに表示されます。



ヒント ソフトキーに関連するプレースホルダーを作成する場合は、Undefined ソフトキーを追加します。この操作によって、追加したソフトキーは、すべてのコール状態で同じソフトキー位置に置かれます。

ステップ 5 あるリストから別のリストへソフトキーを移動するには、右矢印と左矢印を使用します。

ステップ 6 [選択されたソフトキー (Selected Softkeys)] の位置を再調整するには、上矢印と下矢印を使用します。

ステップ 7 [保存] ボタンをクリックして、ソフトキー セットの設定を保存します。

ステップ 8 右上隅にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [ソフトキーテンプレートの設定] リンクを選択し、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウに戻ります。

ステップ 9 [保存] ボタンをクリックして、設定を保存します。

ステップ 10 ソフトキー テンプレートの更新を電話機で有効にするために、[リセット] ボタンをクリックします。

追加情報

P.77-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ソフトキー テンプレートの変更

作成したカスタム非標準ソフトキー テンプレートに変更を加えることができます。

- [ソフトキー テンプレートの名前変更 \(P.77-8\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの削除 \(P.77-9\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの更新 \(P.77-10\)](#)

追加情報

[P.77-11](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ソフトキー テンプレートの名前変更

作成した非標準ソフトキー テンプレートの名前を変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [P.77-2](#) の「[ソフトキー テンプレートの検索](#)」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、名前を変更するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 名前を変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

[[ソフトキーテンプレートの設定 \(Softkey Template Configuration\)](#)] ページが表示されます。

- ステップ 3** [[名前 \(Name\)](#)] フィールドに、新しい名前を入力します。
- ステップ 4** [[保存](#)] ボタンをクリックします。

[[ソフトキーテンプレートの設定 \(Softkey Template Configuration\)](#)] ウィンドウが再表示され、新しいソフトキー テンプレート名が表示されます。

追加情報

[P.77-11](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ソフトキー テンプレートの削除

作成した非標準ソフトキー テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスまたはデバイス プールに現在割り当てられている非標準ソフトキー テンプレートは削除できません。非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスおよびデバイス プールを検索するには、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」を参照してください。使用されている非標準ソフトキー テンプレートを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はメッセージを表示します。現在使用されている非標準ソフトキー テンプレートを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスすべてに、別のソフトキー テンプレートを割り当てる。P.70-6 の「電話機の削除」を参照してください。
- 削除する非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスを削除する。P.70-6 の「電話機の削除」を参照してください。

手順

ステップ 1 P.77-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 削除できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [削除] ボタンをクリックします。



(注) 該当するソフトキー テンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ソフトキーテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List Softkey Templates)] ウィンドウから複数のソフトキー テンプレートを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのソフトキー テンプレートを削除できます。

そのテンプレートを削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。

■ ソフトキー テンプレートの変更

ステップ 4 [OK] ボタンをクリックします。

ソフトキー テンプレートが削除された状態で、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが再表示されます。

追加情報

P.77-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ソフトキー テンプレートの更新

作成した非標準ソフトキー テンプレートを更新する手順は、次のとおりです。テンプレート名、説明、サポートされているアプリケーション ソフトキー、およびソフトキー レイアウトは更新できません。

手順

ステップ 1 P.77-2 の「[ソフトキー テンプレートの検索](#)」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、更新するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 更新できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 変更（たとえば、アプリケーション ソフトキー セットまたはソフトキー レイアウトの追加）する設定を更新します。P.77-5 の「[非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加](#)」および P.77-6 の「[非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定](#)」を参照してください。

ステップ 4 [保存] ボタンをクリックします。

ソフトキー テンプレートが更新された状態で、[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが再表示されます。



(注) ソフトキー テンプレートの更新後、そのテンプレートを使用しているデバイスを再起動する必要があります。

ステップ 5 [リセット] ボタンをクリックして、更新されたソフトキー テンプレートを適用します。

追加情報

P.77-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て

IP Phone の設定時に、ソフトキー テンプレートを IP Phone に割り当てることができます。標準ソフトキー テンプレートおよび非標準ソフトキー テンプレートを割り当てることができます。ソフトキー テンプレートを電話機に割り当てするには、次の 2 つの方法があります。

- ソフトキー テンプレートをデバイス プール（独自に作成したもの、またはデフォルト）に割り当て、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、そのデバイス プールを電話機に割り当てる。
- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのソフトキー テンプレート フィールドで、ソフトキー テンプレートを電話機に割り当てる。

デバイス プールおよび電話機を設定する方法の詳細については、[P.9-1 の「デバイス プールの設定」](#) および [P.70-3 の「Cisco Unified IP Phone の設定」](#) を参照してください。

関連項目

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.77-2\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.77-4\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.77-8\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの名前変更 \(P.77-8\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの削除 \(P.77-9\)](#)
- [IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て \(P.77-11\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ソフトキー テンプレート」

ソフトキーの英日対応表

この章で説明した画面では、ソフトキーは英語で表示されます。日本語表示の IP Phone のレイアウトを変更する場合は、表 77-1 を参考にしてください。

表 77-1 ソフトキー英日対応表

英	日	英	日
Backward (<<)	<<	Join	参加 (サンカ)
Answer	応答 (オウトウ)	Toggle Malicious Call Trace (MCID)	迷惑呼 (メイワクコ)
Barge	割込み (ワリコミ)	Meet Me	ミー トミー
Call Back	折返し (オリカエシ)	NewCall	発信 (ハッシン)
Conference Bridge (cBarge)	C 割込 (C ワリコミ)	Other Pickup (oPickUp)	他 Grp (ソノタ Grp)
Forward All (CFwdAll)	不在 (フザイ)	Park	パーク
Conference List (ConfList)	参加者 (サンカシャ)	Pick Up	ピック
Conference (Confrm)	会議 (カイギ)	Quality Report Tool (QRT)	品質 (ヒンシツ)
Direct Transfer(DirTrfr)	D 転送 (D テンソウ)	Redial	リダイヤル
Toggle Send All Calls (DivAll)	アシスタント	Resume	復帰 (フッキ)
Toggle Do Not Disturb (DND)	DND	Remove Last Conference Party (RmLstC)	ドロップ
End Call	終了 (シュウリョウ)	Select	選択 (センタク)
Group Pick Up (GPickUp)	G ピック	Toggle Watch On/Off (SetWtch)	モニタ
Hold	保留 (ホリユウ)	Transfer (Trnsfer)	転送 (テンソウ)
Immediate Divert (iDivert)	即転送 (ソクテンソウ)	Transfer To Voice Mail (TrnsfVM)	VM転送 (VMテンソウ)
Immediate Divert (ImmDiv)	即転送 (ソクテンソウ)	Video Mode Command (VidMode)	ビデオ
Intercept (Intrcpt)	キャッチ		



Cisco Unified IP Phone サービスの設定

システム管理者は Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して、ユーザがサイトで登録できる Cisco Unified IP Phone サービスのリストを設定し、保持します。Cisco Unified IP Phone サービスは、複数の XML アプリケーションから構成されています。これらのアプリケーションにより、Cisco Unified IP Phone 7970、7960、7940、7912 上に、テキストとグラフィックスを使用した対話式のコンテンツを表示することができます。



(注)

Cisco Unified IP Phone 7912 および 7905 は、テキストベースの XML アプリケーションのみをサポートしています。

Cisco Unified CallManager は、Cisco Unified IP Phone サービスのサンプルアプリケーションを備えています。また、ご使用のサイトに合せてカスタマイズされた Cisco Unified IP Phone アプリケーションを作成することもできます。

サービスのリストを設定すると、データベース内の電話機にサービスを追加して電話ボタンに割り当てることができます。Cisco Unified CallManager の管理ページで、電話機とデバイス プロファイルの設定値を表示し、変更することができます。ユーザは、Cisco Unified IP Phone User Options アプリケーションにログインし、システム管理者が設定した Cisco Unified IP Phone 用のサービスに登録することができます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco Unified IP Phone サービスの検索 \(P.78-2\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスの設定 \(P.78-4\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスの設定値 \(P.78-5\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスの削除 \(P.78-6\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスパラメータの設定 \(P.78-7\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスパラメータの設定値 \(P.78-8\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスパラメータの削除 \(P.78-9\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスの電話ボタンへの追加 \(P.78-10\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「Cisco Unified IP Phone サービス」

Cisco Unified IP Phone サービスの検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco Unified IP Phone サービスが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定の Cisco Unified IP Phone サービスを見つけることができます。Cisco Unified IP Phone サービスを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、Cisco Unified IP Phone サービスの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco Unified IP Phone サービスのグループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [デバイスの設定] > [IP Phone サービス] の順に選択します。

[IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco Unified IP Phone サービスを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象 : IP Phone サービス、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [IP Phone サービス]
- [サービスの説明]

2 番目の [検索対象 : IP Phone サービス、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている Cisco Unified IP Phone サービスをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出された Cisco Unified IP Phone サービスのリストが、次の項目別に表示されます。

- [IP Phone サービス (IP Phone Service)]
- [説明 (Description)]



(注) 該当する Cisco Unified IP Phone サービスの横にあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、[IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウから複数の Cisco Unified IP Phone サービスを削除できます。[**すべてを選択**] をクリックして [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Cisco Unified IP Phone サービスを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する [IP Phone サービス (IP Phone Service)] または [説明 (Description)] をクリックします。

選択した Cisco Unified IP Phone サービスがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.78-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified IP Phone サービスの設定

Cisco Unified IP Phone サービスを追加または更新する手順は、次のとおりです。



注意

Cisco Unified IP Phone サービスは、サイトの Cisco Unified CallManager サーバ上、または Cisco Unified CallManager に関連付けられているサーバ、たとえば、TFTP サーバやディレクトリ データベース パブリッシャ サーバ上に設定しないでください。サーバを分離することにより、Cisco Unified IP Phone サービスのアプリケーションのエラーが原因で、Cisco Unified CallManager のパフォーマンスが影響を受けたり、コール処理サービスが中断される可能性がなくなります。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [デバイスの設定] > [IP Phone サービス] の順に選択します。

[IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- Cisco Unified IP Phone サービスを追加する場合は、[**新規追加**] ボタンをクリックします。[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウが表示されます。 [ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の Cisco Unified IP Phone サービスを更新する(たとえば、サービス URL などの情報を変更する)場合は、適切な Cisco Unified IP Phone サービスを見つけます ([P.78-2 の「Cisco Unified IP Phone サービスの検索」](#)を参照)。更新する Cisco Unified IP Phone サービスの名前をクリックし、 [ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します ([表 78-1](#) を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

必要に応じて、パラメータを追加、更新、または削除できます。 [P.78-7 の「Cisco Unified IP Phone サービスパラメータの設定」](#) および [P.78-9 の「Cisco Unified IP Phone サービスパラメータの削除」](#) を参照してください。

ステップ 5 [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。

- サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、[**登録の更新**] をクリックして、すべてのユーザサブスクリプションを作成し直します。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービスパラメータを削除した場合、または電話サービスパラメータの名前を変更した場合です。



(注)

ユーザが加入している電話サービスに対して、サービス URL を変更したり、Cisco Unified IP Phone サービスパラメータを削除したり、電話サービスパラメータの名前を変更したりする場合は、必ず、[**登録の更新**] をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新し、その変更内容を反映させてください。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

- 選択したサービスが最新で、ユーザ サブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、[保存] をクリックします。

追加情報

P.78-10 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Unified IP Phone サービスの設定値

表 78-1 では、Cisco Unified IP Phone サービスの設定値について説明します。Cisco Unified IP Phone サービス パラメータの設定値については、表 78-2 を参照してください。関連する手順の詳細については、P.78-10 の「関連項目」を参照してください。

表 78-1 Cisco Unified IP Phone サービスの設定値

フィールド	説明
[サービス情報 (Service Information)]	
[サービス名 (Service Name)]	Cisco Unified IP Phone User Options アプリケーションの利用可能なサービスのメニューに表示される、サービスの名前を入力します。入力できるサービス名は最大 32 文字です。このフィールドの値が表示される電話機の種類にご注意ください。対象に漢字未対応の電話機が含まれる場合は、状況により半角カタカナあるいは ASCII 文字を使用するようにしてください。また、電話機のユーザロケールが複数存在する場合は、共通する文字セットを使用してください。
[ASCII サービス名 (ASCII Service Name)]	電話機が Unicode を表示できない場合に表示するサービス名を入力します。
[サービスの説明]	サービスが提供するコンテンツの説明を入力します。
[サービス URL (Service URL)]	Cisco Unified IP Phone サービスのアプリケーションが置かれているサーバの URL を入力します。このサーバが、Cisco Unified CallManager クラスタ内のサーバとは無関係であることを確認してください。Cisco Unified CallManager サーバ、または Cisco Unified CallManager に関連したサーバ、たとえば、TFTP サーバやディレクトリ データベース パブリッシャ サーバは指定しないでください。 サービスを使用するには、Cisco Unified CallManager クラスタ内の電話機が、サーバとネットワーク接続する必要があります。

Cisco Unified IP Phone サービスの削除

Cisco Unified IP Phone サービスを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Unified IP Phone サービスを削除すると、Cisco Unified CallManager は、すべてのサービス情報、ユーザ サブスクリプション、およびユーザ サブスクリプション データをデータベースから削除します。Cisco Unified IP Phone サービスを使用しているデバイスを検索するには、[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。使用されている Cisco Unified IP Phone サービスを削除しようとする、Cisco Unified CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている Cisco Unified IP Phone サービスを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する Cisco Unified IP Phone サービスを使用しているデバイスすべてに、別の Cisco Unified IP Phone サービスを割り当てる。[P.70-6 の「電話機の削除」](#)を参照してください。
- 削除する Cisco Unified IP Phone サービスを使用しているデバイスを削除する。[P.70-6 の「電話機の削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [P.78-2 の「Cisco Unified IP Phone サービスの検索」](#)の手順を使用して、Cisco Unified IP Phone サービスを検索します。

ステップ 2 削除する IP Phone サービスの名前をクリックします。

[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [削除] をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、その Cisco Unified IP Phone サービスがデータベースから削除されます。

追加情報

[P.78-10 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco Unified IP Phone サービス パラメータの設定

Cisco Unified IP Phone サービス パラメータを追加して設定する、または更新する手順は、次のとおりです。パラメータを設定する前に、電話サービスを追加してください。サービスがパラメータを使用するかどうか、パラメータを設定する方法、およびオプションのパラメータを定義するかどうかについては、各 Cisco Unified IP Phone サービスの資料を参照してください。

手順

ステップ 1 P.78-2 の「Cisco Unified IP Phone サービスの検索」の手順を使用して、Cisco Unified IP Phone サービスを検索します。

ステップ 2 [IP Phone サービス (IP Phone Service)] リストから、パラメータの追加または既存のパラメータの更新を行うサービスを選択します。

[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 次のいずれかの作業を行います。

- 新しい電話サービス パラメータを追加する場合は、[パラメータ (Parameters)] リスト ボックスの右側にある [新規] ボタンをクリックします。[Cisco IP Phone サービス パラメータを設定 (Configure Cisco IP Phone Service Parameter)] ウィンドウが表示されます。[ステップ 4](#) に進みます。
- 既存のパラメータを更新する場合は、[パラメータ (Parameters)] リスト ボックスで、更新するパラメータの名前を選択します。[編集] をクリックし、[ステップ 4](#) に進みます。

ステップ 4 適切な設定値を入力します ([表 78-2](#) を参照)。

新規パラメータを追加するには、[保存] をクリックします。続けて他のパラメータを追加する場合は、必要に応じて、[Cisco IP Phone サービス パラメータを設定 (Configure Cisco IP Phone Service Parameter)] ウィンドウで [新規追加] をクリックし、[ステップ 3](#) および [ステップ 4](#) を繰り返します。最後のパラメータを追加する場合は、[保存して閉じる] をクリックします。

更新対象のパラメータに変更内容を適用するには、[保存] をクリックします。変更内容を適用した後、ウィンドウを閉じるには、[保存して閉じる] をクリックします。

ステップ 5 [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。

- サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、[登録の更新] をクリックして、すべてのユーザ サブスクリプションを作成し直します。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービス パラメータを削除した場合、または電話サービス パラメータの名前を変更した場合です。



(注)

ユーザが加入している電話サービスに対して、Cisco Unified IP Phone サービス パラメータを削除したり、電話サービス パラメータの名前を変更したりする場合は、必ず、[登録の更新] をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新して、その変更内容を反映させてください。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

- 選択したサービスが最新で、ユーザ サブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、[保存] をクリックします。

追加情報

P.78-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unified IP Phone サービス パラメータの設定値

表 78-2 では、Cisco Unified IP Phone サービス パラメータの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.78-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 78-2 Cisco Unified IP Phone サービス パラメータの設定値

フィールド	説明
[サービスパラメータ情報 (Service Parameter Information)]	
[パラメータ名]	登録 URL の作成時に使用する正確なクエリー スtring パラメータ、たとえば、「symbol」を入力します。
[パラメータ表示名]	Cisco Unified IP Phone User Options アプリケーションでユーザに対して表示される内容を表すパラメータ名、たとえば、「Ticker Symbol」を入力します。
[デフォルト値]	パラメータのデフォルト値を入力します。この値は、サービスの最初の登録時にユーザに対して表示されます（たとえば、「CSCO」）。
[パラメータの説明]	パラメータの説明を入力します。ユーザは、サービスに登録する際、ここに入力されたテキストにアクセスできます。このパラメータの説明では、ユーザがそのパラメータに正しい値を入力するために役立つ情報や例を提供します。
[パラメータが必須]	登録を保存する前に、ユーザがこのパラメータにデータを入力する必要がある場合は、[パラメータが必須] チェックボックスをオンにします。
[パラメータはパスワードです (マスクコンテンツ)]	Cisco Unified IP Phone User Options アプリケーション内の入力内容を隠すことができます。したがって、実際にユーザが入力した内容ではなく、アスタリスクが表示されます。他人に見られにくいパスワードのパラメータなどに対して、使用することができます。パラメータの入力内容を隠すには、[Cisco Unified CallManager の管理] の [Cisco IP Phone サービス パラメータを設定 (Configure Cisco IP Phone Service Parameter)] ウィンドウで、[パラメータはパスワードです (マスク コンテンツ)] チェックボックスをオンにします。

Cisco Unified IP Phone サービスパラメータの削除

Cisco Unified IP Phone サービスパラメータを削除する手順は、次のとおりです。



(注)

ユーザが加入している電話サービスに対して、電話サービスパラメータを削除したり、電話サービスパラメータの名前を変更したりする場合は、[登録の更新]をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新して、その変更内容を反映させる必要があります。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

手順

ステップ 1 P.78-2 の「Cisco Unified IP Phone サービスの検索」の手順を使用して、Cisco Unified IP Phone サービスを検索します。

ステップ 2 [IP Phone サービス (IP Phone Service)] リストから、パラメータを削除する電話サービスを選択します。

ステップ 3 [パラメータ (Parameters)] リスト ボックスで、削除するパラメータの名前を選択します。

ステップ 4 [削除] をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 5 [OK] をクリックして、削除を確認します。

ステップ 6 [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。

- サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、[登録の更新]をクリックして、すべてのユーザサブスクリプションを作成し直します。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービスパラメータを削除した場合、または電話サービスパラメータの名前を変更した場合です。
- 選択したサービスが最新で、ユーザサブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、[保存]をクリックします。

追加情報

P.78-10 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Unified IP Phone サービスの電話ボタンへの追加

Cisco Unified IP Phone サービスを追加するだけでなく、電話機でユーザが使用できるように、サービス URL として設定されている電話ボタンにサービスを割り当てることができます。これを行うと、IP Phone のサービス ボタンを使用しないで、1 つのボタンでサービスにアクセスできます。

サービス URL にサービスを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CallManager にサービスを追加します (P.78-4 の「Cisco Unified IP Phone サービスの設定」を参照)。
 - ステップ 2** サービス URL ボタンを設定して、電話ボタン テンプレートをカスタマイズします (P.76-3 の「電話ボタン テンプレートの設定」を参照)。
 - ステップ 3** カスタマイズした電話ボタン テンプレートを電話に追加します (P.70-3 の「Cisco Unified IP Phone の設定」を参照)。
 - ステップ 4** サービスを電話機に登録します (P.70-27 の「Cisco Unified IP Phone サービスの設定」を参照)。
 - ステップ 5** サービス URL を電話ボタンに追加します (P.70-30 の「サービス URL ボタンの設定」を参照)。
-

関連項目

- [Cisco Unified IP Phone サービスの検索 \(P.78-2 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスの設定 \(P.78-4 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスの設定値 \(P.78-5 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスの削除 \(P.78-6 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービス パラメータの設定 \(P.78-7 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービス パラメータの設定値 \(P.78-8 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービス パラメータの削除 \(P.78-9 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone サービスの電話ボタンへの追加 \(P.78-10 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone サービス」



SIP プロファイルの設定

SIP プロファイルは、SIP トランクおよび SIP エンドポイントに関連付けられている一連の SIP 属性から構成されます。SIP プロファイルには、名前、説明、タイミング、リトライ、コール ピックアップ URI などの情報が含まれます。このプロファイルには、削除も変更もできない標準エントリがいくつかあります。

SIP プロファイルの検索と設定をするには、次のトピックを参照してください。

- [SIP プロファイルの検索 \(P.79-2\)](#)
- [SIP プロファイルの設定 \(P.79-3\)](#)
- [SIP プロファイルの設定値 \(P.79-4\)](#)
- [SIP プロファイルの削除 \(P.79-10\)](#)
- [SIP プロファイルのリセット \(P.79-11\)](#)
- [関連項目 \(P.79-11\)](#)

SIP プロファイルの検索

[SIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SIP Profiles)] ウィンドウを使用して、SIP プロファイルを検索する手順は、次のとおりです。この機能は、次のカテゴリに基づいて、あらゆるタイプの SIP プロファイルを検索します。

- [名前]
- [説明]

手順

ステップ 1 [デバイス] > [デバイスの設定] > [SIP プロファイル] の順に選択します。

[SIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SIP Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、表示する SIP プロファイルのタイプを特定するための検索テキストを選択し、[検索] をクリックします。



(注) データベースに登録されている SIP プロファイルをすべて検索するには、テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、検索条件と一致する SIP プロファイルが表示されます。

ステップ 3 検索条件と一致するレコードのリストから、SIP プロファイルを選択します。

ステップ 4 [SIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SIP Profiles)] ウィンドウから複数の SIP プロファイルを削除するには、該当する SIP プロファイルの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックします。ウィンドウ内のすべての SIP プロファイルを選択するには、[すべてを選択] ボタンをクリックします。その後、[選択項目の削除] をクリックします。

追加情報

P.79-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

SIP プロファイルの設定

SIP プロファイルを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [デバイスの設定] > [SIP プロファイル] の順に選択します。

[SIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SIP Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の SIP プロファイルをコピーする場合は、適切な SIP プロファイルを見つけ (P.79-2 の「SIP プロファイルの検索」を参照)、コピーする SIP プロファイルの横にある [コピー] ボタンをクリックして、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しい SIP プロファイルを追加する場合は、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の SIP プロファイルを更新する場合は、適切な SIP プロファイルを見つけ (P.79-2 の「SIP プロファイルの検索」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 79-1 を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.79-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

SIP プロファイルの設定値

表 79-1 では、[SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.79-11 の「関連項目」を参照してください。

表 79-1 SIP プロファイルの設定値

フィールド	説明
[SIP プロファイル情報 (SIP Profile Information)]	
[名前]	SIP プロファイルを識別する名前を入力します (たとえば「SIP_7905」)。この値には、1 ~ 50 文字 (英数字、ドット、ダッシュ、または下線を含む) を指定できます。
[説明]	SIP プロファイルの目的を指定します (たとえば「SIP for Model 7970」)。
[デフォルト MTP テレフォニー イベントペイロードタイプ (Default MTP Telephony Event Payload Type)]	<p>RFC2833 テレフォニー イベントのデフォルト ペイロード タイプを指定します。詳細については、RFC 2833 を参照してください。ほとんどの場合は、デフォルト値が適切なペイロード タイプです。変更すると DTMF トーンの受信や生成ができなくなる可能性があるため、必ずこのパラメータをよく理解した上で変更してください。デフォルト値は 101 です。96 ~ 127 の範囲で指定できます。</p> <p>このパラメータの値は、次の状態のコールに影響を及ぼします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コールが Cisco Unified CallManager からの発信 SIP コールである。 • 発信 SIP トランクに対して、SIP の [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウの [メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンである。
[アプリケーションによるリダイレクト (Redirect by Application)]	<p>このチェックボックスをオンにして、SIP トランクにこの SIP プロファイルを設定すると、Cisco Unified CallManager 管理者は次の操作を行うことができますようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3xx 応答で受信されるリダイレクト コンタクトに特定のコーリング サーチ スペースを適用する。 • リダイレクト コンタクトにディジット分析を適用し、コールが正しくルーティングされることを確認する。 • サービス パラメータが設定できるリダイレクション (再帰リダイレクション) の数を制限することにより、DOS 攻撃 (サービス拒否攻撃) を防止する。 • リダイレクション中に他の機能を起動できるようにする。 <p>制限付きの電話番号 (国際番号など) にリダイレクトされるということは、スタック レベルでリダイレクションを処理すると、コールはブロックされずにルーティングされることを意味します。これは、[アプリケーションによるリダイレクト (Redirect by Application)] チェックボックスがオフの場合の動作です。</p> <p>『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「リダイレクション」を参照してください。</p>

表 79-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)


フィールド	説明
[180 で早期メディアを無効化 (Disable Early Media on 180)]	<p>デフォルトでは、Cisco Unified CallManager は、180 応答または 183 応答で SDP が受信されない場合、ローカル リングバックを再生するように、発信側の電話機に信号を送ります。180 応答または 183 応答に SDP が含まれている場合、ローカルでリングバックが再生されず、Cisco Unified CallManager はメディアを接続し、発信側の電話機は着信側のデバイスが送信するトーン (リングバックやビジー信号など) を再生します。リングバックを受信しない場合は、接続先のデバイスが 180 応答に SDP を含めているが、200OK 応答の前にメディアを送信していない可能性があります。その場合は、このチェックボックスをオンにして、発信側の電話機でローカル リングバックを再生し、200OK 応答の受信時にメディアを接続します。</p> <p> (注) リングバックを受信する電話機は発信側の電話機ですが、着信側デバイスのプロファイル設定でこの動作が決まるため、着信側デバイスのプロファイルでこの設定が必要となります。</p> <p>『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「初期メディアの使用」を参照してください。</p>
[電話で使用されるパラメータ (Parameters used in Phone)]	
[インバイトのタイムアウト値 (Timer Invite Expires、秒)]	SIP INVITE が期限切れになるまでの時間を秒数で指定します。Expires ヘッダーはこの値を使用します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 180 です。
[レジスタの再送間隔 (Timer Register Delta、秒)]	このパラメータは、[レジスタのタイムアウト値 (Timer Register Expires)] の設定値と共に使用します。電話機は、登録期間が終わる [レジスタの再送間隔 (Timer Register Delta)] 秒前に再登録します。登録期間は、SIP Station Keepalive Interval サービス パラメータの値によって決まります。有効値の範囲は 32767 ~ 0 です。デフォルトは 5 です。
[レジスタのタイムアウト値 (Timer Register Expires、秒)]	SIP 電話機が REGISTER メッセージの Expires ヘッダーで送信する値を指定します。有効値は任意の正数です。デフォルト値は 3600 (1 時間) です。REGISTER への 200OK 応答で、Cisco Unified CallManager は、SIP Station KeepAlive Interval サービス パラメータの設定値を含む Expires ヘッダーを指定します。200OK 内のこの値によって、登録が期限切れになるまでの時間 (秒数) が決まります。電話機は、この期間が終わる [レジスタの再送間隔 (Timer Register Delta)] 秒前に登録をリフレッシュします。
[タイマー T1 (Timer T1、ミリ秒)]	SIP メッセージの再送信タイマーの最小値をミリ秒数で指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 500 です。
[タイマー T2 (Timer T2、ミリ秒)]	SIP メッセージの再送信タイマーの最大値をミリ秒数で指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 4000 です。
[インバイトの再試行値 (Retry INVITE)]	INVITE 要求が再送信される最大回数を指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 6 です。
[非インバイトの再試行値 (Retry Non-INVITE)]	INVITE 要求以外の SIP メッセージが再送信される最大回数を指定します。有効値は任意の正数です。デフォルトは 10 です。

表 79-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[開始メディアポート (Start Media Port)]	メディア用の Real-Time Protocol (RTP) ポート範囲の始まりを指定します。メディア ポート範囲は 16384 ~ 32766 です。デフォルトは 16384 です。
[終了メディアポート (Stop Media Port)]	メディア用の Real-Time Protocol (RTP) ポート範囲の終わりを指定します。メディア ポート範囲は 16384 ~ 32766 です。デフォルトは 32766 です。
[コールピックアップ URI(Call Pickup URI)]	この URI では、SIP 電話機がコール ピックアップ機能を起動するために Cisco Unified CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。
[コールピックアップグループ別 URI(Call Pickup Group Other URI)]	この URI では、SIP 電話機がコール ピックアップグループの他の機能を起動するために Cisco Unified CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。
[コールピックアップグループ URI(Call Pickup Group URI)]	この URI では、SIP 電話機がコール ピックアップグループ機能を起動するために Cisco Unified CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。
[ミートミーサービス URI(Meet Me Service URI)]	この URI では、SIP 電話機が Meet-Me 会議機能を起動するために Cisco Unified CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。
[コール転送 URI(Call Forward URI)]	この URI では、SIP 電話機が自動転送機能を起動するために Cisco Unified CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。
[固定短縮ダイヤル URI(Abbreviated Dial URI)]	この URI では、SIP 電話機が固定短縮ダイヤル機能を起動するために Cisco Unified CallManager に送信する固有のアドレスを指定します。 回線キーに関連付けられていない短縮ダイヤル (固定短縮ダイヤルインデックス) は、電話機にダウンロードされません。電話機は、機能表示メカニズム (Call-Info ヘッダーを含む INVITE) を使用して、固定短縮ダイヤル番号がいつ入力されたかを示します。要求 URI には固定短縮ダイヤル デジット (たとえば 14) が含まれ、Call-Info ヘッダーには固定短縮ダイヤル機能が示されます。Cisco Unified CallManager は、固定短縮ダイヤル デジットを、設定済みの数字列に変換し、コールをその数字列で拡張します。固定短縮ダイヤル デジットに対して数字列が設定されていない場合、電話機に 404 Not Found 応答が返されます。
[ユーザ情報 (User Info)]	REGISTER メッセージ内の user= パラメータを設定します。 有効値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • [None]: 値は挿入されません。 • [Phone]: REGISTER の To ヘッダー、From ヘッダー、および Contact ヘッダーに user=phone という値が挿入されます。 • [IP]: REGISTER の To ヘッダー、From ヘッダー、および Contact ヘッダーに user=ip という値が挿入されます。

表 79-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[DTMF DB レベル (DTMF DB Level)]	<p>インバンド DTMF デジットのトーン レベルを指定します。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 : [6 dB below nominal] • 2 : [3 dB below nominal] • 3 : [Nominal] • 4 : [3 dB above nominal] • 5 : [6 dB above nominal]
[コール保留時の呼び出し音 (Call Hold Ring Back)]	<p>保留中のコールがある状態で別のコールで話をしていて、そのコールを切った場合、このパラメータがオンであると、電話機の呼び出し音が鳴って、まだ他に保留中の相手がいることを通知されます。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Off]: 常に使用不可です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。 • [On]: 常に使用可能です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。
[匿名コールブロック (Anonymous Call Block)]	<p>番号非通知呼び出しのブロックを設定します。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Off]: 常に使用不可です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。 • [On]: 常に使用可能です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。
[発信者 ID ブロック (Caller ID Blocking)]	<p>発信者 ID のブロックを設定します。ブロックが使用可能である場合、電話機はそれ自身の番号または電子メール アドレスを、発信者識別が使用可能な電話機からブロックします。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Off]: 常に使用不可です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。 • [On]: 常に使用可能です。ユーザ インターフェイスを使用してローカルでオン / オフを切り替えることはできません。
[サイレントコントロール (Do Not Disturb Control)]	<p>Do Not Disturb (DND) 機能を設定します。有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [User controlled](デフォルト): 電話機の dndControl パラメータが 0 になります。 • [Admin Controlled]: 電話機の dndControl パラメータが 2 になります。

表 79-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)



フィールド	説明
[7940 と 7960 の Telnet レベル (Telnet Level for 7940 and 7960)]	<p>Cisco SIP IP Phone モデル 7940 と 7960 は、ログイン アクセス用の SSH をサポートせず、ログ収集に使用される HTTP もサポートしません。ただし、これらの電話機は、Telnet をサポートします。ユーザは、Telnet を使用して、電話機を制御したり、デバッグを収集したり、設定値を表示したりできます。このフィールドでは、指定可能な次の値で telnet_level 設定パラメータを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled](アクセス不能) • [Limited](一部のアクセスは可能だが、特権コマンドを実行できない) • [Enabled](フルアクセス)
[キープアライブのタイムアウト値 (Timer Keep Alive Expires、秒)]	<p>Cisco Unified CallManager は、冗長性のサポートにキープアライブメカニズムを必要とします。このフィールドでは、フェールオーバーが必要になったときにバックアップ Cisco CallManager が使用可能であることを保証するために、バックアップ Cisco Unified CallManager に送信されるキープアライブメッセージの間隔を指定します。</p>
[サブスクライプのタイムアウト値 (Timer Subscribe Expires、秒)]	<p>サブスクリプションが期限切れになるまでの時間を秒数で指定します。この値は、Expires ヘッダー フィールドに挿入されます。有効値は任意の正数です。デフォルト値は 120 です。</p>
[サブスクライプの再送間隔 (Timer Subscribe Delta、秒)]	<p>このパラメータは、[サブスクライプのタイムアウト値 (Timer Subscribe Expires)] の設定値と共に使用します。電話機は、サブスクリプション期間([サブスクライプのタイムアウト値 (Timer Subscribe Expires)])によって管理)が終わる[サブスクライプの再送間隔 (Timer Subscribe Delta)] 秒前に再サブスクライブします。有効値の範囲は 3 ~ 15 です。デフォルトは 5 です。</p>
[最大リダイレクト (Maximum Redirections)]	<p>この設定変数を使用して、コールをドロップする前に電話機がコールのリダイレクトを許可する最大回数を指定します。デフォルトは 70 回のリダイレクトです。</p>
[オフフックから最初の数字タイマー (Off Hook To First Digit Timer、マイクロ秒)]	<p>電話の受話器が外されてから最初のディジット タイマーが設定されるまでの経過時間をミリ秒数で指定します。値は 0 ~ 15,000 ミリ秒です。デフォルトは 15,000 ミリ秒です。</p>
[会議参加が有効 (Conference Join Enabled)]	<p>このチェックボックスでは、SIP IP Phone 7940 または 7960 を使用している会議開始者が電話を切った場合、その電話機が残りの会議参加者を参加させようとするかどうかを指定します。残りの会議参加者を参加させる場合は、このチェックボックスをオンにします。残りの会議参加者を参加させない場合は、このチェックボックスをオフのままにします。</p> <p> (注) このチェックボックスは、SRST モードの Cisco SIP IP Phone 7941/61/70/71/11 だけに適用されます。</p>
[RFC 2543 保留 (RFC 2543 Hold)]	<p>コール保留の信号が Cisco Unified CallManager に送信される場合、RFC2543 に従って接続アドレスを 0.0.0.0 に設定できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。この操作により、RFC3264 をサポートしないエンドポイントとの下位互換性を確保できます。</p>

表 79-1 SIP プロファイルの設定値 (続き)

フィールド	説明
[準在席転送 (Semi Attended Transfer)]	<p>このチェックボックスでは、Cisco SIP IP Phone 7940 および 7960 の発信者が、コールの呼び出し音が鳴っているときに、在席転送の 2 番目のレグを転送できるかどうかを指定します。準在席転送を使用可能にする場合は、このチェックボックスをオンにします。準在席転送を使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。</p> <p> (注) このチェックボックスは、SRST モードの Cisco SIP IP Phone 7941/61/70/71/11 だけに適用されます。</p>
[VAD の有効化 (Enable VAD)]	<p>Voice Activation Detection (VAD) を使用可能にする場合は、このチェックボックスをオンにします。VAD を使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。VAD が使用可能である場合、音声検出時にメディアは伝送されません。</p>
[スタッタメッセージ待機 (Stutter Message Waiting)]	<p>電話機がオフフックになったときにメッセージが待機していると、スタッター ダイアル トーンが聞こえるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。メッセージが待機していてもスタッター ダイアル トーンが聞こえないようにする場合は、オフのままにします。</p>
[コールの統計 (Call Stats)]	<p>BYE 要求および BYE 応答の RTP 統計情報を使用可能にする場合は、このチェックボックスをオンにします。BYE 要求および BYE 応答の RTP 統計情報を使用不可にする場合は、オフのままにします。</p> <p>このチェックボックスがオンである場合、電話機は次のようなヘッダー RTP-RxStat および RTP-TxStat を挿入します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • RTP-RxStat:Dur=a,Pkt=b,Oct=c,LatePkt=d,LostPkt=e,AvgJit=f • RTP-TxStat: Dur=g,Pkt=h,Oct=i <p>それぞれの説明は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Dur : 受信開始または送信開始からの合計秒数。 • Pkt : 受信または送信された RTP パケットの合計数。 • Oct : 受信または送信された RTP ペイロード オクテットの合計数 (RTP ヘッダーは含みません)。 • LatePkt : 受信された RTP パケットの合計遅延数。 • LostPkt : 受信された RTP パケットの合計損失数 (RTP パケットの遅延は含みません)。 • AvgJit : 平均ジッタ。これは、タイムスタンプ単位で測定され、RFC 1889 に従って算出された、RTP パケット到達時間ごとの統計的なばらつきの概算値です。 • a、b、c、d、e、f、g、h、i : 整数。

SIP プロファイルの削除

SIP プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

SIP プロファイルを使用しているデバイスを検索するには、[SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] リンクを選択します。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 削除する SIP プロファイルを見つけます。[P.79-2 の「SIP プロファイルの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 2** [SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウで、[削除] をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 3** SIP プロファイルを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。
-

追加情報

[P.79-11 の「関連項目」](#)を参照してください。

SIP プロファイルのリセット

SIP プロファイルをリセットする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CallManager の管理] で、[デバイス] > [デバイスの設定] > [SIP プロファイル] の順に選択します。

ステップ 2 リセットする SIP プロファイルを見つけます。P.79-2 の「[SIP プロファイルの検索](#)」を参照してください。

ステップ 3 リセットする SIP プロファイルをクリックします。

[SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [リセット] をクリックします。

[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログが表示されます。

ステップ 5 次のいずれかの項目をクリックします。

- [リスタート]: 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動する (Cisco Unified CallManager に電話機とトランクを再登録する)。
- [リセット]: デバイスをシャットダウンして、もう一度起動する。
- [閉じる]: 何も実行しないで、[デバイスリセット (Device Reset)] ダイアログを閉じる。

追加情報

P.79-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [SIP プロファイルの検索 \(P.79-2 \)](#)
- [SIP プロファイルの設定 \(P.79-3 \)](#)
- [SIP プロファイルの設定値 \(P.79-4 \)](#)
- [SIP プロファイルの削除 \(P.79-10 \)](#)
- [SIP プロファイルのリセット \(P.79-11 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-3 \)](#)
- [トランクの設定 \(P.71-3 \)](#)
- 『 Cisco Unified CallManager システム ガイド 』の「[セッション開始プロトコル \(SIP \) の概要](#)」



共通電話プロファイルの設定

共通電話プロファイルは、Cisco TFTP が必要とするデータを提供します。共通電話プロファイルの設定後、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、SCCP 電話機または SIP 電話機を共通電話プロファイルに関連付けます。

共通電話プロファイルの検索と設定をするには、次のトピックを参照してください。

- [共通電話プロファイルの検索 \(P.80-2 \)](#)
- [共通電話プロファイルの設定 \(P.80-3 \)](#)
- [共通電話プロファイルの設定値 \(P.80-4 \)](#)
- [共通電話プロファイルの削除 \(P.80-5 \)](#)
- [関連項目 \(P.80-5 \)](#)

共通電話プロフィールの検索

[共通の電話プロフィールの検索と一覧表示 (Find and List Common Phone Profiles)] ウィンドウを使用して、共通電話プロフィールを検索する手順は、次のとおりです。この機能は、次のカテゴリに基づいて、あらゆるタイプの共通電話プロフィールを検索します。

- [名前]
- [説明]

手順

ステップ 1 [デバイス] > [デバイスの設定] > [共通の電話プロフィール] の順に選択します。

[共通の電話プロフィールの検索と一覧表示 (Find and List Common Phone Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象 : 共通の電話プロフィール、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、共通電話プロフィールの検索に使用するフィールドを選択します (たとえば、[名前] [説明])。



(注) データベースに登録されている共通電話プロフィールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。検索条件と一致する共通電話プロフィールのリストが表示されます。

ステップ 3 2 番目の [検索対象 : 共通の電話プロフィール、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、テキスト検索の検索パターンを選択します (たとえば、[が次の文字列で始まる]、[が次の文字列を含む] [が次の文字列で終わる])。

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致するレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



ヒント 検索結果内で共通電話プロフィールを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当する共通電話プロフィールの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数の共通電話プロフィールを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての共通電話プロフィールを削除できます。



(注) 標準の共通電話プロフィールを削除することはできません。

ステップ 5 検索条件と一致するレコードのリストから、表示する共通電話プロフィールの名前をクリックします。

[共通の電話プロフィールの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウが表示され、選択した共通電話プロフィールが示されます。

追加情報

P.80-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

共通電話プロフィールの設定

共通電話プロフィールを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [デバイス] > [デバイスの設定] > [共通の電話プロフィール] の順に選択します。

[共通の電話プロフィールの検索と一覧表示 (Find and List Common Phone Profiles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存の共通電話プロフィールをコピーする場合は、適切な共通電話プロフィールを見つけ (P.80-2 の「[共通電話プロフィールの検索](#)」を参照)、コピーする共通電話プロフィールの横にある [コピー] ボタンをクリックして、[ステップ 3](#) に進みます。
- 新しい共通電話プロフィールを追加する場合は、[[新規追加](#)] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存の共通電話プロフィールを更新する場合は、適切な共通電話プロフィールを見つけ (P.80-2 の「[共通電話プロフィールの検索](#)」を参照)、[ステップ 3](#) に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します ([表 80-1](#) を参照)。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.80-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

共通電話プロファイルの設定値

表 80-1 では、[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。関連する手順の詳細については、P.80-5 の「関連項目」を参照してください。

表 80-1 共通電話プロファイルの設定値

フィールド	説明
[共通の電話プロファイル情報 (Common Phone Profile Information)]	
[名前]	共通電話プロファイルを識別する名前を入力します (たとえば「CPP_7905」)。この値には、1 ~ 50 文字 (英数字、ドット、ダッシュ、または下線を含む) を指定できます。
[説明]	共通電話プロファイルの目的を指定します (たとえば「common phone profile for model 7905」)。
[電話ロック解除パスワード (Local Phone Unlock Password)]	ローカル電話機のロック解除に使用するパスワードを入力します。1 ~ 15 文字を指定できます。
[背景イメージ設定へのアクセスの有効化 (Enable End User Access to Phone Background Image Setting)]	この共通電話プロファイルを使用する電話機のバックグラウンドイメージをエンドユーザーが変更できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

共通電話プロファイルの削除

共通電話プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

共通電話プロファイルを使用しているデバイスを検索するには、[共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] リンクを選択します。依存関係レコードがシステムに対して使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** 削除する共通電話プロファイルを検索します。[P.80-2 の「共通電話プロファイルの検索」](#)を参照してください。



(注) 標準の共通電話プロファイルを削除することはできません。

- ステップ 2** [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウで、[削除] をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

- ステップ 3** 共通電話プロファイルを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。

追加情報

[P.80-5 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [共通電話プロファイルの検索 \(P.80-2\)](#)
- [共通電話プロファイルの設定 \(P.80-3\)](#)
- [共通電話プロファイルの設定値 \(P.80-4\)](#)
- [共通電話プロファイルの削除 \(P.80-5\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco TFTP」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「セッション開始プロトコル (SIP) の概要」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」



PART 7

アプリケーションの設定





Cisco Unified CallManager Assistant 設定ウィザード

Cisco Unified CallManager Assistant 設定ウィザードを使用すると、短時間でエラーを出さずに Unified CallManager Assistant を設定できます。管理者がこの設定ウィザードを正しく実行して完了すると、パーティション、コーリング サーチ スペース、ルート ポイント、および変換パターンが自動的に作成されます。また、Unified CallManager Assistant マネージャ電話機、Unified CallManager Assistant アシスタント電話機、およびその他すべてのユーザの電話機用の BAT テンプレートも作成されます。管理者は BAT テンプレートを使用して、マネージャ、アシスタント、およびその他すべてのユーザを設定できます。『Cisco Unified CallManager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

Cisco Unified CallManager Assistant 設定ウィザードでは、設定パラメータごとにウィンドウが表示されます。これらのウィンドウでは、情報がすでに設定されています。管理者が他の設定情報（たとえば、パーティション名）を使用する場合、設定済みの情報を適切な情報に変更することができます。

Cisco Unified CallManager Assistant 設定ウィザードの使用方法の詳細については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified CallManager Assistant Configuration Wizard」を参照してください。



Cisco Unified CallManager Attendant Console パイロット ポイントの設定

クライアントサーバ型のアプリケーションである Cisco Unified CallManager Attendant Console では、短縮ダイヤル ボタンやクイック ディレクトリ アクセスを含むグラフィカル ユーザ インターフェイスを使用して、電話番号の検索、回線状況の監視、およびコールの送信を行えます。Attendant Console を使用すると、受付や庶務担当の方が担当部門または全社のコールを処理でき、また社員が自分の通話を管理することもできます。

Cisco Unified CallManager Attendant Console の詳細と設定手順については、『*Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Cisco Unified CallManager Attendant Console」を参照してください。



Cisco Unified CallManager Attendant Console ユーザの設定

クライアントサーバ型のアプリケーションである Cisco Unified CallManager Attendant Console では、短縮ダイヤル ボタンやクイック ディレクトリ アクセスを含むグラフィカル ユーザ インターフェイスを使用して、電話番号の検索、回線状況の監視、およびコールの送信を行えます。Attendant Console を使用すると、受付や庶務担当の方が担当部門または全社のコールを処理でき、また社員が自分の通話を管理することもできます。

Cisco Unified CallManager Attendant Console の詳細と設定手順については、『*Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Cisco Unified CallManager Attendant Console」を参照してください。



Cisco Unified CallManager Attendant Console ユーザのファイルアップロード

クライアントサーバ型のアプリケーションである Cisco Unified CallManager Attendant Console では、短縮ダイヤル ボタンやクイック ディレクトリ アクセスを含むグラフィカル ユーザ インターフェイスを使用して、電話番号の検索、回線状況の監視、およびコールの送信を行えます。Attendant Console を使用すると、受付や庶務担当の方が担当部門または全社のコールを処理でき、また社員が自分の通話を管理することもできます。

Cisco Unified CallManager Attendant Console の詳細と設定手順については、『*Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Cisco Unified CallManager Attendant Console」を参照してください。



プラグインの設定

アプリケーション プラグインによって、Cisco Unified CallManager の機能がさまざまに拡張されます。たとえば、Cisco Unified CallManager Attendant Console プラグインによって、受け付け担当者は、迅速にコールに応答し、コールを社内に転送することができます。また、JTAPI プラグインによって、コンピュータは、Java Telephony Application Programming Interface (JTAPI) を使用して Cisco Unified CallManager にアクセスするアプリケーションを運用することができます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [プラグインのインストール \(P.85-1\)](#)
- [プラグイン URL の更新 \(P.85-3\)](#)
- [プラグイン URL 更新の設定値 \(P.85-4\)](#)

プラグインのインストール



ヒント

Cisco Unified CallManager をアップグレードした後は、Cisco CDR Analysis and Reporting プラグインを除くすべてのプラグインを再インストールする必要があります。

プラグインをインストールする場合は、インストール先のサーバで動作している侵入検知やアンチウィルスのサービスを事前に使用不可にしておいてください。

プラグインをインストールする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [プラグイン] の順に選択します。

[プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウが表示されます。ドロップダウンリスト ボックスを使用して、使用可能なプラグイン アプリケーションを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象 : プラグイン、検索条件 : プラグイン] ウィンドウドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [説明]

2 番目の [検索対象 : プラグイン、検索条件 : プラグイン] ウィンドウドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

[かつプラグインタイプが次に等しい] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [Application Menu]
- [Installation]
- [User Menu]
- [Telecaster Menu]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。



ヒント 使用可能なすべてのプラグインを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

ステップ 4 インストールするプラグイン名をクリックします。

ステップ 5 [ダウンロード] リンクをクリックし、プラグインをダウンロードします。

ステップ 6 インストレーション ウィザードの指示に従って、インストレーションを実行します。

関連項目

- [プラグインの設定 \(P.85-1 \)](#)
- [プラグイン URL の更新 \(P.85-3 \)](#)

プラグイン URL の更新

Cisco Unified CallManager のインストール プロセス中、[プラグイン] テーブルに追加されたレコードは、[アプリケーション] ドロップダウン メニューを構築するために Cisco Unified CallManager の管理アプリケーションが使用する URL を指定します。Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) が、インストール時に構築される URL の基礎を提供します。DNS が変更されても、URL は更新されません。

プラグイン URL の URL を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [アプリケーション] > [プラグイン] の順に選択します。

[プラグインの検索と一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、プラグイン名とプラグイン タイプを選択します。

ステップ 3 更新するプラグイン名をクリックします。

[プラグイン URL の更新 (Update Plugin URL)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [カスタム URL] フィールドに URL を入力します。

ステップ 5 ツールバーに表示される [保存] アイコン (ウィンドウの左上隅) をクリックするか、またはウィンドウの下部に表示される [保存] ボタンをクリックして、URL を更新および保存します。

関連項目

- [プラグインの設定 \(P.85-1\)](#)
- [プラグインのインストール \(P.85-1\)](#)

プラグイン URL 更新の設定値

表 85-1 では、プラグイン URL 更新の設定値について説明します。

表 85-1 プラグイン URL 更新の設定値

フィールド	説明
[プラグインの設定 (Plugin Settings)]	
[名前]	ドロップダウン リスト ボックスから、URL を変更するプラグイン名、たとえば、Cisco Unified CallManager Attendant Console などを選択します。
[プラグインタイプ]	ドロップダウン リスト ボックスから、URL を変更するプラグインタイプ、たとえば、アプリケーションまたはインストレーションを選択します。
[URL]	URL は自動的に表示されます。
[カスタム URL]	カスタム URL には英数字のみを使用します。
[ユーザオプションページに関するプラグインの表示]	ユーザ オプション ウィンドウにこのプラグインを表示するには、このチェックボックスをオンにします。



PART 8

ユーザ管理の設定





アプリケーション ユーザの設定

[Cisco Unified CallManager の管理] の [アプリケーション ユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウを使用すると、システム管理者は、Cisco Unified CallManager アプリケーション ユーザに関する情報を追加、検索、表示、および保持することができます。

次のトピックでは、アプリケーション ユーザ情報の管理について説明します。

- [アプリケーション ユーザの検索 \(P.86-2\)](#)
- [アプリケーション ユーザの追加 \(P.86-4\)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定値 \(P.86-5\)](#)
- [アプリケーション ユーザのパスワードの変更 \(P.86-9\)](#)
- [アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定 \(P.86-9\)](#)
- [アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け \(P.86-10\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザの設定チェックリストの管理」

追加情報

[P.86-11](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザの検索

ネットワーク内には複数のアプリケーション ユーザが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のアプリケーション ユーザを見つけることができます。アプリケーション ユーザを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、アプリケーション ユーザの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、アプリケーション ユーザの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [アプリケーションユーザ] の順に選択します。

[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、アプリケーション ユーザを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象 : アプリケーションユーザ、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件を選択します。

- [ユーザ ID]

2 番目の [検索対象 : アプリケーションユーザ、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているアプリケーション ユーザをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたアプリケーション ユーザのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザ ID(User ID)]

**(注)**

該当するアプリケーション ユーザの横にあるチェックボックスをオンにして、[**選択項目の削除**] をクリックすると、[**アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)**] ウィンドウから複数のアプリケーション ユーザを削除できます。[**すべてを選択**] をクリックして [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのアプリケーション ユーザ (デフォルトのアプリケーション ユーザを除く) を削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するアプリケーション ユーザ名をクリックします。

選択したアプリケーション ユーザがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.86-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザの追加

ユーザを追加する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unity Administrator または Cisco Unity Connection Administrator のアプリケーション ユーザを追加する場合は、Cisco Unity Administration および Cisco Unity Connection Administration で定義したものと同一ユーザ名とパスワードを使用する必要があります。『Cisco Unified CallManager 5.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』または『Cisco Unified CallManager 5.0 SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection 2.1』を参照してください。このユーザ ID によって、Cisco Unity または Cisco Unity Connection と Cisco Unified CallManager の管理ページの間の認証が可能になります。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [アプリケーションユーザ] の順に選択します。

[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、アプリケーション ユーザを検索します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 86-1 を参照)。

ステップ 4 ユーザ情報の入力を完了したら、[保存] をクリックし、変更内容を保存してユーザを追加します。

ステップ 5 このアプリケーション ユーザのユーザ特権レポートを表示するには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザ特権レポート] を選択し、[移動] をクリックします。

このアプリケーション ユーザの [ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウが表示されます。ユーザ特権レポートの詳細については、P.89-11 の「[ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示](#)」を参照してください。

このアプリケーション ユーザのユーザ特権レポートを表示した後、このアプリケーション ユーザの [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [アプリケーションユーザに戻る] を選択し、[移動] をクリックします。

次の手順

このアプリケーション ユーザにデバイスを関連付ける場合は、後述の「[アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け](#)」の手順に進みます。

追加情報

P.86-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザの設定値

表 86-1 では、アプリケーション ユーザの設定値について説明します。関連する手順については、P.86-11 の「関連項目」を参照してください。

表 86-1 アプリケーション ユーザの設定値


フィールド	説明
[アプリケーションユーザ情報 (Application User Information)]	
[ユーザ ID]	アプリケーション ユーザの識別名を入力します。Cisco Unified CallManager 5.0 以降のリリースでは、既存のユーザ ID に変更を加えることができます (LDAP サーバとの同期化を使用可能にしている場合)。特殊文字 (ダッシュ (-)、下線 (_)、" ") およびブランクを使用できます。
[パスワード (Password)]	アプリケーション ユーザパスワードとなる 5 文字以上の英数字または特殊文字を入力します。
[パスワードの確認 (Confirm Password)]	ユーザパスワードをもう一度入力します。
[ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)]	ダイジェスト認証中に Cisco Unified CallManager が UAS として機能する場合、このフィールドに指定するダイジェスト資格情報が認証確認に使用されます。一連の英数字を入力します。 ダイジェスト認証については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[ダイジェスト信用証明書の確認 (Confirm Digest Credentials)]	ダイジェスト資格情報を正しく入力したことを確認するために、このフィールドにその資格情報を入力します。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。  (注) このアプリケーション ユーザをプレゼンスで使用しない場合は、プレゼンス グループをデフォルト ([None]) 設定のままにします。 ドロップダウン リスト ボックスから、アプリケーション ユーザ用のプレゼンス グループを選択します。選択したグループによって、アプリケーション ユーザ (IPMASysUser など) が監視できる対象が指定されます。 インストール時に、標準のプレゼンス グループが設定されます。Cisco Unified CallManager の管理ページで設定されたプレゼンス グループもドロップダウン リスト ボックスに表示されます。 プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。

表 86-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プレゼンス登録の許可 (Accept Presence Subscription)]	<p>このフィールドには、プレゼンス認可用のプレゼンス機能を設定します。</p> <p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco Unified CallManager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco Unified CallManager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからのプレゼンス要求を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオンにしていない場合は、Cisco Unified CallManager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>
[アウトオブダイアログ REFER の許可 (Accept Out-of-dialog REFER)]	<p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco Unified CallManager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco Unified CallManager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからの Out-of-Dialog REFER 要求を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、SIP で開始される転送機能や他の高度な転送関連機能を使用するには、Cisco Unified CallManager がこのアプリケーション ユーザの着信 Out-of-Dialog REFER 要求を受け入れることができるようにする必要があります。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオンにしていない場合は、Cisco Unified CallManager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 86-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[未承諾 NOTIFY の許可 (Accept Unsolicited Notification)]	<p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco Unified CallManager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco Unified CallManager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからの任意通知を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、MWI サポートを提供するには、Cisco Unified CallManager がこのアプリケーション ユーザの着信任意通知を受け入れることができるようにする必要があります。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオンにしていない場合は、Cisco Unified CallManager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
[REPLACE ヘッダの許可 (Accept Replaces Header)]	<p>トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で、アプリケーションレベルの認可を使用可能にした場合は、Cisco Unified CallManager がアプリケーションレベルの認可を行います。</p> <p>Cisco Unified CallManager がこの SIP トランク アプリケーション ユーザからのメッセージのヘッダー置換を受け入れることができるようにするには、このチェックボックスをオンにします。たとえば、SIP トランク上の外部コールを、在席転送の場合と同様に、外部のデバイスまたは相手に転送するには、このアプリケーション ユーザの REFER および INVITE 内に Replaces ヘッダーを含む SIP 要求を Cisco Unified CallManager が受け入れることができるようにする必要があります。</p> <p>[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウでこのチェックボックスをオンにしたが、トランクに適用される [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] で [アプリケーションレベル認証を有効化 (Enable Application Level Authorization)] チェックボックスをオンにしていない場合は、Cisco Unified CallManager によって、トランクに接続されている SIP ユーザ エージェントに 403 エラーメッセージが送信されます。</p> <p>認可の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 86-1 アプリケーション ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[CAPF 情報 (CAPF Information)]	
[割り当てられている CAPF プロファイル (Associated CAPF Profiles)]	<p>ユーザのアプリケーション ユーザ CAPF プロファイルを設定した場合は、[割り当てられている CAPF プロファイル (Associated CAPF Profiles)] ペインに、アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルのインスタンス ID が表示されます。プロファイルを編集するには、インスタンス ID をクリックし、[プロファイルの編集] をクリックします。[アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルの設定 (Application User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>アプリケーション ユーザ CAPF プロファイルを設定する方法については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[デバイス情報 (Device Information)]	
[使用可能なデバイス (Available Devices)]	<p>このリスト ボックスには、このアプリケーション ユーザとのアソシエーションに使用できるデバイスが表示されます。</p> <p>デバイスをこのアプリケーション ユーザに関連付けるには、デバイスを選択し、このリスト ボックスの下にある下矢印をクリックします。</p> <p>このアプリケーション ユーザに関連付けるデバイスがこのペインに表示されない場合は、次のボタンのいずれかをクリックして、他のデバイスを検索します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [別の電話を検索]: このアプリケーション ユーザに関連付ける他の電話機を検索する場合は、このボタンをクリックします。電話機を検索するための [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。 • [別のルートポイントを検索]: このアプリケーション ユーザに関連付ける他のルートポイントを検索する場合は、このボタンをクリックします。CTI ルートポイントを検索するための [CTI ルートポイントの検索と一覧表示 (Find and List CTI Route Points)] ウィンドウが表示されます。 • [別のパイロットポイントを検索]: このアプリケーション ユーザに関連付ける他のパイロットポイントを検索する場合は、このボタンをクリックします。パイロットポイントを検索するための [パイロットポイントの検索と一覧表示 (Find and List Pilot Points)] ウィンドウが表示されます。
[権限情報 (Permissions Information)]	
[グループ (Groups)]	このリスト ボックスは、アプリケーション ユーザが追加された後に表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザが属するグループが表示されます。
[権限 (Roles)]	このリスト ボックスは、アプリケーション ユーザが追加された後に表示されます。このリスト ボックスには、アプリケーション ユーザに割り当てられているロールが表示されます。

追加情報

P.86-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザのパスワードの変更

アプリケーション ユーザのパスワードを変更する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.86-2 の「[アプリケーション ユーザの検索](#)」の手順を使用して、パスワードを変更するアプリケーション ユーザを見つけます。

[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択したアプリケーション ユーザの情報が示されます。

ステップ 2 [パスワード (Password)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを入力します。

ステップ 3 [パスワードの確認 (Confirm Password)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードをもう一度入力します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.86-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定

新しいアプリケーション ユーザの追加後、各アプリケーションのプロファイルを設定できます。各アプリケーション ユーザはこれらのプロファイルを使用して、電話機の機能、Cisco Unified CallManager Assistant、Cisco エクステンション モビリティ、Cisco Unified CallManager AutoAttendant、および Cisco IP SoftPhone の機能を個別に設定することができます。

始める前に

アプリケーション ユーザがデータベース内で設定されていることを確認します。詳細については、P.86-2 の「[アプリケーション ユーザの検索](#)」を参照してください。

追加情報

P.86-11 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け

アプリケーション ユーザにデバイスを関連付け、アプリケーション ユーザがそのデバイスのコントロール権を持つようにすることができます。電話機などの一部のデバイスは、アプリケーション ユーザが制御できます。CTI ポートなどのその他のデバイスは、ユーザとして指定されるアプリケーションによって制御できます。アプリケーション ユーザが電話機のコントロール権を持つ場合、その電話機の特定の設定値（たとえば、短縮ダイヤルや自動転送）を制御できます。

始める前に

アプリケーション ユーザにデバイスを割り当てるには、そのユーザの [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウにアクセスする必要があります。既存のアプリケーション ユーザを見つける方法については、[P.86-2](#) の「[アプリケーション ユーザの検索](#)」を参照してください。[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウが表示された後で、デバイスを割り当てる手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [使用可能なデバイス (Available Devices)] リスト ボックスで、アプリケーション ユーザに関連付けるデバイスを選択し、リスト ボックスの下にある下矢印をクリックします。
- ステップ 2** 使用可能なデバイスのリストを制限するには、[[別の電話を検索](#)] ボタン、[[別のルートポイントを検索](#)] ボタン、または [[別のパイロットポイントを検索](#)] ボタンをクリックします。
- [[別の電話を検索](#)] ボタンをクリックすると、[[電話の検索と一覧表示 \(Find and List Phones\)](#)] ウィンドウが表示されます。検索を行って、このアプリケーション ユーザに関連付ける電話機を見つけます。
 - [[別のルートポイントを検索](#)] ボタンをクリックすると、[[CTI ルートポイントの検索と一覧表示 \(Find and List CTI Route Points\)](#)] ウィンドウが表示されます。検索を行って、このアプリケーション ユーザに関連付ける CTI ルートポイントを見つけます。
 - [[別のパイロットポイントを検索](#)] ボタンをクリックすると、[[パイロットポイントの検索と一覧表示 \(Find and List Pilot Points\)](#)] ウィンドウが表示されます。検索を行って、このアプリケーション ユーザに関連付けるパイロットポイントを見つけます。
- ステップ 3** アプリケーション ユーザに割り当てるデバイスごとに、前述のステップを繰り返します。
- ステップ 4** 割り当てを完了したら、[[保存](#)] をクリックして、アプリケーション ユーザにデバイスを割り当てます。
-

追加情報

[P.86-11](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [アプリケーション ユーザの検索 \(P.86-2 \)](#)
- [アプリケーション ユーザの追加 \(P.86-4 \)](#)
- [アプリケーション ユーザの設定値 \(P.86-5 \)](#)
- [アプリケーション ユーザのパスワードの変更 \(P.86-9 \)](#)
- [アプリケーション ユーザのアプリケーション プロファイルの設定 \(P.86-9 \)](#)
- [アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け \(P.86-10 \)](#)
- [ユーザのロール、ユーザ グループ、および権限の表示 \(P.89-11 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「デバイスの関連付け」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザの設定チェックリストの管理」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity メッセージングの統合」
- [LDAP システムの設定 \(P.12-1 \)](#)
- [電話番号の設定 \(P.48-1 \)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定 \(P.67-1 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-1 \)](#)
- [ロールの設定 \(P.88-1 \)](#)
- [ユーザ グループの設定 \(P.89-1 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」
- 『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』



エンド ユーザの設定

[Cisco Unified CallManager の管理] の [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウを使用すると、システム管理者は、Cisco Unified CallManager のエンド ユーザに関する情報を追加、検索、表示、および保持することができます。



(注)

企業 LDAP サーバとの同期化が使用不可の場合に限り、Cisco Unified CallManager の管理ページで新規エンド ユーザを追加できます。同期化が使用不可の場合は、新規ユーザの追加、および既存ユーザの設定値 (ユーザ ID を含む) の変更を行うことができます。同期化が使用可能の場合は、新規ユーザの追加や既存ユーザの ID の変更はできません。ただし、既存エンド ユーザのその他の設定値を変更することはできません。

設定が使用可能になっているかどうかを確認するには、Cisco Unified CallManager の管理ページで、[システム] > [LDAP] > [LDAP システム] メニュー オプションを使用します。[LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスがオフになっている場合、同期化は使用可能ではありません。詳細については、「[LDAP システムの設定](#)」を参照してください。

次のトピックでは、エンド ユーザ ディレクトリ情報の管理について説明します。

- [エンド ユーザの検索 \(P.87-2\)](#)
- [エンド ユーザの追加 \(P.87-3\)](#)
- [Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイスメールボックスの作成 \(P.87-4\)](#)
- [エンド ユーザの設定値 \(P.87-6\)](#)
- [エンド ユーザのパスワードの変更 \(P.87-11\)](#)
- [エンド ユーザの PIN の変更 \(P.87-12\)](#)
- [エンド ユーザのユーザ関連情報の設定 \(P.87-13\)](#)
- [エンド ユーザとデバイスとの関連付け \(P.87-15\)](#)
- [Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け \(P.87-17\)](#)
- [エンド ユーザの削除 \(P.87-18\)](#)

追加情報

P.87-19 の「[関連項目](#)」を参照してください。

エンドユーザの検索

ネットワーク内には複数のエンドユーザが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のエンドユーザを見つけることができます。エンドユーザを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、エンドユーザの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、エンドユーザの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [エンドユーザ] の順に選択します。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウンリストボックスを使用して、エンドユーザを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: ユーザ、検索条件:] ドロップダウンリストボックスから、エンドユーザの検索に使用するフィールドを選択します (たとえば、[名] [姓] [ユーザ ID])。



(注) データベースに登録されているエンドユーザをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。検索条件と一致するエンドユーザのリストが表示されます。

ステップ 3 2 番目の [検索対象: ユーザ、検索条件:] ドロップダウンリストボックスから、テキスト検索の検索パターンを選択します (たとえば、[が次の文字列で始まる]、[が次の文字列を含む]、[が次の文字列で終わる])。

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致するレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウンリストボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



ヒント 検索結果内でエンドユーザを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するエンドユーザの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウから複数のエンドユーザを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのエンドユーザを削除できます。

ステップ 5 検索条件と一致するレコードのリストから、表示するエンド ユーザのユーザ ID をクリックします。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに、選択したエンド ユーザが表示されません。

追加情報

P.87-19 の「[関連項目](#)」を参照してください。

エンド ユーザの追加

エンド ユーザを追加する手順は、次のとおりです。



(注)

LDAP サーバとの同期が使用可能でない場合に限り、エンド ユーザ情報を変更できます。LDAP サーバとの同期が使用可能であるかどうかを調べるには、[システム] > [LDAP] > [LDAP システム] メニュー オプションを使用します。表示される [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで、[LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスがオフであることを確認します。同期が使用可能である場合、エンド ユーザ データを表示できますが、変更することはできません。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [エンドユーザ] の順に選択します。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、エンド ユーザを検索します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します ([表 87-1](#) を参照)。

ステップ 4 エンド ユーザ情報の入力を完了したら、[保存] をクリックし、変更内容を保存してエンド ユーザを追加します。

次の手順

このエンド ユーザにデバイスを関連付ける場合は、後述の「[エンド ユーザとデバイスとの関連付け](#)」の手順に進みます。

追加情報

P.87-19 の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイスメールボックスの作成

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの「Create Cisco Unity User」リンクを使用すると、Cisco Unified CallManager の管理ページから個々に Cisco Unity および Cisco Unity Connection のボイスメールボックスを作成できます。



(注)

「Create Cisco Unity User」リンクは、Cisco Unity 管理者が適切なソフトウェアをインストールして設定した場合に限り、表示されます。『Cisco Unified CallManager 5.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』または『Cisco Unified CallManager 5.0 SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection 1.1』を参照してください。

始める前に

- ボイスメッセージ用に Cisco Unified CallManager を設定する。『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」を参照してください。
- Cisco Unity サーバを設定する。Cisco Unity および Cisco Unity Connection のマニュアルを参照してください。
- Cisco Unity Cisco Unified CallManager Integrated Voice Mailbox Configuration が Cisco Unity サーバまたは Cisco Unity Connection サーバで使用可能になっていることを確認する。『Cisco Unified CallManager 5.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』または『Cisco Unified CallManager 5.0 SCCP Integration Guide for Cisco Unity Connection 1.1』を参照してください。
- Cisco RIS Data Collector サービスがアクティブになっていることを確認する。『Cisco Unified CallManager Serviceability システムガイド』および『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。
- 「Create Cisco Unity User」リンクが表示される前に、デバイスとエンドユーザを関連付ける。リンクは [Primary Extension] フィールドの横に表示されます。
- 「Create Cisco Unity User」リンクを表示するために、ボイスメールプロファイルとプライマリ内線の電話番号が関連付けられていることを確認する。P.48-3 の「電話番号の設定」を参照してください。



(注)

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウにも「Create Cisco Unity User」リンクがあります。

手順

ステップ 1 デバイスをエンドユーザに関連付けるために、[ユーザ管理] > [エンドユーザ] の順に選択します (P.87-15 の「エンドユーザとデバイスとの関連付け」を参照)。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 87-1 を参照)。



(注)

プライマリ内線を定義したことを確認してください。定義していないと、[関連リンク] ドロップダウンリストボックスに「Create Cisco Unity User」リンクが表示されません。

ステップ 3 ウィンドウの右上隅にある[関連リンク]ドロップダウン リスト ボックスから、「Create Cisco Unity User」リンクを選択し、[移動] をクリックします。

[Add Cisco Unity User] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Application Server] ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unity ユーザまたは Cisco Unity Connection ユーザを作成する Cisco Unity サーバまたは Cisco Unity Connection サーバを選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 5 [Subscriber Template] ドロップダウン リスト ボックスから、使用する登録者テンプレートを選択します。

ステップ 6 [Save] をクリックします。

Cisco Unity メールボックスが作成されます。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク] 内のリンクが「Edit Cisco Unity User」に変わります。

これで、Cisco Unity システム管理から、作成したメールボックスを表示できます。『Cisco Unity インストレーション ガイド』または『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド』を参照してください。



(注)

Cisco Unity ユーザが Cisco Unified CallManager エンド ユーザと統合された場合、Cisco Unity システム管理では [エイリアス] ([Cisco Unified CallManager の管理] の [ユーザ ID (User ID)])、[名]、[姓]、[内線] ([Cisco Unified CallManager の管理] の [プライマリ内線 (Primary Extension)]) の各フィールドを編集できません。これらのフィールドは、Cisco Unified CallManager の管理機能だけで更新できます。



(注)

Cisco Unity は、Cisco Unified CallManager からのデータの同期を監視します。Cisco Unity システム管理の [ツール] ([CallManager ユーザのインポート]、[CallManager の同期化]) で、同期時間を設定できます。Cisco Unity のマニュアルを参照してください。

追加情報

P.87-19 の「関連項目」を参照してください。

エンドユーザの設定値

表 87-1 では、エンドユーザの設定値について説明します。関連する手順については、P.87-19 の「関連項目」を参照してください。

表 87-1 エンドユーザの設定値


フィールド	説明
[ユーザ情報 (User Information)]	
[LDAP 同期状態 (LDAP Sync Status)]	このフィールドには、[システム] > [LDAP] > [LDAP システム] メニュー オプションで設定した、LDAP 同期の状況が表示されます。
[ユーザ ID]	エンドユーザの識別名を入力します。Cisco Unified CallManager 5.0 以降のリリースでは、ユーザ ID を作成後に変更できます。  (注) LDAP サーバとの同期が使用可能でない場合に限り、エンドユーザ情報を変更できます。同期が使用可能である場合、エンドユーザ データを表示できますが、変更することはできません。
[パスワード (Password、半角英数字のみ)]	エンドユーザパスワードとなる 5 文字以上の英数字または特殊文字を入力します。
[パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ)]	エンドユーザのパスワードをもう一度入力します。
[PIN (PIN、半角数字のみ)]	Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) となる 5 文字以上の英数字を入力します。
[PIN の確認 (Confirm PIN、半角英数字のみ)]	PIN をもう一度入力します。
[姓]	エンドユーザの姓を入力します。
[ミドルネーム]	エンドユーザのミドルネームを入力します。
[名]	エンドユーザの名を入力します。
[電話番号 (Telephone Number)]	エンドユーザの電話番号を入力します。特殊文字 ((、)、および -) を使用できます。
[メール ID (Mail ID)]	エンドユーザの電子メールアドレスを入力します。
[マネージャのユーザ ID (Manager User ID)]	エンドユーザ マネージャ ID のユーザ ID を入力します。入力する マネージャ ユーザ ID は、ディレクトリ内にエンドユーザとして指定済みでなければなりません。
[部署名]	エンドユーザの所属部門の情報 (たとえば、所属部門の番号や名称など) を入力します。

表 87-1 エンド ユーザの設定値 (続き)



フィールド	説明
[ユーザロケール (User Locale)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのエンド ユーザに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、エンド ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified CallManager は、このロケールをエクステンション モビリティおよび Cisco Unified IP Phone User Options に使用します。Cisco エクステンション モビリティ ログインでは、ここに指定されているロケールが、デバイスおよびデバイス プロファイルの設定よりも優先されます。Cisco エクステンション モビリティ ログオフでは、Cisco Unified CallManager は、デフォルト デバイス プロファイルに指定されたエンド ユーザ ロケールを使用します。</p> <p> (注) エンド ユーザロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager サービス パラメータでデフォルト ユーザ ロケールとして指定されているロケールが適用されます。</p>
[割り当てられた PC(Associated PC)]	<p>この必須フィールドは、Cisco SoftPhone および Cisco Unified CallManager Attendant Console のユーザに適用されます。</p>
[ダイジェスト信用証明書 (Digest Credentials)]	<p>SIP 電話機にダイジェスト認証を設定すると、Cisco Unified CallManager は、電話機が Cisco Unified CallManager に SIP 要求を送信するたびに、電話機のアイデンティティを確認します。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェスト ユーザを選択すると、このフィールドに入力するダイジェスト資格情報が電話機に関連付けられます。</p> <p>一連の英数字を入力します。</p> <p> (注) ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[ダイジェスト信用証明書の確認 (Confirm Digest Credentials)]	<p>ダイジェスト資格情報を正しく入力したことを確認するために、このフィールドにその資格情報を入力します。</p>
[デバイスの割り当て (Device Associations)]	
[制御するデバイス (Controlled Devices)]	<p>デバイスが関連付けられた後に、このフィールドには、エンド ユーザが制御する説明情報 (たとえば、MAC アドレスなど) が表示されます。</p> <p>デバイスをこのエンド ユーザに関連付けるには、右側にある [デバイスの割り当て] ボタンをクリックします。詳細な手順については、P.87-15 の「エンド ユーザとデバイスとの関連付け」を参照してください。</p>

表 87-1 エンドユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[エクステンションモビリティ (Extension Mobility)]	
[使用可能なプロファイル (Available Profiles)]	<p>このリスト ボックスには、このエンド ユーザとのアソシエーションに使用できるエクステンション モビリティ プロファイルが表示されます。</p> <p>エクステンション モビリティ プロファイルを検索するには、[検索] をクリックします。表示される [デバイスプロファイルの検索と一覧表示 (Find and List Device Profiles)] ウィンドウを使用して、必要なエクステンション モビリティ プロファイルを検索します。</p> <p>エクステンション モビリティ プロファイルをこのエンド ユーザに関連付けるには、プロファイルを選択し、このリスト ボックスの下にある下矢印をクリックします。</p>
[制御するプロファイル (Controlled Profiles)]	Cisco エクステンション モビリティに設定されたエンド ユーザに関連付けられた、制御されたデバイス プロファイルのリストが、このフィールドに表示されます。
[デフォルトのプロファイル (Default Profile)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザのデフォルトのエクステンション モビリティ プロファイルを選択します。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドには、プレゼンス機能を設定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、エンド ユーザ用のプレゼンスグループを選択します。選択したグループによって、エンド ユーザが監視できる対象が指定されます。</p> <p>[プレゼンスグループ (Presence Group)] のデフォルト値は、インストール時に設定された [Standard Presence group] です。Cisco Unified CallManager の管理ページで設定されたプレゼンス グループモードドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>プレゼンス認可は、プレゼンス グループと連携して、グループ間のプレゼンス要求を許可またはブロックします。グループ間の権限の設定、およびプレゼンスをエクステンション モビリティと連携させる方法については、『Cisco Unified CallManager 機能およびサービスガイド』の「プレゼンス」の章を参照してください。</p>

表 87-1 エンド ユーザの設定値 (続き)



フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリング サーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能でサポートされている SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって、Cisco Unified CallManager がエンド ユーザからのプレゼンス要求をルーティングする方法が決まります。この設定により、エンド ユーザのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求に対して、コール処理サーチ スペースとは別のコーリング サーチ スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、エンド ユーザのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを選択します。[Cisco Unified CallManager の管理] で設定したすべてのコーリング サーチ スペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>ドロップダウン リストからエンドユーザ用の別のコーリング サーチ スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースは、デフォルトで [None] に設定されます。</p> <p>この用途専用の SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースと同じようにコーリング サーチ スペースを設定します。コーリング サーチ スペースを設定する方法については、P.42-1 の「コーリング サーチ スペースの設定」を参照してください。</p>
[CTI からデバイスを制御 可能 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>[CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)]: このチェックボックスをオンにすると、ユーザがデバイスにログインしたときに AllowCTIControlFlag デバイス プロパティがアクティブになり、それによって CTI アプリケーションからのデバイスの制御が可能になります。ユーザがデバイスにログインするまで、この設定値は無効です。</p> <p> (注) [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] の [CTI からデバイスを制御可能 (Allow Control of Device from CTI)] の設定値は、ユーザがログインするデバイスの AllowCTIControlFlag デバイス プロパティを上書きします。</p>
[電話番号の割り当て (Directory Number Associations)]	
[プライマリ内線 (Primary Extension)]	<p>このフィールドは、エンド ユーザのプライマリ電話番号を表します。エンド ユーザにデバイスを関連付ける場合は、プライマリ回線を選択しません。エンド ユーザは、電話機に複数の回線を設定できます。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザのプライマリ内線を選択します。</p> <p>システムが Cisco Unity 統合または Cisco Unity Connection 統合用に設定されている場合は、「Create Cisco Unity User」リンクが表示されず。</p>

表 87-1 エンドユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
[IPCC 内線 (IPCC Extension)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザの IPCC 内線を選択します。</p> <p> (注) このフィールドは、IPCC Express Installed エンタープライズパラメータが [True] に設定されている場合にだけ表示されます。</p>
[CAPF 情報 (CAPF Information)]	
[割り当てられている CAPF プロファイル (Associated CAPF Profiles)]	<p>ユーザのエンド ユーザ CAPF プロファイルを設定した場合は、[割り当てられている CAPF プロファイル (Associated CAPF Profiles)] ペインに、エンド ユーザ CAPF プロファイルのインスタンス ID が表示されます。プロファイルを編集するには、インスタンス ID をクリックし、[プロファイルの編集] をクリックします。[エンドユーザ CAPF プロファイルの設定 (End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。</p> <p>エンド ユーザ CAPF プロファイルを設定する方法については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[権限情報 (Permissions Information)]	
[グループ (Groups)]	<p>このリスト ボックスは、エンド ユーザが追加された後に表示されません。このリスト ボックスには、エンド ユーザが属するグループが表示されます。</p> <p>ユーザ グループを設定する方法の詳細については、P.89-1 の「ユーザグループの設定」を参照してください。</p>
[権限 (Roles)]	<p>このリスト ボックスは、エンド ユーザが追加された後に表示されません。このリスト ボックスには、エンド ユーザに割り当てられているロールが表示されます。</p> <p>ロールを設定する方法の詳細については、P.88-1 の「ロールの設定」を参照してください。</p>

追加情報

P.87-19 の「[関連項目](#)」を参照してください。

エンド ユーザのパスワードの変更

グローバル ディレクトリ内のエンド ユーザのエンド ユーザ パスワードを変更する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.87-2 の「[エンド ユーザの検索](#)」の手順を使用して、パスワードを変更するエンド ユーザを見つけます。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択したエンド ユーザの情報が示されます。

ステップ 2 [パスワード (Password)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードを入力します。

ステップ 3 [パスワードの確認 (Confirm Password)] フィールドで、暗号化されている既存のパスワードをダブルクリックし、新しいパスワードをもう一度入力します。

ステップ 4 [保存] をクリックします。

追加情報

P.87-19 の「[関連項目](#)」を参照してください。

エンドユーザの PIN の変更

エンドユーザの Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) を変更する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.87-2 の「[エンドユーザの検索](#)」の手順を使用して、PIN を変更するエンドユーザを見つけます。
- [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択したエンドユーザの情報が示されます。
- ステップ 2** [PIN(PIN)] フィールドで、暗号化されている既存の PIN をダブルクリックし、新しい PIN を入力します。
- ステップ 3** [PIN の確認 (Confirm PIN)] フィールドで、暗号化されている既存の PIN をダブルクリックし、新しい PIN をもう一度入力します。
- ステップ 4** [保存] をクリックします。
-

追加情報

P.87-19 の「[関連項目](#)」を参照してください。

エンド ユーザのユーザ関連情報の設定

新しいエンド ユーザを追加した後、そのエンド ユーザに関連する追加情報を設定できます。各エンド ユーザはこの情報を使用して、電話機の機能、マネージャの設定、アシスタントの設定、Cisco エクステンション モビリティ、Cisco Unified CallManager AutoAttendant、および Cisco IP SoftPhone 機能を個別に設定することができます。

始める前に

エンド ユーザがデータベース内で設定されていることを確認します。詳細については、P.87-2 の「[エンド ユーザの検索](#)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** P.87-2 の「[エンド ユーザの検索](#)」の手順を使用して、アプリケーション プロファイルを設定するエンド ユーザを見つけます。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択したエンド ユーザの情報が示されます。

- ステップ 2** このエンド ユーザに対して Cisco Unified CallManager Assistant マネージャの設定を行うには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [マネージャの設定] を選択し、[移動] をクリックします。

このエンド ユーザの [マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウが表示されます。Cisco Unified CallManager Assistant を設定する方法の詳細については、『*Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified CallManager Assistant](#)」および「[共有回線サポートのある Cisco Unified CallManager Assistant](#)」の章を参照してください。

このエンド ユーザに対してマネージャの情報を設定した後、このエンド ユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[マネージャの設定 (Manager Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザの設定に戻る] を選択し、[移動] をクリックします。

- ステップ 3** このエンド ユーザに対して Cisco Unified CallManager Assistant のアシスタントの設定を行うには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [アシスタントの設定] を選択し、[移動] をクリックします。

このエンド ユーザの [アシスタントの設定] ウィンドウが表示されます。Cisco Unified CallManager Assistant を設定する方法の詳細については、『*Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「[プロキシ回線サポートのある Cisco Unified CallManager Assistant](#)」および「[共有回線サポートのある Cisco Unified CallManager Assistant](#)」の章を参照してください。

このエンド ユーザに対してアシスタントの情報を設定した後、このエンド ユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[アシスタントの設定] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザの設定に戻る] を選択し、[移動] をクリックします。

ステップ 4 このエンド ユーザのユーザ特権レポートを表示するには、[関連リンク] ドロップダウン リストボックスから [ユーザ特権レポート] を選択し、[移動] をクリックします。

このエンド ユーザの [ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウが表示されます。ユーザ特権レポートの詳細については、P.89-11 の「[ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示](#)」を参照してください。

このエンド ユーザのユーザ特権レポートを表示した後、このエンド ユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに戻ることができます。[ユーザ特権 (User Privilege)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リストボックスから [ユーザの設定に戻る] を選択し、[移動] をクリックします。

追加情報

P.87-19 の「[関連項目](#)」を参照してください。

エンド ユーザとデバイスとの関連付け

エンド ユーザにデバイスを関連付け、エンド ユーザがそのデバイスのコントロール権を持つようにすることができます。電話機などの一部のデバイスは、エンド ユーザが制御できます。CTI ポートなどのその他のデバイスは、ユーザとして指定されるアプリケーションによって制御できます。エンド ユーザが電話機のコントロール権を持つ場合、その電話機の特定の設定値（たとえば、短縮ダイヤルや自動転送）を制御できます。

**(注)**

すべてのデバイスの関連付け動作は、機能が設定されているデバイス タイプに関係なく同一になっています。

始める前に

エンド ユーザにデバイスを関連付けるには、そのユーザの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウにアクセスする必要があります。既存のエンド ユーザを見つける方法については、P.87-2 の「[エンド ユーザの検索](#)」を参照してください。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示された後で、デバイスを割り当てる手順は、次のとおりです。

新しいエンド ユーザの追加を終了する前に、その新しいエンド ユーザにデバイスを関連付けようとししないでください。必ず [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで [保存] をクリックしてから、新しいエンド ユーザにデバイス アソシエーションを追加してください。

手順

ステップ 1 [デバイスの割り当て (Device Associations)] ペインで、[デバイスの割り当て] をクリックします。

[ユーザデバイス割り当て (User Device Association)] ウィンドウが表示されます。

デバイスの検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイスが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のデバイスを見つけることができます。デバイスを見つける手順は、次のとおりです。

**(注)**

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、デバイスの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、デバイスの検索設定は保持されます。

ステップ 2 最初の [検索対象 : ユーザデバイス割り当て、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスの検索に使用するフィールドを選択します（たとえば、[名前 (Name)]、[説明 (Description)]）。

**(注)**

データベースに登録されているデバイスをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。検索条件と一致するデバイスのリストが表示されます。

■ エンド ユーザとデバイスとの関連付け

ステップ 3 2 番目の [検索対象 : ユーザデバイス割り当て、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、テキスト検索の検索パターンを選択します (たとえば、[が次の文字列で始まる]、[が次の文字列を含む] [が次の文字列で終わる])。

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。

ウィンドウの [デバイスの割り当て] 部分に、検索条件と一致するレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



ヒント 検索結果内でデバイスを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。

デバイスの関連付け

ステップ 5 [デバイスの割り当て] ペインで、デバイス名の左側にあるボックスをオンにして、このエンド ユーザに関連付けるデバイスを選択します。

ウィンドウの下部にあるボタンを使用して、エンド ユーザに関連付けるデバイスを選択および選択解除できます。



(注) これらのボタンが機能するのは、前述のステップによるデバイス検索の結果として見つかったデバイスを選択および選択解除する場合だけです。



ヒント このエンド ユーザにすでに関連付けられているデバイスを表示するには、[ユーザに関連付けられているデバイスを表示] チェックボックスをオンにします。

ボタンとその機能について次に説明します。

- [**ページのすべてを選択**]: このボタンをクリックすると、このページに表示されているすべてのデバイスが選択されます。
- [**ページのすべてをクリア**]: このボタンをクリックすると、このページに表示されているすべてのデバイスの横にあるチェックボックスがオフになります。
- [**検索のすべてを選択**]: このボタンをクリックすると、ウィンドウの [検索オプション (Search Options)] 部分に指定した検索条件と一致するすべてのデバイスが選択されます。このボタンによって、あらためて検索が行われ、一致するすべてのデバイスが選択されます。
- [**検索のすべてをクリア**]: このボタンをクリックすると、ウィンドウの [検索オプション (Search Options)] 部分に指定した検索条件と一致するすべてのデバイスが選択解除されます。このボタンによって、あらためて検索が行われ、一致するすべてのデバイスが選択解除されます。
- [**選択 / 変更の保存**]: このボタンをクリックすると、選択したデバイスがこのエンド ユーザに関連付けられます。
- [**割り当てられているすべてのデバイスを削除**]: このボタンをクリックすると、すでにこのエンド ユーザに関連付けられているすべてのデバイスの関連付けが解除されます。このボタンをクリックした後、このエンド ユーザからすべてのデバイス アソシエーションを削除することの確認を求めるポップアップ ウィンドウが表示されます。[OK] をクリックして、確認します。

ステップ 6 エンドユーザに割り当てるデバイスごとに、前述のステップを繰り返します。

ステップ 7 アソシエーションを完了するには、[**選択 / 変更の保存**] をクリックします。

ユーザのデバイス アソシエーションを保存すると、関連付けられたデバイスが、ウィンドウの [デバイスの割り当て] 部分の破線の上に表示されます。

ステップ 8 ウィンドウの右上隅にある [**関連リンク**] ドロップダウン リスト ボックスから [**ユーザの設定に戻る**] を選択し、[**移動**] をクリックします。

[**エンドユーザの設定 (End User Configuration)**] ウィンドウが表示され、選択して関連付けたデバイスが [**制御するデバイス (Controlled Devices)**] ペインに表示されます。

追加情報

P.87-19 の「**関連項目**」を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け

Cisco エクステンション モビリティを使用すると、Cisco Unified IP Phone モデル 7940 または Cisco Unified IP Phone モデル 7960 を一時的にエンドユーザの電話機として使用できるように設定することができます。エンドユーザが電話機にログインすると、そのエンドユーザのエクステンション モビリティ プロファイル (回線と短縮ダイヤル番号を含む) が、その電話機上に置かれます。この機能は、エンドユーザの IP フォンが恒常的に割り当てられていない環境で主に使用されます。

エクステンション モビリティ プロファイルをエンドユーザに関連付けるには、そのエンドユーザの [**エンドユーザの設定 (End User Configuration)**] ウィンドウにアクセスする必要があります。既存のエンドユーザの情報にアクセスする方法については、P.87-2 の「**エンドユーザの検索**」を参照してください。エンドユーザに対して Cisco エクステンション モビリティを設定し関連付ける方法については、『*Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Cisco エクステンション モビリティ」を参照してください。

エンドユーザの削除

Cisco Unified CallManager の管理ページを使用してエンドユーザを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

エンドユーザを削除する前に、そのエンドユーザに関連付けられているデバイスまたはプロフィールを削除する必要があるかどうかを判断します。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [デバイスの割り当て (Device Associations)] [エクステンションモビリティ (Extension Mobility)] [電話番号の割り当て (Directory Number Associations)] [CAPF 情報 (CAPF Information)] および [権限情報 (Permissions Information)] の各エリアから、エンドユーザに割り当てられているデバイスおよびプロフィールを表示できます。[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク] ドロップダウンリストボックスから [依存関係レコード] を選択することもできます。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [エンドユーザ] の順に選択します。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のエンドユーザを見つけるには、検索条件を入力し、[検索] をクリックします。

検索条件と一致するエンドユーザのリストが表示されます。

ステップ 3 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除するエンドユーザの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の削除] をクリックする。
- [すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックし、ウィンドウ内のすべてのエンドユーザを削除する。
- 削除するエンドユーザのユーザ ID をリストから選択して、現在の設定値を表示し、[削除] をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

追加情報

[P.87-19 の「関連項目」](#)を参照してください。

関連項目

- [エンドユーザの検索 \(P.87-2\)](#)
- [エンドユーザの追加 \(P.87-3\)](#)
- [Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイスメールボックスの作成 \(P.87-4\)](#)
- [エンドユーザの設定値 \(P.87-6\)](#)
- [エンドユーザのパスワードの変更 \(P.87-11\)](#)
- [エンドユーザの PIN の変更 \(P.87-12\)](#)
- [エンドユーザのユーザ関連情報の設定 \(P.87-13\)](#)
- [エンドユーザとデバイスとの関連付け \(P.87-15\)](#)
- [Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け \(P.87-17\)](#)
- [エンドユーザの削除 \(P.87-18\)](#)
- [LDAP システムの設定 \(P.12-1\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.48-1\)](#)
- [CTI ルートポイントの設定 \(P.67-1\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-1\)](#)
- [ロールの設定 \(P.88-1\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.89-1\)](#)
- [ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示 \(P.89-11\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンドユーザの設定チェックリストの管理」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンドユーザ」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「プロキシ回線サポートのある Cisco Unified CallManager Assistant」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「共有回線サポートのある Cisco Unified CallManager Assistant」



ロールの設定

完全な管理特権（アクセス権）を持つ Cisco Unified CallManager 管理者は、ロールを使用して、エンド ユーザおよびアプリケーション ユーザに対してさまざまなレベルの特権を設定できます。完全な管理特権を持つ管理者が、ロールおよびユーザ グループを設定します。また、多くの場合、フル アクセス権を持つ管理ユーザが、他の管理ユーザおよびエンド ユーザに対して Cisco Unified CallManager の管理ページおよび他のアプリケーションへの特権を設定します。

アプリケーションごとに、異なるレベルの特権が存在します。Cisco Unified CallManager の管理アプリケーションの場合、読み取り特権とアップデート特権という 2 つのレベルの特権が存在します。これらの特権レベルの違いは次のとおりです。

- アップデート特権を持つユーザは、そのユーザのユーザ グループにアップデート特権が設定されている [Cisco Unified CallManager の管理] ウィンドウを表示および変更できる。
- 読み取り特権を持つユーザは、そのユーザのユーザ グループに読み取り特権が設定されているロールに属する [Cisco Unified CallManager の管理] ウィンドウを表示できる。ただし、ウィンドウの読み取り特権を持つユーザは、読み取り特権だけを持つ Administration ウィンドウで変更操作を行うことはできません。読み取り特権を持つユーザに対して、Cisco Unified CallManager の管理アプリケーションはアップデート用のボタンもアイコンも表示しません。

ロールは、アプリケーションのリソース グループで構成されます。インストール時に、さまざまな管理機能に対してデフォルトの標準ロールが作成されます。ただし、アプリケーションのカスタム リソース グループで構成されるカスタム ロールを作成できます。



(注)

標準ロールの中には、アプリケーションにもリソースにも関連付けられていないものがあります。これらのロールは、さまざまなアプリケーションのログイン認証を提供します。

ロールを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [ロールの検索 \(P.88-2\)](#)
- [ロールの設定 \(P.88-4\)](#)
- [ロールの削除 \(P.88-5\)](#)
- [ロールの設定値 \(P.88-6\)](#)

追加情報

P.88-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ロールの検索

ネットワーク内にはいくつかのロールが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、特定のロールを見つけることができます。ロールを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、ロールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ロールの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [権限] の順に選択します。

[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ロールを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象 : 権限、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [名前]
- [アプリケーション]

2 番目の [検索対象 : 権限、検索条件 :] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているロールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたロールのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [アプリケーション (Application)]
- [説明 (Description)]



ヒント 検索結果内でロールを検索するには、[**絞り込み**] チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するロールの横にあるチェックボックスをオンにして [**選択項目の削除**] をクリックすると、[**権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)**] ウィンドウから複数のロールを削除できます。[**すべてを選択**] をクリックして [**選択項目の削除**] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのロールを削除できます。



(注) 標準ロールを削除することはできません。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するロール名をクリックします。

選択したロールがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.88-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ロールの設定

Cisco Unified CallManager の管理ページにロールを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [権限] の順に選択します。

[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のロールをコピーする場合は、適切なロールを見つけ (P.88-2 の「[ロールの検索](#)」を参照)、コピーするロールの横にある [コピー] ボタンをクリックします。表示されるポップアップウィンドウで、新しいロールの名前を入力し、[OK] をクリックします。[ステップ 4](#) に進みます。



(注) ロールをコピーすると、そのロールに関連付けられている特権もコピーされます。

- 新しいロールを追加する場合は、[新規追加] ボタンをクリックし、[ステップ 3](#) に進みます。
- 既存のロールを更新する場合は、適切なロールを見つけ (P.88-2 の「[ロールの検索](#)」を参照)、[ステップ 4](#) に進みます。

ステップ 3 新しいロールを追加する場合は、[アプリケーション] ドロップダウン リスト ボックスからアプリケーションを選択し、[次へ] をクリックします。

ステップ 4 表示される [権限の設定 (Role Configuration)] ウィンドウで、適切な設定値を入力します (表 88-1 を参照)。

ステップ 5 ロールを追加するには、[保存] をクリックします。

新しいロールが Cisco Unified CallManager データベースに追加されます。

追加情報

[P.88-7 の「関連項目」](#) を参照してください。

ロールの削除

Cisco Unified CallManager の管理ページからロールを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [権限] の順に選択します。

[権限の設定 (Role Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 左側のロール リストで、削除するロールの名前をクリックします。



(注) 標準ロールを削除することはできません。

選択したロールが表示されます。

ステップ 3 [削除] をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、そのロールがデータベースから削除されます。




追加情報

P.88-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ロールの設定値

表 88-1 では、ロールの設定値について説明します。関連する手順については、P.88-7 の「関連項目」を参照してください。

表 88-1 ロールの設定値

フィールド	説明
[権限情報 (Role Information)]	
[アプリケーション]	ドロップダウン リスト ボックスから、このロールに関連付けるアプリケーションを選択します。
[名前 (Name)]	ロールの名前を入力します。128 文字までの名前を入力できます。
[説明 (Description)]	ロールの説明を入力します。128 文字までの説明を入力できます。
[リソースアクセス情報 (Resource Access Information)]	
(選択したアプリケーションの リソース名のリスト)	<p>[リソースアクセス情報 (Resource Access Information)] ペインで、このロールに含めるリソースの横にあるチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) アプリケーションによっては、各リソースに 1 つのチェックボックスしか適用されないものもあります。Cisco Unified CallManager の管理アプリケーションの場合、各リソースに [read] チェックボックスと [update] チェックボックスが適用されます。</p>
[全員にアクセスを許可]	<p>このロールに対して、このページに表示されているすべてのリソースの特権を付与するには、このボタンをクリックします。</p> <p> (注) リソースのリストが複数のページにわたって表示されている場合、このボタンは現在のページに表示されているリソースだけに適用されます。他のページに表示されるリソースのアクセス権を変更する場合は、そのページの表示して、そのページのボタンを使用する必要があります。</p>
[全員のアクセスを拒否]	<p>このロールに対して、このページに表示されているすべてのリソースの特権を削除するには、このボタンをクリックします。</p> <p> (注) リソースのリストが複数のページにわたって表示されている場合、このボタンは現在のページに表示されているリソースだけに適用されます。他のページに表示されるリソースのアクセス権を変更する場合は、そのページの表示して、そのページのボタンを使用する必要があります。</p>

関連項目

- [ロールの検索 \(P.88-2\)](#)
- [ロールの設定 \(P.88-4\)](#)
- [ロールの削除 \(P.88-5\)](#)
- [ロールの設定値 \(P.88-6\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.89-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ロールとユーザグループ」



ユーザグループの設定

フルアクセス権を持つユーザは、[Cisco Unified CallManager の管理] の [ユーザ管理] メニューの [権限] メニュー オプションおよび [ユーザグループ] メニュー オプションを使用して、Cisco Unified CallManager 管理者に対してさまざまなレベルのウィンドウアクセスを設定できます。フルアクセス権を持つユーザが、ロール、ユーザグループ、およびロールのアクセス特権を設定します。また、多くの場合、フルアクセス権を持つユーザが他のユーザに対して Cisco Unified CallManager の管理ページへのアクセス権を設定します。

ユーザグループは、アプリケーションユーザとエンドユーザで構成されます。ユーザは、複数のユーザグループに属することができます。ユーザグループを追加した後に、ユーザをユーザグループに追加します。続いて、ユーザグループにロールを割り当てることもできます。ユーザが複数のユーザグループに属している場合、そのユーザの有効な特権は、MLA のアクセス権のエンタープライズパラメータによって決まります。

ユーザグループの設定、ユーザグループへのユーザの割り当て、ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示を行うには、次のトピックを参照してください。

- [ユーザグループの検索 \(P.89-2\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.89-4\)](#)
- [ユーザグループの削除 \(P.89-5\)](#)
- [ユーザグループへのユーザの追加 \(P.89-6\)](#)
- [ユーザグループからのユーザの削除 \(P.89-8\)](#)
- [ユーザグループへのロールの割り当て \(P.89-9\)](#)
- [ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示 \(P.89-11\)](#)

ユーザグループの検索

ネットワーク内にはいくつかのユーザグループが存在することがあるので、Cisco Unified CallManager では、固有の条件を指定して、固有のユーザグループを見つけることができます。ユーザグループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified CallManager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、ユーザグループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ユーザグループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ユーザグループを検索します。

ステップ 2 最初の [検索対象: ユーザグループ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件を選択します。

- [名前]

2 番目の [検索対象: ユーザグループ、検索条件:] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [が次の文字列で始まる]
- [が次の文字列を含む]
- [が次の文字列と等しい]
- [が次の文字列で終わる]
- [が空である]
- [が空ではない]

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索] をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているユーザグループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに [検索] をクリックします。

検出されたユーザグループのリストが、次の項目別に表示されます。

- [名前 (Name)]
- [権限 (Roles)] (アイコン)



ヒント 検索結果内でユーザグループを検索するには、[絞り込み] チェックボックスをオンにし、このステップの説明に従って検索条件を入力します。



(注) 該当するユーザグループの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウから複数のユーザグループを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのユーザグループを削除できます。



(注) 標準ユーザグループを削除することはできません。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するユーザグループ名をクリックします。

選択したユーザグループがウィンドウに表示されます。

追加情報

P.89-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザグループの設定

Cisco Unified CallManager の管理ページでユーザグループを追加、コピー、および更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- 既存のユーザグループをコピーする場合は、適切なユーザグループを見つけ (P.89-2 の「[ユーザグループの検索](#)」を参照)、コピーするユーザグループの横にある [コピー] ボタンをクリックします。表示されるポップアップ ウィンドウで、新しいユーザグループの名前を入力し、[OK] をクリックします。ステップ 3 に進みます。
- 新しいユーザグループを追加する場合は、[新規追加] ボタンをクリックします。新しいユーザグループの名前を入力し、[OK] をクリックします。ステップ 3 に進みます。



(注) ユーザグループ名には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。ユーザグループ名は固有の名前にしてください。

- 既存のユーザグループを更新する場合は、適切なユーザグループを見つけます (P.89-2 の「[ユーザグループの検索](#)」を参照)。更新するユーザグループの名前をクリックします。選択したユーザグループが表示されます。該当する設定値を変更します。ステップ 3 に進みます。



(注) 標準ユーザグループを削除することはできませんが、標準ユーザグループのユーザメンバシップの更新は可能です。

ステップ 3 [保存] をクリックします。

ステップ 4 このユーザグループにユーザを追加します。P.89-6 の「[ユーザグループへのユーザの追加](#)」を参照してください。

ステップ 5 このユーザグループにロールを割り当てます。P.89-9 の「[ユーザグループへのロールの割り当て](#)」を参照してください。

追加情報

P.89-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザグループの削除

Cisco Unified CallManager の管理ページからユーザグループを削除する手順は、次のとおりです。この手順を実行すると、ユーザグループが完全に削除されます。ユーザグループから特定のユーザのみを削除するには、[P.89-8 の「ユーザグループからのユーザの削除」](#)を参照してください。

始める前に

ユーザグループを削除すると、Cisco Unified CallManager によってすべてのユーザグループデータがデータベースから削除されます。ユーザグループを使用しているロールを検索するには、[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウの [関連リンク] ドロップダウン リストボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能でない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、[P.A-4 の「依存関係レコードへのアクセス」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [P.89-2 の「ユーザグループの検索」](#)の手順を使用して、削除するユーザグループを見つけます。

ステップ 3 削除するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。このユーザグループのユーザがアルファベット順に一覧表示されます。

ステップ 4 グループを完全に削除する場合は、[削除] をクリックします。

ユーザグループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 ユーザグループを削除するには、[OK] をクリックします。削除操作を取り消すには、[キャンセル] をクリックします。[OK] をクリックすると、Cisco Unified CallManager によってユーザグループがデータベースから削除されます。

追加情報

[P.89-12 の「関連項目」](#)を参照してください。

ユーザグループへのユーザの追加

Cisco Unified CallManager の管理ページのユーザグループにエンドユーザおよびアプリケーションユーザを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ユーザを追加する先のユーザグループを見つけます。P.89-2 の「ユーザグループの検索」の手順を使用します。

ステップ 3 更新するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。[グループ内のユーザ (Users in Group)] リストに、現在そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。

ステップ 4 エンドユーザを追加するには、[グループにエンドユーザを追加] をクリックします。アプリケーションユーザを追加するには、[ステップ 8](#) に進みます。

[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 追加するエンドユーザを見つけるために [検索対象: ユーザ、検索条件:] ドロップダウンリストボックスを使用して、[検索] をクリックします。



(注) ユーザを検索するには、さまざまな方法があります。ユーザの名、ミドルネーム、姓、ユーザ ID、または部門を入力できます。それらの値を入力する代わりに、フィールドを空白のままにすれば、すべてのユーザを表示することができます。

検索条件と一致するエンドユーザのリストが表示されます。



(注) 検索結果のリストには、すでにそのユーザグループに属しているエンドユーザは表示されません。

ステップ 6 検索結果のリストで、このユーザグループに追加するユーザの横にあるチェックボックスをオンにします。検索結果のリストが複数のページになった場合は、下部のリンクを使用すれば次のページを表示できます。

ステップ 7 [選択項目の追加] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが再表示されます。このとき、[グループ内のユーザ (Users in Group)] ペインには、追加したユーザが一覧表示されます。



(注) ユーザを追加した後、そのユーザの [権限 (Permission)] 列で **i** アイコンをクリックすると、そのユーザのロールを表示できます。

ステップ 8 アプリケーション ユーザを追加するには、[グループにアプリケーションユーザを追加] をクリックします。

[アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 9 追加するアプリケーション ユーザを見つけるために [検索対象: アプリケーションユーザ、検索条件: ユーザ ID] ドロップダウン リスト ボックスを使用して、[検索] をクリックします。



(注) ユーザ ID を入力して、アプリケーション ユーザを検索できます。また、フィールドをblankのままにすれば、すべてのアプリケーション ユーザを表示することができます。

検索条件と一致するアプリケーション ユーザのリストが表示されます。

ステップ 10 検索結果のリストで、このユーザ グループに追加するアプリケーション ユーザの横にあるチェックボックスをオンにします。検索結果のリストが複数のページになった場合は、下部のリンクを使用すれば次のページを表示できます。



(注) 検索結果のリストには、すでにそのユーザ グループに属しているアプリケーション ユーザは表示されません。

ステップ 11 [選択項目の追加] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが再表示されます。このとき、[グループ内のユーザ (Users in Group)] ペインには、追加したアプリケーション ユーザが一覧表示されます。



(注) アプリケーション ユーザを追加した後、そのユーザの [権限 (Permission)] 列で **i** アイコンをクリックすると、そのユーザのロールを表示できます。

ステップ 12 [保存] をクリックして、このユーザグループへの変更内容を保存します。

追加情報

P.89-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザグループからのユーザの削除

Cisco Unified CallManager の管理ページのユーザグループからユーザを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ユーザを削除するユーザグループを見つけます。P.89-2 の「ユーザグループの検索」の手順を使用します。

ステップ 3 更新するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。[グループ内のユーザ (Users in Group)] リストに、現在そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。

ステップ 4 このユーザグループから削除するユーザの名前の横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [選択項目の削除] をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 6 選択したユーザグループメンバーを削除するには、[OK] をクリックします。このウィンドウを閉じるには、[キャンセル] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが再表示されます。このとき、[グループ内のユーザ (Users in Group)] ペインには、削除したユーザが表示されません。

追加情報

P.89-12 の「関連項目」を参照してください。

ユーザグループへのロールの割り当て

フル アクセス権を持つユーザは、ユーザグループにロールを割り当てることができます。ロールを割り当てられたユーザグループは、そのロールに含まれるリソースにアクセスできます。

Cisco Unified CallManager の管理ページのユーザグループにロールを割り当てる手順は、次のとおりです。



(注)

管理者は、ユーザグループにロールを割り当てる場合、Standard CCM Admin Users ロールを割り当てる必要があります。このロールによって、ユーザは、Cisco Unified CallManager の管理ページにログインできるようになります。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザグループ] の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ロールを割り当てるユーザグループを見つけます。P.89-2 の「ユーザグループの検索」の手順を使用します。

ステップ 3 ロールを割り当てるユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。[グループ内のユーザ (Users in Group)] リストに、現在そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。

ステップ 4 [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザグループに権限を割り当て] を選択し、[移動] をクリックします。

[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが変更され、[権限の割り当て (Role Assignment)] ペインが表示されます。選択したユーザグループに割り当てられているロールが一覧表示されます。次のいずれかのオプションを選択します。

- ユーザグループにロールを割り当てる場合は、[ステップ 5](#) に進みます。
- ユーザグループからロールを削除する場合は、[ステップ 9](#) に進みます。

ステップ 5 ユーザグループに追加のロールを割り当てるには、[グループに権限を割り当て] をクリックします。

[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 必要に応じて、[検索対象: 権限、検索条件:] を使用してロールのリストを絞り込みます。

ステップ 7 ロール名の横にあるチェックボックスをオンにして、このユーザグループに割り当てるロールを選択します。このユーザグループにロールを割り当てずに [権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップ ウィンドウを閉じるには、[閉じる] をクリックします。

■ ユーザグループへのロールの割り当て

ステップ 8 [選択項目の追加] をクリックします。

[権限の検索と一覧表示 (Find and List Roles)] ポップアップ ウィンドウが閉じます。選択したロールが、このユーザグループの [権限の割り当て (Role Assignment)] ペインに追加されます。このユーザグループに割り当てられているロールを削除しない場合は、[ステップ 10](#)に進みます。

ステップ 9 割り当てられているロールをユーザグループから削除するには、[権限の割り当て (Role Assignment)] ペインでロールを選択し、[権限の割り当ての削除] をクリックします。このユーザグループから削除する各ロールに対して、この手順を繰り返します。

ステップ 10 [保存] をクリックします。

データベース内で、このユーザグループに対するロール割り当ての追加および削除が行われます。

追加情報

[P.89-12](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示

ここでは、特定のユーザグループに属するユーザに割り当てられているロール、ユーザグループ、および権限を表示する方法について説明します。ユーザグループ内のユーザに割り当てられているロール、ユーザグループ、および権限を表示する手順は、次のとおりです。



(注) [ユーザ管理]>[アプリケーションユーザ](アプリケーションユーザの場合)または[ユーザ管理]>[エンドユーザ](エンドユーザの場合)を使用して特定のユーザを表示してから、そのユーザのロールを表示することもできます。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理]>[ユーザグループ]の順に選択します。

[ユーザグループの検索と一覧表示 (Find and List User Groups)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 割り当てられているロールを表示するユーザが属するユーザグループを見つけます。P.89-2 の「[ユーザグループの検索](#)」の手順を使用します。

ステップ 3 ユーザに割り当てられているロールを表示するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループの [ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。[グループ内のユーザ (Users in Group)] ペインに、そのユーザグループに属しているユーザが表示されます。

ステップ 4 特定のユーザのユーザ名をクリックします。

[アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウ (アプリケーションユーザの場合) または [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ (エンドユーザの場合) が表示されます。

ステップ 5 [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [ユーザ特権レポート] を選択し、[移動] をクリックします。

選択したユーザについて、次の情報が表示されます。

- ユーザが属しているユーザグループ。
- ユーザに割り当てられているロール。
- ユーザがアクセス権を持っているリソース。リソースごとに、次の情報が表示されます。
 - [アプリケーション (Application)]
 - [リソース (Resource)]
 - [権限 (Permission)] ([read] または [update]、あるいはその両方)

ステップ 6 ユーザに戻るには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスで [ユーザの設定に戻る] または [アプリケーションユーザに戻る] を選択し、[移動] をクリックします。

追加情報

P.89-12 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [ユーザグループの検索 \(P.89-2\)](#)
- [ユーザグループの設定 \(P.89-4\)](#)
- [ユーザグループの削除 \(P.89-5\)](#)
- [ユーザグループへのユーザの追加 \(P.89-6\)](#)
- [ユーザグループからのユーザの削除 \(P.89-8\)](#)
- [ユーザグループへのロールの割り当て \(P.89-9\)](#)
- [ユーザのロール、ユーザグループ、および権限の表示 \(P.89-11\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ロールとユーザグループ」
- [エンドユーザの設定 \(P.87-1\)](#)
- [アプリケーションユーザの設定 \(P.86-1\)](#)



ユーザ / 電話機の追加の設定

[Cisco Unified CallManager の管理] の [エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウという 1 つのウィンドウを使用するだけで、管理者は、新しいユーザを追加してそのユーザを新しい電話機に割り当てるために必要な基本操作を行うことができます。新しいエンドユーザを追加して、そのエンドユーザを新しい電話機に関連付けるときに、このウィンドウを使用して、新しい電話機に新しい Directory Number (DN; 電話番号) および Line Appearance (LA; ライン アピアランス) 情報を設定することもできます。



(注) [エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウでは、既存のエンドユーザ、電話機、および電話番号を入力することはできません。

[エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウでは、次のタイプのレコードが追加されます。

- エンドユーザ
- 電話機
- 電話番号
- デバイス プロファイル



(注) LDAP サーバとの同期が使用可能でない場合に限り、エンドユーザ情報を変更できます。LDAP サーバとの同期が使用可能かどうかを調べるには、[システム] > [LDAP] > [LDAP システム] メニュー オプションを使用します。表示される [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで、[LDAP サーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスがオフであることを確認します。同期が使用可能である場合、エンドユーザ データを表示できますが、変更することはできません。

次のトピックでは、[エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウを使用して、エンドユーザ、電話機、電話番号、およびライン アピアランスを追加する方法について説明します。

- [エンドユーザと電話機の追加 \(P.90-2\)](#)
- [ユーザとデバイスの設定値 \(P.90-3\)](#)

追加情報

P.90-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

エンドユーザと電話機の追加

エンドユーザと電話機を追加して、そのユーザと電話機を電話番号とデバイス プロファイルに関連付ける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [ユーザ管理] > [ユーザ / 電話の追加] の順に選択します。

[エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウが表示されます。



(注) 次に進む前に、[エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウの右上にある [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックス内のリンクを使用して、エンドユーザまたは電話機がすでに存在するかどうかを調べることができます。

すでに存在しているエンドユーザを検索するには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスで [ユーザの検索 / 一覧表示に戻る] を選択し、[移動] をクリックします。表示される [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウを使用して、追加するエンドユーザ ID を検索します。そのエンドユーザ ID がすでに存在する場合は、[ユーザ / 電話の追加] メニュー オプションを使用して、そのエンドユーザを追加することはできません。

すでに存在している電話機を検索するには、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスで [電話の検索 / 一覧表示に戻る] を選択し、[移動] をクリックします。表示される [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウを使用して、追加する電話機を検索します。その電話機がすでに存在する場合は、[ユーザ / 電話の追加] メニュー オプションを使用して、その電話機を追加することはできません。

どちらの [関連リンク] を使用した場合でも、[ステップ 1](#) を繰り返して、[エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウに戻ります。

ステップ 2 適切な設定値を入力します ([表 90-1](#) を参照)。

ステップ 3 エンドユーザとデバイスの追加を完了し、そのユーザとデバイスを電話番号に関連付けたら、[保存] をクリックし、変更内容を保存してエンドユーザとデバイスを追加します。

追加情報

P.90-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ユーザとデバイスの設定値

表 90-1 では、エンド ユーザの設定値について説明します。関連する手順については、P.90-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

表 90-1 ユーザとデバイスの設定値

フィールド	説明
[ユーザ情報 (User Information)]	
[LDAP 同期状態 (LDAP Sync Status)]	このフィールドには、[システム] > [LDAP] > [LDAP システム] メニュー オプションで設定した、LDAP 同期の状況が表示されます。
[ユーザ ID (User ID)]	エンド ユーザの識別名を入力します。Cisco Unified CallManager では、ユーザ ID の作成後の変更はできません。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、\、,、“”) およびブランクを使用できます。
[パスワード (Password)]	エンド ユーザ パスワードとなる 5 文字以上の英数字または特殊文字を入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、\、,、“”) およびブランクを使用できます。
[パスワードの確認 (Confirm Password)]	エンド ユーザのパスワードをもう一度入力します。
[PIN]	Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) となる 5 文字以上の英数字を入力します。
[PIN の確認 (Confirm PIN)]	PIN をもう一度入力します。
[姓 (Last Name)]	エンド ユーザの姓を入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、\、,、“”) およびブランクを使用できます。
[ミドルネーム (Middle name)]	エンド ユーザのミドル ネームを入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、\、,、“”) およびブランクを使用できます。
[名 (First Name)]	エンド ユーザの名を入力します。特殊文字 (=、+、<、>、#、;、\、,、“”) およびブランクを使用できます。
[デバイスの割り当て (Device Associations)]	
[製品のタイプ (Product Type)]	このリスト ボックスには、このエンド ユーザとのアソシエーションに使用できるデバイスのタイプが表示されます。 ドロップダウン リスト ボックスから、このエンド ユーザに関連付けるデバイスのタイプを選択します。
[MAC アドレス (MAC Address)]	新しいユーザに関連付ける新しいデバイスの固有の MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。
[DN のコーリングサーチスペース (Calling Search Space DN)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このユーザとデバイスに関連付ける電話番号用のコーリング サーチ スペースを選択します。
[電話機のコーリングサーチスペース (Calling Search Space Phone)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このユーザとデバイスに関連付ける電話機用のコーリング サーチ スペースを選択します。

表 90-1 ユーザとデバイスの設定値 (続き)

フィールド	説明
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>関連付けられたデバイスから発信される外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このマスクには、最長 24 文字までを指定できます。有効な文字は 0 ~ 9、*、#、および X です。 発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。関連付けられたデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。 次の例を参照してください。 <p>マスク 972813XXXX を指定する場合、外部コールを行うのに使用されるルート パターンで [発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)] オプションがオンになっていれば、内線番号 1234 からの外部コールは、発信者 ID が 9728131234 と表示されます。</p> <p>代表番号を表すために、9728135000 のようなすべて数字列のマスクを指定する場合は、その番号 (9728135000) が、関連付けられた任意のデバイスからの外部コールの発信者 ID として表示されます。</p>
[内線 (Extension)]	<p>このフィールドは、エンドユーザのプライマリ電話番号を表します。エンドユーザは、電話機に複数の回線を設定できます。</p> <p>新しいユーザと電話機の内線番号を入力します。0 ~ 9、?、[、]、+、-、*、^、#、! を使用できます。</p>
[パーティション (Partition)]	ドロップダウン リスト ボックスから、[内線 (Extension)] フィールドで指定した電話番号のパーティションを選択します。
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	ドロップダウン リスト ボックスから、電話番号のボイスメール プロファイルを選択します。システム デフォルトを使用する場合は、[<None>] を選択します。
[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]	エクステンション モビリティを使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。新しいユーザを追加した後、[ユーザ管理] > [エンドユーザ] メニュー オプションを使用して、エクステンション モビリティ プロファイルを選択できます。

追加情報

P.90-5 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [エンド ユーザと電話機の追加 \(P.90-2 \)](#)
- [ユーザとデバイスの設定値 \(P.90-3 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話番号の概要」
- [エンド ユーザの検索 \(P.87-2 \)](#)
- [エンド ユーザの追加 \(P.87-3 \)](#)
- [エンド ユーザの設定値 \(P.87-6 \)](#)
- [エンド ユーザのパスワードの変更 \(P.87-11 \)](#)
- [エンド ユーザの PIN の変更 \(P.87-12 \)](#)
- [エンド ユーザとデバイスとの関連付け \(P.87-15 \)](#)
- [Cisco エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け \(P.87-17 \)](#)
- [LDAP システムの設定 \(P.12-1 \)](#)
- [電話番号の設定 \(P.48-1 \)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定 \(P.67-1 \)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-1 \)](#)
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco エクステンション モビリティ」
- 『Cisco Unified CallManager 機能およびサービス ガイド』の「ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け」



アプリケーションユーザ CAPF プロファイルの設定

[Cisco Unified CallManager の管理] の [アプリケーションユーザ CAPF プロファイルの設定 (Application User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウを使用すると、セキュアなアプリケーションユーザにローカルで有効な証明書を発行できます。証明書を発行し、他のセキュリティ関連の作業を行った後、CTIManager サービスと、サーバ上でアクティブになっているアプリケーションとの間で TLS 接続が行われます。

1つのアプリケーションユーザ CAPF プロファイルは、サーバ上のアプリケーションの単一のインスタンスに対応します。たとえば、クラスタ内の2台のサーバ上で、あるアプリケーションをアクティブにする場合は、サーバごとに1つずつ、2つのアプリケーションユーザ CAPF プロファイルを設定する必要があります。同じサーバ上で2つの異なるアプリケーションをアクティブにする場合は、サーバ上のアプリケーションごとに1つずつ、2つのアプリケーションユーザ CAPF プロファイルを設定する必要があります。

アプリケーションユーザ CAPF プロファイルを設定する方法については、『Cisco Unified CallManager セキュリティガイド』を参照してください。



エンド ユーザ CAPF プロファイルの設定

[Cisco Unified CallManager の管理] の [エンドユーザ CAPF プロファイルの設定 (End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウを使用すると、CTI クライアントにローカルで有効な証明書を発行できます。証明書を発行し、他のセキュリティ関連の作業を行うと、CTI クライアントは TLS 接続を介して CTIManager サービスと通信します。

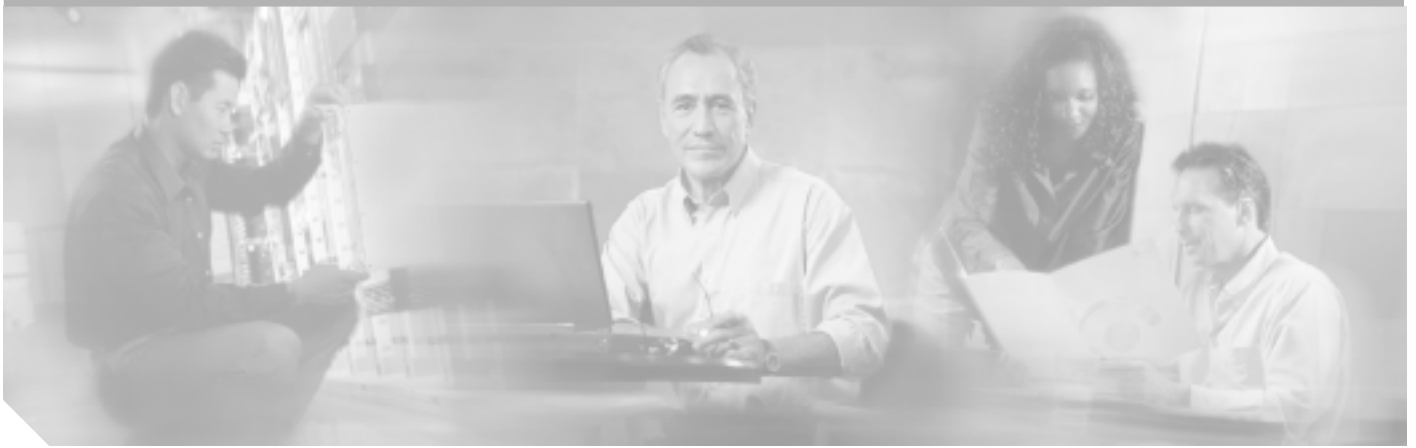
エンド ユーザ CAPF プロファイルを設定する方法については、『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。



SIP レルムの設定

SIP トランクにダイジェスト認証を設定すると、Cisco Unified CallManager は、トランクが Cisco Unified CallManager に SIP 要求を送信するたびに、トランクに接続する SIP ユーザ エージェントのアイデンティティを確認します。また、SIP ユーザ エージェントは、Cisco Unified CallManager のアイデンティティを確認できます。Cisco Unified CallManager が SIP ユーザ エージェントに応答するようするには、Cisco Unified CallManager に SIP レルムを設定する必要があります。

Cisco Unified CallManager に SIP レルムを設定する方法については、『*Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド*』を参照してください。



PART 9

Cisco Unified CallManager Bulk Administration





Bulk Administration Tool

Cisco Unified CallManager Bulk Administration Tool (BAT) は、Web ベースのアプリケーションであり、Cisco Unified CallManager データベースに対してバルク トランザクションを実行します。BAT を使用すると、多数の類似した電話機、ユーザ、またはポートを同時に追加、更新、または削除できます。Cisco Unified CallManager の管理ページを使用する場合は、データベース トランザクションごとに個々の手動操作が必要ですが、BAT ではこのプロセスが自動化されるため、高速な追加、更新、および削除操作が実現されます。

BAT を使用して処理できるデバイスとレコードのタイプは、次のとおりです。

- Cisco Unified IP Phone (Voice Gateway Chalice (VGC)電話機を含む)、Computer Telephony Interface (CTI) ポート、および H.323 クライアントの追加、更新、削除
- ユーザの追加、更新、削除
- ユーザ デバイス プロファイルの追加、更新、削除
- Cisco Unified CallManager Assistant マネージャおよびアシスタントの追加、更新、削除
- Cisco Catalyst 6000 FXS Analog Interface Module 上のポートの追加、更新、削除
- Cisco VG200 アナログ ゲートウェイおよびポートの追加、削除
- Forced Authorization Code の追加、削除
- Client Matter Code の追加、削除
- コール ピックアップ グループの追加、削除

これらのデバイスをユーザ情報と組み合わせて処理することもできます。たとえば、CTI ポートとユーザを追加する場合、BAT の「Enable CTI Application Use」を選択することにより、CTI ポートを必要とするアプリケーション (Cisco IP SoftPhone など) を持つユーザを短時間で追加できます。

BAT のオプション コンポーネントである Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) を使用すると、大規模なシステムの管理に関わる手動操作がさらに少なくなります。新しい電話機を大量に追加する必要がある場合は、BAT を使用すると、ダミーの Media Access Control (MAC; メディア アクセス制御) アドレスを持つデバイスを追加できるため、データ入力ファイルに MAC アドレスを 1 つずつ入力しなくて済みます。電話機のインストール後、電話機のユーザまたは管理者は TAPS 電話番号をコールして音声プロンプトに従うことにより、電話機の適切なユーザ デバイス プロファイルをダウンロードできます。

BAT および TAPS の詳細については、『Cisco Unified CallManager Bulk Administration ガイド』を参照してください。



PART 10

付録





依存関係レコード

この付録では、[Cisco Unified CallManager の管理] 内の依存関係レコードのウィンドウについて説明します。このウィンドウを使用すると、データベース内のどのレコードが特定のレコードを使用するかを判別できます。たとえば、どのデバイス (CTI ルート ポイントや電話機など) が特定のコーリング サーチ スペースを使用するかを判別できます。

Cisco Unified CallManager からレコードを削除する必要がある場合、依存関係レコードを使用すると、削除するレコードと関連付けられたレコードを表示することができます。次に、関連付けられたレコードを、別のレコードと関連付けるように再設定できます。

この付録は、次の項で構成されています。

- [依存関係レコードの使用可能化 \(P.A-2\)](#)
- [依存関係レコードの使用不可 \(P.A-3\)](#)
- [依存関係レコードへのアクセス \(P.A-4\)](#)
- [依存関係レコードのボタン \(P.A-5\)](#)

依存関係レコードの使用可能化

依存関係レコードにアクセスするには、まず依存関係レコードを使用可能にする必要があります。システムでは、依存関係レコードはデフォルトで使用不可になっています。依存関係レコードを使用可能にする手順は、次のとおりです。



依存関係レコード機能を使用可能にすると、CPU 使用率が高くなります。このタスクは、通常よりも低い優先度で実行され、ダイヤル プランの規模や複雑さ、CPU 速度、他のアプリケーションでの CPU 要求により、完了するまでに時間がかかる場合があります。

手順

ステップ 1 [システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの [CCMAdmin Parameters] 領域にスクロールします。

ステップ 3 [Enable Dependency Records] ドロップダウン リスト ボックスから、[True] を選択します。

依存関係レコードを使用可能にした場合の影響について説明するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。[OK] をクリックする前に、この情報をよく読んでください。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

フィールドに [True] が表示されます。

ステップ 5 [Save] をクリックします。

依存関係レコードの使用不可

依存関係レコードを使用可能にした後に、システムで CPU 使用率の問題が発生している場合には、依存関係レコードを使用不可にすることができます（システムでは、依存関係レコードはデフォルトで使用不可になっています）。依存関係レコードを使用不可にする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム] > [エンタープライズパラメータ] の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの [CCMAdmin Parameters] 領域にスクロールします。

ステップ 3 [Enable Dependency Records] ドロップダウン リスト ボックスから、[False] を選択します。

依存関係レコードに関するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。[OK] をクリックする前に、この情報をよく読んでください。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

フィールドに [False] が表示されます。

ステップ 5 [Save] をクリックします。

依存関係レコードへのアクセス

Cisco Unified CallManager の設定ウィンドウから依存関係レコードにアクセスするには、[関連リンク] ボックスから [依存関係レコード] を選択し、[移動] をクリックします。[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、Cisco Unified CallManager の設定ウィンドウに表示されたレコードを使用するレコードの数とタイプが表示されます。



(注)

依存関係レコードが有効になっていない場合は、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます (レコードに関する情報は表示されません)。依存関係レコードを使用可能にするには、P.A-2 の「[依存関係レコードの使用可能化](#)」を参照してください。

たとえば、[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウに Default デバイス プールが表示されている場合、[依存関係レコード] リンクをクリックすると、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウに、そのデバイス プールを使用するレコードがすべて表示されます ([図 A-1](#) を参照)。

図 A-1 依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] の例

レコード数 (Record Count)	レコードタイプ (Record Type)
2	Ephone
6	Gateway
6	Conference Bridge
6	Media Termination Point/Transcoder
1	CTI Route Point
6	Music On Hold Server
2	Trunk
6	Annunciator
62	Device Defaults

依存関係レコードの詳細情報を表示するには、表示対象のレコードをクリックします (たとえば、トランク レコードをクリックします)。[依存関係レコード詳細 (Dependency Records Detail)] ウィンドウが表示されます ([図 A-2](#) を参照)。元の設定ウィンドウに戻る場合は、[関連リンク] リストボックスから [要約に戻る] を選択して [移動] をクリックします。その後、[次に戻る : < 設定ウィンドウ名 >] を選択して [移動] をクリックするか、または [閉じて戻る] ボタンをクリックします。

図 A-2 依存関係レコード詳細 (Dependency Records Detail)] の例



[依存関係レコード詳細 (Dependency Records Detail)] ウィンドウに表示されているレコードの設定ウィンドウを表示するには、レコードをクリックします。そのレコードの設定ウィンドウが表示されます。たとえば、図 A-2 に示されている h225trunk レコードをクリックすると、[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウに、h225trunk に関する情報が表示されます。

依存関係レコードのボタン

[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウには、次の 3 つのボタンが表示されます。

- [リフレッシュ]: ウィンドウを現在の情報で更新する。
- [閉じる]: ウィンドウを閉じる。ただし、[依存関係レコード] リンクをクリックした Cisco Unified CallManager の設定ウィンドウには戻らない。
- [閉じて戻る]: ウィンドウを閉じ、[依存関係レコード] リンクをクリックした Cisco Unified CallManager の設定ウィンドウに戻る。

■ 依存関係レコードのボタン



Cisco Unity ボイスメール ポートの調整

Cisco CallManager 3.3(3) から Cisco Unified CallManager 4.0(1) への移行には、ボイスメール ポート設定の調整が必要です。この付録では、Cisco Unified CallManager Release 4.0 以降へのアップグレードにおいて Cisco Unity ボイスメール ポートに必要な変更について説明します。ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco Unity ボイスメール ポートの変更 \(P.B-2\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更 \(P.B-2\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業 \(P.B-3\)](#)
- [Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ \(P.B-3\)](#)

Cisco Unity ボイスメール ポートの変更

この項では、Cisco Unified CallManager での様々なボイスメール ポートの設定について説明します。Cisco CallManager 3.3(x) から Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへの移行により、ボイスメール ポートの設定が正しく移行されることを確認するために実行するシナリオおよび手順を使用します。この項では、Cisco CallManager 3.3(x) でのボイスメール ポート設定、および Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへ移行した後に予想される設定について説明します。また、システムを Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードした後で実行するボイスメッセージシステムの変更についても説明します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更 \(P.B-2\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業 \(P.B-3\)](#)
- [Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ \(P.B-3\)](#)

Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更

いくつかの項目を再設定して、セットアップしたシナリオタイプに応じてオリジナルのボイスメール ポート機能を保持する必要があります。また、この項の説明に従ってセットアップを変更する必要があります。

セットアップが受ける影響

最後のボイスメール ポートがルートパターン（ゲートウェイまたはクラスタ間トランク（ICT））へ転送されると、アップグレード後にこの設定が消滅します。クラスタ間トランクまたはゲートウェイをルートグループに追加して、ボイスメールパイロット番号に付加されたルートパターンの対応するルート/ハントリストに、ルートグループを追加する必要があります。ルートグループには、ルート/ハントリストの最後のメンバーが表示されます。



(注) ブロードキャスト分散アルゴリズムと Cisco Unity のボイスメール ポートの実行との併用はお勧めしません。

回線グループの転送および Cisco Unity フェールオーバー

推奨される Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップを使用している場合は、ボイスメール ポートに使用される回線グループに対して次の値を設定する必要があります。

- [応答なし (No Answer)]: 残りのメンバーをスキップして、直接次のグループへ進む。
- [話し中 (Busy)]: 次のメンバーに進むが、次のグループへは進まない。
- [使用不可 (Not Available)]: 残りのメンバーをスキップして、直接次のグループへ進む。

このマニュアル全体の様々なシナリオでは、これらの値に関する固有の情報について説明していません。

最後のボイスメール ポートがオペレータに対して設定され、オペレータが Call Forward No Answer (CFNA) および Call Forward Busy (CFB) をボイスメールパイロットに戻すように設定されている場合、CFB または CFNA を同じボイスメッセージシステムに戻すことができなくなります。オペレータ回線を含む回線グループを、ボイスメールハントリストに追加できます。

アップグレード後、システムによって、フェールオーバー ボイスメール ポートがある回線グループが、ハントリストパイロット番号に関連付けられたルート/ハントリストに配置されます。最初の設定に基づいて、ハントオプションを手動で選択する必要があります。

アップグレード後の変更内容

Cisco Unified CallManager の前のバージョンから Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへアップグレードすると、次の現象が発生する場合があります。

- [ボイスメールポートの設定 (Voice Mail Port Configuration)] ウィンドウに転送フィールドがない。
- ボイスメール ポートが回線グループ、ルート / ハント リスト、およびハント パイロット番号を使用している。データベースに既存のボイスメール ポートのセットアップがある場合、これらのエンティティはアップグレード後に自動的に作成されます。最初の設定に基づいて、ハント オプションを選択する必要があります。
- パイロット番号が、ポートの回線グループが存在するハント リストに割り当てられているルート パターンを示す。
- ポートが正しく機能するためには、同じサーバのポートが同じ回線グループに入っている必要がある。したがって、既存のサーバにポートを追加する場合、システムによって最初のポートで使用されたものと同じ回線グループが追加のポートに使用されます。
- ボイスメール ポートが、システムによってアップグレード処理中に新しく作成されたパーティションに配置される。
- MWI および発信コールに使用されるボイスメール ポートが、システムによって別の回線グループ、ルート / ハント リスト、およびハント リスト パイロット番号に配置される。

Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業

移行を正確に実行するには、ボイスメール ポートで次の手順を実行してください。

1. **重要:** 発信コールおよびメッセージ受信のインジケータだけに使用されるボイスメール ポートに設定されたコール転送をすべて削除してください。

Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ

サポートされるフェールオーバー設定は 2 つあります。これらのフェールオーバー設定については、White Paper 『Cisco Unified CallManager Port Configuration for Cisco Unity Failover (Cisco Unity Versions 4.0 and 3.1(2) and Later)』に記載されています。

この項では、Cisco CallManager 3.3(x) の設定例および Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の各設定の類似点の概要について説明します。Cisco Unified CallManager バージョン 4.0 以降のリリースへアップグレード後、一部の設定を手動で行う必要があります。これらの変更の概要についても説明します。

ここでは、次の内容について説明します。

- Cisco CallManager 3.3(x) での Cisco Unity フェールオーバーの設定 1 (推奨)(P.B-4)
- Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後の Cisco Unity フェールオーバーの設定 1 (推奨)(P.B-4)
- 1 つの Cisco Unified CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ (P.B-6)
- Cisco CallManager 3.3(x) で 1 つの Cisco Unified CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ (P.B-6)
- Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後に 1 つの Cisco Unified CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ (P.B-6)

Cisco CallManager 3.3(x) での Cisco Unity フェールオーバーの設定 1 (推奨)

この例では、各サーバで 4 つのポートが着信コールを処理し、2 つのポートが発信コールおよび MWI を処理します。PhoneCSS には、登録者の電話機に割り当てられたパーティションおよび VMPilotNumberPT が含まれます。VMRestrictedCSS には VMRestrictedPT だけが含まれ、VM ポートだけに割り当てられます。

プライマリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例は次のとおりです。

```
Port 1: (Line: 2001) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Port 1: (Line: 2001) Directory Number Settings - Partition = VMPilotNumberPT, CSS =
VMRestrictedCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Directory Number Settings - Partition = VMRestrictedPT,
CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Call Forwarding Settings on Busy and No Answer CSS =
VMRestrictedCSS
Line: 2001, CFNA = 3001, CFB = 2002
Line: 2002, CFNA = 3001, CFB = 2003
Line: 2003, CFNA = 3001, CFB = 2004
Line: 2004, CFNA = 3001, CFB = 2001
Line: 2005, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 2006, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```

セカンダリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します (ポートがすべて使用中または Ring No Answer (RNA) の場合、コールがオペレータに送信されない)

```
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Directory Number Settings - Partition = VMRestrictedPT,
CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Call Forwarding Settings on Busy and No Answer CSS =
VMRestrictedCSS
Line: 3001, CFNA = 3002, CFB = 3002
Line: 3002, CFNA = 3003, CFB = 3003
Line: 3003, CFNA = 3004, CFB = 3004
Line: 3004, CFNA = 3001, CFB = 3001
Line: 3005, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 3006, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```

セカンダリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します (ポートがすべて使用中または RNA の場合、コールがオペレータに送信される)

```
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Directory Number Settings - Partition = VMRestrictedPT,
CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Call Forwarding Settings on Busy and No Answer CSS =
VMRestrictedCSS
Line: 3001, CFNA = 3002, CFB = 3002
Line: 3002, CFNA = 3003, CFB = 3003
Line: 3003, CFNA = 3004, CFB = 3004
Line: 3004, CFNA = operator DN, CFB = operator DN
Line: 3005, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 3006, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```

Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後の Cisco Unity フェールオーバーの設定 1 (推奨)

この例では、各サーバで 4 つのポートが着信コールを処理し、2 つのポートが発信コールおよび MWI を処理します。PhoneCSS には、登録者の電話機に割り当てられたパーティションおよび VMPilotNumberPT が含まれます。VMRestrictedCSS には VMRestrictedPT だけが含まれ、VM ポートだけに割り当てられます。VMPilotPartition が自動的に作成され、ボイスメール ポートに割り当てられます。

プライマリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します。

```
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Directory Number Settings - Partition =
VMPilotPartition, CSS = VMRestrictedCSS
```

セカンダリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します。

```
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Directory Number Settings - Partition =
VMPilotPartition, CSS = VMRestrictedCSS
```

回線グループの設定例を次に示します (ポートがすべて使用中または RNA の場合、コールはオペレータに送信されない)。

1. Line Group Name: LG2001 は 2001 ~ 2004 を含み、次の設定値を持ちます。

```
No Answer: Skip remaining members, and go directly to next group (Because this
setting is not the default, you must set it manually.)
Busy: Try next member, but do not go to next group (Because this setting is not the
default, you must set it manually.)
Not Available: Skip remaining members, and go directly to next group (Because this
setting is not the default, you must set it manually.)
```

2. Line Group Name: LG3001 は 3001 ~ 3004 を含み、次の設定値を持ちます。

```
No Answer: Try next member, but do not go to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Try next member, but do not go to next group
```

これらの値は、アップグレード後に必ず手動で設定してください。

回線グループの設定例を次に示します (ポートがすべて使用中または RNA の場合、コールはオペレータに送信される)。



(注) 着信回線グループだけを設定し、ダイヤルアウトした回線グループはそのままにしてください。

1. Line Group Name: LG2001 は 2001 ~ 2004 を含み、次の設定値を持ちます。

```
No Answer: Skip remaining members, and go directly to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Skip remaining members, and go directly to next group
```

これらの値は、アップグレード後に必ず手動で設定してください。

2. Line Group Name: LG3001 は 3001 ~ 3004 を含み、次の設定値を持ちます。

```
No Answer: Try next member, but do not go to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Skip remaining members, and go directly to next group
```

これらの値は、アップグレード後に必ず手動で設定してください。

3. Line Group Name: Operator は、オペレータの内線 (たとえば 1000) を含みます。

```
No Answer: Try next member, but do not go to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Try next member, but do not go to next group
```

アップグレード後、ハントリストは自動的に次のように設定されます。

```
Hunt List Name: HL2001, includes Line Groups LG2001 and LG3001, and operator LG if
used, in this order.
```

アップグレード後、ハントパイロットは自動的に次のように設定されます。

```
Hunt Pilot: 2001, Partition: VMPilotNumberPT, Hunt List: HL2001
```

1 つの Cisco Unified CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ

この項では、1 台の Cisco Unity サーバおよび 1 つの Cisco Unified CallManager クラスタでのボイスメールポートの設定の概要について説明します。ここでは、次の設定例について説明します。

- [Cisco CallManager 3.3\(x\) で 1 つの Cisco Unified CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.B-6\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後に 1 つの Cisco Unified CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.B-6\)](#)

Cisco CallManager 3.3(x) で 1 つの Cisco Unified CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ

この例では、ボイスメールポートが次のように設定されます。

```
Port 1: (Line: 2001) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Port 1: (Line: 2001) Directory Number Settings - Partition = VMPilotNumberPT, CSS =
VMRestrictedCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Directory Number Settings - Partition =
VMRestrictedPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Call Forwarding Settings on Busy and No Answer CSS =
VMRestrictedCSS
Line: 2001, CFNA = 2002, CFB = 2002
Line: 2002, CFNA = 2003, CFB = 2003
Line: 2003, CFNA = 2004, CFB = 2004
Line: 2004, CFNA = 2001, CFB = 2001
Line: 2005, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 2006, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```

Cisco Unified CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後に 1 つの Cisco Unified CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ

この例では、ボイスメールポートが次のように設定されます。

```
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Directory Number Settings - Partition =
VMPilotPartition, CSS = VMRestrictedCSS
```

回線グループは、次のように設定されます。

Line Group Name: LG2001 は 2001 ~ 2004 を含み、次の設定値を持ちます。

```
No Answer: Try next member, but do not go to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Try next member, but do not go to next group
```

発信ポートに次の回線グループを作成します。

```
LG2005, include 2005 and 2006
```

これらの回線グループを次の値で設定します。

No Answer: Stop hunting. (Because this setting is not the default, you must set it manually.)

Busy: Stop hunting. (Because this setting is not the default, you must set it manually.)

Not Available: Stop hunting. (Because this setting is not the default, you must set it manually.)

ハント リストは、次のように設定されます。

Hunt List Name: HL2001, includes Line Groups LG2001

Hunt List Name: HL2004, includes Line Groups LG2004 and LG2001, in that order

Hunt List Name: HL2005, includes Line Groups LG2005 and LG2001, in that order

ハント パイロットは、次のように設定されます。

Hunt Pilot: 2001, Partition: VMPilotNumberPT, Hunt List: HL2001



シスコ以外の SIP 電話機の設定

Cisco Unified CallManager Release 5.0 は、Cisco SIP IP Phone、および RFC3261 に準拠しているサードパーティ製 SIP 電話機をサポートしています。この付録では、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して、サードパーティ製 SIP 電話機を設定する方法について説明します。

この付録は、次の項で構成されています。

- [SIP 電話機設定の相違点 \(P.C-2\)](#)
- [サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト \(P.C-4\)](#)
- [参考情報 \(P.C-5\)](#)

SIP 電話機設定の相違点

表 C-1 では、Cisco SIP IP Phone とサードパーティ製 SIP 電話機の設定を比較してその相違点の概要を示します。

表 C-1 SIP 電話機モデルの設定比較

SIP 電話機	中央集中型 TFTP との統合	MAC アドレスの送信	ソフトキーファイルのダウンロード	ダイヤル プランファイルのダウンロード	Cisco Unified CallManager のフェールオーバーとフェールバックのサポート	リセットと再起動のサポート
Cisco SIP IP Phone モデル 7911、7941、7961、7970、7971	はい	はい	はい	はい	はい	はい
Cisco SIP IP Phone モデル 7940、7960	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい
Cisco SIP IP Phone モデル 7905、7912	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい
サードパーティ製 SIP 電話機	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ

管理者が Cisco Unified CallManager の管理ページを使用してサードパーティ製 SIP 電話機を設定するとき、Cisco Unified CallManager データベースが更新されます。また、管理者はサードパーティ製 SIP 電話機上で設定手順を実行する必要もあります。次の例を参照してください。

- 電話機のプロキシ アドレスを Cisco Unified CallManager の IP アドレスまたは Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名) にする必要があります。
- 電話機の電話番号を、Cisco Unified CallManager の管理ページでデバイスに設定した電話番号と一致させる必要があります。
- 電話機のダイジェストユーザ ID (認可 ID と呼ばれる) を、Cisco Unified CallManager の管理ページで設定したダイジェストユーザ ID と一致させる必要があります。

詳細については、サードパーティ製 SIP 電話機に付属のマニュアルを参照してください。Cisco Unified CallManager の管理ページでの設定手順については、P.C-4 の「サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト」を参照してください。

Cisco Unified CallManager がサードパーティ製電話機を識別する方法

サードパーティ製 SIP 電話機は MAC アドレスを送信しないため、ダイジェスト認証を使用して自分自身の身元を証明する必要があります。

REGISTER メッセージには次のヘッダーが含まれています。

```
Authorization: Digest
username="swhite",realm="ccmsipline",nonce="GBauADss2qoWr6k9y3hGGVDAqnLfoLk5",uri="sip:172.18.197.224",algorithm=MD5,response="126c0643a4923359ab59d4f53494552e"
```

ユーザ名 swhite は、Cisco Unified CallManager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに設定されているエンドユーザと一致する必要があります (P.87-3 の「エンドユーザの追加」を参照)。管理者は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ダイジェストユーザ (Digest User)] フィールドで、サードパーティ製 SIP 電話機にユーザ (たとえば swhite) を設定します (P.70-3 の「Cisco Unified IP Phone の設定」を参照)。



(注)

各エンド ユーザ ID は、([電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ダイジェストユーザ (Digest User)] フィールドで) 1 つのサードパーティ製電話機だけに割り当てることができます。同じエンド ユーザ ID がダイジェスト ユーザとして複数の電話機に割り当てられている場合、そのエンド ユーザ ID が割り当てられているサードパーティ製電話機は正しく登録されません。

サードパーティ製 SIP 電話機と TFTP

サードパーティ製 SIP 電話機は、Cisco Unified CallManager TFTP サーバを使用して設定されません。お客様が、ネイティブ電話機設定メカニズム (通常は、Web ページまたは tftp ファイル) を使用して、電話機を設定します。お客様は、Cisco Unified CallManager データベース内のデバイスおよび回線の設定と、ネイティブ電話機設定の同期を保つ必要があります (たとえば、電話機の内線番号 1002、Cisco Unified CallManager で 1002)。さらに、回線の電話番号が変更された場合、Cisco Unified CallManager の管理ページとネイティブ電話機設定メカニズムの両方でその電話番号が変更されていることを確認してください。

サードパーティ製 SIP 電話機のダイジェスト認証の使用可能化

サードパーティ製 SIP 電話機のダイジェスト認証を使用可能にするには、管理者が SIP 電話機のセキュリティ プロファイルを作成する必要があります (第 20 章「電話機のセキュリティ プロファイルの設定」を参照)。[SIP 電話セキュリティプロファイルの設定 (SIP Phone Security Profile Configuration)] ウィンドウで、[ダイジェスト認証を有効化 (Enable Digest Authentication)] チェックボックスをオンにします。セキュリティ プロファイルの設定後、管理者は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、そのセキュリティ プロファイルを SIP 電話機に割り当てる必要があります。このチェックボックスがオフである場合、Cisco Unified CallManager は、エンド ユーザ ID によって電話機を識別するためにダイジェスト認証を使用し、ダイジェスト パスワードを確認しません。このチェックボックスがオンである場合、Cisco Unified CallManager はパスワードを確認します。



(注)

Cisco Unified CallManager は、サードパーティ製 SIP 電話機からの Transport Layer Security (TLS) をサポートしません。

■ サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト

サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト

表 C-2 では、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用してサードパーティ製 SIP 電話機を手動で設定する手順を示します。

表 C-2 サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト




設定手順	手順および関連項目
ステップ 1 電話機に関する次の情報を収集します。 <ul style="list-style-type: none"> • MAC アドレス • 電話機の物理的なロケーション • 電話機に関連付ける Cisco Unified CallManager ユーザ • パーティション、コーリング サーチ スペース、およびロケーションの情報（使用する場合） • 電話機に割り当てる回線および関連 DN の数 	
ステップ 2 ダイジェスト ユーザにするエンド ユーザを設定します。  (注) サードパーティ製 SIP 電話機が認可 ID(ダイジェスト ユーザ)をサポートしない場合は、サードパーティ製電話機の DN と一致するユーザ ID を持つユーザを作成してください。たとえば、1000 という名前のエンド ユーザを作成し、電話機に 1000 という DN を作成します。このユーザを電話機に割り当てます（ ステップ 8 を参照）。	エンド ユーザの追加 (P.87-3)
ステップ 3 SIP プロファイルを設定します。または、デフォルト プロファイルを使用します。SIP プロファイルは、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して SIP 電話機に追加されます。  (注) サードパーティ製 SIP 電話機は、[SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウの [SIP プロファイル情報 (SIP Profile Information)] セクションだけを使用します。	SIP プロファイルの設定 (P.79-3) Cisco Unified IP Phone の設定 (P.70-3)
ステップ 4 電話機のセキュリティ プロファイルを設定します。ダイジェスト認証を使用するには、新しい電話機セキュリティ プロファイルを設定する必要があります。自動登録用に提供されている標準のノンセキュア SIP プロファイルの 1 つを使用する場合は、ダイジェスト認証を使用可能にできません。	サードパーティ製 SIP 電話機のダイジェスト認証の使用可能化 (P.C-3) 電話機のセキュリティ プロファイルの設定 (P.20-1) <small>『Cisco Unified CallManager セキュリティ ガイド』</small>
ステップ 5 [新規電話を追加] ウィンドウから [Third-party SIP Device (Advanced)] または [Third-party SIP Device (Basic)] を選択して、サードパーティ製 SIP 電話機を追加し、設定します。  (注) [Third-party SIP Device (Basic)] は 1 つの回線をサポートし、3 つのライセンス ユニットの消費します。[Third-party SIP Device (Advanced)] は、8 つの回線とビデオをサポートし、6 つのライセンス ユニットの消費します。	Cisco Unified IP Phone の設定 (P.70-3)
ステップ 6 電話機に対して回線 (DN) を追加し、設定します。	電話番号の設定 (P.48-1)

表 C-2 サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト (続き)

設定手順	手順および関連項目
ステップ 7 [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで、[デバイスの割り当て (Device Associations)]を使用して SIP 電話機を選択し、サードパーティ製 SIP 電話機をユーザに関連付けます。	エンドユーザとデバイスとの関連付け (P.87-15)
ステップ 8 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [ダイジェストユーザ (Digest User)] フィールドで、 ステップ 2 で作成したエンドユーザを選択します。	電話機の設定値 (P.70-7)
ステップ 9 サードパーティ製 SIP 電話機に対して、電源を供給し、ネットワーク接続を装備して確認し、ネットワーク設定値を設定します。	SIP 電話機に付属のアドミニストレーション ガイドを参照してください。
ステップ 10 サードパーティ製 SIP 電話機でコールを発信します。	サードパーティ製 SIP 電話機に付属のユーザガイドを参照してください。

参考情報

- [電話番号の設定 \(P.48-1\)](#)
- [Cisco Unified IP Phone の設定 \(P.70-1\)](#)
- [SIP プロファイルの設定 \(P.79-1\)](#)
- [エンドユーザの設定 \(P.87-1\)](#)
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」



A		参考情報	1-8
AAR		参照	1-3
概要	27-1	設定	3-1
Analog Access	ゲートウェイとポート	設定値 (表)	3-4
追加	69-13	利点	1-2
Annunciator	52-1	ログイン	1-3
更新	3-3, 52-3	ログオフ	1-4
設定	52-1	Cisco Unified CallManager Assistant	
設定値 (表)	52-4	設定ウィザード	81-1
リセット	52-4	Cisco Unified CallManager アドミニストレーション ガイド	
B		関連資料	xxv
BAT		対象読者	xxiv
アプリケーションの概要	94-1	表記法	xxvi
BLF/ 短縮ダイヤル		マニュアルの構成	xxiv
設定値	70-27	目的	xxiii
BRI		Cisco Unified CallManager サーバの設定	
ゲートウェイ設定	69-37	ソフトウェア会議ブリッジ	53-3
ポート、追加	69-9	Cisco Unified CallManager の概要	1-1
C		Cisco Unified CallManager の管理ページ	
Cisco SIP IP Phone		操作	1-7
サードパーティ製 SIP デバイスの相違点	C-2	Cisco Unified IP Phone	
Cisco Unified CallManager		MAC アドレスの表示	70-5
主な機能	1-2	検索と一覧表示	70-33
概要	1-1	削除	70-6
グループ		設定	70-3
検索	4-2	設定の概要	70-1
削除	4-6	テンプレート、電話機のボタン	
設定値 (表)	4-5	設定	76-1
設定の概要	4-1	電話番号	48-1
追加	4-4	リセット	70-5
検索	3-2	Cisco Unified IP Phone サービス	
サーバ設定	2-1	依存関係レコード	78-6
		加入	70-28
		加入解除	70-29
		更新	70-29
		サービス パラメータの更新	78-7

- サービスパラメータの削除 78-9
- サービスパラメータの追加 78-7
- サービスの検索 78-2
- サービスの削除 78-6
- サービスの設定 78-4
- 設定 70-27, 78-1
- 設定値 (表) 78-5
- パラメータ設定値 (表) 78-8
- Cisco Unity
 - Cisco Unified CallManager 4.0 以降へのアップグレード B-2, B-3
 - ボイスメールポートのセットアップ B-3
 - ボイスメールポートの調整 B-1
 - ボイスメールポートのフェールオーバー B-3
 - ボイスメールポートの変更 B-2
 - ユーザ設定のボイスメールボックス 87-4
- Cisco Unity Connection
 - ユーザ設定のボイスメールボックス 87-4
- Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイスメールボックス
 - 電話番号 48-6
- Cisco uOne
 - MWI デバイス、設定 64-4
- Cisco ボイスメール
 - ウィザードを使用するポートの削除 63-7
 - ウィザードを使用するポートの追加 63-6
 - 新規サーバとポートの追加 63-2
 - 設定 62-1
 - プロファイルの設定 66-1
 - ポートウィザードの設定 63-1
 - ポートウィザードのデバイス情報の設定値 63-2
 - ポートウィザードの電話番号の設定値 63-3
 - ポートの検索 62-2
 - ポートの更新 62-4
 - ポートのコピー 62-4
 - ポートの削除 62-8
 - ポートの設定値 (表) 62-5
 - ポートの追加 62-4
 - メッセージ受信の設定 64-1
 - メッセージ受信番号の検索 64-2
- Cisco ボイスメールパイロット
 - 検索 65-2
 - 削除 65-5
 - 設定 65-1, 65-3
- CMLocal 日付 / 時間グループ 6-1
- CTI
 - ルートポイント
 - 検索 67-2
 - 削除 67-6
 - 設定 67-1
 - 設定値 (表) 67-4
 - 追加 67-3
 - リセット 67-7
- D
 - DHCP
 - アクティブ化、DHCP モニタ サービス 10-2
 - 開始、DHCP モニタ サービス 10-3
 - サーバ
 - 検索 10-4
 - 削除 10-7
 - 設定 10-5
 - 設定値 (表) 10-6
 - サブネット
 - 検索 11-1
 - 削除 11-5
 - 設定 11-3
 - 設定値 (表) 11-4
 - Digital Access PRI ポート 69-9
 - Digital Access T1
 - ポート 69-8
- F
 - FXO ポート 69-7
 - FXS ポート 69-5
- H
 - H.323、ゲートウェイの追加 69-13
 - HTTPS
 - Secure Sockets Layer 上の HTTP 1-4
- I
 - IP Phone サービス
 - 「Cisco Unified IP Phone サービス」を参照
 - IP アドレス 2-1
 - ISDN BRI、ゲートウェイ設定 69-37

- ISDN、ゲートウェイ設定 69-24
- L
- LDAP
 - 更新、LDAP システムの情報 12-2
 - 更新、LDAP 認証の情報 14-2
 - システム
 - 設定 12-1
 - 設定値 (表) 12-3
 - ディレクトリ
 - 検索 13-2
 - 削除 13-7
 - 設定 13-1, 13-3
 - 設定値 (表) 13-4
 - 認証
 - 設定 14-1
 - 設定値 (表) 14-3
- M
- Max list box エンタープライズ パラメータ
 - コーリング サーチ スペース 48-30
- MGCP
 - BRI
 - ゲートウェイの設定値 (表) 69-37
 - Cisco IOS、追加 69-3
 - Digital Access PRI ポート、追加 69-9
 - Digital Access T1 ポート 69-8
 - FXO ポート、追加 69-7
 - FXS ポート、追加 69-5
 - IOS 以外のゲートウェイ、追加 69-11
 - ゲートウェイ、追加 69-3
 - ポート、追加 69-5
- MLPP ドメイン
 - 概要 17-1
 - 検索 17-2
 - 削除 17-5
 - 設定 17-3
 - 設定値 (表) 17-4
- MTP
 - IOS MTP 設定値 (表) 54-5
 - 検索 54-2
 - 削除 54-6
 - 設定 54-1
 - 追加 54-4
- Multilevel Administration Access (MLA)
 - ユーザ グループからのユーザの削除 89-8
 - ユーザ グループへの特権の割り当て 89-9
- MWI
 - MWI デバイスの設定値 (表) 64-5
 - uOne 用の MWI デバイス 64-4
- N
- NTP サーバ 91-1, 92-1, 93-1
- P
- PRI、ゲートウェイ設定 69-24
- S
- SCCP
 - Cisco IOS、追加 69-10
 - ゲートウェイ、追加 69-10
- SIP
 - サードパーティ製 SIP 電話機と TFTP C-3
 - サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト (表) C-4
 - サードパーティ製デバイスの設定 C-1
 - 設定の相違点 C-2
- SIP 電話機
 - ダイジェスト認証の使用可能化
 - サードパーティ製電話機 C-3
- SIP のダイヤル規則
 - 検索 30-2
 - 更新 30-3
 - 削除 30-8
 - 設定 30-1, 30-3
 - 設定値 30-4
 - ダイヤル プランの例 30-7
 - パターンの形式 30-6
 - リセット 30-9
- SIP プロファイル
 - 検索 79-2
 - 更新 79-3
 - コピー 79-3
 - 削除 79-10
 - 設定 79-1
 - 設定値 79-4
 - 追加 79-3

- リセット 79-11
- SIP ルートパターン
 - 関連項目 38-8
 - 検索 38-2
 - 削除 38-8
 - 設定 38-1, 38-4
 - 設定値 (表) 38-5
- SRST
 - 検索 16-2
 - 削除 16-4
 - 設定 16-1, 16-3
 - 設定値 (表) 16-5
- Survivable Remote Site Telephony (SRST)
 - 設定 16-1

- T

- T1 ポート、追加 69-8
- TFTP
 - サードパーティ製 SIP 電話機 C-3

- U

- uOne、Cisco
 - MWI デバイス、設定 64-4

- V

- Video
 - Conference Bridge 53-9
- Voice Gateway 69-1

- あ

- アクセシビリティ
 - アクセス、ボタンとアイコン 1-8
- アドミッション制御
 - ロケーションを使用する実装 15-1
- アプリケーション サーバ
 - 検索 22-5
 - 削除 22-3
 - 設定 22-1, 22-2
 - 設定値 (表) 22-4
- アプリケーション ユーザ
 - アプリケーション プロファイル 86-9
 - アプリケーション ユーザとデバイスとの関連付け 86-10
 - 検索 86-2
 - 設定 86-1
 - 設定値 (表) 86-5
 - 追加 86-4
 - パスワードの変更 86-9
- アプリケーションのダイヤル規則
 - 検索 28-2
 - 更新 28-3
 - 削除 28-5
 - 設定 28-1
 - 追加 28-3
 - 優先順位の変更 28-5

- い

- 依存関係レコード
 - Cisco Unified IP Phone サービス 78-6
 - アクセス A-4
 - エンタープライズ パラメータ A-2
 - 概要 A-1
 - 共通電話プロファイル 80-5
 - 使用可能化 A-2
 - 使用不可 A-3
 - ボイスメールパイロット番号 65-5
 - ボイスメールプロファイル 66-5
 - ボイスメールポート 62-8
 - ボタン A-5
 - ユーザ デバイス プロファイル 75-7
 - ルートフィルタ 31-7

- え

- エクステンション モビリティ
 - エンドユーザ 87-17
- エンタープライズ パラメータ
 - 依存関係レコード A-2
 - 設定 18-1
- エンドユーザ
 - PIN の変更 87-12
 - エクステンション モビリティ 87-17
 - エンドユーザとデバイスとの関連付け 87-15
 - 検索 87-2
 - 削除 87-18
 - 設定 87-1

- 設定値 (表) 87-6
- 追加 87-3
- 電話機との設定 90-1
- 電話機との追加 90-2
- パスワードの変更 87-11
- ユーザ関連情報 87-13
- エンドユーザとデバイス
 - 設定値 (表) 90-3
- か
- 会議ブリッジ
 - Cisco IOS Video Conference Bridge デバイスの追加 53-9
 - Cisco IOS 設定値 (表) 53-8
 - Cisco IOS デバイスの追加 53-7
 - Cisco Unified CallManager Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値 (表) 53-12
 - Cisco Unified CallManager Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の追加 53-11
 - Cisco Video の設定値 (表) 53-10
 - 検索 53-2
 - コンファレンス デバイスの更新 53-13
 - コンファレンス デバイスの削除 53-14
 - 設定 53-1
 - ソフトウェアの設定値 (表) 53-4
 - ハードウェア デバイスの追加 53-5
 - ハードウェアの設定値 (表) 53-6
 - ミーティング番号 / パターンの検索 49-1
 - ミーティング番号 / パターンのコピー 49-3
 - ミーティング番号 / パターンの削除 49-5
- 回線グループ
 - 概要 35-1
 - 検索 35-2
 - 削除 35-11
 - 設定 35-3
 - 設定値 (表) 35-4
 - デバイスの削除 35-10
 - デバイスの追加 35-9
- 外部電話番号マスク 26-5
- 概要
 - BAT アプリケーション 94-1
- カスタム電話ボタン テンプレート
 - 7914 拡張モジュールに対する作成 76-5
 - 検索 76-2
 - 削除 76-7
- 追加 76-3
- 関連資料 xxv
- き
- キーボード テンプレート、設定 76-1
- 共通電話プロファイル
 - 依存関係レコード 80-5
 - 検索 80-2
 - 削除 80-5
 - 設定 80-1, 80-3
 - 設定値 (表) 80-4
- く
- グループ
 - Cisco Unified CallManager
 - 設定 4-1
 - 設定値 (表) 4-5
 - 日付 / 時間
 - 概要 6-1
 - 設定値 (表) 6-5
 - プレゼンス、設定 7-1
- け
- ゲートウェイ
 - Analog Access ゲートウェイ、追加 69-13
 - Analog Access の設定値 (表) 69-58
 - BRI の設定値 (表) 69-37
 - Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (表) 69-62
 - Cisco VG224/VG248 Analog Gateway、追加 69-15
 - Cisco VG224/VG248 アナログ ポート、追加 69-15
 - Cisco VG248 設定値 (表) 69-61
 - Digital Access PRI の設定値 (表) 69-24
 - E & M ポートの設定値 (表) 69-69
 - FSX/FXO 設定値 (表) 69-19
 - H.323 設定値 (表) 69-49
 - H.323、追加 69-13
 - IOS 以外の、追加 69-11
 - ISDN 69-24
 - ISDN BRI 69-37
 - MGCP
 - BRI、設定 69-37

- BRI ポート、追加 69-9
 - Cisco IOS、追加 69-3
 - Digital Access PRI ポート、追加 69-9
 - FXO ポート、追加 69-7
 - FXS ポート、追加 69-5
 - T1 ポート、追加 69-8
 - 設定値 (表) 69-17
 - ポート、追加 69-5
 - POTS ポートの設定値 (表) 69-65
 - PRI 69-24
 - SCCP
 - Cisco IOS、追加 69-10
 - グラウンド スタート ポートの設定値 (表) 69-68
 - 検索
 - コーリング サーチ スペースによる 69-75
 - 説明による 69-73
 - デバイス タイプによる 69-79
 - デバイス プールによる 69-77
 - デバイス名による 69-72
 - 電話番号による 69-74
 - ルート グループによる 69-78
 - ルート パターンによる 69-74
 - 検索と一覧表示 69-72
 - 更新 69-83
 - 再起動 69-82
 - 削除 69-81
 - 設定 69-1
 - 設定値 (表) 69-17
 - 追加 69-2
 - 変更 69-81
 - ポート、追加 69-13
 - ポートの設定値 (表) 69-65
 - リセット 69-82
 - ループ スタート ポートの設定値 (表) 69-67
 - ゲートキーパー
 - ゲートキーパーの設定 68-3
 - 検索 68-2
 - 削除 68-5
 - 設定 68-1
 - 設定値 (表) 68-4
 - リセット 68-6
- こ
- コーリング サーチ スペース
 - 検索 42-1
 - 更新 66-3
 - 削除 42-6
 - 設定 42-1
 - 設定値 (表) 42-4
 - 追加 42-3
 - ドロップダウン リスト ボックスでの表示を設定 48-30
 - コール ウェイティング
 - 設定値 48-29
 - コール ルーティング
 - 電話番号
 - 設定の概要 48-1
 - コール表示制限
 - 電話機の設定 70-13
 - 変換パターンでの設定 45-8
 - ユーザ デバイス プロファイルでの設定 75-4
 - 固定短縮ダイヤル
 - 設定値 (表) 70-26
- さ
- サーバ
 - 検索 2-2
 - 更新 2-4
 - 削除 2-5
 - 設定 2-1, 2-4
 - 設定値 (表) 2-6
 - サービス
 - Cisco Unified IP Phone 設定値 (表) 78-5
 - Cisco Unified IP Phone パラメータ設定値 (表) 78-8
 - 設定
 - Cisco Unified IP Phone サービス 78-4
 - Cisco Unified IP Phone サービスの検索 78-2
 - Cisco Unified IP Phone サービスの削除 78-6
 - サービス URL ボタン
 - 追加 70-30
 - サービス パラメータ
 - サービス用の設定 19-2
 - サービス用の表示 19-4
 - 設定 19-1
 - Cisco Unified IP Phone サービスの更新 78-7
 - Cisco Unified IP Phone サービスの削除 78-9
 - Cisco Unified IP Phone サービスの追加 78-7
- 参照
- Cisco Unified CallManager 1-3

- セキュリティ
 - ハイパーテキスト転送プロトコル 1-4
- し
- 時間帯
 - 検索 39-2
 - 削除 39-4
 - 設定 39-1, 39-3
 - 設定値 (表) 39-5
- 自動生成デバイス プロファイル
 - 電話番号の設定 75-9
- 自動代替ルーティング グループ
 - 概要 27-1
 - 検索 27-2
 - 削除 27-5
 - 設定 27-3
 - 設定値 (表) 27-4
- 自動登録
 - 自動登録番号の再使用 26-7
 - 使用可能化 26-2
 - 使用不可 26-4
 - 設定 26-1
 - 設定値 (表) 26-5
- 資料
 - 関連 xxv
- せ
- セキュリティ プロファイル
 - 設定 20-1, 21-1
- そ
- 操作
 - Cisco Unified CallManager の管理ページ 1-7
- ソフトウェア会議ブリッジ
 - 設定 53-3
- ソフトキー テンプレート
 - 更新 77-10
 - 削除 77-9
 - 設定 77-1
 - 名前変更 77-8
 - 割り当て 77-11
- た
- ダイジェスト認証
 - サードパーティ製 SIP 電話機に対する使用可能化 C-3
- タイム スケジュール
 - 検索 40-2
 - 削除 40-4
 - 設定 40-1, 40-3
 - 設定値 (表) 40-5
- タイム ゾーン 6-1
- ダイヤル プラン
 - Cisco CallManager サービスの再起動 51-8
 - NANP 以外のダイヤル プランに関するルート パターンの詳細の設定 51-4
 - アップグレード 51-5
 - アンインストール 51-7
 - インストレーション 51-3
 - 検索 51-2
 - 編集 51-3
- ダイヤル規則
 - 更新、ディレクトリ検索規則 29-3
 - 削除、ディレクトリ検索規則 29-5
 - 設定、ディレクトリ検索規則 29-3
 - ディレクトリ検索の規則設定 29-1
 - ディレクトリ検索の設定値 29-4
 - パターンの形式 30-6
- 短縮ダイヤル
 - 設定値 (表) 70-26, 70-27
- 短縮ダイヤル ボタン
 - 設定 70-26
- て
- ディレクトリ
 - Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイス メールボックス 87-4
- ディレクトリ検索のダイヤル規則
 - 更新 29-3
 - 削除 29-5
 - 設定 29-1, 29-3
 - 設定値 29-4
- デバイス
 - Cisco Unified IP Phone
 - 設定 70-3
 - 設定の概要 70-1
 - MWI 設定値 (表) 64-5

- 共通特性の指定 9-1
- ゲートウェイ 69-1
- ゲートキーパー、設定 68-1
- デフォルト以外のファームウェア ロード使用 73-1
- トランク、設定 71-1
- デバイス デフォルト
 - 更新 72-2
 - 設定 72-1, 73-1
 - 設定値 (表) 72-3
- デバイス プール
 - 検索 9-2
 - 削除 9-9
 - 設定 9-1
 - 設定値 (表) 9-5
 - 追加 9-4
- デバイス プロファイル
 - 検索 75-2
 - 自動生成デバイス プロファイル用の電話番号の設定 75-9
 - 自動生成プロファイルの更新 75-8
 - 設定 75-1
 - ユーザ プロファイルの更新 75-3
 - ユーザ プロファイルの削除 75-7
 - ユーザの追加 75-3
- デバイス プロファイル デフォルト
 - サービスの登録 74-7
 - 削除 74-6
 - 設定 74-1
 - 設定値 74-3
 - 追加 74-2
- デフォルト
 - デバイス
 - 更新 72-2
 - 設定 72-1, 73-1
 - 設定値 (表) 72-3
 - ファームウェア ロードを使用しない 73-1
- 電話機
 - Cisco Unified IP Phone サービス
 - サービス パラメータの更新 78-7
 - サービス パラメータの削除 78-9
 - サービス パラメータの追加 78-7
 - サービスの検索 78-2
 - サービスの削除 78-6
 - サービスの設定 78-4
 - 設定 78-1
 - 設定値 (表) 78-5
 - パラメータ設定値 (表) 78-8
 - MAC アドレスの表示 70-5
 - エンド ユーザとの設定 90-1
 - エンド ユーザとの追加 90-2
 - 検索と一覧表示 70-33
 - 削除 70-6
 - 設定値 (表) 70-7
 - 電話番号、設定 48-1
 - リセット 70-5
 - 電話機 NTP リファレンス 5-1
 - 削除 5-5
 - 設定 5-3
 - 設定値 (表) 5-4
 - 電話番号
 - Cisco Unity または Cisco Unity Connection ボイス メールボックスの作成 48-6
 - 関連項目 48-31
 - 検索 48-2
 - コーリング サーチ スペースのリスト 48-30
 - コール ウェイティングの設定値 48-29
 - 設定 48-1, 48-3
 - 設定値 (表) 48-8
 - 設定の概要 48-1
 - 電話機からの削除 48-5
 - 割り当てられていない~の更新 50-5
 - 割り当てられていない~の削除 50-4
 - 電話ボタン テンプレート
 - 7914 拡張モジュールに対する作成 76-5
 - 検索 76-2
 - 削除 76-7
 - 設定 76-1
 - 設定値 (表) 76-6
 - 追加 76-3
 - ボタン項目の変更 70-31
- と
- 特権
 - ユーザ グループへの割り当て 89-9
 - ドメイン、MLPP
 - 概要 17-1
 - ドメイン ネーム システム (DNS) 2-1
 - トランク
 - 検索と一覧表示 71-2
 - 削除 71-30
 - 設定 71-1

- 設定値 (表) 71-5
- 追加 71-3
- 変更 71-3
- リセット 71-31
- トランスコーダ
 - 概要 58-1
 - 削除 58-6
 - 設定 58-2, 58-4
 - 設定値 (表) 58-7
 - リセット 58-5
- は
- パーティション
 - 検索 41-2
 - 削除 41-4
 - 設定 41-1
 - 追加 41-3
- パラメータ
 - エンタープライズ 18-1
 - サービス用の設定 19-2
 - サービス用の表示 19-4
 - 設定 19-1
- 番号 / パターン、ミートミー
 - 検索 49-1
 - コピー 49-3
 - 削除 49-5
- ハントパイロット
 - 検索 37-2
 - 削除 37-5
 - 設定 37-1, 37-4
 - 設定値 (表) 37-6
- ハントリスト
 - 回線グループの削除 36-7
 - 回線グループの順位の変更 36-8
 - 回線グループの追加 36-6
 - 検索 36-2
 - 削除 36-9
 - 設定 36-1
 - 追加 36-4
- ひ
- 日付 / 時間グループ
 - 検索 6-2
 - 削除 6-7
- 使用、NTP サーバ設定での 91-1, 92-1, 93-1
- 設定 6-1
- 設定値 (表) 6-5
- 追加 6-4
- ~を使用した電話機 NTP リファレンスの設定の使用 5-1
- 非標準ソフトキー テンプレート
 - アプリケーション ソフトキーの追加 77-5
 - 検索 77-2
 - ソフトキーの位置 77-6
 - 追加 77-4
- 表記法 xxvi
- ふ
- ファームウェア ロード、デフォルト以外のデバイス 73-1
- プラグイン
 - インストール 85-1
 - 設定 85-1
- プレゼンス グループ
 - 設定 7-1
- へ
- 変換パターン
 - 概要 45-1
 - 検索 45-2
 - 削除 45-10
 - 設定 45-4
 - 設定値 (表) 45-5
- ほ
- ボイスメール
 - ウィザードを使用するポートの削除 63-7
 - ウィザードを使用するポートの追加 63-6
 - 新規サーバとポートの追加 63-2
 - 設定 62-1
 - プロファイルの設定 66-1
 - ポート ウィザードの設定 63-1
 - ポート ウィザードのデバイス情報の設定値 63-2
 - ポート ウィザードの電話番号の設定値 63-3
 - ポートの検索 62-2
 - ポートの更新 62-4

- ポートのコピー 62-4
 - ポートの削除 62-8
 - ポートの設定値 (表) 62-5
 - ポートの追加 62-4
 - メッセージ受信の設定 64-1
 - メッセージ受信番号の検索 64-2
 - ボイスメールパイロット
 - 検索 65-2
 - 削除 65-5
 - 設定 65-1, 65-3
 - 設定値 (表) 65-4
 - ボイスメールパイロット番号
 - 依存関係レコード 65-5
 - ボイスメール プロファイル
 - 依存関係レコード 66-5
 - 一覧表示 66-2
 - 検索 66-2
 - コピー 66-3
 - 削除 66-5
 - 設定値 (表) 66-4
 - ボイスメールポート
 - Cisco Unity 用の調整 B-1
 - Cisco Unity 用の変更 B-2
 - 依存関係レコード 62-8
 - ポート
 - Cisco ボイスメールの更新 62-4
 - Digital Access T1 の設定値 (表) 69-45
 - 検索 62-2
 - 更新 69-83
 - コピー 62-4
 - 削除 62-8
 - 追加 62-4
 - 変更 69-81
- ま
- マニュアル
 - 対象読者 xxiv
 - 表記法 xxvi
 - マニュアルの構成 xxiv
 - 目的 xxiii
 - マニュアルの構成 xxiv
- み
- ミートミー番号 / パターン
 - 検索 49-1
 - コピー 49-3
 - 削除 49-5
 - 設定 49-1
 - 設定値 (表) 49-4
- め
- メディアターミネーションポイント (MTP) 54-1
 - メディアリソースグループ
 - 検索 59-2
 - 更新 59-4
 - コピー 59-4
 - 削除 59-7
 - 設定 59-1
 - 設定値 (表) 59-5
 - 追加 59-4
 - メディアリソースグループリスト
 - 検索 60-2
 - 更新 60-4
 - コピー 60-4
 - 削除 60-6
 - 設定 60-1
 - 設定値 (表) 60-5
 - 追加 60-4
- ゆ
- ユーザ
- Cisco Unity または Cisco Unity Connection のボイス
メールボックスの設定 87-4
 - アプリケーション
 - アプリケーション プロファイル 86-9
 - アプリケーション ユーザとデバイスとの関連
付け 86-10
 - 検索 86-2
 - 設定 86-1
 - 設定値 (表) 86-5
 - 追加 86-4
 - パスワードの変更 86-9
 - エンド
 - PIN の変更 87-12
 - エクステンション モビリティ 87-17

- エンドユーザとデバイスとの関連付け
 - 87-15
 - 検索 87-2
 - 削除 87-18
 - 設定 87-1
 - 設定値 (表) 87-6
 - 追加 87-3
 - 電話機との設定 90-1
 - 電話機との追加 90-2
 - パスワードの変更 87-11
 - ユーザ関連情報 87-13
 - ユーザグループ
 - 検索 89-2
 - 削除 89-5
 - 説明 89-1
 - 追加 89-4
 - 特権の割り当て 89-9
 - ユーザの削除 89-8
 - ユーザの追加 89-6
 - ユーザのロールの表示 89-11
 - ユーザデバイス プロファイル
 - 依存関係レコード 75-7
 - ユーザ情報
 - 設定値 (表) 85-4
 - ユーザ / 電話機の追加
 - 設定 90-1
 - 追加 90-2
 - ユーザとデバイス
 - 設定値 (表) 90-3
- ら
- ライセンス
 - 計算方法、ライセンス ユニット 24-1
 - 生成、ライセンス ユニット レポート 23-2
 - ライセンス ファイル
 - アップロード 25-5
 - 取得、ライセンス ファイル 25-2
 - 内容 25-3
 - ライセンス ファイルの例 25-3
- り
- リージョン
 - 検索 8-2
 - 削除 8-9
- 設定 8-1
 - 設定値 (表) 8-7
 - 追加 8-3
- る
- ルート グループ
 - 概要 32-1
 - 検索 32-2
 - 削除 32-9
 - 設定 32-4
 - 設定値 (表) 32-5
 - デバイスの削除 32-8
 - デバイスの追加 32-7
 - ルート パターン
 - 概要 34-1
 - 検索 34-2
 - 検索、SIP パターン 38-2
 - 削除 34-13
 - 削除、SIP パターン 38-8
 - 設定 34-4
 - 設定、SIP パターン 38-4
 - 設定値 (表) 34-5
 - ルート フィルタ
 - 依存関係レコード 31-7
 - 演算子
 - 説明 31-9
 - 説明 (表) 31-9
 - 概要 31-1
 - クローズ (条件) の削除 31-6
 - クローズ (条件) の追加 31-5
 - 検索 31-2
 - 削除 31-7
 - 設定 31-3
 - 設定値 (表) 31-4
 - タグ
 - 説明 31-8
 - 説明 (表) 31-8
 - ルート プラン
 - レポート
 - 設定 50-1
 - ファイル内の表示 50-6
 - レコードを表示 50-2
 - 割り当てられていない電話番号の更新 50-5
 - 割り当てられていない電話番号の削除 50-4

ルートリスト

- 検索 33-2
- 削除 33-10
- 設定 33-1
- 追加 33-4
- ルートグループの削除 33-8
- ルートグループの順位の変更 33-9
- ルートグループの追加 33-6

ろ

ルール

- 検索 88-2
- 削除 88-5
- 設定 88-4
- 設定値(表) 88-6
- 説明 88-1
- ユーザの~の表示 89-11

ログイン

- Cisco Unified CallManager 1-3

ログオフ

- Cisco Unified CallManager 1-4

ロケーション

- 検索 15-2
- 更新 15-4
- コピー 15-4
- 削除 15-7
- 設定 15-1
- 設定値(表) 15-5
- 帯域幅の再同期化 15-8
- 追加 15-4

わ

割り当てられていない電話番号

- 更新 50-5
- 削除 50-4